
久 喜 市

栗 橋 宿 跡 II

首都圏氾濫区域堤防強化対策における
埋蔵文化財発掘調査報告

2019

国土交通省 関東地方整備局
公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

序

埼玉県北東部の県境を流れる利根川は、日本の河川の長男として「坂東太郎」の異名を持つ日本最大級の河川です。その広大な流域には肥沃な農地が広がり、約1,280万人もの人々が暮らしています。

利根川は、「刀祢河泊」として万葉集の恋歌にも詠まれており、古くから人々に親しまれてきました。また、交通路として、農業・生活・工業用水の供給源としてもかぎりない恵みをもたらしています。その一方、過去にたびたび恐ろしい水害を引き起こしてきました。国土交通省ではこのような災害を未然に防ぐため、様々な対策を講じています。首都圏の安全性を確保するための氾濫区域の堤防強化対策事業もその一環です。

本事業地のある加須・羽生・久喜地区には、周知の埋蔵文化財包蔵地が多数存在しています。今回、発掘調査を行った久喜市の栗橋宿跡もその一つです。発掘調査は同事業に伴う事前調査であり、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、当事業団が実施いたしました。

栗橋宿は、江戸時代には日光道中の宿場でした。利根川を渡る房川渡しに栗橋関所が置かれた交通の要衝として栄え、商人や職人の住まいが並んでいました。今回の調査では、宿場の店舗や住宅の跡、用水に使われた樋などが発見されました。また、陶磁器や木製品、布、鍛冶関連の遺物が数多く出土し、当時の生活をうかがうことができる貴重な発見となりました。

本書は、これらの発掘調査成果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護並びに普及・活用の資料として、また学術研究の基礎資料として、多くの方々に活用していただければ幸いです。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査の諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部文化資源課をはじめ、国土交通省関東地方整備局、久喜市教育委員会並びに地元関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

平成31年3月

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 藤 田 栄 二

例 言

1. 本書は久喜市に所在する栗橋宿跡第2・4地点の発掘調査報告書である。

2. 遺跡の略号と代表地番、発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。

なお、栗橋宿跡第4地点は第2地点B区として開始したが、発掘調査終了後の平成26年度に名称を変更した。

栗橋宿跡第2地点第1次 (No. 86-011)

久喜市栗橋東3丁目3549-1他

平成25年3月7日付け教生文第2-68号

栗橋宿跡第2地点第2次 (No. 86-011)

久喜市栗橋東3丁目3549-3他

平成25年5月15日付け教生文第2-3号

栗橋宿跡第4地点第1次 (No. 86-011)

久喜市栗橋東3丁目3566-1他

平成25年9月18日付け教生文第2-33号

3. 発掘調査は、首都圏氾濫区域堤防強化対策に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査である。埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課(当時)が調整し、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所の委託を受け、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

4. 各事業の委託事業名は、下記のとおりである。
発掘調査事業(平成24・25年度)

「首都圏氾濫区域堤防強化対策(加須・羽生・久喜地区)における平成24年度埋蔵文化財発掘調査」(平成24年度栗橋宿跡第2地点第1次)
「利根川上流河川改修事業における平成25年度埋蔵文化財発掘調査」(平成25年度栗橋宿跡第2地点第2次、第4地点)

整理・報告書作成事業(平成28・30年度)

「首都圏氾濫区域堤防強化対策(加須・栗橋地区)における平成28年度埋蔵文化財発掘調査(整理)」(久喜市栗橋宿跡第2地点・第4地点)
「首都圏氾濫区域堤防強化対策(加須・栗橋地

区)における平成30年度埋蔵文化財発掘調査(整理)」(久喜市栗橋宿跡第2地点・第4地点)

5. 発掘調査・整理報告書作成事業は1-3に示した組織により実施した。

発掘調査は、栗橋宿跡第2地点第1次を平成25年2月1日から3月31日まで山本禎、木戸春夫、林雅恵が、第2次を平成25年4月1日から7月31日まで山本禎、岩松大輔が、栗橋宿跡第4地点第1次を平成25年9月1日から平成26年3月25日まで細田勝、栗岡潤、青木弘、砂生智江が担当した。

整理報告書作成事業は、平成28年4月1日から平成29年3月31日まで福田聖が、平成30年10月1日から10月31日まで栗岡潤が、11月1日から平成31年3月31日まで近藤洋が担当した。報告書は、平成31年3月22日に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第452集として印刷・刊行した。

6. 発掘調査における基準点測量は、第2・4地点とも株式会社東京航業研究所に委託した。

7. 自然科学分析は、株式会社パレオラボ、漆器文化財科学研究所に委託した。

8. 発掘調査における空中写真は、株式会社G I S 関東、株式会社シン技術コンサルに委託した。

9. 発掘調査における写真撮影は細田、木戸、山本、栗岡、青木、砂生、岩松が行い、出土遺物の写真撮影は近藤が行った。

10. 出土品の整理・図版作成は福田、栗岡、近藤が行い、陶磁器は村山卓、水村雄功、石製品は水村、木製品は矢部隆、金属製品は瀧瀬芳之、魚水環の協力を得た。

11. 本書の執筆は1-1を埼玉県教育局市町村支援部文化資源課、その他を近藤が行った。

12. 本書の編集は近藤が行った。

13. 本書にかかる諸資料は平成31年4月以降、埼

玉県教育委員会が管理・保管する。

14. 発掘調査や本書の作成にあたり、下記の方々、関係機関の皆様から御教示・御協力を賜った。記して感謝いたします（敬称略五十音順）。

池尻篤 島村範久 鈴木伸哉 中村和夫

堀内謙一 丸山謙司 巻島千明 山崎吉弘

久喜市教育委員会 江戸遺跡研究会 江戸在地土器研究会

凡 例

1. 遺跡全体におけるX・Yの数値は、世界測地系、国家標準平面直角座標第IX系（原点北緯36° 00′ 00″、東経139° 50′ 00″）に基づく座標値を示す。また、各挿図に記した方位は全て座標北を指す。

G 8 - I 3 グリッド杭は、X=15320.000m、Y=-11580.000m、北緯36° 08′ 16.8436″、東経139° 42′ 16.7864″である。

2. 調査に際して使用したグリッド名称は、事業地内の全体を覆うように設定した。座標値X=16000.000m、Y=-12300.000mを北西の原点（A 1 - A 1 グリッド）とし、100×100mの大グリッドを設定し、さらにその中を10×10mのグリッドに細分した。
3. 大グリッドの名称は、北西原点を基点に北から南にアルファベット（A・B・C…）、西から東に数字（1・2・3…）を付し、アルファベットと数字を組み合わせた。グリッドは各グリッドの北西隅を基点に、北から南にA～J、西から東に1～10とした。

これらを合わせた呼称は、ハイフォン（一）をはさみ、大グリッドを左に、小グリッドを右に表記した。（大グリッド）-（小グリッド）

4. 本書の本文・挿図・表・写真図版に記した遺構の略号は、以下のとおりである。

SD…溝跡 SG…池跡 SI…竪穴状遺構

SK…土壌 SX…性格不明遺構 P…ピット

5. 本書における挿図は、一部の例外を除き以下の縮尺を原則とした。

全測図 1/700・1/400・1/300

遺構図 1/120・1/80・1/60・1/30

遺物実測図・拓影図 1/2・1/3・1/4

6. 遺構断面図に表記した水準数値は、全て海拔標高（単位m）を表す。

7. 遺物観察表の表記方法は以下のとおりである。

・遺物計測値は陶磁器、土器等をcm、銭貨をmm、重さをg単位とした。

・土器計測値の（ ）は復元推定値、[]は現存値を示す。

・瓦の計測値は「長さ」に瓦当面からの長さ、「幅」に全幅、「厚さ」に平瓦部厚さ、「高さ」に接地面からの高さ、「径」に瓦当径を記載した。

・胎土は特徴的な鉱物等を記号で示した。

A：雲母 B：片岩 C：角閃石 D：長石
E：石英 F：軽石 G：砂粒子 H：赤色粒子
I：白色粒子 J：針状物質 K：黒色粒子
L：その他 M：チャート

・焼成は良好・普通・不良の3段階に分けた。

・残存率は器形に対する大まかな遺存程度を%で示した。

・備考には出土位置、煤の付着、推定生産地、文様の特徴等を記した。

8. 遺物実測図の網かけは漆、被熱の範囲を表す。濃度によって種類を区分し、図中に例示した。

赤漆20% 茶漆30% 黒漆35% 炭化50%

9. 本書に掲載した地形図類は国土地理院発行の1/50000地形図、久喜市発行の1/2500都市計画図を編集のうえ、使用した。

10. 文中の引用文献等は、（著者 発行年）の順で表記し、その他の参考文献とともに巻末に掲載した。

目次

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1	(4) 土壌	167
1. 発掘調査に至る経過	1	(5) 性格不明遺構	220
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2	(6) グリッド出土遺物	240
3. 発掘調査・報告書作成の組織	3	4. 文字資料	250
II 遺跡の立地と環境	4	5. 出土遺物一覧	256
1. 地理的環境	4	V 自然科学分析	262
2. 歴史的環境	6	1. 栗橋宿跡第2地点の花粉分析と プラント・オパール分析	263
III 遺跡の概要	14	2. 栗橋宿跡第2地点の土壌から出土した 大型植物遺体	271
IV 遺構と遺物	22	3. 栗橋宿跡第4地点の花粉分析と プラント・オパール分析	276
1. 第2地点(第一面)	22	4. 堆積物中の珪藻化石群集	283
(1) 杭列	22	5. 栗橋宿跡第2・4地点出土木製品の 樹種同定	288
(2) 木樋	30	6. 栗橋宿跡第2・4地点の遺構から出土した 大型植物遺体	294
(3) 池跡	32	7. 漆器の科学分析	298
(4) 溝跡	34	VI 調査のまとめ	305
(5) 土壌	54	1. 調査の成果	305
(6) グリッド出土遺物	84	2. 出土遺物の変遷	305
2. 第2地点(第二面)	86	3. 木製品について	306
(1) 堅穴状遺構	86	4. 鍛冶関連遺構と遺物	307
(2) 溝跡	88	5. 火打石について	307
(3) 土壌	90	6. 珊瑚製品について	308
(4) 性格不明遺構	138		
(5) グリッドピット	144		
(6) グリッド出土遺物	144		
3. 第4地点	153		
(1) 杭列	153		
(2) 木樋	159		
(3) 溝跡	166		

写真図版

挿図目次

第1図 埼玉県の地形	4	第3図 周辺の遺跡(中世)	7
第2図 周辺の地形	5	第4図 周辺の遺跡(近世)	8

第 5 図	基本土層	14	第 42 図	第 2 号溝跡出土遺物 (14)	53
第 6 図	遺跡位置図	15	第 43 図	第 2 号溝跡出土遺物 (15)	53
第 7 図	第 2・4 地点全体図 (第一面)	16	第 44 図	土城 (1)	55
第 8 図	第 2 地点第一面全体図	17	第 45 図	土城 (2)	56
第 9 図	第 2 地点第二面全体図	18	第 46 図	土城 (3)	57
第 10 図	第 4 地点全体図	19	第 47 図	土城出土遺物 (1)	58
第 11 図	第 4 地点北側	20	第 48 図	土城出土遺物 (2)	59
第 12 図	第 4 地点南側	21	第 49 図	土城出土遺物 (3)	60
第 13 図	第 2 地点第一面杭列分布図	23	第 50 図	土城出土遺物 (4)	61
第 14 図	第 1 号杭列 (1)	24	第 51 図	土城出土遺物 (5)	62
第 15 図	第 1 号杭列 (2)・第 2 号杭列	25	第 52 図	土城出土遺物 (6)	63
第 16 図	第 1 号杭列出土遺物 (1)	26	第 53 図	土城出土遺物 (7)	64
第 17 図	第 1 号杭列出土遺物 (2)	26	第 54 図	土城出土遺物 (8)	65
第 18 図	第 1 号杭列出土遺物 (3)	27	第 55 図	土城出土遺物 (9)	66
第 19 図	第 1 号杭列出土遺物 (4)	28	第 56 図	土城出土遺物 (10)	71
第 20 図	第 1 号杭列出土遺物 (5)	28	第 57 図	土城出土遺物 (11)	72
第 21 図	第 3・4 号杭列	29	第 58 図	土城出土遺物 (12)	73
第 22 図	木樋出土遺物	30	第 59 図	土城出土遺物 (13)	74
第 23 図	木樋	31	第 60 図	土城出土遺物 (14)	75
第 24 図	池跡	32	第 61 図	土城出土遺物 (15)	76
第 25 図	池跡出土遺物 (1)	33	第 62 図	土城出土遺物 (16)	77
第 26 図	池跡出土遺物 (2)	33	第 63 図	土城出土遺物 (17)	78
第 27 図	第 2 号溝跡 (1)	35	第 64 図	土城出土遺物 (18)	80
第 28 図	第 2 号溝跡 (2)	36	第 65 図	土城出土遺物 (19)	81
第 29 図	第 2 号溝跡出土遺物 (1)	37	第 66 図	土城出土遺物 (20)	82
第 30 図	第 2 号溝跡出土遺物 (2)	38	第 67 図	土城出土遺物 (21)	83
第 31 図	第 2 号溝跡出土遺物 (3)	39	第 68 図	グリッド出土遺物 (1)	84
第 32 図	第 2 号溝跡出土遺物 (4)	40	第 69 図	グリッド出土遺物 (2)	85
第 33 図	第 2 号溝跡出土遺物 (5)	41	第 70 図	グリッド出土遺物 (3)	85
第 34 図	第 2 号溝跡出土遺物 (6)	42	第 71 図	第 1・2 号堅穴状遺構・出土遺物	86
第 35 図	第 2 号溝跡出土遺物 (7)	43	第 72 図	溝跡	87
第 36 図	第 2 号溝跡出土遺物 (8)	44	第 73 図	溝跡出土遺物 (1)	88
第 37 図	第 2 号溝跡出土遺物 (9)	45	第 74 図	溝跡出土遺物 (2)	89
第 38 図	第 2 号溝跡出土遺物 (10)	46	第 75 図	溝跡出土遺物 (3)	89
第 39 図	第 2 号溝跡出土遺物 (11)	51	第 76 図	土城 (1)	91
第 40 図	第 2 号溝跡出土遺物 (12)	52	第 77 図	土城 (2)	92
第 41 図	第 2 号溝跡出土遺物 (13)	53	第 78 図	土城 (3)	93

第79図	土壌(4)	94	第116図	第1号性格不明遺構	139
第80図	土壌(5)	95	第117図	性格不明遺構出土遺物(1)	140
第81図	土壌(6)	96	第118図	性格不明遺構出土遺物(2)	141
第82図	土壌出土遺物(1)	97	第119図	性格不明遺構出土遺物(3)	142
第83図	土壌出土遺物(2)	98	第120図	性格不明遺構出土遺物(4)	143
第84図	土壌出土遺物(3)	99	第121図	性格不明遺構出土遺物(5)	143
第85図	土壌出土遺物(4)	100	第122図	性格不明遺構出土遺物(6)	143
第86図	土壌出土遺物(5)	101	第123図	第2地点グリッドビット	144
第87図	土壌出土遺物(6)	102	第124図	グリッド出土遺物(1)	145
第88図	土壌出土遺物(7)	103	第125図	グリッド出土遺物(2)	146
第89図	土壌出土遺物(8)	104	第126図	グリッド出土遺物(3)	147
第90図	土壌出土遺物(9)	105	第127図	グリッド出土遺物(4)	149
第91図	土壌出土遺物(10)	106	第128図	グリッド出土遺物(5)	150
第92図	土壌出土遺物(11)	107	第129図	グリッド出土遺物(6)	151
第93図	土壌出土遺物(12)	108	第130図	グリッド出土遺物(7)	151
第94図	土壌出土遺物(13)	113	第131図	グリッド出土遺物(8)	152
第95図	土壌出土遺物(14)	114	第132図	第4地点北側杭列分布図	153
第96図	土壌出土遺物(15)	115	第133図	第4地点南側杭列分布図	154
第97図	土壌出土遺物(16)	116	第134図	杭列(1)	155
第98図	土壌出土遺物(17)	117	第135図	杭列(2)	156
第99図	土壌出土遺物(18)	118	第136図	杭列(3)	157
第100図	土壌出土遺物(19)	119	第137図	杭列出土遺物	158
第101図	土壌出土遺物(20)	120	第138図	池跡・木樋全体図	159
第102図	土壌出土遺物(21)	121	第139図	木樋(1)	160
第103図	土壌出土遺物(22)	122	第140図	木樋(2)	161
第104図	土壌出土遺物(23)	123	第141図	木樋(3)	162
第105図	土壌出土遺物(24)	124	第142図	木樋(4)	163
第106図	土壌出土遺物(25)	125	第143図	木樋出土遺物(1)	164
第107図	土壌出土遺物(26)	126	第144図	木樋出土遺物(2)	165
第108図	土壌出土遺物(27)	127	第145図	木樋出土遺物(3)	165
第109図	土壌出土遺物(28)	128	第146図	木樋出土遺物(4)	166
第110図	土壌出土遺物(29)	129	第147図	溝跡	167
第111図	土壌出土遺物(30)	130	第148図	溝跡出土遺物	167
第112図	土壌出土遺物(31)	134	第149図	土壌(1)	168
第113図	土壌出土遺物(32)	135	第150図	土壌(2)	169
第114図	土壌出土遺物(33)	136	第151図	土壌(3)	170
第115図	土壌出土遺物(34)	137	第152図	土壌(4)	171

第153図	土壌 (5)	172	第190図	性格不明遺構 (1)	221
第154図	土壌 (6)	173	第191図	性格不明遺構 (2)	222
第155図	土壌 (7)	174	第192図	性格不明遺構 (3)	223
第156図	土壌 (8)	175	第193図	性格不明遺構出土遺物 (1)	224
第157図	土壌 (9)	176	第194図	性格不明遺構出土遺物 (2)	225
第158図	土壌 (10)	177	第195図	性格不明遺構出土遺物 (3)	226
第159図	土壌出土遺物 (1)	178	第196図	性格不明遺構出土遺物 (4)	227
第160図	土壌出土遺物 (2)	179	第197図	性格不明遺構出土遺物 (5)	228
第161図	土壌出土遺物 (3)	180	第198図	性格不明遺構出土遺物 (6)	230
第162図	土壌出土遺物 (4)	181	第199図	性格不明遺構出土遺物 (7)	231
第163図	土壌出土遺物 (5)	182	第200図	性格不明遺構出土遺物 (8)	232
第164図	土壌出土遺物 (6)	183	第201図	性格不明遺構出土遺物 (9)	233
第165図	土壌出土遺物 (7)	184	第202図	性格不明遺構出土遺物 (10)	235
第166図	土壌出土遺物 (8)	185	第203図	性格不明遺構出土遺物 (11)	236
第167図	土壌出土遺物 (9)	186	第204図	性格不明遺構出土遺物 (12)	237
第168図	土壌出土遺物 (10)	187	第205図	性格不明遺構出土遺物 (13)	240
第169図	土壌出土遺物 (11)	188	第206図	性格不明遺構出土遺物 (14)	240
第170図	土壌出土遺物 (12)	189	第207図	グリッド出土遺物 (1)	241
第171図	土壌出土遺物 (13)	195	第208図	グリッド出土遺物 (2)	242
第172図	土壌出土遺物 (14)	196	第209図	グリッド出土遺物 (3)	243
第173図	土壌出土遺物 (15)	197	第210図	グリッド出土遺物 (4)	244
第174図	土壌出土遺物 (16)	198	第211図	グリッド出土遺物 (5)	245
第175図	土壌出土遺物 (17)	199	第212図	グリッド出土遺物 (6)	245
第176図	土壌出土遺物 (18)	200	第213図	グリッド出土遺物 (7)	246
第177図	土壌出土遺物 (19)	201	第214図	グリッド出土遺物 (8)	247
第178図	土壌出土遺物 (20)	203	第215図	グリッド出土遺物 (9)	248
第179図	土壌出土遺物 (21)	204	第216図	グリッド出土遺物 (10)	249
第180図	土壌出土遺物 (22)	205	第217図	栗橋宿跡第2地点における 花粉分布図	265
第181図	土壌出土遺物 (23)	206	第218図	栗橋宿跡第2地点における 植物珪酸体分布図	267
第182図	土壌出土遺物 (24)	207	第219図	栗橋宿跡第2地点から産出した 花粉化石	269
第183図	土壌出土遺物 (25)	208	第220図	栗橋宿跡第2地点から産出した 植物珪酸体	270
第184図	土壌出土遺物 (26)	209	第221図	栗橋宿跡第2地点から産出した 大型植物遺体	275
第185図	土壌出土遺物 (27)	211			
第186図	土壌出土遺物 (28)	212			
第187図	土壌出土遺物 (29)	213			
第188図	土壌出土遺物 (30)	216			
第189図	土壌出土遺物 (31)	219			

第222図	栗橋宿跡第4地点における 試料採取位置	276
第223図	栗橋宿跡第4地点における 花粉分布	278
第224図	栗橋宿跡第4地点における 植物珪酸体分布図	280
第225図	栗橋宿跡第4地点から産出した 花粉化石	281
第226図	栗橋宿跡第4地点から産出した 植物珪酸体	282
第227図	堆積物中珪藻化石分布図	286
第228図	堆積物中の珪藻化石の 顕微鏡写真	287
第229図	栗橋宿跡第2・4地点出土木製品の 光学顕微鏡写真(1)	292

第230図	栗橋宿跡第2・4地点出土木製品の 光学顕微鏡写真(2)	293
第231図	栗橋宿跡第2・4地点から出土した 大型植物遺体	297
第232図	赤外線スペクトル (Na1～4上塗漆)	299
第233図	赤外線スペクトル (Na1・3下地)	299
第234図	蛍光X線スペクトル(Na1)	302
第235図	蛍光X線スペクトル(Na3)	302
第236図	蛍光X線スペクトル(Na4)	302
第237図	江戸末期の吉野櫓	303
第238図	漆器塗膜層断面顕微鏡写真	304
第239図	特徴的な遺物	308

表目次

第1表	周辺の遺跡一覧	9
第2表	第1号杭列出土遺物観察表(1)	27
第3表	第1号杭列出土遺物観察表(2)	27
第4表	第1号杭列出土遺物観察表(3)	28
第5表	第1号杭列出土遺物観察表(4)	28
第6表	第1号杭列出土遺物観察表(5)	28
第7表	木樋出土遺物観察表	30
第8表	池跡出土遺物観察表(1)	33
第9表	池跡出土遺物観察表(2)	33
第10表	第2号溝跡出土遺物観察表(1)	46
第11表	第2号溝跡出土遺物観察表(2)	51
第12表	第2号溝跡出土遺物観察表(3)	51
第13表	第2号溝跡出土遺物観察表(4)	53
第14表	第2号溝跡出土遺物観察表(5)	53
第15表	第2号溝跡出土遺物観察表(6)	53
第16表	第2地点第一面土壌計測表	54
第17表	土壌出土遺物観察表(1)	67
第18表	土壌出土遺物観察表(2)	71
第19表	土壌出土遺物観察表(3)	73
第20表	土壌出土遺物観察表(4)	78

第21表	土壌出土遺物観察表(5)	81
第22表	土壌出土遺物観察表(6)	82
第23表	土壌出土遺物観察表(7)	83
第24表	土壌出土遺物観察表(8)	83
第25表	グリッド出土遺物観察表(1)	85
第26表	グリッド出土遺物観察表(2)	85
第27表	グリッド出土遺物観察表(3)	85
第28表	堅穴状遺構出土遺物観察表	86
第29表	溝跡出土遺物観察表(1)	88
第30表	溝跡出土遺物観察表(2)	89
第31表	溝跡出土遺物観察表(3)	89
第32表	第2地点第二面土壌計測表	90
第33表	土壌出土遺物観察表(1)	109
第34表	土壌出土遺物観察表(2)	113
第35表	土壌出土遺物観察表(3)	117
第36表	土壌出土遺物観察表(4)	130
第37表	土壌出土遺物観察表(5)	133
第38表	土壌出土遺物観察表(6)	135
第39表	土壌出土遺物観察表(7)	135
第40表	土壌出土遺物観察表(8)	137

第41表	性格不明遺構出土遺物観察表 (1)	141
第42表	性格不明遺構出土遺物観察表 (2)	143
第43表	性格不明遺構出土遺物観察表 (3)	143
第44表	性格不明遺構出土遺物観察表 (4)	143
第45表	性格不明遺構出土遺物観察表 (5)	143
第46表	グリッド出土遺物観察表 (1) ……	147
第47表	グリッド出土遺物観察表 (2) ……	149
第48表	グリッド出土遺物観察表 (3) ……	152
第49表	グリッド出土遺物観察表 (4) ……	152
第50表	グリッド出土遺物観察表 (5) ……	152
第51表	杭列出土遺物観察表 ……	158
第52表	木樋出土遺物観察表 (1) ……	165
第53表	木樋出土遺物観察表 (2) ……	166
第54表	木樋出土遺物観察表 (3) ……	166
第55表	溝跡出土遺物観察表 ……	167
第56表	第4地点土壌計測表 ……	168
第57表	土壌出土遺物観察表 (1) ……	190
第58表	土壌出土遺物観察表 (2) ……	195
第59表	土壌出土遺物観察表 (3) ……	202
第60表	土壌出土遺物観察表 (4) ……	209
第61表	土壌出土遺物観察表 (5) ……	214
第62表	土壌出土遺物観察表 (6) ……	217
第63表	土壌出土遺物観察表 (7) ……	219
第64表	性格不明遺構出土遺物観察表 (1)	229
第65表	性格不明遺構出土遺物観察表 (2)	230
第66表	性格不明遺構出土遺物観察表 (3)	232
第67表	性格不明遺構出土遺物観察表 (4)	232

第68表	性格不明遺構出土遺物観察表 (5)	238
第69表	性格不明遺構出土遺物観察表 (6)	240
第70表	性格不明遺構出土遺物観察表 (7)	240
第71表	グリッド出土遺物観察表 (1) ……	244
第72表	グリッド出土遺物観察表 (2) ……	245
第73表	グリッド出土遺物観察表 (3) ……	245
第74表	グリッド出土遺物観察表 (4) ……	246
第75表	グリッド出土遺物観察表 (5) ……	247
第76表	グリッド出土遺物観察表 (6) ……	248
第77表	グリッド出土遺物観察表 (7) ……	249
第78表	第2地点文字資料釈文 ……	250
第79表	第4地点文字資料釈文 ……	254
第80表	瓦計測表 (第2地点) ……	256
第81表	瓦計測表 (第4地点) ……	257
第82表	出土具類一覧 (第2・4地点) ……	257
第83表	第2地点主要土壌出土遺物組成表	258
第84表	第4地点主要土壌出土遺物組成表	260
第85表	産出花粉化石一覧表 ……	264
第86表	試料1g当りの プラント・オパール個数 (1) ……	266
第87表	栗橋宿跡第2地点現地取上げ試料の 大型植物遺体 ……	271
第88表	栗橋宿跡第2地点水洗試料の 大型植物遺体 ……	272
第89表	分析試料一覧 (1) ……	276
第90表	産出花粉孢子一覧表 ……	277
第91表	試料1g当りの プラント・オパール個数 (2) ……	279
第92表	分析試料一覧 (2) ……	283
第93表	堆積物中の珪藻化石産出量 ……	285
第94表	樹種同定結果一覧 ……	289
第95表	器種別の樹種同定結果 (1) ……	291

第96表	器種別の樹種同定結果(2)	291
第97表	栗橋宿跡第2・4地点から出土した 大型植物遺体	294

第98表	モモ核の大きさ	295
第99表	ウメ核の大きさ	295
第100表	オニグルミ核の大きさ	295

写真図版目次

栗橋宿跡第2地点

図版1	1 栗橋宿跡第2地点遠景(西から)	4 第2号溝跡遺物出土状況(3)
	2 栗橋宿跡第2地点全景(南から)	(東から)
図版2	1 第一面全景(1)(北から)	5 第2号溝跡遺物出土状況(4)
	2 第一面全景(2)(北から)	(東から)
図版3	1 第一面全景(3)(南から)	6 第2号溝跡遺物出土状況(5)
	2 第一面全景(4)(南から)	(西から)
図版4	1 第二面全景(1)(北から)	図版9 1 第2号溝跡遺物出土状況(6)
	2 第二面全景(2)(北から)	(西から)
図版5	1 第二面全景(3)(南から)	2 第2号溝跡遺物出土状況(7)
	2 第二面全景(4)(南から)	(南から)
図版6	1 第1号竪穴状遺構	3 第2号溝跡遺物出土状況(8)
	2 第1号杭列(1)	(南から)
	3 第1号杭列(2)	4 第2号溝跡遺物出土状況(9)
	4 第1号杭列(3)	5 第2号溝跡遺物出土状況(10)
	5 第2号杭列	6 第3号溝跡
	6 木樋(1)	7 第4号溝跡
	7 木樋(2)	8 第5号溝跡
	8 木樋(3)	図版10 1 第1～3号土壇
図版7	1 木樋(4)	2 第1号土壇
	2 第1号池跡(1)(南から)	3 第1号土壇遺物出土状況(1)
	3 第1号池跡(2)(北から)	4 第1号土壇遺物出土状況(2)
	4 第1号池跡(3)(東から)	5 第3号土壇遺物出土状況
	5 第1号池跡縦板検出状況	6 第4号土壇
	6 第1号池跡横板	7 第5号土壇
	7 第2号溝跡(東から)(1)	8 第5号土壇遺物出土状況(1)
	8 第2号溝跡(東から)(2)	図版11 1 第5号土壇遺物出土状況(2)
図版8	1 第2号溝跡(西から)	2 第5号土壇遺物出土状況(3)
	2 第2号溝跡遺物出土状況(1)	3 第5号土壇遺物出土状況(4)
	(東から)	4 第6号土壇
	3 第2号溝跡遺物出土状況(2)	5 第6号土壇遺物出土状況(1)
	(東から)	6 第6号土壇遺物出土状況(2)

	7	第6号土城遺物出土状況 (3)		4	第24号土城遺物出土状況 (1)
	8	第7号土城		5	第24号土城遺物出土状況 (2)
図版12	1	第8号土城		6	第24号土城遺物出土状況 (3)
	2	第10・12・13・39号土城		7	第25号土城
	3	第10号土城		8	第25号土城遺物出土状況
	4	第10号土城遺物出土状況	図版17	1	第26・27号土城
	5	第12号土城		2	第26・27号土城遺物出土状況
	6	第13号土城		3	第29号土城
	7	第14・21号土城		4	第30号土城
	8	第14・21号土城遺物出土状況 (1)		5	第30号土城遺物出土状況
図版13	1	第14・21号土城遺物出土状況 (2)		6	第31号土城
	2	第14・21号土城遺物出土状況 (3)		7	第31号土城遺物出土状況 (1)
	3	第14・21号土城遺物出土状況 (4)		8	第31号土城遺物出土状況 (2)
	4	第14・21号土城遺物出土状況 (5)	図版18	1	第31号土城遺物出土状況 (3)
	5	第15号土城		2	第31号土城遺物出土状況 (4)
	6	第15号土城遺物出土状況 (1)		3	第32号土城
	7	第15号土城遺物出土状況 (2)		4	第33号土城
	8	第15号土城遺物出土状況 (3)		5	第34号土城
図版14	1	第16号土城		6	第35号土城
	2	第16号土城遺物出土状況 (1)		7	第36号土城
	3	第16号土城遺物出土状況 (2)		8	第39号土城
	4	第17号土城	図版19	1～3	第1号杭列
	5	第18号土城		4～6	第1号池跡
	6	第18号土城遺物出土状況 (1)		7～9	第2号溝跡
	7	第18号土城遺物出土状況 (2)	図版20	1～5	第2号溝跡
	8	第18号土城遺物出土状況 (3)		6・7	第3号土城
図版15	1	第19号土城		8・9	第5号土城
	2	第20号土城	図版21	1～3	第5号土城
	3	第20号土城遺物出土状況 (1)		4	第6号土城
	4	第20号土城遺物出土状況 (2)		5・6	第8号土城
	5	第20号土城遺物出土状況 (3)	図版22	1・2	第8号土城
	6	第20号土城遺物出土状況 (4)		3～6	第10号土城
	7	第22号土城		7	第12号土城
	8	第23号土城	図版23	1～7	第12号土城
図版16	1	第23号土城遺物出土状況 (1)	図版24	1～3	第12号土城
	2	第23号土城遺物出土状況 (2)		4	第29号土城
	3	第24号土城		5～7	第一面グリッド

	8	第1号竪穴状遺構
図版25	1	第3号溝跡
	2～9	第14号土壇
図版26	1～7	第14号土壇
図版27	1～3	第15号土壇
	4・5	第16号土壇
	6～8	第18号土壇
図版28	1～5	第18号土壇
	6～9	第19号土壇
図版29	1～8	第20号土壇
図版30	1	第21号土壇
	2	第23号土壇
	3～7	第24号土壇
図版31	1～4	第24号土壇
	5	第25号土壇
	6～8	第26号土壇
図版32	1～8	第30号土壇
図版33	1	第32号土壇
	2	第33号土壇
	3	第34号土壇
	4～8	第1号性格不明遺構
図版34	1～4	第1号性格不明遺構
	5～8	第二面グリッド
図版35	1～8	第二面グリッド
図版36	1～9	第二面グリッド
図版37	1・2	第二面グリッド
	3・4	第5号土壇
	5～7	第12号土壇
図版38	1	第1号杭列
	2	第26号土壇
	3・4	第2号溝跡
	5	第8号土壇
	6～8	第29号土壇
図版39	1	第一面グリッド
	2	第1号杭列
	3～6	第14号土壇
	7	第16号土壇

	8	第二面グリッド
図版40	1	瓦(1)
	2	瓦(2)
	3	瓦(3)
図版41	1	漆喰(1)
	2	漆喰(2)
図版42	1	第1号土壇
	2	第8号土壇
	3～7	第12号土壇
図版43	1～3	第13号土壇
	4～9	第14号土壇
	10・11	第16号土壇
図版44	1	第19号土壇
	2～5	第20号土壇
	6・7	第23号土壇
	8	第24号土壇
図版45	1～3	第24号土壇
	4・5	第30号土壇
	6・7	第31号土壇
	8	第1号性格不明遺構
	9～12	第二面グリッド
図版46	1	第2号溝跡
	2	第一面グリッド
	3	第24号土壇
	4	鉄製品(1)
	5	鉄製品(2)
	6	第12号土壇
	7	第33号土壇
	8	第二面グリッド
	9	第5号土壇
図版47	1	石製品(1)
	2	石製品(2)
	3	銭貨
	4・5	第2地点出土貝類
図版48～53		文字資料

栗橋宿跡第4地点

図版54 1 栗橋宿跡第4地点遠景(北から)

2 栗橋宿跡第4地点全景(東から)

図版55 1 第4地点北側(1)(北から)

2 第4地点北側(2)(南から)

図版56 1 第4地点北側 B〜Cグリッド

2 第4地点北側 D〜Eグリッド

図版57 1 第4地点南側(1)(北から)

2 第4地点南側(2)(南から)

図版58 1 第4地点南側(3)(南から)

2 第4地点南側(4)(南から)

図版59 1 第4地点南側(5)(東から)

2 第4地点南側(6)(北から)

図版60 1 第3号杭列

2 木樋上面(1)(北から)

図版61 1 木樋上面(2)(東から)

2 木樋上面(3)(西から)

図版62 1 木樋上面(4)(東から)

2 木樋上面(5)(東から)

3 木樋上面(6)(東から)

4 木樋上面(7)(西から)

5 木樋上面(8)(西から)

6 木樋上面(9)(西から)

7 木樋上面(10)(南から)

8 木樋上面断面

図版63 1 木樋下面(1)(東から)

2 木樋下面(2)(東から)

図版64 1 木樋下面(3)(東から)

2 木樋下面(4)(東から)

図版65 1 木樋下面(5)(北から)

2 木樋接合部(1)

3 木樋接合部(2)

4 木樋釘穴

5 第1号溝跡

図版66 1 第1・4〜6号土壇

・第2号性格不明遺構

2 第1号土壇・第2号性格不明遺構(1)

図版67 1 第1号土壇・第2号性格不明遺構(2)

2 第11号土壇・第3号性格不明遺構

図版68 1 第1号土壇

2 第1号土壇断面(1)

3 第1号土壇断面(2)

4 第1号土壇断面(3)

5 第1号土壇遺物出土状況(1)

6 第1号土壇遺物出土状況(2)

7 第1号土壇遺物出土状況(3)

8 第1号土壇遺物出土状況(4)

図版69 1 第1号土壇遺物出土状況(5)

2 第1号土壇遺物出土状況(6)

3 第1号土壇遺物出土状況(7)

4 第1号土壇遺物出土状況(8)

5 第1号土壇遺物出土状況(9)

6 第1号土壇遺物出土状況(10)

7 第1号土壇金属製品出土状況(1)

8 第1号土壇金属製品出土状況(2)

図版70 1 第1号土壇金属製品出土状況(3)

2 第1号土壇金属製品出土状況(4)

3 第1号土壇銭貨出土状況

4 第1号土壇木製品出土状況(1)

5 第1号土壇木製品出土状況(2)

6 第1号土壇木製品出土状況(3)

7 第1号土壇木製品出土状況(4)

8 第1号土壇木製品出土状況(5)

図版71 1 第1号土壇木製品出土状況(6)

2 第1号土壇木製品出土状況(7)

3 第1号土壇木製品出土状況(8)

4 第1号土壇木製品出土状況(9)

5 第1号土壇木製品出土状況(10)

6 第1号土壇漏物出土状況

7 第1号土壇畳出土状況(1)

8 第1号土壇畳出土状況(2)

図版72	1 第1号土城陶磁器出土状況(1)
	2 第1号土城陶磁器出土状況(2)
	3 第1号土城陶磁器出土状況(3)
	4 第1号土城陶磁器出土状況(4)
	5 第2号土城
	6 第2号土城遺物出土状況(1)
	7 第2号土城遺物出土状況(2)
	8 第2号土城遺物出土状況(3)
図版73	1 第2号土城遺物出土状況(4)
	2 第2号土城遺物出土状況(5)
	3 第3号土城
	4 第4号土城
	5 第5号土城
	6 第6号土城
	7 第7号土城
	8 第8・19・20号土城
図版74	1 第2号性格不明遺構(1)
	2 第2号性格不明遺構(2)
	3 第2号性格不明遺構遺物出土状況(1)
	4 第2号性格不明遺構遺物出土状況(2)
	5 第2号性格不明遺構遺物出土状況(3)
	6 第2号性格不明遺構遺物出土状況(4)
	7 第2号性格不明遺構遺物出土状況(5)
	8 第2号性格不明遺構遺物出土状況(6)
図版75	1 第3号性格不明遺構上層
	2 第3号性格不明遺構下層(1)
	3 第3号性格不明遺構下層(2)
	4 第3号性格不明遺構検出状況(1)
	5 第3号性格不明遺構検出状況(2)
	6 第3号性格不明遺構検出状況(3)
	7 第3号性格不明遺構検出状況(4)

8 第3号性格不明遺構ビット1
図版76 1 第3号性格不明遺構ビット1
2 第3号性格不明遺構ビット1遺物出土状況
3 第3号性格不明遺構ビット2(1)
4 第3号性格不明遺構ビット2(2)
5 第3号性格不明遺構ビット2検出状況
6 第3号性格不明遺構ビット2遺物出土状況(1)
7 第3号性格不明遺構ビット2遺物出土状況(2)
8 第3号性格不明遺構ビット2遺物出土状況(3)
図版77 1 第3号性格不明遺構ビット3
2 第3号性格不明遺構ビット3検出状況(1)
3 第3号性格不明遺構ビット3検出状況(2)
4 第3号性格不明遺構ビット3遺物出土状況
5 第3号性格不明遺構ビット4検出状況(1)
6 第3号性格不明遺構ビット4検出状況(2)
7 第3号性格不明遺構ビット4遺物出土状況
8 第4地点 基本土層
図版78 1～7 木樋
8 第2号溝跡
図版79 1～8 第1号土城
図版80 1～8 第1号土城
図版81 1～5 第1号土城
図版82 1～6 第1号土城
図版83 1～5 第1号土城
図版84 1～6 第1号土城
図版85 1～10 第1号土城

図版86	1～8	第1号土壌	4	第9号土壌
図版87	1～8	第1号土壌	5・6	第3号性格不明遺構
図版88	1～8	第1号土壌	7	第1号土壌
図版89	1～7	第2号土壌	図版103	1～5 第1号土壌
図版90	1～9	第2号土壌	図版104	1～5 第1号土壌
図版91	1～6	第2号土壌		6・7 第2号土壌
	7・8	第3号土壌	図版105	1・2 第2号土壌
	9	第4号土壌		3 第21号土壌
図版92	1～8	第4号土壌		4～6 第2号性格不明遺構
図版93	1～3	第4号土壌	図版106	1 第2号性格不明遺構
	4	第7号土壌		2 グリッド
	5	第9号土壌		3～8 第1号土壌
	6～8	第10号土壌	図版107	1～7 第1号土壌
図版94	1～4	第10号土壌		8・9 第9号土壌
	5	第15号土壌	図版108	1～3 第9号土壌
	6	第18号土壌		4～7 第2号性格不明遺構
	7～9	第21号土壌		8～10 グリッド
図版95	1	第21号土壌	図版109	1～6 第1号土壌
	2～9	第2号性格不明遺構		7・8 第2号土壌
図版96	1～7	第2号性格不明遺構	図版110	1 第11号土壌
図版97	1～6	第2号性格不明遺構		2 金属製品
図版98	1～6	第2号性格不明遺構		3 炉壁
	7・8	グリッド		4・5 鉄滓
図版99	1～8	グリッド		6・7 第2号性格不明遺構
図版100	1～8	グリッド		8 石製品(1)
図版101	1・7・8	グリッド	図版111	1 石製品(2)
	2～5	第1号土壌		2 銭貨(1)
	6	第9号土壌		3 銭貨(2)
図版102	1・2	グリッド		4 第4地点出土貝類
	3	木樋	図版112～114	文字資料

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所では「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画【大臣管理区間】」に基づき、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業として、利根川右岸の堤防を拡張し、強化する事業を進めている。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課では、国が実施するこうした公共開発事業に係る埋蔵文化財の保護について、従前より関係機関と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に係る埋蔵文化財の所在及び取扱いについては、利根川上流河川事務所長から平成17年1月20日付け利上治第18号で、埼玉県教育委員会教育長あて、埋蔵文化財の所在及びその取扱いについて照会がなされた。

事業予定区域については埼玉県指定旧跡や周知の埋蔵文化財包蔵地が所在すること、埋蔵文化財の詳細な状況等を把握するための確認調査を実施する必要がある旨を、平成17年3月17日付け教生文第1780号で回答した。

当該箇所については、近世絵図等から栗橋宿の範囲であることは明らかであったが、遺構の状況等を把握するために平成23年12月に試掘調査を実施した。その結果、近世の遺構、遺物が多量に検出され、「栗橋宿跡」として埋蔵文化財包蔵地として登載した。県遺跡番号はNo.86-011である。

上記の埋蔵文化財の所在が明確になったことから、利根川上流河川事務所長あてに、計画上やむを得ず現状を変更する場合は、記録保存のための

発掘調査が必要な旨を回答し、取扱いについて協議を重ねたが、現状保存が困難であることから記録保存の措置を講ずることとなった。

調査に際し、発掘調査実施機関である公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団と、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所、生涯学習文化財課（当時）の三者で、工事日程、調査計画、調査期間などについて定期的に会議を開催し、各種の調整を行った。

文化財保護法第94条の規定による埋蔵文化財発掘通知が利根川上流河川事務所長から平成24年2月9日付け国関利上治第27号で、埼玉県教育委員会教育長あて提出された。それに対する埼玉県教育委員会教育長からの発掘調査が必要な旨の勧告は下記のとおりである。

平成24年2月9日付け教生文第4-1337号

また同法第92条の規定による発掘調査届が公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出され、それに対する埼玉県教育委員会教育長からの指示通知は下記のとおりである。

〔栗橋宿跡第2地点〕

平成25年3月7日付け教生文第2-68号

平成25年5月15日付け教生文第2-3号

〔栗橋宿跡第4地点〕

平成25年9月18日付け教生文第2-33号

（埼玉県教育局市町村支援部文化資源課）

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

栗橋宿跡第2・4地点の調査は首都圏氾濫区域堤防強化対策工事に伴い、平成24年度（第2地点第1次）、25年度（第2地点第2次・第4地点第1次）の2回実施した。なお、第4地点は当初第2地点B区として平成25年度に調査した箇所である。調査面積は7,493.25㎡（第2地点第1次調査2,232.25㎡、第2次調査2,315.00㎡、第4地点2846.00㎡）である。

第2地点第1次調査

第1次調査は平成25年2月1日から平成25年3月31日まで実施した。

重機による表土除去作業は、2月4～7日、3月4～12日に実施した。2月1日から4日にかけて排土関係の作業後、5日から遺構確認作業を行い、補助員による作業を開始した。

遺構測量用の基準点測量及びグリッド杭打設作業は、表土除去作業終了後に、平成25年3月15日に実施した。

確認作業の結果、第一面から江戸時代の土壌、溝跡などの遺構が検出された。直ちに精査を開始し、順次土層断面図、遺構平面図、写真撮影等の記録作成作業を行った。

平成24年3月22日に遺物、器材を撤収して現地調査を終了した。

第2地点第2次調査

第2地点第2次調査は平成25年4月1日から平成25年7月31日まで実施した。

平成25年4月8～10日に開柵を行った。

重機による表土除去作業は、平成25年6月14日に実施した。4月8日から遺構確認作業を行い、補助員による作業を開始した。

遺構測量用の基準点測量及びグリッド杭打設作業は、表土除去作業終了後に、平成25年6月14日に実施した。

確認作業の結果、江戸時代の堅穴状遺構、溝跡、

土壌、池跡、杭列などの遺構が検出された。直ちに精査を開始し、順次土層断面図、遺構平面図、写真撮影等の記録作成作業を行った。

7月30日に遺物、器材を撤収、31日に排土置き場の開柵を一部撤去し、現地調査を終了した。

第4地点第1次調査

第4地点第1次調査は平成25年9月1日から平成26年3月25日まで実施した。

平成25年9月3～17日に開柵、10・11日に発掘事務所の設置を行った。

重機による表土除去作業は、平成25年10月4日に実施した。9月24日から遺構確認作業を行い、補助員による作業を開始した。

遺構測量用の基準点測量及びグリッド杭打設作業は、表土除去作業終了後に、平成25年10月4日に実施した。

その後、3月12日から17日に重機により危険箇所の埋め戻しを行い、17日に遺物、器材を撤収して現地調査を終了した。

(2) 整理報告書作成

整理報告書の作成作業は平成28年4月1日から平成29年3月31日（主に第2地点の遺物・遺構の整理）、平成30年10月1日から平成31年3月31日（主に第4地点の遺物・遺構の整理）の2回に分けて実施した。

作業は出土遺物の水洗・注記から開始し、続いて接合復元に着手した。復元を終えた遺物は順次実測、トレース、採拓を経て印刷用の挿図を作成した。平成30年12月には図版用の遺物写真を撮影した。同時に、発掘調査で記録した遺構の断面図や平面図等を照合し、修正を加えてスキャナでコンピュータに取り込んだ。その後、画像編集ソフトを用いて遺構ごとにトレースし、土層説明等を組み込んで、印刷用の版下とした。

平成31年1月上旬までに原稿執筆を終え、報

告書の編集を行った。入稿後、3回の校正を終え、平成31年3月22日に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第452集『栗橋宿跡Ⅱ』を刊行した。

図面類・写真類・データ類・遺物等の諸資料は、平成31年2月後半から整理・分類を行い、埼玉県文化財収蔵施設の収蔵庫へ仮収納した。

3. 発掘調査・報告書作成の組織

平成24年度（発掘調査）

理 事 長	中 村 英 樹
常務理事兼総務部長	根 本 勝
総務部	
総 務 部 副 部 長	富 田 和 夫
総 務 課 長	矢 島 将 和

調査部

調 査 部 長	昼 間 孝 志
調 査 部 副 部 長	鰐 持 和 夫
調 査 第 二 課 長	黒 坂 禎 二
主 査	山 本 禎
主 査	木 戸 春 夫
主 事	林 雅 恵

平成25年度（発掘調査）

理 事 長	中 村 英 樹
常務理事兼総務部長	大 嶋 紳一郎
総務部	
総 務 部 副 部 長	富 田 和 夫
総 務 課 長	藤 倉 英 明

調査部

調 査 部 長	昼 間 孝 志
調 査 部 副 部 長	鰐 持 和 夫
調査監兼調査第一課長	細 田 勝
主 査	山 本 禎
主 査	栗 岡 潤
主 事	青 木 弘
主 事	砂 生 智 江
主 事	岩 松 大 輔

平成28年度（整理・報告書作成）

理 事 長	塩野谷 孝 志
常務理事兼総務部長	木 村 博 昭
総務部	
総 務 部 副 部 長	黒 坂 禎 二
総 務 課 長	曾 川 浩 二

調査部

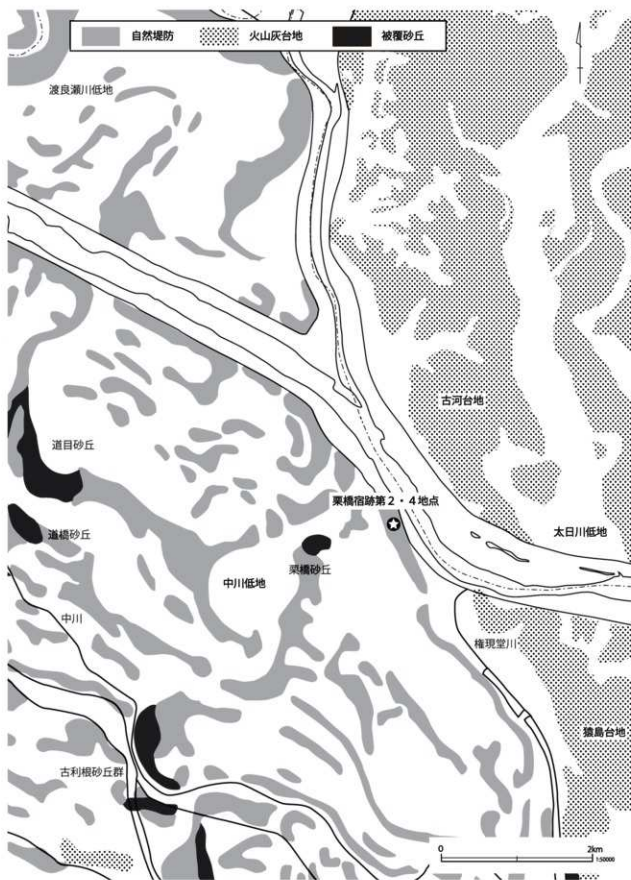
調 査 部 長	金 子 直 行
調 査 部 副 部 長	細 田 勝
主幹兼整理第一課長	吉 田 稔
主 査	福 田 聖

平成30年度（整理・報告書作成）

理 事 長	藤 田 栄 二
常務理事兼総務部長	川 目 晴 久
総務部	
総 務 部 副 部 長	田 中 広 明
総 務 課 長	新 井 了 悟

調査部

調 査 部 長	瀧 瀬 芳 之
調査部副部長兼整理第二課長	山 本 靖
主幹兼調査第一課長	栗 岡 潤
主 事	近 藤 洋



第2図 周辺の地形

路は安定せず、蛇行する多くの流路跡とそれに伴う自然堤防が形成された。

近世初頭段階の本流筋としては、会の川、合の川、利根川分流、北川辺蛇行流路、島川、渡良瀬川、浅間川、大落古利根川、庄内古川が考えられ、それ以外にも細かな流路が推定される。

中川低地にはこうした多くの河川の流下によって、砂や砂礫が多く供給され、その両岸に自然堤防が発達した。また、浅間川と会の川が大落古利根川に合流する久喜市（旧栗橋町）高柳には、大河の証しである河畔砂丘が形成され、微高地とし

て旧鷲宮町以南に連続して分布している。

栗橋宿跡は、近世初頭以前に渡良瀬川の右岸に形成された北西—南東方向の、長さ約300m、幅120mほどの自然堤防上に立地しているが、後述する江戸幕府に始まる東遷事業後は、遺跡の北を流れることとなった利根川の右岸に位置し、現在では利根川の堤防に接している。遺跡付近の標高は11～12mである。南側の後背湿地に営まれる水田との比高差は約1.0mである。遺構の覆土や地山は、砂質もしくはシルト質土である。

2. 歴史的環境

（1）中世の栗橋とその周辺

栗橋宿跡の所在する中川低地周辺の地表は、地形の沈降と河川の乱流による堆積土に厚く覆われている。そのため遺跡の分布は未だ不明な部分が多く、本来は、現在検出されているよりも多くの遺跡の存在が予想される。

平安時代から中世

栗橋地区では、これまでに古代以前に遡る遺跡は確認されていない。縄文時代前期（約6000年前）の海進時には海が栃木市藤岡付近まで入り込み、栗橋地区は海底であった。海退後は河川が乱流し、付近は湿地のような状態が長く続いていた。平安時代には下総国葛飾郡新居郷に属し、12世紀には摂津源氏源頼政の郎党下河辺氏によって下河辺荘が開かれ、鎌倉時代中期には金沢北条実時が地頭となる。栗橋地区に当たる狐塚、高柳の両郷は金沢氏の支配を受けていたとされている。

栗橋地区においてようやく人の動きがうかがえるようになるのは、平安時代末期から鎌倉時代の初期である。『吾妻鏡』には大河戸兄弟に関する記事があり、三郎行元は地区内の高柳が本貫地とされている。高柳から伊坂にかけては、鎌倉街道に比定される古道が今も一部残っている。近くには静御前終焉の地も伝承されている。

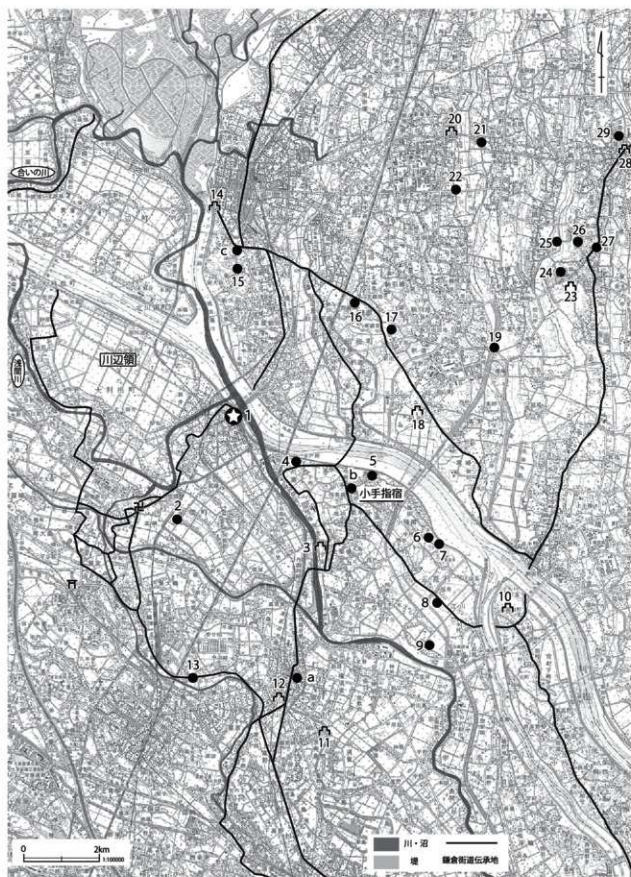
旧大利根町や旧栗橋町などの地域では、これまで中世の遺跡はほとんど検出されていない。唯一、旧栗橋町の佐間小草原遺跡（2）が調査されている。工事中に発見され、板碑37基、古瀬戸の瓶子、常滑の大甕などが出土した。板碑の年代は、文和3年（1354）から明応7年（1498）に及んでいる。平成17年の調査では、溝跡や土壌などが検出され、板碑、漆塗り椀などが出土した。

中世段階の利根川は、羽生市川俣で会の川、加須市大越で北川辺蛇行流路跡、浅間川に分流していた。栗橋地区周辺では、洪水による大量の土砂の堆積と、関東造盆地運動による地盤の沈降が進み、遺跡の存在は定かではない。しかし、猿島台地上の遺跡分布を勘案すると、この周辺にも今後多くの遺跡が発見される可能性が高い。

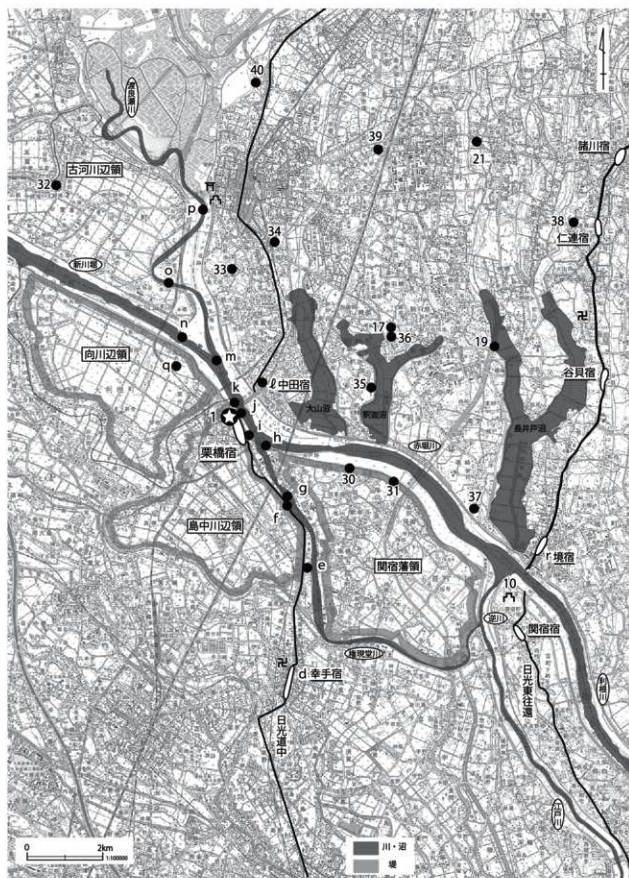
中世城館

一方、渡良瀬川（太日川）の左岸、および権現堂川の左岸では、栗橋城址、古河城址をはじめとする数多くの遺跡が展開し、古河を中心とした隆盛がうかがえる。

近世初期までの「栗橋」といえば、現在の茨城県猿島郡五霞町の元栗橋を指す。享徳4年（1455）の享徳の乱後、御座所を古河に移した鎌倉公方足利成氏氏が古河公方と称して以降、元栗橋にはその



第3図 周辺の遺跡 (中世)



第4図 周辺の道路分布 (近世)

第1表 周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	栗橋宿跡	21	本田山遺跡	a	田宮町
2	佐間小草原遺跡	22	蔵王遺跡	b	小手指宿
3	栗橋城址	23	小堤城跡	c	徳政院
4	宿北・宿東遺跡	24	北山田北久保遺跡	d	幸手宿
5	釈迦新田遺跡	25	御願遺跡	e	道標
6	同所新田遺跡	26	大膳屋敷跡	f	一里塚
7	新田遺跡	27	関根豪族屋敷跡	g	勘平の渡し
8	坂井前遺跡	28	諸川西門城址	h	川妻の渡し
9	瀬沼遺跡	29	本田遺跡	i	下河岸跡
10	関宿城址	30	上原遺跡	j	栗橋河岸
11	天神島城址	31	観山塚	k	房川の渡し
12	幸手城址	32	俣井陣屋遺跡	l	中田宿
13	渡辺氏屋敷跡	33	城地遺跡	m	本郷渡し
14	古河城址	34	石行塚遺跡	n	中渡し
15	鴻巣館跡	35	羽黒遺跡	o	鈴木の渡し
16	磯部館跡	36	釈迦才伝遺跡	p	古河の渡し
17	香取東遺跡	37	清水遺跡	q	旗井小学校
18	水南城址	38	新屋敷遺跡	r	城宿
19	向坪B遺跡	39	大塚遺跡		
20	円満寺城址	40	野木宿遺跡		

支城の栗橋城（3）が置かれた。

鎌倉街道中つ道（奥州道）の利根川の渡河点があった栗橋城は、水陸の要衝として後北条氏の関宿城（10）攻略の拠点となった。天正2年（1574）に関宿城開城後は北関東攻略の起点であったが、豊田秀吉の小田原攻めにより天正18年（1590）に開城された。

古河城（14）も栗橋城同様に、後北条支配下の足利氏によって戦国城郭として整えられたが、やはり小田原攻めによって破却された。

その後、徳川家康に従っていた小笠原秀征が古河城を修復し、近世以降も幕閣を含む歴代の城主によって拡張され、古河は城下町として栄えていった（古河市史編さん委員会1985、茨城県古河市教育委員会2004）。

中世段階の古河城については、近世に改築が繰り返された現在の遺構の下になっているため、その詳細は明らかでない。

古河城南の御所沼の奥に舌状に突出した台地上には、古河公方の御所として知られる鴻巣館（15）がある。東西約700m、南北約100mの大規

模な居館である。初代古河公方足利利氏によって、享徳4年（1455）に築造された連郭式の城郭で、最後の古河公方足利義氏の娘氏姫の居館として知られている。足利氏の後裔、喜連川氏の尊信が寛永7年（1630）に古河を離れた後は、時宗十念寺の寺域となった。

渡良瀬川、利根川の左岸には、現在大小の沼沢地が多く認められる。その多くは、利根川改修以後の赤堀川の開削によって形成されたものである。本来は、猿島台地を開削した中小河川による支谷であった。その縁辺部に古河公方入府とともに、足利成氏の重臣たちの城や館が造られた。遺構が残るのは小堤城跡（23）、磯部館跡（16）のみで、詳細についてはほとんど明らかでない。

釈迦沼の西側には、梁田氏家臣の岩崎豊前守の居館とされる磯部館跡がある。釈迦沼の東側海海には、足利成氏の古河入府に伴った梁田政助によって造られ天正年間に廃城になったとされる海海城址（18）が伝えられている。長井戸沼の北奥には、やはり成氏入府に伴った諏訪三河守頼方の居城とされる小堤城址（円満寺城跡）がある。

中世の周辺遺跡

中世段階の渡良瀬川左岸（現在の利根川左岸となる）古河市域、旧総和町域、五霞町域には、猿島台地縁辺に城や館を中心とした多くの遺跡が存在する。多くは15世紀から16世紀前半に営まれたものである。

磯部館跡に近い釈迦沼の東側にある旧総和町香取東遺跡（17、武蔵文化財研究所2001）は、溝によって区画された中世墓地である。15世紀後半から16世紀中ごろを最盛期とする土壌墓164基と、井戸跡11基、溝跡20条、櫓列跡1条が検出された。

その南の旧総和町羽黒遺跡（35、羽黒・日下部遺跡発掘調査団1999、茨城県教育財団2003）では、中近世の堀跡、溝跡、堅穴状遺構、井戸跡、土壌が調査された。中世の遺構は、14世紀末から15世紀の堀跡、15世紀の堅穴状遺構、14世紀後半の土壌である。中でも堅穴状遺構からは「五百二丈 五河口」の木簡が出土し、河川改修や護岸、堤防工事などの表示札と考えられている。その他の遺構の年代は特定できないが、長方形土壌の一群は13から17世紀の土壌墓群と推定されている。

旧総和町域の猿島台地は、本来赤堀川を隔てた五霞町側まで連続して延びていた。台地としては低平だが、縄文時代の遺跡をはじめ、古墳、奈良、平安、中世の各時代の遺跡が本来の地形を反映したように分布する。

栗橋城とその城下町は、奥州路の房川渡しの存在を念頭に置かねばならない。栗橋城の南側に、鎌倉街道中ツ道、奥州街道の渡船場として房川渡しがあったとされている。『鷲宮町史』、『町史五霞の生活誌』によれば、城下町は栗橋城の東側に広がり、古河方面への道と関宿方面への道が分岐していたという。遺跡の分布は、その街道沿いと東側の福田近辺の関宿、古河を結ぶと考えられる道沿いに分布している。

これまでに、五霞町域では首都圏中央連絡自動車道や首都圏氾濫区域の高規格堤防建設に伴う発

掘調査が、茨城県教育財団を中心に実施されている。調査された宿北・宿東（4）、釈迦新田（5）、同所新田（6）、新田（7）、桜井前（8）、瀬沼（9）の各遺跡から中世の遺構が検出され、釈迦新田、宿北、瀬沼遺跡では中世の墓地が見つかった。釈迦新田遺跡（茨城県教育財団2012、茨城県教育財団2017）からは13世紀後半、宿北遺跡（茨城県教育財団2014）からは15世紀後半から16世紀前半、瀬沼遺跡（茨城県教育財団2009）からは15から16世紀の堅穴状遺構、火葬跡等が検出された。

長井戸沼周辺の遺跡は北側の小堤城を中心とした範囲と、柳橋から葛生・稲尾の谷筋、大和田から柳橋・稲尾に至る谷筋の3箇所分布域が認められる。

小堤城の南、長井戸沼西岸の蔵王遺跡（22）からは溝跡、井戸跡等が検出され、井戸跡から応仁2年（1468）の板碑が出土した。

対岸の本田山遺跡（21、玉川文化財研究所2002a・b、武蔵文化財研究所2002）からは、調査が道路部分等に限定されているため全容は不明だが、縄文時代から古代の大規模な集落跡とともに、中近世の土壌墓、地下式墳、井戸跡から構成される墓地が検出された。土壌墓からは長祿5年（1461）銘の板碑や15から16世紀代のかかわり、内耳鍋、青磁碗等が出土した。

下片田から山田、谷貝を抜ける谷筋は、東側に鎌倉街道と比定されている古道が通り、それに沿って遺跡が分布している。城館跡としては関根豪族屋敷遺跡、大膳屋敷跡、東の門西の門城跡が知られている。仁連宿の周辺と長井戸沼の低地の畔にまとまった分布が見られ、特徴的である。本田遺跡（29、技研測量設計株式会社2010）では15世紀代の井戸跡、溝跡、土壌が検出された。北山田北久保遺跡（24、武蔵文化財研究所編集2010）からは、現代まで信仰対象として意識されてきた塚が検出された。12世紀後半に方形区画墓とし

て築造され、供養塚、信仰対象の塚へと変遷している。渥美、常滑、古瀬戸、板碑、五輪塔が出土した。

(2) 近世の栗橋とその周辺

利根川の改修

中世の古河を中心とした栗橋周辺の様相は、徳川家康の江戸入府によって一変する。

特に大きな影響を与えたのが、利根川改修事業、所謂利根川の東遷である。徳川幕府は、家康の関東入府後早々に利根川の改修に着手した。それまでの本流であった浅間川、会の川、古利根川の川筋から、新川通、赤堀川を開削して常陸川に結び、合わせて権現堂川を介して江戸川へとつなぐ大規模な流路変更で、利根川東遷事業として知られている。その目的は、江戸を水害から守るためという治水が第一義とされてきた。また、古河城を合わせた江戸の北の防衛線とする説も知られている。しかし、最近では「内川廻し」と呼ばれる内陸航路の確保、水田開発目的とする説も有力である。

栗橋周辺では、文禄3年(1594)忍城主松平忠吉の命を受けた忍藩家老小笠原三郎左衛門が羽生市上新郷で会の川を締め切ったのに端を発する。

元和7年(1621)には、利根川と常陸川を結びつける意図のもとに旧大利根町佐波から旧栗橋町中渡までの新川通、五霞町川妻から境町長井戸への赤堀川が開削された。しかし、当初の赤堀川の掘削は失敗に終わり猿島郡釈迦沼にまでしか至らず、現在の五霞町域に甚大な被害をもたらした。その後、2度の拉幅、増掘(二番堀、三番堀)を経て、漸く承応3年(1654)に通航に成功した。銚子へ至る新たな利根川的主流路が形成されたのである。

更に、天保9年(1838)に合の川と浅間川が完全に締め切れ、利根川の流れは新川通の流路へと一本化され、現在に至っている。

利根川本流の開削、整備とは別に、天正4年(1576)の権現堂堤の築堤に始まる五霞町、幸手

市域でも大規模な河川改修が行われた。赤堀川通水以前の利根川は、寛永18年(1641)に逆川の開削により、寛永12年(1635)から開削が進められていた後の江戸川と関宿の北側で常陸川に通ずることとなった。江戸川は、更に拉幅工事が進められ正保元年(1644)に完成した。前述の赤堀川三番堀の完成以前は、利根川、渡良瀬川両大河の水は一部逆川を介して常陸川に注ぐものの、ほとんどはこの江戸川を流れていた。

このような利根川を中心とした河川改修の結果、前述の「内川廻し」の航路とともに、利根川上流域の上野、渡良瀬川上流域の下野との航路が確保され、北関東が江戸を中心とする経済圏の一部となった。また、利根川、荒川両大河の河川改修は、埼玉平野に広大な新田開発をもたらし、航路の開発とともに、その経済効果は絶大であった。

更に、栗橋地区を含む島中川辺領は、外縁部に囲堤が造られ河川の流路が固定されるとともに、領域全体が輪中となり、治水環境が整えられた。

房川渡し移設と栗橋関所の開設

利根川河川改修によって度重なる洪水が発生し、元栗橋の宿と房川渡しは荒廃した。元和年間(1615～1624)に新栗橋に移転したと考えられている。幕府は、日光道中最大の難所と言われるこの地に関所を設けた。『新編武蔵風土記稿』に「房川渡中田御関所」と記された所謂「栗橋関所」である。

栗橋関所は寛永元年(1624)に開設され、明治2年(1869)に関所が廃止されるまで、245年間にわたり日光道中6番目の関所として機能した。関東郡代伊奈氏の管轄のもと、当初は森、佐々木、落合、富田の四家が、二人一組で番士として勤番に当たった。佐々木、落合の二家はその後交代し、幕末には足立、加藤、島田、富田の四家が番士として詰めていた。

日光道中と栗橋宿

徳川幕府は、河川改修による舟運の整備と合わ

せて、陸路、五街道の整備を行った。日光道中は、江戸日本橋を起点に下野国坊中までの20宿、36里11町の街道である。県内では、草加、越ヶ谷、粕壁、杉戸、幸手、栗橋宿があった。栗橋の対岸の下総側には中田、古河があり、野木、間々田、小山、新田、小金井、石橋、雀宮、宇都宮、徳次郎、大沢、今市、鉢石を経て日光坊中に至る。

栗橋宿は、江戸から14里15町・幸手から2里3町で、江戸から7番目の宿である。慶長年間に元栗橋から池田鴨之助、並木五郎平らが移住し、開宿したと伝わる。対岸の中田宿と合宿で、栗橋町史に引かれている『日光道中宿村大概帳』には、宿高689石余、宿往還の長さ15町13間余、宿町並10町30間、宿の家数404軒、本陣・脇本陣各1軒、旅籠屋25軒、人口1741人（男性869人、女性872人）と記されている。

栗橋宿跡は、当事業団が平成24年度から発掘調査を継続している。これまでに、本陣跡、脇本陣を含む西本陣跡に加え、宿跡の9地点を調査し、調査面積は32,000㎡に及ぶ。調査中のため様相は明らかではないが、船改めを船問屋に委託するなど栗橋問所との密接な関係が推定される。

合宿の中田宿は、宿高456石余、宿往還の長さ12町18間余、宿町並4町50間、宿の家数69軒、本陣・脇本陣各1軒、旅籠屋6軒、人口403人（男性169人、女性234人）である。

栗橋宿と舟運

鉄道開通以前、あるいはそれ以降も物資の大量輸送の主要な手段は舟運であった。栗橋周辺では、権現堂河岸と関宿河岸が古くから知られている。

栗橋河岸は、近世当初の元禄年間には年貢米を江戸へ送る「津出し湊（河岸）」ではなかった。しかし、明和8年（1771）には中里村の、天明期（1781～1789）には加須市域の水深村の津出しが行われ、近世中・後期にはその役割があったことが分かる。

栗橋町史に『武蔵国郡村誌』から作成した栗橋

町域の明治初期の船の一覧が掲載されているが、その数610艘に上る。いかに栗橋区域が舟運と密接な生活を送っていたかが分かる。

この内、栗橋宿が有していた舟運に関わった所謂川船は、高瀬舟10艘、小高瀬舟2艘、似鱗（にたりひらた）船8艘、屋形船17艘である。

江戸へ向かう下り船には大豆に代表される農産物など、空となった帰りの上り船には塩、砂糖、干鰯、灰などの肥料、木綿、乾物、陶磁器などが積まれた。水揚げされた河岸場は、地域経済の要であった。今回の各地点の調査では、鮪の中骨や鮑、牡蠣、蛤、蛸などの海産物が見られ、これらも上り船によって江戸から運ばれたものであろう。

栗橋河岸には、房川渡しから堤沿いに続く舟戸町の船着き場と、やや下った利根川と権現堂川の分岐付近の下河岸があった。

栗橋問所では、船改め役を務める船問屋が船荷を改める「船改め」が行われていた。『栗橋問所史料一』によれば、船改めは享保年間（1716～1736）に下河岸で行われていた。しかし浅間山噴火（1783年）の泥流の影響で利根川の川筋が変化して下河岸に接岸できなくなり、舟渡町近辺に場所が移されたとされている。従って、津出し湊や、江戸との川船の往来に利用されたのは舟渡町の河岸場と推定される。

近世の栗橋村

近世初頭では栗橋宿を含む井坂、松長、佐間、島川、広島、河原代、狐塚、中里、小右衛門の各村は幕府の蔵入地で、代官伊奈半十郎忠治によって支配されていた。伊奈氏の支配は関東諸国に及び、特に武蔵国東部の低地開発を強力に推し進めたことで知られている。その結果、開発された広大な新田は伊奈氏の支配地として引き継がれていた。利根川東遷事業による新田開発もその一環とも言えるだろう。

元禄10年（1697）の所謂元禄の地方直しでは、高柳村、高柳新田は酒井対馬守、島平村は酒井監

物、広島村は久津見斧太郎、河原代村は久津見斧太郎・榎原大膳の旗本知行へ支配替えが行われた。

加えて、松長、間鎌、間鎌新田、佐間、佐間新田、井坂の各村は、18世紀中葉の延享年間（1744～1748）、19世紀前半から中葉の文政年間から安政年間に徳川御三卿領への支配替えとなった。

近世の周辺遺跡

栗橋周辺の近世遺跡は、日光道中と將軍の宿城である古河城を中心に展開する。

古河城（14）は、近世以降小笠原、松平、奥平、永井、土井、堀田の多くの幕閣を含む歴代の城主によって、拡張、城下町の整備が行われた。特に、度々將軍の日光参詣の宿城となったため、その都度、特別な手当金が支給され整備が進んだ。

利根川の東側は、利根川の河川改修以降も、この古河城を中心として遺跡が展開している。

旧総和町香取東遺跡（17）の墓域は近世にも継続していた可能性が高く、18～19世紀の土壌（墓域）、井戸跡、溝跡が検出された。南側に隣接する釈迦才伝遺跡（36、茨城県教育財団1998）には、南北11.4m、東西8.4m、高さ1.0mの不整隅丸方形を呈する近世後半の塚が造られた。

長井沼の奥になる本田山遺跡（21）は、中世に引き続き近世でも墓地として継続していた。

柳橋城の南側にある旧総和町向坪B遺跡（19、茨城県教育財団1986）からは、近世の土壌、溝跡が検出され、土壌墓も含まれていると考えられる。

長井沼東側の旧鎌倉街道は栃木県多功に通ずる日光東街道として、元和年間には整備されていたとされている。街道には仁連宿、谷貝宿が設けられた。

仁連宿の北、諸川には中世から続く本田遺跡（29、技研測量設計株式会社2010）があり、17世

紀後半を中心とする掘立柱建物跡、堅穴状遺構、地下式坑、土壌、墓域、井戸跡、溝跡が検出された。

（3）近世から近代への栗橋

幕末の19世紀中葉には、天保の飢饉に端を発する打ちこわし、元治元年（1864）の水戸浪士による天狗党の乱、慶應2年（1866）から始まる武州世直し一揆など、社会情勢が不安定になった。栗橋でも、慶應4年（1868）羽生陣屋焼き払いに始まる打ちこわしが波及した。「足立家文書御開所日誌」には、9000人余りが宿内へ侵入し、名主良右衛門宅に放火し、仲町百姓弥平次宅、本陣池田由右衛門宅を打ちこわし、また開所へも押し入り、番士が開所から退去したとある。

その後は、天狗党の乱を受けて、江戸防衛の施設としての再認識が進み、古河藩や関宿藩による開所の警護が行われた。

しかし、諸大名による鉄砲の大量通過、幕府役人などの例外的通過も多くなった。また慶應3年（1867）の開所変革令による通行の緩和、同4年（1868）には通行者監視の強化等開所の施策によって混乱していった。更に、新政府の東征軍進軍による江戸市中からの脱出や慶應4年（1868）の下野での戊辰戦争の戦闘への官軍通過、上野戦争に伴う古河藩士と共の勤番など、これまでにない多くの事態が発生したが、年中は開所の機能が維持された。

翌明治2年（1869）2月には、葛飾県役所から開所廃止の通知が出された。番士四家は開所道具を栗橋宿へ預け、開所改めの廃止を各所に通知し、開所を引き払い、栗橋開所は245年の幕を閉じた。一方栗橋宿は、明治22年（1889）に町村制が施行され、北葛飾郡栗橋町となった。交通の要衝としての役割は引き継がれていった。

III 遺跡の概要

栗橋宿は、慶長年間に池田鴨之助、並木五郎平らが元栗橋から移住して開宿した宿場である。南北に走る日光道中に面して、町家が並んでいた。

栗橋宿跡の調査は、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に伴って実施したものである。

発掘調査は、調査地点を本陣跡、西本陣跡、栗橋宿跡第1～9地点に分けて実施している（第6図）。平成24年に第1地点の調査を開始して以降各地点を調査し、平成30年度も調査を行っている。

今回報告するのは、栗橋宿跡第2地点と栗橋宿跡第4地点である。栗橋宿跡第2・4地点は、久喜市栗橋東3丁目ほかに所在し、関所や本陣から離れた宿場の南のはずれに位置する。第2地点は日光道中から東におよそ40m、第4地点はおおよそ44m離れており、町家の裏手にあたる場所である。

第5図の基本土層は、第4地点のH8-E4・E5グリッドで記録を行った。Ⅱ・Ⅲ・Ⅵ層がシルト質、Ⅰ層が砂質の土層である。

調査地点は地下水位が高い環境である。そのため木製品が腐食せずに残存し、多量に出土したこともこの遺跡の特徴である。

栗橋宿跡第2地点では、近世以降の文化層が二面、第4地点では一面確認された。確認面の標高は、第2地点の第一面で11.4m、第二面で9.6m、第4地点で10.8mである。

第2地点の第一面で検出された遺構は、杭列4条、木樋1条、池跡1基、溝跡1条、土壌15基で、遺構の時期は19世紀中葉から後半頃である。第二面で検出された遺構は、堅穴状遺構2基、溝跡3条、土壌22基、性格不明遺構1基、ピット2基で、遺構の時期は19世紀初頭から前半頃である。

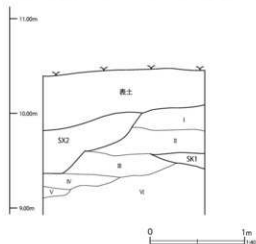
栗橋宿跡第4地点で検出された遺構は、杭列9条、木樋1条、溝跡1条、土壌21基、性格不明遺構2基で、遺構の時期は19世紀中葉から後半頃である。

第2地点の溝跡は、敷地を画する地割と考えられる。第2号溝跡は、調査区を東西に横断するもので、北側は杭で固定された横長の板材で護岸されていた。さらに北側には、溝跡に沿って瓦や陶磁器片などが敷き詰められており、区画や実用の溝として強く意識されていたと考えられる。

土壌内からは陶磁器片とともに、木製品や木材が多量に出土している。他にも樹皮や木片など、木材を加工した際に出たと考えられる木屑が多く見られる。これらの特徴から、その大半は不用品を一括廃棄した跡と考えられる。

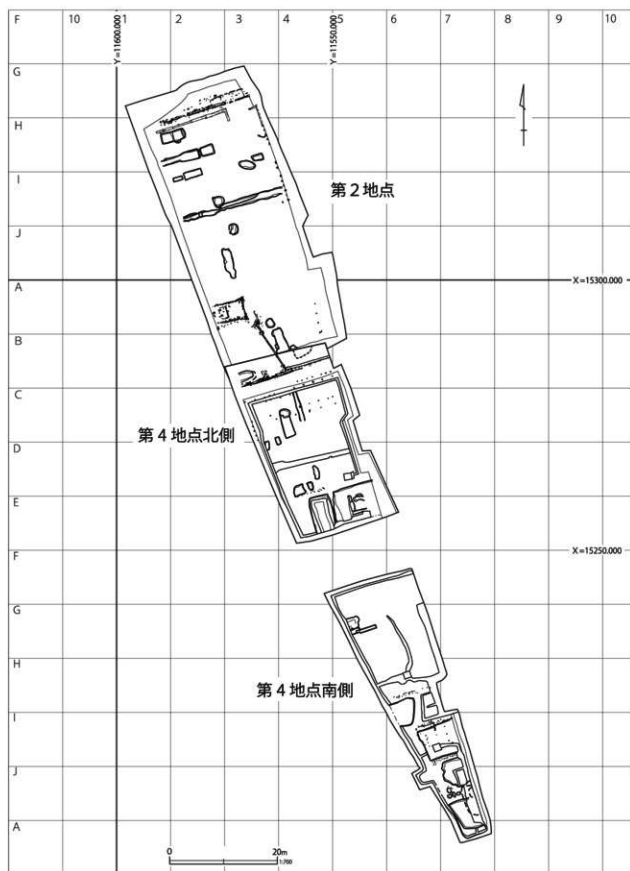
第4地点の9条の杭列は、それぞれ調査区を囲むように配置されている。区画された敷地の範囲を表していたと考えられる。

また、土壌が多数検出され、陶磁器や木製品、建築部材などが大量に廃棄されていた。小型の土壌は一度の廃棄で埋められたのに対し、大型の土壌には掘削と廃棄が繰り返されたものや、長く使

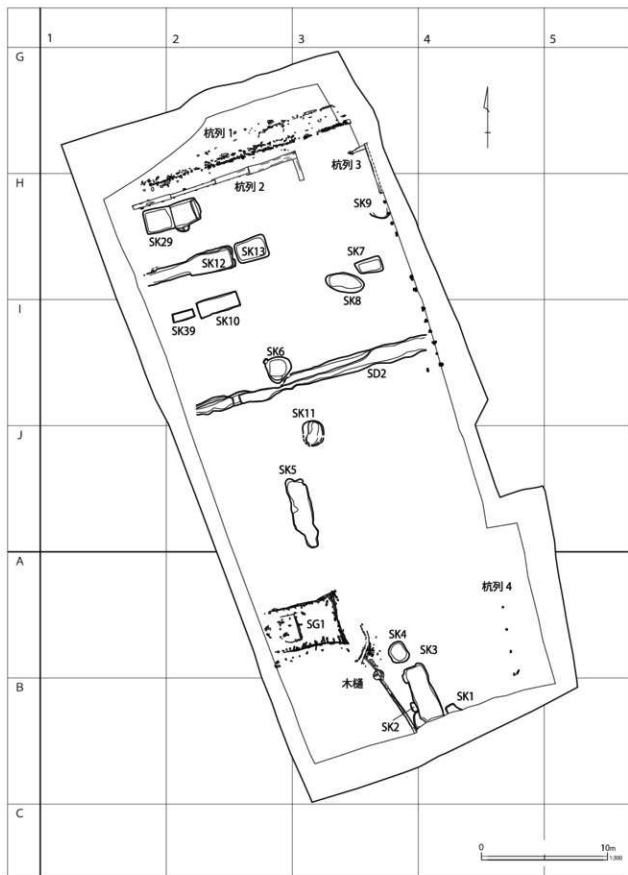


- | | | | | |
|-----------|----------|-------------|----------|---------|
| I 灰褐色土 | 堆積土+埋め土 | 底鉄まばら | 細砂質 | しまりやや強い |
| II 暗褐色土 | 堆積土+埋め土 | 底鉄少 | シルト質 | 砂が少量混じる |
| III 暗青灰色土 | 埋め土 | 炭化物(φ1～2cm) | シルトブロック少 | しまりやや強い |
| IV 暗青灰色土 | 埋め土 | 炭化物(φ1～2cm) | 少 | しまりやや強い |
| V 黒褐色土 | 埋め土 | 黒色土系の埋め土主体 | 炭化物較多 | しまりやや強い |
| VI 青灰色土 | シルト(自然露) | しまりやや弱い | 粘性強い | |

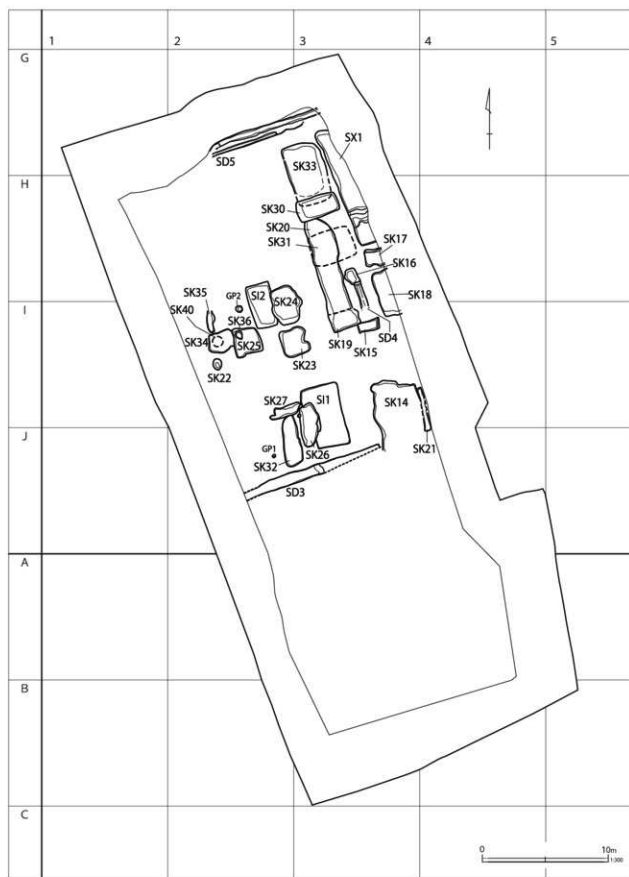
第5図 基本土層



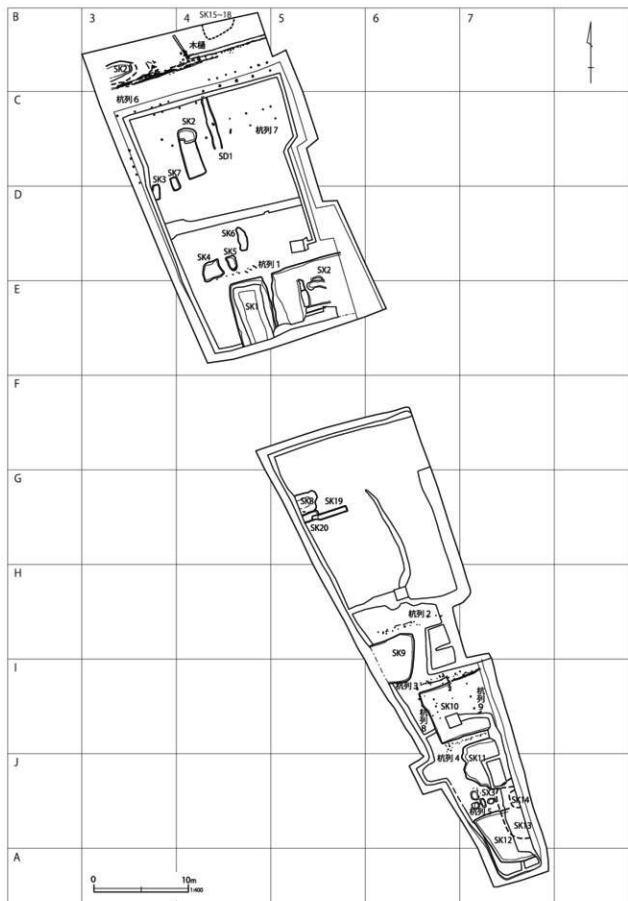
第7図 第2・4地点全体図（第一面）



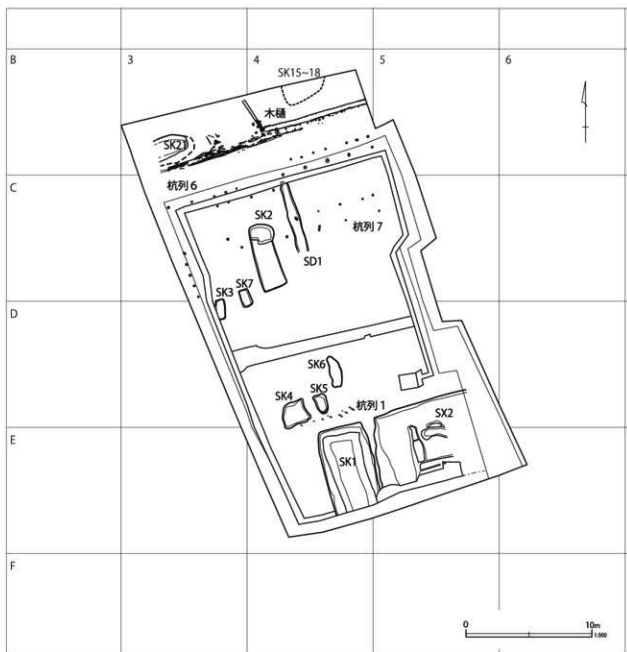
第8図 第2地点第一面全体図



第9図 第2地点第二面全体図



第10图 第4地点全体图



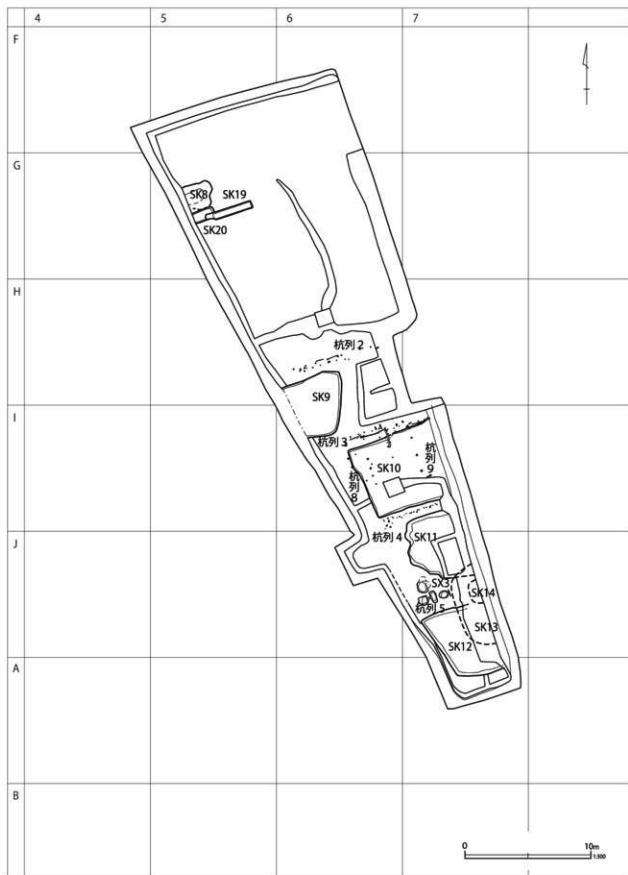
第11図 第4地点北側

えるように大きく掘り込んだものなどがある。

大型土壌の一つでは、鉄銚や銚などの鉄製品も見つかった。また、鉄滓や羽口など鍛冶作業に関わる遺物が出土した土壌もあることから、付近に鍛冶場があったと想定できる。

第2地点と第4地点の土壌や性格不明遺構、溝跡などからは、墨書された木札が多く出土した。栗橋の地名や人名、屋号が読み取れる木札もあり、当時の宿の生活を復元する上で重要な資料である。

また、第2地点の南端と第4地点の北端からは、用水に使われた木樋が検出された。第2地点調査区南西に位置する板囲いの第1号池跡につながっていたと思われる木樋が、第4地点に向かって南北に延びる。更にそれが第4地点の北端にある東西方向の木樋に接続する。木樋の廃絶後も直上に土管が、さらにその上部には塩ビ管が置かれ、水路としての機能は現代まで継続していた。



第12图 第4地点南侧

IV 遺構と遺物

1. 第2地点（第一面）

第2地点第一面では、杭列4条、木樋1条、池跡1基、溝跡1条、土壇15基を検出した。

（1）杭列

杭列を4条検出した。調査区の北側と東側を囲む様に配置され、南北に2条、東西に2条設置されている。1つの区画を杭列で表示している可能性がある。

第1号杭列（第13～15図）

G8-G2・3-H1・2グリッドに位置する。軸方位はN-70°-Eである。南側には第2号杭列が隣接する。杭列の長さは、17.50mである。径約8～14cmの杭を打ち、かなり密に設置される。基本は2列構成と考えられる。また、所々におよそ0.20～1.30mの板材が散乱しており、もともとは杭と組み合わせて使われていたと思われる。

調査区北側を東西に横断するため、敷地を画する地割と考えられるが、上端が平らに加工されていることから、建物の基礎として使用された木材の可能性もある。

第2号杭列（第13・15図）

G8-G2・3-H1・3グリッドに位置する。第1号杭列と隣接する。軸方位はN-70°-Eである。東側は、南に1.75m延びている。全体で鍵型であり、その先は第3号杭列に連続していた可能性がある。杭列の長さは、13.50mである。径約18～24cmの杭を打ち、長さ3.00～4.80mの板材を設置している。およそ0.30～1.50mの間隔で杭を打ち、その上に板材を載せる構造である。板材は柄を切って接合している。

第3号杭列（第13・21図）

G8-G3・H3・I4グリッドに位置する。すぐ東側は調査区域外となり、調査区の縁に沿って検出された。軸方位はN-20°-Wである。北

側はおよそ1.30m西側に伸びており、全体で鍵型に敷設されている。第2号杭列に連続していた可能性がある。確認できた杭列の長さは、18.35mで、第9号土壇と重複する。径約18～24cmの杭を南北に1列打ち込み、一部に長さおよそ4.10mの板材を設置している。杭は、およそ0.70～1.50m間隔で打ち込まれている。

第4号杭列（第13・21図）

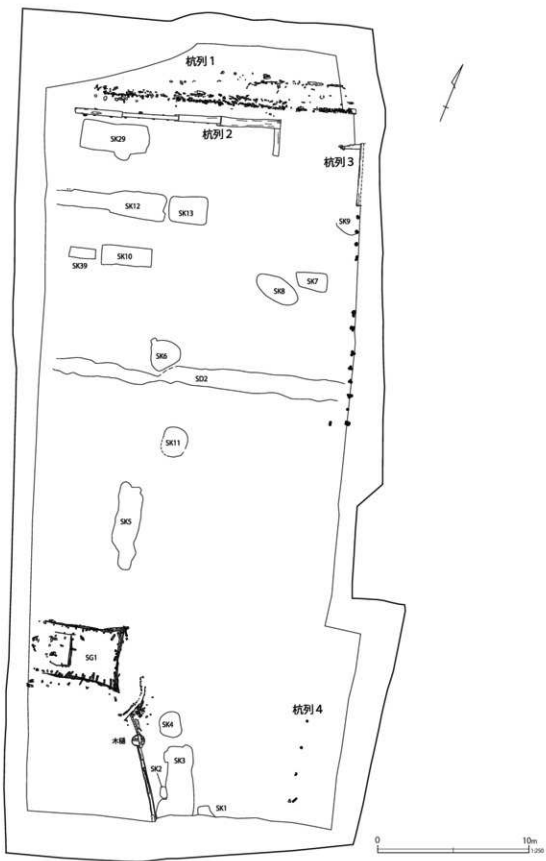
H8-A4グリッドに位置する。軸方位はN-10°-Wである。径約12cmの杭を1.80m間隔で4本打ち込む。調査区内の他の杭列と比べると距離が短く、確認できた杭列の長さは、5.40mである。他の杭列に比べて第4号杭列は離れた位置にあるが、北に伸ばすと第3号杭列の方向とはほぼ一致し、杭の間隔も約0.60～0.70mと近いので、本来はつながっていた可能性がある。

杭列出土遺物（第16～20図）

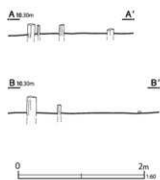
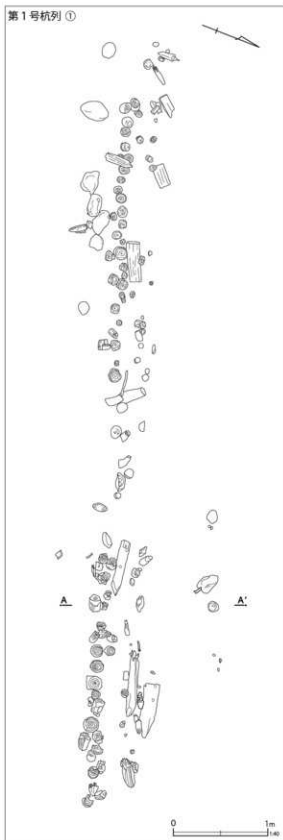
第16～20図は第1号杭列の周辺から出土した陶磁器・土器である。グリッド出土の資料と接合するものも見られ、遺構の下限の時期を示す遺物と考えられる。

第16図1～7は肥前系、瀬戸美濃系の磁器である。5は外面に酸化コバルトが施されている。8～11は瀬戸美濃系陶器である。11の片口鉢はやや大振り、灰釉が施されている。12は京都信楽系の葉茶壺である。民窯産の可能性もある。外面に粘土帯の接合痕が顕著に認められる。14は大塚祖馬系の土瓶である。下半に鐮状の突起が見られる。16は瓦質の脚付火鉢である。一部に波状文が認められる。遺物の様相から、第1号杭列は19世紀後半の築造と考えられる。

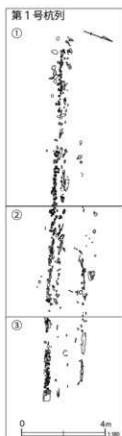
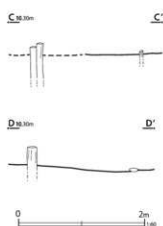
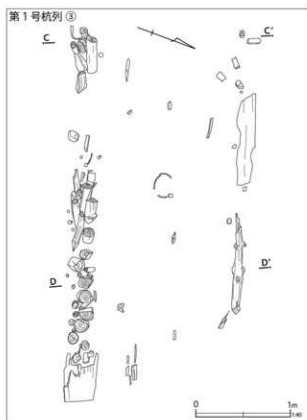
第17図1は瀬戸美濃系磁器の人形である。2は京都信楽系土製品のミニチュアである。双方とも二枚型の中空技法で作られている。



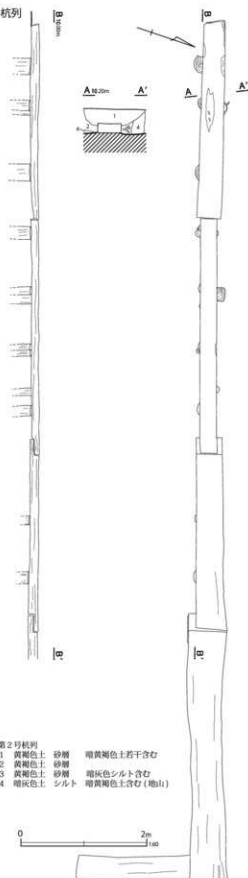
第13图 第2地点一面杭列分布图



第14図 第1号杭列 (1)



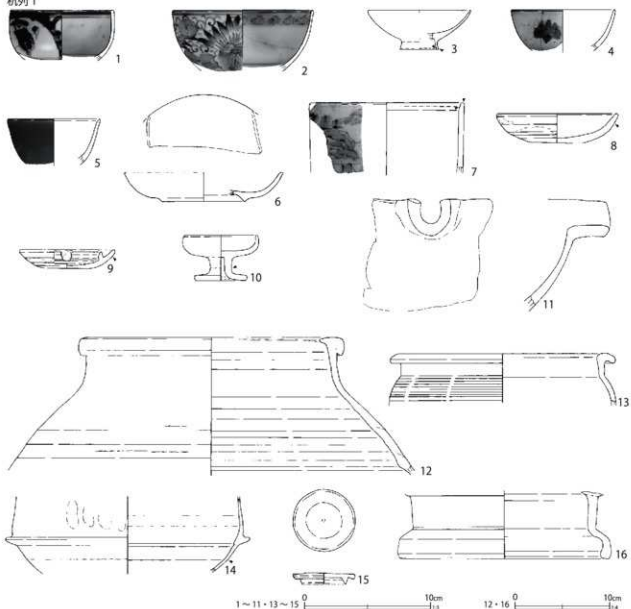
第2号杭列



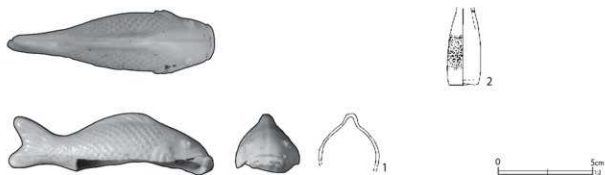
- 第2号杭列
- | | | |
|--------|-----|-------------|
| 1 黄褐色土 | 砂層 | 暗黄褐色土若干含む |
| 2 黄褐色土 | 砂層 | 暗灰色シルト含む |
| 3 黄褐色土 | 砂層 | |
| 4 暗灰色土 | シルト | 暗黄褐色土含む(地山) |

第15図 第1号杭列 (2)・第2号杭列

杭列 1



第16图 第1号杭列出土遺物 (1)



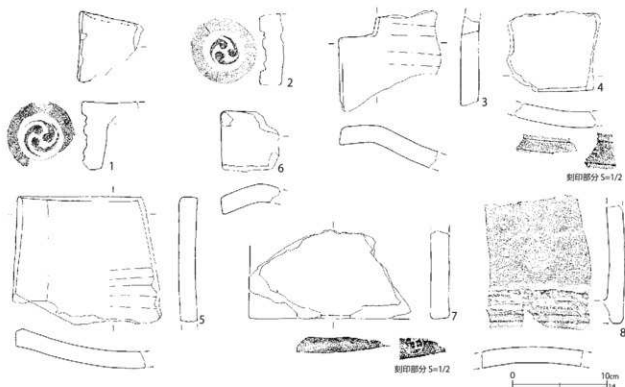
第17图 第1号杭列出土遺物 (2)

第2表 第1号坑列出土遺物觀察表(1)(第16图)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	国版
1	磁器	碗	(8.0)	[5.0]	—	K	30	良好	白	杭1	肥前系 施釉 染付 農大竹 G8-G2と接合	
2	磁器	碗	(11.0)	[4.8]	—	K	40	良好	白	杭1	肥前系 施釉 染付	
3	磁器	坏	(8.0)	3.1	(3.0)	IK	40	良好	白	杭1	瀬戸美濃系 施釉 G8-G2と接合	
4	磁器	碗	(8.0)	[3.2]	—	K	20	良好	白	杭1	Na8 肥前系 施釉 外面コンニャク印版染付	
5	磁器	坏	(7.2)	[3.6]	—	K	30	良好	白	杭1	瀬戸美濃系 外面酸化コバルト 口縁結輪	
6	磁器	皿	(12.4)	2.3	(6.6)	K	30	良好	白	杭1	瀬戸美濃系 施釉 内面銅板転写染付 口縁結輪	
7	磁器	蓋	(12.0)	[5.6]	—	K	10	普通	白	杭1	肥前系 施釉 染付 被熱 G8-H1と接合	
8	陶器	灯明皿	9.4	2.3	4.4	I	50	普通	褐灰	杭1	瀬戸美濃系 柿釉 内面直焼板 底部輪拭ふきとり	
9	陶器	油受皿	7.4	1.5	3.5	IK	100	普通	灰黄	杭1	瀬戸美濃系 柿釉 外面輪轆重焼板 底部輪ふきとり G8-G2と接合	19-1
10	陶器	仏飯器	5.6	3.6	(4.0)	IK	50	普通	灰白	杭1	瀬戸美濃系 灰釉 脚付 G8-G2と接合	19-2
11	陶器	片口鉢	—	[8.9]	—	K	15	普通	淡黄	杭1	瀬戸美濃系 灰釉	
12	陶器	葉茶壺	(25.9)	[14.5]	—	EHK	30	良好	淡黄緑	杭1	Na31~33・36 京都信楽系 内面柿輪 外面無釉	
13	陶器	茶壺	(22.0)	[5.5]	—	IK	10	普通	灰白	杭1	Na25 瀬戸美濃系 鉄釉	
14	陶器	土瓶	—	[6.1]	—	K	15	良好	灰白	杭1	Na3 大塚相馬系 外面灰釉 G8-G2と接合	
15	陶器	蓋	4.9	0.9	3.4	HIK	100	普通	灰黄	杭1	Na2 京都信楽系 外面灰釉 合子の蓋	19-3
16	瓦管土器	火鉢	(21.6)	[7.1]	—	CDIK	40	普通	黒	杭1	Na32 脚付火鉢 波文竹 脚部ミガキ	

第3表 第1号杭列出土遺物觀察表(2)(第17図)

番号	種別	器種	口径 幅	器高 長さ	底径 厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	人形	3.3	10.9	3.2	23.8	—	良好	白	杭1彩	瀬戸美濃系 二枚型 中空 内面布目肌	金 38-1
2	土製品	ミニチュア	—	[4.1]	1.5	10.0	H	普通	灰白	杭1彩	京都信楽系 徳利 二枚型 中空	



第18图 第1号坑列出土遺物(3)

第4表 第1号杭列出土遺物観察表(3)(第18図)

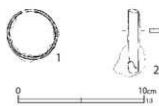
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒丸瓦	[6.7]	—	2.1	—	[7.3]	AIK	普通	灰黄	杭列1	連珠三ツ巴文右巻き い 巴が接している G8-H1と接合	40-1
2	瓦	軒棧瓦	—	—	1.9	—	6.1	AIK	普通	灰	杭列1	連珠三ツ巴文右巻き い 各々離れている 光沢あり 変色している	40-1
3	瓦	棧瓦	[8.0]	[10.7]	1.9	—	—	AJK	普通	灰	杭列1	荒れている G8-H1と接合	39-2
4	瓦	平瓦	[8.4]	[9.8]	1.6	—	—	AIK	普通	にぶい黄	杭列1	刻印 表面光沢あり 裏面荒れている G8-G2と接合	
5	瓦	平瓦	[13.5]	[15.4]	1.8	—	—	K	普通	暗灰	杭列1	裏面砂目荒れている G8-H1と接合	
6	瓦	平瓦	[6.2]	[6.1]	1.8	—	—	AC	普通	にぶい黄橙	杭列1	G8-H1と接合	
7	瓦	平瓦	[9.4]	[17.1]	2.2	—	—	AIK	普通	にぶい黄橙	杭列1	Na.11 刻印 (㊦)	39-2
8	瓦	道具瓦	[12.4]	[10.8]	1.7	—	—	AJK	普通	灰	杭列1	伏間瓦 表裏面とも荒れている G8-H1と接合	

第18図は瓦である。1は軒丸瓦である。2は軒棧瓦である。3は棧瓦である。4～7は平瓦である。8は道具瓦である。3～5・8は面が荒れている。7は「丸に庄」の刻印が見られる。

第19図は鉄製品である。1は輪金具である。2は長さ5cmの小型の製品で、器種は特定できなかった。

第20図は石製品である。1・2は火打石である。1は玉髓製の剥片で未使用である。2は石英製のわずかに使用の痕跡が認められる。3・4は

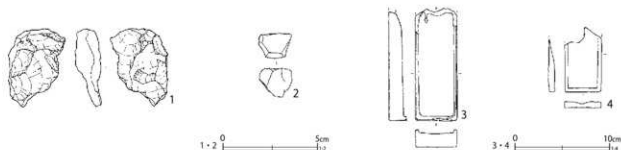
硯である。3は凝灰岩製、4は粘板岩製である。いずれも幅が狭い小型品である。



第19図 第1号杭列出土遺物(4)

第5表 第1号杭列出土遺物観察表(4)(第19図)

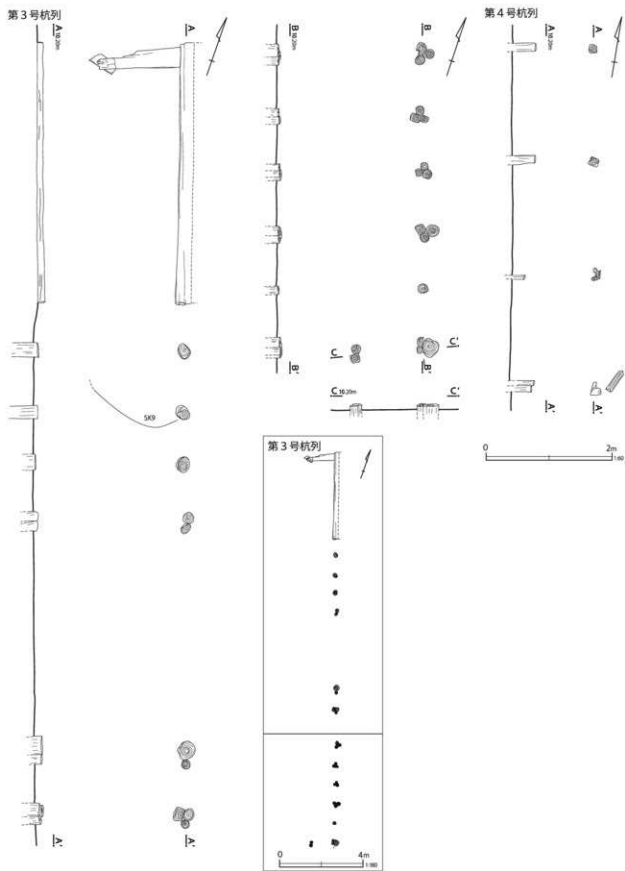
番号	種別	器種	法量	遺構名	備考	図版
1	鉄製品	輪金具	径3.9×4.0 厚さ0.2 重さ3.1	杭列1		
2	鉄製品	不明品	長さ5.0 幅0.8 厚さ0.3 重さ15.2	杭列1		



第20図 第1号杭列出土遺物(5)

第6表 第1号杭列出土遺物観察表(5)(第20図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	火打石	4.1	3.1	1.4	14.6	玉髓	杭列1	剥片 未使用	47-2
2	石製品	火打石	1.1	1.7	1.3	3.9	石英	杭列1	側縁わずかに使用か	47-2
3	石製品	硯	(11.9)	4.4	1.8	141.1	凝灰岩	杭列1	Na.29	
4	石製品	硯	(6.8)	3.9	0.7	29.3	粘板岩	杭列1		



(2) 木樋 (第23図)

木樋は、第2地点と第4地点の境界部分のH8-A3・B3～4グリッドに位置する。軸方位はN-35°-Wの方向で設置されている。第2地点で確認できた規模は、全体で長さ7.10m、幅0.20～0.25mである。北側の短い樋1.20mと南側の長い樋5.10mの間には、樋のように丸く板材を組んだ部分が見出された。樋と仮定すると、樋で水位を調整し、水流の方向転換を自在に行うことが可能だったと思われる。

樋の部分は0.30～2.80mの板材を複数組み合わせで設置されており、底板を持つ。樋の深さは10.2cmである。第2地点の南側に続く第4地点北側に、この木樋の続きが確認されている。木樋は全体でおよそ10.10mになる。

木樋の北側には、径約4～6cmの細い杭列が見出された。杭は2列に打たれ、北東に約1.60m行ってから北西に約1.20mの長さで曲がっている。列の幅は約28cmである。杭は0.80～1.20m間隔で密に打たれ、所々に0.40～0.80mの板材が設置されている。近くには板材が散乱し、もともとは杭と一緒に使われていた可能性がある。この部分も木樋として利用されていたとも考えられる。杭列のやや北西に第1号池跡があり、杭列の

木樋によって水の流路を曲げて第1号池跡と接続していた可能性がある。

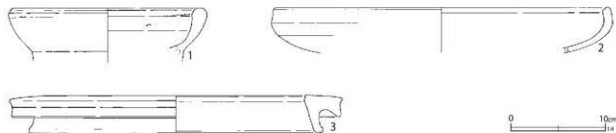
一方、木樋の南側は、第4地点北側の東西方向に走る木樋に接続されている。木樋の底板は北の方が高く、北と南で30cmほどの差がある。勾配角度はおおよそ5度である。この木樋は池の水を利用し、それを南側の第4地点の木樋につなげて利用するための施設と考えられる。池の水をどのように貯めたのかは不明であるが、この木樋は北から南への水路として利用された可能性がある。

木樋周辺の覆土は、砂質土または砂層である(第23図)。木樋の中の覆土は、灰褐色土の砂層と暗灰色土の砂層である。黒褐色土の粘質土も見出されたが、樋の内部の上層であり、木樋の蓋だった可能性がある。

木樋に伴って土器が若干量出土した。木樋の構築過程で混入したものと考えられ、構築の上限を示すと考えられる。

木樋出土遺物を第22図に示した。

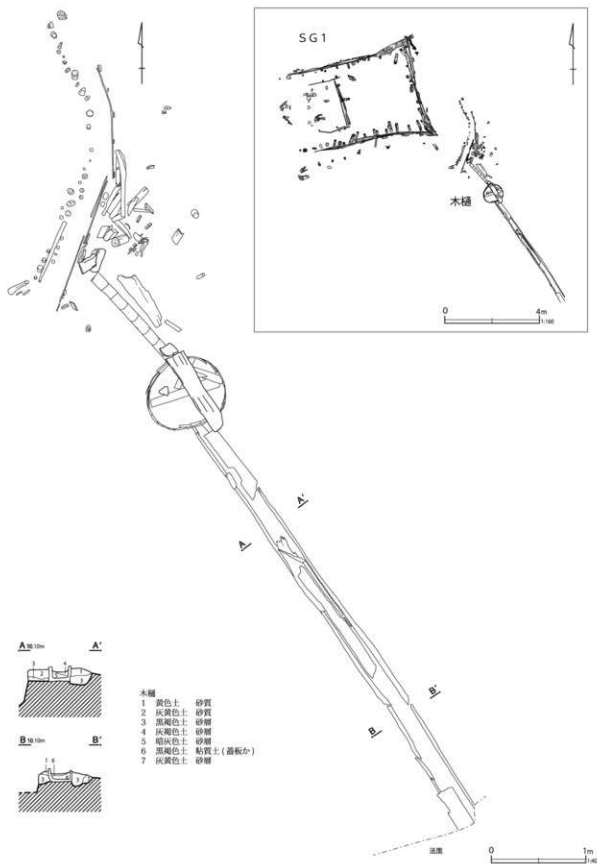
1は瓦質土器の土管である。やや酸化炎焼成されている。2は浅黄橙色を呈する焙烙で、土師質である。3は竜の掛口の鏝である。直立する広い端面を持つ。全体に被熱しており、厚く煤が付着する。



第22図 木樋出土遺物

第7表 木樋出土遺物観察表 (第22図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦質土器	土管	(21.0)	[5.7]	—	CGH	80	普通	橙	木樋一括	やや酸化炎焼成	
2	土師質土器	焙烙	(35.0)	[4.8]	—	HK	10	普通	浅黄橙	木樋	木樋周辺一括 丸底 底部シワ状痕	
3	瓦質土器	竜掛	(27.4)	3.9	(30.8)	K	20	普通	灰白	木樋	木樋周辺一括 煤付着	



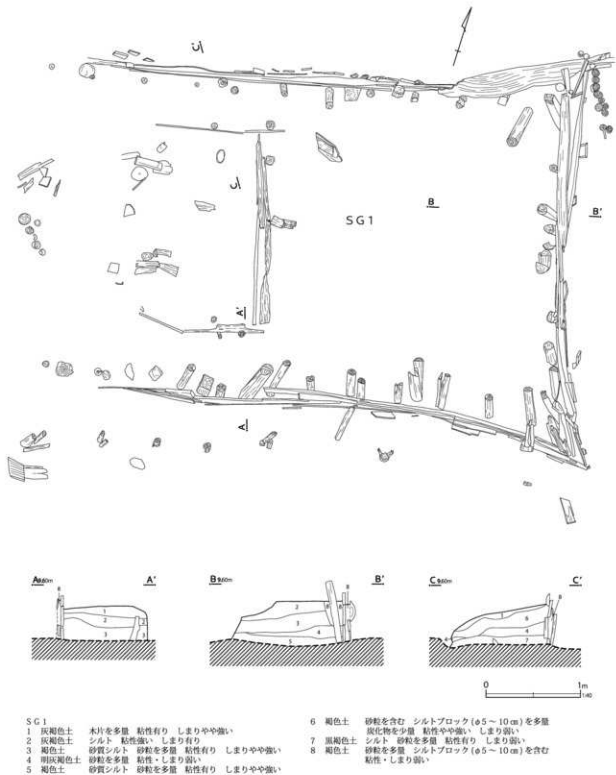
第23図 木樋

(3) 池跡

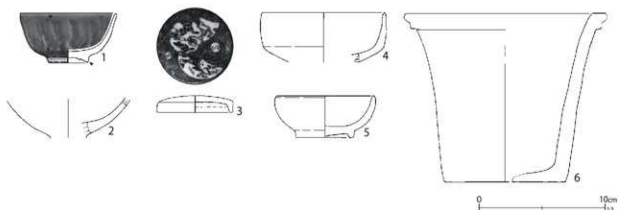
第1号池跡 (第24図)

H8-A2・3グリッドに位置する。長軸方向

はN-15°-Wである。長手の板材が巡る構造で、外側の板材を内側から杭で固定している。西側は調査区域外にかかるため全体の規模は不明だ



第24図 池跡



第25図 池跡出土遺物（1）

第8表 池跡出土遺物観察表（1）（第25図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	坏	7.5	3.9	2.9	K	95	良好	灰緑	SG1	瀬戸美濃系 煤付着 クロム軸青磁 外面緑	19-4
2	磁器	碗	(9.6)	[3.2]	—	K	20	普通	灰白	SG1	瀬戸美濃系 平碗 施軸 銅版転写染付	19-4
3	磁器	蓋	6.0	1.3	—	K	90	普通	灰白	SG1	瀬戸美濃系 合子の蓋 施軸 外面銅版転写染付	19-5
4	陶器	碗	(9.6)	[3.9]	—	K	30	普通	灰白	SG1	瀬戸美濃系 灰軸	19-6
5	陶器	坏	7.6	3.3	4.6	K	80	普通	灰白	SG1	瀬戸美濃系 灰軸 被熱	19-6
6	瓦質土器	植木鉢	15.8	13.3	9.6	HK	60	普通	にぶい黄	SG1		

が、南北方向3.50m、東西方向5.00mの長方形になっている。

すぐ南西に木樋が設置されており、木樋と合わせて水利施設としての役割を担っていた可能性がある。

覆土は、第6層と第8層については大型のシルトブロックを含み、人為的な埋め戻しの可能性がある。第1・2・4・7層については、シルトや砂を中心とした灰褐色土、褐色土、明灰褐色土、黒褐色土である。

内側の杭は径8～12cmである。およそ0.40m間隔でかなり密に設置されている。外側の板材の長さはおよそ0.40～1.00mである。また、池跡の中にはもう一つ板材を杭で固定した囲いが見つかり、入れ子状の構造になっていた。西側に板材は見られないが、杭が確認されるため、本来は閉じた長方形だったのかもしれない。確認できた規模は南北2.10mで、東西1.40mである。約0.50

mの板材を、径約4～8cmの杭で固定している。

板材と出土遺物は、細片が多く図示できたものは極僅かに留まる。

第25図1はクロム軸が施された瀬戸美濃系磁器坏である。高台は削り出しである。2は瀬戸美濃系の平碗である。銅版転写染付が施されている。3は瀬戸美濃系磁器で合子の蓋である。4と5は瀬戸美濃系陶器である。4は碗、5は高台の径が大きな坏である。双方とも灰軸が施されている。6は瓦質土器の植木鉢である。

第26図1は漆碗である。外面黒漆、内面赤漆で、外面には赤漆で鱗状に削り模様が施されている。



第26図 池跡出土遺物（2）

第9表 池跡出土遺物観察表（2）（第26図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	遺構	備考	図版
1	木製品	漆碗	—	—	—	[3.1]	—	—	SG1	外面黒漆 凹凸模様 内面赤漆	

(4) 溝跡

第2地点第一面では、溝跡が1条検出された。

第2号溝跡(第27・28図)

G8-I2~4グリッドに位置する。調査区を東西に横断し、栗橋宿の中央を南北に貫く日光街道に直交している。調査区外の東西に延びており、検出された長さは約20.0mにとどまる。断面形は、部位ごとに異なり、皿形や逆台形、鍋底形になっていた。底面はほぼ平坦の箇所が多く、部分によって中央が高く、南北が低くなり、または南側が高く、北側が低くなっていた。深さについても部分ごと違いがある。幅は約0.90~1.50m、深さが約0.10~0.30mである。覆土は黄褐色土を含む灰褐色土、黒褐色土、黄褐色土、灰黄褐色土、橙色土を含む灰色土である。

第2号溝跡の中央では一旦溝幅が細くなるが、すぐに元の幅に戻る。通常の溝跡に相当するような構造ではない。中央と東側の北壁は横長の板材で護岸されており、板材を固定するための杭も確認された。杭の径は約4.5~12cmであり、板材の長さはおおよそ0.80mである。杭列はおおよそ0.20~0.30m間隔でかなり密に設置されている。板材は水路のように二列に平行に配置されているわけではなく、一列である。板材の北側には、溝に沿うような形で瓦を主体に陶磁器片などが大量に充填されていた。これらのことから、第2号溝跡の性格は板と杭による構造物の掘り方であり、屋敷地を画するための地割施設であると考えられる。一方、溝の西側は径約3~6cmの杭がまばらに検出されるものの、板材や瓦、陶磁器片を充填した掘り方は検出されなかった。構造が部分的に異なっていたと考えられる。

第2号溝跡出土遺物は、いずれも板材を杭で留めた溝跡の北側に、裏込め状に大量に入れられた陶磁器、瓦、鉄製品、銭貨、石製品である。陶磁器は破片で、瓦は一辺10cm前後に分割されており、使用前に大きさを揃えて分割したと考えられ

る。

第29~38図は陶磁器と土器である。1~20は磁器である。1~3は瀬戸美濃系磁器の染付湯呑碗である。2と3は揃いである。5は肥前系、6・7は瀬戸美濃系の端反碗である。10・11は肥前系の大振りの皿である。やや古相と考えられる。13は小破片だが、中国磁器の皿である。染付の龍文が施されている。15・16は肥前系の御神酒徳利、17は瀬戸美濃系の瓶で外面全面に酸化コバルト釉が施されている。20は所謂三田青磁の盃洗である。口縁は押捺が施されており、輪花状である。型押しで、全体に青磁釉が施されている。

21~103は陶器である。瀬戸美濃系、京都信楽系が多く、鍋、土瓶の多くは産地不明の所謂民窯産である。全体に鍋、土瓶が多いのが特徴である。22~27は碗、坏類である。22は鉄釉と灰釉の所謂かけ分けせんじである。23と24は瀬戸美濃系の染付丸碗である。揃いと考えられる。

28~47は皿類である。28は馬の目皿である。29~33は瀬戸美濃系の灯明皿、34~37は油受皿で、柿釉が施されている。38~44は京都信楽系の灯明皿、46・47は脚付の油受皿で、灰釉が施されている。45は志戸呂系の大振りで厚手の油受皿である。

48~61は鉢類である。48は肥前系の三島手の鉢である。49~53は播鉢である。49・50は瀬戸美濃系、51は丹波系、52・53は堺明石系である。54~61は片口鉢、こね鉢である。54は肥前系、55~61は瀬戸美濃系である。いずれも灰釉が施されている。

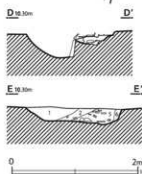
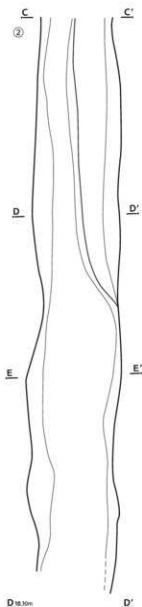
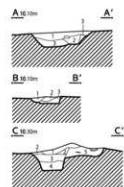
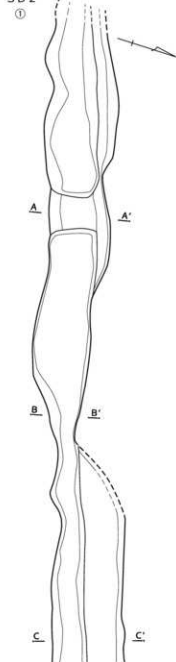
62は瀬戸美濃系の瓶掛である。三脚で、鉄釉、外面に銅緑釉が施されている。

65は京都信楽系の爛徳利で、灰釉に鉄絵が施されている。

67~74は鍋、両手鍋、行平鍋である。産地不明で、鉄釉や柿釉が施されている。

80は京都信楽系の水注である。灰釉が施され

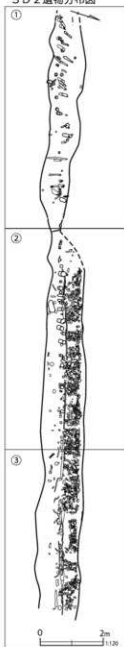
SD 2



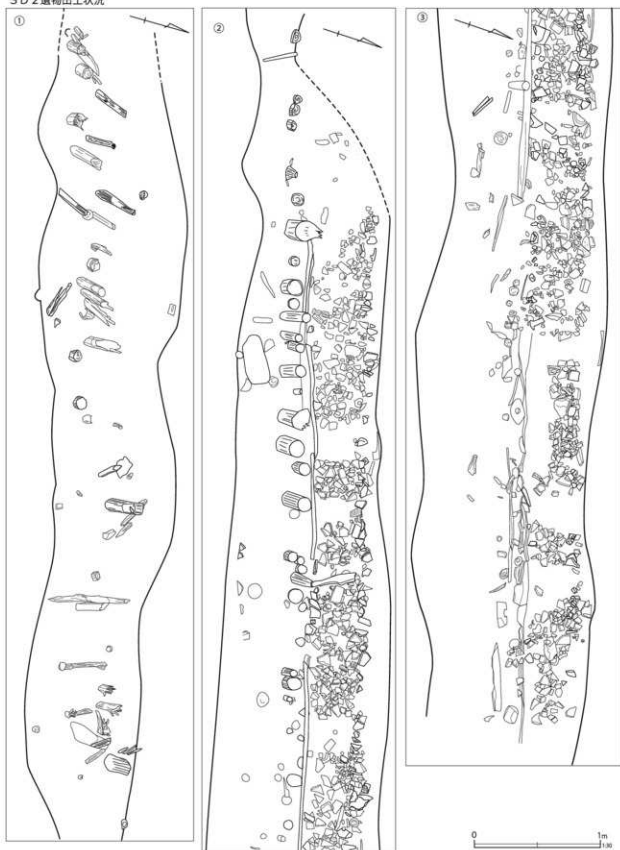
SD 2

- | | | | |
|---|-------|-----|--------------------|
| 1 | 灰褐色土 | シルト | 灰褐色砂・黄褐色土ブロック含む |
| 2 | 黒褐色土 | | |
| 3 | 黄褐色土 | シルト | 灰黄褐色砂ブロック含む |
| 4 | 灰褐色土 | シルト | 黄褐色土・砂質土含む 炭化物若干含む |
| 5 | 暗褐色土 | シルト | |
| 6 | 灰黄褐色土 | 砂層 | |
| | 灰色土 | | 褐色土多量 |

SD 2 遺物分布図

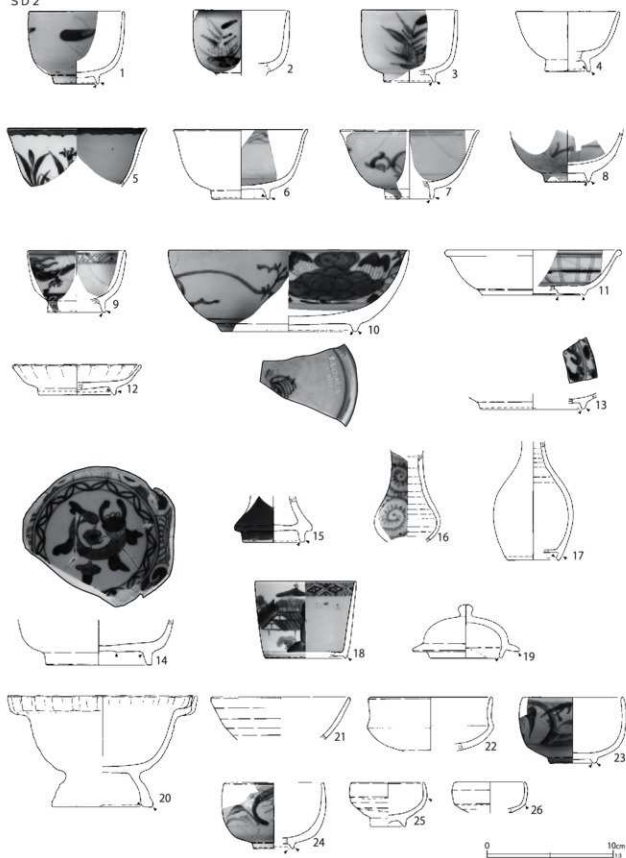


第27図 第2号溝跡(1)

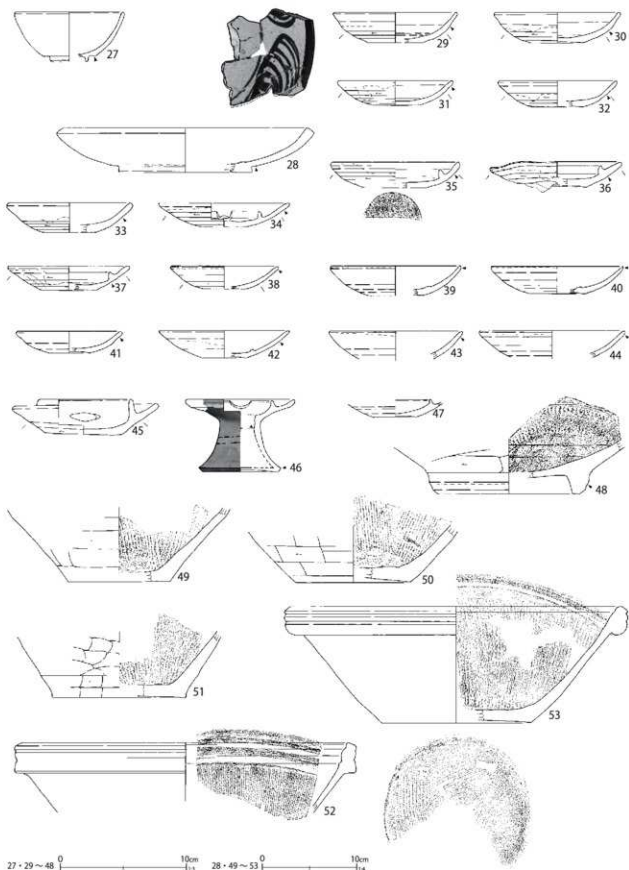


第28図 第2号溝跡(2)

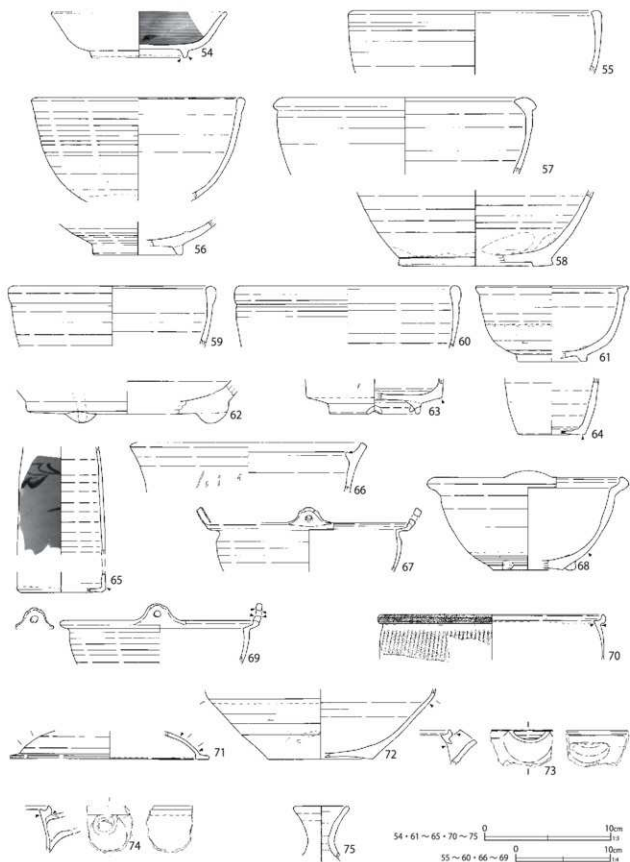
SD2



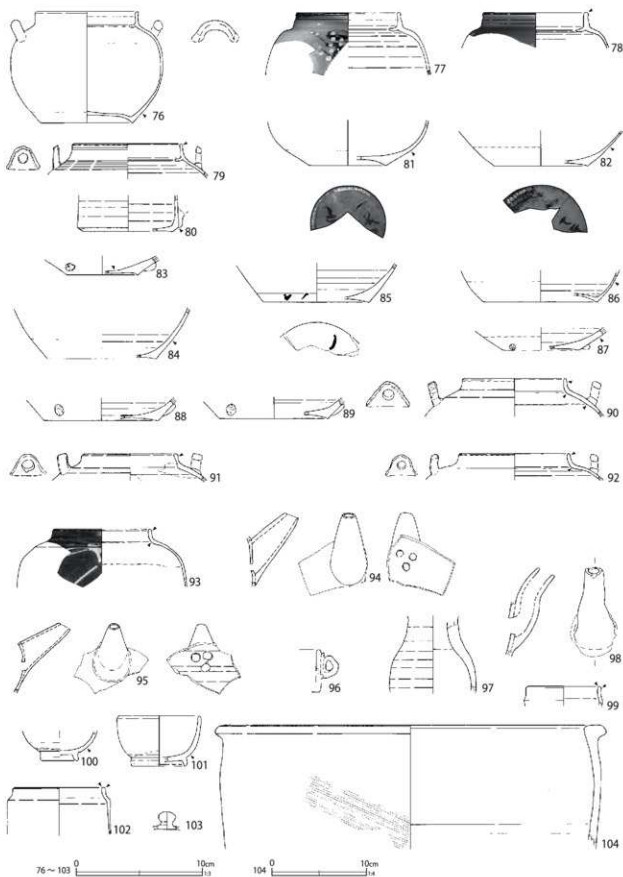
第29図 第2号溝跡出土遺物(1)



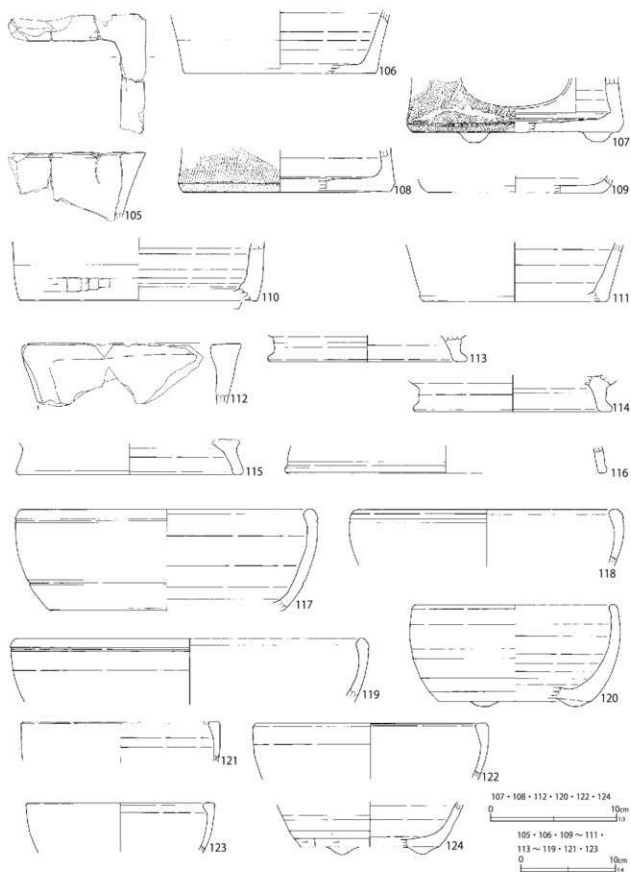
第30図 第2号溝跡出土遺物（2）



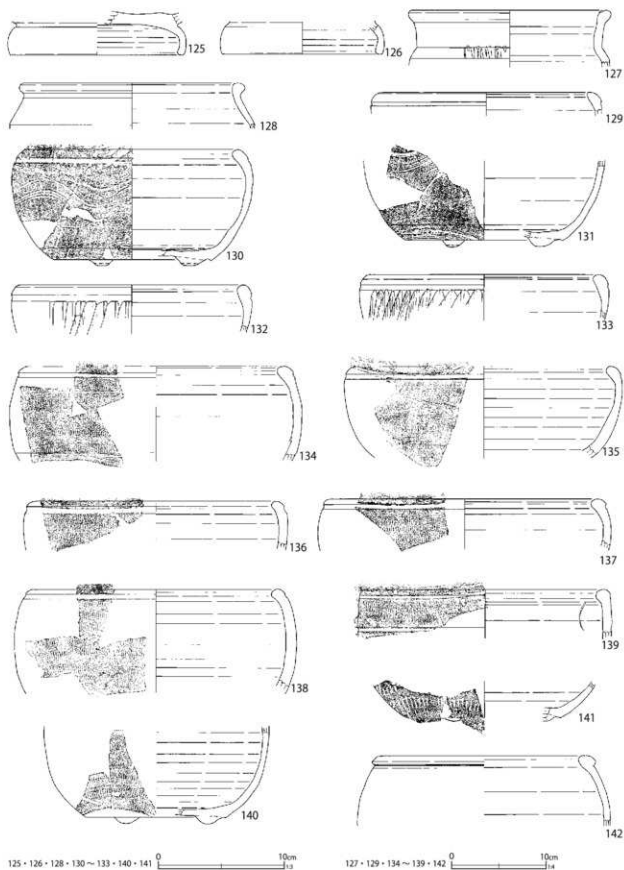
第31図 第2号溝跡出土遺物(3)



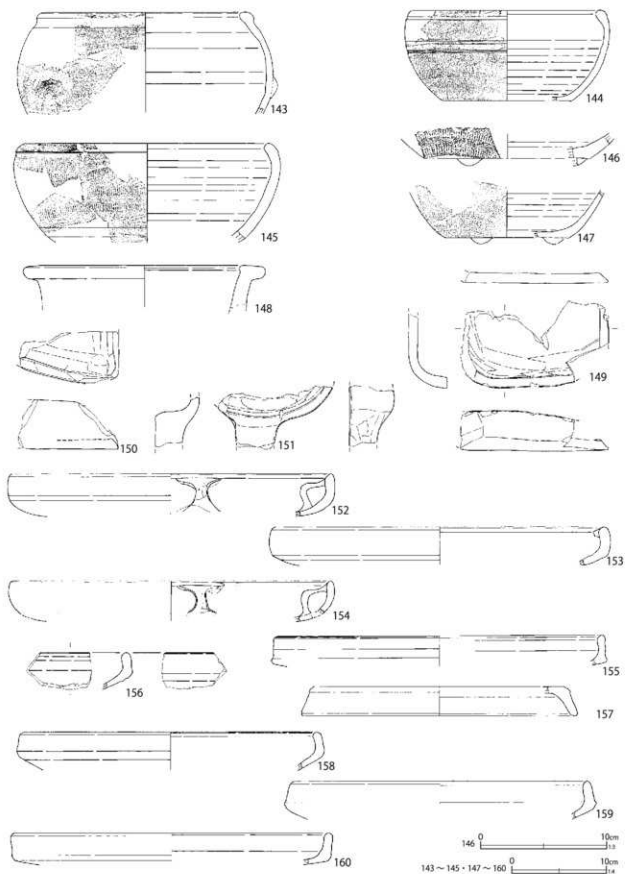
第32図 第2号溝跡出土遺物(4)



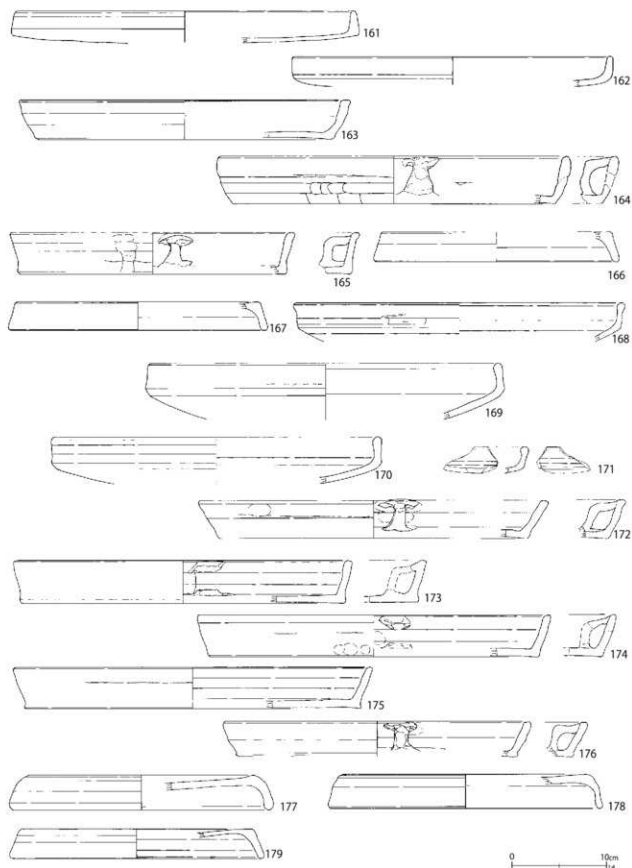
第33図 第2号溝跡出土遺物(5)



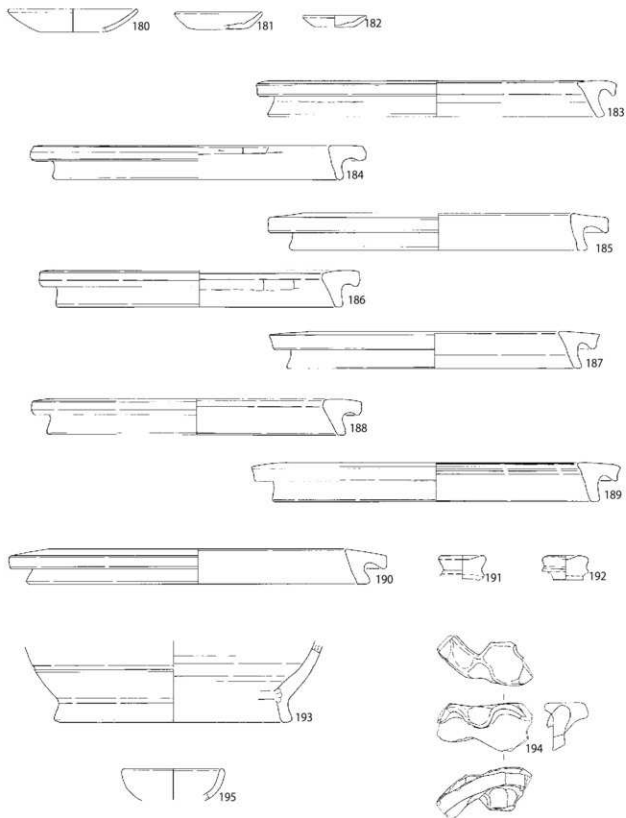
第34図 第2号溝跡出土遺物（6）



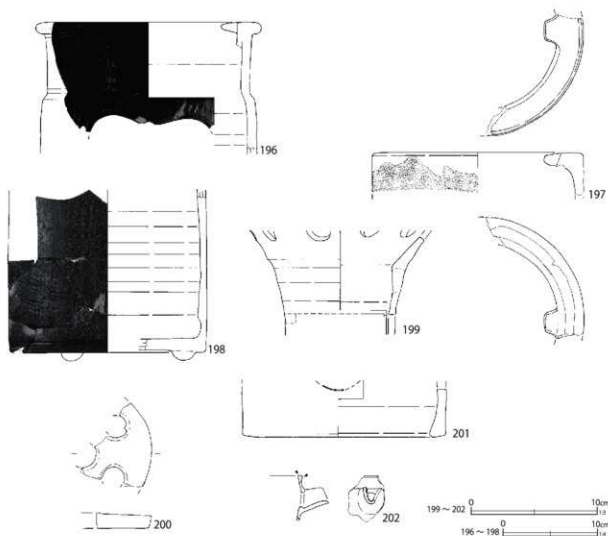
第35図 第2号溝跡出土遺物（7）



第36図 第2号溝跡出土遺物（8）



第37图 第2号沟跡出土遺物（9）



第38図 第2号溝跡出土遺物 (10)

第10表 第2号溝跡出土遺物観察表 (1) (第29~38図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	7.4	5.7	3.5	K	80	良好	灰白	SD2	瀬戸美濃系 施軸 染付「雲」か 下半貫入	
2	磁器	碗	(7.4)	[5.2]	—	K	25	良好	灰白	SD2	瀬戸美濃系 施軸 染付 草花文 3と揃い	
3	磁器	碗	(7.4)	5.7	(4.0)	K	60	良好	灰白	SD2	瀬戸美濃系 施軸 染付 草花文 2と揃い	
4	磁器	碗	(8.2)	4.8	(3.4)	K	45	良好	明緑灰	SD2	肥前系 施軸 染付 小碗	
5	磁器	碗	(10.9)	[4.6]	—	K	20	良好	灰白	SD2	肥前系 施軸 染付 草花文 (昌隆か)	
6	磁器	碗	(10.6)	5.5	(4.6)	K	40	良好	明青灰	SD2	瀬戸美濃系 施軸 染付 草花文 内面 線・四方櫛 見込み境線に「多」か 高台二 重圈線	
7	磁器	碗	(10.8)	5.5	(3.8)	K	20	良好	灰白	SD2	瀬戸美濃系 施軸 染付 高台二重圈線 内面圈線	
8	磁器	碗	—	[4.1]	(3.6)	K	70	良好	灰白	SD2	肥前系 施軸 染付 草花文 畳付無軸 圈 線なし	
9	磁器	碗	(7.7)	4.9	(4.6)	K	30	良好	灰白	SD2	瀬戸美濃系 施軸 染付 小型内外面給付 口縁圈線 外面龍文 内面四方櫛文 高台櫛 歯文	
10	磁器	皿	(18.8)	6.4	(10.4)	K	30	良好	明緑灰	SD2	肥前系 施軸 染付	
11	磁器	皿	(13.6)	3.6	(8.3)	K	20	良好	明緑灰	SD2	肥前系 施軸 染付 格子 草花 口縁玉縁 蛇の目回形高台	
12	磁器	皿	(10.0)	2.4	(6.0)	K	45	良好	灰白	SD2	肥前系 輪花皿 施軸 内面染付 口縁鉄軸 桜蘭山水文	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
13	磁器	皿	—	[1.3]	(8.0)	K	5	良好	明青灰	SD2	中国 施軸 染付 内面龍文 高台圓縁	19-7
14	磁器	鉢	—	[3.6]	8.4	K	80	良好	明青灰	SD2	肥前系 八角鉢 施軸 染付 蛇の目圓形高台 高台内輪状重ね焼痕 圓縁二重	
15	磁器	德利	—	[3.7]	2.8	K	75	良好	灰白	SD2	肥前系 御神酒德利 外面施軸 染付	
16	磁器	德利	—	[7.3]	—	K	50	良好	灰白	SD2	肥前系 御神酒德利 外面施軸 染付 外面絵付け 蛸唐草	
17	磁器	瓶	—	[9.4]	(4.0)	K	75	良好	灰白	SD2	瀬戸美濃系 御神酒德利 外面酸化コバルト軸	19-8
18	磁器	猪口	(7.8)	5.1	(6.3)	K	30	良好	明緑灰	SD2	肥前系 施軸 染付 蛇の目圓形高台	
19	磁器	蓋	つまみ 1.1	4.2	(8.4)	K	25	良好	灰白	SD2	瀬戸美濃系 施軸 蓋・雙類の蓋	
20	磁器	盃洗	(15.0)	8.8	7.7	K	45	良好	オリーブ灰	SD2	輪花 青磁軸 型成形 隔刺 三田青磁	
21	陶器	碗	(10.8)	[3.4]	—	K	10	良好	灰白	SD2	京都信楽系 灰軸 小碗	
22	陶器	碗	(9.6)	[4.3]	—	HK	25	良好	黄灰	SD2	瀬戸美濃系 灰軸・鉄軸 貫入多	
23	陶器	碗	(7.8)	5.2	3.5	K	35	良好	灰白	SD2	瀬戸美濃系 太白手 施軸 染付 24と揃い	
24	陶器	碗	(7.6)	5.2	(3.0)	HK	70	良好	灰白	SD2	瀬戸美濃系 太白手 施軸 染付 23と揃い	
25	陶器	杯	(5.6)	3.5	2.7	HK	55	良好	灰白	SD2	京都信楽系 灰軸	
26	陶器	杯	(5.4)	[2.4]	—	K	25	良好	灰白	SD2	京都信楽系 灰軸	
27	陶器	碗	(8.6)	3.9	(3.0)	HK	30	良好	灰白	SD2	京都信楽系 灰軸 被熱	
28	陶器	皿	(25.6)	4.7	(14.0)	HK	20	良好	灰白	SD2	瀬戸美濃系 馬の目皿 長石軸 内面磨軸 鉄絵	
29	陶器	灯明皿	(9.6)	2.4	(4.4)	EIK	25	良好	灰白	SD2	瀬戸美濃系 鉄軸 底部軸ふきとり	19-9
30	陶器	灯明皿	9.8	2.4	4.1	HK	60	良好	灰白	SD2	瀬戸美濃系 鉄軸 底部軸ふきとり	
31	陶器	灯明皿	8.9	2.0	3.8	HK	50	良好	灰白	SD2	瀬戸美濃系 柿軸 底部軸ふきとり 内面重ね焼痕	
32	陶器	灯明皿	(9.2)	2.1	(4.0)	EK	25	良好	灰	SD2	瀬戸美濃系 柿軸 重ね焼痕	
33	陶器	灯明皿	(9.6)	2.4	(4.0)	EIK	10	良好	灰	SD2	瀬戸美濃系 柿軸 底部軸ふきとり	20-1
34	陶器	油受皿	(10.2)	1.9	3.4	HK	30	良好	灰白	SD2	瀬戸美濃系 柿軸 底部軸ふきとり	
35	陶器	油受皿	(9.9)	2.0	(5.0)	AEK	45	良好	灰白	SD2	瀬戸美濃系 柿軸 外面輪状重ね焼痕 底部軸ふきとり	
36	陶器	油受皿	(10.2)	2.0	(4.5)	HK	40	良好	黄灰	SD2	瀬戸美濃系 柿軸 内外面重ね焼痕	
37	陶器	油受皿	(9.4)	1.9	(4.2)	EK	30	良好	灰黄	SD2	瀬戸美濃系 柿軸 底部軸ふきとり	20-2
38	陶器	灯明皿	(8.4)	1.8	(3.2)	HK	30	良好	灰白	SD2	京都信楽系 灰軸	
39	陶器	灯明皿	(10.2)	2.4	(4.2)	HK	20	良好	灰白	SD2	京都信楽系 灰軸 見込みビン痕1箇所 残存 磁質	
40	陶器	灯明皿	(10.4)	2.2	(4.2)	HK	25	良好	灰白	SD2	京都信楽系 灰軸 見込みビン痕1箇所残存	
41	陶器	灯明皿	(8.2)	1.7	(3.2)	HK	25	良好	灰白	SD2	京都信楽系 灰軸 磁質	20-2
42	陶器	灯明皿	(10.2)	2.2	(3.4)	HK	20	良好	灰白	SD2	京都信楽系 灰軸 見込みビン痕1箇所残存 磁質	
43	陶器	灯明皿	(10.4)	[2.2]	—	HK	10	良好	灰白	SD2	京都信楽系 灰軸 墨書か 磁質	
44	陶器	灯明皿	(11.4)	[2.1]	—	HK	10	良好	淡赤橙	SD2	京都信楽系 灰軸	
45	陶器	油受皿	11.2	2.8	5.2	I	90	良好	にぶい橙	SD2	志戸呂系 磨軸 油痕 被熱	20-2
46	陶器	油受皿	(8.4)	6.8	5.9	HK	75	良好	灰白	SD2	京都信楽系 灰軸	
47	陶器	油受皿	—	[1.4]	3.3	K	50	良好	灰白	SD2	京都信楽系 内面灰軸 磁質	
48	陶器	鉢	—	[4.3]	(11.2)	HK	35	良好	赤褐	SD2	肥前系 三島手鉢 磨軸 白土象嵌 器面赤褐色	
49	陶器	播鉢	—	[7.9]	(10.8)	EIK	15	良好	にぶい黄橙	SD2	瀬戸美濃系 鉄軸 播目6条1単位	20-2
50	陶器	播鉢	—	[6.0]	(12.0)	EIKL	35	良好	灰白	SD2	瀬戸美濃系 鉄軸 播目16条1単位	
51	陶器	播鉢	—	[7.0]	(14.2)	EHLK	20	良好	にぶい赤褐	SD2	丹波系 播目8条1単位 焼締	
52	陶器	播鉢	(34.4)	[7.4]	—	EIK	10	良好	灰赤	SD2	堺明石系 播目10条1単位 焼締	
53	陶器	播鉢	(35.0)	12.3	(15.7)	I	45	普通	にぶい赤褐	SD2	堺明石系 播目10条1単位 砂目底	20-2
54	陶器	片口鉢	(13.5)	3.6	(7.4)	HK	40	良好	灰白	SD2	肥前系 灰軸 内外面刷毛目	
55	陶器	片口鉢	(19.5)	[5.0]	—	K	10	良好	灰白	SD2	瀬戸美濃系 灰軸	
56	陶器	片口鉢	(21.4)	[14.4]	(7.0)	HK	50	良好	灰白	SD2	瀬戸美濃系 灰軸 胴下半輪なし 内面ビン痕2箇所残存	
57	陶器	こね鉢	(25.0)	[8.1]	—	AK	20	良好	灰白	SD2	瀬戸美濃系 灰軸	20-2
58	陶器	こね鉢	—	[8.1]	(16.4)	K	50	普通	浅黄	SD2	瀬戸美濃系 灰軸 重ね焼痕3箇所残存 見込ケズリ	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	完成	色調	遺構	備考	図版
59	陶器	片口鉢	(21.0)	[6.5]	—	HK	10	良好	灰白	S02	瀬戸美濃系 灰軸 外面重ね後板 ヘラケズリ	
60	陶器	片口鉢	(22.6)	[6.7]	—	HK	10	良好	灰白	S02	瀬戸美濃系 灰軸	
61	陶器	片口鉢	(12.0)	6.0	(5.4)	HK	25	良好	灰	S02	瀬戸美濃系 灰軸	
62	陶器	瓶掛	—	[3.9]	(15.8)	EHK	15	良好	灰白	S02	瀬戸美濃系 鉄軸 外面銅線軸 内面重ね焼板 三脚	
63	陶器	香炉	—	[2.8]	(6.9)	HK	40	良好	灰白	S02	瀬戸美濃系 外面灰軸 摺輪 高台囲み2箇所残存	
64	陶器	徳利	—	[4.5]	(5.0)	HK	25	良好	黄灰	S02	瀬戸美濃系 柿軸 ペコカン	
65	陶器	燗徳利	—	[10.4]	(6.4)	HK	30	良好	灰白	S02	京都信楽系 外面灰軸 鉄軸 磁質	
66	陶器	水甕	(24.0)	[5.3]	—	K	10	良好	灰白	S02	瀬戸美濃系 灰軸 波状文	
67	陶器	鍋	(21.0)	[6.8]	—	HK	25	良好	黄灰	S02	鉄軸	
68	陶器	両手鍋	(19.8)	[10.4]	(7.4)	EI	20	良好	灰白	S02	柿軸 三脚 内面目録2箇所	
69	陶器	両手鍋	(20.2)	[4.6]	—	HK	15	良好	灰	S02	鉄軸	
70	陶器	行平鍋	(17.5)	[3.6]	—	HK	20	良好	にぶい黄橙	S02	内面灰軸 外面鉄軸 トビガンナ 72～74と同一個体	
71	陶器	蓋	—	[2.2]	(15.6)	I	10	良好	にぶい黄橙	S02	行平鍋 内面灰軸 外面鉄軸 トビガンナ	
72	陶器	行平鍋	—	[5.4]	(8.0)	CEIJ	20	良好	にぶい黄橙	S02	内面灰軸 外面鉄軸 トビガンナ 70・73・74と同一個体	
73	陶器	行平鍋	縦5.0 横2.9			K	100	良好	にぶい黄	S02	内面・注口部灰軸 外面鉄軸 トビガンナ 70・72・74と同一個体	
74	陶器	行平鍋	縦3.7 横3.6			HK	100	良好	にぶい黄	S02	灰軸 把手 70・72・73と同一個体	
75	陶器	燗徳利	(4.2)	[4.3]	—	K	25	良好	灰白	S02	京都信楽系 灰軸	
76	陶器	土瓶	(8.0)	[8.8]	(7.2)	HK	40	良好	灰白	S02	外面施軸 三彩 紐状把手	
77	陶器	土瓶	8.0	[4.9]	—	HI	65	普通	灰白	S02	外面灰軸 鉄軸 イッチン 梅	
78	陶器	土瓶	(8.0)	[2.8]	—	HK	40	良好	灰白	S02	外面灰軸 鉄軸 イッチン	
79	陶器	土瓶	(8.4)	[2.8]	—	HK	20	良好	灰白	S02	外面灰軸	
80	陶器	水注	—	[2.9]	(8.0)	I	10	良好	浅黄	S02	京都信楽系 灰軸 内径(7.0)cm 磁質	
81	陶器	土瓶	—	[3.6]	(6.0)	HK	40	良好	にぶい黄	S02	鉄軸 墨書	20-3
82	陶器	土瓶	—	[2.8]	(7.4)	EH	30	良好	にぶい黄橙	S02	灰軸 内面鉄軸 墨書	20-4
83	陶器	土瓶	—	[1.5]	(5.6)	HI	40	良好	灰白	S02	内面灰軸 煤付着	
84	陶器	土瓶	—	[4.0]	(8.6)	HK	20	普通	灰黄	S02	灰軸 外面鉄分斑状 黒色粒顕著 飯能焼	20-5
85	陶器	土瓶	—	[3.1]	(8.4)	HK	20	普通	にぶい黄橙	S02	内面透明軸 底面墨書 被熟か	
86	陶器	土瓶	—	[2.5]	(9.0)	HI	10	普通	灰白	S02	外面灰軸 内面透明軸	
87	陶器	土瓶	—	[1.8]	(6.0)	HK	20	普通	灰白	S02	京都信楽系 外面灰軸	
88	陶器	土瓶	—	[1.8]	(9.0)	HI	25	普通	にぶい黄	S02	外面施軸	
89	陶器	土瓶	—	[1.7]	(8.6)	HI	25	普通	にぶい黄	S02	内面灰軸	
90	陶器	土瓶	(8.0)	[3.1]	—	I	35	普通	にぶい黄	S02	鉄軸	
91	陶器	土瓶	(7.2)	[2.2]	—	I	15	普通	黄灰	S02	鉄軸	
92	陶器	土瓶	(8.6)	[2.2]	—	I	15	普通	灰白	S02	鉄軸 被熟か	
93	陶器	土瓶	(7.6)	[4.6]	—	I	15	普通	灰白	S02	鉄軸 外面イッチン 被熟	
94	陶器	土瓶	—	[6.5]	—	HK	100	良好	灰白	S02	鉄軸 幅5.5cm	
95	陶器	土瓶	—	[5.5]	—	HK	100	普通	灰白	S02	鉄軸	
96	陶器	銅入れ	—	[1.5]	—	K	5	良好	灰白	S02	瀬戸美濃系 灰軸 把手手捏ね	
97	陶器	花生	—	[6.1]	—	HK	25	良好	黄灰	S02	瀬戸美濃系 灰軸・鉄軸掛け分け	
98	陶器	水注	—	[7.1]	—	HK	100	良好	浅黄	S02	瀬戸美濃系 鉄軸	
99	陶器	水注	(5.6)	[1.6]	—	K	15	良好	灰白	S02	京都信楽系 灰軸 磁質 102と同一個体	
100	陶器	坪	—	[2.4]	2.8	HK	70	良好	灰白	S02	瀬戸美濃系 灰軸	
101	陶器	坪	(6.3)	4.0	(4.3)	K	20	良好	灰白	S02	京都信楽系 灰軸 部分的に赤褐色 磁質	
102	陶器	水注	(7.3)	[3.7]	—	K	10	良好	灰白	S02	京都信楽系 灰軸 99と同一個体	
103	陶器	蓋	1.4	[1.3]	—	HK	100	良好	褐灰	S02	土瓶 白土 施軸	
104	瓦質土器	燈炉	(39.0)	[13.1]	—	HK	10	普通	黒褐	S02	播目16条1単位	
105	瓦質土器	火鉢	縦14.5 横12.7 高さ7.3			EI	10	普通	灰白	S02	外面砂目残存 糠す	
106	瓦質土器	燈炉	—	[6.8]	(20.0)	CHK	10	良好	灰	S02	砂目底 底部外周ケズリ	
107	瓦質土器	燈炉	—	[5.2]	(16.2)	CHK	30	良好	灰	S02	三脚 波状文 砂目底 底部外周弱いミガキ	
108	瓦質土器	燈炉	—	[3.5]	(17.2)	CHK	20	良好	灰白	S02	トビガンナ 底部外周ケズリ	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
109	瓦質土器	甕	—	[1.8]	(18.0)	CHK	5	良好	黄灰	SD2	砂目底 底部外周ミガキ	
110	瓦質土器	甕	—	[6.3]	(25.0)	CHK	15	良好	灰白	SD2	外面下部ヘラケズリ	
111	瓦質土器	甕	—	[6.3]	(19.5)	CHK	10	良好	灰	SD2		
112	瓦質土器	火鉢	高さ4.8 幅2.4	横14.2	—	CHK	5	普通	灰	SD2		
113	瓦質土器	火鉢	—	[2.8]	(21.0)	CHK	15	普通	灰	SD2	丸底 脚付	
114	瓦質土器	火鉢	—	[3.9]	(20.6)	CHK	15	普通	灰黄	SD2	脚付火鉢	
115	瓦質土器	火鉢	—	[3.4]	(23.3)	CHK	10	普通	黄灰	SD2	脚付火鉢	
116	瓦質土器	火鉢	—	[2.9]	(33.0)	CHK	5	普通	にぶい黄橙	SD2	脚付火鉢 脚部	
117	瓦質土器	火鉢	(30.5)	[10.8]	—	CHK	10	普通	浅黄	SD2	脚付火鉢 酸化炭焼成	
118	土師質土器	火鉢	(27.0)	[6.1]	—	CHK	10	普通	にぶい黄橙	SD2		
119	瓦質土器	火鉢	(36.4)	[6.7]	—	CHK	5	普通	浅黄	SD2	やや酸化炭焼成	
120	瓦質土器	火鉢	(15.6)	8.0	(12.0)	CHK	30	普通	にぶい黄橙	SD2	三脚	
121	瓦質土器	火鉢	(20.2)	[4.2]	—	CHK	15	普通	にぶい黄橙	SD2		
122	土師質土器	火鉢	(17.8)	[4.5]	—	CHK	25	普通	にぶい黄橙	SD2		
123	瓦質土器	火鉢	(18.6)	[5.4]	—	CHK	10	普通	にぶい黄橙	SD2		
124	瓦質土器	火鉢	—	[4.1]	(11.0)	CHK	20	普通	にぶい黄橙	SD2		
125	瓦質土器	火鉢	—	[3.5]	(13.8)	HK	15	普通	楊灰	SD2	小型脚付火鉢 脚部外面ミガキ 底部ナデ	
126	瓦質土器	火鉢	—	[2.6]	(12.6)	HK	20	普通	楊灰	SD2	小型脚付火鉢 脚部外面ミガキ 底部ナデ	
127	瓦質土器	火鉢	(20.8)	[6.1]	—	HK	10	普通	灰黄	SD2	外面ミガキ 下平トビガンナ	
128	瓦質土器	火鉢	(17.2)	[3.6]	—	HK	10	不良	楊灰	SD2	小型火消煮か 外面ミガキ	
129	瓦質土器	火鉢	(22.4)	[2.5]	—	BHK	5	普通	暗灰	SD2	口縁ミガキ	
130	瓦質土器	火鉢	(16.8)	9.2	(12.4)	HK	35	普通	暗灰	SD2	外面波状文 下部回転ヘラケズリ 口縁ミガキ 被熱 131と同一個体	
131	瓦質土器	火鉢	—	[6.3]	(12.4)	HK	20	普通	暗灰	SD2	外面波状文 下部回転ヘラケズリ 130と同一個体	
132	瓦質土器	火鉢	(17.4)	[3.8]	—	HK	15	普通	暗灰	SD2	外面トビガンナ しのぎ ケズリ 口縁ミガキ	
133	瓦質土器	火鉢	(18.4)	[3.6]	—	HK	20	普通	暗灰	SD2	外面トビガンナ しのぎ ケズリ 口縁ミガキ	
134	瓦質土器	火鉢	(27.2)	[10.1]	—	CHK	10	普通	暗灰	SD2	トビガンナ 外面下部ケズリ 口縁ミガキ	
135	瓦質土器	火鉢	(27.0)	[9.7]	—	HK	10	普通	暗灰	SD2	大型丸火鉢 トビガンナ 口縁ミガキ	
136	瓦質土器	火鉢	(25.6)	[5.2]	—	CHK	10	普通	灰	SD2	大型丸火鉢 トビガンナ 口縁ミガキ	
137	瓦質土器	火鉢	(28.0)	[5.5]	—	CHK	10	普通	暗灰	SD2	大型丸火鉢 トビガンナ 口縁ミガキ	
138	瓦質土器	火鉢	(25.6)	[11.1]	—	CHK	10	普通	灰	SD2	大型丸火鉢 トビガンナ 外面下部ケズリ 口縁ミガキ	
139	瓦質土器	甕	(25.0)	[5.3]	—	CHK	15	普通	灰	SD2	トビガンナ 口縁ミガキ 五徳部分残存 被熱	
140	瓦質土器	火鉢	—	[7.7]	(11.0)	CHK	25	良好	灰白	SD2	トビガンナ 三脚 外面下部ヘラケズリ	
141	瓦質土器	火鉢	—	[3.2]	(12.0)	CHK	10	良好	灰黄褐	SD2	トビガンナ 三脚	
142	瓦質土器	火消煮	(21.4)	[7.5]	—	HK	10	良好	暗灰	SD2	内外面ナデ 内面煤付着 外面弱ミガキ	
143	瓦質土器	火消煮	(20.8)	[10.8]	—	CHK	20	良好	灰	SD2	内面煤付着 内外面ナデ 外面弱ミガキ	
144	瓦質土器	火鉢	(19.8)	9.6	(13.6)	CHK	20	良好	灰白	SD2	トビガンナ 口縁・体部中位ミガキ	
145	瓦質土器	火鉢	(25.8)	[10.4]	—	CHK	20	良好	灰	SD2	トビガンナ 口縁ミガキ 体部下位ケズリ	
146	瓦質土器	火鉢	—	[2.0]	(13.0)	CHK	15	良好	にぶい黄	SD2	トビガンナ 147と同一個体	
147	瓦質土器	火鉢	—	[5.1]	(13.0)	CHK	25	良好	にぶい黄	SD2	トビガンナ 146と同一個体 ミガキ残存	
148	瓦質土器	甕	(22.0)	[4.5]	—	CHK	30	普通	灰黄	SD2	煤付着 口縁ミガキ 外面施文	
149	瓦質土器	十能	長さ[15.7] 幅[9.2] 高さ4.2	—	—	CHK	60	普通	灰	SD2	外面シワ状痕 内面ナデ	
150	瓦質土器	十能	長さ[10.5] 幅[5.4] 高さ5.2	—	—	HK	30	普通	灰	SD2	外面シワ状痕 内面ナデ	
151	瓦質土器	十能	長さ[6.7] 幅[12.1] 高さ[4.7]	—	—	HK	15	普通	灰	SD2	被熱 煤付着 外面シワ状痕 内面ナデ	
152	瓦質土器	焙焼	(33.8)	4.5	—	HK	10	普通	明赤褐	SD2	丸底 内耳 砂目底 底部外周ケズリ	
153	瓦質土器	焙焼	(34.8)	4.0	—	HK	10	普通	明赤褐	SD2	丸底 内耳 砂目底	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	状況	色調	遺構	備考	図版
154	瓦質土器	焙焼	(33.6)	4.2	—	I	10	普通	にぶい橙	SD2	丸底 内耳 底部シワ状痕	
155	土師質土器	焙焼	(17.6)	2.9	(34.6)	C	10	普通	にぶい黄橙	SD2	丸底 (扁平) 砂目底	
156	土師質土器	焙焼	—	3.9	—	HIK	5	普通	浅黄	SD2	丸底 底部シワ状痕 底部外周弱いケズリ	
157	瓦質土器	蓋	(29.0)	3.1	(26.4)	HI	10	普通	褐灰	SD2	火消壺 内外面ナデ 上面砂目底	
158	土師質土器	焙焼	(31.2)	4.0	—	HIK	10	普通	浅黄橙	SD2	丸底 砂目底 外周ケズリ	
159	土師質土器	焙焼	(31.4)	2.9	(30.0)	HIK	10	普通	浅黄橙	SD2	丸底 砂目底	
160	土師質土器	焙焼	(33.4)	[3.3]	(33.0)	CHIK	10	普通	にぶい黄橙	SD2	丸底 (扁平) 砂目底 外面下位ケズリ	
161	土師質土器	焙焼	(35.6)	[3.4]	—	CHK	15	普通	橙	SD2	丸底 砂目底 外面下位ケズリ	
162	瓦質土器	焙焼	(33.4)	[3.2]	—	CHIK	10	普通	にぶい橙	SD2	丸底 砂目底	
163	瓦質土器	焙焼	(34.8)	4.2	(31.0)	CHIK	15	普通	にぶい黄橙	SD2	平底 底部シワ状痕 外面ケズリ	
164	瓦質土器	焙焼	(36.6)	5.0	(34.0)	CIK	10	普通	灰白	SD2	68-12 平底 内耳 底部シワ状痕 外周ケズリ	
165	瓦質土器	焙焼	(29.6)	4.4	(28.0)	CIK	10	普通	灰白	SD2	平底 内耳 砂目底 底部シワ状痕 外面下手ケズリ	
166	瓦質土器	蓋	(25.4)	3.2	(24.2)	CHIK	15	普通	黄灰	SD2	火消壺 砂目底 内外面ナデ	
167	瓦質土器	蓋	(27.0)	3.0	(25.3)	CHIK	10	普通	黄灰	SD2	火消壺 砂目底 内外面ナデ	
168	土師質土器	焙焼	(34.6)	[4.1]	(34.8)	CIK	10	普通	にぶい黄橙	SD2	丸底 砂目底	
169	土師質土器	焙焼	(36.6)	[5.9]	(38.0)	CHIK	10	普通	にぶい黄橙	SD2	丸底 砂目底 外周ケズリ	
170	土師質土器	焙焼	(34.2)	[4.9]	(33.8)	HIK	10	普通	灰黄	SD2	丸底 砂目底	
171	土師質土器	焙焼	(24.0)	[2.8]	(23.4)	AHIK	5	普通	にぶい黄橙	SD2	丸底 砂目底	
172	瓦質土器	焙焼	(36.0)	4.0	(32.6)	CIK	25	普通	灰白	SD2	平底 底部シワ状痕 外面下半ケズリ	
173	瓦質土器	焙焼	(34.8)	4.5	(34.2)	CIK	15	普通	灰白	SD2	平底 底部シワ状痕 外面下半弱いケズリ	
174	瓦質土器	焙焼	(37.0)	4.4	(35.0)	CIK	15	普通	灰白	SD2	平底 底部シワ状痕 外面下半弱いケズリ 指頭圧痕 内耳	
175	瓦質土器	焙焼	(36.5)	4.3	(35.6)	CIK	10	普通	灰黄	SD2	平底 底部シワ状痕 内外面ナデ	
176	瓦質土器	焙焼	(32.4)	3.8	(30.2)	CIK	10	普通	灰白	SD2	平底 内耳 砂目底 内外面ナデ	
177	瓦質土器	蓋	(27.0)	3.7	(13.8)	CIK	20	普通	灰	SD2	火消壺 内外面ナデ 外面上半ヘラケズリ 底部砂目	
178	瓦質土器	蓋	(28.6)	3.6	(25.5)	CHIK	15	普通	灰黄	SD2	火消壺 内外面ナデ 底部砂目 外周ヘラケズリ	
179	瓦質土器	蓋	(26.2)	3.1	(24.6)	CHIK	20	普通	にぶい黄橙	SD2	火消壺 内外面ナデ 底部シワ状痕 外周ヘラケズリ	
180	かわらけ	小皿	(10.0)	[1.8]	(5.1)	CHIK	30	普通	にぶい橙	SD2	模素付着 回転糸切り (右) 胎土粉質	
181	かわらけ	小皿	(6.8)	[1.4]	(4.2)	ACEHI	20	普通	にぶい橙	SD2	回転糸切り (右) 胎土粉質	
182	かわらけ	小皿	(4.8)	[0.9]	(3.0)	EHIK	20	普通	灰黄褐	SD2	回転糸切り (右) 胎土粉質	
183	瓦質土器	電鐔	(38.0)	3.8	(30.0)	ACHI	45	普通	オリーブ黒	SD2	全面煤付着	
184	瓦質土器	電鐔	(34.9)	3.5	(27.0)	HIK	35	普通	にぶい橙	SD2	全面煤付着 内面弱いケズリ	
185	瓦質土器	電鐔	(36.0)	3.9	(28.0)	CHIK	25	普通	にぶい橙	SD2	全面煤付着	
186	瓦質土器	電鐔	(33.8)	3.9	(26.0)	CHIK	25	普通	にぶい橙	SD2	全面煤付着	
187	瓦質土器	電鐔	(35.0)	3.9	(26.3)	CIK	20	普通	灰黄	SD2	全面煤付着	
188	瓦質土器	電鐔	(35.0)	3.8	(26.8)	CHIK	10	普通	にぶい赤褐	SD2	煤付着 被熱	
189	瓦質土器	電鐔	(39.0)	4.2	(30.0)	CIJK	10	普通	灰	SD2	全面煤付着	
190	瓦質土器	電鐔	(40.0)	3.7	(31.2)	CHIK	10	普通	にぶい橙	SD2	全面煤付着 指紋あり	
191	瓦質土器	蓋	3.7	[1.9]	—	CHIK	95	普通	にぶい黄橙	SD2	火消壺	
192	瓦質土器	蓋	3.6	[1.9]	—	CIKL	95	普通	灰黄	SD2	火消壺	
193	瓦質土器	火鉢	—	[8.6]	(24.0)	ACHI	35	普通	橙	SD2	脚付火鉢 砂目底 煤付着 同一個体破片あり	
194	瓦質陶器	埴炉	—	[3.7]	—	IK	10	普通	黒褐	SD2	煤付着	
195	陶器	乗物土器	(7.7)	[2.5]	—	IK	20	良好	良好	SD2	透明軸	
196	瓦質土器	埴炉	(21.2)	[14.0]	—	ACHI	30	良好	黒	SD2	トビガンナ 外面ミガキ ケズリ	
197	瓦質土器	埴炉	(22.4)	[4.5]	—	CIK	20	良好	灰白	SD2	外面ミガキ 施文	
198	瓦質土器	埴炉	—	[18.1]	(19.8)	CIK	20	良好	灰白	SD2	裏の子 三脚 外面ミガキ	
199	瓦質土器	埴炉	—	[8.3]	—	ACTK	25	普通	浅黄	SD2	火袋 被熱 孔径約1.6 cm やや酸化変成成きみ	
200	瓦質土器	目皿	径(10.8)	厚さ1.3	—	CIK	20	不良	にぶい橙	SD2	被熱 やや酸化変成成きみ 両面砂目 孔径(1.8~2.2) cm 残存長さ[5.5] cm	
201	瓦質土器	埴炉	—	[4.1]	(17.0)	AHIK	10	普通	にぶい橙	SD2	被熱 孔径約5.0 cm やや酸化変成成きみ	
202	陶器	水注	—	[3.6]	—	IK	100	普通	灰白	SD2	京都信楽系 火鉢	

第11表 第2号溝跡出土遺物観察表(2)(第39図)

番号	種別	器種	口径 幅	器高 長さ	底径 厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	紅皿	(4.6)	(2.4)	(2.8)	6.9	K	良好	灰白	SD2	肥前系 輪軸 疊付無軸 型成形	

第12表 第2号溝跡出土遺物観察表(3)(第40図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒丸瓦	[6.6]	[10.6]	1.8	—	7.0	AK	普通	灰	SD2	連珠三ッ巴文 巴大・尾長い	38-3
2	瓦	軒棧瓦	—	—	2.9	—	[10.1]	AIK	普通	暗灰	SD2	連珠三ッ巴文右巻き16珠か 巴大・尾長い	40-1
3	瓦	軒棧瓦	[11.5]	[16.8]	1.7	—	—	A	普通	灰白	SD2	刻印「田宮瓦」 江戸B種か 唐草裏面砂付着	
4	瓦	丸瓦	[11.2]	[8.8]	2.1	—	—	IK	普通	オリーブ黒	SD2		
5	瓦	棧瓦	[19.6]	[10.9]	2.0	—	—	AIK	普通	灰	SD2	精良	
6	瓦	棧瓦	[13.6]	[6.9]	1.8	—	—	AIK	普通	灰	SD2	焼成前にえぐれている 工具のあたりか 精良	
7	瓦	平瓦	[12.1]	[8.8]	1.7	—	—	AIK	普通	灰	SD2	裏面波状の滑り止め 4条1単位 精良	40-3
8	瓦	平瓦	[9.8]	[8.3]	2.0	—	—	AIK	普通	灰	SD2	精良	
9	瓦	平瓦	[11.2]	[16.2]	1.8	—	—	AIK	普通	灰	SD2	精良 砂目	
10	瓦	道具瓦	[13.6]	[12.5]	1.8	—	—	AIJK	普通	暗灰	SD2	表面煤付着 裏面ヘラケズリ痕明瞭	
11	瓦	道具瓦	[12.8]	[15.7]	1.6	—	—	IK	普通	灰	SD2	紐が割かれている 砂付着	
12	瓦	道具瓦	[8.8]	[17.4]	1.8	—	—	AK	普通	灰	SD2	精良	38-4

ている。

76～79・81～95は土瓶である。87は京都信楽系である。他はいずれも産地不明で、85は底面に墨書されている。鉄釉、透明釉、灰釉が施され、イチチンが加えられているものがある。

104・106～111は瓦質土器の埴炉である。107は波状文、108はトビガンナが施されている。

105は瓦質土器の角火鉢である。

112～117・119～121・123～141・144～147は瓦質土器の火鉢である。

118と122は土師質の丸火鉢である。

125・126は小型の脚付丸火鉢である。130・131は外面に波状文、132・133は外面にトビガンナが施されている。135～138は大型の丸火鉢である。トビガンナが施されている。

152～156・158～165・168～176は焙烙である。丸底と平底がある。

166・167・177～179は、器高の低い平坦な天井部の火消壺の蓋である。

183～190は竈の掛口の鏝である。第2号溝跡出土資料に特徴的に多く認められる。いずれも瓦質でいぶされている。側縁が面を持つものと丸く



第39図 第2号溝跡出土遺物(11)

収められるものがあり、製作時の時期差等を反映していると考えられる。

194は瓦質土器の埴炉である。外面が波状を呈している。196～199・201は小型の埴炉である。198は外面が鹿の子模様である。

第39図1は肥前系磁器の紅皿である。

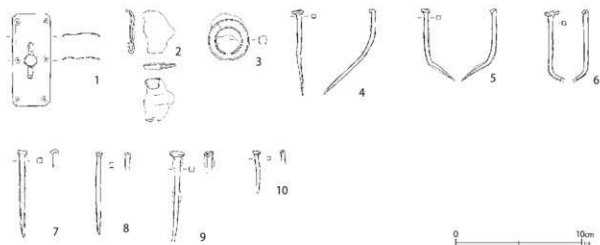
第40図は瓦である。いずれも一辺10cm前後に割られた状態であった。軒丸瓦、平瓦、棧瓦、丸瓦がある。3の唐草は江戸瓦の変種と考えられる。「田宮瓦」の刻印が施されている。

第41図は金属製品である。1～3は金具類で、1は飾金具、2は帯金具、3は輪金具である。4～10は釘である。

第42図1は銭貨で、寛永通寶である。実測可能な石製品は1点(第43図)で、磨石である。断面は楕円形で、自然面を使用している。



第40図 第2号溝跡出土遺物 (12)



第11図 第2号溝跡出土遺物 (13)

第13表 第2号溝跡出土遺物観察表 (4) (第11図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	飾金具	縦7.4 横3.0 厚さ0.1 重さ9.3	SD2		46-1
2	鉄製品	帯金具	縦[3.4] 横[2.5] 厚さ0.2 重さ3.7	SD2		
3	鉄製品	輪金具	径3.3 幅0.6 厚さ0.6 重さ15.5	SD2		
4	鉄製品	釘	長さ[6.6] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.8	SD2		
5	鉄製品	釘	長さ[5.6] 幅0.3 厚さ0.3 重さ4.0	SD2		
6	鉄製品	釘	長さ[5.5] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.2	SD2		
7	鉄製品	釘	長さ6.9 幅0.4 厚さ0.4 重さ3.3	SD2		
8	鉄製品	釘	長さ6.5 幅0.3 厚さ0.4 重さ2.9	SD2		
9	鉄製品	釘	長さ[6.7] 幅0.4 厚さ0.4 重さ6.4	SD2		
10	鉄製品	釘	長さ[3.2] 幅0.3 厚さ0.3 重さ0.8	SD2		



第12図 第2号溝跡出土遺物 (14)



第13図 第2号溝跡出土遺物 (15)

第14表 第2号溝跡出土遺物観察表 (5) (第12図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径22.79 厚さ1.05 重さ2.1	SD2	寛永通寶(新)	47-3

第15表 第2号溝跡出土遺物観察表 (6) (第13図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	磨石	16.1	3.9	3.4	36.5	軽石	SD2	断面楕円形 自然面使用	47-1

(5) 土壌

第2地点の第一面では土壌15基が検出された。

位置や規模については第16表に、遺構図は第44～46図、出土遺物は第47～67図に示した。平面形は長方形が主体である。長軸の方向は、北側の土壌が日光道中に直交し、南側の土壌が平行する方向をとっている。

覆土による類型化が可能で、いくつかの土壌についてはまとめて記述した。

第1号土壌 (第44図)

第2地点の南端、H8-B4グリッドに位置する。東側の第3号土壌と近接している。南側は調査時の法面にかかり、検出できなかった。確認できた長軸が0.85m、短軸1.95m、深さ0.50mで、南側は調査区域外になるため平面形は不明である。長軸の方位はN-30°-Wである。断面形は逆台形で、西側が0.10mほど深くなっている。

覆土は灰褐色粘土ブロック、砂、木片含む黒褐色土を含む暗褐色土の単層で、大型のブロックを含むため埋め戻しの可能性がある。

第2・3号土壌 (第44図)

調査区南端、H8-A3・4、B3・4グリッドに位置する。西側の第1号土壌と近接している。第2号土壌は第3号土壌に壊されており、第2号土壌の方が古い。確認できた規模は、長軸0.90m、

短軸0.50m、深さ0.80mである。平面形は不整形である。長軸の方位はN-30°-Wである。

覆土は砂質、ブロックを含むシルト質、粘土質で、大型のブロックを含むため埋め戻しの可能性がある。

第3号土壌は確認できた長軸4.50m、短軸2.45m、深さ0.23mの隅丸長方形である。長軸の方位はN-23°-Wである。

覆土は砂主体の灰黄褐色土、灰白色土、砂質ブロック含む黒褐色土である。小破片が多いため非掲載できなかったが、土器・陶磁器や木片が多く出土した。

第4号土壌 (第44図)

調査区南端、H8-A3グリッドに位置する。長軸1.70m、短軸1.40m、深さおよそ1.00mの不整形円形である。長軸の方位はN-28°-Wである。

覆土は、上層が大型の粘土ブロックを含む暗灰褐色土で、大型のブロックを含むため埋め戻しの可能性がある。下層は砂粒中心の灰褐色土である。

第5号土壌 (第45図)

調査区中央南西よりのG8-J2・3グリッドに位置する。長軸5.80m、短軸1.60m、深さ0.30mの不整形である。長軸の方位はN-17°-Wである。

覆土は炭化物を多く含む暗灰褐色土、灰褐色土、暗褐色土である。陶磁器や土器、木製品などが出土しており、被熱した材が一括廃棄されたと考えられ、埋め戻しの可能性がある。

第6・8号土壌 (第45図)

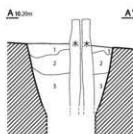
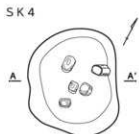
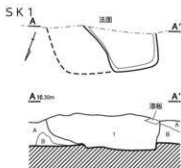
調査区中央北よりに位置する。第6号土壌はG8-I2グリッドにあり、長軸2.06m、短軸2.10m、深さ0.35mの不整形である。長軸の方位はN-2°-Eである。

第8号土壌はG8-H3グリッドにあり、長軸3.05m、短軸1.50m、深さ0.55mの楕円形である。長軸の方位はN-80°-Wである。

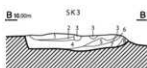
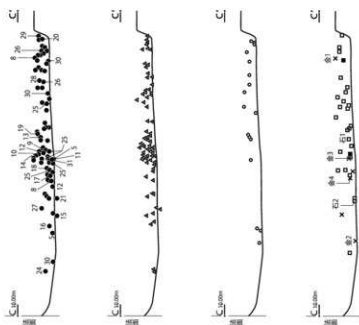
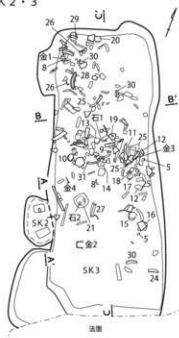
第16表 第2地点第一面土壌計測表

単位: m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	備考
1	H8-B4	不明	[0.85]	1.95	0.50	
2	H8-B3	不整形	0.90	[0.50]	[0.80]	SK3重複
3	H8-A3・4 H8-B3・4	隅丸長方形	[4.50]	2.45	0.23	SK2重複
4	H8-A3	不整形円形	1.70	1.40	[1.0]	
5	G8-J2・3	不整形	5.80	1.60	0.30	
6	G8-I2	不整形	2.06	1.95	0.35	
7	G8-H3	隅丸長方形	2.00	1.22	0.58	
8	G8-H3	楕円形	3.05	1.50	0.55	
9	G8-H3	不明	[1.50]	[0.55]	0.30	杭列3重複
10	G8-H12	長方形	3.30	1.30	0.50	
11	G8-I3	楕円形	1.95	1.62	0.35	
12	G8-H1・2	不整形長方形	[6.50]	1.75	0.65	
13	G8-H2	隅丸長方形	2.50	1.80	0.75	
29	G8-H1・2	長方形	4.50	2.35	0.50	
39	G8-I2	長方形	1.70	0.70	0.40	



SK2・3



- SK1
- 1 暗褐色土 灰褐色粘土ブロック(φ1~3cm大)斑状にやや多量
砂粒(φ1mm以下)やや多量 木片含む
灰褐色土斑状に多量 しまりややあり 粘性あり

A 砂層
B シルト

- SK2
- 1 明灰褐色土 砂質 砂粒(φ1mm大)主体 灰褐色シルト少量
しまりややあり 粘性なし
2 暗灰褐色土 シルト質 シルト質ブロック(φ1~3cm大)斑状に含む
砂粒(φ1mm大)少量 しまりやや強い 粘性強い
3 灰褐色土 シルト シルト質土主体 砂粒(φ1mm大)少量
しまりやや強い 粘性強い
4 灰褐色土 粘土質 粘土質土主体 しまりやや強い 粘性極めて強い

- SK3
- 1 灰黄褐色土 砂質土
2 灰黄褐色土 砂層
3 灰白色土 砂質土
4 灰黄褐色土 灰黄色砂質土ブロック含む
5 灰土 砂層
6 暗褐色土 砂質土
7 灰黄褐色土 砂質土
8 暗褐色土 砂質土

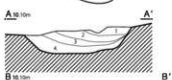
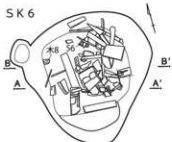
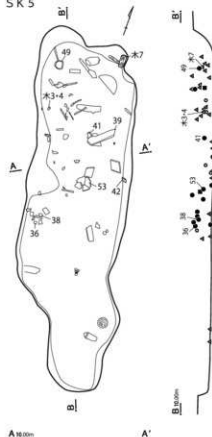
- SK4
- 1 暗灰褐色土 炭化物粒子(φ3~5mm大)少量
粘土ブロック(φ3~5cm大)含む
砂粒(φ1~2mm大)やや多量
しまり強い 粘性やや強い
2 灰褐色土 炭化物粒子(φ2~3mm大)・砂粒(φ1~2mm大)少量
しまり・粘性やや強い
3 灰褐色土 砂粒(φ1mm大)少量 しまり・粘性強い

● 陶器・土器 ▲ 木器 ● 瓦 × 金属 ● 石 ■ 不明・その他

0 2m 100

第44図 土壌(1)

SK 5



0 2m 100

SK 5

- 1 暗灰褐色土 下層に炭化物粒子が層状に堆積
シルトブロック(φ2~3cm大)
やや多量 しまり強い 粘性なし
シルト質土主体
- 2 灰褐色土 下層に炭化物(木質)粒子(φ1~
2mm大)が層状に堆積
小石・砂粒(φ1mm以下)少量
灰褐色にやや多量
しまりやや強い 粘性ややあり
シルト質土主体 炭化物ブロック(φ2~
3cm大)・砂粒(φ1mm以下)少量
しまり弱い 粘性やや強い
- 3 灰褐色土 炭化物粒子多量
灰ブロック状に少量
粘土ブロック(φ2~3cm大)少量
しまり弱い 粘性やや強い
- 4 暗褐色土 砂質 黒褐色土若干含む
灰褐色シルト多量
炭褐色砂質土若干含む
シルト 木材・木材片多量

SK 6

- 1 灰褐色土 砂質 黒褐色土若干含む
灰褐色シルト多量
炭褐色砂質土若干含む
シルト 木材・木材片多量
- 2 黒褐色土 炭褐色シルト多量
炭褐色砂質土若干含む
シルト 木材・木材片多量
- 3 灰褐色土 炭褐色シルト多量
炭褐色砂質土若干含む
シルト 木材・木材片多量
- 4 暗褐色土 砂質 黒褐色土若干含む
灰褐色シルト多量
炭褐色砂質土若干含む
シルト 木材・木材片多量

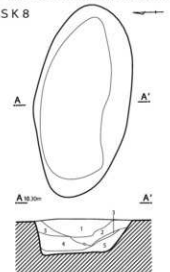
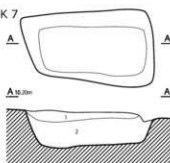
SK 7

- 1 暗褐色土 シルト くぼみに地山流入したもの
粗粒 小木片若干含む
- 2 暗褐色土 シルト くぼみに地山流入したもの
粗粒 小木片若干含む

SK 8

- 1 灰褐色土 砂質シルト 砂質シルトブロック
(φ2~3cm大) 炭褐色にやや多量
炭化物粒子(φ5~10cm大)少量
木質含む しまり・粘性あり
木質層 木くず極多量
砂質シルト含む
しまりやや強い 粘性なし
- 2 明褐色土 砂質シルト 砂質シルトブロック
(φ2~3cm大) 炭褐色にやや多量
炭化物粒子(φ5~10cm大)少量
木質含む しまり・粘性あり
木質層 木くず極多量
砂質シルト含む
しまりやや強い 粘性なし
- 3 灰褐色土 砂質シルト 砂質シルトブロック
(φ2~3cm大) 炭褐色にやや多量
炭化物粒子(φ5~10cm大)少量
木質含む しまり・粘性あり
木質層 木くず極多量
砂質シルト含む
しまりやや強い 粘性なし

SK 7

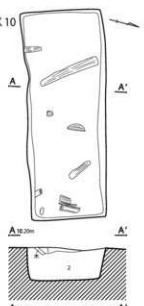
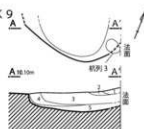


SK 8

SK 9

SK 10

SK 9



SK 10

SK 10

SK 10

- 4 暗灰褐色土 シルト質土 木質・貝多量
暗灰褐色シルトブロック状に
やや多量 しまりやや強い 粘性あり
- 5 明灰褐色土 シルト質土主体 炭化物ブロック
(φ4~5cm大)少量
砂粒(φ1mm以下)含む
しまりやや強い 粘性あり

SK 9

- 1 砂層 しまり・粘性なし
- 2 灰褐色土 シルト質土
灰褐色シルト質土主体
砂粒(φ1mm以下)少量
しまりあり 粘性やや強い
シルト質土
- 3 灰褐色土 灰褐色シルト質土主体
層状 砂粒少量 木質多量
しまりやや強い 粘性あり
シルト質土主体
砂粒(φ1mm以下)・砂少量
しまりあり 粘性やや強い
シルト質土
- 4 灰褐色土 灰褐色シルト質土主体として
層状に堆積 砂粒少量 木質多量
- 5 灰褐色土 灰褐色シルト質土主体として
層状に堆積 砂粒少量 木質多量

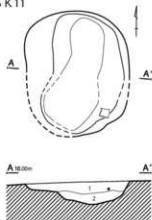
SK 10

- 1 灰褐色土 シルト質土 灰褐色シルト主体
細砂粒(φ1mm以下)
やや多量層状に含む 木質少量
しまりやや強い 粘性あり
- 2 灰褐色土 砂質シルト質土
灰褐色シルト質土主体
細砂粒(φ1mm以下)少量
木質・貝多量層状に多量
しまりあり 粘性やや強い

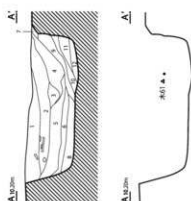
● 陶器・土器 ▲ 木器 ○ 瓦 ■ 不明・その他

第45図 土壌(2)

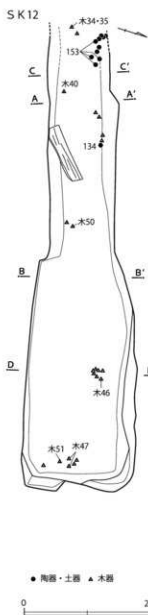
SK11



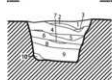
SK13



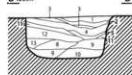
SK12



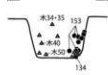
A 10.00m



B 10.00m



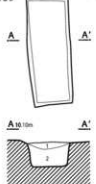
C 10.00m



D 10.00m



SK39



SK11
1 灰黄褐色土 砂質
2 暗褐色土 粗粒

SK12
1 暗灰色土 シルト 部分的に灰黄褐色砂・炭化物・木小片含む 層理面に鉄分沈着
2 灰褐色土 シルト
3 暗褐色土 木片・黄褐色土含む
4 灰色土 部分的に砂質 木片含む
5 黒色土 シルト質
6 暗褐色土 黄褐色土粒子含む
7 灰黄褐色土 粘質 炭化物若干
8 暗褐色土 木質小片極多量
9 黒褐色土 灰黄褐色土含む
10 黒灰色土 シルト 砂質
11 灰色土 シルト粘質
12 暗灰色土 根が発達 黒色土含む
13 灰色土

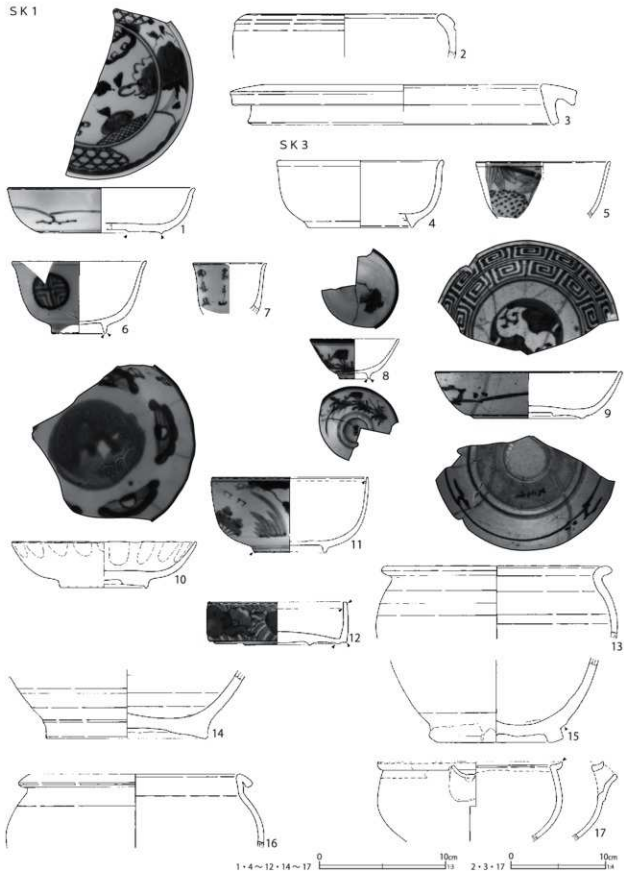
SK13
1 灰褐色土 シルト 砂質
2 暗褐色土 小木片多量
3 暗灰色土 シルト
4 暗褐色土 シルト 砂質
5 暗灰色土 小木片多量
6 灰黄褐色土 シルト
7 暗黄褐色土
8 黒褐色土 シルト
9 黒色土 小木根含む
10 暗灰色土 砂質
11 黒褐色土 小木根多量に含む
12 暗灰色土 砂質土

SK29
1 灰褐色土 焼土極多
2 褐色土 焼土ブロック極多
3 灰黄褐色土 焼土ブロック多

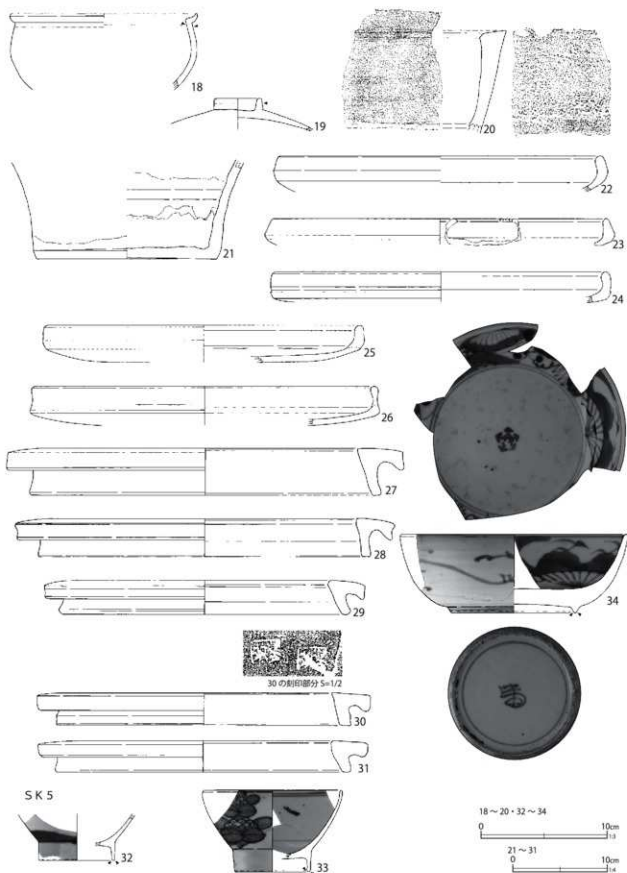
SK39
1 灰黄褐色土 炭化物粒多量
2 褐色土 (おがくず)

第46図 土壌 (3)

SK 1

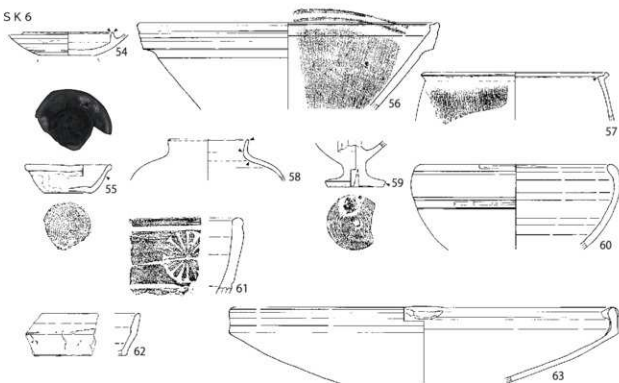


第47図 土壙出土遺物(1)



第48図 土壇出土遺物（2）

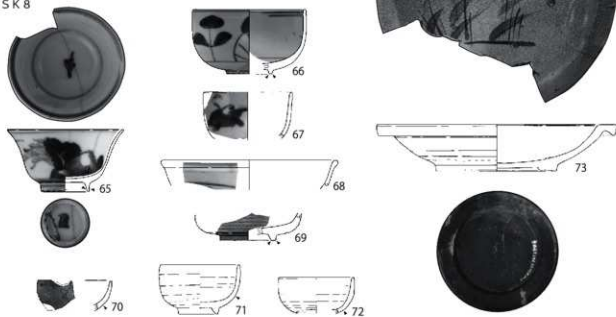
SK 6



SK 7

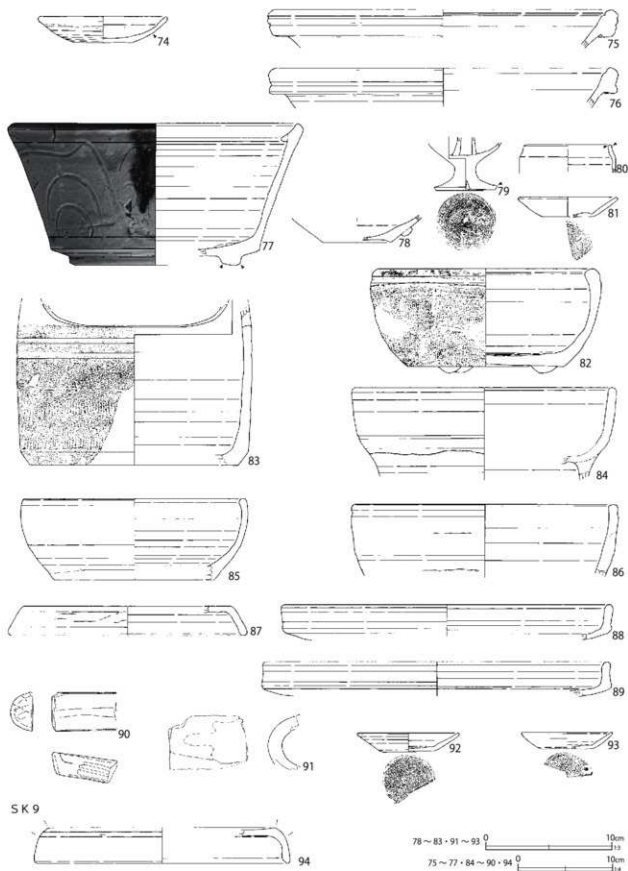


SK 8

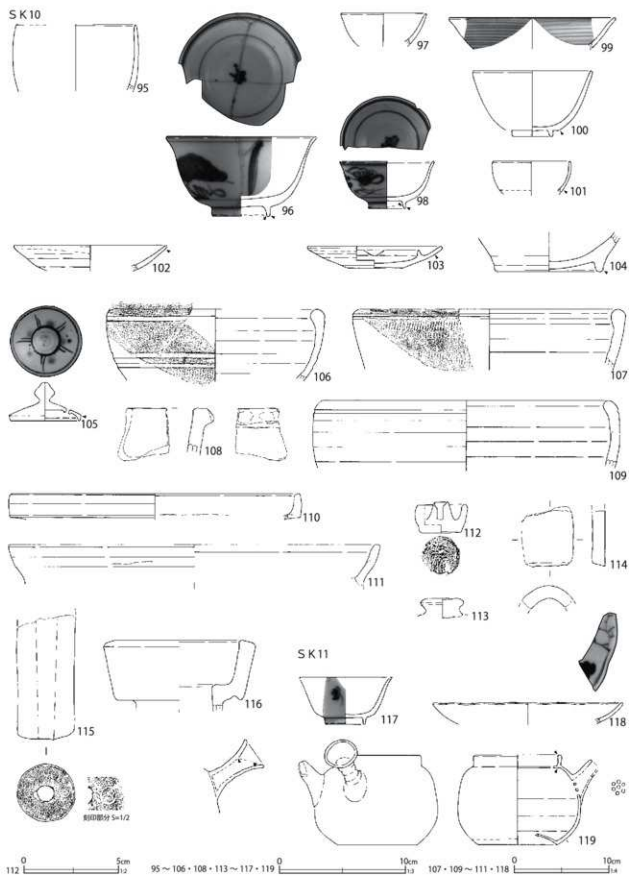


54・55・57～59・61・64～72 0 10cm 13 56・60・62・63・73 0 10cm 14

第50図 土壇出土遺物（4）

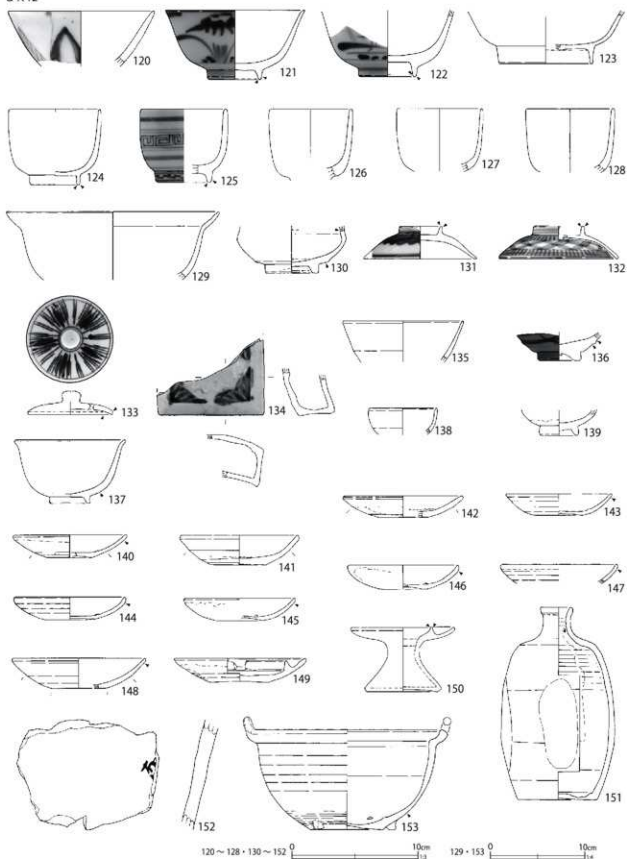


第51図 土壙出土遺物 (5)

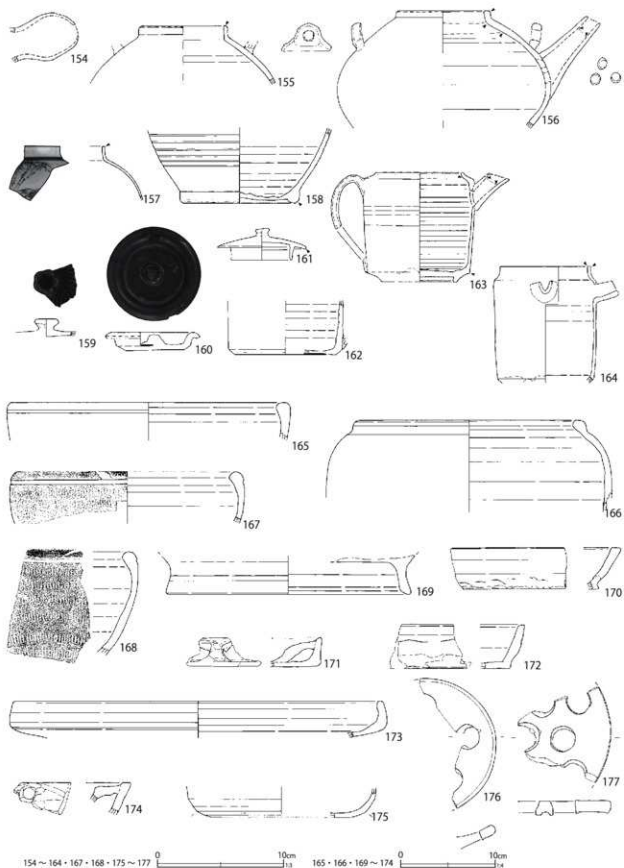


第52図 土壇出土遺物（6）

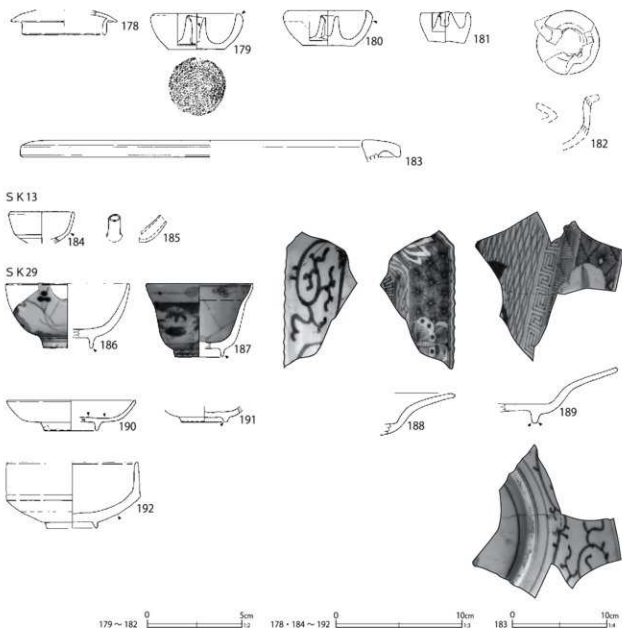
SK12



第53図 土壙出土遺物 (7)



第54図 土壇出土遺物 (8)



第55図 土壇出土遺物（9）

両土壇は、木材・木材片、木くずを多量に含み、埋め戻しの可能性がある。不用な木材が大量に廃棄されたと考えられる。

第7・9・10号土壇（第45図）

第7・9号土壇は、調査区北東のG8-H3グリッドに位置する。第7号土壇は、長軸2.00m、短軸1.22m、深さ0.58mの隅丸長方形、長軸の方位はN-75°-Eである。

第9号土壇は、確認できた長軸1.50m、確認

できた短軸0.55m、深さ0.30mである。平面形は第2号杭列と重複するため不明である。新旧関係は不明である。長軸の方位はN-70°-Eである。

第10号土壇は、調査区北西のG8-H・I2グリッドに位置する。長軸3.30m、短軸1.30m、深さ0.50mの長方形である。長軸の方位N-75°-Eである。

第7・9・10号土壇の覆土は、シルト、シル

第17表 土壌出土遺物観察表 (1) (第47～55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	皿	(14.6)	3.6	—	K	40	普通	明緑灰	SK1	肥前系 施軸 染付	20-6
2	瓦質土器	火鉢	(20.4)	4.7	—	EHI	5	普通	灰	SK1	口縁ミガキ	
3	瓦質土器	甕罍	(34.6)	4.2	(29.0)	CEIK	10	普通	灰白	SK1	煤付着	
4	磁器	鉢	(13.0)	5.3	(8.2)	K	20	普通	明緑灰	SK3	肥前系 青磁軸	
5	磁器	碗	(10.6)	[4.5]	—	K	10	普通	灰白	SK3	№79・195 肥前系 施軸 染付	
6	磁器	碗	(10.6)	5.8	4.4	—	40	普通	明青灰	SK3	瀬戸美濃系 施軸 H8-B4と接合	
7	磁器	坏	(5.8)	[4.1]	—	K	5	普通	灰白	SK3	瀬戸美濃系 施軸 染付 漢詩文	
8	磁器	坏	6.9	3.2	2.2	K	75	良好	灰白	SK3	№67・109 瀬戸美濃系 施軸 酸化コバルト 染付	
9	磁器	皿	(14.6)	3.7	(8.6)	K	40	普通	明緑灰	SK3	№50 肥前系 施軸 染付 高台内焼継目	
10	磁器	皿	14.6	3.7	6.8	—	90	普通	明青灰	SK3	№28 瀬戸美濃系 施軸 染付 内面陰刻	
11	磁器	蓋物	12.2	6.0	5.6	K	60	普通	灰白	SK3	№192 肥前系 施軸 外面染付	
12	磁器	蓋物	11.0	3.4	11.0	—	80	普通	明青灰	SK3	№52・74 肥前系 施軸 外面染付 段重 焼継	
13	陶器	甕	23.4	[7.7]	—	IK	15	普通	橙	SK3	№47 笠間系 鉄軸	
14	陶器	甕	—	[5.4]	12.8	IK	80	普通	にぶい黄橙	SK3	№59 笠間系 鉄軸	
15	陶器	甕	—	[6.7]	10.6	IK	90	普通	にぶい黄橙	SK3	№81 益子系カ 柿輪 目跡内外4	
16	陶器	甕	(16.2)	[5.8]	—	IK	30	普通	灰白	SK3	№186 地方民衆系 柿輪 漆黒釉流し掛け	
17	陶器	行平鍋	(14.4)	[6.3]	—	IK	30	普通	にぶい黄橙	SK3	№71 鉄軸 トビガンナ	
18	陶器	行平鍋	(14.6)	[6.0]	—	EIK	20	普通	灰黄	SK3	№69 鉄軸 トビガンナ	
19	陶器	蓋	つまみ 3.4	[2.6]	—	I	50	普通	浅黄橙	SK3	№45 鉄軸 トビガンナ	
20	瓦質土器	火鉢	—	[8.1]	—	CHIK	5	普通	灰黄	SK3	№125 外面下位砂目 煤付着	20-7
21	瓦質土器	火鉢	—	[10.5]	19.0	CHIK	85	普通	黒	SK3	№86 平底 器面剥離 煤付着	
22	土師質土器	焙烙	(33.6)	[3.8]	(34.6)	CHIK	10	普通	にぶい黄橙	SK3	丸底 底部シワ状痕 体部下位ケズリ	
23	土師質土器	焙烙	(35.0)	[2.8]	(36.6)	CHIK	5	普通	にぶい黄橙	SK3	丸底 底部シワ状痕 外周ケズリ	
24	土師質土器	焙烙	(34.8)	[3.2]	(35.3)	CHIK	15	普通	灰黄	SK3	№95 丸底 底部シワ状痕 外周ケズリ	
25	土師質土器	焙烙	(33.0)	[3.9]	(33.0)	HIK	25	普通	灰白	SK3	№11・55・56・175・176 丸底 砂目底	
26	土師質土器	焙烙	(26.0)	[4.1]	(34.0)	CHIK	15	良好	灰白	SK3	№6・112 丸底 砂目底 底部外周ケズリ	
27	瓦質土器	甕罍	(41.8)	5.0	(37.0)	CHIK	20	良好	にぶい黄橙	SK3	№83 煤付着	
28	瓦質土器	甕罍	(40.4)	4.1	(32.0)	CEI	20	普通	灰	SK3	№5 煤付着	
29	瓦質土器	甕罍	(33.8)	3.6	26.0	CE	20	普通	淡黄	SK3	№120 桶狭 煤付着	
30	瓦質土器	甕罍	(35.2)	3.4	(27.0)	HIK	30	普通	褐灰	SK3	№92・137・157 桶広 煤付着	
31	瓦質土器	甕罍	(34.8)	3.3	(27.0)	I	20	普通	褐灰	SK3	№64 煤付着	
32	磁器	碗	—	[3.7]	(5.8)	K	15	良好	明緑灰	SK5	肥前系 施軸 染付	
33	磁器	碗	(10.9)	6.5	(5.8)	K	30	良好	明緑灰	SK5	肥前系 施軸 染付	
34	磁器	皿	(17.7)	6.2	9.7	K	75	良好	灰白	SK5	肥前系 施軸 染付 底面「寿」カ H8-A3 東西トレンチと接合	
35	磁器	燗徳利	—	[4.8]	—	K	25	良好	明緑灰	SK5	瀬戸美濃系 施軸 外面染付	20-8
36	磁器	蓋	つまみ 1.0	1.9	5.0	—	100	良好	灰白	SK5	№33 急須の蓋 瀬戸美濃系 施軸 外面染付	
37	陶器	碗	—	[2.5]	—	K	5	良好	灰	SK5	萩系 施軸 外面ビラ掛け	
38	陶器	灯明皿	7.8	1.7	2.9	HIK	50	良好	灰黄	SK5	№29 京都信楽系 灰軸	
39	陶器	灯明皿	(10.3)	1.6	(5.2)	HIK	40	普通	灰褐	SK5	№20 地方民衆系 鉄軸 底部輪ふきとり 外面輪状重ね焼痕 見込みビン板2箇所残存	
40	陶器	油受皿	(10.8)	10.8	(4.6)	HK	20	良好	淡黄	SK5	京都信楽系 内面灰軸	
41	陶器	油受皿	7.8	4.9	5.4	HIK	100	良好	灰黄	SK5	№19 京都信楽系 内外面灰軸	
42	陶器	片口鉢	(16.4)	[6.4]	—	IK	15	良好	灰	SK5	№45 内外面灰軸	
43	陶器	鉢	(17.2)	[4.3]	—	IK	15	良好	灰黄	SK5	内外面灰軸	
44	陶器	標鉢	—	[6.1]	—	EIK	5	普通	灰白	SK5	瀬戸美濃系 鉄軸 標目14条1単位	
45	陶器	標鉢	—	[5.5]	—	DEIK	5	良好	明赤褐	SK5	堺明石系 標目10条1単位	
46	陶器	燗徳利	—	[3.3]	(6.5)	IK	40	良好	にぶい黄橙	SK5	外面灰軸	
47	陶器	甕	(26.0)	[3.5]	—	IK	10	良好	灰白	SK5	瀬戸美濃系 柿輪 外面灰軸流し掛け	
48	陶器	鍋	(20.6)	[8.9]	—	IK	5	良好	灰白	SK5	柿輪 被熱	
49	磁器	瓶	—	(15.5)	(6.7)	CIK	45	良好	灰白	SK5	№2 外面灰軸 外面釘書き「上」	21-3
50	瓦質土器	火鉢	(18.2)	[12.6]	—	HIK	10	普通	灰白	SK5	甕の子穴線	
51	瓦質土器	焙烙	—	5.3	—	CHIK	10	普通	灰	SK5	平底 底部外面下位シワ状痕 外面下位ケズリ	
52	土師質土器	焙烙	(33.2)	2.7	(32.6)	HIK	20	普通	灰	SK5	煤付着 丸底 砂目底	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
53	瓦質土器	蓋	24.0	3.0	22.1	ACHIK	90	普通	にぶい黄橙	SK5 №24 火消巻 内面外周ナデ つまみ外周ナデ 砂目底 内面煤付着		21-2
54	陶器	油受皿	—	[1.8]	(4.4)	HIK	20	良好	灰白	SK6 瀬戸美濃系 柿輪 重ね焼痕		21-4
55	施軸土器	播鉢	(6.7)	2.2	3.8	HIK	60	良好	橙	SK6 江戸在地系 透明軸 回転糸切り(左) 播目7条1単位 ミニチュア		
56	陶器	播鉢	(31.6)	[9.2]	—	IK	15	良好	灰赤	SK6 №60 堺明石系 播目10条1単位		21-5
57	陶器	行平鍋	(14.4)	[4.8]	—	IK	15	良好	にぶい赤褐	SK6 外面トビガンナ 内面鉄軸		
58	陶器	土瓶	(6.2)	[3.3]	—	IK	15	良好	灰白	SK6 内外面銅緑軸 青土瓶		21-6
59	陶器	脚付茶壺	—	[4.6]	4.4	IK	90	良好	灰白	SK6 瀬戸美濃系 鉄軸 回転糸切り		
60	瓦質土器	火鉢	(20.2)	[9.1]	—	IK	10	普通	灰	SK6 口縁・体部中位ミガキ		21-7
61	瓦質土器	火鉢	—	[6.0]	—	HIK	5	普通	黄灰	SK6 脚付火鉢		
62	瓦質土器	焙烙	—	[4.5]	—	IK	5	普通	灰	SK6 平底 煤付着		21-8
63	土師質土器	焙烙	(40.4)	[9.1]	—	CHIK	30	普通	にぶい黄橙	SK6 丸底 砂目底		
64	瓦質土器	火鉢	(17.5)	8.4	13.2	CHIK	70	良好	灰黄	SK7 三脚		21-9
65	磁器	碗	9.0	4.9	3.8	K	95	良好	灰白	SK8 瀬戸美濃系 施軸 染付		
66	磁器	碗	(8.8)	5.1	(3.4)	K	30	良好	明青灰	SK8 肥前系 施軸 染付		21-10
67	磁器	碗	(6.8)	[3.7]	—	K	25	良好	灰白	SK8 瀬戸美濃系 施軸 外面染付		
68	磁器	皿	(13.6)	[2.3]	—	K	5	良好	明緑灰	SK8 肥前系 施軸 染付		21-11
69	陶器	碗	—	[2.1]	(4.4)	IK	25	良好	にぶい黄	SK8 瀬戸美濃系 内面鉄軸 外面施軸トビガンナ		
70	陶器	坪	—	[2.4]	—	IK	5	良好	灰白	SK8 瀬戸美濃系 灰軸		21-12
71	陶器	坪	6.2	3.9	3.0	K	90	良好	灰白	SK8 瀬戸美濃系 灰軸		
72	陶器	坪	(5.8)	[2.9]	—	IK	30	良好	灰白	SK8 瀬戸美濃系 灰軸		21-13
73	陶器	皿	25.2	4.9	12.8	IK	75	良好	灰	SK8 瀬戸美濃系 灰軸 内面染付 見込みビン痕 6箇所 底部黒書 SK8・SK16№11・SK15・G8-H3-3と接合		
74	陶器	灯明皿	(10.0)	2.1	4.6	IK	75	良好	灰	SK8 瀬戸美濃系 柿輪 底部輪ふきとり 内面輪状重ね焼痕		21-14
75	陶器	播鉢	(35.8)	[4.0]	—	CEHIK	10	良好	にぶい赤褐	SK8 堺明石系		
76	陶器	播鉢	(35.2)	[4.3]	—	CEHIK	10	良好	赤褐	SK8 堺明石系		21-15
77	陶器	甕	(30.0)	15.0	—	AEK	30	普通	灰白	SK8 瀬戸美濃系 灰軸 外面緑軸流し掛け 底面鉄軸 流水紋 見込目痕		
78	陶器	土瓶	—	[2.1]	(5.4)	IK	25	良好	黄灰	SK8 内面鉄軸面張り 煤付着		21-16
79	陶器	茶壺	—	[4.2]	4.6	HIK	80	良好	灰白	SK8 底部糸切り(右) 鉄軸		
80	陶器	合子	(6.6)	[2.2]	—	K	20	良好	灰白	SK8 京都信楽系 灰軸		21-17
81	かわらけ	小皿	(7.7)	[1.6]	(4.0)	CIK	25	良好	褐灰	SK8 底部糸切り(左) 被熱		
82	瓦質土器	火鉢	(17.0)	8.2	12.2	HIK	50	普通	暗灰	SK8 口縁ミガキ		21-18
83	瓦質土器	火鉢	—	[12.7]	(16.4)	HIK	20	普通	にぶい黄橙	SK8 体部中位ミガキ やや酸化炭焼成済み		
84	瓦質土器	火鉢	(27.4)	[9.8]	—	HIK	20	普通	にぶい橙	SK8 脚付火鉢 やや酸化炭焼成済み		21-19
85	瓦質土器	火鉢	(23.4)	[8.6]	(16.8)	HIK	15	普通	橙	SK8 酸化炭焼成済み 体部下位ケズリ		
86	瓦質土器	火鉢	(27.0)	[7.6]	—	CHIK	10	普通	にぶい黄橙	SK8 脚付火鉢		21-20
87	瓦質土器	蓋	(25.0)	3.1	(22.0)	HIK	10	普通	灰	SK8 火消巻 内外面ナデ 砂目底		
88	土師質土器	焙烙	(34.4)	3.7	(34.0)	HIK	15	普通	灰白	SK8 丸底 底部シワ状痕 外周ケズリ		21-21
89	土師質土器	焙烙	(36.0)	3.6	(26.6)	HIK	10	普通	灰白	SK8 丸底 底部シワ状痕		
90	瓦質土器	十徳	長さ[6.8] 厚さ3.3	幅4.1	—	HI	10	普通	暗灰	SK8 被熱		21-22
91	土製品	羽口	長さ[6.2] 外径(2.5) 内径(1.4)	重さ40.9	—	HIK	10	普通	にぶい黄橙	SK8 被熱により赤化 外面ナデ 内面紋目		
92	かわらけ	小皿	8.0	1.5	4.0	HIK	60	普通	にぶい褐	SK8 江戸在地系 回転糸切り(左) 被熱		21-23
93	かわらけ	小皿	(7.0)	1.3	(4.0)	HIK	30	普通	にぶい褐	SK8 江戸在地系 回転糸切り(左)		
94	瓦質土器	蓋	(26.5)	3.8	(24.0)	CEHIK	30	普通	オリーブ黒	SK9 火消巻 外面上位上面ヘラケズリ 砂目底		21-24
95	磁器	碗	(9.4)	[5.3]	—	K	20	良好	明緑灰	SK10 肥前系 青磁軸		
96	磁器	碗	(11.8)	6.3	4.3	K	70	良好	明青灰	SK10 №9 瀬戸美濃系 施軸 染付 焼罫		21-25
97	磁器	坪	(6.6)	[2.6]	—	K	30	良好	灰白	SK10 肥前系 施軸		
98	磁器	坪	(7.4)	3.7	2.8	K	40	良好	灰白	SK10 瀬戸美濃系 染付 施軸 端反形		21-26
99	陶器	碗	(13.0)	[2.5]	—	IK	10	良好	灰白	SK10 瀬戸美濃系 灰軸 刷毛目		
100	陶器	碗	(9.2)	5.2	3.0	IK	30	良好	灰白	SK10 京都信楽系 灰軸		21-27
101	陶器	坪	(6.0)	[2.6]	—	K	20	良好	灰白	SK10 京都信楽系 灰軸		
102	陶器	灯明皿	(12.0)	[2.0]	—	HK	15	良好	灰白	SK10 京都信楽系 灰軸 磁質		21-28
103	陶器	油受皿	10.5	1.7	4.3	IK	70	良好	灰白	SK10 京都信楽系 灰軸		
104	磁器	瓶	—	[3.1]	8.6	K	50	良好	灰白	SK10 肥前系 外面施軸 染付		21-29

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
105	陶器	蓋	5.6	3.0	5.4	IK	95	良好	灰黄褐色	SK10	外面施軸 三彩 急須	22-4
106	瓦質土器	火鉢	(16.0)	[5.7]	—	CEK	20	良好	黒	SK10	トビガンナ 口縁ミガキ	
107	瓦質土器	火鉢	(27.4)	[6.5]	—	EIK	15	普通	黒	SK10	トビガンナ 口縁ミガキ	
108	瓦質土器	燈炉	幅[4.1] 厚さ1.1	器高[4.1] 1.7	—	EIK	5	普通	灰	SK10	口縁 煤付着	
109	瓦質土器	火鉢	(30.2)	[7.1]	—	CHI	10	普通	灰黄	SK10	—	
110	瓦質土器	焙烙	(30.2)	[2.7]	(30.6)	EHK	10	普通	にぶい黄褐色	SK10	丸底 砂目底	
111	瓦質土器	焙烙	(39.0)	[4.3]	—	CEIK	10	普通	褐灰	SK10	平底 外面下半部ズリ	
112	土師質土器	甕	2.5	1.6	2.0	EI	95	普通	にぶい褐色	SK10	回転糸切り(左)	
113	瓦質土器	蓋	3.4	[1.6]	—	HIK	95	普通	暗灰	SK10	火消差 つまみ部分 燻し	
114	土製品	羽口	長さ4.6 厚さ1.0	胴部径4.1	—	CEHIK	100	普通	灰	SK10	瓦質	
115	土製品	羽口	長さ9.8 口径12.0	胴部径17.0	—	CEHIK	95	普通	灰	SK10	刻印「㊦」 瓦質	22-6
116	陶器	土管	(10.0)	[5.6]	—	EIK	20	良好	暗赤灰	SK10	常滑系 鉄軸 砂粒付着 開口部内径9.3cm 受部7.0cm 基部5.2cm 外径6.8cm	
117	磁器	坏	(7.2)	[3.6]	(3.0)	K	10	良好	明緑灰	SK11	瀬戸美濃系 施軸 染付	
118	磁器	皿	(20.0)	[2.2]	—	K	10	良好	灰白	SK11	肥前系 施軸 染付	
119	磁器	急須	6.7	7.1	(6.4)	K	85	良好	灰白	SK11	瀬戸美濃系 施軸 染付	
120	磁器	碗	11.4	[4.4]	—	K	80	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 施軸 染付 葉の模様 口唇部・見込み部分に線 被熱	
121	磁器	碗	(10.9)	5.5	4.3	K	80	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 施軸 染付 草花模様 口唇部に二重線 見込み部分に線の花 軸ミツあり	
122	磁器	碗	—	[4.3]	4.6	IK	70	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 施軸 染付 内面圈線 外面に一重線 全周に文様 端反軸	
123	磁器	鉢	—	[4.2]	(7.3)	IK	25	良好	白	SK12	施軸 染付 蛇ノ目型型高台 見込み部分に文様 焼線印	
124	磁器	碗	(7.0)	6.0	4.0	K	50	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 施軸 染付	
125	磁器	碗	(6.6)	5.8	4.4	K	40	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 施軸 染付 疊付一周敲打痕	22-7
126	磁器	碗	(6.4)	[5.6]	—	K	20	良好	灰白	SK12	瀬戸美濃系 施軸 染付 刷・花の模様	
127	磁器	碗	(6.6)	[5.0]	—	K	30	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 施軸 染付	
128	磁器	碗	(6.8)	[5.0]	—	K	10	良好	灰白	SK12	瀬戸美濃系 施軸 染付	
129	磁器	鉢	(22.4)	[7.2]	—	K	15	良好	白	SK12	肥前系 施軸 染付 内面青緑軸	
130	磁器	香炉	—	[3.7]	4.2	K	50	良好	灰白	SK12	肥前系 外面施軸 内面重ね焼痕 見込み部分に黒書	
131	磁器	蓋	(3.2)	2.6	8.9	K	50	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 施軸 染付 端反軸	
132	磁器	蓋	つまみ(4.0)	2.5	9.5	K	50	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 施軸 染付 端反軸	
133	磁器	蓋	つまみ1.5	1.9	6.7	K	100	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 施軸 外面酸化コバルト染付 急須の蓋 蓋上面に模様	
134	磁器	水滴	縦(6.0) 高さ4.1	横8.4	—	K	60	良好	白	SK12	No.29 施軸 外面染付 型成形 底部内外布目	
135	陶器	碗	(4.8)	3.3	—	K	30	普通	灰白	SK12	京都信楽系 灰軸 小杉痕	23-1
136	陶器	碗	—	[2.3]	3.4	K	70	普通	褐灰	SK12	萩系 内面施軸 外面ビラ掛け	
137	陶器	碗	(8.6)	5.9	3.2	K	40	良好	灰	SK12	京都信楽系 灰軸 貫入 見込み部分に付着物あり	
138	陶器	坏	(5.2)	[2.1]	—	K	5	普通	灰白	SK12	瀬戸美濃系 灰軸	
139	陶器	坏	—	[2.1]	—	H	30	普通	灰白	SK12	京都信楽系 灰軸	
140	陶器	灯明皿	(8.8)	1.8	(3.3)	K	40	良好	灰白	SK12	灰軸 見込みビン痕	
141	陶器	灯明皿	(9.4)	2.3	4.3	IK	40	普通	灰白	SK12	瀬戸美濃系 柿軸 内面重ね焼痕 底部軸ふきとり	
142	陶器	灯明皿	(9.5)	1.7	3.8	IK	20	普通	灰白	SK12	瀬戸美濃系 柿軸 内面重ね焼痕 底部軸ふきとり	
143	陶器	灯明皿	(8.2)	1.7	(3.6)	IK	40	普通	灰白	SK12	京都信楽系 灰軸 見込みビン痕	
144	陶器	灯明皿	(8.6)	1.8	(3.8)	K	40	普通	灰白	SK12	No.7 京都信楽系 灰軸 見込みビン痕	
145	陶器	灯明皿	(4.4)	1.8	—	K	30	普通	灰白	SK12	京都信楽系 灰軸 見込みビン痕	23-2
146	陶器	灯明皿	(4.4)	1.9	—	K	30	普通	灰白	SK12	京都信楽系 灰軸	
147	陶器	灯明皿	(9.0)	[1.5]	—	K	5	普通	灰白	SK12	京都信楽系 灰軸	
148	陶器	灯明皿	(10.4)	2.4	(4.4)	K	5	普通	白	SK12	京都信楽系 灰軸 外面油煙痕	
149	陶器	油受皿	10.4	1.9	4.6	I	90	普通	にぶい褐色	SK12	瀬戸美濃系 柿軸 外面輪状重ね焼痕	
150	陶器	油受皿	(8.2)	5.1	6.1	K	90	普通	灰白	SK12	京都信楽系 灰軸 磁質	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	現存	状態	色調	遺構	備考	図版
151	陶器	德利	2.4	15.2	6.3	IK	85	良好	灰白	SK12	瀬戸美濃系 柿輪 ペコカン 底部軸ふきとり	23-3
152	土師質土器	甕	—	[8.7]	—	EH1	5	普通	にぶい褐色	SK12	外面墨書	23-4
153	陶器	両手鍋	(20.0)	11.9	7.7	HIK	75	良好	灰白	SK12	Na5・6・9・10 三脚 柿輪 見込み目取5箇所	
154	陶器	行平鍋	長さ5.1～6.2 径2.6～3.6			K	100	良好	にぶい橙	SK12	鉄軸 把手	23-5
155	陶器	土瓶	(6.5)	[4.6]	—	K	20	普通	灰白	SK12	外面銅緑軸 青土瓶	
156	陶器	土瓶	(7.1)	[9.3]	—	AIK	45	良好	にぶい赤褐色	SK12	松岡系か 外面鉋肌軸 SK13・G8-H2と接合	
157	陶器	土瓶	—	[4.3]	—	HIK	5	良好	灰	SK12	外面施軸 三彩	
158	陶器	瓶	—	[6.0]	(8.8)	IK	20	良好	灰白	SK12	外面鉄軸	
159	陶器	蓋	つまみ 2.0	[1.4]	—	IK	45	良好	灰白	SK12	外面鉄軸 トビカシナ	
160	陶器	蓋	7.4	1.4	4.5	IK	100	良好	灰白	SK12	外面柿輪 162の水注の蓋か	23-5
161	陶器	蓋	つまみ 1.1	2.5	4.8	K	90	普通	灰白	SK12	青土瓶 外面銅緑軸	23-6
162	陶器	水注	—	[4.3]	4.5	K	20	普通	灰白	SK12	京都信楽系 外面鉄軸	23-7
163	陶器	水注	6.7	8.7	6.0	IK	90	良好	灰白	SK12	瀬戸美濃系 柿輪	
164	陶器	水注	(7.2)	[9.2]	—	K	40	普通	灰白	SK12	京都信楽系 灰軸	
165	土師質土器	火鉢	(29.2)	[4.0]	—	HIK	10	普通	にぶい黄褐色	SK12		
166	瓦質土器	火消壺	(24.2)	[9.7]	—	IK	10	普通	暗灰	SK12	内外面ナデ 煤付着 外面弱いミガキ	
167	瓦質土器	火鉢	(17.4)	[4.1]	—	IK	20	普通	暗灰	SK12	口縁ミガキ	
168	瓦質土器	火鉢	—	[8.2]	—	IK	5	普通	暗灰	SK12	口縁ミガキ	
169	瓦質土器	火鉢	—	[3.1]	(19.4)	HIK	25	普通	灰黄褐色	SK12	脚付火鉢 脚部ナデ 底部無調整	
170	瓦質土器	焙烙	—	[4.4]	—	HIK	5	普通	灰黄	SK12	平底 底部シワ状痕 内外面ナデ	
171	土師質土器	焙烙	—	3.0	—	HIK	5	普通	にぶい橙	SK12	丸底(扁平) 底部シワ状痕 内耳	
172	瓦質土器	焙烙	—	[4.7]	—	CIK	5	普通	灰黄褐色	SK12	平底 底部シワ状痕 外面下半シワ状痕 ケズリ	24-1
173	土師質土器	焙烙	(39.0)	[3.8]	(39.6)	HIK	10	普通	灰黄褐色	SK12	丸底 底部シワ状痕 底部外周ヘラケズリ	
174	瓦質土器	焙烙	—	[3.4]	—	HIK	5	普通	灰黄	SK12	平底 やや酸化変成焼きみ	
175	土師質土器	鍋	—	[2.4]	(11.0)	EHK	20	普通	にぶい黄褐色	SK12	片手鍋 外面上平クロコナデ 下半回転ヘラケズリ	
176	瓦質土器	目皿	外径(5.4) 孔径2.0 長さ0.7～1.0			HIK	30	普通	灰黄	SK12	内外面クロコナデ	
177	瓦質土器	目皿	外径(7.0) 孔径2.0 厚さ0.9			HIK	20	普通	黄灰	SK12	外周ナデ 上面無調整	
178	瓦質土器	蓋	(8.4)	[1.9]	(6.7)	AIK1	20	普通	黒	SK12	土瓶 内面ナデ	
179	施軸土器	乗燭	4.4	1.9	3.0	K	95	普通	橙	SK12	江戸在地系 透明軸 回転糸切り(左)	24-2
180	施軸土器	乗燭	4.2	1.9	2.8	K	100	普通	橙	SK12	江戸在地系 透明軸 回転糸切り(左)	24-3
181	施軸土器	乗燭	2.5	1.6	1.9	AHK	100	普通	橙	SK12	江戸在地系 煤付着	24-4
182	施軸土器	カンテラ	径3.3 高さ[2.2]			HIK	70	普通	橙	SK12	江戸在地系 透明軸 被熱	
183	瓦質土器	電鐙	(40.0)	[2.4]	—	IK	5	普通	灰	SK12	幅広 内径(32.0)cm 最大径(40.2)cm	
184	陶器	坏	(5.0)	[2.5]	—	HI	30	普通	灰白	SK13	京都信楽系 灰軸	
185	陶器	水注	—	[2.2]	—	K	5	良好	灰白	SK13	京都信楽系 灰軸	
186	磁器	碗	(9.8)	5.1	(3.8)	K	80	普通	明緑灰	SK29	肥前系 施軸 外面染付 底部砂付着	
187	磁器	碗	(8.4)	5.8	(3.8)	K	90	普通	明緑灰	SK29	瀬戸美濃系 施軸 染付 草文文 極多	
188	磁器	皿	—	[3.3]	—	K	5	普通	灰白	SK29	肥前系 施軸 染付 輪高台型皿 被熱か	
189	磁器	皿	—	4.4	—	K	10	普通	灰白	SK29	肥前系 施軸 染付 輪高台型皿 被熱	
190	磁器	皿	(10.2)	[2.4]	(4.3)	K	40	普通	灰白	SK29	肥前系 施軸 染付 被熱	
191	磁器	皿	—	[1.2]	3.7	K	70	普通	灰白	SK29	瀬戸美濃系 施軸 型押隔割 被熱か	24-4
192	陶器	碗	10.2	5.2	4.0	EHK	95	普通	灰白	SK29	Na1 瀬戸美濃系 灰軸	

ト質の灰褐色土が主である。

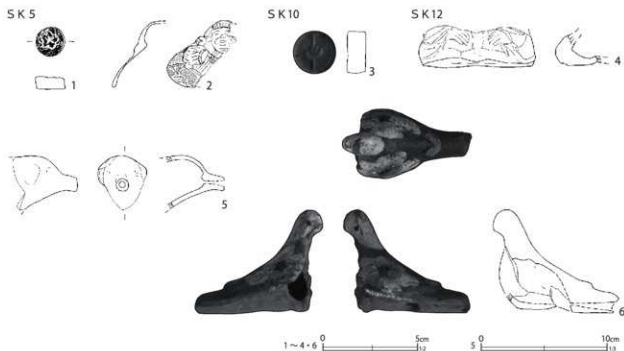
第11号土壌 (第46図)

調査区中央のG8-I・J 3グリッドに位置する。長軸1.95m、短軸1.62m、深さ0.35mの楕円形である。長軸の方位はN-5°-Wである。

断面形は不整形な逆台形で、底面はほぼ平坦である。覆土は、砂層主体の灰黄褐色土と暗褐色土である。

第12号土壌 (第46図)

調査区北西のG8-H1・2グリッドに位置す



第56図 土壌出土遺物 (10)

第18表 土壌出土遺物観察表 (2) (第56図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土製品	泥面子	1.5	1.5	0.6	1.9	HI	普通	橙	SK5	江戸在地系 雲母付着 一枚型 中実	37-3
2	土製品	恵比寿	—	[3.5]	—	4.8	HI	普通	にぶい橙	SK5	江戸在地系 二枚型 中空	37-4
3	土製品	泥面子	2.2	2.2	1.0	1.9	AEIK	普通	にぶい橙	SK10	江戸在地系 雲母付着 一枚型 中実	
4	土製品	特人形	6.2	[2.2]	—	23.7	AHIE	普通	にぶい橙	SK12	二枚型 中空	37-5
5	磁器	水滴	5.1	4.3	3.9	20.0	K	良好	白	SK12	瀬戸美濃系 外面施軸 染付 象形	37-6
6	土製品	埴笛	6.7	5.7	—	28.3	AHIE	普通	にぶい橙	SK12	江戸在地系 二枚型 中空 透明軸 白土化 部分的褐色	37-7

る。西側は調査区域外になる。確認できた長軸は6.50m、短軸は1.75m、深さ0.65mで、不整形な長方形である。長軸の方位はN-73°-Eである。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。

覆土は、炭化物、木片などを含む暗灰色土、暗褐色土、灰色土、黒褐色土にシルトの灰褐色土や灰色土などが混在する。

陶磁器、土器、木製品、金属製品などが大量に出土した。

第13号土壌 (第46図)

調査区北のG8-H2グリッドに位置する。長軸2.50m、短軸1.80m、深さ0.75mの隅丸長方形である。長軸の方位はN-73°-Eである。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。

覆土は、小木片か小さな木の根を多量に含む暗褐色土、黒褐色土、シルトの灰褐色土と暗灰色土、灰黄褐色土、黒褐色土、砂質の暗灰色土が混在する。陶器や木製品などが出土した。

第29号土壌 (第46図)

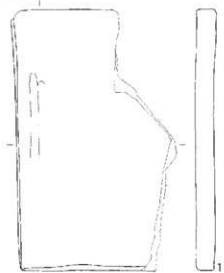
調査区北西のG8-H1・2グリッドに位置する。長軸4.50m、短軸2.35m、深さ0.50mの長方形である。長軸の方位はN-74°-Eである。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。

覆土は、灰褐色土、褐色土、灰黄褐色土で、焼土や焼土ブロックを多く含むため人為的な埋戻しの可能性がある。

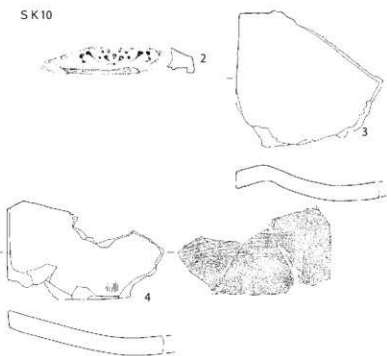
第39号土壌 (第46図)

調査区北西のG8-I2グリッドに位置する。

SK 8



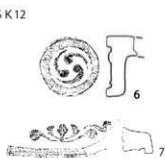
SK 10



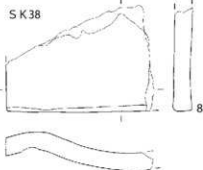
SK 11



SK 12



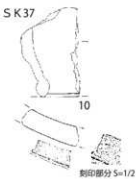
SK 38



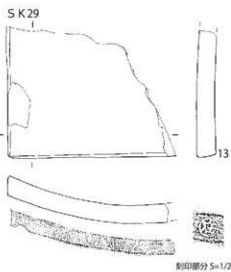
SK 12



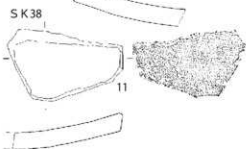
SK 37



SK 29

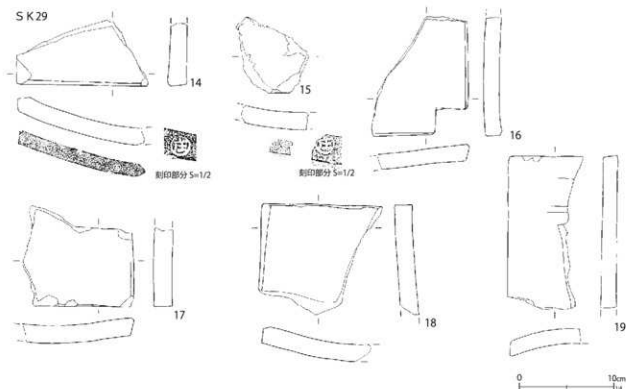


SK 38



0 10cm
1:4

第57図 土壙出土遺物 (11)



第58図 土城出土土遺物 (12)

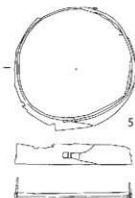
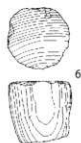
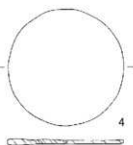
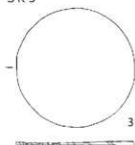
第19表 土城出土土遺物観察表 (3) (第57・58図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	平瓦	27.5	[16.7]	2.0	—	—	ACI	普通	灰	SK8	精良 砂目に近い	38-5
2	瓦	軒棧瓦	—	—	1.8	[2.8]	—	AIK	普通	灰黄	SK10	精良 C種「東海式」1・2類のいずれか 中心飾り16類 唐草目類	
3	瓦	棧瓦	[14.2]	[15.5]	1.7	—	—	AIK	普通	灰	SK10	精良	40-3
4	瓦	平瓦	[9.1]	[16.6]	1.8	—	—	ACI	普通	灰	SK10	精良 滑り止め刷毛目	
5	瓦	平瓦	[9.6]	[13.2]	1.8	—	—	AK	普通	灰	SK11	精良 煤付着	40-1
6	瓦	軒丸瓦	—	—	2.0	—	6.1	AK	普通	灰	SK12	連珠三ッ巴C種左巻き 巴頭部小さく尾長い 圏線なし	
7	瓦	軒棧瓦	[3.0]	—	—	—	—	K	普通	暗灰	SK12	江戸式B-2類 唐草L 中心の花房が二つに分かれている	40-1
8	瓦	棧瓦	[11.2]	[15.6]	1.8	—	—	AHK	普通	暗灰	SK38	表面焼けている 無調整	40-3
9	瓦	平瓦	[16.8]	[12.7]	1.8	—	—	AIK	普通	暗灰	SK12	煤付着	
10	瓦	平瓦	[9.4]	[5.1]	1.9	—	—	AHK	普通	灰	SK37	刻印 (㊦) 裏面煤付着 砂目に近いケズリ目立つ	38-6
11	瓦	平瓦	[7.3]	[12.1]	1.8	—	—	A	普通	暗灰	SK38	接合面にキザミ 緑痕	
12	瓦	道具瓦	[5.1]	[6.3]	1.6	—	—	AHK	普通	灰白	SK38	裏面荒れている	38-7
13	瓦	平瓦	[13.7]	[17.6]	1.9	—	—	AIK	普通	灰	SK29	刻印 (㊦) 精良 荒れている 酸化鉄付着	
14	瓦	平瓦	[6.7]	[13.8]	1.8	—	—	AIJK	普通	灰	SK29	刻印 (㊦) 精良 荒れている	38-8
15	瓦	平瓦	[6.8]	[7.0]	1.8	—	—	AIK	普通	にぶい橙	SK29	刻印 (㊦) 精良 土師質だが本来は瓦質 裏面荒れている	
16	瓦	平瓦	[12.4]	[9.6]	1.6	—	—	HIK	普通	暗灰黄	SK29	精良 切欠きあり 内外面鉄分強く茶色 裏面荒れている	40-3
17	瓦	平瓦	[10.4]	[11.6]	1.9	—	—	AIK	普通	灰	SK29	裏面荒れている 内外面酸化鉄強く茶色	
18	瓦	平瓦	[11.6]	[12.5]	1.9	—	—	AIK	普通	にぶい橙	SK29	裏面やや荒れている 土師質と瓦質の部分がある	40-3
19	瓦	平瓦	[16.3]	[7.8]	1.6	—	—	HIK	普通	にぶい橙	SK29	土師質 裏面粘土剥れあり	

SK1



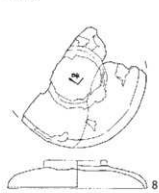
SK5



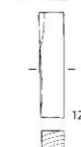
SK3



SK6



SK7



1・2・7・13

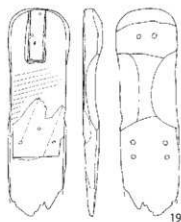
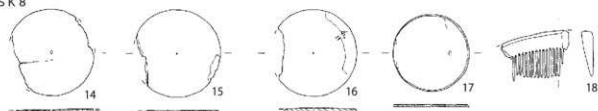
0 10cm

3・6・8・12

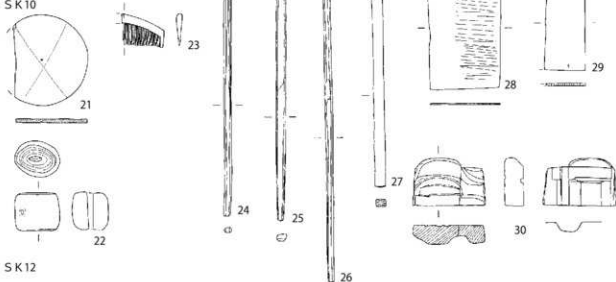
0 10cm

第59図 土壇出土遺物 (13)

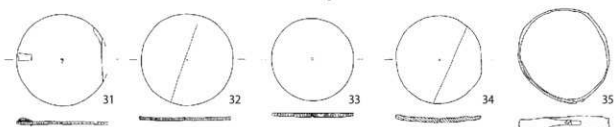
SK 8



SK 10



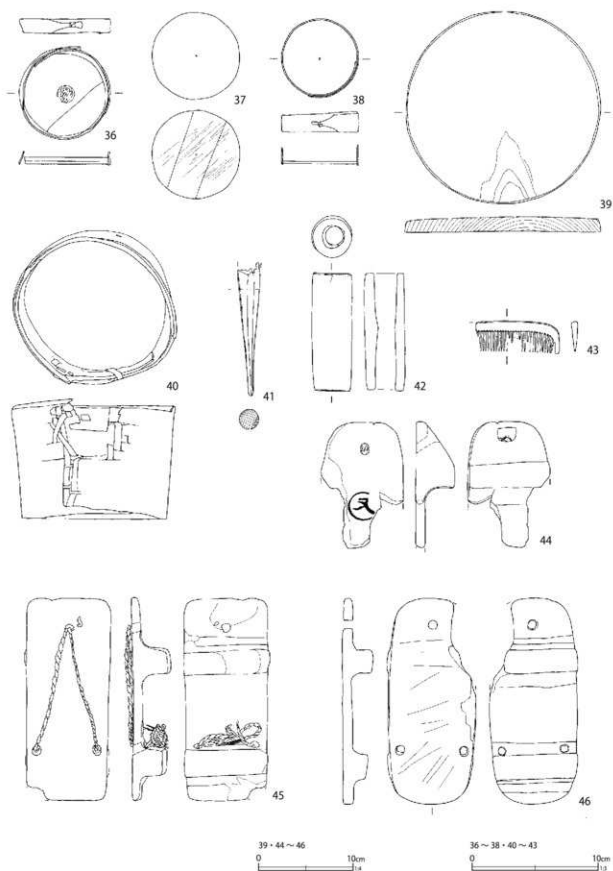
SK 12



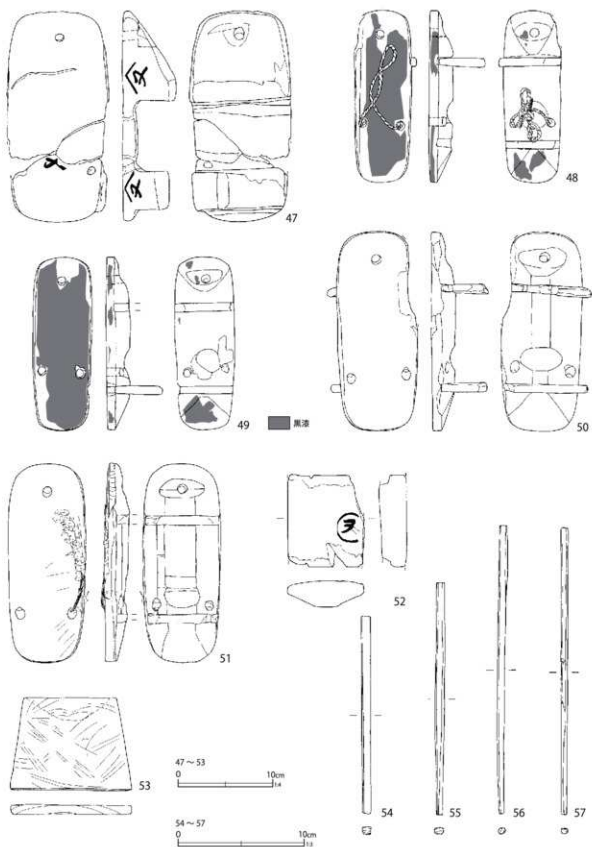
19・20
0 10cm
1:4

14・18・21・35
0 10cm
1:10

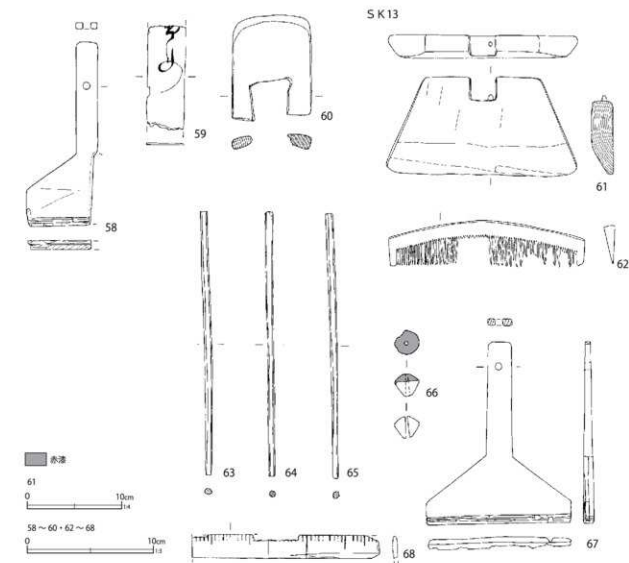
第60図 土壇出土遺物 (14)



第61図 土壙出土遺物 (15)



第62図 土曜出土遺物 (16)



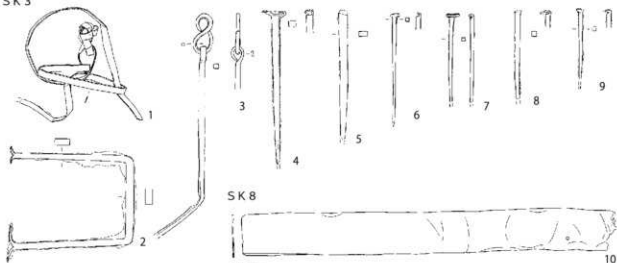
第63図 土壌出土遺物 (17)

第20表 土壌出土遺物観察表 (4) (第59 ~ 63図)

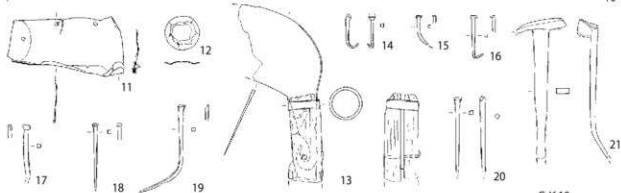
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	遺構	備考	図版
1	木製品	膳	18.8	17.2	0.8	—	—	—	SK1	表裏面黒漆	42-1
2	木製品	棕櫚碗	92.8	—	—	—	—	—	SK3		
3	木製品	曲物	—	—	0.3	9.4	—	—	SK5	直板	
4	木製品	曲物	—	—	0.5	9.2	—	—	SK5	底板	
5	木製品	曲物	—	—	—	9.2	1.5	—	SK5		
6	木製品	栓	—	—	—	5.0	4.9	—	SK5		
7	木製品	下駄	20.9	6.8	—	—	[1.8]	—	SK5	No.40 陰印下駄	
8	木製品	漆桶蓋	—	—	—	(10.7)	[1.8]	—	SK6	No.2 つまみ内「加」	
9	木製品	籠	10.5	4.3	0.7	—	—	—	SK6		
10	木製品	不明品	9.0	2.0	1.4	—	—	—	SK6		
11	木製品	不明品	3.7	1.8	0.9	—	—	—	SK6		
12	木製品	不明品	8.3	1.9	1.6	—	—	—	SK6		
13	木製品	下駄	23.9	6.0	—	—	1.9	—	SK7	無眼下駄	
14	木製品	曲物	—	—	0.1	7.4	—	—	SK8	底板	
15	木製品	曲物	—	—	0.2	6.9	—	—	SK8	底板	
16	木製品	曲物	—	—	0.3	6.8	—	—	SK8	底板	

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	造構	備考	図版
17	木製品	曲物	—	—	0.2	6.0	—	—	SK8	蓋	42-2
18	木製品	櫛	[5.3]	3.6	0.8	—	—	—	SK8		
19	木製品	下駄	[21.8]	5.9	—	—	1.0	—	SK8	無眼下駄	
20	木製品	下駄	[15.2]	5.8	—	—	1.5	—	SK8	無眼下駄	
21	木製品	曲物	—	—	0.3	7.2	—	—	SK10	底板	
22	木製品	不明品	2.9	3.5	—	—	3.0	—	SK10		
23	木製品	櫛	[3.3]	2.5	0.4	—	—	—	SK10		
24	木製品	箸	17.2	0.5	0.4	—	—	—	SK10		
25	木製品	箸	17.7	0.7	0.6	—	—	—	SK10		
26	木製品	箸	22.6	0.6	0.6	—	—	—	SK10		
27	木製品	箸	15.2	0.8	0.6	—	—	—	SK10		
28	木製品	付け木	9.4	5.7	0.1	—	—	—	SK10		42-3
29	木製品	付け木	7.7	[3.2]	0.2	—	—	—	SK10		
30	木製品	不明品	3.7	5.7	1.5	—	—	—	SK10		
31	木製品	曲物	—	—	0.2	7.2	—	—	SK12	蓋	
32	木製品	曲物	—	—	0.2	7.2	—	—	SK12	底板	
33	木製品	曲物	—	—	0.3	6.5	—	—	SK12	底板	
34	木製品	曲物	—	—	0.3	6.7	—	—	SK12	No1 側板	
35	木製品	曲物	—	—	—	7.1	1.0	—	SK12	No1 側板	
36	木製品	曲物	—	—	—	7.1	1.2	—	SK12	底部焼印「㊟」	
37	木製品	曲物	—	—	—	6.9	—	—	SK12	直線状の線刻	42-4
38	木製品	曲物	—	—	—	5.1	1.4	—	SK12		
39	木製品	桶	—	—	1.5	20.7	—	—	SK12	蓋ないし底板	
40	木製品	曲物	—	—	—	13.0	9.8	—	SK12	No11	
41	木製品	栓	[10.5]	1.8	1.8	—	—	—	SK12	41・42でセット	
42	木製品	呑口	9.2	3.2	—	—	—	—	SK12	穴1.7cm 41・42でセット	
43	木製品	櫛	[6.5]	2.5	0.5	—	—	—	SK12		
44	木製品	下駄	[13.2]	—	—	—	4.1	—	SK12	斜り下駄 焼印「㊟」	
45	木製品	下駄	21.4	8.7	—	—	4.0	—	SK12	連備下駄	
46	木製品	下駄	21.8	9.2	—	—	3.2	—	SK12	No22 連備下駄	
47	木製品	下駄	22.3	10.4	—	—	5.6	—	SK12	No25・26 斜り下駄 焼印「㊟」	42-7
48	木製品	下駄	18.2	6.0	—	—	5.9	—	SK12	陰印下駄 全面黒漆	
49	木製品	下駄	18.4	6.3	—	—	5.9	—	SK12	陰印下駄 全面黒漆	
50	木製品	下駄	21.1	8.5	—	—	6.0	—	SK12	No15 陰印下駄	
51	木製品	下駄	21.0	8.2	—	—	[2.5]	—	SK12	No24 陰印下駄	
52	木製品	下駄	[9.6]	8.0	—	—	[2.7]	—	SK12	陰印下駄 焼印「㊟」	
53	木製品	下駄	9.7	12.8	1.0	—	—	—	SK12	歯	
54	木製品	箸	15.6	0.7	0.6	—	—	—	SK12		
55	木製品	箸	18.3	0.7	0.5	—	—	—	SK12		
56	木製品	箸	22.8	0.6	0.5	—	—	—	SK12		
57	木製品	箸	22.6	0.5	0.4	—	—	—	SK12		43-1
58	木製品	刷毛	14.5	[5.2]	0.7	—	—	—	SK12		
59	木製品	木札	[8.0]	2.9	0.1	—	—	—	SK12		
60	木製品	不明品	8.1	6.2	1.0	—	—	—	SK12		
61	木製品	脚	10.3	20.2	2.3	—	—	—	SK13	No1 歯 上辺12.4cm 下辺20.2cm	
62	木製品	櫛	15.4	3.6	0.9	—	—	—	SK13		
63	木製品	箸	20.8	0.6	0.4	—	—	—	SK13		
64	木製品	箸	20.8	0.5	0.4	—	—	—	SK13		
65	木製品	箸	20.9	0.5	0.5	—	—	—	SK13		
66	木製品	浮子	1.8	1.9	—	—	—	—	SK13	上半赤漆	
67	木製品	刷毛	14.3	11.4	0.5	—	—	—	SK13		43-2
68	木製品	ものさし	[14.7]	[1.9]	0.4	—	—	—	SK13		43-3

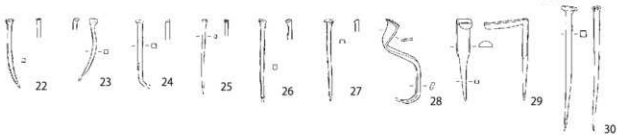
SK 3



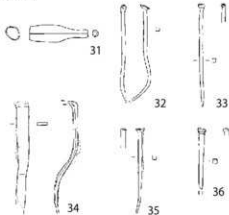
SK 8



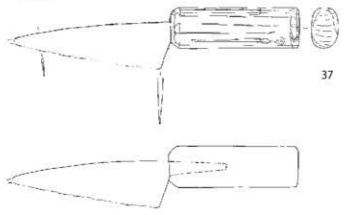
SK 10



SK 12



SK 13



0 10cm

第64図 土坑出土遺物 (18)

第21表 土坑出土遺物観察表(5)(第64図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	不明	縦9.0 横9.8 幅0.5 厚さ0.05 重さ7.7	SK3	No.108	46-4
2	鉄製品	門金具	長さ10.0 幅1.2 厚さ0.6 重さ106.0	SK3	No.89	
3	鉄製品	火箸	長さ[17.7] 幅0.4 厚さ0.4 重さ13.8	SK3	No.177	
4	鉄製品	釘	長さ[12.3] 幅0.6 厚さ0.5 重さ14.8	SK3	No.31	
5	鉄製品	釘	長さ[10.3] 幅0.7 厚さ0.4 重さ9.2	SK3		
6	鉄製品	釘	長さ[8.7] 幅0.3 厚さ0.4 重さ2.9	SK3		
7	鉄製品	釘	長さ[7.1] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.6	SK3		
8	鉄製品	釘	長さ[7.1] 幅0.4 厚さ0.4 重さ5.3	SK3		
9	鉄製品	釘	長さ[6.0] 幅0.3 厚さ0.4 重さ2.6	SK3		
10	銅製品	不明	長さ[29.7] 幅3.4 厚さ0.03 重さ27.8	SK8		
11	銅製品	不明	縦4.8 横9.3 厚さ0.2 重さ7.4	SK8		46-5
12	銅製品	不明	縦2.6 横2.7 厚さ0.025 重さ0.8	SK8		
13	鉄製品	鎌	長さ[14.1] 刃幅5.7 背幅0.2 重さ58.9	SK8	柄木残存 口金・目釘あり	
14	鉄製品	釘	長さ2.7 幅0.2 厚さ0.3 重さ0.9	SK8		
15	鉄製品	釘	長さ[2.4] 幅0.2 厚さ0.2 重さ0.5	SK8		
16	鉄製品	釘	長さ3.4 幅0.2 厚さ0.2 重さ1.3	SK8		
17	鉄製品	釘	長さ[4.3] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.3	SK8		
18	鉄製品	釘	長さ5.3 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.2	SK8		
19	鉄製品	釘	長さ[7.0] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.1	SK8		
20	鉄製品	釘	長さ[6.5] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.9	SK8		
21	鉄製品	釘	長さ[11.2] 幅1.0 厚さ0.4 重さ32.1	SK8		
22	鉄製品	釘	長さ[5.2] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.7	SK8		
23	鉄製品	釘	長さ[4.6] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.7	SK8		
24	鉄製品	釘	長さ[5.3] 幅0.4 厚さ0.4 重さ2.3	SK8		
25	鉄製品	釘	長さ[5.5] 幅0.2 厚さ0.3 重さ1.5	SK8		
26	鉄製品	釘	長さ[6.3] 幅0.3 厚さ0.4 重さ3.5	SK8		
27	鉄製品	釘	長さ[6.2] 幅0.4 厚さ0.3 重さ2.5	SK8		
28	鉄製品	釘	長さ[6.7] 幅0.9 厚さ0.2 重さ8.2	SK8		
29	鉄製品	不明	長さ6.5 幅1.1 厚さ0.4 重さ18.4	SK8		
30	鉄製品	釘	長さ[9.7] 幅0.5 厚さ0.5 重さ8.2	SK10		
31	銅製品	煙管	長さ4.6 口付径0.5 小口縦1.0 小口横1.1 重さ9.0	SK12	吸口	
32	鉄製品	釘	長さ[7.9] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.3	SK12		
33	鉄製品	釘	長さ8.2 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.3	SK12		
34	鉄製品	釘	長さ[8.5] 幅0.9 厚さ0.3 重さ8.7	SK12	SK37	
35	鉄製品	釘	長さ6.7 幅0.3 厚さ0.4 重さ3.4	SK12		
36	鉄製品	釘	長さ[4.8] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.8	SK12	SK37	
37	鉄製品	包丁	長さ[22.7] 刃長[12.5] 刃幅3.6 背幅0.4 重さ75.2	SK13	柄は木製	

SK 5



SK 8



SK 10



SK 37

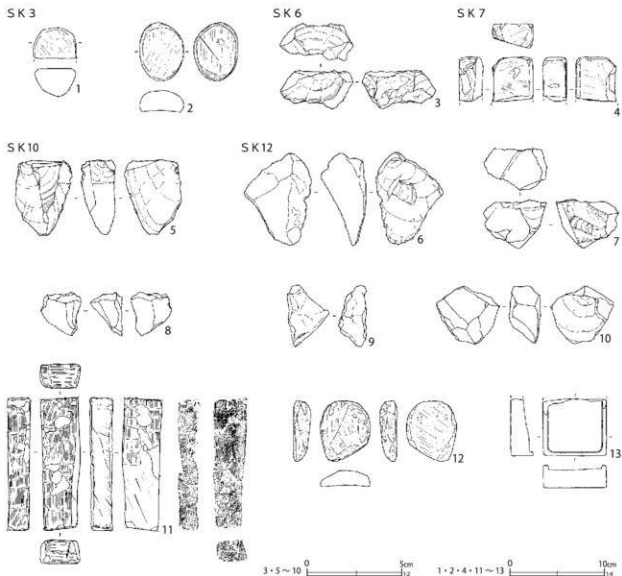


0 5cm

第65図 土坑出土遺物(19)

第22表 土壌出土遺物観察表(6)(第65図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径24.85 厚さ1.15 重さ2.3	SK5	寛永通寶(新)	47-3
2	銅製品	銭貨	径24.43 厚さ1.14 重さ3.2	SK5	寛永通寶(新)	47-3
3	銅製品	銭貨	径(22.00) 厚さ0.88 重さ0.6	SK8	□□寶	
4	銅製品	銭貨	径21.89 厚さ1.78 重さ2.3	SK10	寛永通寶(新)	47-3
5	銅製品	銭貨	径24.40 厚さ0.88 重さ2.1	SK10	寛永通寶(新)	47-3
6	銅製品	銭貨	径(27.00) 厚さ1.20 重さ3.2	SK37	寛永通寶(四文銭)	



第66図 土壌出土遺物(20)

長軸1.70m、短軸0.70m、深さ0.40mの長方形である。長軸の方位はN-74°-Eである。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。

覆土は、炭化物粒を多量に含む灰黄褐色土と褐色土である。

土壌出土遺物(第47～67図)

第2地点第一面の土壌からは、陶磁器、土器、瓦、木製品、鉄製品といった多様な遺物が出土した。

第47～55図は陶磁器と土器である。磁器は肥前系、瀬戸美濃系が相半ばする。

第23表 土壌出土遺物観察表（7）（第66図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砥石	[3.3]	4.6	[3.1]	64.7	頁岩	SK3	No.170 転石利用	
2	石製品	軽石	6.2	4.7	2.4	38.1	角閃石ダイサイト	SK3	No.85 断面半月形 自然面使用	47-1
3	石製品	火打石	2.0	3.9	2.0	13.6	玉髓	SK6	未使用	47-2
4	石製品	砥石	[4.7]	[4.3]	2.5	69.9	流紋岩	SK7		
5	石製品	火打石	3.9	3.0	1.8	19.4	玉髓	SK10	剥片 右側縁わずかに使用か	47-2
6	石製品	火打石	4.9	3.6	2.4	28.1	玉髓	SK12	剥片 右側縁わずかに使用か	47-2
7	石製品	火打石	2.6	3.3	2.2	16.9	玉髓	SK12	未使用	47-2
8	石製品	火打石	2.3	2.1	1.7	6.3	玉髓	SK12	未使用	47-2
9	石製品	火打石	3.3	2.2	1.5	8.4	玉髓	SK12	未使用	47-2
10	石製品	火打石	3.1	3.4	2.7	15.9	玉髓	SK12	剥片 未使用	47-2
11	石製品	砥石	14.1	4.2	2.5	205.3	流紋岩	SK12	幅広工具か、研磨砥か、側面に十字の刻印	46-6
12	石製品	磨石	6.4	5.3	1.8	32.5	角閃石ダイサイト	SK12	多孔質 断面半月形	47-1
13	石製品	硯	[6.0]	6.7	2.3	149.9	凝灰岩	SK12		

碗類は端反碗、広東碗、湯呑碗である。鉢、皿には大振りのものが見られ、やや古相を呈する。一方で、1・9・10の皿、12の蓋物は19世紀前半の様相を示す。

49は産地不明の瓶で、「上△」の釘書きが施されている。陶器は瀬戸美濃系、京都信楽系が大半を占める。13・14は鉄軸が施された笠間系の甕である。

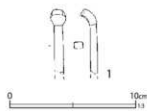
第3号土壌からは土師質土器の焙烙、瓦質土器のカマドの掛口の鏝がまとまって出土した。第12号土壌からは磁器、陶器、土器のまとまった量の遺物が出土している。湯呑碗がまとまって出土しており、端反碗が伴うため19世紀中葉と考えられる。

53は火消壺の蓋で、中央の穿孔はつまみの痕である。

第2地点第一面の土壌出土遺物は、瀬戸美濃系を多く含む点、碗類が大振りのものから端反碗、広東碗、湯呑碗から構成される点、皿が蛇ノ目高台である点から、19世紀初頭から中葉にわたると考えられる。

第56図は土製品、磁器である。1・3は江戸在地系の泥面子で、一枚型の中実である。2・4は二枚型で中空の人形である。5は瀬戸美濃系磁

SK5



第67図 土壌出土遺物（21）

器の水滴である。6は鳩笛である。江戸在地系で白、緑、赤の絵付けが施されている。

瓦は軒丸瓦、平瓦、棧瓦、丸瓦がある。表面が被熱し荒れている個体が多い。2の唐草は所謂東海式である。13～15には「丸に庄」の刻印が施されている。

第59～63図は木製品である。第13号土壌からは刷毛がまとまって出土しており、廃棄した際の職能を示すと考えられる。

小型の曲物、下駄、箸が多い。小型の曲物は、栗橋宿全体で特徴的にみられる器種で、ごく低い側板が付き、蓋が付くもので、何らかの容器と考えられる。径に大小がある。36には焼印「丸に壽」が施され、37には直線状の線刻が施されている。下駄は所謂無眼下駄が最も多く、差歯下駄は陰卯下駄で、露卯下駄は認められない。連歯下駄が少数見られる。いずれも表が外された状態で、鼻緒もほとんど外されている。

第24表 土壌出土遺物観察表（8）（第67図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構	備考	図版
1	ガラス製品	簪	[5.2]	0.7	0.5	7.7	SK5		46-9

45・48・51は鼻緒が残った状態で、51は棕桐縄に布のカバーが付いていたと推定される。44・52は「〇に又」、47には「山に又」の焼印が施されている。

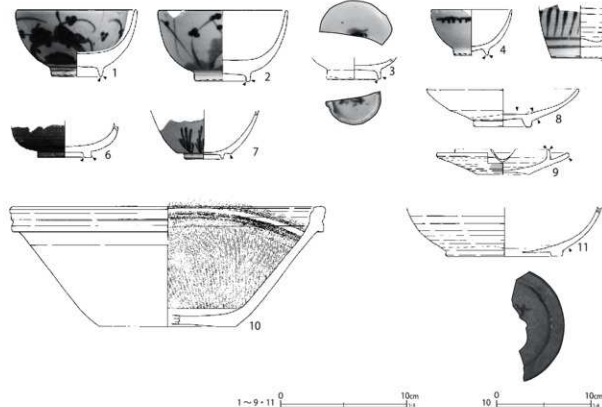
第13号土壌からは刷毛がまとまって出土している。67の刷毛は板を途中まで割り、毛を挟み込んで糸でまとめられている。

第64図は銅・鉄製品である。釘が多い。1は薄い銅板が丸まった状態のものである。37は出刃包丁である。

第65図は銭貨である。ほとんどが新寛永である。

第66図は石製品である。1・4・11は砥石である。4・11は流紋岩製で、櫛目状の加工痕が認められる。

3・5・10は火打石である。第12号土壌からの出土が特に多い。いずれも玉髄製で、8・11は碎片で未使用であるため、製作が行われていた可能性が考えられる。6・7・10は打面が残存している。



第68図 グリッド出土遺物(1)

13は硯である。側面と裏面にわずかに使用痕がある。側面に十字の刻みがあり、製作者の刻印の可能性はある。

第67図1はガラス製の簪の耳かき部分である。

(6) グリッド出土遺物 (第68～70図)

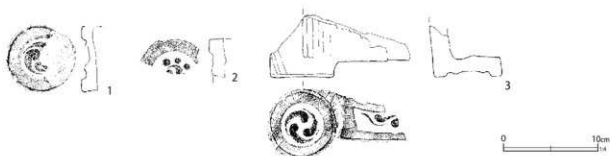
遺構外から出土した遺物をグリッド出土遺物として掲載した。第68図に陶磁器と土器、第69図に瓦、第70図に金属製品を掲載した。

第68図は陶磁器と土器である。1～5は磁器、6～11は陶器である。1・2は肥前系の厚手の碗である。外面に染付が施されている。3は瀬戸美濃系磁器の碗で、焼継が施されている。4は肥前系磁器の坏である。外面に染付が施されている。5は肥前系磁器の徳利である。

6は瀬戸美濃系陶器の碗で上半は柿釉がかけられ、下半はトビガンナが施されている。内面は漆黒釉が施されている。7は京都信楽系陶器の碗である。外面に鉄釉が施されている。8は肥前系の輪充皿である。釉にムラがある。9は内面に灰釉

第25表 グリッド出土遺物観察表(1)(第68図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	国版
1	磁器	碗	9.4	5.3	3.8	K	85	良好	灰白	B8-A3 肥前系 施釉 外面染付	24-5
2	磁器	碗	10.1	5.6	4.0	K	85	良好	灰白	B8-A3 肥前系 施釉 外面染付	24-6
3	磁器	碗	—	[1.7]	(4.0)	K	45	良好	灰白	G8-H3 瀬戸美濃系 施釉 染付 焼継印	
4	磁器	坏	(6.2)	3.6	2.6	K	45	良好	明緑灰	G8-J2・3 東西トレンチ 肥前系 施釉 外面染付	
5	磁器	徳利	—	[4.2]	4.6	K	70	良好	明緑灰	B8-A3 東西トレンチ 肥前系 外面施釉 染付	
6	陶器	碗	—	[2.7]	4.2	IK	85	良好	灰	G8-G2 瀬戸美濃系 内面漆黒釉 外面柿釉 トビガンナ 露茶碗	24-7
7	陶器	碗	—	[3.9]	3.1	IK	60	良好	灰黄	G8-I2 京都信楽系 灰釉 外面鉄絵	
8	陶器	皿	(11.8)	3.0	4.4	IK	45	良好	灰黄褐	B8-B3 肥前系 輪壳皿 施釉 軸ムラあり	
9	陶器	油受皿	10.3	2.0	4.1	AIK	90	良好	灰黄褐	B8-A3 内面灰釉 地方民窯系か	
10	陶器	播鉢	(32.0)	12.7	(14.4)	BHK	45	普通	赤	G8-H2・3 堺明石系 播目10条1単位	
11	陶器	焼か	—	[3.9]	(9.0)	AIK	25	良好	灰黄	B8-A3 灰釉 墨書	



第69図 グリッド出土遺物(2)

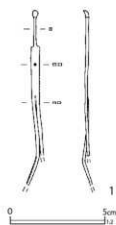
第26表 グリッド出土遺物観察表(2)(第69図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	国版
1	瓦	軒丸瓦	—	—	[1.8]	—	7.0	AK	普通	灰	G8-H3	漆珠三ツ巴文右巻き 巴頭大・尾長い 光沢あり	
2	瓦	軒丸瓦	—	—	1.8	—	[4.0]	AK	普通	灰	B8-A・B3	漆珠三ツ巴文左巻き16珠 巴頭大・尾長い 表面被熱	
3	瓦	軒棧瓦	[14.9]	[6.6]	1.9	—	7.2	AIK	普通	暗灰	G8-H2	漆珠三ツ巴文右巻き 巴頭大・尾長い	39-1

が施された油受け皿で、地方民窯系と思われる。
10は堺明石系の播鉢である。11は産地不明の甕
と思われ、底面に墨書されている。底面の一部し
が残っておらず、判読不能である。

第69図1～3の瓦は、いずれも小破片の軒瓦
である。全体的に瓦は少なく、コンテナ2箱分ほ
どであった。軒瓦は小振りでである。いずれも漆珠
三ツ巴文右巻きである。

第70図は銅製の簪である。脚端部を欠失する。
中位に穿孔が見られる。



第70図 グリッド出土遺物(3)

第27表 グリッド出土遺物観察表(3)(第70図)

番号	種別	器種	法量	備考	国版
1	銅製品	簪	長さ[9.2] 幅0.5 厚さ0.1 重さ2.9	表採	46-2

2. 第2地点（第二面）

第2地点の第二面では、堅穴状遺構2基、溝跡3条、土壕22基、性格不明遺構1基、ビット2基を検出した。

（1）堅穴状遺構

2基の堅穴状遺構は、共に遺構全体に砂の堆積が見られる。洪水等によって一括で埋没したと考えられる。平面形は長方形である。遺物は、木片や土器片がごく少量出土したのみであった。

第1号堅穴状遺構（第71図）

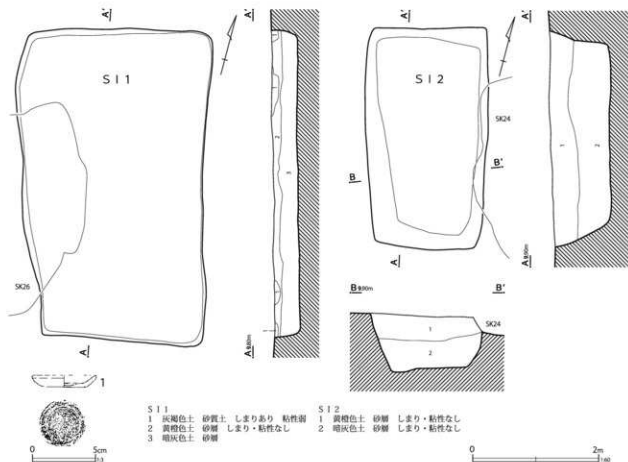
調査区ほぼ中央のG8-I・J3グリッドに位置する。長軸4.95m、確認できた短軸の長さは3.05m、深さは0.38mである。平面形は隅丸長方形である。重複する第26号土壕よりも古い。長

軸方位はN-15°-Wである。断面形は箱形で、底面はほぼ平坦である。覆土は、砂質土または砂で、灰褐色土、黄褐色土、暗灰色土である。

第2号堅穴状遺構（第71図）

調査区中央より北側のG8-H・I2グリッドに位置する。長軸は全長3.50m、確認できた短軸は1.90m、深さ0.80mである。平面形は長方形である。重複する第24号土壕よりも古い。長軸方位はN-16°-Wである。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。覆土は、砂質の黄褐色土と暗灰色土である。

実測可能な遺物はかわらけ1点のみである。左回転の回転糸切りである。

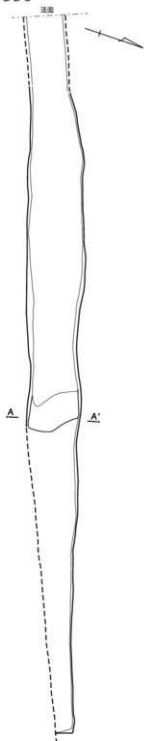


第71図 第1・2号堅穴状遺構・出土遺物

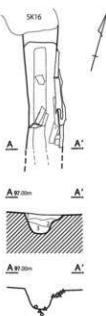
第28表 堅穴状遺構出土遺物観察表（第71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	かわらけ	小皿	5.0	0.8	3.4	I	100	普通	にぶい・橙	S11	粘土粉質	24-8

SD 3



SD 4



SD 3

- 1 黄褐色土 砂礫
- 2 暗灰色土 砂礫

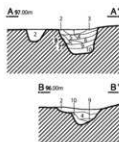
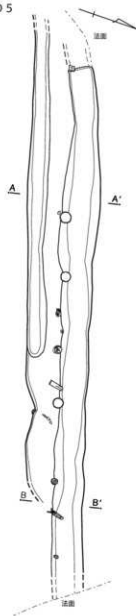
SD 4

- 1 黒褐色土 シルト 樹皮片多量
- 2 灰褐色土
- 3 黒褐色土 樹皮小片多量

SD 5

- 1 黒褐色土 炭化物粒子 (φ1~2 cm程度) 多量
褐色土ブロック (φ1 cm) 若干含む
しまりやや弱 粘性あり
- 2 暗灰褐色土 黄褐色土と黒褐色土がまだらに混じる
しまりあり 粘性弱
- 3 灰黄褐色土 黄褐色土ブロック (φ1 cm) 含む
しまり・粘性やや強
- 4 灰褐色土 炭化物粒子 (φ5 mm程度) やや多量
しまり・粘性やや強
- 5 明灰褐色土 しまり・粘性やや強 粘性強
- 6 灰褐色土 しまりやや強 粘性強
- 7 暗灰褐色土 しまりやや強 粘性強
- 8 明灰褐色土 黄褐色土ブロック (φ1~2 cm程度) 含む
しまり強 粘性やや強
- 9 黒褐色土 しまりあり 粘性極めて強
- 10 灰褐色土 しまりあり 粘性強

SD 5



▲ 木器 ○ 瓦

0 2m

第72図 溝跡

(2) 溝跡

溝跡は東西方向に長い第3・5号溝跡と、南北方向に長い第4号溝跡の3条が検出された。このうち第4号溝跡は、東壁が板材で護岸されていた。

第3号溝跡 (第72図)

調査区中央南よりのG8-J2・3グリッドに位置する。検出された長さは11.30m、幅0.65～0.95m、深さ0.05～0.40mで、調査区外の西に延びる。走向方位はN-72°-Eである。断面形は箱形である。底面は平坦で、ほぼ高低差がない。覆土は砂層の黄褐色土、暗灰色土である。

第4号溝跡 (第72図)

調査区北東のG8-H3・I3グリッドに位置する。重複する第16号土壌より古い。検出され

た規模は、長さ1.80m、幅0.55m、深さ0.30mである。走向方位はN-16°-Wである。断面形は逆台形である。底面は平坦で、ほとんど高低差がない。覆土は黒褐色土、灰褐色土の砂層である。

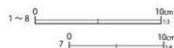
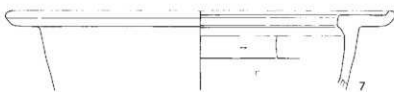
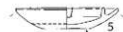
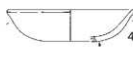
第5号溝跡 (第72図)

調査区北端のG8-G2・3グリッドに位置する。調査区外の東西に延びている。検出された規模は、長さ9.00m、幅0.50～1.15m、深さ0.25～0.40mである。走向方位はN-72°-Eである。断面形は部位によって異なり、逆台形、皿形である。覆土は炭化物粒子を多量に含む黒褐色土、灰褐色土や黄褐色土と黒褐色土がまだらに混じる暗灰褐色土などから成る。溝跡南側には径6～12cmの杭が数本打ち込まれている。

SD3



SD5

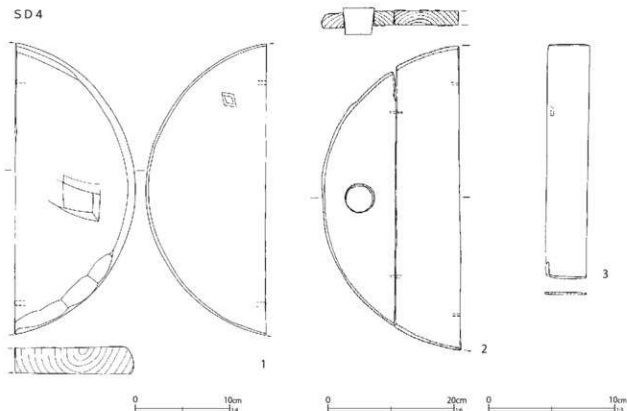


第73図 溝跡出土遺物 (1)

第29表 溝跡出土遺物観察表 (1) (第73図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	坏	5.6	4.4	3.4	EI	70	良好 にぶい黄橙	SD3 京都信楽系	灰釉	25-1
2	陶器	碗	(9.3)	4.3	(3.6)	IK	40	良好 灰白	SD3 瀬戸美濃系	灰釉 外面鉄絵	
3	陶器	碗	(8.6)	5.7	3.1	K	60	良好 灰	SD5 瀬戸美濃系	灰釉 鉄絵	
4	陶器	灯明皿	(9.8)	2.5	(4.4)	K	40	良好 灰	SD5 瀬戸美濃系	柿釉	
5	陶器	油受皿	(8.0)	1.7	(3.6)	K	40	良好 灰	SD5 瀬戸美濃系	柿釉 外面輪状重ね焼痕 受部 径(5.7)cm 底面墨痕か	
6	陶器	鉢	—	[3.9]	(11.2)	I	30	良好 にぶい橙	SD5 肥前系	内面刷目 被熱 煤付着	
7	瓦質土器	火鉢	(42.0)	[8.3]	(41.2)	CHIK	20	普通 灰	SD5 脚付火鉢	外面弱いミガキ	
8	瓦質土器	器台	—	7.6	—	CEHK	5	普通 灰白	SD5 横5.4cm 厚さ1.0～1.3cm		

SD4



第74図 溝跡出土遺物（2）

第30表 溝跡出土遺物観察表（2）（第74図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口徑／径	高さ	底径	遺構	備考	図版
1	木製品	桶	—	—	2.9	(15.6)	—	—	SD4	蓋ないし底板	
2	木製品	樽	[48.4]	[22.2]	4.3	—	—	—	SD4	蓋 栓残存	
3	木製品	付け木	18.5	3.3	0.2	—	—	—	SD4		

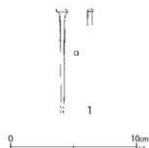
溝跡からは陶器、瓦質土器、木製品の樽、釘等が出土した。第73図1～5は京都信楽系、瀬戸美濃系の陶器である。筒形碗、丸碗を含み、18世紀末から19世紀前半と考えられる。6は肥前系の大型の鉢で、内面に刷毛目が施されている。7は大型の脚付火鉢の脚部である。外面に弱いミガキが施されている。8は器台である。

第74図は木製品で、1は桶の底板、2は樽の盖板である。2は栓が残ったままの状態である。タポによって接合されている。3は付木である。

第75図は金属製品である。図示できるのは、1

の釘のみであった。

SD5



第75図 溝跡出土遺物（3）

第31表 溝跡出土遺物観察表（3）（第75図）

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	鉄製品	釘	長さ[7.8] 幅0.3 厚さ0.3 重さ4.3	SD5		

(3) 土壌 (第76～115図)

第2地点の第二面では土壌22基が検出された。

位置や規模については第32表に、遺構図は第76～81図、出土遺物は第82～115図に示した。

第14・21号土壌 (第76図)

第14号土壌は、調査区中央東側のG8-I3・4、J3・4グリッドに位置する。確認できた長軸は5.30m、短軸3.85m、深さ0.15mで、平面形は不整形である。長軸の方位はN-15°-Wである。断面形は皿形で、底面はほぼ平坦である。覆土は、暗褐色土、シルト灰色土、淡黒褐色土、木材樹皮層、粘質土の灰黄褐色土、粘土の灰色土である。陶磁器、土器、瓦、木製品、金属製品などが大量に出土した。

第21号土壌は、調査区中央東側のG8-I3・4、J4グリッドに位置する。長軸3.45m、短軸0.40m、深さ0.03mである。東側は調査区域外であるが、平面形は長方形と思われる。第21号土壌と重複するが新旧関係は不明である。長軸

の方位はN-12°-Wである。断面形は皿形で、底面はほぼ平坦である。覆土は、暗茶褐色土である。

第15号土壌 (第76図)

調査区中央東側のG8-I3グリッドに位置する。長軸1.60m、短軸0.80m、深さ0.40mで、長方形である。長軸の方位はN-76°-Eである。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。覆土は、シルトまたはシルト質の灰黄褐色土、暗褐色土、灰色土、暗灰色土である。

第16号土壌 (第76図)

調査区北東のG8-H3グリッドに位置する。長軸1.25m、短軸1.00m、深さ0.20mで、第4号溝跡と重複する。新旧関係は不明である。長軸の方位はN-25°-Wである。断面形は皿形で、底面はほぼ平坦である。覆土は、暗灰黄褐色土と砂質の黒褐色土である。

第17号土壌 (第76図)

調査区北東のG8-H3グリッドに位置する。東側は調査区域外である。確認できた長軸1.30m、短軸1.35m、深さ0.20mである平面形は不整形である。長軸の方位はN-80°-Eである。断面形は皿形で、底面は東側が0.10mほど深くなっている。覆土は、シルトの灰色土、灰褐色土、黒褐色土、灰黄褐色土である。

第18号土壌 (第77図)

調査区北東のG8-H・I3グリッドに位置する。東側は調査区域外である。長軸3.75m、確認できた短軸1.20m、深さ0.03mで、不整形である。長軸の方位はN-18°-Wである。断面形は皿形で、底面はほぼ平坦である。覆土は、単層の褐色土である。陶磁器、土器、瓦、木製品、鉄製品などが大量に出土した。

第19・20・31号土壌 (第77図)

第19・20・31号土壌は重複して一体となっているため、まとめて記述する。新旧関係は、第20号土壌が、第19・31号土壌より古い。

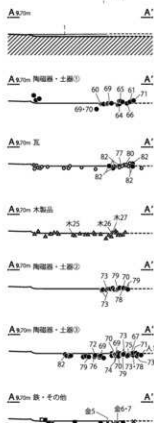
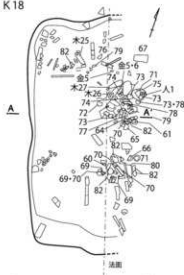
第19号土壌は、調査区中央北東よりのG8-I

第32表 第2地点第二面土壌計測表

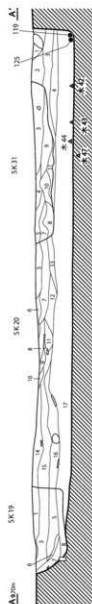
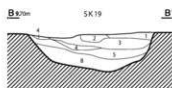
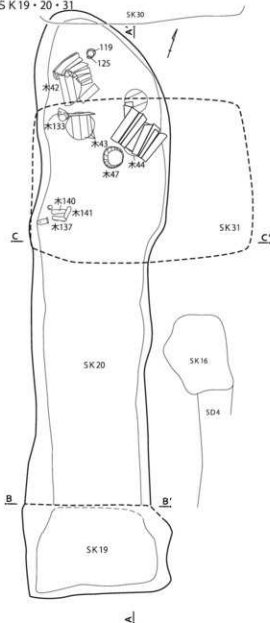
単位: m

番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	備考
14	G8-I3・4 G8-J3・4	不整形	[5.30]	[3.85]	0.15	SK21 重複
15	G8-I3	長方形	1.60	0.80	0.40	
16	G8-H3	不整形	1.25	1.00	0.20	SD4 重複
17	G8-H3	不整形	[1.30]	1.35	0.20	
18	G8-I3	不整形	3.75	[1.20]	0.03	
19	G8-I3	不整形	2.35	1.45	0.60	SK20 重複
20	G8-I3	不整形	[8.00]	2.00	0.70	SK19・31 重複
21	G8-I3・4 G8-J4	不明	3.45	0.40	0.03	SK14 重複
22	G8-I2	槽内形	0.85	0.65	0.13	
23	G8-I2・3	不整形	2.15	2.10	0.13	
24	G8-I2・3 G8-I2・3	不整形	3.00	2.47	0.35	SI2 重複
25	G8-I2	不整形	2.32	2.20	0.10	SK34・36 重複
26	G8-I・J3	不整形	3.50	1.55	0.25	SI1 重複
27	G8-I2・3	不整形	2.65	0.90	0.10	SK32 重複
30	G8-H3	隅丸長方形	3.35	1.70	0.40	SK33 重複
31	G8-H3	隅丸長方形	3.45	2.55	0.33	SK20 重複
32	G8-I2・3 G8-J2・3	不整形	3.95	1.45	0.15	SK27 重複
33	G8-I2・3 G8-H2・3	隅丸長方形	(4.90)	3.00	0.15	SK30 重複
34	G8-I2	不整形	(2.23)	1.60	0.20	SK25・40 重複
35	G8-I2	不整形	[1.75]	0.60	0.20	
36	G8-I2	槽内形	0.70	0.50	0.25	SK25 重複
40	G8-I2	不明	(0.85)	(0.85)	0.42	SK25・34 重複

SK18



SK19・20・31



● 陶器・土器 ▲ 木器 ● 瓦 × 金属 □ 石 ▲ 漆 ■ 不明・その他

第77図 土坑(2)

S K 18			2	黄褐色土	しまり強	17	黒褐色土	炭化状	樹皮片極多量	
1	褐色土	粘質	しまり強	3	暗灰色土	シルト (地山)				
S K 19			4	灰土	砂質	黄色砂若干含む	S K 31			
1	黒褐色土	シルト	樹皮片多量	5	暗黄褐色土	シルト	1	暗黄褐色土	シルト	黄褐色砂含む
2	灰白色土	シルト	砂含む	6	黒褐色土	シルト	2	黒褐色土	シルト	樹皮片多量
3	灰土	砂質	黄褐色砂含む	7	褐色土	シルト	3	黄褐色土	しまり強	
4	樹皮片層			8	黄褐色土	シルト	4	淡黒褐色土	小本片極多量	
5	灰黄褐色土	砂質	暗灰色シルト含む	9	黒褐色土	砂質	5	暗褐色土	砂質土	
6	樹皮片層			10	灰土	砂質	6	灰褐色土	炭化物含む	
7	灰土	シルト	砂含む	11	暗灰色土	砂質	7	黒褐色土	シルト	樹皮片多量
8	黒褐色土	炭化状	樹皮片極多量	12	黄褐色土	砂質	8	黒褐色土	シルト	炭化物粒若干含む
				13	黒褐色土	シルト	9	黄褐色土	しまり強	
S K 20				14	灰土	砂質	10	暗黄褐色土	シルト (地山土) 含む	
1	暗黄褐色土	暗灰色シルト (地山土) 多量		15	灰土	砂質	11	灰褐色土	砂質	
				16	灰黄褐色土	砂質	12	灰土	砂質	黄褐色砂含む
							13	灰黄褐色土	砂質	暗灰色シルト含む
							14	暗黄褐色土	シルト (地山土) 含む	
							15	灰褐色土	砂質	
							16	灰土	砂質	黄褐色砂含む

第78図 土壌 (3)

I 3 グリッドに位置する。長軸は2.35m、短軸は1.45m、深さは0.60mである。長軸の方位はN-72° - Eである。

第20号土壌は、G 8 - I 3 グリッドに位置する。確認できた長軸は8.00m、短軸は2.00m、深さは0.70mである。長軸の方位はN-18° - Wである。

第31号土壌は、G 8 - H 3 グリッドに位置する。長軸は3.45m、短軸は2.55m、深さは0.33mの隅丸長方形である。長軸の方位はN-71° - Eである。

覆土について、第19号土壌はシルトや砂の灰白色土や灰色土の間に交互に樹皮片を多量に含む層がある。第20号土壌の覆土は、地山土や黄色砂、黄褐色砂を含む暗褐色土、暗灰色土、灰色土、暗黄褐色土、黄褐色土が主である。第31号土壌の覆土は、樹皮片や小木片を多量に含む黒褐色土、淡黒褐色土の層がある。

第22号土壌 (第76図)

調査区北西のG 8 - I 2 グリッドに位置する。長軸は0.85m、短軸は0.65m、深さは0.13mで、楕円形である。長軸の方位はN-30° - Wである。断面形は皿形で、底面はほぼ平坦である。覆土は、炭化材や小木片含む灰茶褐色土、黄褐色土含む明灰色土、砂質の灰黄褐色土である。

第23号土壌 (第79図)

調査区中央北よりのG 8 - I 2・3 グリッドに位置する。長軸は2.15m、短軸は2.10m、深さは0.13mの不整形である。長軸の方位はN-

16° - Wである。断面形は皿形で、底面はほぼ平坦である。覆土は、炭化物や極小の木片を含む黒褐色土が主体である。陶磁器、土器、木製品、瓦、鉄製品などが多く出土した。

第24号土壌 (第79図)

調査区中央北よりのG 8 - H 2・3、I 2・3 グリッドに位置する。長軸は3.00m、短軸は2.47m、深さは0.35mの不整形である。長軸の方位はN-16° - Wである。断面形は皿形で、底面はほぼ平坦である。覆土は、炭化物や極小の木片を含む黒褐色土が主体である。陶磁器、土器、木製品、瓦、鉄製品などが多く出土した。

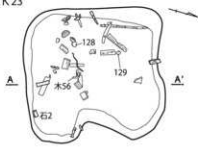
第25・34号土壌 (第80図)

第25号土壌と第34号土壌は、調査区北西のG 8 - I 2 グリッドに位置する。第25号土壌は、長軸2.32m、短軸2.20m、深さ0.10mの不整形である。長軸の方位はN-12° - Wである。第34号土壌と第36号土壌と重複し、第34号土壌より新しく、第36号土壌より古い。断面形は皿形で、底面はほぼ平坦である。覆土は、シルト質の灰黄褐色土、粘質の黒褐色土が主である。

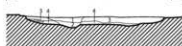
第34号土壌は、推定される長軸2.23m、短軸1.60m、深さ0.20mの不整形である。長軸の方位はN-75° - Eである。第25・40号土壌と重複し、双方より古い。断面形は皿形で、底面はほぼ平坦であったと思われるが、一部を第25号土壌と第40号土壌に壊されている。

覆土は、樹皮や小木片を多量に含む褐色土と、明灰褐色土、灰褐色土ブロックを含む暗黄褐色土、

S K 23



A 80m SK23 A'



A SK23 木製品・陶磁器・土器・鉄・瓦・その他 A'



A SK23 木製品・陶磁器・土器・鉄・瓦・その他 A'

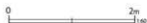


S K 23

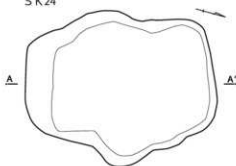
- 1 暗褐色土 灰色シルト 炭化物含む
2 灰黄褐色土 暗褐色土含む
3 黒褐色土 炭化物・細小片・暗灰色シルト粒含む
4 灰褐色土 シルト

S K 24

- 1 暗灰褐色土 砂質 黒褐色シルト含む
2 灰黄褐色土 シルト 黒褐色土多量
3 暗褐色土 砂質 瓦片・土器片・樹皮小片含む
4 黒褐色土 シルト質 ヒゲ根・樹皮小片多量
5 黒褐色土 シルト質 灰黄褐色シルトブロック含む
6 灰黄褐色土 粘質 ヒゲ根多量
7 黒褐色土 シルト
8 灰黄褐色土 暗褐色シルト含む
9 灰褐色土 黒褐色土若干含む
10 灰褐色土 砂質 しまり強
11 黒褐色土 粗粒 ヒゲ根若干含む



S K 24



A 80m SK24 A'



A SK24 ①木製品・陶磁器・土器・鉄・瓦・その他 A'



A SK24 ②木製品・陶磁器・土器・鉄・瓦・その他 A'



A SK24 ③木製品・陶磁器・土器・鉄・瓦・その他 A'



A SK24 ④木製品・陶磁器・土器・鉄・瓦・その他 A'



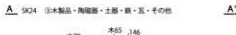
A SK24 ⑤木製品・陶磁器・土器・鉄・瓦・その他 A'



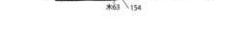
A SK24 ⑥木製品・陶磁器・土器・鉄・瓦・その他 A'



A SK24 ⑦木製品・陶磁器・土器・鉄・瓦・その他 A'



A SK24 ⑧木製品・陶磁器・土器・鉄・瓦・その他 A'



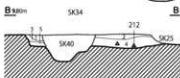
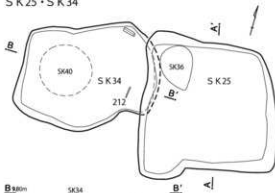
A SK24 ⑨木製品・陶磁器・土器・鉄・瓦・その他 A'



● 陶器・土器 ▲ 木器 ○ 瓦 × 金属 ■ 不明・その他

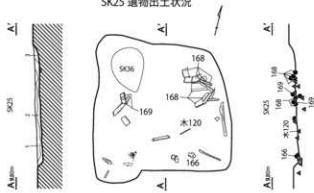
第79図 土壌(4)

SK25・SK34



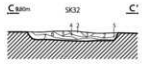
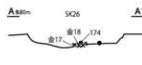
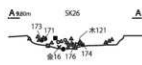
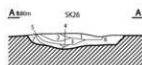
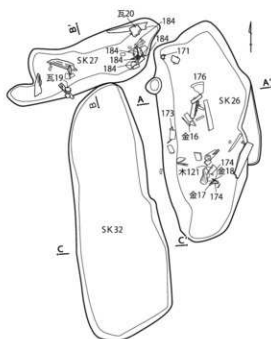
- SK25
- 1 灰黄褐色土 シルト質 粘質 しまり強
 - 2 黒褐色土 小木根 (ヒゲ根) 含む しまり強
 - 3 灰褐色土

SK25 遺物出土状況



- SK34
- 1 褐色土 腐皮・小木片多量 炭化物粒 (φ3~5 mm程度) 含む しまりややや弱 粘性極めて弱
 - 2 暗黄褐色土 炭化物土ブロック (φ1~3 cm程度) 含む 炭化物粒子 (φ5 mm程度) やや含む しまり強 粘性弱
 - 3 明灰褐色土 炭化物土ブロック (φ3 cm程度) やや含む 炭化物粒子 (φ5~10 mm程度) 含む 腐皮微量 しまりやや強 粘性弱
 - 4 灰褐色土 腐皮多量 炭化シルトブロック (φ5~8 cm程度) 含む しまりあり 粘性やや強
 - 5 明灰褐色土 腐皮・小木片多量 しまりあり 粘性弱

SK26・27・32



- SK26
- 1 灰黄褐色土 粘質 小木片含む
 - 2 黒褐色土
 - 3 灰褐色土 粗粒
 - 4 黒褐色土 腐根含む
 - 5 黒褐色土 腐根含む
 - 6 黒褐色土 粘質 腐皮・暗黄褐色土含む しまり強
 - 7 灰黄褐色土 砂質

- SK27
- 1 暗褐色土 砂質 小木片含む

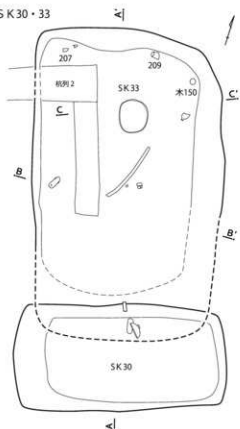
- SK32
- 1 黒褐色土 根・小木片多量 しまりやや弱 粘性あり
 - 2 褐色土 根・小木片含む しまりやや強 粘性極めて弱
 - 3 灰褐色土 根・小木片含む しまり弱 粘性やや強
 - 4 黒褐色土 腐皮・小木片多量 しまり弱 粘性あり
 - 5 黒褐色土 炭化物粒 (φ2~3 mm程度) 多量 炭化土ブロック (φ20 mm程度) 含む しまり・粘性あり
 - 6 褐色土 炭化物粒 (φ2~3 mm程度) 含む しまり・粘性あり
 - 7 暗灰褐色土 炭化物粒 (φ2~3 mm程度) 多量 炭化土ブロック (φ20 mm程度) 含む

● 陶器・土器 ▲ 木器 ○ 瓦 × 金属 □ 石 ■ 不明・その他

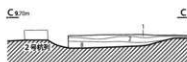
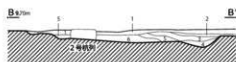
0 2m 1:40

第80図 土壌 (5)

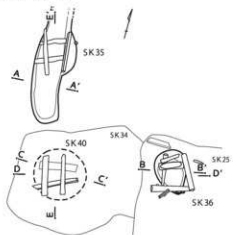
SK 30・33



- SK 30・33
- 1 灰黄褐色土 シルト質 灰白色砂多量
 - 2 暗褐色土 シルト
 - 3 暗灰黄褐色土 シルト質
 - 4 黒褐色土 シルト 樹皮小片・小木根多量
 - 5 淡黒褐色土 小木片極多量
 - 6 黒褐色土 シルト 樹皮片多量
 - 7 褐色土 樹皮片極多量
 - 8 灰黄褐色土 シルト 褐色土含む
 - 9 黒褐色土 樹皮多量
 - 10 灰褐色土 砂質
 - 11 灰黄褐色土 シルト
 - 12 淡灰褐色土 小木片極多量
 - 13 灰黄褐色土 シルト



SK 35・36・40



- SK 35
- 1 暗黄褐色土 砂質 粗粒
 - 2 灰色土 砂質
- SK 36
- 1 明灰褐色土 黒褐色土ブロック (φ3～5 cm程度)・灰褐色砂含む 炭化物粒 (φ2 mm程度) 少量 しまりやや弱 粘性あり
 - 2 灰褐色土 黒褐色土ブロック (φ5 cm程度)・樹皮・小木片・炭化物砂含む しまり・粘性弱
 - 3 褐色土 灰褐色砂多量 しまり極めて弱 粘性弱
 - 4 灰褐色土 小木片・灰褐色砂含む しまり・粘性弱
- SK 40
- 1 暗黄褐色土 灰褐色土ブロック (φ1～3 cm程度) 含む 炭化物粒子 (φ5 mm程度) やや含む しまり強 粘性弱
 - 2 明灰褐色土 灰褐色土ブロック (φ3 cm程度) やや含む 炭化物粒子 (φ5～10 mm程度) 含む 樹皮わずかに含む しまりやや強 粘性弱
 - 3 暗灰褐色土 材木含む 炭化物粒子 (φ3～5 mm程度) 含む

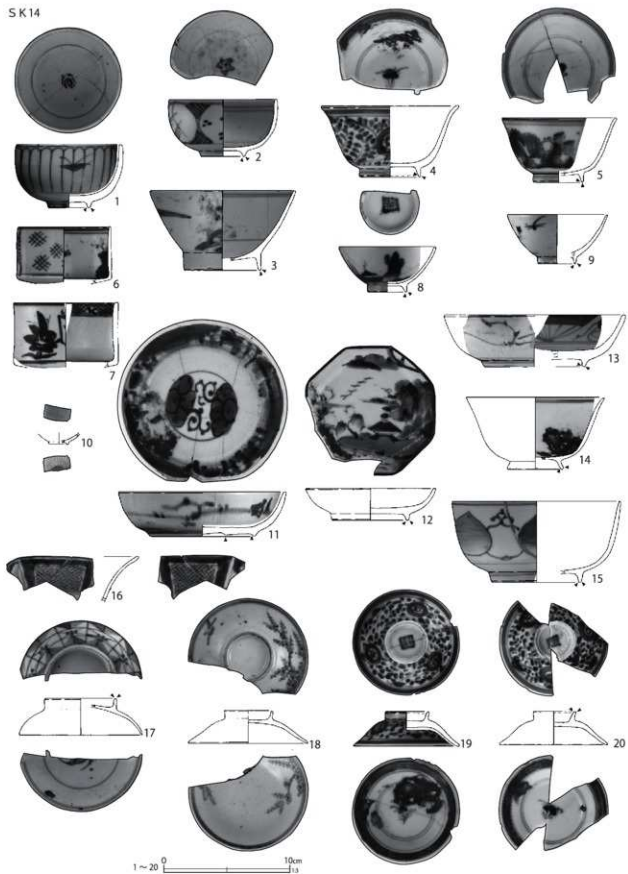


● 陶器・土器 ▲ 木器 ○ 瓦

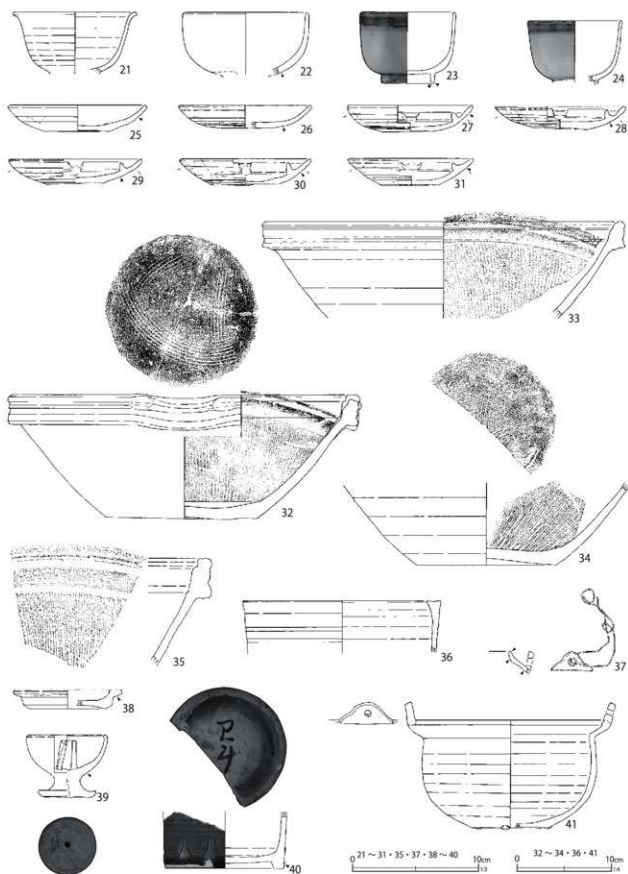
0 2m

第81図 土墳 (6)

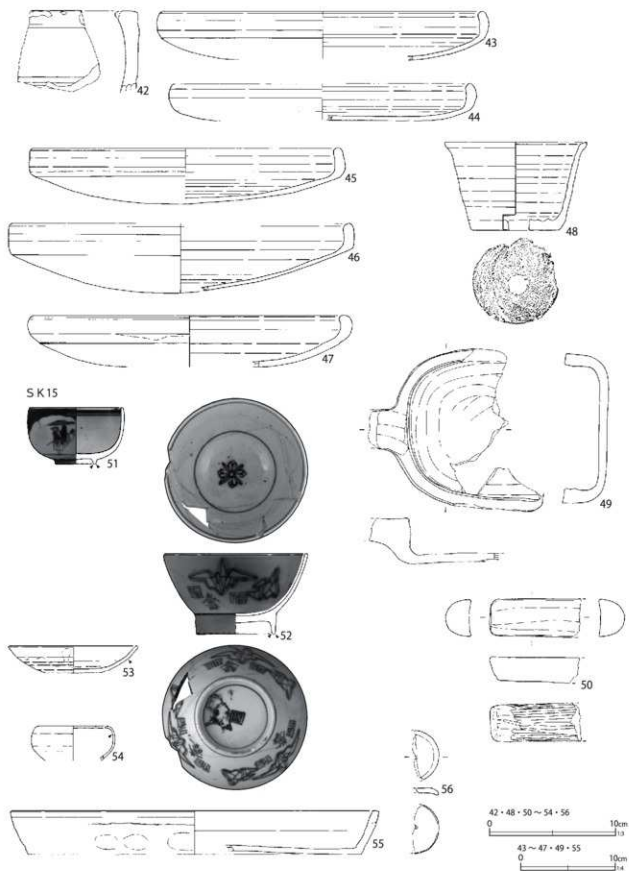
SK14



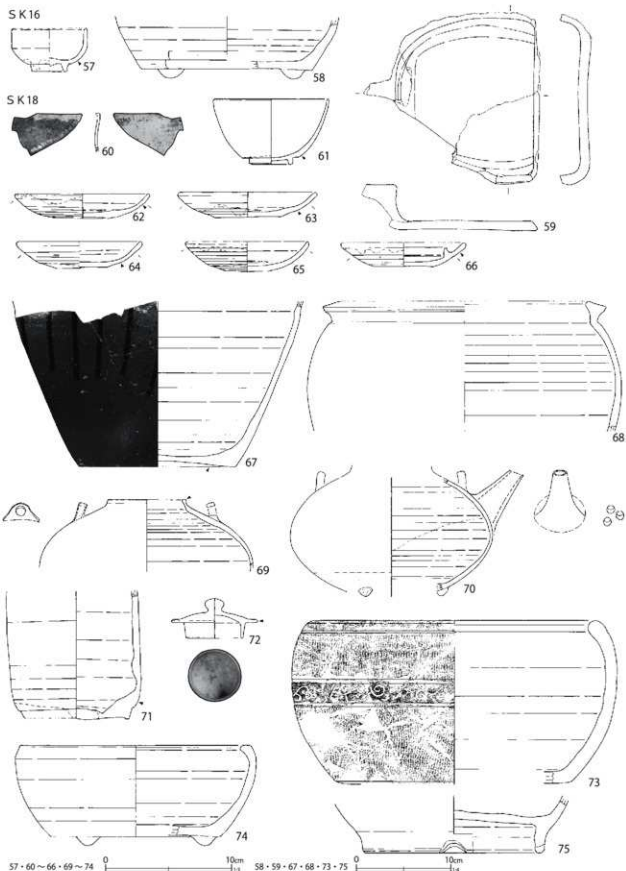
第82図 土壙出土遺物(1)



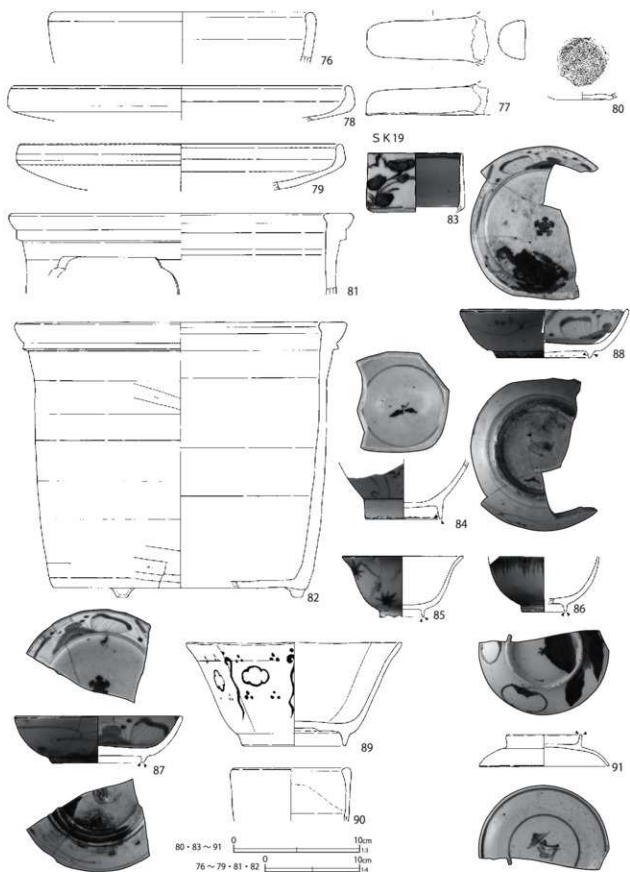
第83図 土壙出土遺物（2）



第84図 土壇出土遺物（3）



第85図 土墳出土遺物（4）



第86图 土城出土遺物 (5)

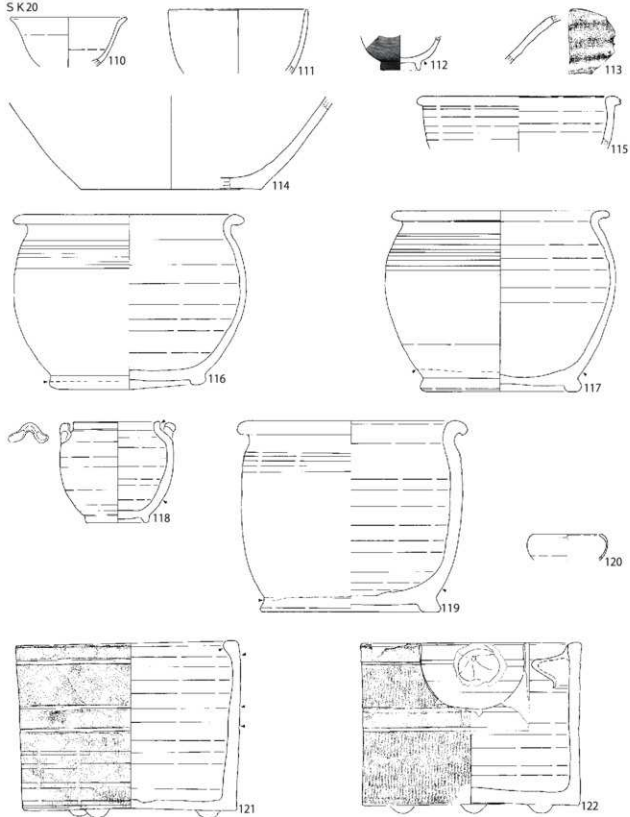


92 ~ 96 • 98 • 101 • 102 • 107 • 108 0 10cm

97 • 99 • 100 • 103 ~ 106 • 109 0 10cm

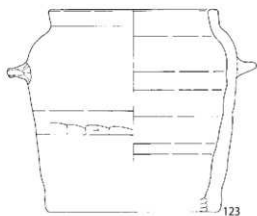
第87図 土壙出土遺物 (6)

SK20



110 ~ 113 · 118 ~ 120 0 10cm 114 ~ 117 · 121 · 122 0 10cm

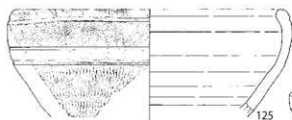
第88図 土壙出土遺物（7）



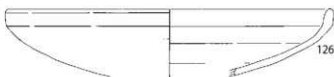
123



124

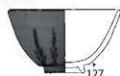


125



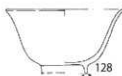
126

SK21



127

SK23



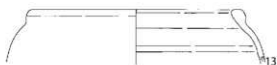
128



129



130



131



132

SK24



133



134



135



136



137



138



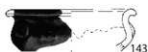
139



140



141



143

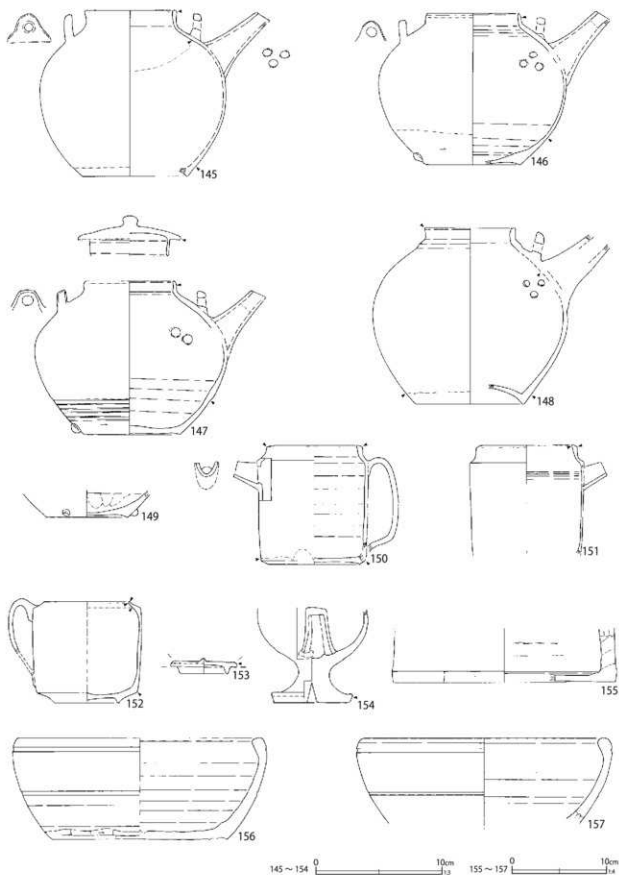


144

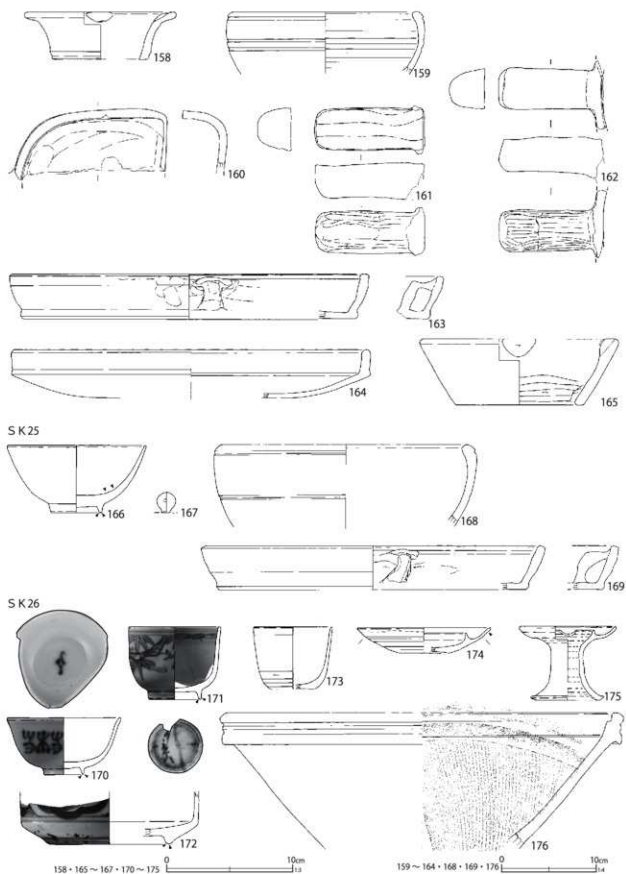
127 ~ 130 • 132 ~ 144 0 10cm

123 ~ 126 • 131 0 10cm

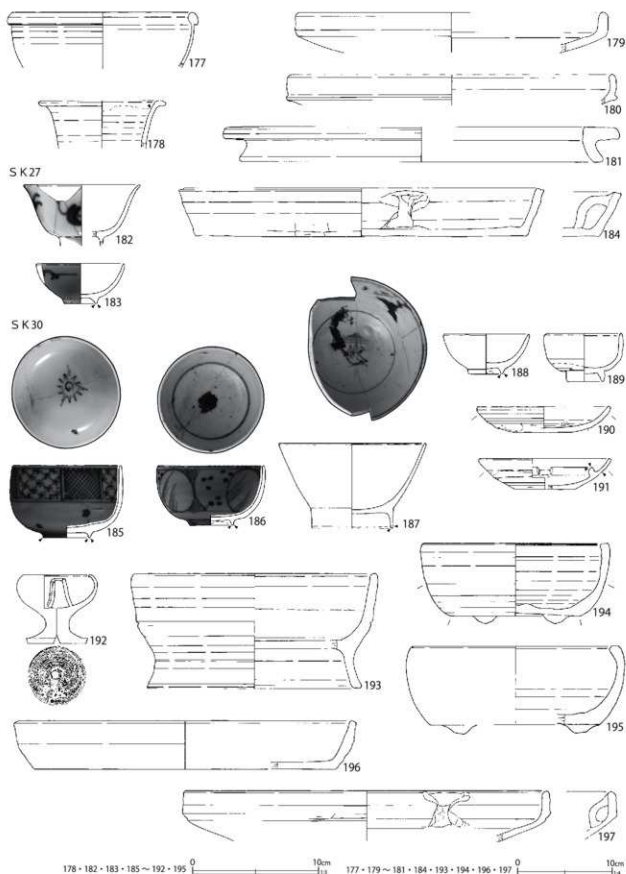
第89図 土壇出土遺物 (8)



第90図 土曜出土遺物（9）



第91図 土壇出土遺物 (10)

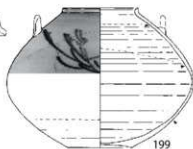


第92図 土壇出土遺物 (11)

SK31



198



199

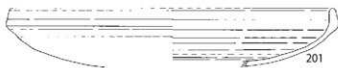


200

SK32



203



201



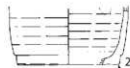
202



204



205



206

SK33



208



207



210



209

SK34



211



212



213

198 ~ 200・203 ~ 213 0 10cm

201・202 0 10cm

第93図 土壙出土遺物 (12)

第33表 土城出土遺物観察表(1) (第82~93図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	8.2	5.0	3.3	K	95	良好	灰白	SK14 No.72・287 肥前系 施釉 染付		25-2
2	磁器	碗	(8.4)	4.5	3.4	K	40	良好	白	SK14 No.266 肥前系 施釉 染付		
3	磁器	碗	(11.2)	6.3	(6.0)	K	35	普通	明緑灰	SK14 No.182 肥前系 施釉 染付		
4	磁器	碗	(10.6)	5.6	4.6	K	45	良好	白	SK14 No.138 瀬戸美濃系 施釉 染付		
5	磁器	碗	8.9	5.1	3.9	K	60	普通	灰白	SK14 No.135・160 瀬戸美濃系 施釉 染付		
6	磁器	碗	(7.2)	[4.5]	—	K	40	良好	灰白	SK14 No.90 肥前系 施釉 染付		
7	磁器	碗	(8.2)	[5.1]	—	K	20	良好	灰白	SK14 肥前系 施釉 染付		
8	磁器	坏	(7.4)	2.6	3.0	K	40	良好	白	SK14 No.218 肥前系 施釉 外面染付		
9	磁器	坏	(7.8)	3.9	(3.0)	K	40	良好	白	SK14 No.247 肥前系 施釉 外面染付		
10	磁器	紅皿	—	0.9	(1.5)	K	20	良好	白	SK14 肥前系 型成形		
11	陶器	皿	13.0	3.4	8.2	K	90	良好	明緑灰	SK14 No.134・135・146 肥前系 施釉 染付		25-3
12	磁器	皿	10.2	2.5	5.8	K	85	良好	灰白	SK14 No.214 肥前系 施釉 内面染付 焼継印		
13	磁器	皿	(14.2)	4.1	(7.8)	K	15	良好	明オリブ灰	SK14 No.271 肥前系 施釉 染付		
14	磁器	碗	(10.8)	5.7	(4.2)	K	25	良好	白	SK14 No.153 肥前系 施釉 染付 焼継		
15	磁器	蓋物	(13.2)	6.4	—	K	25	良好	白	SK14 肥前系 施釉 染付 外面焼継		
16	磁器	鉢	—	[3.6]	—	K	5	良好	白	SK14 肥前系 八角鉢 施釉 染付 焼継		
17	磁器	蓋	5.6	2.9	(9.6)	K	40	良好	灰白	SK14 No.162 肥前系 施釉 染付		
18	磁器	蓋	9.3	2.6	3.6	K	70	良好	白	SK14 肥前系 施釉 染付		
19	磁器	蓋	8.3	2.7	3.4	K	95	良好	灰白	SK14 No.140・151 瀬戸美濃系 施釉 染付		25-4
20	磁器	蓋	8.5	2.6	3.3	K	65	良好	白	SK14 No.176 瀬戸美濃系 施釉 染付		
21	陶器	碗	(9.6)	[4.9]	—	IK	30	良好	灰白	SK14 No.223 大塚相馬系 外・内口縁施釉 内面灰釉かけ分け 部分的うのろ軸		
22	陶器	碗	(9.8)	[4.9]	—	AIK	25	良好	灰白	SK14 No.133 瀬戸美濃系 灰釉 貫入		
23	磁器	碗	7.2	5.6	4.0	K	80	普通	灰白	SK14 No.154 瀬戸美濃系 施釉 染付 焼継		
24	磁器	碗	(7.2)	[5.1]	—	K	40	普通	灰白	SK14 No.147 瀬戸美濃系 施釉 外面染付		
25	陶器	灯明皿	10.7	2.1	5.3	HI	75	普通	淡黄	SK14 No.98 瀬戸美濃系 鉄釉 重ね焼痕		25-5
26	陶器	灯明皿	(10.4)	1.8	4.2	HK	40	普通	灰黄褐	SK14 No.275 瀬戸美濃系 鉄釉 重ね焼痕		
27	陶器	油受皿	8.6	2.1	4.0	AIK	90	良好	灰白	SK14 No.87 瀬戸美濃系 鉄釉 外面輪状重ね焼痕 底部軸ふきとり		25-6
28	陶器	油受皿	10.1	1.8	4.3	AIK	100	良好	灰黄褐	SK14 No.254 瀬戸美濃系 鉄釉 外面輪状重ね焼痕 底部軸ふきとり		25-7
29	陶器	油受皿	10.4	2.0	4.6	AHK	95	良好	灰白	SK14 No.105 瀬戸美濃系 鉄釉 外面輪状重ね焼痕 底部軸ふきとり		25-8
30	陶器	油受皿	10.1	2.1	5.3	AIK	100	良好	灰黄	SK14 No.292 瀬戸美濃系 鉄釉 外面輪状重ね焼痕 底部軸ふきとり		25-9
31	陶器	油受皿	9.8	2.1	4.5	AIK	95	良好	灰	SK14 No.242 瀬戸美濃系 鉄釉 外面輪状重ね焼痕 底部軸ふきとり		26-1
32	陶器	擂鉢	36.3	13.1	16.0	EHK	95	良好	暗赤褐	SK14 No.193・270・274 堺明石系 内面煤付着		26-2
33	陶器	擂鉢	(37.6)	[10.2]	—	EIK	15	普通	褐灰	SK14 No.204 堺明石系		
34	陶器	擂鉢	—	[3.7]	14.6	EI	35	普通	にぶい赤褐	SK14 堺明石系		
35	陶器	擂鉢	—	[8.5]	—	EHK	5	普通	にぶい赤褐	SK14 No.295 堺明石系		
36	陶器	甕	(20.8)	[5.6]	—	HIK	10	良好	灰黄	SK14 No.167 瀬戸美濃系 半胴甕 柿軸		
37	陶器	土瓶	—	[1.8]	—	IK	5	良好	灰黄褐	SK14 No.137・159 京都信楽系 灰釉 網線		
38	陶器	蓋	(8.4)	1.5	(5.9)	AEIK	40	良好	橙	SK14 No.246 外面鉄釉		
39	陶器	茶碗	6.0	5.0	4.1	IK	90	良好	灰白	SK14 No.225 瀬戸美濃系 鉄釉 底面墨書		26-3
40	陶器	香炉	—	[4.5]	(9.3)	HIK	45	良好	灰白	SK14 No.74 瀬戸美濃系 見込み墨書 緑釉		26-4
41	施釉土器	両手鍋	21.0	11.3	(8.0)	I	90	良好	にぶい橙	SK14 No.104 透明釉 外面煤付着 江戸在地系		26-5
42	瓦質土器	火鉢	—	[6.4]	—	HIK	5	普通	にぶい黄橙	SK14 No.296 脚付火鉢		
43	土師質土器	焙烙	(33.6)	[5.1]	—	ACI	30	普通	にぶい橙	SK14 No.42・148・284 丸底 煤付着 砂目底		
44	土師質土器	焙烙	(31.1)	[3.9]	(31.0)	ACHK	60	普通	灰白	SK14 No.57・144・145・148・155・157 丸底 砂目底 外面下位ケズリ 煤付着		
45	土師質土器	焙烙	32.1	5.9	—	ACIK	40	普通	にぶい黄橙	SK14 No.27・32・36・66 丸底 砂目底 外面下位ケズリ		
46	土師質土器	焙烙	(34.4)	[7.0]	—	ACHK	75	普通	にぶい黄橙	SK14 No.36・100 丸底 煤付着 砂目底 外面下位ケズリ		26-6
47	土師質土器	焙烙	(33.2)	[5.4]	—	ACIK	30	普通	灰黄褐	SK14 No.240 丸底 砂目底 煤付着 底部シワ状痕		
48	土師質土器	植木鉢	(11.2)	7.0	6.8	AHK	60	普通	橙	SK14 No.237 穴径1.5cm 回転糸切リ(左)		

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
49	瓦質土器	十能	長さ 18.5 高さ 4.8	幅 15.8		CIK	70	普通	灰黄	SK14	No.136・158・164 被熱 煤付着 外面シ ワ状痕	26-7
50	瓦質土器	十能	長さ 9.7 高さ 2.7	幅 4.1		CIK	90	普通	暗灰	SK14	No.252 ヘラナゲ	
51	磁器	碗	(7.2)	4.5	3.0	K	75	良好	明緑灰	SK15	肥前系 施軸 染付	27-1
52	磁器	碗	11.2	6.4	6.0	K	95	良好	明緑灰	SK15	肥前系 施軸 染付	27-2
53	陶器	灯明皿	(10.0)	2.1	(4.3)	IK	25	良好	灰白	SK15	瀬戸美濃系 鉄軸 重ね焼痕 底部軸ふ きとり	27-3
54	陶器	乗燭	(5.2)	[2.8]	—	IK	30	良好	灰白	SK15	鉄軸	
55	瓦質土器	焙烙	(38.9)	4.6	(35.0)	CIK	10	普通	灰	SK15	平底 砂目底 外面下位ケズリ	
56	土師質土器	燭台	[3.7]	0.4	—	AH1K	45	普通	にぶい黄橙	SK15	胎土粉質	
57	陶器	坏	(6.0)	3.4	2.8	K	60	普通	灰白	SK16	No.4 瀬戸美濃系 灰軸	27-4
58	瓦質土器	火鉢	—	(6.5)	[9.4]	HK	10	普通	橙	SK16	内面煤付着 酸化炭焼成きみ SK7・19 と 接合	
59	瓦質土器	十能	長さ 18.5 高さ 4.7	幅 18.0		HK	60	普通	淡赤橙	SK16	No.20 砂目底 やや酸化炭焼成きみ SK8 と接合	27-5
60	磁器	水滴	—	[3.4]	—	IK	5	良好	灰白	SK18	No.17 肥前系 外面施軸 内外面布目	
61	陶器	碗	(9.0)	5.2	3.5	IK	60	良好	灰白	SK18	No.45 京都信楽系 灰軸 鉄軸 GS13 と 接合	
62	陶器	灯明皿	10.4	1.9	4.3	IK	90	良好	灰黄	SK18	瀬戸美濃系 鉄軸 軸状重ね焼痕 底部 軸ふきとり	27-6
63	陶器	灯明皿	10.6	2.1	5.3	IK	95	良好	灰白	SK18	瀬戸美濃系 鉄軸 内面重ね焼痕	
64	陶器	灯明皿	9.6	2.1	4.0	IK	85	良好	黄灰	SK18	No.49 瀬戸美濃系 鉄軸 内面重ね焼痕 底部軸ふきとり	28-1
65	陶器	灯明皿	9.5	2.3	3.6	IK	65	良好	褐灰	SK18	No.43 瀬戸美濃系 鉄軸 内面重ね焼痕 底部軸ふきとり	27-7
66	陶器	油受皿	(9.6)	1.9	(4.6)	IK	45	良好	灰白	SK18	No.37 瀬戸美濃系 鉄軸 外面軸ふきと り	28-2
67	陶器	甕	—	[17.5]	16.6	AH1K	45	良好	灰	SK18	No.110 丹波系 外面結軸 内面灰軸	
68	陶器	壺	(26.2)	[13.8]	—	AH1K	15	良好	灰	SK18	京都信楽系 施軸	27-8
69	陶器	土瓶	5.8	[5.7]	—	HK	45	良好	灰白	SK18	No.16・24・140・143 大塚相馬系か 青 土瓶 外面御縁軸	
70	陶器	土瓶	—	[8.9]	—	HK	15	良好	灰白	SK18	No.16・56・142・144 大塚相馬系か 青 土瓶 外面御縁軸 内面透明軸	
71	陶器	徳利	—	[10.1]	8.2	IK	70	良好	褐灰	SK18	No.40・90 瀬戸美濃系 外面灰軸 底部 軸ふきとり 外面封書「合」か 内面底 接ぎ痕 三合か	28-3
72	陶器	蓋	6.8	3.1	4.2	IK	90	良好	灰白	SK18	No.87 京都信楽系 灰軸 内面墨痕	
73	瓦質土器	火鉢	(29.8)	[17.2]	(24.8)	ACI	60	普通	褐	SK18	No.75・77・78・88・89・94・98 SK15・ 19・68-H3 と接合 口縁・体部中位ミガキ	28-4
74	瓦質土器	火鉢	(18.2)	7.1	(13.2)	EH1K	80	普通	明赤褐	SK18	No.91・107 丸火鉢 王冠酸化炭焼成	
75	瓦質土器	火鉢	—	[6.1]	18.4	CEH1K	90	普通	橙	SK18	No.96 脚付火鉢 底部ヘラケズリ 内面 煤付着	28-5
76	瓦質土器	火鉢	(27.1)	[5.4]	—	CD1K	10	普通	浅黄	SK18	No.111 丸火鉢 やや酸化炭焼成きみ	
77	瓦質土器	十能	長さ 12.9 厚さ 3.3	幅 5.1		CEH1K	95	普通	黒褐	SK18	No.47 把手 ヘラナゲ	
78	土師質土器	焙烙	(35.2)	[3.7]	—	CI	20	普通	浅黄橙	SK18	No.55・94 丸底 砂目底 外周ケズリ	
79	土師質土器	焙烙	(34.0)	[4.9]	—	AGH1K	10	良好	にぶい黄橙	SK18	No.52・54・92・112 丸底 砂目底	
80	かわらけ	小皿	—	[0.6]	4.0	ACEH1K	75	普通	にぶい橙	SK18	No.34 回転糸切り(左)	
81	瓦質土器	焔炉	(36.0)	[8.6]	—	AC1K	25	普通	灰黄	SK18	内外面煤付着 内面ナゲ 82 と同一個体	
82	瓦質土器	焔炉	(34.6)	[29.1]	(26.8)	CI	30	良好	黒	SK18	No.19・21・29・30・36・41・42・48・117 内外面煤付着 81 と同一個体	
83	磁器	碗	(7.4)	[4.7]	—	K	25	良好	灰白	SK19	肥前系 施軸 染付	
84	磁器	碗	—	[6.7]	6.0	K	70	良好	灰白	SK19	肥前系 施軸 染付	
85	磁器	碗	9.5	4.8	(3.4)	K	80	良好	白	SK19	瀬戸美濃系 施軸 染付 SK20 と接合	
86	磁器	碗	(8.6)	4.5	3.4	K	25	良好	灰白	SK19	肥前系 施軸 外面染付	
87	磁器	皿	(13.0)	3.7	(7.2)	IK	30	良好	灰白	SK19	肥前系 施軸 染付 底部煤付着	
88	磁器	皿	(13.0)	3.8	7.2	K	50	良好	灰白	SK19	肥前系 施軸 染付 被熱	
89	磁器	八角鉢	16.8	8.2	8.0	K	90	良好	灰白	SK19	肥前系 施軸 染付	28-6
90	磁器	香炉	(8.8)	[4.2]	—	IK	20	良好	灰白	SK19	肥前系 外面青磁軸 内面煤付着 被熱	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
91	磁器	蓋	つまみ 5.8	2.5	10.2	K	50	良好	白	SK19 肥前系 広東碗 施釉 染付		
92	磁器	蓋	—	[2.7]	(12.6)	K	25	良好	明青灰	SK19 肥前系 蓋物 施釉 外面染付		
93	陶器	碗	(9.1)	4.5	3.2	IH	40	良好	灰白	SK19 京都信楽系 灰釉 貫入 磁質		
94	陶器	灯明皿	(9.6)	1.7	(4.2)	IK	30	普通	浅黄	SK19 瀬戸美濃系 鉄釉 内面重ね焼痕 底部 軸ふきとり		
95	陶器	油受皿	(11.2)	[1.5]	(8.6)	EI	20	良好	灰白	SK19 瀬戸美濃系 灰釉 高い受付		
96	陶器	鉢	17.4	9.6	7.8	I	45	良好	灰赤	SK19 唐津 鉄絵 鉄釉 口縁面鼠輪掛け流し	28-7	
97	陶器	鉢	—	[4.5]	(11.4)	IK	20	良好	にぶい赤褐	SK19 肥前系 三島手 重ね焼痕		
98	陶器	香炉	—	[2.4]	(8.2)	EIK	30	良好	黒褐	SK19 瀬戸美濃系か、煤付着 錆釉か		
99	瓦質土器	火鉢	(27.2)	[8.6]	—	ACGHK	20	普通	灰赤	SK19 御付火鉢 内面煤付着 口縁部ムクリ SK23 と接合		
100	瓦質土器	火鉢	(23.0)	10.1	17.3	HK	25	普通	灰白	SK19 やや酸化炭焼成 外面下位ケズリ	28-8	
101	瓦質土器	火鉢	(17.7)	8.6	12.5	CEHK	60	普通	灰褐	SK19 煤付着 外面下位ヘラケズリ	28-9	
102	瓦質土器	火鉢	(19.3)	[6.5]	—	ACHH	10	普通	にぶい黄橙	SK19 煤付着		
103	瓦質土器	火鉢	—	[5.1]	(12.6)	ACHK	10	普通	黄灰	SK19 外面煤付着 指圧痕か		
104	瓦質土器	火鉢	—	[8.2]	(24.0)	DHK	20	普通	にぶい橙	SK19 御付火鉢 内面全て・外面下方黒色 SK20 と接合		
105	土師質土器	焙焼	(34.0)	[5.3]	—	CIK	50	普通	にぶい橙	SK19 九底 底部シワ状痕 外面下位ケズリ SK20 と接合		
106	土師質土器	焙焼	(37.0)	[4.7]	—	HIK	10	普通	黒	SK19 九底 砂目底 煤付着		
107	土師質土器	蓋	(6.2)	1.9	(4.0)	IK	40	普通	黒	SK19 炭化物付着		
108	土師質土器	燗台	4.0	0.6	3.4	IK	80	普通	にぶい黄橙	SK19 孔径 0.1 ~ 0.3 cm 回転糸切り 胎土粉 質		
109	瓦質土器	堀子	(22.8)	[6.6]	—	HIK	20	良好	橙	SK19 口縁ミガキ やや酸化炭焼成		
110	陶器	碗	9.0	[3.9]	—	K	45	良好	灰白	SK20 京都信楽系 灰釉 貫入 被熱 SK19 と 接合	29-1	
111	陶器	碗	(10.8)	[5.1]	—	K	25	良好	灰黄	SK20 肥前系 貝器手 施釉		
112	陶器	杯	—	[2.7]	2.9	IK	60	良好	灰	SK20 瀬戸美濃系 灰釉 被熱 外面亀裂		
113	陶器	鉢	—	[4.8]	—	IK	5	良好	灰	SK20 瀬戸美濃系 灰釉 内面磨擦		
114	陶器	椀鉢	—	[9.9]	(19.0)	AEIK	10	良好	にぶい赤褐	SK20 埴明石系		
115	陶器	押鉢	(20.0)	[5.6]	—	IK	20	良好	灰白	SK20 瀬戸美濃系 灰釉 口縁緑釉 刺磨		
116	陶器	壺	22.4	18.5	16.5	K	85	普通	明焼灰	SK20 瀬戸美濃系 鉄釉 被熱 重ね焼痕 高 台内黒書 8 文字か SK19 と接合	29-2	
117	陶器	壺	22.4	19.1	16.4	K	60	普通	灰白	SK20 瀬戸美濃系 鉄釉 被熱 重ね焼痕 高 台内黒書「タイ」 SK19 と接合	29-3	
118	陶器	双耳壺	6.8	8.0	5.0	IK	75	良好	灰黄	SK20 瀬戸美濃系 外面灰釉	29-4	
119	陶器	壺	(16.6)	15.1	14.0	A	70	良好	灰白	SK20 No.16 瀬戸美濃系 鉄釉か 全面被熱		
120	陶器	乗物	(5.2)	[2.1]	—	IK	30	良好	灰白	SK20 鉄釉		
121	瓦質土器	火鉢	23.5	18.7	22.2	K	80	普通	赤橙	SK20 口縁・体部中位ミガキ 外面部分的燻す SK19 と接合	29-5	
122	瓦質土器	堀子	23.0	18.0	23.0	AIK	95	良好	明赤褐	SK20 口縁体部中位ミガキ 外面下位燻す	29-6	
123	瓦質土器	火酒壺	(17.6)	21.4	(18.2)	CI	60	普通	にぶい黄橙	SK20 内外面煤付着 SK19 と接合		
124	瓦質土器	火酒壺	(18.6)	[22.4]	—	ACHH	50	普通	にぶい黄橙	SK20 内外面煤付着 SK19 と接合	29-7	
125	瓦質土器	火鉢	(27.5)	[11.4]	—	HIK	15	普通	にぶい橙	SK20 No.17 口縁体部中位ミガキ	29-8	
126	土師質土器	焙焼	(34.0)	[7.1]	—	ACHK	20	普通	灰褐	SK20 九底 煤付着 底部シワ状痕 外面ケズ リ SK19 と接合		
127	陶器	碗	(8.6)	5.0	3.2	HK	55	良好	灰白	SK21 No.8 京都信楽系 灰釉 鉄絵	30-1	
128	磁器	碗	(9.0)	5.1	(3.6)	K	40	良好	白	SK23 No.21 瀬戸美濃系 施釉 染付		
129	陶器	碗	9.0	4.8	3.5	IK	95	良好	灰白	SK23 No.31 京都信楽系 貫入 灰釉	30-2	
130	土師質土器	榎木鉢	—	[3.4]	(5.0)	CDGHK	40	普通	にぶい黄橙	SK23 回転糸切り(左)		
131	瓦質土器	火酒壺	(21.8)	[5.7]	—	DEIK	20	良好	暗灰	SK23 SK24 と接合		
132	かわらけ	小皿	(8.2)	1.4	(4.5)	CHIK	30	普通	橙	SK23 回転糸切り(左) 胎土粉質 江戸在地系		
133	陶器	碗	(9.6)	[4.3]	—	K	30	良好	灰白	SK24 京都信楽系 灰釉 外面鉄絵		
134	陶器	杯	(5.8)	3.1	3.0	EIK	60	良好	灰白	SK24 瀬戸美濃系 灰釉		
135	陶器	灯明皿	(10.2)	2.2	(4.0)	IK	50	良好	灰白	SK24 京都信楽系 灰釉 見込みビン底残存		
136	陶器	灯明皿	(10.4)	2.4	(4.1)	IK	30	良好	灰白	SK24 京都信楽系 灰釉 見込みビン底残存		
137	陶器	灯明皿	6.4	1.3	2.9	K	100	普通	灰白	SK24 瀬戸美濃系 鉄釉 内面輪状重ね焼痕 底部軸ふきとり	30-3	
138	陶器	灯明皿	9.6	2.4	4.0	K	80	普通	灰白	SK24 瀬戸美濃系 鉄釉 内面重ね焼痕 底部 軸ふきとり	30-4	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	検成	色調	遺構	備考	図版
139	陶器	灯明皿	(9.0)	2.1	(4.0)	IK	50	良好	橙	SK24	瀬戸美濃系 鉄軸 重ね焼痕 底部軸ふきとり	
140	陶器	皿	—	[2.4]	—	IK	5	良好	灰白	SK24	瀬戸美濃系 折縁皿 有段皿 内面灰軸	
141	陶器	油受皿	(6.2)	1.3	3.3	K	80	普通	灰白	SK24	瀬戸美濃系 鉄軸 外面輪状重ね焼痕 底部軸ふきとり	
142	陶器	油受皿	6.4	1.3	3.1	K	100	普通	灰白	SK24	瀬戸美濃系 鉄軸 外面輪状重ね焼痕	30-5
143	陶器	香炉	(9.4)	[3.3]	—	HK	10	普通	灰白	SK24	Na.181 瀬戸美濃系 緑軸	
144	陶器	両手鉢	(18.2)	[6.8]	—	H	20	普通	灰白	SK24	鉄軸	
145	陶器	土瓶	7.0	13.1	8.3	HK	90	良好	灰黄	SK24	Na.56・68 施軸 白土鉄軸 煤付着	30-6
146	陶器	土瓶	7.2	12.1	7.5	K	80	良好	灰白	SK24	Na.113・114・161 青土瓶 外面銅緑軸	30-7
147	陶器	土瓶	6.9	12.1	7.5	IK	95	良好	灰白	SK24	大塚相馬系か 青土瓶 外面銅緑軸 蓋あり 蓋部径8.1cm 高台径6.1cm 高さ3.1cm	31-1
148	陶器	土瓶	(7.2)	13.9	(8.6)	K	50	普通	灰黄褐	SK24	外面長石軸刷毛付後鉄軸 施軸	31-2
149	陶器	土瓶	—	[2.1]	(6.4)	K	90	良好	黒灰	SK24	鉄軸 銅緑軸 被熱 外面煤付着 底部外周トビガンナ	
150	陶器	水注	6.8	9.4	7.2	K	80	良好	灰白	SK24	Na.14 京都信楽系 灰軸 底面煤付着	
151	陶器	水注	(7.2)	[8.7]	—	I	70	良好	灰白	SK24	京都信楽系 灰軸	
152	陶器	水注	(6.8)	[8.0]	5.1	IK	50	良好	灰白	SK24	Na.57 瀬戸美濃系 鉄軸 割り込み高台	
153	陶器	蓋	(5.2)	1.2	3.6	K	50	良好	灰白	SK24	京都信楽系 外面灰軸 合子の蓋	
154	陶器	乗燭	—	[7.5]	6.0	IK	50	普通	灰白	SK24	Na.132 瀬戸美濃系 鉄軸 回転糸切り(右)	
155	瓦質土器	埴戸	—	[5.7]	(23.4)	CIK	25	普通	にぶい黄	SK24	煤付着 砂目底	
156	瓦質土器	火鉢	(25.0)	[10.8]	(18.4)	ACK	10	普通	にぶい黄橙	SK24	Na.71・73 脚付火鉢 砂目底 やや酸化炎焼成	
157	瓦質土器	火鉢	(25.2)	[9.0]	—	CHIK	15	普通	にぶい黄橙	SK24	Na.70 脚付火鉢 156と同一個体	
158	土師質土器	五徳	(11.7)	[3.7]	—	AHIK	20	普通	にぶい黄	SK24	Na.19	
159	瓦質土器	火鉢	(19.6)	[6.6]	—	CIK	25	良好	暗灰	SK24	口縁部中位ミガキ	
160	瓦質土器	十能	長さ16.2 幅7.6 厚さ4.7			CIK	50	普通	灰黄	SK24	被熱 煤付着 外面砂目目	
161	瓦質土器	十能	長さ11.6 幅4.5 厚さ3.9			CIK	90	普通	黒	SK24	被熱 煤付着 把手シワ状痕・ヘラナデ	31-3
162	瓦質土器	十能	長さ11.4 幅7.2 厚さ3.8			CIK	90	普通	灰黄	SK24	Na.42 被熱 煤付着 把手ケズリ	31-4
163	瓦質土器	焙烙	(37.0)	4.8	(34.6)	CIK	20	普通	にぶい黄橙	SK24	Na.76 平底 砂目底 やや酸化炎焼成	
164	土師質土器	焙烙	(37.0)	[5.1]	(38.0)	ACHIK	20	普通	にぶい黄橙	SK24	Na.183 丸底 砂目底	
165	土師質土器	五徳	(10.1)	5.2	(15.2)	ACEIK	40	良好	にぶい黄橙	SK24	Na.176	
166	磁器	碗	(10.8)	5.3	4.0	K	40	普通	灰白	SK25	Na.16 肥前系 施軸 外面染付 見込み 蛇ノ目軸割ぎ 被熱	
167	陶器	蓋	つまみ1.5	[1.6]	—	IK	5	普通	にぶい黄橙	SK25	急須の蓋 白化粧	
168	瓦質土器	火鉢	25.8	[8.7]	—	HIK	95	普通	明黄褐	SK25	Na.1～5・9・10 脚付火鉢	31-5
169	瓦質土器	焙烙	(35.2)	4.6	(32.4)	EHIK	20	普通	黄灰	SK25	Na.27・28 平底 砂目底 外面下位ケズリ	
170	磁器	碗	(8.8)	4.5	3.0	K	55	良好	灰白	SK26	瀬戸美濃系 施軸 染付	31-6
171	磁器	碗	7.2	5.8	4.2	K	70	普通	灰白	SK26	Na.13 肥前系 施軸 染付 焼罫印 SK32と接合	31-7
172	磁器	蓋物	—	[4.2]	(9.4)	K	20	良好	白	SK26	肥前系 施軸 外面染付・色絵 焼罫 205の身	
173	陶器	不明	(6.0)	4.9	(3.6)	HI	30	良好	灰白	SK26	Na.3 京都信楽系か 外面無軸 内面施軸 粘土粉質	
174	陶器	油受皿	(11.4)	2.0	(3.8)	HK	45	良好	灰白	SK26	Na.23・34 京都信楽系 灰軸 底面墨痕 磁質	
175	陶器	油受皿	7.5	5.8	5.0	HK	90	良好	明黄橙	SK26	京都信楽系か 灰軸	31-8
176	陶器	標鉢	(41.0)	[14.4]	—	CBHIK	15	良好	明赤褐	SK26	Na.12 堺明石系	
177	陶器	標鉢	(19.0)	[5.9]	—	K	20	良好	黄灰	SK26	地方民需系 鉄軸	
178	陶器	植木鉢	(9.4)	[3.8]	—	K	20	良好	灰白	SK26	京都信楽系 外面灰軸	
179	土師質土器	焙烙	(32.0)	[4.3]	(32.6)	CHIK	5	普通	灰黄	SK26	丸底 底部シワ状痕	
180	土師質土器	焙烙	(34.0)	[3.2]	(35.0)	CHIK	5	普通	にぶい黄橙	SK26	丸底 砂目底 外面下位ケズリ	
181	瓦質土器	甕罍	(41.1)	3.7	(34.4)	ACDHI	10	普通	灰褐	SK26	被熱 煤付着 内面上部ヘラケズリ	
182	磁器	碗	9.1	[4.9]	3.3	HK	20	普通	灰白	SK27	瀬戸美濃系 施軸 外面染付	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
183	磁器	坏	6.8	3.2	2.7	HK	30	普通	灰白	SK27	肥前系 施軸 外面染付	
184	瓦質土器	焙烙	(37.2)	5.1	(35.0)	ACDH	40	普通	灰黄	SK27	Na 1 ~ 4・6 ~ 10・13・14・16 ~ 21 底部シワ状痕	
185	磁器	碗	8.6	5.7	3.7	K	90	良好	明緑灰	SK30	肥前系 施軸 染付 G8-H3 と接合	32-1
186	磁器	碗	8.2	4.7	3.5	K	95	普通	灰白	SK30	肥前系 施軸 染付	32-2
187	磁器	碗	(11.4)	6.7	(6.2)	K	55	普通	灰白	SK30	肥前系 施軸 染付	32-3
188	磁器	坏	6.6	3.2	2.7	K	80	普通	灰白	SK30	肥前系 施軸 外面染付	32-4
189	陶器	坏	5.8	3.8	2.8	K	80	普通	灰白	SK30	瀬戸美濃系 灰軸	32-5
190	陶器	灯明皿	(10.4)	2.1	—	C	40	良好	淡黄	SK30	瀬戸美濃系 鉄軸 内面輪状重ね焼痕 底部軸ふきとり	
191	陶器	油受皿	(10.4)	2.4	4.6	K	70	普通	灰白	SK30	瀬戸美濃系 鉄軸 外面輪状重ね焼痕 底部軸ふきとり	
192	陶器	乗櫓	(5.2)	5.4	4.6	IK	60	普通	灰	SK30	瀬戸美濃系か 鉄軸 回転系切り(右)	32-6
193	瓦質土器	火鉢	(25.4)	12.1	(22.4)	EHK	15	普通	浅黄橙	SK30	御付火鉢 やや酸化炭焼成	
194	瓦質土器	火鉢	(17.8)	8.5	(13.4)	CEH	40	普通	にぶい橙	SK30	丸火鉢 やや酸化炭焼成	32-7
195	瓦質土器	火鉢	(16.2)	[6.9]	(13.2)	EHK	30	普通	明赤褐	SK30	丸火鉢 やや酸化炭焼成 G8-H3 に接合	
196	瓦質土器	焙烙	(35.0)	5.1	(31.6)	HK	25	普通	灰	SK30	平底 砂目底 外面下位指頭圧痕 弱いケズリ 煤付着	32-8
197	土師質土器	焙烙	(38.4)	[5.3]	—	ACHK	20	普通	にぶい黄橙	SK30	九底 砂目底 内耳 体部下位ケズリ	
198	磁器	碗	10.8	5.9	(4.0)	K	65	良好	白	SK31	肥前系 施軸 染付 焼痕 SK30 と接合	
199	陶器	土瓶	6.0	11.0	(5.0)	K	40	良好	灰白	SK31	京都信楽系 外面灰軸 鉄絵 煤付着 底面墨書	
200	瓦質土器	火鉢	—	[6.1]	—	K	5	普通	にぶい褐	SK31	口縁・外面下位ミガキ	
201	土師質土器	焙烙	(34.0)	[6.1]	—	HK	20	普通	灰黄褐	SK31	九底 砂目底 煤付着 外周ケズリ	
202	瓦質土器	焙烙	—	5.0	—	CHK	10	普通	灰	SK31	平底 砂目底 外面下位シワ状痕	
203	磁器	皿	9.6	2.1	6.2	H	85	普通	明黄褐	SK32	淡路坂平 黄橙軸 内面陰刻	33-1
204	磁器	碗	(8.2)	4.6	(3.8)	HK	25	普通	灰白	SK32	肥前系 施軸 外面染付	
205	磁器	蓋	—	[3.4]	—	K	5	良好	灰白	SK32	肥前系 施軸 外面染付・色絵 被熱 焼痕 172 の蓋	
206	陶器	油徳利	—	[4.6]	(7.8)	IK	20	良好	褐灰	SK32	瀬戸美濃系 外面柿軸	
207	陶器	皿	(12.6)	2.4	(8.0)	HK	25	良好	灰白	SK33	Na 8 瀬戸美濃系 長石軸 内面鉄絵 高台内円線ビン	
208	陶器	壺	(16.2)	[7.3]	—	EIK	10	良好	灰	SK33	瀬戸美濃系 柿軸 被熱	
209	陶器	徳利	3.4	20.3	6.4	CEIK	95	良好	灰	SK33	Na 6 瀬戸美濃系 二合半灰軸徳利 釘摺き(欠) 底部軸ふきとり	33-2
210	瓦質土器	火鉢	(17.6)	7.5	(12.0)	HK	20	普通	灰黄褐	SK33	やや酸化炭焼成きみ	
211	磁器	碗	7.3	6.0	3.6	K	55	良好	明緑灰	SK34	瀬戸美濃系 施軸 外面染付 焼痕印	33-3
212	磁器	花生	(12.6)	[14.6]	—	K	70	良好	灰白	SK34	Na 6 肥前系 外面施軸 染付	
213	陶器	碗	9.0	[4.6]	—	K	20	良好	灰白	SK34	京都信楽系 灰軸 外面鉄絵	

SK 14



SK 18



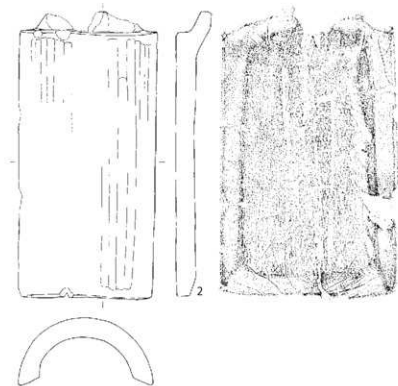
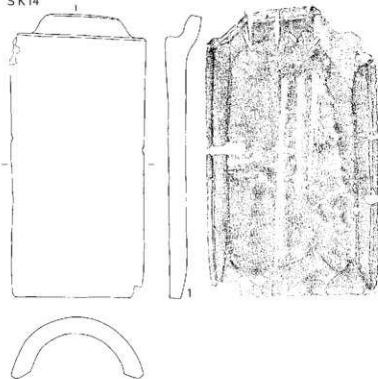
0 10cm

第94図 土壇出土遺物 (13)

第34表 土壇出土遺物観察表 (2) (第94図)

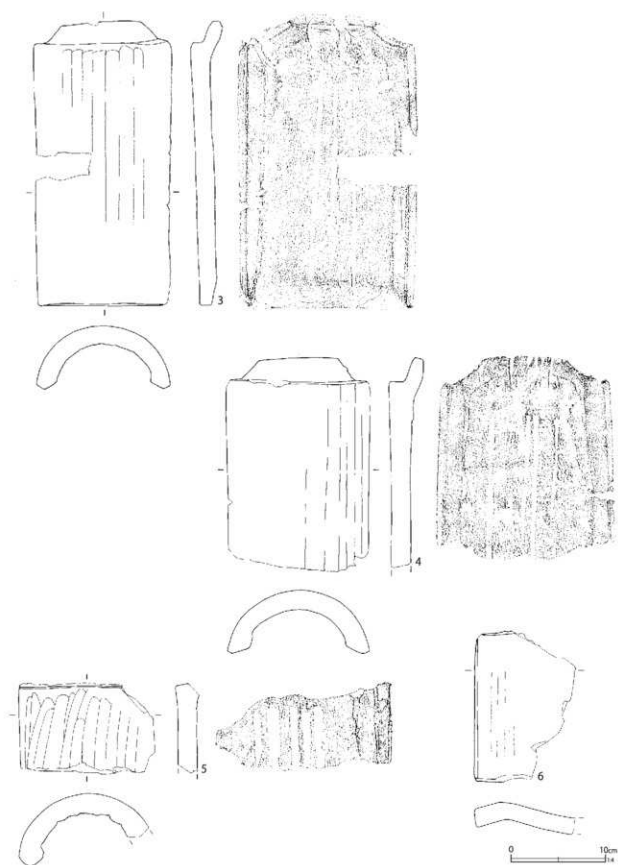
番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	蓋	3.6	1.5	3.6	15.8	IK	良好	灰白	SK14	Na 228 京都信楽系 本注の蓋か、外面灰軸 被熱か	
2	磁器	人形	—	[1.9]	—	10.7	IK	良好	灰白	SK18	Na 99 肥前系 外面施軸・色絵 二枚型中空	

SK14

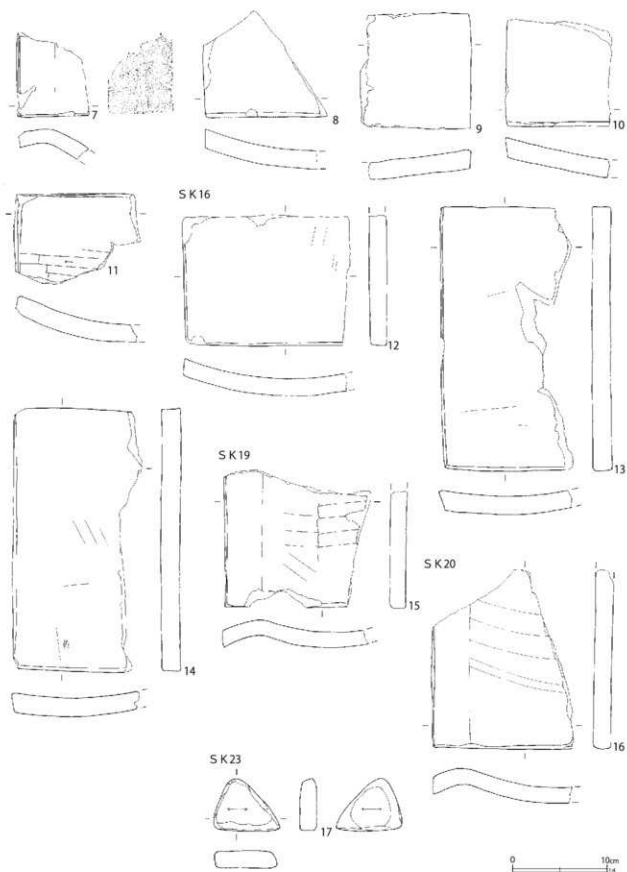


0 10cm

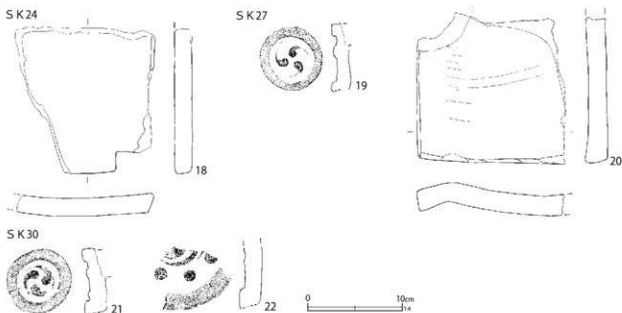
第95図 土壙出土遺物 (14)



第96図 土壙出土遺物 (15)



第97図 土壙出土遺物 (16)



第98図 土壌出土遺物 (17)

第35表 土壌出土遺物観察表 (3) (第95～98図)

番号	種別	形種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	丸瓦	29.8	13.9	1.8	—	—	AIK	普通	灰	SK14	No. 20・63 全体に煤けている	39-3
2	瓦	丸瓦	30.3	14.4	2.0	—	—	AIJK	普通	灰	SK14	No. 109 全体に煤けている 棒状圧痕	39-4
3	瓦	丸瓦	30.1	14.5	1.9	—	—	ACI	普通	灰	SK14	No. 68・109 裏しぼり目 全体布目 全体に煤けている 棒状圧痕	39-5
4	瓦	丸瓦	[22.5]	15.2	2.0	—	—	AIK	普通	灰	SK14	No. 109 全体に部分的に煤付着 棒状圧痕	39-6
5	瓦	丸瓦	[9.5]	[14.2]	2.0	—	—	AIK	普通	暗灰	SK14	No. 281 棒状圧痕	
6	瓦	棧瓦	[15.8]	[10.6]	1.8	—	—	AIK	普通	灰	SK14	煤付着	
7	瓦	棧瓦	[8.9]	[7.6]	1.5	—	—	CJ	普通	灰	SK14	裏布目	
8	瓦	平瓦	[11.1]	[12.7]	1.9	—	—	AIJK	普通	灰	SK14	No. 52 裏面コゲ 砂目	
9	瓦	平瓦	[11.6]	[12.2]	2.0	—	—	AIK	普通	灰	SK14	No. 128 全体的に煤付着 砂目	
10	瓦	平瓦	[11.3]	[11.2]	1.9	—	—	ACI	普通	灰	SK14	No. 303 内外面コゲ	
11	瓦	平瓦	[9.4]	[12.8]	2.0	—	—	AIJK	普通	灰	SK14	表面煤付着 裏面コゲ	
12	瓦	平瓦	[13.7]	[17.6]	1.9	—	—	AIK	普通	灰	SK16	No. 19 内外面煤付着	
13	瓦	道具瓦	27.9	[13.8]	1.9	—	—	AIK	普通	灰	SK16	No. 8・10・16・17 内外面煤付着 半裁して製平瓦へ転用	
14	瓦	平瓦	27.6	[13.5]	2.0	—	—	AIK	普通	暗灰	SK16	No. 12 半裁して製平瓦へ転用	39-7
15	瓦	棧瓦	[14.3]	[15.4]	1.7	—	—	AIK	普通	黒褐色	SK19	内外面煤付着	
16	瓦	棧瓦	[19.0]	[14.7]	[1.8]	—	—	AIJK	普通	暗灰	SK20	内外面煤付着 鉄分が多く付着 茶色く変色	
17	瓦	平瓦	[6.0]	[6.6]	1.8	—	—	ACI	普通	灰	SK23	転用破片 裏裏面・側面使用	40-2
18	瓦	平瓦	[15.3]	[14.6]	1.9	—	—	AIK	普通	暗灰	SK24	No. 48 裏面一部被熱 表面風化物付着 外面やや光沢あり	
19	瓦	軒棧瓦	—	—	2.0	—	7.1	AK	普通	暗灰	SK27	No. 34 連珠三ツ巴文左巻 外面一部被熱	40-1
20	瓦	軒棧瓦	15.5	15.4	2.1	—	—	AC	普通	灰	SK27	No. 24 一部被熱	
21	瓦	軒棧瓦	—	—	2.3	—	6.8	AIK	普通	灰	SK30	連珠三ツ巴文右巻 煤付着	40-1
22	瓦	軒棧瓦	—	—	2.4	—	[6.4]	AK	普通	暗灰	SK30	連珠三ツ巴文左巻8珠か 煤付着	

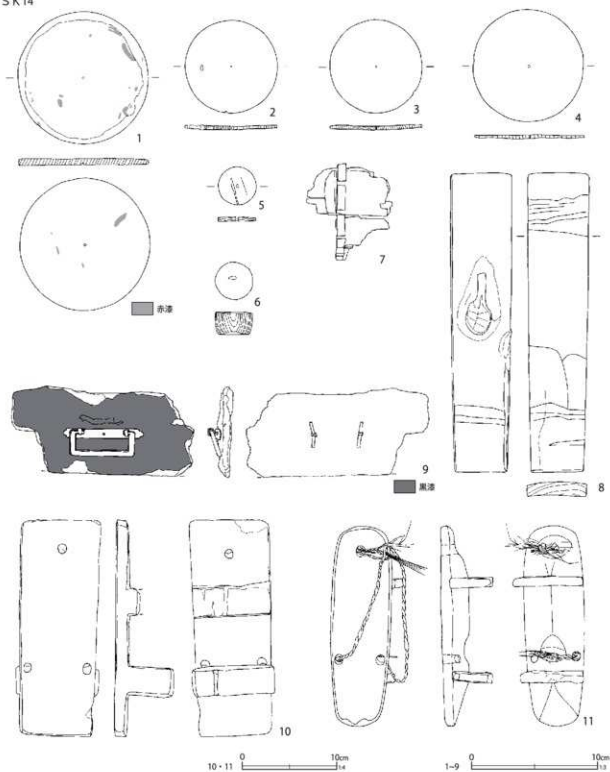
灰色粘土ブロックを含む明灰褐色土、樹皮や灰色シルトブロックを含む灰褐色土で、大型のブロックを含む。

第26号土壌 (第80図)

調査区中央のG8-1・J3グリッドに位置す

る。長軸3.50m、短軸1.55m、深さ0.25mの不整形である。長軸の方位はN-4°-Wである。断面形は皿形で、底面はほぼ平坦である。覆土は、灰黄褐色土、黒褐色土、灰褐色土で、黒褐色土には小木片や樹皮を含む。

SK14

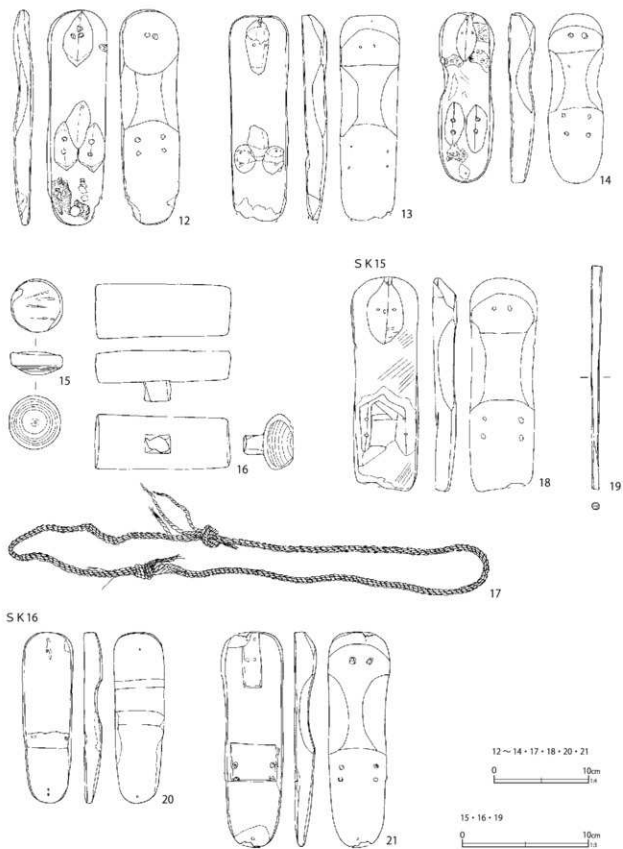


第99図 土坑出土遺物 (18)

第27号土坑 (第80図)

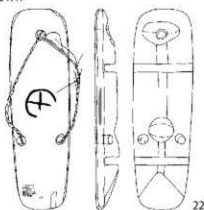
調査区中央のG 8-1 2・3グリッドに位置する。長軸は2.65m、短軸0.90m、深さ0.10mの

不整形である。長軸の方位はN-68° - Eである。第32号土坑と近接する。新旧は不明である。断面形は皿形で、底面はほぼ平坦である。覆土は、

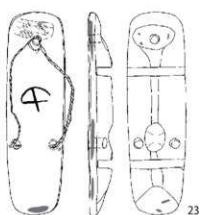


第100図 土壙出土遺物 (19)

SK17

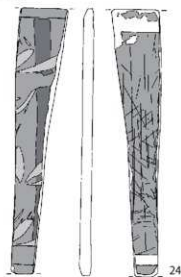


22

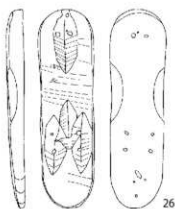


23

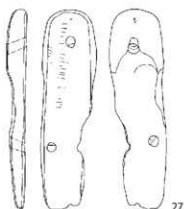
SK18



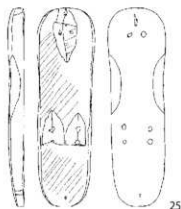
24



26

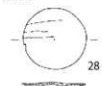


27



25

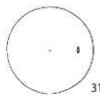
SK19



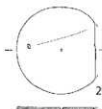
28



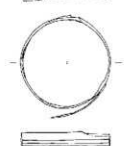
30



31



29



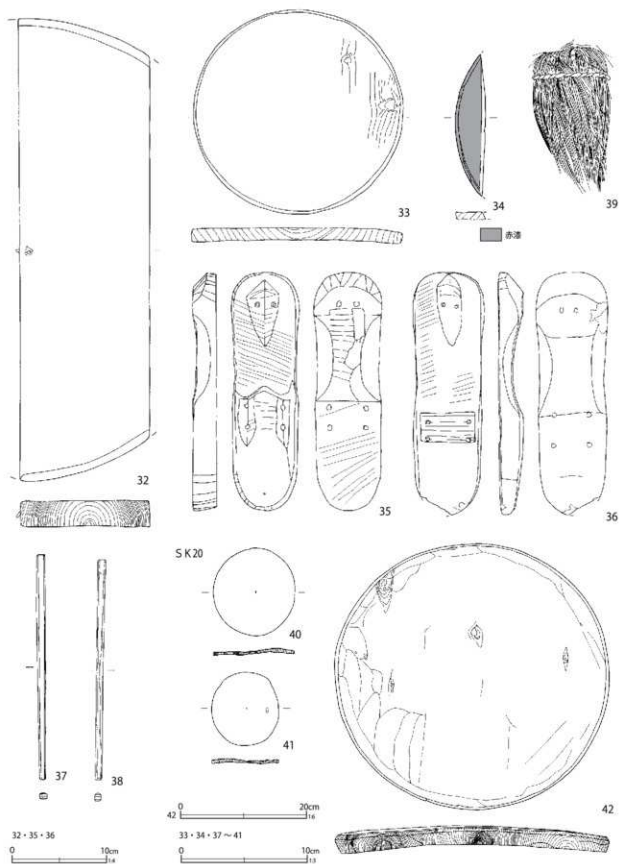
黒漆

赤漆

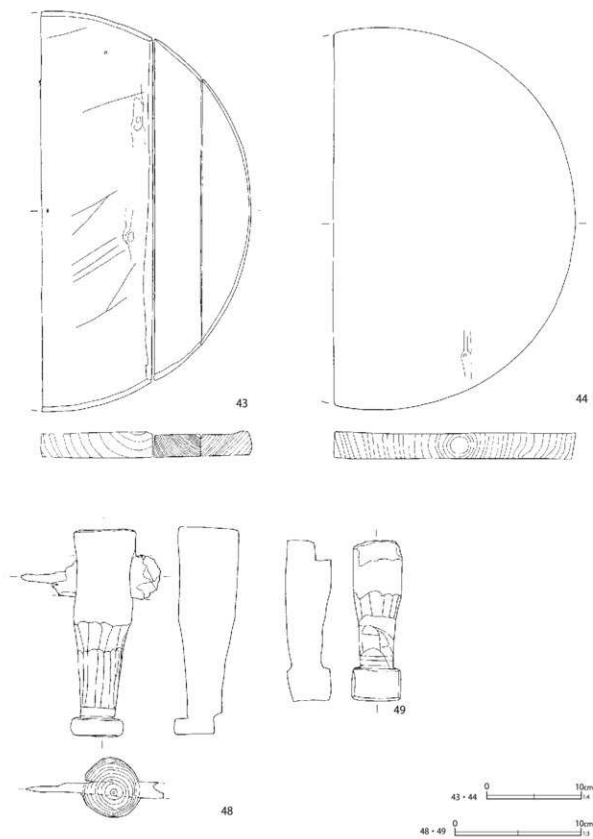
金

22・23・25～27 0 10cm 14 24・26・30～31 0 10cm 13

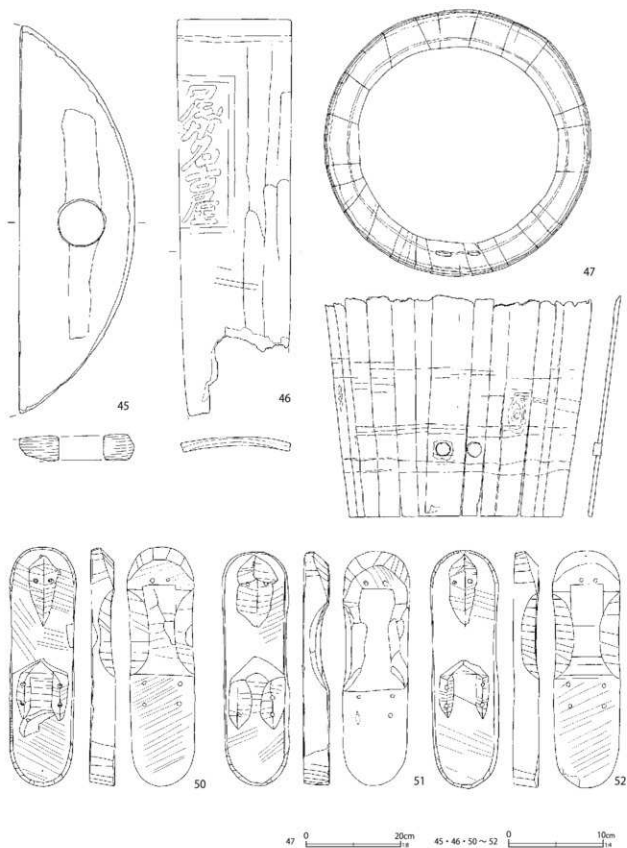
第101図 土壙出土遺物 (20)



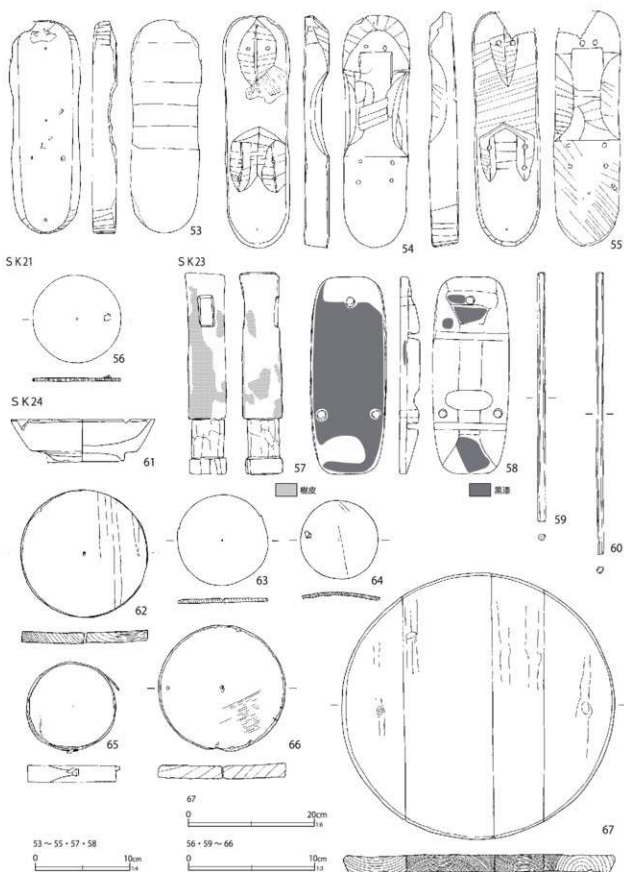
第102図 土壙出土遺物 (21)



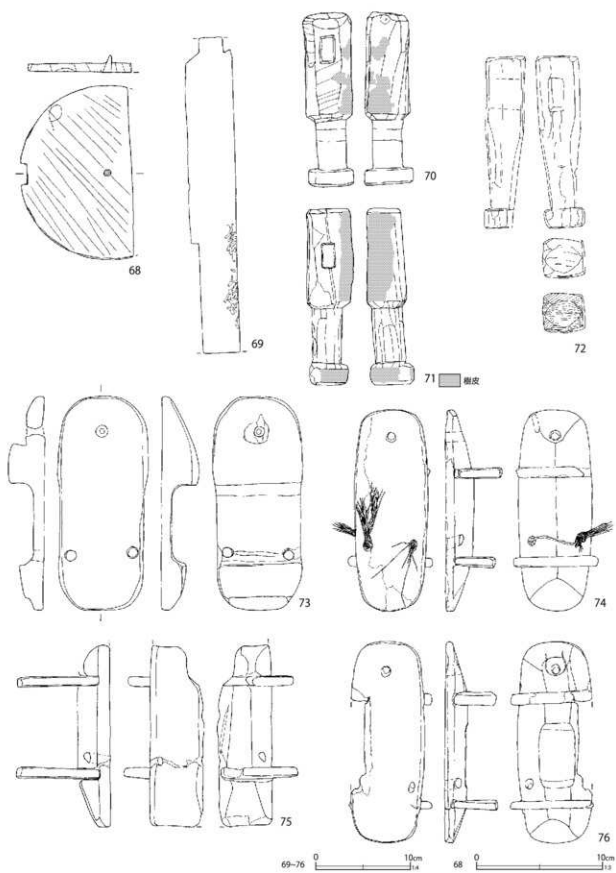
第103図 土壙出土遺物 (22)



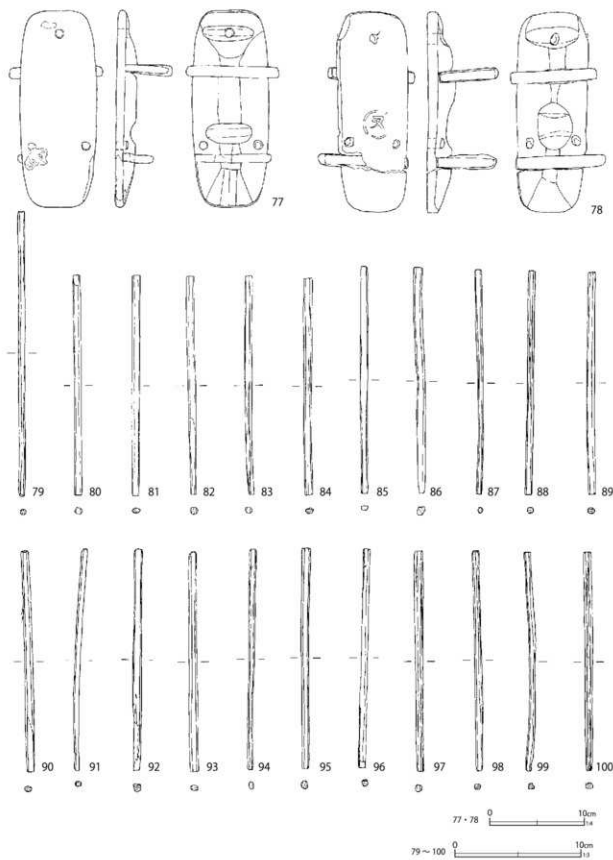
第104図 土坑出土遺物 (23)



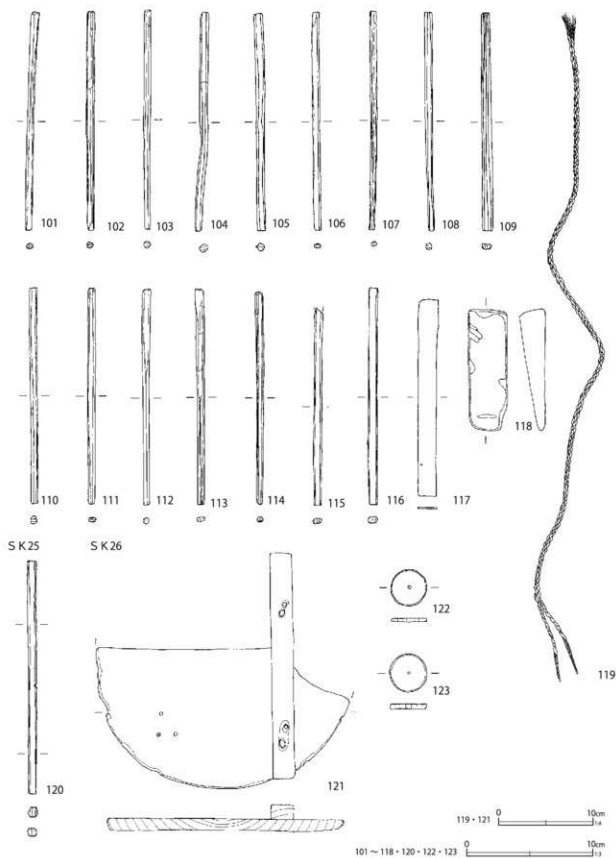
第105図 土壙出土遺物 (24)



第106図 土坑出土遺物 (25)

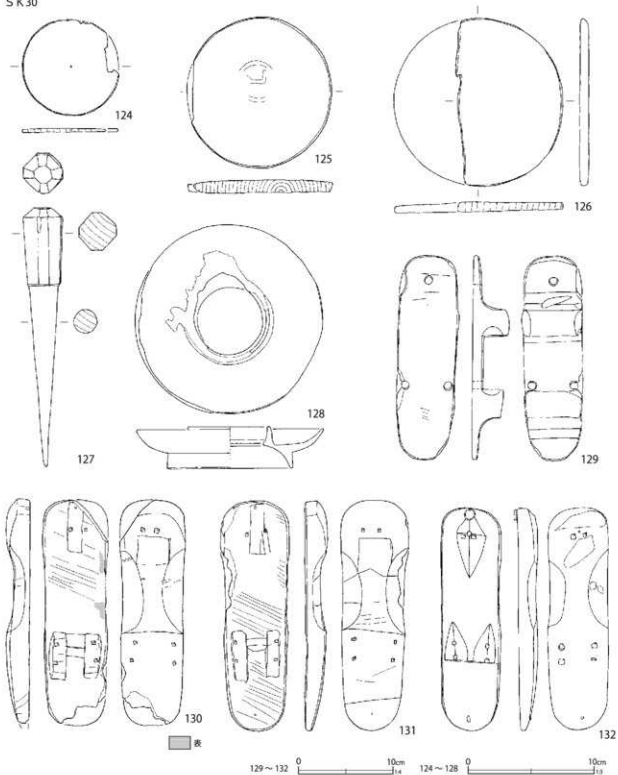


第107図 土壙出土遺物 (26)



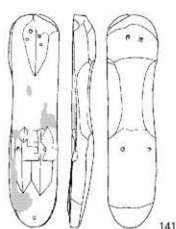
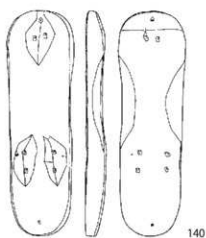
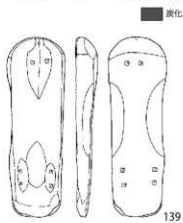
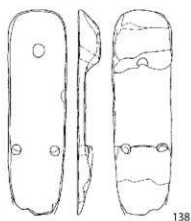
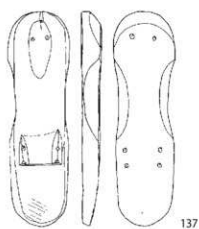
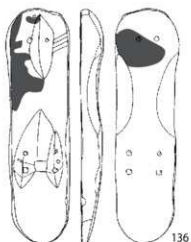
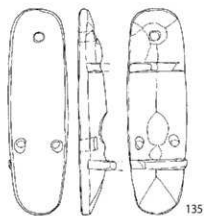
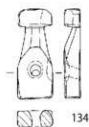
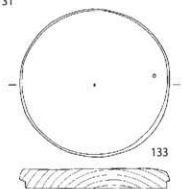
第108図 土坑出土遺物 (27)

S K 30



第109図 土壙出土遺物 (28)

SK31



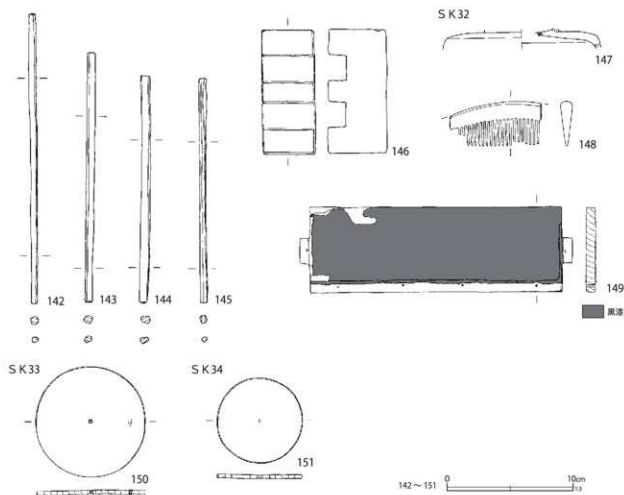
■ 炭化

■ 表

135 ~ 141 0 10cm 14

133・134 0 10cm 13

第110図 土坑出土遺物 (29)



第111図 土壇出土遺物 (30)

第36表 土壇出土遺物観察表 (4) (第99 ~ 111図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径 / 径	高さ	底径	遺構	備考	図版
1	木製品	曲物	—	—	0.5	10.2	—	—	SK14	底板 表裏面赤漆	
2	木製品	曲物	—	—	0.3	7.3	—	—	SK14	No.262 蓋	
3	木製品	曲物	—	—	0.3	7.3	—	—	SK14	No.262 底板	
4	木製品	曲物	—	—	0.3	8.8	—	—	SK14	底板	
5	木製品	不明品	—	—	0.4	3.0	—	—	SK14	No.262	
6	木製品	栓	—	—	—	3.0	1.8	—	SK14	No.11	
7	木製品	曲物	—	[5.8]	—	—	[7.7]	—	SK14	No.77 側板	
8	木製品	桶	23.5	4.7	1.0	—	—	—	SK14	側板	
9	木製品	引出	[14.4]	7.2	1.9	—	—	—	SK14	No.73 留め金具 黒漆	43-4
10	木製品	下駄	22.9	8.2	—	—	6.2	—	SK14	連衝下駄	43-5
11	木製品	下駄	21.2	6.4	—	—	5.5	—	SK14	陰卯下駄	43-6
12	木製品	下駄	22.7	5.8	—	—	1.7	—	SK14	No.117 無眼下駄 表残存	43-7
13	木製品	下駄	[21.6]	5.9	—	—	2.3	—	SK14	No.233 無眼下駄	
14	木製品	下駄	17.9	5.3	—	—	2.4	—	SK14	No.298 無眼下駄 表残存	
15	木製品	横梁	—	—	—	4.1	1.9	—	SK14	No.16	43-8
16	木製品	木桶	4.0	10.6	4.3	—	—	—	SK14		43-9
17	木製品	棕櫚桶	108.0	—	—	—	—	—	SK14	No.123	
18	木製品	下駄	22.3	6.5	—	—	2.1	—	SK15	無眼下駄	
19	木製品	箸	17.6	0.6	0.5	—	—	—	SK15		
20	木製品	下駄	18.1	5.3	—	—	1.9	—	SK16	No.14 無眼下駄 鉄釘残存	43-10
21	木製品	下駄	(22.8)	6.5	—	—	2.3	—	SK16	No.2・6 無眼下駄	43-11
22	木製品	下駄	21.5	6.2	—	—	[2.5]	—	SK17	No.3 陰卯下駄 側面赤漆 焼印「㊦」	

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	遺構	備考	図版
23	木製品	下駄	21.2	6.2	—	—	[2.4]	—	SK17	No1 陰卯下駄 全面黒漆 焼印 ㊦	44-1
24	木製品	膳	21.0	[3.8]	0.8	—	—	—	SK18		
25	木製品	下駄	21.1	5.6	—	—	1.6	—	SK18	No64 無眼下駄	
26	木製品	下駄	20.5	5.6	—	—	1.7	—	SK18	No57 無眼下駄	
27	木製品	下駄	21.2	5.1	—	—	1.9	—	SK18	No58 無眼下駄	
28	木製品	曲物	—	—	0.2	5.0	—	—	SK19	底板	
29	木製品	曲物	—	—	0.2	6.9	—	—	SK19	蓋	
30	木製品	曲物	—	—	0.5	6.2	—	—	SK19	上面赤漆	
31	木製品	曲物	—	—	—	6.8	1.1	—	SK19		
32	木製品	桶	[49.0]	[13.8]	2.7	—	—	—	SK19	蓋ないし底板	
33	木製品	桶	—	—	1.0	16.5	—	—	SK19	蓋ないし底板	
34	木製品	容器	[11.2]	[2.4]	0.6	—	—	—	SK19	底板 全面赤漆	
35	木製品	下駄	25.2	6.7	—	—	2.3	—	SK19	無眼下駄	
36	木製品	下駄	25.7	6.8	—	—	1.7	—	SK19	無眼下駄	
37	木製品	箸	17.7	0.7	0.5	—	—	—	SK19		
38	木製品	箸	17.4	0.5	0.6	—	—	—	SK19		
39	木製品	箸	11.7	6.2	—	—	—	—	SK19		
40	木製品	曲物	—	—	0.3	6.4	—	—	SK20	底板	
41	木製品	曲物	—	—	0.3	5.2	—	—	SK20	蓋	
42	木製品	桶	—	—	3.2	44.1	—	—	SK20	No10～12 蓋ないし底板	
43	木製品	桶	—	—	2.7	42.7	—	—	SK20	No14 蓋ないし底板	
44	木製品	桶	—	—	2.7	40.5	—	—	SK20	No47 蓋ないし底板	
45	木製品	樽	[41.0]	[12.2]	2.8	—	—	—	SK20	蓋	
46	木製品	桶	42.0	11.7	1.0	—	—	—	SK20	側板 焼付「尾州名古置」	44-2
47	木製品	桶	—	—	—	55.8	46.5	44.8	SK20	No18～36 栓残存	44-3
48	木製品	クルリボウ	16.3	4.6	4.6	—	—	—	SK20	椀 柄	
49	木製品	クルリボウ	12.7	3.1	3.5	—	—	—	SK20	椀	
50	木製品	下駄	25.2	6.8	—	—	2.3	—	SK20	無眼下駄	44-4
51	木製品	下駄	24.7	6.5	—	—	2.2	—	SK20	無眼下駄	
52	木製品	下駄	25.2	6.3	—	—	3.0	—	SK20	無眼下駄	
53	木製品	下駄	22.5	6.8	—	—	2.1	—	SK20	無眼下駄	44-5
54	木製品	下駄	24.6	6.5	—	—	1.9	—	SK20	無眼下駄	
55	木製品	下駄	24.8	12.4	—	—	2.7	—	SK20	無眼下駄	
56	木製品	曲物	—	—	0.2	7.0	—	—	SK21	蓋 樹皮紐	44-6
57	木製品	クルリボウ	21.3	4.0	4.2	—	—	—	SK23	椀	
58	木製品	下駄	20.9	8.1	—	—	[2.1]	—	SK23	陰卯下駄 全面黒漆	
59	木製品	箸	20.1	0.6	0.5	—	—	—	SK23	No16	44-7
60	木製品	箸	22.3	0.5	0.5	—	—	—	SK23		
61	木製品	漆椀	—	—	—	11.5	3.5	6.1	SK24	内外面黒漆	
62	木製品	曲物	—	—	0.8	10.0	—	—	SK24		44-8
63	木製品	曲物	—	—	0.3	7.1	—	—	SK24	No116 底板	
64	木製品	曲物	—	—	0.2	6.1	—	—	SK24	No156 蓋 樹皮紐	
65	木製品	曲物	—	—	—	7.0	1.3	—	SK24	No112	
66	木製品	曲物	—	—	1.0	10.0	—	—	SK24	No74 底板	
67	木製品	桶	—	—	2.8	43.8	—	—	SK24	No137 蓋ないし底板	
68	木製品	不明品	—	—	0.7	13.2	—	—	SK24	No20 中央に木軸	
69	木製品	曲物	33.3	[5.0]	0.1	—	—	—	SK24	No177 側板	
70	木製品	クルリボウ	18.4	5.2	5.1	—	—	—	SK24	No145 椀	45-1
71	木製品	クルリボウ	18.7	4.9	4.6	—	—	—	SK24	No46 椀	45-2
72	木製品	クルリボウ	18.0	4.5	4.0	—	—	—	SK24	No147 椀	45-3
73	木製品	下駄	22.6	9.0	—	—	4.0	—	SK24	No120 判り下駄	45-4
74	木製品	下駄	21.2	7.8	—	—	5.5	—	SK24	No108 陰卯下駄	
75	木製品	下駄	[18.9]	[5.6]	—	—	10.0	—	SK24	No32 陰卯下駄	
76	木製品	下駄	21.3	—	—	—	5.6	—	SK24	No82 陰卯下駄	
77	木製品	下駄	20.8	9.1	—	—	4.8	—	SK24	No3 陰卯下駄	

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径 / 径	高さ	底径	遺構	備考	図版
78	木製品	下駄	21.2	7.4	—	—	6.6	—	SK24	No.153 膝印下駄 焼印「㊤」	45-4 45-5
79	木製品	箸	22.5	0.5	0.4	—	—	—	SK24		
80	木製品	箸	17.4	0.6	0.5	—	—	—	SK24		
81	木製品	箸	17.4	0.6	0.4	—	—	—	SK24		
82	木製品	箸	17.3	0.6	0.6	—	—	—	SK24		
83	木製品	箸	17.2	0.6	0.5	—	—	—	SK24		
84	木製品	箸	17.1	0.6	0.5	—	—	—	SK24		
85	木製品	箸	17.9	0.6	0.3	—	—	—	SK24		
86	木製品	箸	17.8	0.6	0.7	—	—	—	SK24		
87	木製品	箸	17.7	0.4	0.4	—	—	—	SK24		
88	木製品	箸	17.7	0.5	0.4	—	—	—	SK24		
89	木製品	箸	17.6	0.6	0.5	—	—	—	SK24		
90	木製品	箸	17.5	0.6	0.4	—	—	—	SK24		
91	木製品	箸	17.5	0.4	0.4	—	—	—	SK24		
92	木製品	箸	17.4	0.7	0.6	—	—	—	SK24		
93	木製品	箸	17.4	0.7	0.4	—	—	—	SK24		
94	木製品	箸	17.4	0.4	0.6	—	—	—	SK24		
95	木製品	箸	17.4	0.6	0.6	—	—	—	SK24		
96	木製品	箸	17.4	0.5	0.6	—	—	—	SK24		
97	木製品	箸	17.4	0.6	0.6	—	—	—	SK24		
98	木製品	箸	17.4	0.5	0.4	—	—	—	SK24		
99	木製品	箸	17.3	0.5	0.4	—	—	—	SK24		
100	木製品	箸	17.3	0.6	0.5	—	—	—	SK24		
101	木製品	箸	17.3	0.5	0.4	—	—	—	SK24		
102	木製品	箸	17.3	0.6	0.4	—	—	—	SK24		
103	木製品	箸	17.3	0.5	0.5	—	—	—	SK24		
104	木製品	箸	17.3	0.7	0.6	—	—	—	SK24		
105	木製品	箸	17.2	0.6	0.6	—	—	—	SK24		
106	木製品	箸	17.2	0.5	0.4	—	—	—	SK24		
107	木製品	箸	17.2	0.5	0.4	—	—	—	SK24		
108	木製品	箸	17.2	0.5	0.4	—	—	—	SK24		
109	木製品	箸	17.2	0.7	0.5	—	—	—	SK24		
110	木製品	箸	17.0	0.6	0.6	—	—	—	SK24		
111	木製品	箸	17.0	0.6	0.4	—	—	—	SK24		
112	木製品	箸	17.0	0.5	0.5	—	—	—	SK24		
113	木製品	箸	17.0	0.6	0.3	—	—	—	SK24		
114	木製品	箸	16.8	0.6	0.4	—	—	—	SK24		
115	木製品	箸	[15.7]	0.7	0.4	—	—	—	SK24		
116	木製品	箸	17.1	0.7	0.5	—	—	—	SK24		
117	木製品	付け木	15.5	1.5	0.1	—	—	—	SK24		
118	木製品	不明品	9.6	3.1	2.1	—	—	—	SK24		
119	木製品	棕櫚縄	72.0	—	—	—	—	—	SK24	No.151	
120	木製品	箸	18.4	0.7	0.8	—	—	—	SK25	No.19	
121	木製品	蓋	—	—	—	(26.5)	2.8	—	SK26	No.21	
122	木製品	不明品	—	—	0.3	2.8	—	—	SK26		
123	木製品	不明品	—	—	0.4	2.9	—	—	SK26		
124	木製品	曲物	—	—	0.3	7.5	—	—	SK30	底板	
125	木製品	曲物	—	—	1.0	11.8	—	—	SK30	底板 焼印	
126	木製品	曲物	—	—	0.8	13.2	—	—	SK30	底板	
127	木製品	栓	20.5	3.1	3.0	—	—	—	SK30		
128	木製品	天目台	—	—	—	(6.4)	3.3	(9.7)	SK30	外周径 (14.7) cm 内外面黒漆	
129	木製品	下駄	21.6	6.4	—	—	3.8	—	SK30	達衝下駄	
130	木製品	下駄	[23.7]	7.0	—	—	2.5	—	SK30	無眼下駄	
131	木製品	下駄	24.3	7.3	—	—	2.4	—	SK30	無眼下駄	
132	木製品	下駄	23.5	6.3	—	—	2.1	—	SK30	無眼下駄	

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	遺構	備考	図版
133	木製品	曲物	—	—	1.6	11.8	—	—	SK31	№1 蓋	45-6
134	木製品	柄杓	7.1	2.8	1.3	—	—	—	SK31	小槌	
135	木製品	下駄	21.8	6.2	—	—	[3.8]	—	SK31	陰仰下駄	
136	木製品	下駄	24.6	6.7	—	—	2.4	—	SK31	無眼下駄 炭化	45-7
137	木製品	下駄	22.6	6.5	—	—	2.2	—	SK31	№5 無眼下駄	
138	木製品	下駄	[21.7]	6.2	—	—	2.4	—	SK31	割り下駄	
139	木製品	下駄	19.0	6.1	—	—	2.3	—	SK31	無眼下駄	45-7
140	木製品	下駄	23.8	7.1	—	—	2.2	—	SK31	№3 無眼下駄	
141	木製品	下駄	22.5	5.4	—	—	2.5	—	SK31	№6 無眼下駄 表残存	
142	木製品	箸	22.8	0.6	0.6	—	—	—	SK31		45-7
143	木製品	箸	19.6	0.7	0.6	—	—	—	SK31		
144	木製品	箸	17.9	0.7	0.6	—	—	—	SK31		
145	木製品	箸	17.7	0.5	0.6	—	—	—	SK31		45-7
146	木製品	鴨居	9.8	[4.2]	4.7	—	—	—	SK31		
147	木製品	漆桶蓋	—	—	—	—	[1.6]	—	SK32	内外面赤漆	
148	木製品	櫛	[7.3]	3.5	0.9	—	—	—	SK32		45-7
149	木製品	箱	21.6	6.8	0.8	—	—	—	SK32	側板 内外面黒漆 漆接合痕	
150	木製品	曲物	—	—	3.5	8.6	—	—	SK33	№5 蓋 樹皮紐	
151	木製品	曲物	—	—	0.3	6.7	—	—	SK34	底板	

第37表 土壌出土遺物観察表（5）（第112図）

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	煙管	長さ4.5 火皿径1.5 小口径1.2 重さ10.8	SK14	№45 雁首	46-4
2	鉄製品	鎌	長さ[13.3] 刃幅4.3 背幅0.3 重さ39.5	SK14	№219	
3	鉄製品	火箸	長さ[23.1] 厚さ0.5 重さ34.3	SK14	№264	
4	鉄製品	釘	長さ7.8 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.7	SK17	№9	46-4
5	鉄製品	釘	長さ[9.1] 幅0.3 厚さ0.3 重さ5.1	SK18	№104	
6	鉄製品	釘	長さ[8.4] 幅0.3 厚さ0.3 重さ4.9	SK18	№103	
7	鉄製品	釘	長さ[6.1] 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.3	SK18	№103	46-4
8	鉄製品	火箸	長さ[23.4] 幅0.3 厚さ0.4 重さ22.7	SK19		
9	鉄製品	釘	長さ4.2 幅0.3 厚さ0.3 重さ1.1	SK19		
10	鉄製品	鎌	長さ[13.1] 刃幅3.5 背幅0.4 重さ105.9	SK19	口金あり 柄木残存	46-5
11	鉄製品	合口	長さ[22.6] 刃幅2.0 背幅0.3 重さ44.6	SK19	柄は木製	46-5
12	鉄製品	不明	縦[3.0] 横[8.6] 厚さ0.3 重さ26.7	SK20		46-3
13	鉄製品	不明	長さ[14.6] 幅0.9 厚さ0.3 重さ26.0	SK21	№16	
14	銅製品	煙管	長さ4.6 火皿径2.3 小口径1.1 重さ9.8	SK24	雁首	
15	鉄製品	両端受け金具	長さ30.6 幅1.1 厚さ0.4 重さ91.8	SK24	№77	46-3
16	鉄製品	刀子	長さ[10.2] 刃長[5.2] 刃幅1.4 背幅0.2 重さ10.5	SK26	№26	
17	鉄製品	釘	長さ6.6 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.1	SK26	№36	
18	鉄製品	釘	長さ[6.7] 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.7	SK26	№37	

砂質で小木片を含む暗褐色土である。

第28号土壌 欠番

第30・33号土壌（第81図）

第30号土壌と第33号土壌は重複する。第30号土壌が古く、第33号土壌が新しい。

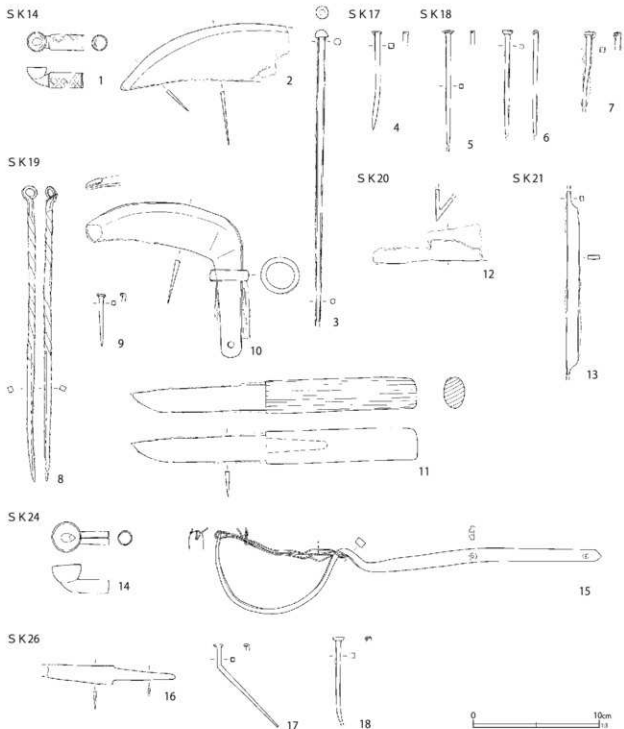
第30号土壌は、調査区北東のG8-H3グリッドに位置する。長軸3.35m、短軸1.70m、深さ0.40mの隅丸長方形である。長軸の方位はN-71°-Eである。断面形状は逆台形で、底面はほぼ平坦である。覆土は、砂質の灰褐色土と小木片を多量に含む淡黒褐色土とシルトの灰黄褐色土であ

る。

第33号土壌は、調査区北東のG8-G2・3、H2・3グリッドに位置し、推定される長軸は4.90m、短軸は3.00m、深さは0.15mの隅丸長方形である。長軸の方位はN-17°-Wである。断面形状は皿形で、底面は北側が0.10mほど深い。覆土は、樹皮を多量に含む黒褐色土と褐色土、小木片を多量に含む淡黒褐色土を主体とする。

第32号土壌（第80図）

調査区中央のG8-I2・3、J2・3グリッドに位置する。長軸は3.95m、短軸は1.45m、



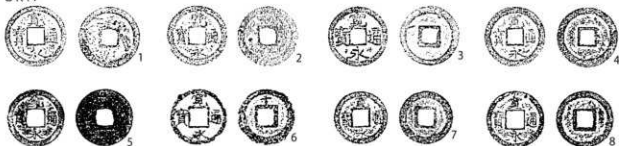
第112図 土壙出土遺物 (31)

深さは0.15mの不整形である。長軸の方位はN-8°-Wである。第27号土壙と近接する。新旧は不明である。断面形は皿形で、底面はほぼ平坦である。覆土は根や小木片、樹皮を含む黒褐色土、褐色土、灰褐色土、炭化物粒を多量に含む暗灰褐色土である。

第35号土壙 (第81図)

調査区北西のG 8-I 2グリッドに位置する。確認できた長軸1.75m、短軸0.60m、深さ0.20mの不整形である。長軸の方位はN-7°-Wである。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。覆土は砂層の暗黄褐色土、灰色土である。

SK14



SK18



SK20



SK31



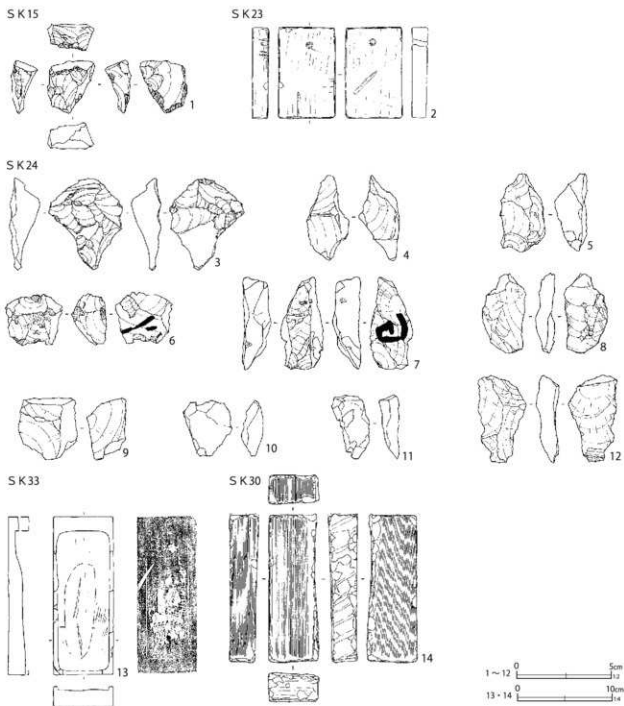
第113図 土城出土遺物 (32)

第38表 土城出土遺物観察表 (6) (第113図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径24.35 厚さ1.36 重さ2.9	SK14	寛永通寶 (新)	47-3
2	銅製品	銭貨	径24.08 厚さ1.02 重さ2.5	SK14	寛永通寶 (新)	47-3
3	銅製品	銭貨	径24.04 厚さ1.07 重さ2.2	SK14	寛永通寶 (古)	47-3
4	銅製品	銭貨	径24.36 厚さ1.16 重さ2.5	SK14	寛永通寶 (新)	47-3
5	銅製品	銭貨	径23.15 厚さ1.09 重さ2.4	SK14	寛永通寶 (新)	47-3
6	銅製品	銭貨	径22.80 厚さ1.39 重さ2.4	SK14	寛永通寶 (鉄一文銭)	47-3
7	銅製品	銭貨	径21.57 厚さ1.20 重さ2.4	SK14	寛永通寶 (新)	47-3
8	銅製品	銭貨	径23.02 厚さ1.03 重さ2.2	SK14	寛永通寶 (新)	47-3
9	銅製品	銭貨	径 (23.29) 厚さ2.75 重さ2.3	SK18	寛永通寶	47-3
10	銅製品	銭貨	径23.69 厚さ1.08 重さ2.4	SK20	寛永通寶 (新)	47-3
11	銅製品	銭貨	径28.16 厚さ1.31 重さ4.7	SK20	寛永通寶 (四文銭)	47-3
12	銅製品	銭貨	径 (22.00) 厚さ0.89 重さ1.3	SK31	寛永通寶	

第39表 土城出土遺物観察表 (7) (第114図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	火打石	2.8	2.5	1.4	8.1	玉髓	SK15	縁辺剥離顕著 潰れわずか	47-2
2	石製品	温石	9.7	6.1	1.8	169.3	砂岩	SK23	Na10 穿孔あり 穿孔径0.7cm	
3	石製品	火打石	4.8	3.9	1.1	17.9	玉髓	SK24	剥片 未使用	47-2
4	石製品	火打石	4.5	2.3	2.2	12.8	玉髓	SK24	未使用 被熱か	47-2
5	石製品	火打石	4.1	2.4	1.7	14.2	玉髓	SK24	未使用	47-2
6	石製品	火打石	2.7	3.0	1.8	13.9	玉髓	SK24	未使用 裏面墨書	47-2
7	石製品	火打石	4.8	2.3	1.5	13.3	瑪瑙	SK24	未使用 墨書「巳」	47-2
8	石製品	火打石	4.2	2.3	1.0	6.9	玉髓	SK24	剥片 未使用	47-2
9	石製品	火打石	3.3	3.2	2.0	20.5	玉髓	SK24	未使用	47-2
10	石製品	火打石	2.9	2.6	1.1	7.1	玉髓	SK24	未使用	47-2
11	石製品	火打石	3.4	2.0	1.1	5.6	玉髓	SK24	未使用	47-2
12	石製品	火打石	4.6	2.6	1.2	9.3	玉髓	SK24	剥片 未使用 被熱 (黒化・赤化)	47-2
13	石製品	硯	11.7	3.3	2.1	372.8	粘板岩	SK33		46-7
14	石製品	砥石	15.8	5.4	3.1	441.9	流紋岩	SK30	ノコギリ痕 右側面幅広工具痕	



第114図 土壇出土遺物 (33)

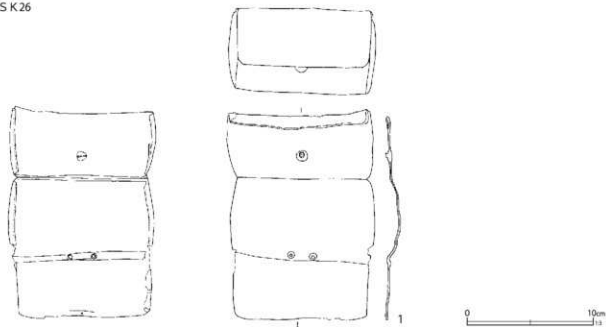
第36号土壇 (第81図)

調査区北西のG8-I2グリッドに位置する。長軸は0.70m、短軸は0.50m、深さは0.25mの楕円形である。長軸の方角はN-15°-Wである。第25号土壇と重複し、第25号土壇よりも新しい。断面形は逆台形で、底面は東側が0.10mほど深い。覆土は、黒褐色

色土ブロックや炭化物粒を含む明灰褐色土、黒褐色土ブロック、樹皮、小木片を含む灰褐色土、褐色土、灰褐色土で、大型のブロックを含むことから、埋め戻しの可能性がある。

第37・38号土壇 欠番

第40号土壇 (第81図)



第115図 土壇出土遺物 (34)

第40表 土壇出土遺物観察表 (8) (第115図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	その他	財布	高さ6.8 幅11.7 厚さ1.0 開き長(16.7)	SK26	革製 三ツ折り リベット留金具付	38-2

調査区北西のG8-I2グリッドに位置し、推定される長軸0.85mと短軸0.85m、深さ0.42mで、壁がはっきりしないがほぼ円形と思われる。長軸の方位はN-16°-Wである。第34号土壇と重複し、第34号土壇よりも新しい。断面形は鍋底形である。覆土は、灰褐色土ブロックを含む暗黄褐色土、灰色粘土ブロックを含む明灰褐色土、材木を含む暗灰褐色土で、大型のブロックを含むことから、埋め戻しの可能性がある。

土壇出土遺物 (第82～115図)

土壇からは、陶磁器、土器、瓦、木製品、鉄製品といった多様な遺物が出土した。

第82～93図は陶磁器、土器である。第一面より土器の出土比率が高い。大量の遺物があるため、まとまった量が出土した第14・19・20・24号土壇出土資料について述べる。

第14号土壇の磁器は、肥前系の筒形碗、広東碗、端反碗、坏、皿、鉢、瀬戸美濃系の湯呑碗、蓋である。陶器は瀬戸美濃系の碗、灯明皿、油受皿、甕、

蓋、乗燭、香炉、堺明石系の播鉢、京都信楽系の土瓶がある。21は大堀相馬系の碗である。37は京都信楽系の土瓶で、銅線が付く。土器には、両手鍋、火鉢、焙烙、植木鉢、十能がある。

第19号土壇の磁器は、肥前系の筒形碗、広東碗、皿、八角鉢、蓋、瀬戸美濃系の端反碗である。陶器は京都信楽系の碗、瀬戸美濃系の灯明皿、油受皿などがある。97は肥前系の鉢で、重ね焼痕が見られる。土器には、焙烙、火鉢、蓋、燭台、焔炉がある。99の火鉢は口縁部が欠け、内面にコゲが見られることから、煙草盆として利用されたと考えられる。19世紀前半と考えられる。

第20号土壇は、磁器には図示可能な個体が認められない。陶器は京都信楽系の端反碗、瀬戸美濃系の坏、鉢、壺、甕、双耳壺、捏鉢、堺明石系の播鉢などがある。壺甕類に全形の知れる個体が多いのが特徴的である。121～126は土器で、火消壺、焔炉、火鉢、焙烙である。火消壺の全形の知れる資料は、この土壇出土資料に限られる。第19

号土壇出土資料と接合するものが認められることから、同時期の19世紀前半と考えられる。

第24号土壇は、やはり磁器には図示可能な個体が認められない。陶器は京都信楽系の小杉碗、灯明皿、水注、合子の蓋、瀬戸美濃系の坏、灯明皿、皿、油受皿、香炉、水柱、乗槌、産地不明の土瓶がある。全形の知れる土瓶、水注が多い。土器には埴炉、火鉢、五徳、十能がある。19世紀前半と考えられる。

第95～98図は瓦である。丸瓦、棧瓦、平瓦、道具瓦が出土した。

第99～111図は木製品である。桶や廃棄された建築部材等も多く見られたが、用途不明の破片が多い。桶はほとんどが取り外すと分解してしまい、上げることができなかった。

製品には小型の曲物、下駄、箸、桶・樽の底板が多い。組成は、第2地点第一面の土壇とほぼ同様である。漆製品はほとんど見られない。

小型の曲物は、第一面同様にごく低い側板が付く、蓋が付くものである。31・65には側板が残っている。1には一部に赤漆が付着する。

15は独楽である。芯は失われている。胴体部分に同心円状の刻みが施されている。

下駄は所謂無眼下駄が最も多く、差歯下駄は陰卵下駄である。連歯下駄が少数見られる。いずれも表が外された状態で、鼻緒もほとんど外されている。45・51は棕櫚縄の鼻緒が残った状態である。22・23には「○に十」、78には「○に又」の焼印が施されている。58は漆塗りである。

32・33・42・45～47は樽・桶の底板である。8・46・47は側板である。46には「尾州 名古屋」の焼付が施されている。

箸は所謂元禄箸である。図示した他にも大量に出土した。

128は総黒漆塗りの天目台である。第2・4地点では唯一の出土例である。

第112図は金属製品である。用途不明の金属片が多く見られた。1・14は煙管の雁首で、格子状

の様子が施されている。3・8は火箸である。3の上半は振じった状態になっている。11は合口で木製の柄が付いている。

第113図は銭貨である。ほとんどが新寛永である。6は鉄銭、11は波銭である。

第114図は石製品である。1・3～6・8～12は玉髓製の火打石である。7は瑪瑙製の火打石である。ツールの本体と剥片があるが、いずれも未使用である。6・7は墨書されている。7は「巳」、6は判読不明である。4・12は被熱している。

2は砂岩製の温石である。直方体で全体に加工痕が認められる。中央上方に径7mmの穿孔が施されている。13は粘板岩製の硯である。13は裏側に刻書が施され、それが削り取られている。14は流紋岩製の砥石である。

第115図1は革製品である。三つ折りの財布状の製品で、鉄製のリベット状の留め具が付く。内側は側縁が折り返され、糸でかがられている。

(4) 性格不明遺構

第1号性格不明遺構 (第116図)

調査区北東のG8-G・H3グリッドに位置する。長軸方向の長さは9.70m、確認できた短軸方向の長さは1.60m、深さは0.30mで、東側は調査区壁面にかかるが、平面形は隅丸長方形と思われる。第17・30・33号土壇と近接する。断面形は、部位によって異なるが、鍋底形や皿形である。

覆土は、暗黄褐色土を含む砂質の灰褐色土、暗褐色土、炭化した木の小破片を多量に含む黒褐色土、シルトの灰色土、暗褐色土、樹皮を多量に含む暗褐色土、シルトの灰褐色土で、第6層からは木製品の出土が多く、材料や製品を廃棄した埋め戻しの可能性がある。

性格不明遺構出土遺物 (第117～122図)

第1号性格不明遺構からは、陶磁器、土器、瓦、木製品、鉄製品といった多様な遺物が出土した。

第117、118図は陶磁器、土器である。土壇同様に土器の出土比率が高い。

1～4は、肥前系、瀬戸美濃系の磁器碗で、広東碗、端反碗、丸碗である。

5・6・8～17は陶器である。5・6は京都信楽系の小杉碗である。いずれも灰釉が施されている。7は肥前系の坏である。

8～11は瀬戸美濃系の灯明皿である。柿釉が施され、いずれにも重ね焼痕が見られる。

13は瀬戸美濃系の甕である。前面に柿釉が施されている。

14は産地不明の鍋である。柿釉が施されている。底部に煤が付着している。15・16は堺明石系の播鉢である。

18～30は土器である。18～21は瓦質の火鉢、22は土師質の火鉢である。被熱により変色した可能性もある。18は菊の印判が施されている脚付火鉢である。22は脚付火鉢の脚部である。

23は土師質の片手鍋である。24は瓦質の掘炬燵である。

26は土能である。炭掻きの部分の柄側が丸みを帯び、柄が斜めに取りつき、特徴的である。

27・29は焙烙である。27は平底、29は丸底である。29は破損が著しいが、耳が付くと考えられる。

28は涼炉等の移動式の焔炉である。不明瞭だが、底面に「新兵衛」の刻印が施されている。

第1号性格不明遺構の時期は、磁器に端反碗と高台の高三角の広東碗があり、土器に土能が見られることから、19世紀前半と考えられる。

第119図は瓦である。軒棧瓦、棧瓦、平瓦、道具瓦が少量出土している。1は大型の軒棧瓦の破片である。3は道具瓦等と考えられる。4は漆喰である。

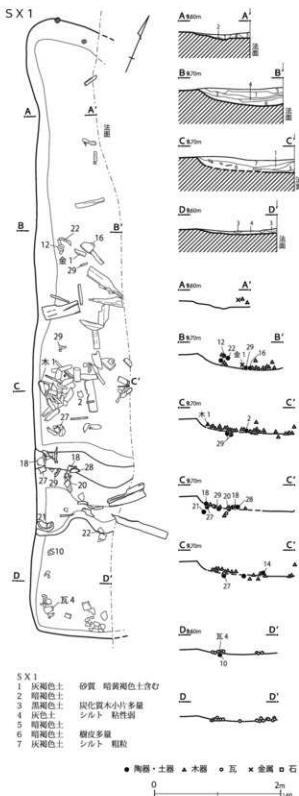
木製品は、前述のように樹皮を多く含む第6層から出土したが、図示できるものは少ない。

第120図1は無眼下駄で、部分的に炭化している。表と鼻緒は外され、外した際のえぐり痕が大きく残る。2は傘の骨で、柄には漆下地、ろくろ

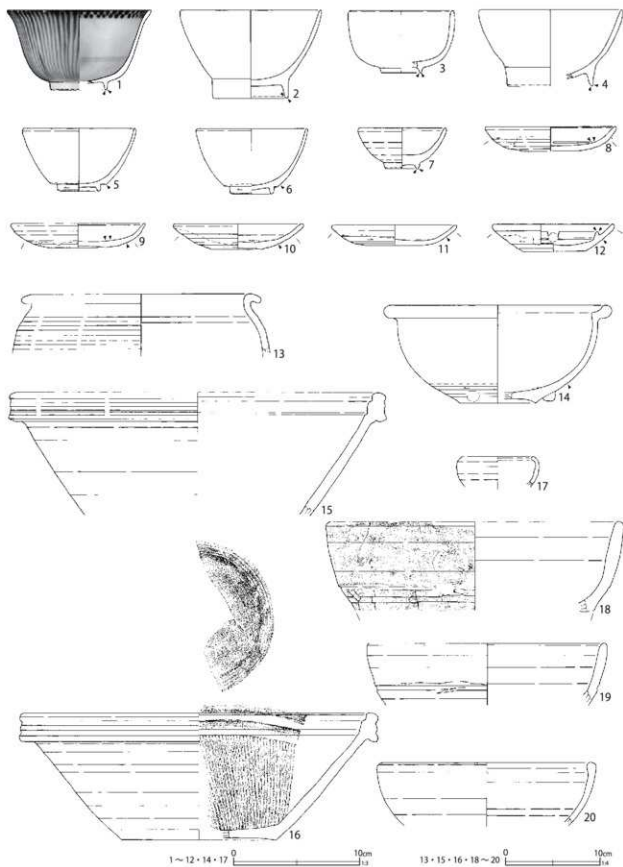
部には赤漆が残る。

第121図は鉄製の鉈の刃部である。

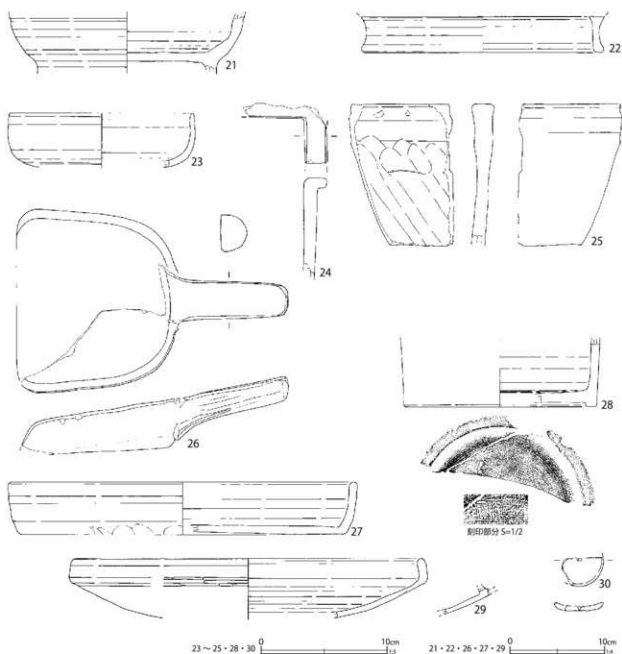
第122図は銭貨で、新寛永である。



第116図 第1号性格不明遺構



第117图 性格不明遺構出土遺物(1)

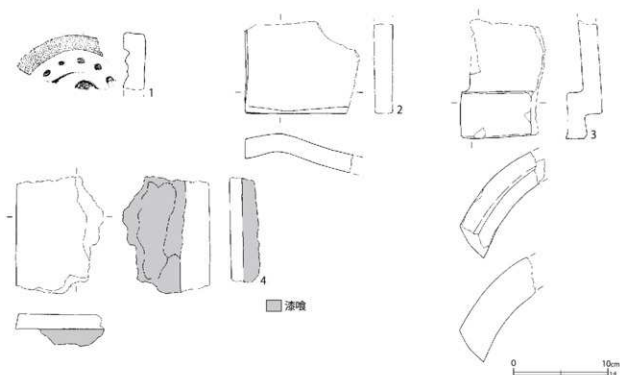


第118図 性格不明遺構出土遺物（2）

第41表 性格不明遺構出土遺物観察表（1）（第117・118図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	国版
1	磁器	碗	(11.2)	6.3	(4.4)	K	40	普通	明緑灰	SX1	瀬戸美濃系 施釉 染付	
2	磁器	碗	(11.0)	7.0	(6.0)	IK	40	良好	白	SX1	No.62 瀬戸美濃系 施釉 染付	
3	磁器	碗	(8.0)	4.9	(3.2)	K	40	良好	白	SX1	肥前系 施釉 染付	
4	磁器	碗	(11.2)	6.0	(6.8)	K	30	良好	白	SX1	瀬戸美濃系 施釉 染付	
5	陶器	碗	(8.8)	4.9	3.4	K	70	良好	灰白	SX1	京都信楽系 灰釉	
6	陶器	碗	(8.6)	5.2	3.4	K	80	良好	灰白	SX1	京都信楽系 灰釉 外面鉄絵	
7	磁器	坏	(6.8)	3.2	2.6	K	30	普通	灰白	SX1	肥前系 施釉	

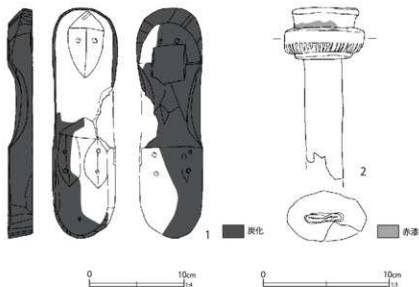
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
8	陶器	灯明皿	(10.2)	1.9	4.6	K	75	普通	灰白	SX1	瀬戸美濃系 柿軸 輪状重ね焼痕	33-4
9	陶器	灯明皿	10.4	1.9	4.6	HK	75	普通	淡黄	SX1	瀬戸美濃系 柿軸 内面輪状重ね焼痕	33-5
10	陶器	灯明皿	10.4	2.0	4.0	K	90	普通	灰白	SX1	No.101 瀬戸美濃系 柿軸 重ね焼痕	33-6
11	陶器	灯明皿	9.4	1.6	4.2	HK	90	普通	灰白	SX1	瀬戸美濃系 柿軸 内面輪状重ね焼痕	33-7
12	陶器	油受皿	9.4	2.1	3.8	HK	95	良好	灰白	SX1	No.4 瀬戸美濃系 柿軸 重ね焼痕	33-8
13	陶器	甕	(23.0)	[6.7]	—	EHLK	20	良好	灰白	SX1	瀬戸美濃系 柿軸 灰軸渡し掛け	
14	陶器	鍋	(17.0)	7.2	(6.0)	K	40	良好	黒褐	SX1	No.95 柿軸 被熱 底部煤付着	
15	陶器	播鉢	(38.0)	[12.9]	—	EIK	20	普通	にぶい赤褐	SX1	堺明石系 播目10条1単位	
16	陶器	播鉢	(36.8)	13.3	(16.2)	EHLK	40	普通	にぶい赤褐	SX1	No.13 堺明石系	34-1
17	陶器	東燭	(5.6)	[2.4]	—	HK	70	普通	灰白	SX1	瀬戸美濃系か 鉄軸	
18	瓦質土器	火鉢	(30.6)	[9.5]	—	ACHHK	50	普通	にぶい黄橙	SX1	No.78・82 脚付火鉢 内外面煤付着 やや酸化変焼成きみ 外面下部ケズリ	34-2
19	瓦質土器	火鉢	(24.8)	[6.6]	—	HK	30	普通	黄灰	SX1	脚付火鉢か	
20	瓦質土器	火鉢	22.0	6.7	—	HK	5	普通	浅黄橙	SX1	No.87 やや酸化変焼成	
21	瓦質土器	火鉢	—	[6.6]	—	CHK	35	普通	にぶい黄橙	SX1	No.100 脚付火鉢 砂目底 やや酸化変焼成	
22	土師質土器	火鉢	—	[3.8]	(26.2)	HK	10	普通	明赤褐	SX1	No.6 脚付火鉢 脚部	
23	土師質土器	片手鍋	14.2	[4.2]	—	CHK	30	普通	橙	SX1	煤付着 外面下位ヘラケズリ	
24	瓦質土器	甕垣礎	—	[8.0]	—	HK	5	良好	暗灰	SX1	口縁ミガキ	
25	瓦質土器	甕垣	—	[11.2]	—	HK	5	普通	暗灰	SX1	内面煤付着	
26	瓦質土器	十徳	長さ28.0 幅(19.4) 把手部3.9×2.7	—	CHK	40	普通	黒	SX1	外面シワ状痕 内面ナゲ 把手ヘラナゲ	34-3	
27	瓦質土器	焙烙	(36.2)	5.5	(34.8)	HK	30	普通	にぶい黄橙	SX1	No.74・79 同一個体あり 平底 底部シワ状痕 やや酸化変焼成	
28	瓦質土器	甕垣か	—	[5.5]	(15.0)	HK	45	良好	黒褐	SX1	No.83 底面刻印「新兵衛」 外面ミガキ	34-4
29	土師質土器	焙烙	(36.3)	[6.3]	—	CHK	5	普通	にぶい黄橙	SX1	No.12・25・26・81 丸底 砂目底 内耳 同一個体破片あり	
30	土師質土器	燭台	(3.8)	0.7	—	CE	40	普通	にぶい黄橙	SX1	底部回転糸切り	



第119図 性格不明遺構出土遺物（3）

第42表 性格不明遺構出土遺物観察表（2）（第119図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	—	—	2.4	—	5.9	AIK	普通	灰	SX1	漆珠三ツ巴文左巻16珠	40-1
2	瓦	棧瓦	[12.0]	[9.7]	1.9	—	—	AK	普通	灰	SX1	裏面砂付着	
3	瓦	道具瓦	[12.5]	[7.4]	1.9	—	—	AIK	普通	暗灰	SX1	表面煤付着 裏面砂付着	
4	瓦	漆喰	[12.0]	[9.2]	2.0	—	—	—	—	にぶい黄橙	SX1	No.113 瓦の補修材 代替品として使用	40-2

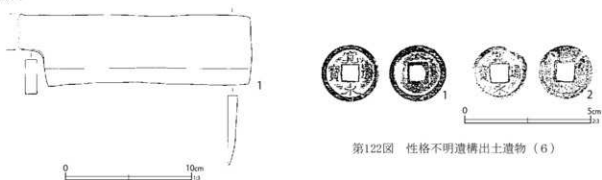


第120図 性格不明遺構出土遺物（4）

第43表 不明遺構出土遺物観察表（3）（第120図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	遺構	備考	図版
1	木製品	下駄	24.2	6.9	—	—	2.6	—	SX1	No.14 無眼下駄 炭化	
2	木製品	傘	[13.5]	6.3	4.0	—	—	—	SX1	ろくろ赤漆 柄樋下地	45-8

SX1



第122図 性格不明遺構出土遺物（6）

第121図 性格不明遺構出土遺物（5）

第44表 性格不明遺構出土遺物観察表（4）（第121図）

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	鉄製品	鉈	長さ [18.5] 刃長 16.5 刃幅 5.6 背幅 0.8 重さ 370.6	SX1	No.10	

第45表 性格不明遺構出土遺物観察表（5）（第122図）

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径22.93 厚さ1.15 重さ2.6	SX1	寛永通寶（新）	47-3
2	銅製品	銭貨	径21.65 厚さ0.78 重さ1.7	SX1	寛永通寶（新）	47-3

(5) グリッドピット

第2地点二面では、ピットは2基検出された。建物跡などに伴うピットは検出されなかった。

ピット1 (第123図)

D8-I2に位置する。長軸0.38m、短軸0.20m、深さ0.10mの楕円形である。断面形は皿型である。覆土は、焼土を多量に含む褐色土で、大型のブロックを含むため埋め戻しの可能性がある。

ピット2 (第123図)

D8-I2に位置する。長軸0.55m、短軸0.50m、深さ0.32mの楕円形である。覆土は、炭化物と焼土ブロックを含む暗灰褐色土と明褐色土、灰褐色土、褐色土で、大型のブロックを含むため埋め戻しの可能性がある。

遺物は破片や木片が多く、図示できるものはなかった。

(6) グリッド出土遺物 (第124～131図)

いずれの遺構にも帰属させることのできない遺物には、陶磁器、土器、瓦、木製品、鉄製品、銭貨がある。

第124～126図は、陶磁器、土器である。磁器に端反碗と高台の高い広東碗があることから、19世紀前半を中心とする遺物と考えられる。

1～3・5～13・15～17・19は、肥前系、瀬戸美濃系の磁器である。図示できたものは、肥前系磁器の割合が高い。1・2・5・6・8～11・13は碗類である。丸碗、端反碗が相半ばし、それに高台の高い広東碗が少数認められる。13

は焼き継ぎが施されている。15・16は厚手で粗製の皿である。梅花文が施されている。

4は清朝磁器の碗で、雲芝文が施されている。

20～51は陶器である。京都信楽系、瀬戸美濃系によって占められ、産地不明の製品はほとんど見られない。

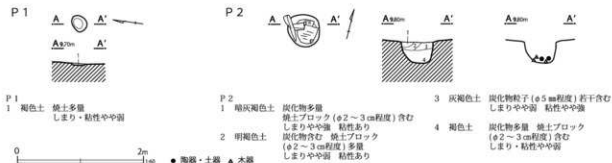
21・22・24・49・50は京都信楽系である。21・22・24は端反碗である。22は絵付けされている。49は合子、50は水滴で、双方とも灰釉が施されている。

23・25・26・28～36・39～43・45・47・48・51は瀬戸美濃系である。28～36は灯明皿、油受皿である。柿釉が施され、いずれにも重ね焼痕が見られる。39～41は内外面に灰釉が施された片口鉢、捏鉢である。41には重ね焼痕が見られる。42・43は香炉である。42は内外面に灰釉が施され、43の底面には墨書が認められる。45は水甕である。外面に鉄釉・緑釉の流し掛けが施されている。47は脚付の乗燭である。鉄釉が施されている。48は小型壺である。外面に灰釉が施されている。51は灰落としてである。刷毛目が施され、間隔を置いた縦方向のナデ消しが見られる。

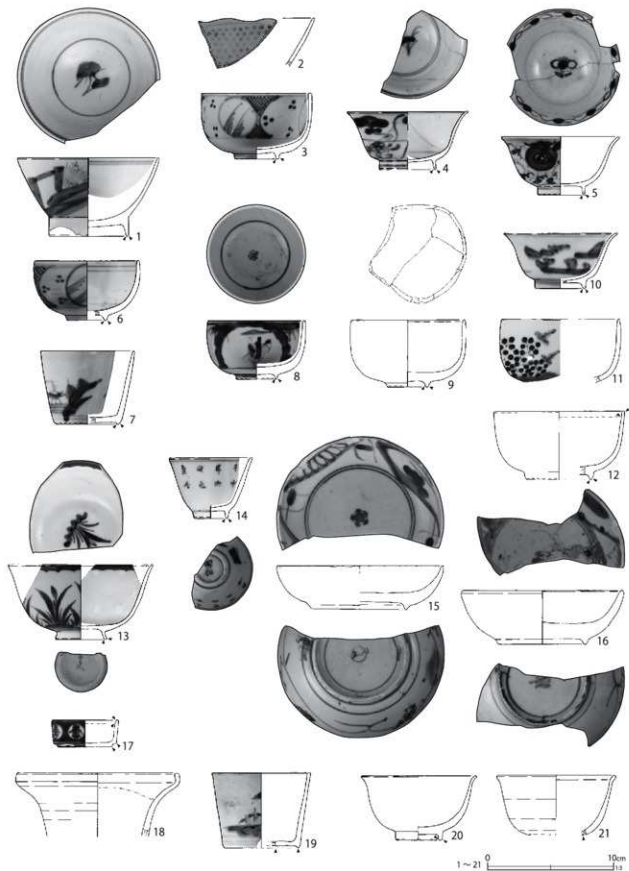
44は地方民窯系の香炉で、鉄釉が施されている。

46・52～61は土器である。52は江戸産地系の灯明皿で、内外面に透明釉が施されている。その他はいずれも産地は不明である。

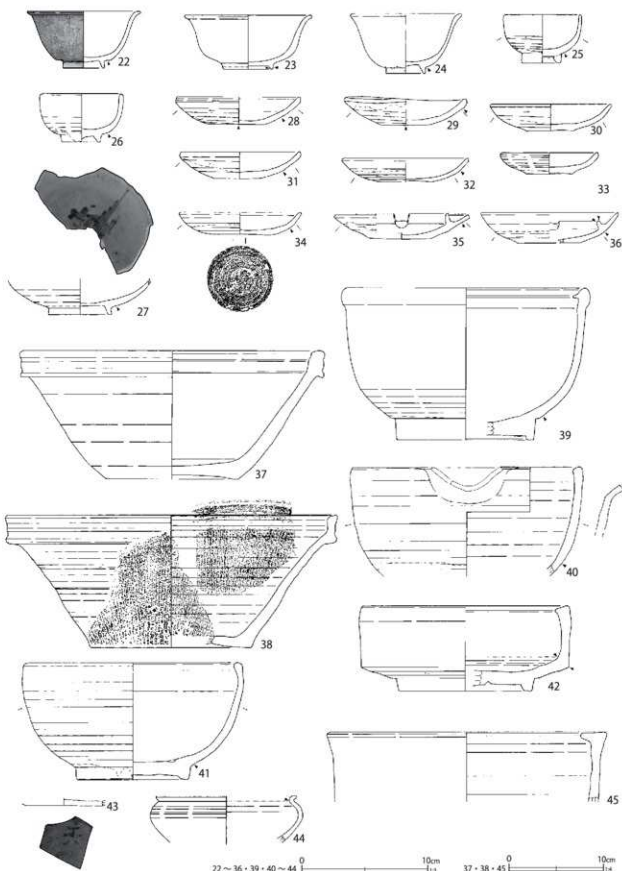
53～56・58は瓦質の火鉢、土師質の火鉢である。被熱により変色した可能性もある。58は脚付火鉢と考えられる。



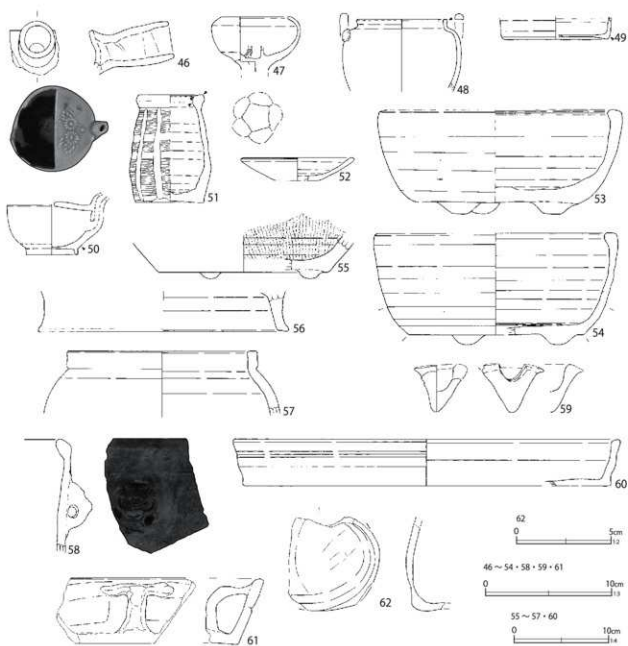
第123図 第2地点グリッドピット



第124図 グリッド出土遺物（1）



第125図 グリッド出土遺物（2）

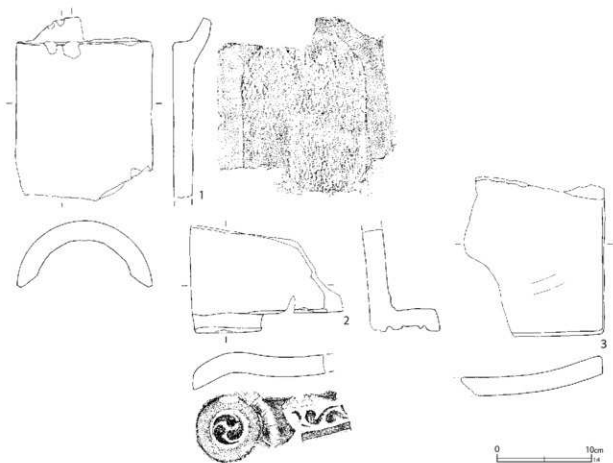


第126図 グリッド出土遺物（3）

第146表 グリッド出土遺物観察表（1）（第124～126図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	国版
1	磁器	碗	11.1	6.2	6.3	K	80	普通	灰白	G8-H2 肥前系 施軸 染付	34-5
2	磁器	鉢	—	[3.9]	—	K	5	良好	灰白	G8-H2 瀬戸美濃系 色絵 近代	
3	磁器	碗	8.6	5.2	3.4	IK	95	良好	灰白	G8-H3 肥前系 施軸 染付	34-6
4	磁器	碗	[9.5]	4.6	[4.5]	HK	85	普通	灰白	G8-H3 中国 清朝磁器 施軸 染付 雲芝文	34-7
5	磁器	碗	9.2	4.6	3.6	K	90	良好	灰白	G8-H3 肥前系 施軸 染付	34-8
6	磁器	碗	(8.0)	4.7	(3.1)	IK	45	良好	灰白	G8-H3 肥前系 施軸 染付	
7	磁器	猪口	(8.4)	5.8	4.8	IK	40	良好	灰白	G8-H3 肥前系 施軸 染付 輪高台	35-1
8	磁器	碗	7.6	4.6	3.3	I	100	良好	白	G8-13 肥前系 施軸 染付	
9	磁器	碗	(8.8)	5.3	3.2	K	40	普通	灰白	G8-13 瀬戸美濃系 施軸 染付	35-1
10	磁器	碗	(8.8)	4.4	(2.0)	K	50	良好	白	G8-13 瀬戸美濃系 施軸 染付	
11	磁器	碗	(9.2)	[5.0]	—	K	30	良好	白	G8-J2 肥前系 施軸 外面染付 外面萩	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	使用	色調	備考	図版
12	磁器	蓋物	(10.0)	5.4	(5.2)	K	30	良好	白	G8-J4 肥前系 施軸 外面染付	
13	磁器	碗	(11.4)	5.9	4.0	K	40	良好	白	G8-J2 肥前系 施軸 染付 虎雄印	
14	磁器	杯	6.5	4.8	2.7	K	60	普通	灰白	G8-J2 施軸 外面ゴム印取染付	35-2
15	磁器	皿	13.0	3.4	7.4	HIK	60	良好	灰白	IB-A3 肥前系 施軸 染付	
16	磁器	皿	(12.6)	4.2	(6.8)	IK	30	良好	灰白	G8-J2 肥前系 施軸 染付	
17	磁器	蓋物	(5.2)	2.1	4.2	K	70	良好	白	G8-12 肥前系 施軸 外面染付 段重	35-3
18	磁器	花生	(12.6)	5.1	—	K	25	良好	灰白	G8-J2 施軸	
19	磁器	猪口	(7.8)	5.9	(5.8)	HIK	30	良好	灰白	G8-J2 肥前系 施軸 染付 被熱 蛇ノ目形高台	
20	陶器	碗	(9.0)	5.1	3.3	IK	75	良好	灰白	G8-H3 瀬戸美濃系 内面白化粧 施軸 外面灰軸	35-4
21	陶器	碗	(9.2)	[4.7]	—	IK	35	良好	灰白	白土 鉄絵	
22	陶器	碗	(8.8)	4.5	(3.2)	I	35	良好	明青白	G8-H3 京都信楽系 灰軸 貫入	
23	陶器	碗	(9.8)	4.3	(3.8)	K	50	普通	灰白	G8-13 瀬戸美濃系 内面白化粧 施軸 外面灰軸	
24	陶器	碗	8.6	4.7	3.1	IK	70	良好	灰白	G8-13 京都信楽系 灰軸 貫入	35-5
25	陶器	杯	6.0	3.8	3.0	EIK	90	良好	灰白	G8-H3 瀬戸美濃系 灰軸 見込みビン煎 3 箇所	35-6
26	陶器	坏	(6.2)	3.8	2.9	EK	70	良好	灰白	G8-H3 瀬戸美濃系 灰軸	
27	陶器	碗	—	[2.8]	5.0	IK	35	良好	にぶい黄	G8-H2 肥前系 灰軸 内面鉄絵 京焼風陶器	
28	陶器	灯明皿	9.6	2.2	4.3	CHIK	60	良好	黄灰	G8-G3 瀬戸美濃系 柿軸 重ね焼痕	
29	陶器	灯明皿	9.5	2.2	3.6	CHIK	100	良好	黄灰	G8-G3 瀬戸美濃系 柿軸 輪状重ね焼痕 底部軸ふきとり	35-7
30	磁器	灯明皿	9.4	2.1	3.7	I	75	良好	灰	G8-H3 瀬戸美濃系 柿軸 輪状重ね焼痕	
31	磁器	灯明皿	9.5	2.1	3.7	I	95	良好	灰	G8-H3 瀬戸美濃系 柿軸 輪状重ね焼痕	36-1
32	陶器	灯明皿	(9.8)	1.9	(4.2)	IK	45	良好	灰白	G8-H3 瀬戸美濃系 柿軸 内面輪状重ね焼痕 底部軸ふきとり	36-2
33	陶器	灯明皿	7.6	1.7	3.6	IK	90	良好	灰白	G8-H3 瀬戸美濃系 柿軸 重ね焼痕 煤付着 被熱	36-3
34	陶器	灯明皿	9.5	2.8	4.5	IK	80	普通	灰黄	G8-13 瀬戸美濃系 柿軸 内面輪状重ね焼痕 底部軸ふきとり	35-8
35	陶器	油受皿	10.4	2.0	4.8	I	95	良好	にぶい黄橙	G8-H3 瀬戸美濃系 柿軸 外面輪状軸焼痕 底部軸ふきとり	36-4
36	陶器	油受皿	(10.8)	2.4	(5.0)	K	45	普通	にぶい黄橙	G8-13 瀬戸美濃系 柿軸 外面輪状重ね焼痕 底部軸ふきとり	
37	陶器	挿鉢	(31.2)	13.6	(14.0)	BHIK	35	普通	にぶい赤褐	G8-H2 堺明石系 播目 10 条 1 単位	36-5
38	陶器	挿鉢	(34.8)	14.0	(17.0)	BHIK	20	良好	にぶい赤褐	G8-13 丹波系 播目 13 条 1 単位	
39	陶器	片口鉢	(18.8)	12.0	(10.8)	IK	40	良好	灰白	G8-13 瀬戸美濃系 灰軸	
40	陶器	片口鉢	(18.0)	[8.6]	—	HIK	20	普通	灰白	IB-A3 瀬戸美濃系 灰軸	
41	陶器	掬鉢	(16.4)	9.2	8.7	IK	40	普通	灰黄	IB-A3 瀬戸美濃系 灰軸 重ね焼痕	36-6
42	陶器	香炉	(16.2)	6.7	(10.4)	EIK	40	良好	淡黄	G8-H2 瀬戸美濃系 灰軸	36-7
43	陶器	香炉	—	0.5	(6.0)	IK	30	良好	灰白	G8-12 瀬戸美濃系 底面黒書 自然軸	
44	陶器	香炉	(11.0)	[3.7]	—	HIK	5	良好	橙	表探 鉄軸 地方民家系	
45	陶器	水甕	(29.2)	[7.4]	—	IK	20	普通	灰白	G8-13 瀬戸美濃系 灰軸 外面鉄軸・縁軸流し掛け	
46	土師質土器	片手鍋	長さ (6.7) 高さ [4.7]	—	—	HI	5	良好	灰黄褐	G8-12 被熱 煤付着	
47	陶器	束燗	(5.2)	[4.2]	—	IK	65	普通	灰	G8-H2 瀬戸美濃系・鉄軸 脚部付根面取り	
48	陶器	煮	(7.1)	[5.7]	—	EIK	20	良好	灰白	G8-H3 瀬戸美濃系 外面灰軸 小型煮	
49	陶器	合子	—	[1.8]	(8.2)	IK	30	良好	灰白	G8-H3 京都信楽系 灰軸	
50	陶器	水滴	—	[4.7]	4.0	IK	80	良好	灰白	G8-H3 京都信楽系 灰軸 内面付着物	36-8
51	陶器	灰落し	(5.0)	8.5	5.2	EH	65	良好	灰白	G8-H2 瀬戸美濃系 口縁灰軸 胴部鉄軸 底部回転糸切り 砂付着	36-9
52	施軸土器	灯明皿	(8.6)	1.8	(3.4)	HIK	30	普通	赤	G8-12 江戸産地系 透明軸 底部回転糸切り	
53	瓦質土器	火鉢	(17.8)	8.2	12.8	CHIK	45	普通	橙	G8-H3 被熱 内面煤付着	
54	土師質土器	火鉢	(18.8)	8.8	(13.8)	HIK	40	普通	にぶい橙	G8-H3 脚部 2 箇所残存	37-1
55	瓦質土器	火鉢	—	[4.5]	(18.0)	EHI	30	普通	黒	G8-H8 大型 砂目底	
56	土器	火鉢	—	[4.3]	(26.1)	CHI	20	普通	にぶい橙	G8-H3 被熱	
57	瓦質土器	火酒壺	(20.0)	[6.8]	—	EIK	25	普通	淡赤橙	G8-J4 被熱 やや酸化変色成しみ	
58	瓦質土器	火鉢	—	9.0	—	HIK	5	普通	灰黄	G8-J2 文様あり 被熱 脚付火鉢か	37-2
59	土師質土器	火鉢か	—	(3.8)	—	HIK	100	普通	にぶい褐	G8-13 五徳部分	
60	瓦質土器	焙烙	(40.6)	4.9	(30.9)	EHI	5	普通	暗灰	G8-H3 平底 砂目底 外面下部ケズリ	
61	瓦質土器	焙烙	—	5.2	—	HIK	5	普通	暗灰	G8-H3 平底 底部シワ状痕	
62	土製品	人形瓶	—	[4.9]	—	HIK	5	普通	にぶい橙	G8-13 二枚型 中空 罎	



第127図 グリッド出土遺物（4）

第47表 グリッド出土遺物観察表（2）（第127図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	備考	図版
1	瓦	丸瓦	19.0	14.4	2.1	—	—	A1K	普通	灰	G8-H2 外面煤付着 裏面に布目	39-8
2	瓦	棧瓦	11.3	16.0	2.1	—	7.5	A1K	普通	暗灰	G8-H3 連珠三ツ巴文右巻 江戸式2類	
3	瓦	平瓦	15.9	14.9	1.9	—	—	A1K	普通	灰	G8-H3	

57は火消壺で、被熱により赤変している。59は火鉢の五徳と考えられる。中空である。

60・61は瓦質陶器の焙烙である。いずれも平底である。

62は土製品で、人形の脚部である。

第127図は瓦である。1は丸瓦、2は棧瓦である。他に平瓦、棧瓦の破片が多く出土した。

第128・129図は木製品である。製品には小型の曲げ物、下駄、箸などが多く、漆桶、櫛、羽子板、刷毛、天秤棒といった製品もみられる。漆製品、桶の底板などはほとんど見られない。

2は小型の曲げ物の蓋あるいは底板で、中央に

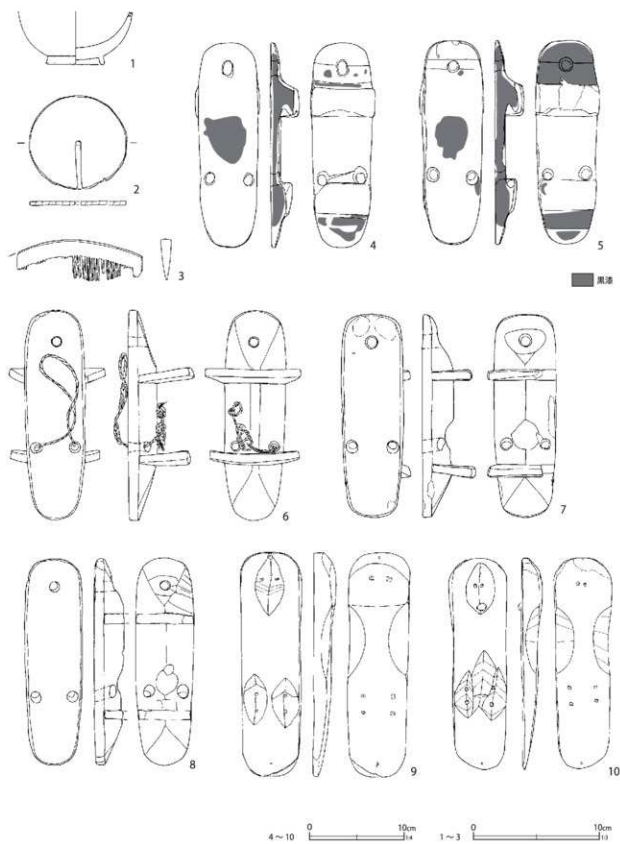
ごく小さな穿孔が施されている。

下駄は所謂無眼下駄が最も多く、差歯下駄は陰卯下駄である。13・14には表と考えられる樹皮が残り、6は棕櫚縄の鼻緒が残った状態である。4・5には黒漆が残る。それを除いたものは、いずれも表、鼻緒が外された状態である。

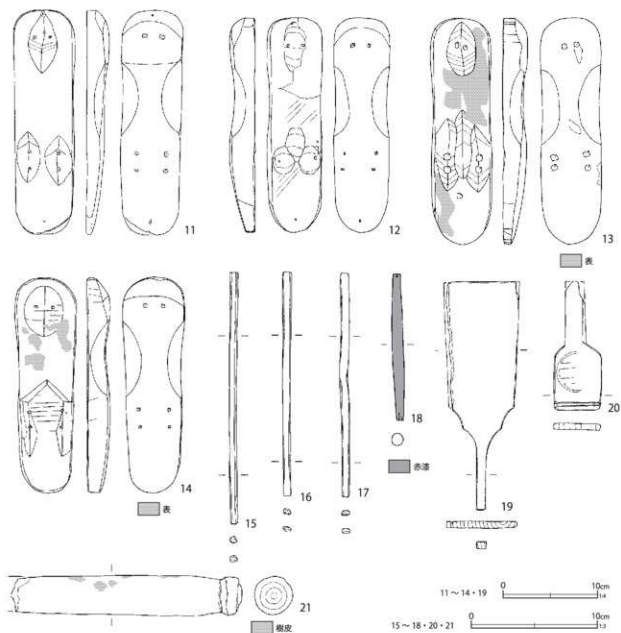
15～17は所謂元禄簪、18は赤漆塗りの浮子、19は羽子板、20は刷毛の部品である。20には焼印が施されている。21は天秤棒の端部である。一部に樹皮が残る。

第130図1は釘である。頭が捲れた状態である。

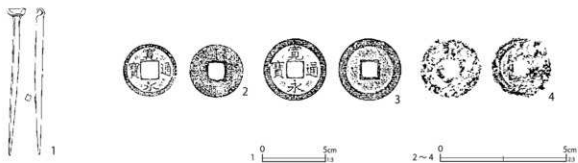
2～4は銭貨である。2・3は新寛永である。4



第128図 グリッド出土遺物 (5)



第129図 グリッド出土遺物 (6)



第130図 グリッド出土遺物 (7)

は鉄銭である。

第131図は石製品である。1は凝灰岩製の砥石で未使用である。側面に十字の刻みがある。製作

者の刻印の可能性はある。2は粘板岩製の硯である。

第48表 グリッド出土遺物観察表（3）（第128・129図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	備考	図版
1	木製品	漆桶	—	—	—	[4.2]	4.4	—	G8-H2 内面赤漆 外面黒漆	
2	木製品	曲物	—	—	0.3	7.5	—	—	G8-H3 底板 中央円孔	
3	木製品	桶	[9.9]	3.3	0.9	—	—	—	G8-H3	
4	木製品	下駄	21.6	6.8	—	—	3.0	—	G8-G3 連面下駄 表裏黒漆 5と揃い	
5	木製品	下駄	21.5	6.8	—	—	3.1	—	G8-G3 連面下駄 表裏黒漆 4と揃い 前方に圧痕	
6	木製品	下駄	22.1	9.5	—	—	6.6	—	G8-H3 陰印下駄	
7	木製品	下駄	21.5	6.5	—	—	5.6	—	G8-G3 陰印下駄 黒漆一部残存	
8	木製品	下駄	21.8	6.1	—	—	[3.2]	—	G8-H3 陰印下駄	
9	木製品	下駄	(23.8)	6.5	—	—	2.1	—	G8-H3 無眼下駄	
10	木製品	下駄	22.4	6.2	—	—	2.2	—	G8-H3 無眼下駄	
11	木製品	下駄	23.7	6.5	—	—	2.4	—	G8-H3 無眼下駄	
12	木製品	下駄	22.7	5.8	—	—	2.8	—	G8-H3 無眼下駄	
13	木製品	下駄	23.9	6.4	—	—	2.6	—	G8-G3 無眼下駄 表残存	
14	木製品	下駄	22.8	6.5	—	—	2.5	—	G8-H3 無眼下駄 表残存	
15	木製品	箸	19.8	0.6	0.5	—	—	—	G8-H3	
16	木製品	箸	17.7	0.7	0.4	—	—	—	G8-H3	
17	木製品	箸	17.7	0.6	0.4	—	—	—	G8-H3	
18	木製品	浮子	11.6	0.9	1.0	—	—	—	G8-H3 赤漆 上下穿孔	45-9
19	木製品	羽子板	24.1	(8.0)	0.7	—	—	—	G8-H3	45-10
20	木製品	刷毛	10.2	3.8	0.5	—	—	—	G8-H3 棧印	45-11
21	木製品	天秤棒	[18.4]	3.1	3.0	—	—	—	G8-H3	45-12

第49表 グリッド出土遺物観察表（4）（第130図）

番号	種別	器種	法量	備考	図版
1	鉄製品	釘	長さ11.6 幅0.4 厚さ0.45 重さ14.4	G8-13	
2	銅製品	銭貨	径21.59 厚さ1.19 重さ2.1	G8-H3 寛永通寶（新）	47-3
3	銅製品	銭貨	径25.41 厚さ1.11 重さ3.1	G8-H3 寛永通寶（新）	47-3
4	鉄製品	銭貨	径(24.15) 厚さ1.80 重さ2.7	G8-H3	



第131図 グリッド出土遺物（8）

第50表 グリッド出土遺物観察表（5）（第131図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考	図版
1	石製品	砥石	14.6	4.5	2.8	307.2	凝灰岩	G8-H3 幅広工具痕か、研摩痕か 側面十字の刻印	46-8
2	石製品	硯	[12.2]	[4.1]	[8.1]	137.2	粘板岩	G8-13	

3. 第4地点

第4地点からは、杭列9条、木樋1条、溝跡1条、土城21基、性格不明遺構2基が検出された。

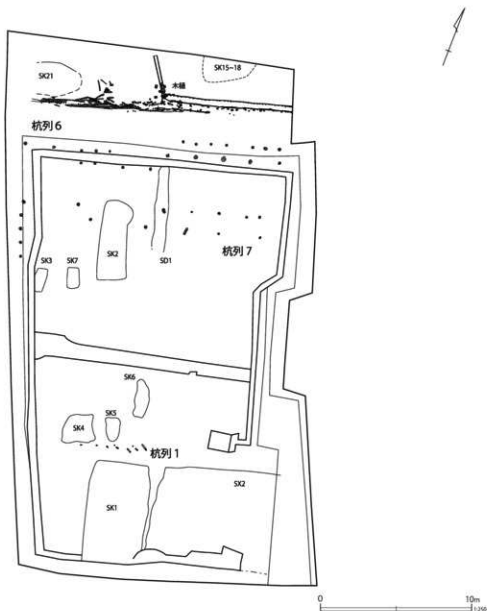
(1) 杭列 (第132～137図)

杭列は9条検出された(第133～136図)。北側調査区に第1・6・7号杭列が、南側調査区に第2～5・8・9号杭列が位置する。

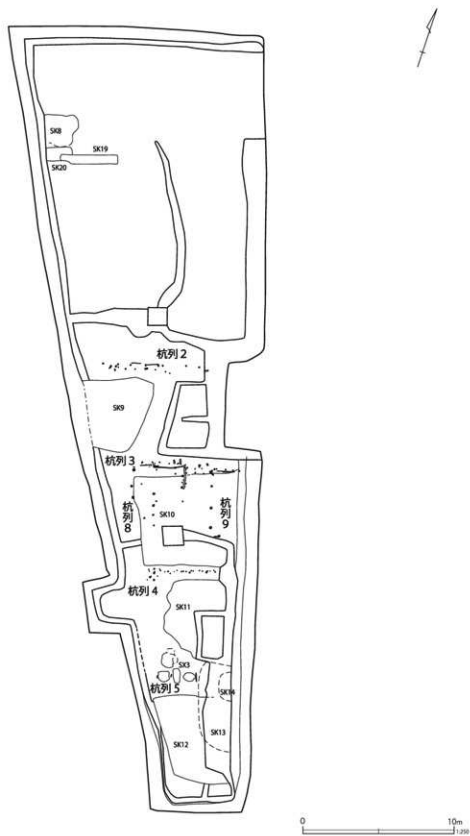
第1～7号杭列は東西方向、第8・9号杭列は南北方向に配置され、それぞれ調査区を囲むよう

に設置されている。特に、第3・4・8・9号杭列は東西南北につながり、一区画を囲むように配置されていた可能性がある。

また、第2・3号杭列は土留めの板を杭で押さえた痕跡があり、区画、排水等の用途が考えられる。第6・7号杭列は、木樋と近接し、杭も2列の構造であることから、木樋と共に水路としての機能を担っていた可能性がある。

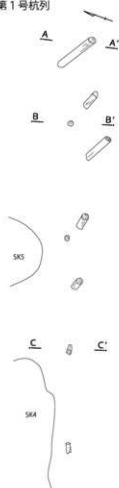


第132図 第4地点北側杭列分布図



第133图 第4地点南侧杭列分布图

第1号杭列



A 10.00m A'



B 10.00m B'



C 10.00m C'



第2号杭列



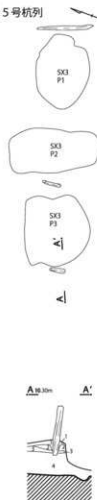
A 10.00m A'



第4号杭列



第5号杭列



第1号杭列

1 暗灰色土 砂質土とシルトが混ざった土 炭酸塩まばら 炭化物粒少量
 2 灰褐色土 シルト質土主体 砂質土が少し混じる

第2号杭列

1 暗灰色土 シルト層 しまり弱 粘性強 自然層

1' 暗青灰色土 シルトブロックと少量の砂が混ざる 炭込め土
 2 黒灰色土 ブロック状のシルト多量 ブロック状の砂含む しまりあり
 粘性強 埋め戻し土

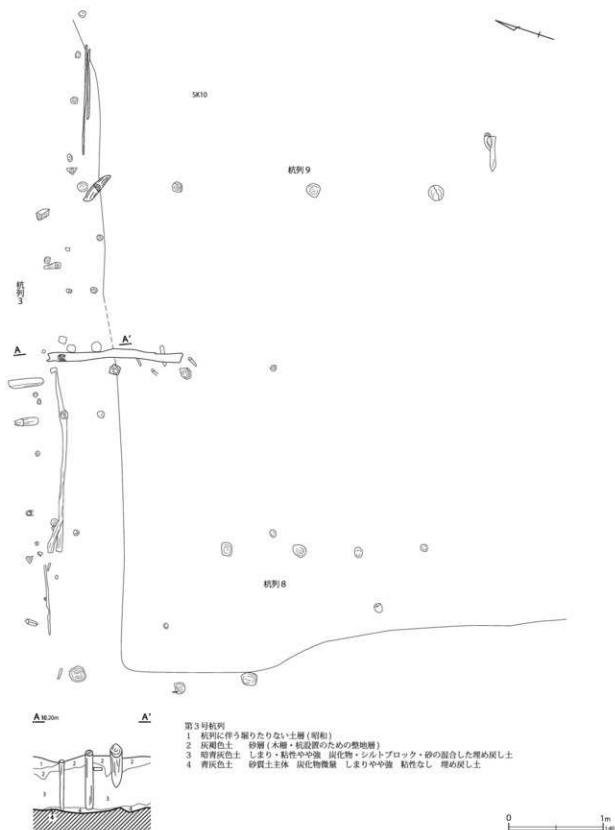
第5号杭列

1 褐色土 砂っぽい白色粒多量 しまり強 粘性弱
 2 暗灰色土 白色粒多量 マンガン少量 しまり強 粘性あり
 3 暗褐色土 木くずを腐状に含む 炭化物粒多量 しまり・粘性あり 土壌の腐土
 4 暗灰色土 木くず・木片含む 鋼や陶器片等の遺物多量 しまり・粘性あり
 近代の産業土壌か 土壌の腐土

0 1m 1:40

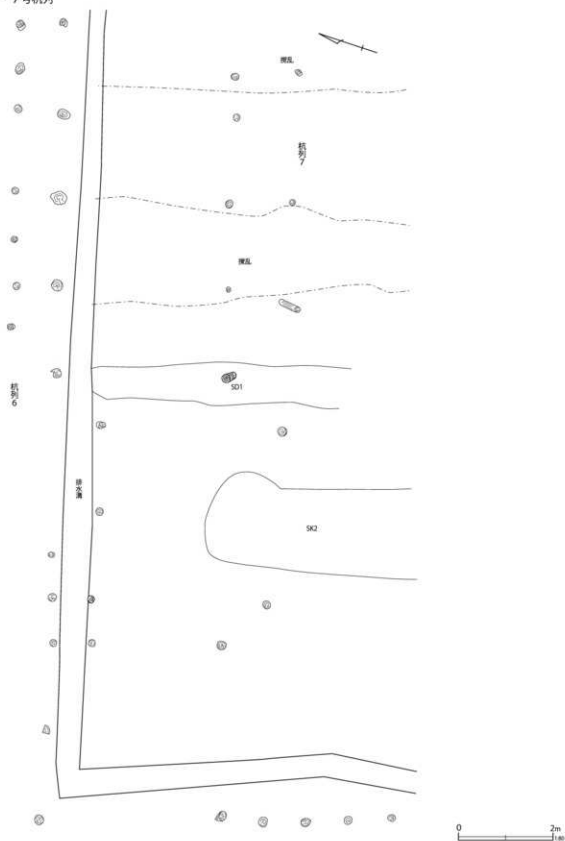
第134図 杭列 (1)

第3・8・9号杭列



第135図 杭列（2）

第6・7号杭列



第136図 杭列 (3)

第1号杭列 (第134図)

第4地点北側の南寄りH8-D4グリッドに位置する。軸方位はN-74°-Eである。径約6cmの丸杭と、4cm四方の角杭を用いる。杭の間隔は0.60～1.20mほどと考えられる。

第2号杭列 (第134図)

調査区南側のほぼ中央、H8-H6グリッドに位置する。軸方位はN-70°-Eである。径約8cmの丸杭、約8cm四方の角杭を打ち、一部に長さ0.04～0.22mの板材を伴う。杭の間隔はおおよそ0.85～1.00mと考えられる。

第3号杭列 (第135図)

調査区南側のほぼ中央、H8-I6・7グリッドに位置し、第8号杭列と第9号杭列に隣接する。軸方位はN-73°-Eである。径約4～12cmの杭を打ち、一部に長さ0.76～1.96mの板材を伴う。杭の間隔は0.45～0.60mほどである。

第4号杭列 (第134図)

調査区南側の中央南よりH8-I6・7グリッドに位置し、第10・11号土壇と隣接する。軸方位はN-71°-Eである。径約6cmの細い丸杭、約6cm四方の角杭を打ち込み、かなり密に設置されている。

第5号杭列 (第134図)

調査区南側の南寄り、H8-J7グリッドに位置する。軸方位はN-69°-Eである。第3号性格不明遺構の第1号ピット東側に長さ約0.60mの板材を設置し、第2号ピットと第3号ピットの間に径約10cmの細い杭1本、第3号ピット西側に径約10cmの細い杭1本を設置する特異な構造である。

第6号杭列 (第136図)

調査区北側の北寄り、H8-B4・C3・4グリッドに位置し、第7号杭列と隣接する。軸方位はN-72°-Eである。径約8～28cmの杭を2列に等間隔に打ち込む。杭の間隔は、東西側の列はおおよそ0.90mで南北の列もおおよそ0.90mである。

第7号杭列 (第136図)

調査区北側の中央北寄り、H8-C3～5グリッドに位置し、第6号杭列と隣接する。軸方位はN-72°-Eである。径約8～20cmの杭を2列に打ち込む。杭の間隔はおおよそ0.90～1.80mである。

第8号杭列 (第135図)

調査区南側の中央南寄り、H8-I6グリッドに位置する。杭列は南北方向に配され、軸方位はN-20°-Eである。第3号杭列と第9号杭列に近接する。径約6～16cmの杭を打ち込む。杭の間隔はおおよそ0.65～0.80mである。

第9号杭列 (第135図)

調査区南側の中央南寄り、H8-I7グリッドに位置する。杭列は南北方向に配され、軸方位はN-17°-Wである。第3号杭列と第8号杭列に近接する。径約8～14cmの杭を打ち込む。杭の間隔はおおよそ1.30～2.05mである。

杭列出土遺物 (第137図)

実測可能な遺物は陶器1点のみである。第1号杭列から出土した。瀬戸美濃系の油受皿である。柿釉が施され、外面に重ね焼痕、煤の付着が見られる。



第137図 杭列出土遺物

第51表 杭列出土遺物観察表 (第137図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	油受皿	(9.6)	1.9	(4.6)	IK	40	普通	灰白	杭列1	瀬戸美濃系 鉄軸外面重ね焼痕 煤付着	

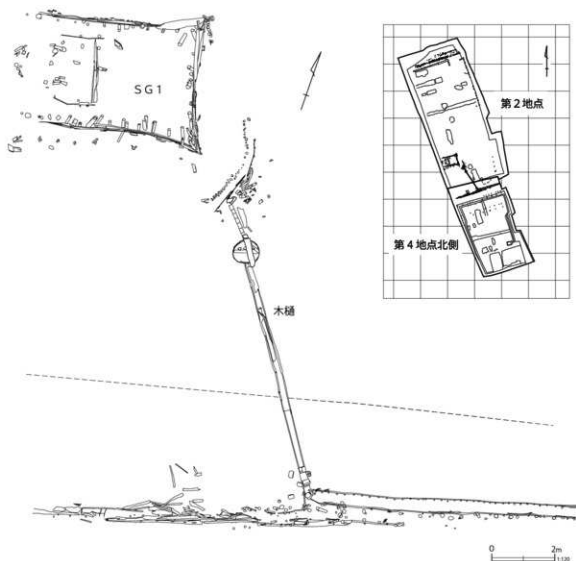
(2) 木樋 (第138～142図)

木樋は、第4地点北側の北端H8-B3・4グリッドに位置する。軸方位はN-74°-Eである。第2地点と第4地点の境界で検出された南北方向の木樋に接続する形で東西方向に設置され、確認できた長さは23.0mである。

板材と杭列が重複していることから、造り替えながら繰り返し使い続けられたものと思われる。上面と下面が検出され、もともとあった古い木樋の上に、新しい木樋が設置されているようである(第139～140図)。樋は底板を持ち、一部はで蓋が残存していた。

樋は、底板の座板上に両側板が置かれ、下から釘を打ち込んで側板を固定している。釘は丸釘で、径1.5～2mmであった。底板の厚さは2cm、その上に高さ12cmの側板をのせ、厚さ2～3cmの蓋を置き、全体で高さ16～17cmの構造になっている。蓋も丸釘で留められていた。また、側板の接合部は斜めにカットして継ぎ合わされている。

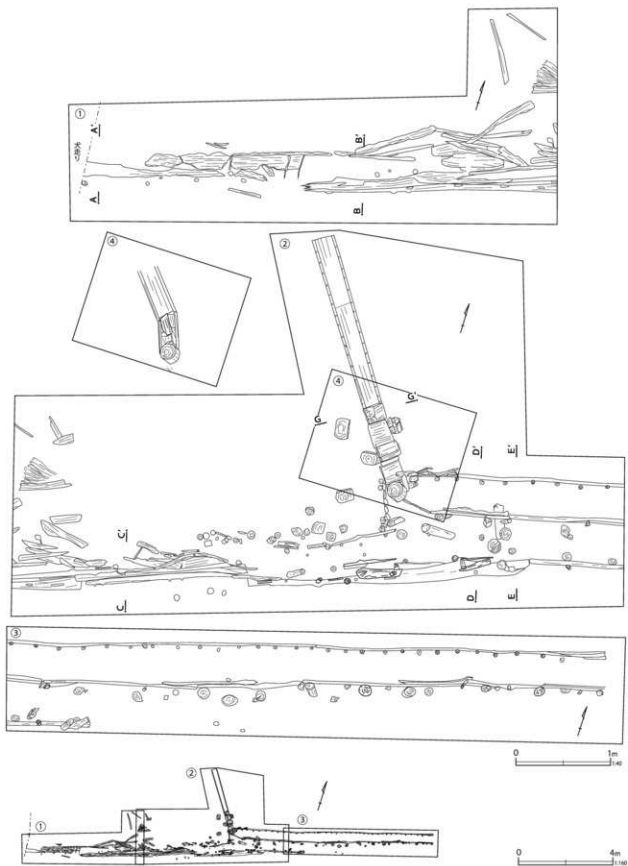
覆土で特徴的なのは、洪水砂の堆積が見られることである。西側のB-B'断面では第4層、第5層の褐灰色土に洪水砂層が確認される。木樋中央西寄りのC-C'断面部分における第4層、粗粒主体のオリブ灰色土も、洪水で堆積した砂の



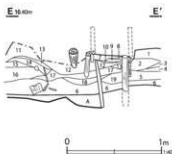
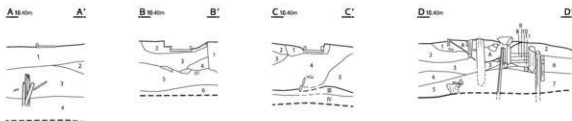
第138図 池跡・木樋全体図



第139図 木樋 (1)



第140図 木樋 (2)



- A-A'
- 1 灰黄褐色土 砂粒(粗砂多)主体 部分的に炭粒が含まれる ブロック状に細砂が点々と混じる
 - 2 灰黄褐色土 しまりやや弱 粘性なし 埋め土か堆積土
 - 3 褐色土 シルト質土主体 しまりやや強 粘性有り 埋め土
 - 4 青灰色土 シルト質土 炭粒まばら しまりやや弱 粘性なし
 - 5 青灰色土 シルト層 しまり 粘性強 自然層
- B-B'
- 1 褐色土 砂粒(粗砂と細砂の混合)とシルトが混合土 炭粒まばら しまりやや強 粘性なし 埋め土
 - 2 灰黄褐色土 シルトブロックと砂粒(細砂)の混合土 しまりやや強 粘性なし 木桶の裏込めか
 - 3 褐色土 砂質(細砂主体)層 炭粒まばら 均質な堆積 炭化物(φ5mm)少量 しまりやや強 粘性なし
 - 4 褐色土 砂質(細砂主体)層 炭粒少量 均質な堆積 炭化物(φ2~5mm)まばら しまりやや強 粘性ややあり 洪水の堆積か
 - 5 褐色土 砂質層(細砂) 炭粒が少くない しまりやや弱 粘性なし 洪水層か
 - 6 青灰色土 砂粒(細砂)・シルト多量 しまりやや弱 粘性なし 第1面の確認面 シルト層
 - 7 炭化物が混じったシルト層 色調も変質している

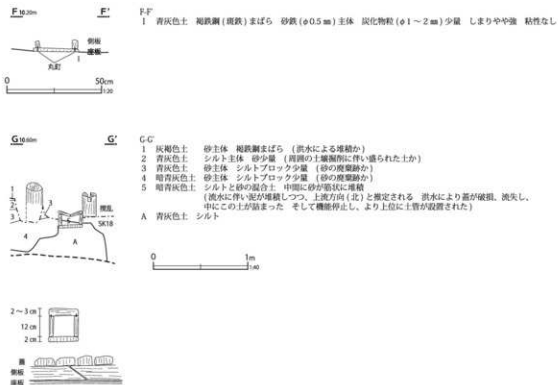
- C-C'
- III 青灰色土 シルト(粘土質) 炭粒を多く含む 粘性あり しまりやや強い
 - IV 青灰色土 砂層 やや粗粒 水が湧き出し非常に多い 粘性・しまりなし
 - 1 暗褐色土 シルトブロック(φ1mm)と砂質土との混合土 しまりやや強 粘性なし 木桶②の裏込め・埋め土か? とても薄い堆積
 - 2 暗褐色土 砂質土主体 炭粒まばら しまりやや強 粘性なし
 - 3 暗褐色土 砂質土主体 炭粒まばら 水質を含む しまりやや強 粘性なし 浅い掘り込み
 - 4 オリーブ灰色土 粗粒(φ0.5~1mm)主体 炭粒まばら しまりやや強 粘性なし 洪水で堆積した砂か
 - 5 青灰色土 砂質土(細砂) φ0.5mm以下主体 炭化物(φ2~10mm)まばら 周辺が砂主体の土層に対してややシルト質 炭化物含む しまりやや強 粘性やや有り 新井土か

- D-D'
- 1 青灰色土 砂粒 しまり 粘性ややあり 木桶の裏込めか
 - 2 暗青灰色土 シルト質土主体 砂粒(φ1mm以下)少量 炭化物粒(φ5mm前後)少量 炭粒(φ5mm)微量 しまり 粘性ややあり 埋め土か
 - 3 暗青灰色土 シルト質土主体 砂粒(φ1mm以下)まばら 炭化物粒(φ5mm前後)少量 しまり 粘性ややあり 埋め土か
 - 4 暗青灰色土 シルト質土主体 砂粒(φ1mm以下)少量 炭化物粒(φ1mm前後)微量 しまり 粘性ややあり 埋め土か
 - 5 青灰色土 シルト質土主体 砂粒(φ1mm以下)少量 しまり 粘性ややあり 埋め土か
 - 6 青灰色土 シルト質 白色シルトブロック(φ5mm)まばら しまりやや強 粘性あり 木桶の裏込めか
 - 7 暗青灰色土 シルト質 8層と同じ しまりやや強 粘性有り 埋め土
 - 8 シルト 炭化物微量 樹皮状の木くず少量
 - 9 シルト 炭化物微量 ラミナ状堆積
 - 10 砂 炭化物微量 ラミナ状堆積
 - 11 シルト 炭化物微量
 - 12 シルト 炭化物微量
 - 13 砂 炭化物微量

A 杭A(建物基礎に伴う杭)と杭Bに対する掘り方と木込め 瓦礫に砂と礫が混ざる 木桶を潰す ガラス片や瓦片等が入る

- E-E'
- 1 暗青灰色土 シルトブロック主体 砂少量 (埋め土)
 - 2 青灰色土 シルト主体 細砂少量 炭化物微量 (埋め土)
 - 3 青灰色土 砂主体 シルトブロック少量 (埋め土)
 - 4 暗青灰色土 シルトブロック主体 砂少量 (埋め土)
 - 5 暗青灰色土 シルト主体 砂がブロック状に入る (埋め土か)
 - 6 暗青灰色土 シルト主体だが細砂が含まれる (木桶を埋没させた土 洪水による堆積か)
 - 7 青灰色土 シルト 木桶②が機能していた時に流れ、たまった土(礫のようなもの)
 - 8 灰白色土 砂層 木桶②が機能していた時に流れ、たまった土(礫のようなもの)
 - 9 青灰色土 シルト層 木桶②が機能していた時に流れ、たまった土(礫のようなもの)
 - 10 灰白色土 砂層 木桶②が機能していた時に流れ、たまった土(礫のようなもの)
 - 11 青灰色土 砂主体 シルトブロック・炭粒少量 (埋め土)
 - 12 暗青灰色土 砂層 (堆積土)
 - 13 青灰色土 シルトブロック主体 砂少量 (埋め土)
 - 14 暗青灰色土 シルト主体 炭化物粒・炭粒少量 (埋め土)
 - 15 青灰色土 砂層に炭化物粒と根状の植物が混じる (埋め土)
 - 16 暗青灰色土 砂とシルトブロックの混合土 (埋め土)
 - 17 暗青灰色土 砂層 (堆積土)
 - 18 暗青灰色土 シルト主体 砂が多量 炭化物やや少量 (堆積土)
 - 19 暗青灰色土 シルト主体 砂が少量 炭化物少量 (堆積土)

A シルト層



第142図 木桶 (4)

可能性がある。また、D-D' 断面部分におけるシルトの第9層と砂の第10層にはラミナ状堆積が見られる。G-G' 断面部分では、蓋が壊れている状態と木桶の中に泥が堆積している様子が確認された。砂主体の第1層の灰褐色土は洪水による堆積と考えられる。シルトと砂の混合土の第5層の暗青灰色土には、中間に砂が筋状に堆積している。洪水により蓋が破損、流失し、この第5層の暗青灰色土が木桶内に詰まって木桶の機能が停止した可能性がある。木桶中央東よりのE-E' 断面の第6層は、洪水による堆積で、木桶を埋没させた土と考えられる。

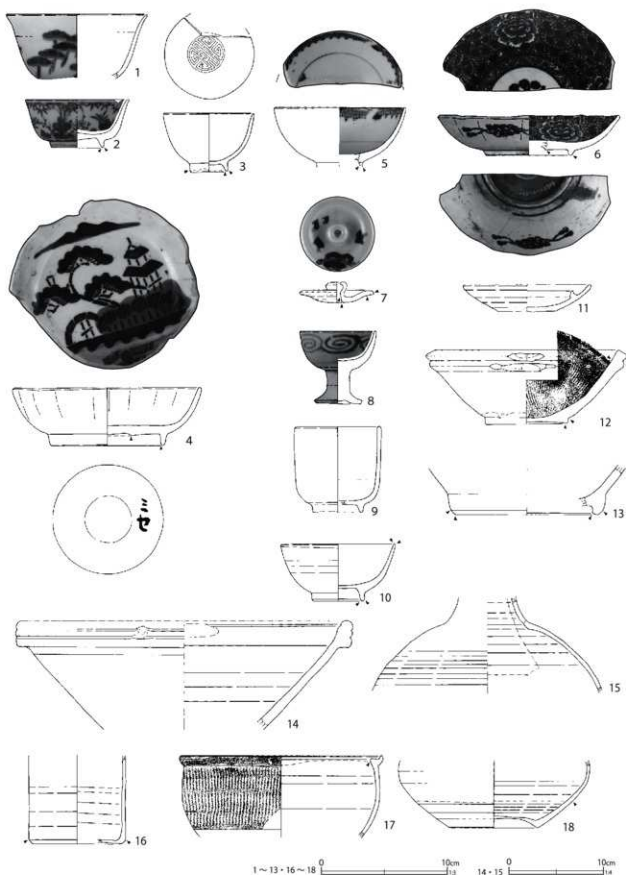
洪水が木桶を破壊、埋没させ、その後新しい木桶が設置された。新しい木桶の構造は底板と側板の接合が脆弱だった。上面のF-F' 断面を見ると、側板を留める釘が短いためか、固定が弱く、底板から外れやすい構造であったのが分かる。ま

た、底板が1枚約1.80mの長さに対して、側板の長さがまちまちである。新しい木桶は古い木桶に比べてやや簡素な構造だったと思われる。

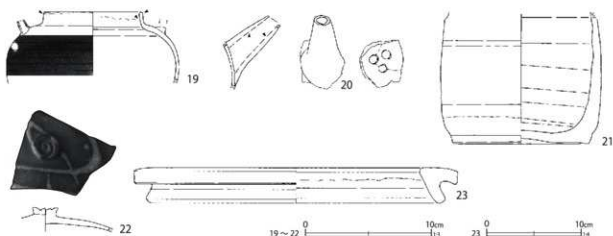
木桶は、連絡と養生と新設を繰り返してきたと思われる。木桶の廃絶後は直上に土管が、更にその上部には塩ビ管が設置されていた。木桶の水路としての機能は現代まで受け継がれて継続していたことが分かる。

木桶の周辺からは陶磁器、木製品等が出土した。出土遺物を第143～146図に掲載した。

第143図1・3～8は磁器である。肥前系、瀬戸美濃系が相半ばしている。端反碗、坏、皿、仏飯器、蓋が見られる。3の坏は型押寿文が施され、口縁に鉄軸が施されている。4の皿は、型紙摺絵染付が施されている。蛇の目凸形の底面で、「ミセ」と墨書されている。7の蓋は瀬戸美濃系の急須の蓋と考えられる。



第143図 木桶出土遺物 (1)



第144図 木桶出土遺物（2）

第52表 木桶出土遺物観察表（1）（第143・144 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	(11.0)	[5.1]	—	K	40	良好	灰白	木桶	肥前系 施軸 外面染付	
2	陶器	坏	8.1	3.8	3.9	HK	80	普通	白	木桶	瀬戸美濃系 施軸 外面銅版転写染付	78-1
3	磁器	坏	(7.0)	4.7	2.8	HK	80	良好	白	木桶	瀬戸美濃系 型押寿文 施軸 口縁鉄軸	78-2
4	磁器	皿	14.6	4.6	8.7	I	80	良好	灰白	木桶	瀬戸美濃系 施軸 型紙摺絵染付 底面墨書「ミセ」	78-3
5	磁器	碗	(10.2)	[4.7]	—	IK	45	良好	白	木桶	瀬戸美濃系 施軸 型紙摺絵染付	
6	磁器	皿	(14.0)	3.2	(6.6)	I	40	良好	灰白	木桶	瀬戸美濃系 施軸 銅版転写染付	
7	磁器	蓋	5.8	1.6	—	K	100	良好	明緑灰	木桶	瀬戸美濃系か 急須の蓋か 施軸 外面染付	78-4
8	磁器	仏飯器	5.9	5.8	3.5	K	85	普通	灰白	木桶	№8 肥前系 施軸 外面染付	78-5
9	陶器	碗	(6.5)	6.8	(3.7)	HK	40	普通	灰白	木桶	硬質陶器か 施軸 外面色絵	
10	陶器	碗	(8.8)	4.5	(3.8)	IK	35	普通	灰白	木桶	硬質陶器か 施軸	
11	陶器	油受皿	(9.9)	2.1	(4.6)	HI	40	普通	灰白	木桶	瀬戸美濃系 鉄軸 輪状重ね焼痕 底部軸ふきとり	
12	陶器	播鉢	(14.4)	5.9	6.2	H	45	普通	灰黄	木桶	益子系 鉄軸 播目9条1単位	78-6
13	陶器	鉢か	—	[3.7]	(11.2)	IK	15	普通	灰白	木桶	同一の胴部片あり 灰軸	
14	陶器	播鉢	34.3	[11.5]	—	BHKL	50	良好	暗赤褐	木桶	堺明石系 播目12条1単位	
15	陶器	徳利	—	[10.3]	—	IK	15	普通	灰白	木桶	大型長頸瓶 灰軸・鉄軸流し掛け	
16	陶器	燗徳利	—	[7.0]	(7.0)	CK	25	普通	灰白	木桶	京都信楽系か 灰軸	
17	陶器	行平鍋	(15.8)	[6.5]	—	K	25	良好	灰黄褐	木桶	鉄軸 外面トビガンナ	
18	陶器	土瓶	—	[5.3]	(6.7)	K	30	良好	灰白	木桶	鉄軸	
19	陶器	土瓶	(7.5)	[5.3]	—	HI	10	良好	橙	木桶	鉄軸 トビガンナ 被熱	
20	陶器	土瓶	—	[5.7]	—	IK	5	普通	浅黄橙	木桶	注口 鉄軸	
21	陶器	徳利	—	[10.4]	(10.6)	K	35	良好	灰白	木桶	瀬戸美濃系 一升 外面灰軸 底部軸ふきとり	78-7
22	陶器	蓋	2.0	[1.9]	—	IK	35	普通	灰白	木桶	内面鉄軸 外面トビガンナ イッチン 行平鍋	
23	瓦質土器	甕罎	(26.2)	3.7	(30.0)	IK	20	普通	灰白	木桶	煤付着 やや酸化炎焼成済み	

2・9～22は陶器である。瀬戸美濃系よりも益子系等の民窯製と考えられる産地不明の製品が多い。

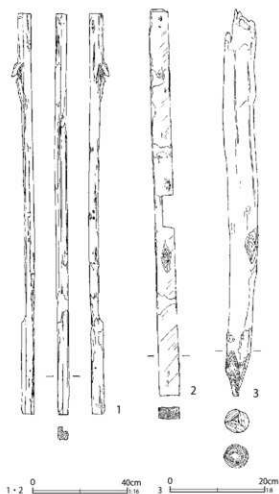
2は外面銅版転写染付寿文坏である。11は瀬戸美濃系の油受皿である。輪状重ね焼痕が見られる。16は京都信楽系と考えられる。灰軸の燗徳利である。21は瀬戸美濃系の一升徳利である。



第145図 木桶出土遺物（3）

第53表 木樋出土遺物観察表（2）（第145図）

番号	種別	器種	口径 幅	器高 長さ	底径 厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	蓋	(3.5)	2.4	—	7.6	—	良好	白	木樋	瀬戸美濃系 施釉 外面銅版転写染付	
2	墨	練墨	3.9	5.4	1.5	27.6	—	—	黒	木樋		102-3



第146図 木樋出土遺物（4）

第54表 木樋出土遺物観察表（3）（第146図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径／径	高さ	底径	遺構	備考	図版
1	木製品	木樋	169.0	4.4	5.2	—	—	—	木樋		
2	木製品	木樋	163.0	8.6	4.8	—	—	—	木樋		
3	木製品	木樋	80.9	—	—	5.0	—	—	木樋		

（3）溝跡

第1号溝跡（第147図）

第4地点北側中央北寄りのH8-C4グリッドに位置する。北側が第6号杭列手前に設置した排水溝より先が不明で、南側も不明瞭になる。確認できた長さは5.50m、幅は0.77～0.88m、深さは0.15～0.25mである。走向方位はN-20°

Wである。

第1号溝跡からは陶磁器が少量出土している。

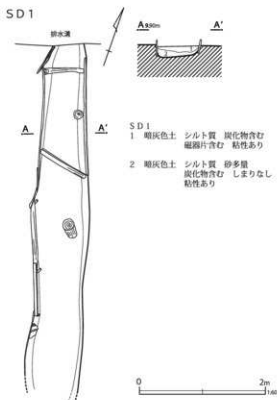
第148図1は瀬戸美濃系磁器の坏である。外面銅版転写染付が施されている。

2・3は瀬戸美濃系陶器である。2は甕で、鉄釉と漆黒釉が流し掛けされている。底面には判読不能だが墨書が施されている。3は鉄釉の水注で、

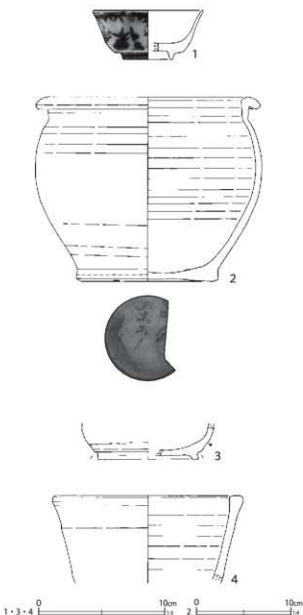
内面に煤が付着し、剥離が見られる。植木鉢の転用である。

4は瓦質土器の植木鉢である。

第1号溝跡の時期は磁器の坏、瓦質土器の植木鉢の形態から19世紀中葉と考えられる。



第147図 溝跡



第148図 溝跡出土遺物

第55表 溝跡出土遺物観察表 (第148図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	坏	(8.2)	3.9	—	HK	30	良好	灰白	SD1	瀬戸美濃系 施釉 外面銅版転写施付	
2	陶器	甕	(21.0)	19.5	14.9	HK	35	良好	にぶい橙	SD1	鉄軸 漆黒釉流し掛け 墨書 見込みビン底4残存	78-8
3	陶器	水注	—	[2.9]	(4.0)	G	40	普通	灰白	SD1	瀬戸美濃系 鉄軸 被熱 植木鉢転用	
4	瓦質土器	植木鉢	(14.6)	[6.9]	—	K	20	普通	灰	SD1		

(4) 土壌 (第149～189図)

第4地点では土壌21基が検出された。第4地点で検出した土壌は第2地点と同様に南北方向、東西方向それぞれに軸を置く長方形のものが主体を占める。

遺構の位置や規模については第56表に示した。遺構図は第149～158図、出土遺物は第159～189図に示した。

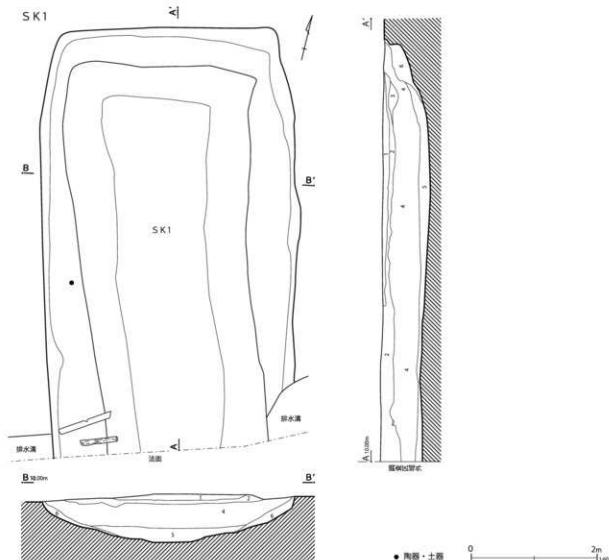
第1号土壌 (第149～153図)

第4地点北側の南端H8-D4、E4・5グリ

第56表 第4地点土壌計測表

単位: m

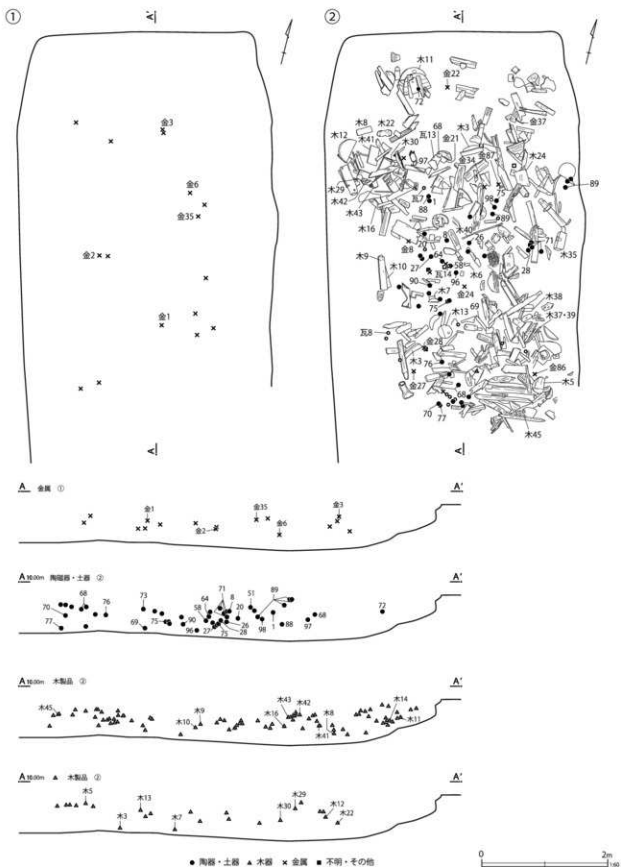
番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	備考	番号	グリッド	形態	長軸	短軸	深さ	備考
1	B8-D4 B8-F4・5	長方形	[6.70]	4.00	0.75	SK2 重複	10	B8-16・7	長方形か	[6.95]	6.25	0.55	
2	B8-C4	隅丸 長方形	5.20	1.90	0.35		11	B8-1・J7	不整形	5.20	[3.90]	0.55	SK13
3	B8-C-D3	隅丸 長方形	1.55	0.75	0.10		12	B8-J7 18-A7	不整形	6.00	[3.95]	0.55	SK13・14
4	B8-D4	不整形	2.15	1.80	0.12		13	B8-J7	不明	—	—	0.80	SK11・12・14
5	B8-D4	不整形	1.55	0.95	0.15		14	B8-J7	不明	—	—	0.40	SK11・12・13
6	B8-D4	不整形	2.47	0.95	0.15		15~18	B8-B4	不明	—	—	0.30~0.60	
7	B8-C-D3 B8-C-D4	隅丸 長方形	1.36	0.80	0.15		19	B8-G5	不整形	3.80	0.60	0.55	SK20
8	B8-G5	不整形	[2.20]	(2.10)	0.50		20	B8-G5	隅丸方形 か	[1.75]	0.90	0.50	SK19
9	B8-H・16	不整形	5.20	[4.75]	0.35		21	B8-B3	不明	[2.20]	[1.26]	0.40	



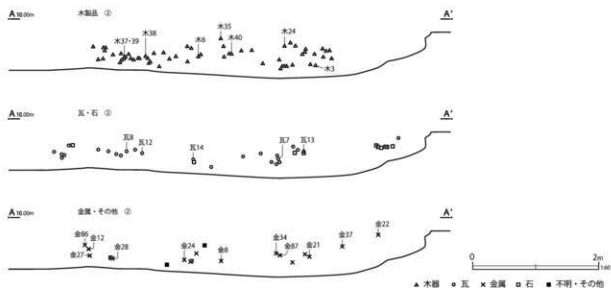
SK1

- 1 褐色土 木片(未炭化)・木くず(おがくず状)多量 陶磁器類多量 しまりなし 粘性あり 上層
- 2 明灰色土 粘質土 炭化物・砂含む しまりややあり 粘性あり 埋め戻しか 上層
- 3 黒褐色土 炭化物類 シルトブロック多量 下層
- 4 黒色土 炭化物・炭化材類 灰色シルトブロック含む 炭化材は完全に燃焼したもので木質が残るものもある 建築部材・桶等形状の判別できるものが多い 布・竹・穀物・縄・屋根材等含まれるがもうい 陶磁器・金属器等多数出土 金属器は錆び付。未炭化のものもある 下層
- 5 黒褐色土 炭化物類 灰色シルトブロック多量 下層
- 6 暗褐色土 炭化物類・砂粒・灰色シルトブロックまばら 白色粒少量 しまり強い 粘性弱くザラザラな土

第149図 土壌(1)



第150図 土壌 (2)



第151図 土壌 (3)

ッドに位置し、南側は調査区域外に延びている。重複する第2号性格不明遺構よりも古い。確認できた長軸は6.70m、短軸は4.00m、深さは0.75mの長方形である。長軸の方位はN-13°-Wである。断面形は鍋底形である。

覆土は木片、木くず、陶磁器類を多量に含む褐色土、炭化物や砂を含む明灰色土、炭化物とシルトブロックを多量に含む黒褐色土、炭化物層とシルトブロックを含む黒色土と黒褐色土、炭化物粒を含む暗褐色土である。陶磁器、土器、土製品、瓦、金属製品、石製品など大量の遺物が出土した。

覆土の炭化物層や大量の炭化した建築部材の出土から、火災による家屋の廃材等が片付けられたと考えられる。

第2号土壌 (第154図)

第4地点北側中央北寄りのH8-C4グリッドに位置する。長軸は5.2m、短軸は1.9m、深さは0.35mの隅丸長方形である。長軸の方位はN-16°-Wである。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。

覆土は、炭化物・木材片や陶器を多量に含む暗褐色土、灰褐色シルトブロックを多量に含む暗灰色土、炭化物を含む暗灰色土である。

土器、瓦、金属製品など大量の遺物が出土した。

第3号土壌 (第154図)

第4地点北側中央西端のH8-C・D3グリッドに位置する。長軸は1.55m、短軸は0.75m、深さは0.10mの長方形である。南西側は調査区域外である。長軸の方位はN-6°-Wである。断面形は皿形で、底面はほぼ平坦である。

覆土は、炭化物を含む灰色土、木片を多量に含む褐色土である。

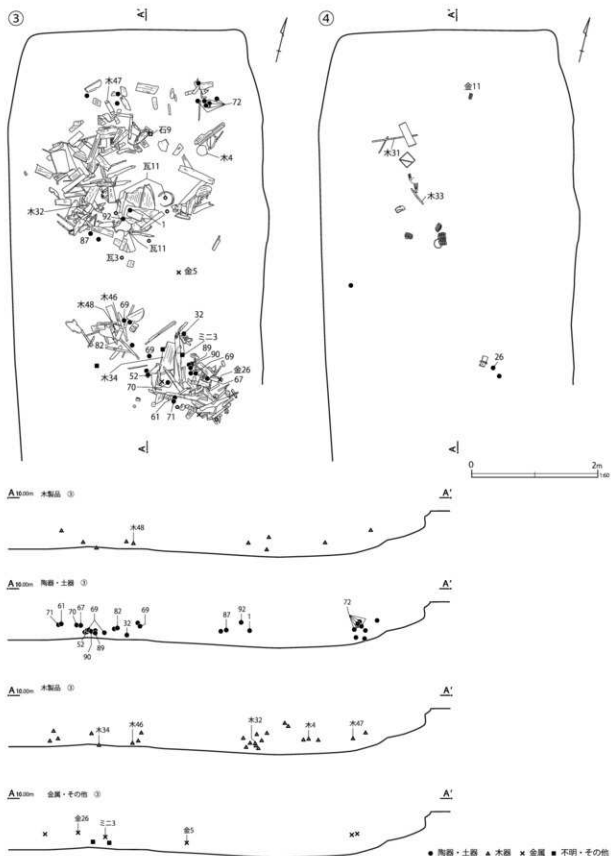
第4号土壌 (第154図)

第4地点北側南西寄りのH8-D4グリッドに位置する。長軸は2.15m、短軸は1.80m、深さは0.12mの不整形である。長軸の方位はN-70°-Eである。断面形は皿形で、底面はほぼ平坦である。

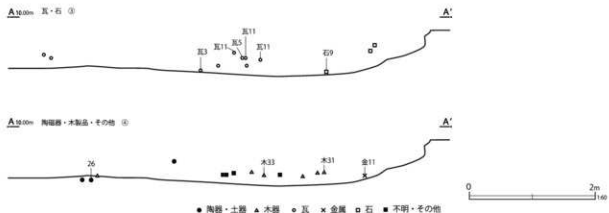
覆土は、炭化物・木材片を多量に含む暗褐色土の単層である。

第5号土壌 (第154図)

第4地点北側南寄りのH8-D4グリッドに位置する。長軸は1.55m、短軸は0.95m、深さは0.15mの不整形である。長軸の方位はN-19°-Wである。断面形は皿形で、底面はほぼ平坦である。



第152図 土壙 (4)



第153図 土壌 (5)

覆土は、炭化物・木材片・瓦を含む暗褐色土の単層である。

第6号土壌 (第154図)

第4地点北側南寄りのH8-D4グリッドに位置する。長軸は2.47m、短軸は0.95m、深さは0.15mの不整形である。長軸の方位はN-16°-Wである。断面形は皿形で、底面はやや凹凸がある。

覆土は、炭化物・木材片を多量に含む暗褐色土、灰褐色シルトブロックを多量に含む暗灰色土である。

第7号土壌 (第154図)

第4地点北側中央西寄りのH8-C・D3、C・D4グリッドに位置する。長軸は1.36m、短軸は0.80m、深さは0.152mの隅丸長方形である。長軸の方位はN-17°-Wである。断面形は皿形で、底面は東側が0.10mほど深い。

覆土は、炭化物と酸化鉄を含む灰色土、木片を多量に含む褐色土、炭化物を含む灰色土である。

第8号土壌 (第155図)

第4地点南側北西寄りのH8-G5グリッドに位置する。西側は調査区域外に延びている。南側は地山に凹凸があり、不明瞭になっている。確認できた長軸は2.20m、推定される短軸は2.10m、深さは0.50mの不整形である。長軸の方位はN-69°-Eである。断面形は逆台形だが、底面

は西側が浅い。

覆土は、炭化物がまばらでシルトブロックと暗褐色土が互層する単層である。

第9号土壌 (第155図)

第4地点南側中央西端のH8-H・I6グリッドに位置する。西側は調査区域外に延びている。長軸は5.20m、確認できた短軸は4.75m、深さは0.35mの不整形である。長軸の方位はN-2°-Eである。断面形は皿形で、底面はかなり凹凸がある。

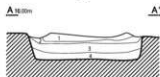
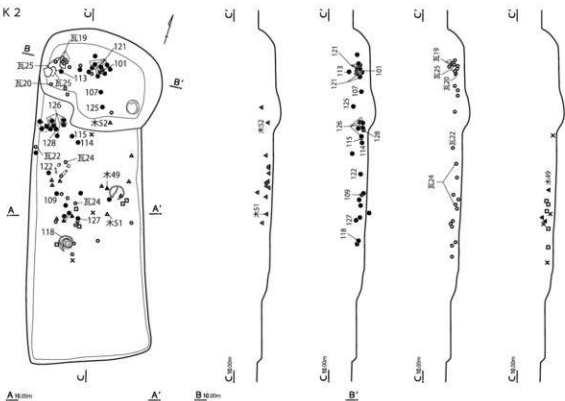
覆土は、炭化材・木片・ガラス片・陶器片などを多量に含む黒褐色土、ブロック状のシルトと砂を含む黒灰色土、シルト主体でブロック状の砂を多量に含む灰色土で、埋め戻しの可能性がある。

第10号土壌 (第156図)

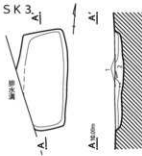
第4地点南側南東寄りのH8-I6・7グリッドに位置する。東側は調査区域外に延びている。確認できた長軸は6.95m、短軸は6.25m、深さは0.55mである。平面形は長方形と考えられる。長軸の方位はN-69°-Eである。断面形は不明である。

覆土は、木片・鉄片や陶磁器片・ガラス瓶・下駄等生活廃棄物を多量に含む黒褐色土、ブロック状のシルトを多量に含む黒灰色土、シルト主体でブロック状の砂を多量に含む灰色土で、埋め戻しの可能性がある。

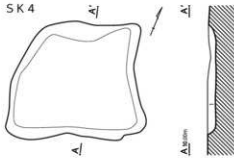
SK 2



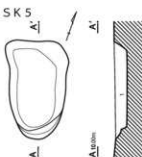
SK 3



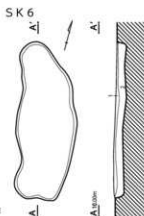
SK 4



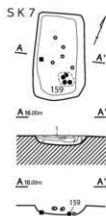
SK 5



SK 6



SK 7



● 陶器・土器 ▲ 木器 ● 瓦
× 金属 □ 石 ▲ 漆 ■ 不明・その他

SK 2

- 1 暗褐色土 炭化物・木材片多量
陶器片含む しまりなし
粘性ややあり
- 2 暗灰色土 炭化物含む
灰褐色シルトブロック多量
瓦片・陶器片多量
しまり・粘性あり
- 3 暗灰色土 やや砂質 炭化物含む
しまりあり 粘性ややあり
- 4 暗灰色土 粘質土 炭化物含む
粘性・しまりあり

SK 3

- 1 灰色土 砂質 炭化物含む 酸化鉄分多量
粘性あり
- 2 褐色土 木片（木端）多量
しまりなし 粘性あり

SK 4

- 1 暗褐色土 炭化物・木材片多量
しまりなし 粘性ややあり

SK 5

- 1 暗褐色土 炭化物・木材片多量
瓦片含む しまりなし
粘性ややあり

SK 6

- 1 暗褐色土 炭化物・木材片多量
φ2～3cmの小砂利（丸い）含む
しまりなし 粘性ややあり
- 2 暗灰色土 粘質土 炭化物含む
灰褐色シルトブロック多量
しまり・粘性あり

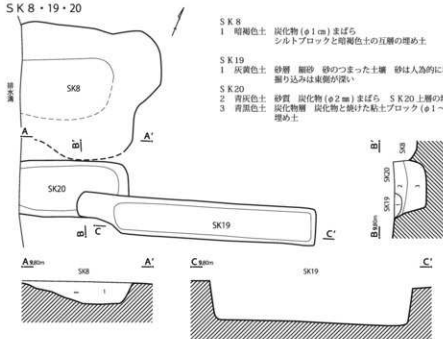
SK 7

- 1 灰色土 砂質 炭化物含む 酸化鉄分多
粘性あり
- 2 褐色土 木片（木端）多量 しまりなし
粘性あり
- 3 灰色土 砂質 炭化物含む しまりなし
粘性あり

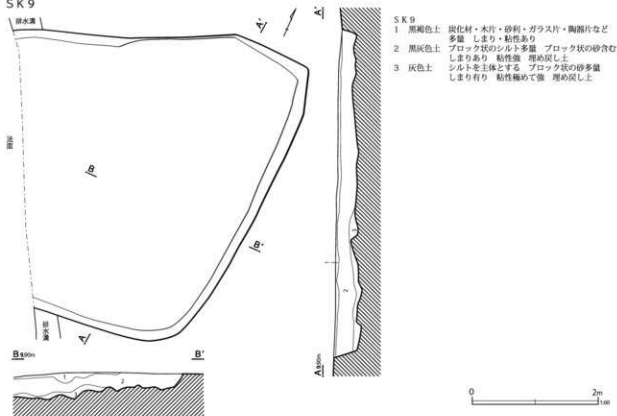
0 2m
100

第154図 土壌 (6)

SK 8・19・20

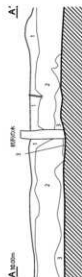
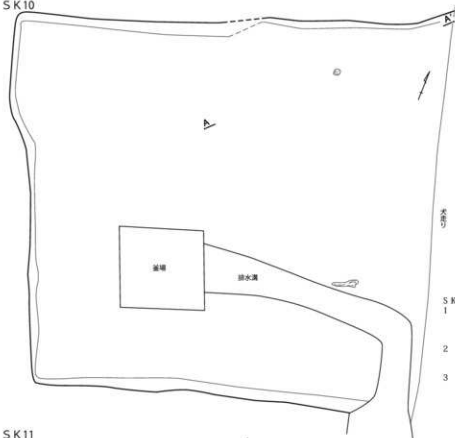


SK 9



第155図 土壌 (7)

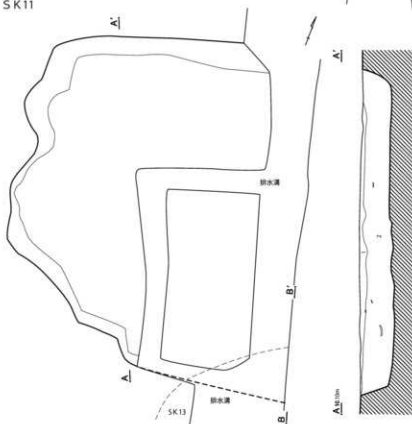
SK10



SK10

- 1 黒褐色土 木片・炭片多量
陶磁器片・ガラス瓶・下駄等生活
廃棄物多量 しまりなし 粘性弱
埋め戻し土
- 2 黒灰色土 ブロック状のシルト多量・
ブロック状の砂含む しまりあり
粘性強 埋め戻し土
- 3 灰色土 シルト主体 ブロック状の砂多量
しまりあり 粘性極めて強
埋め戻し土

SK11



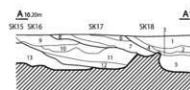
SK11

- 1 褐色土 木片・木くず主体 炭化材微量
しまり・粘性なし 現代の堆積
- 2 暗灰色土 砂まじりのシルト層
白色粘土ブロック (φ 1~1.5 cm)
含む 炭化物微量 しまり強
粘性強 埋土



第156図 土壌 (8)

SK15~18



SK18

- 1 明灰褐色土 砂主体 鉄分を含んで黄色味をおびる
シルトブロック(φ1~1.5cm)微量 しまり・粘性なし
2 灰褐色土 シルトブロック主体 砂粒含む 炭化物微量 しまり・粘性弱
3 黒灰色土 砂主体 シルトブロック(φ1~3cm)少量 しまり・粘性なし
4 暗灰色土 シルト主体 木片微量 しまりあり 粘性強
5 灰褐色土 シルトと砂の混合層 木片・炭化物少量 しまり・粘性弱

SK17

- 6 灰褐色土 木片多量・炭化物少量 しまり・粘性あり
7 黄灰色土 黄色味の砂主体 シルトブロック(φ3~5cm)多量
炭化物微量 しまり・粘性なし
8 暗褐色土 シルトブロック(φ1~2cm)・砂粒多量 炭化物微量
しまりあり 粘性やや強

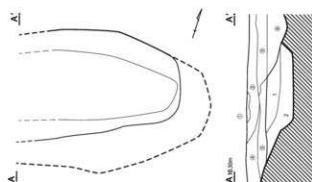
SK16

- 9 暗灰色土 鉄分を含む砂が主体の層 木くず・シルトが一部層状に堆積
シルトブロック(φ1~1.5cm)多量 しまり・粘性なし
10 暗灰色土 シルトブロック(φ0.5~3cm)・砂粒多量 炭化物含む
木片少量 しまり・粘性弱
11 暗灰色土 砂粒多量 木片含む しまり弱 粘性あり
12 暗灰色土 シルトブロック主体 砂粒少量 炭化物微量
しまり・粘性あり

SK15

- 13 黒灰色土 砂主体 シルトブロック(φ1~1.5cm)多量
しまり・粘性なし

SK21



SK21

- ① 灰白色土 砂粒(やや粗い)と炭粒がまばら しまり弱 粘性なし
浅い盛り込み(新しい埋戻?)に堆積した埋め土 表土層
② 灰黄褐色土 砂粒(粗砂多)主体 部分的に炭粒含む
ブロック状に細砂が点々と混じる しまりやや弱
粘性なし 埋め土が整地土 表土層
③ 黄灰色土 砂粒(細砂と粗砂が混じる)とシルトブロックの混合土
炭化物・炭粒少量 浅い溝状の盛り込みを埋め戻した土が
表土層
④ 灰黄褐色土 炭粒多 砂粒(細砂多・粗砂少) 炭化物粒少量
瓦片が上層に堆積 強くしまった層 しまり強
粘性なし 整地土か? 表土層
⑤ 黒褐色土 シルト質土主体 しまりやや強 粘性あり 埋め土?
表土層
⑥ 暗褐色土 炭粒まばら 炭化物混れてまばらに入る
しまり・粘性やや弱 表土層
1 黒褐色土 木くず層が底面にたまる 瓦・陶磁器等含む
シルトブロックまばら しまり・粘性やや弱
2 黒褐色土 炭化物粒・シルトブロックまばら しまり・粘性やや弱

第158図 土壌 (10)

第11号土壌 (第156図)

第4地点南側南東寄りのH8-1・J7グリッドに位置する。東側は調査区域外に延びている。長軸は5.20m、確認できた短軸は3.90m、深さは0.55mの不整形である。長軸の方位はN-69°-Wである。重複する第13号土壌よりも新しい。断面形は不明である。

覆土は、木片・木くず主体の褐色土、シルト層で白色粘土ブロックを含む暗灰色土で、大型のブロックを含むため、埋め戻しの可能性がある。

第12号土壌 (第157図)

第4地点南側南端のH8-J7・I8-A7グリッドに位置する。東側は調査区域外に延びている。長軸は6.00m、確認できた短軸は3.95m、深さは0.55mの不整形である。長軸の方位はN-22°-Wである。重複する第13・14号土壌より

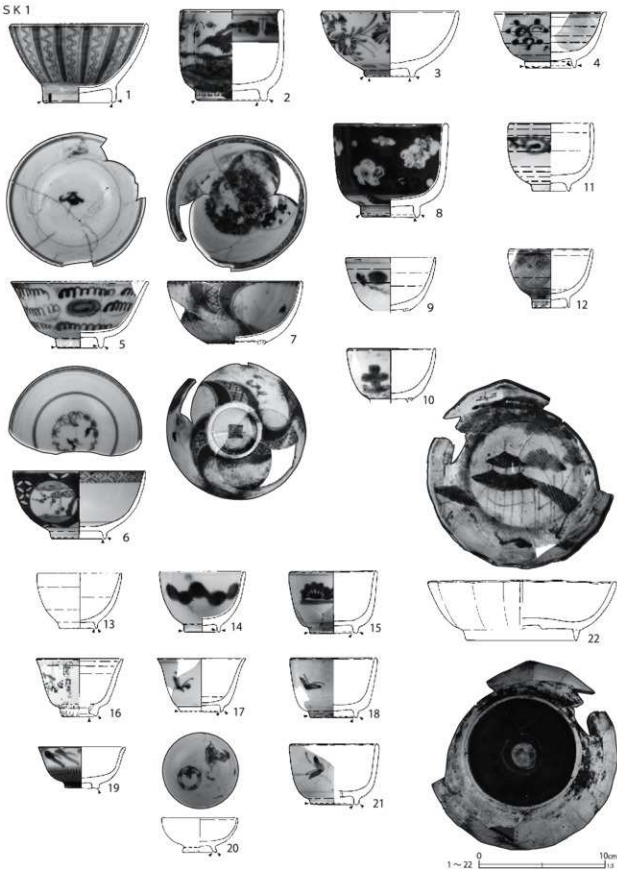
りも古い。断面形は第13号土壌に壊されているが、皿形になると思われる。

覆土は木くず、木片、炭化材を含む暗灰色土、黒褐色土、暗褐色土とシルトブロックやブロック状の砂を含む暗灰色土、黒灰色土、暗灰色土で、埋め戻しの可能性がある。

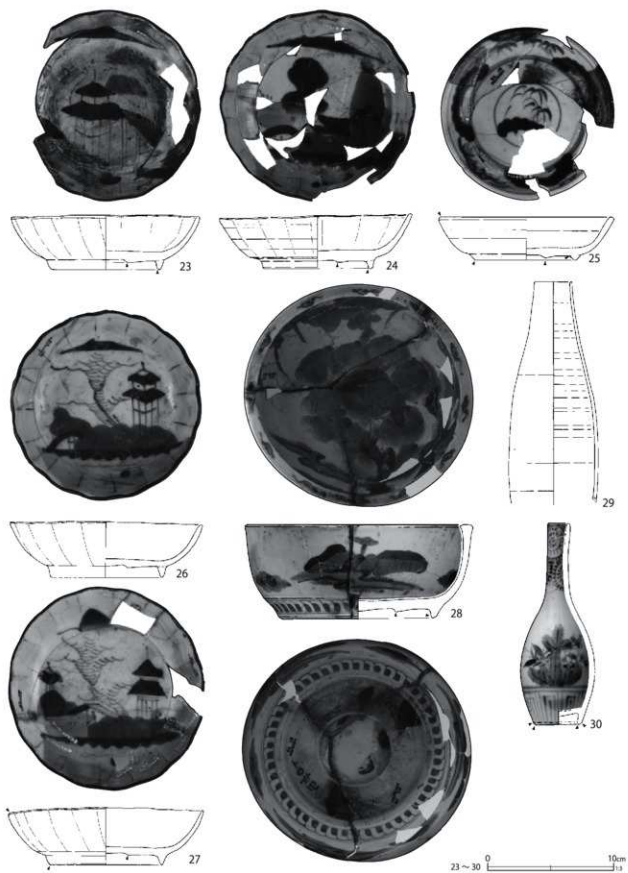
第13号土壌 (第157図)

第4地点南側南端のH8-J7グリッドに位置する。長軸、短軸は不明瞭で、断面で範囲を確認したのみである。深さは0.80mである。重複する第12号土壌よりも新しく、第11・14号土壌よりも古い。断面形は南側が鍋底形だが、底面に凹凸があり、北側は皿形で底面はほぼ平坦である。覆土は砂とシルトの暗灰色土、褐色土、暗褐色土、黒灰色土で、ブロックを多量に含むため、埋め戻しの可能性がある。

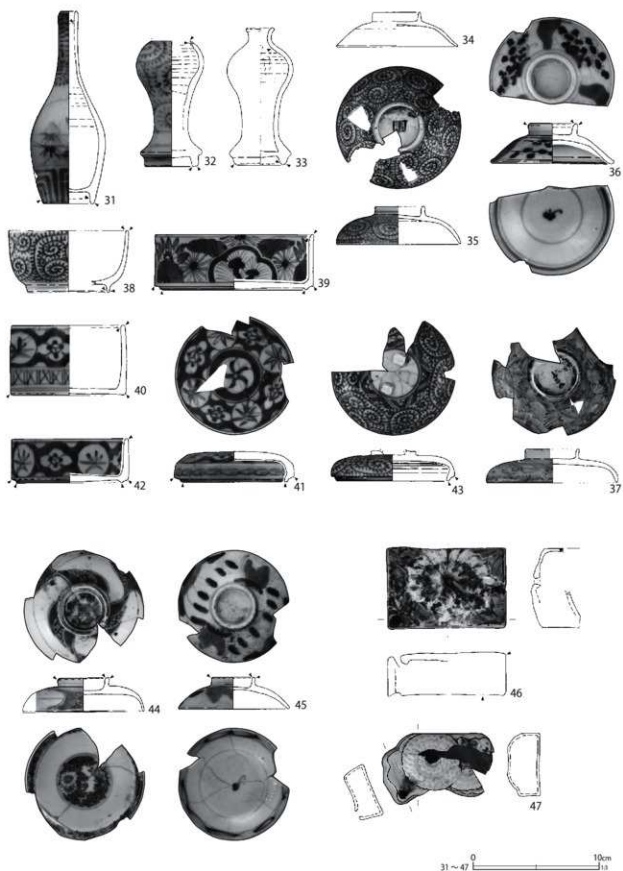
SK1



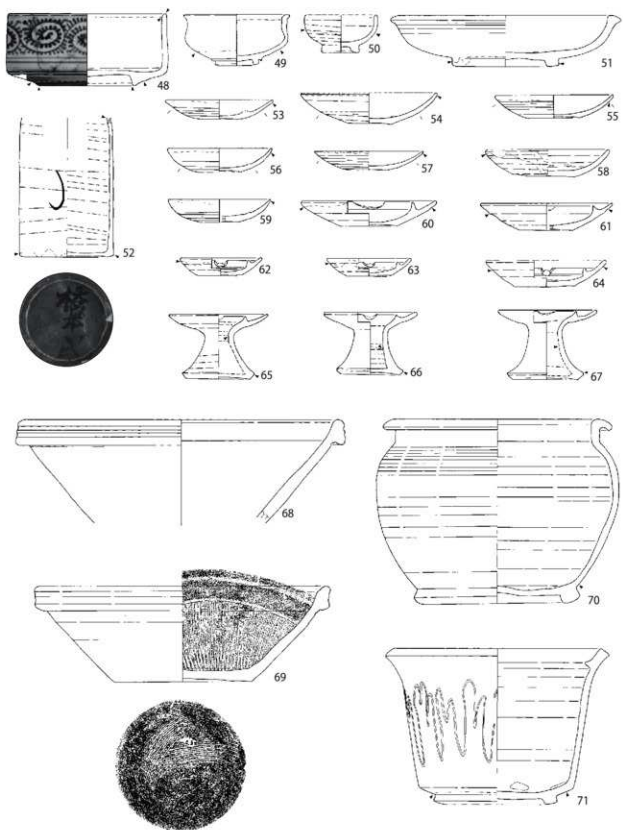
第159図 土壙出土遺物 (1)



第160図 土坑出土遺物（2）

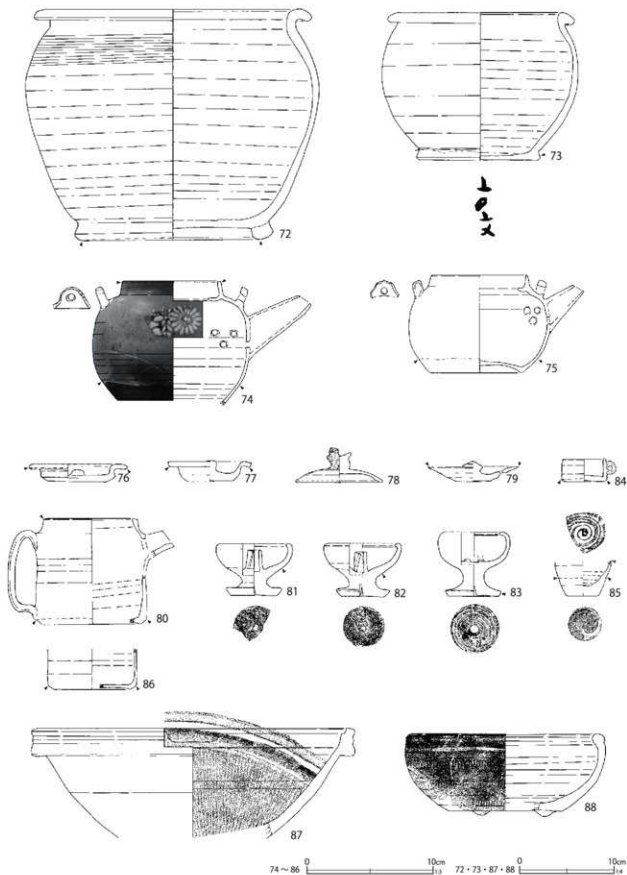


第161図 土壙出土遺物（3）

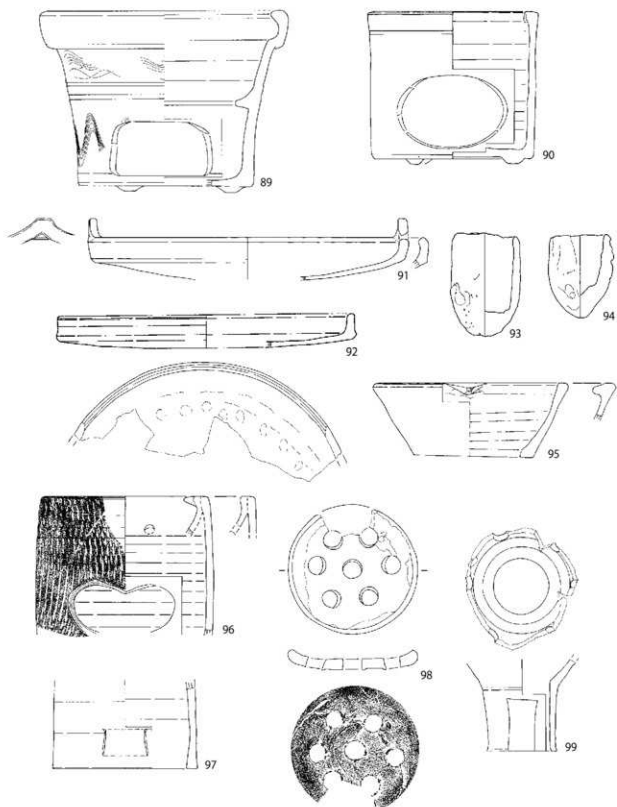


48 ~ 50・52 ~ 67 0 10cm 51・68 ~ 71 0 10cm

第162図 土壇出土遺物（4）

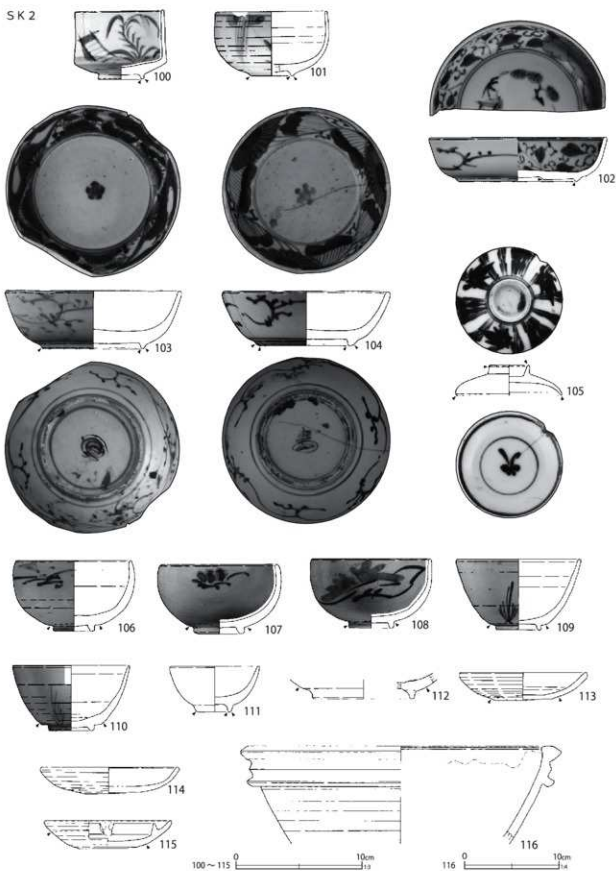


第163圖 土壙出土遺物(5)

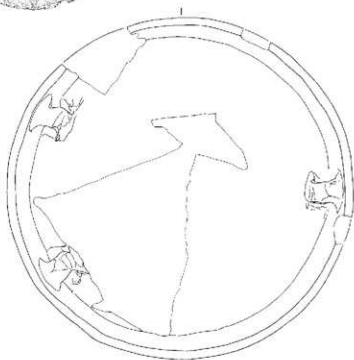
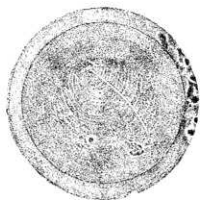
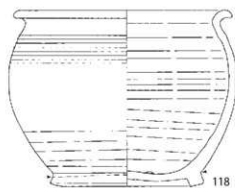
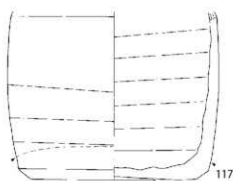


第164図 土壇出土遺物（6）

SK 2



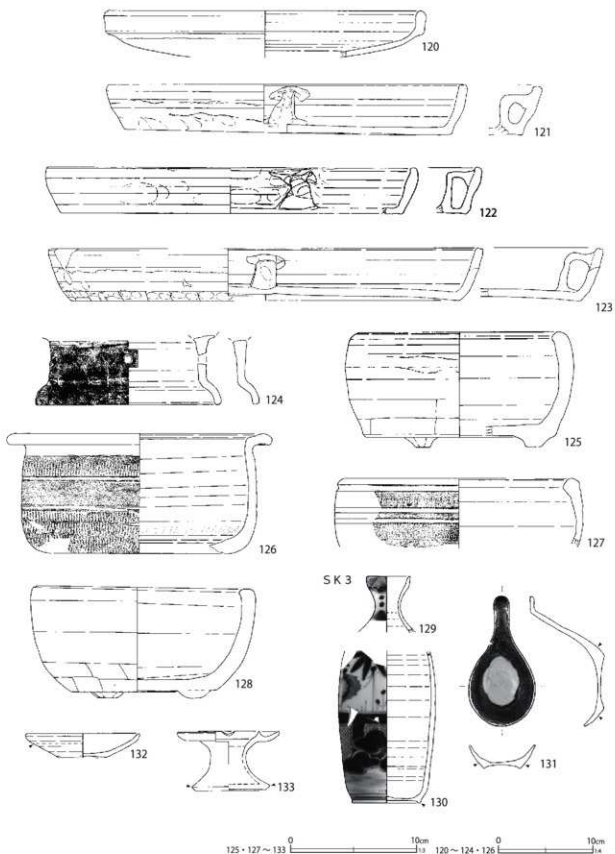
第165図 土壙出土遺物 (7)



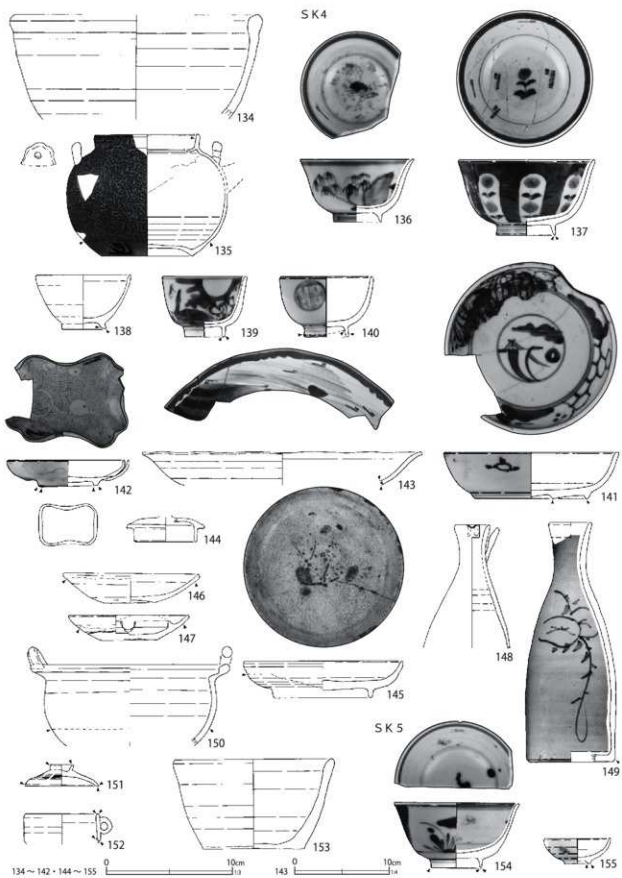
0 10cm 117

0 10cm 118・119

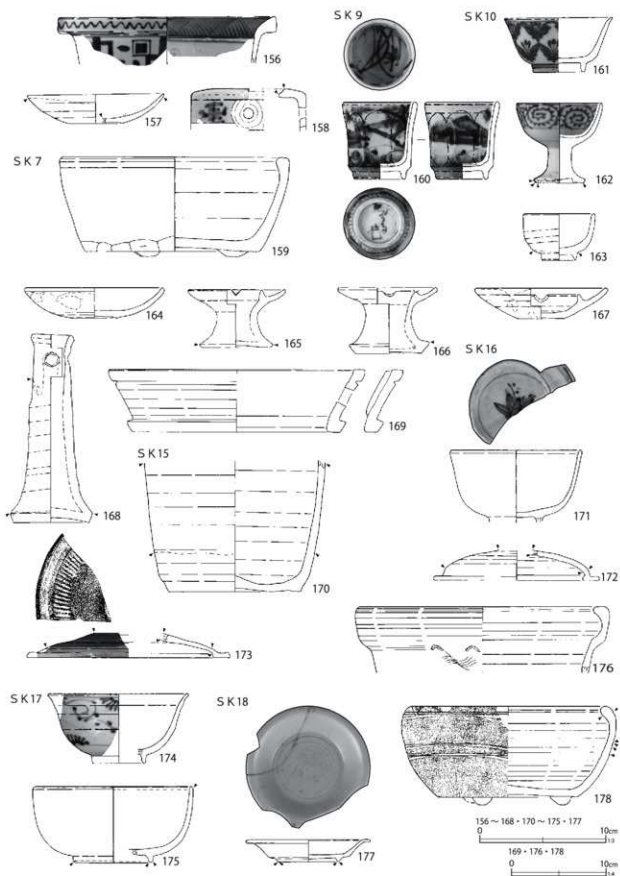
第166図 土壙出土遺物（8）



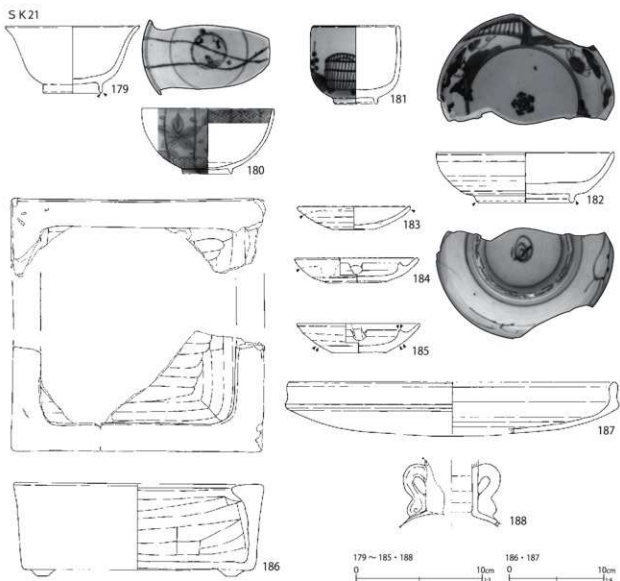
第167図 土壙出土遺物（9）



第168図 土壙出土遺物 (10)



第169図 土壙出土遺物 (11)



第170図 土壌出土遺物 (12)

第14号土壌 (第157図)

第4地点南側南端のH8-J7グリッドに位置する。長軸、短軸は不明瞭で、断面で範囲を確認したのみである。深さは0.40mである。重複する第13号土壌よりも新しい。断面形は鍋底形だが、凹凸がある。

覆土は砂とシルトブロックの暗灰色土、シルト層の暗灰色土、灰色土で、ブロックを大量に含むため、埋め戻しの可能性がある。

第15・16・17・18号土壌 (第158図)

第4地点北側の北端で、法面に断面のみ確認された。H8-B4グリッドに位置する。深さは0.30～0.60mである。それぞれ重複しており、第15号土壌が最も古く、第18号土壌が最も新しい。

第15号土壌の断面は第16号土壌に壊されており、不明である。

覆土は、シルトブロックを多量に含む砂主体の黒灰色土で、埋め戻しの可能性がある。

第57表 土壇出土遺物観察表(1)(第159~170図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	10.6	6.2	5.4	K	90	良好	灰白	SK1 №.88・329 肥前系 施釉 染付 煤付着		79-1
2	磁器	碗	7.6	7.2	5.1	K	70	良好	白	SK1 瀬戸美濃系カ 施釉 染付 外面縁 焼継印		79-2
3	磁器	碗	10.6	5.2	3.2	IK	80	良好	白	SK1 瀬戸美濃系 施釉 染付		79-3
4	磁器	碗	(8.6)	4.5	3.8	K	30	良好	白	SK1 瀬戸美濃系 施釉 染付 被熱 煤付着		
5	磁器	碗	10.6	5.3	3.4	I	85	良好	灰白	SK1 瀬戸美濃系 施釉 染付 被熱 煤付着		79-4
6	磁器	碗	(10.4)	5.4	(4.2)	K	55	良好	灰白	SK1 肥前系 施釉 染付		79-5
7	磁器	碗	10.4	[5.0]	—	IK	80	良好	白	SK1 瀬戸美濃系 施釉 染付 煤付着		79-6
8	磁器	碗	(9.4)	7.4	(4.0)	K	50	良好	白	SK1 №.104 瀬戸美濃系 施釉 染付 煤付着 幅広高台		79-7
9	磁器	碗	(7.0)	[4.3]	—	IK	40	良好	白	SK1 瀬戸美濃系 施釉 外面染付 煤付着		79-8
10	磁器	坏	6.8	[4.4]	—	K	80	良好	白	SK1 瀬戸美濃系 施釉 外面染付 煤付着		
11	磁器	碗	6.4	5.4	(2.8)	K	80	良好	白	SK1 肥前系 施釉 外面染付 煤付着		80-1
12	磁器	坏	6.6	4.7	(2.8)	K	85	良好	白	SK1 瀬戸美濃系 施釉 外面染付 煤付着		80-2
13	磁器	坏	(6.4)	[4.4]	3.0	IK	60	良好	灰白	SK1 瀬戸美濃系 施釉 口縁鉄軸		80-3
14	磁器	坏	(6.6)	[4.8]	2.7	IK	85	良好	白	SK1 瀬戸美濃系 施釉 外面染付		80-4
15	磁器	坏	6.7	4.9	(3.6)	K	65	良好	白	SK1 瀬戸美濃系 施釉 外面染付 煤付着 被熱 発泡 18・21 と揃い		80-5
16	磁器	坏	6.6	4.5	(2.6)	K	50	良好	白	SK1 瀬戸美濃系 施釉 外面染付 蛇の目高台 和歌		
17	磁器	坏	(6.9)	4.3	(3.2)	K	30	良好	灰白	SK1 瀬戸美濃系 施釉 外面染付		
18	磁器	坏	6.6	4.7	3.6	K	90	良好	白	SK1 瀬戸美濃系 施釉 染付 煤付着 被熱 器面発泡 15・21 と揃い		80-6
19	磁器	坏	6.7	3.3	2.6	K	90	普通	白	SK1 瀬戸美濃系 施釉 染付 口縁鉄軸 幅広高台 煤付着		80-7
20	磁器	坏	3.0	2.7	2.6	K	95	良好	灰白	SK1 №.97 瀬戸美濃系 施釉 外面染付 内面上 給付(青) 被熱		80-8
21	磁器	碗	6.7	4.8	3.6	K	70	良好	白	SK1 瀬戸美濃系 施釉 染付 被熱 煤付着 15・18 と揃い		81-1
22	磁器	皿	14.8	4.2	8.5	K	70	良好	白	SK1 肥前系 施釉 内面染付 口縁鉄軸 煤付着 墨書 12枚揃い 被熱		81-2
23	磁器	皿	14.5	4.3	8.4	K	80	良好	灰白	SK1 肥前系 施釉 内面染付 口縁鉄軸 被熱 煤付着 墨書 12枚揃い		81-3
24	磁器	皿	14.9	4.3	8.3	K	80	良好	白	SK1 肥前系 施釉 内面染付 口縁鉄軸 被熱 煤付着 12枚揃い		81-4
25	磁器	皿	13.3	3.4	7.9	K	80	良好	灰白	SK1 肥前系 施釉 染付 被熱 煤付着		81-5
26	磁器	皿	15.0	4.4	8.6	K	100	良好	白	SK1 №.250・379 肥前系 施釉 内面染付 口縁鉄軸 被熱 煤付着 12枚揃い		82-1
27	磁器	皿	15.1	4.5	8.8	K	90	普通	白	SK1 №.108 肥前系 染付 被熱 煤付着 山水楼閣文 蛇の目高台 12枚揃い		82-2
28	磁器	鉢	17.0	7.5	11.6	IK	90	良好	灰白	SK1 №.200 肥前系 駄知井 施釉 染付 焼継印 被熱 煤付着		82-3
29	磁器	饅頭利	(3.0)	17.0	—	IK	20	良好	灰白	SK1 肥前系 施釉 染付 使継 被熱 煤付着		
30	磁器	瓶	1.5	16.0	3.4	K	100	良好	明緑灰	SK1 №.303 瀬戸美濃系 煤付着 31 と揃い		82-4
31	磁器	瓶	1.3	15.3	3.8	I	85	良好	灰白	SK1 瀬戸美濃系 外面施釉 染付 被熱 煤付着 30 と揃い		82-5
32	磁器	瓶	—	[9.9]	4.0	IK	65	良好	白	SK1 №.297 肥前系 外面施釉 染付 被熱 揃いあり		
33	磁器	瓶	(2.0)	[10.9]	(3.6)	IK	70	良好	灰白	SK1 瀬戸美濃系 瑠璃釉 被熱 揃いあり		82-6
34	磁器	蓋	つまみ 3.6	2.7	9.4	IK	80	良好	灰白	SK1 肥前系 端反碗 施釉 染付 煤付着		83-1
35	磁器	蓋	つまみ 3.8	3.0	9.6	IK	75	良好	灰白	SK1 肥前系 丸碗 施釉 染付 煤付着		83-2
36	磁器	蓋	つまみ 3.5	3.2	9.4	K	60	良好	白	SK1 瀬戸美濃系 端反碗 施釉 染付		83-3

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
37	磁器	蓋	つまみ (4.0)	2.7	10.3	K	50	普通	灰白	SK1	肥前系 丸碗 施軸 染付 煤付着 焼継印	83-4
38	磁器	蓋物	(9.2)	4.9	(6.2)	K	35	普通	灰白	SK1	肥前系 施軸 外面染付 被熱	
39	磁器	蓋物	12.4	5.5	11.2	K	75	良好	白	SK1	№.378 肥前系 段重 施軸 外面染付	83-5
40	磁器	蓋物	8.9	5.5	8.8	IK	85	良好	白	SK1	肥前系 段重 施軸 外面染付 被熱 41・42 と揃い	84-1
41	磁器	蓋	8.1	2.4	—	K	90	良好	白	SK1	肥前系 段重の蓋 施軸 外面染付 被熱 煤付着 40・42 と揃い	
42	磁器	蓋物	9.1	3.5	8.2	IK	90	良好	白	SK1	肥前系 段重 施軸 外面染付 被熱 40・41 と揃い	84-2
43	磁器	蓋	つまみ 3.5	[2.4]	8.8	K	70	良好	灰白	SK1	肥前系 蓋物 施軸 外面染付 被熱	
44	磁器	蓋	つまみ 3.8	2.7	9.4	K	80	良好	白	SK1	瀬戸美濃系 丸碗 施軸 染付 煤付着	84-3
45	磁器	蓋	3.2	2.5	8.6	IK	90	良好	灰白	SK1	瀬戸美濃系 端反碗 施軸 染付 被熱発泡	84-4
46	磁器	水漬	縦 6.5	3.3	横 9.3	IK	100	良好	白	SK1	肥前系 施軸 染付 布目 煤付着 型成形	84-5
47	磁器	水漬	縦 5.3	2.5	横 (8.7)	K	80	良好	白	SK1	肥前系 外面施軸 染付 布目 型成形	
48	磁器	蓋物	(12.4)	5.7	(7.6)	K	85	良好	灰白	SK1	肥前系 施軸 外面染付 焼継 煤付着	84-6
49	陶器	香炉	8.0	4.0	2.2	AHK	95	良好	灰白	SK1	№.125 京都信楽系 鉄軸 被熱 煤付着	85-1
50	陶器	坪	5.6	3.0	2.6	A	100	良好	灰	SK1	京都信楽系 灰軸 被熱 煤付着 貫入	85-2
51	陶器	皿	22.0	5.4	10.0	IK	85	良好	灰白	SK1	№.103 瀬戸美濃系 灰軸 被熱 煤付着 貫入 内面重ね焼痕 4	85-3
52	陶器	燗德利	—	11.0	7.4	K	45	良好	灰白	SK1	№.304 京都信楽系 外面施灰軸 鉄銚 底部 墨書「橋本口」	85-4
53	陶器	灯明皿	8.3	1.5	2.8	IK	70	良好	灰白	SK1	京都信楽系 灰軸 煤付着 見込みビン痕 1 残存	
54	陶器	灯明皿	10.5	2.4	3.3	IK	85	良好	灰	SK1	京都信楽系 灰軸 煤付着 被熱剥離	
55	陶器	灯明皿	(9.1)	1.8	4.1	IK	75	良好	灰	SK1	京都信楽系 灰軸 煤付着 被熱剥離	
56	陶器	灯明皿	8.2	1.9	3.4	HK	95	良好	灰白	SK1	京都信楽系 灰軸 見込みビン痕 3 磁質	
57	陶器	灯明皿	8.5	1.5	2.8	IK	70	良好	灰白	SK1	京都信楽系 灰軸 煤付着 被熱発泡	
58	陶器	灯明皿	9.4	2.2	3.4	CIK	100	良好	にぶい黄橙	SK1	№.113 瀬戸美濃系 柿軸 内面重ね焼痕 被熱か	85-5
59	陶器	灯明皿	8.0	1.8	(3.0)	K	85	良好	灰白	SK1	京都信楽系 灰軸 被熱 見込みビン痕 3	
60	陶器	油受皿	10.4	2.0	4.4	K	100	良好	灰黄	SK1	京都信楽系 灰軸 被熱 煤付着	85-6
61	陶器	油受皿	10.2	2.1	4.2	K	65	普通	明オリブ灰	SK1	№.307 京都信楽系 灰軸 被熱発泡剥離 煤付着	85-7
62	陶器	油受皿	6.2	1.4	3.4	I	100	良好	灰黄褐	SK1	瀬戸美濃系 灰軸 被熱か 煤付着	85-8
63	陶器	油受皿	6.4	1.4	3.6	K	98	良好	灰黄褐	SK1	瀬戸美濃系 柿軸 被熱 煤付着 外面輪状重ね焼痕	85-9
64	陶器	油受皿	9.4	2.1	4.9	I	98	良好	灰黄褐	SK1	№.112 瀬戸美濃系 柿軸 被熱 煤付着	85-10
65	陶器	油受皿	(7.6)	5.1	5.1	IK	80	良好	灰	SK1	京都信楽系 灰軸 被熱か 煤付着 底部糸切り後回転ヘラケズリ	
66	陶器	油受皿	7.1	5.0	4.5	CIK	90	良好	灰白	SK1	京都信楽系 灰軸 被熱 煤付着	86-1
67	陶器	油受皿	7.7	5.5	5.1	I	90	良好	灰白	SK1	№.300 京都信楽系 灰軸 被熱発泡	86-2
68	陶器	摺鉢	33.0	[11.1]	—	EHKL	60	良好	にぶい赤褐	SK1	№.83・152・154 堺明石系 被熱 煤付着 摺目 12 条 1 単位	86-3
69	陶器	摺鉢	30.3	10.1	14.4	EI	100	良好	黒	SK1	№.288・315・320・323 堺明石系 被熱摺目 11 条 1 単位	86-4
70	陶器	甕	21.3	19.5	17.3	IK	95	良好	褐灰	SK1	№.161・312 瀬戸美濃系 柿軸・漆黒軸流し掛け	86-5
71	陶器	甕	21.8	16.5	13.0	IK	95	良好	黄灰	SK1	№.196～199・308 瀬戸美濃系 水甕 灰軸 波状文 被熱 煤付着 重ね焼痕 6 箇所	86-6
72	陶器	甕	26.6	24.4	18.3	EIK	85	良好	黄灰	SK1	№.41・333・335～337・339 瀬戸美濃系 柿軸・漆黒軸流し掛け 見込み目皿	86-7

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
73	陶器	甕	17.3	15.7	12.4	K	90	良好	褐灰	SK1 №.133 地方民家系 柿軸・漆黒軸流し掛け 底面墨書 重ね焼痕5箇所 被熱	86-8	
74	陶器	土瓶	7.5	9.8	—	AIK	75	良好	灰白	SK1 灰軸 被熱 煤付着 イッチン	87-1	
75	陶器	土瓶	(7.4)	7.7	7.3	K	70	良好	灰白	SK1 №.148・251 灰軸 染付「山水模陶文」か 被熱 煤付着 穿孔3箇所	87-2	
76	陶器	蓋	7.7	1.5	4.5	K	100	良好	灰黄	SK1 №.149 瀬戸美濃系 本注の蓋 外面鉄軸	87-3	
77	陶器	蓋	6.6	1.6	3.5	IK	100	良好	褐	SK1 №.153 本注の蓋 外面鉄軸 回転糸切り (左)	87-4	
78	陶器	蓋	6.8	2.7	—	IK	95	良好	にぶい黄橙	SK1 急須の蓋 鉄軸か 臥状把手 被熱 煤付着	87-5	
79	陶器	蓋	—	1.6	2.8	IK	80	良好	灰白	SK1 急須の蓋 灰軸 被熱至泡 煤付着 回転糸 切り(右)		
80	陶器	水注	6.7	8.4	7.8	IK	60	良好	黄灰	SK1 京都信楽系 灰軸 被熱 煤付着		
81	陶器	茶燭	5.4	4.1	3.6	I	85	良好	灰	SK1 瀬戸美濃系か 鉄軸 回転糸切り	87-6	
82	陶器	茶燭	5.5	4.2	3.4	K	95	良好	灰	SK1 №.313 瀬戸美濃系か 鉄軸 被熱 回転糸切 り	87-7	
83	陶器	茶燭	(4.5)	5.1	4.0	IK	45	良好	灰	SK1 瀬戸美濃系か 鉄軸 被熱 回転糸切り(右)		
84	陶器	銅入れ	3.2	1.8	2.3	IK	100	良好	灰黄	SK1 瀬戸美濃系 灰軸 被熱 煤付着 底部回転 糸切り	87-8	
85	陶器	豆甕	—	2.8	2.6	IK	70	良好	にぶい黄橙	SK1 鉄軸 底部回転糸切り 被熱	88-1	
86	陶器	燗徳利	—	[3.2]	(3.0)	IK	30	良好	灰白	SK1 京都信楽系 外面鉄軸		
87	陶器	標鉢	(32.8)	[11.6]	—	IK	35	普通	赤	SK1 №.325 堺明石系 標目8条1単位 煤付着		
88	瓦質土器	火鉢	(19.2)	8.2	(12.0)	CHI	45	普通	黒	SK1 №.89 トビガンナ 口縁ミガキ 煤付着	88-2	
89	瓦質土器	火鉢	24.1	19.3	18.0	—	80	普通	黒	SK1 №.227～229・232・316 口縁・体部中位ミガ キ	88-3	
90	瓦質土器	焔炉	(17.8)	16.1	16.5	IK	60	普通	灰褐	SK1 №.121・317 鹿の子後ナデ 口縁ミガキ	88-4	
91	土師質土器	焙烙	33.6	6.5	—	CI	50	普通	にぶい黄橙	SK1 九底 砂目底 被熱変色 煤付着 外面下位 ケズリ	88-5	
92	土師質土器	焙烙	(31.2)	[3.0]	(30.8)	ACHI	30	普通	灰白	SK1 №.327 九底 砂目底 被熱 煤付着 外面下 位ケズリ 内面指頭痕		
93	土器	増埴	8.5	5.5	重さ34.2	—	100	普通	黒	SK1 所々青灰色に染色	88-6	
94	土器	増埴	3.2	4.4	重さ39.3	—	100	普通	黒	SK1 所々青灰色に染色	88-6	
95	瓦質土器	五徳	18.8	7.8	12.5	CHIK	50	普通	黒	SK1 被熱 煤付着	88-7	
96	瓦質土器	焔炉	(17.5)	[14.7]	—	IK	5	普通	にぶい黄橙	SK1 №.119 煤付着 外面鉢・ミガキ 内垂部に1 周6箇の穴(径1cm)		
97	瓦質土器	焔炉	(11.4)	[7.0]	—	AHI	20	普通	褐灰	SK1 №.79 中間 被熱 全面煤付着		
98	土師質土器	目皿	長軸 10.2	1.6	短軸 10.1	A	90	良好	にぶい橙	SK1 №.231 被熱 内面付着物 回転糸切り(左)	88-8	
99	瓦質土器	焔炉	—	[9.7]	7.3	HIK	85	普通	にぶい赤褐	SK1 下層 中間 6孔 酸化炭焼成済み		
100	磁器	碗	7.2	5.4	3.6	K	100	良好	灰白	SK2 肥前系 施軸 染付	89-1	
101	磁器	碗	(8.6)	5.1	(3.4)	IK	45	良好	白	SK2 №.7 肥前系 施軸 染付	89-2	
102	磁器	皿	(13.8)	3.3	(9.2)	K	50	良好	白	SK2 肥前系 施軸 染付	89-3	
103	磁器	皿	13.6	4.6	7.8	IK	90	普通	白	SK2 肥前系 施軸 染付 104と揃い	89-4	
104	磁器	皿	12.8	4.3	7.0	IK	100	普通	白	SK2 肥前系 施軸 染付 103と揃い	89-5	
105	磁器	蓋	3.0	2.4	8.2	K	95	普通	灰白	SK2 瀬戸美濃系 丸碗 施軸 酸化コバルト染付	89-6	
106	陶器	碗	9.0	5.6	2.7	I	95	良好	灰	SK2 瀬戸美濃系 灰軸 外面鉄軸	89-7	
107	陶器	碗	9.0	5.5	3.1	IK	90	良好	灰白	SK2 №.26 瀬戸美濃系 灰軸 外面鉄軸	90-1	
108	陶器	碗	9.3	5.5	3.4	IK	85	良好	灰白	SK2 瀬戸美濃系 灰軸 貫入 外面色絵 被熱	90-2	
109	陶器	碗	(9.6)	5.6	3.4	IK	60	良好	灰白	SK2 №.46 京都信楽系 灰軸 外面鉄軸	90-3	
110	陶器	碗	(9.1)	5.2	3.0	IK	50	良好	白	SK2 京都信楽系 灰軸 外面鉄軸		
111	磁器	杯	6.9	3.6	2.5	IK	100	良好	白	SK2 肥前系 施軸 染付 被熱か	90-4	
112	陶器	皿	—	[2.0]	(7.6)	EK	10	良好	淡黄	SK2 瀬戸美濃系 菊皿 灰軸 銅緑軸流し掛け		
113	陶器	灯明皿	9.8	2.2	4.3	HIK	100	良好	暗赤褐	SK2 №.21 瀬戸美濃系 柿軸 内面輪状重ね焼痕 底部軸ふきとり	90-5	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
114	陶器	灯明皿	10.6	2.1	4.2	K	100	良好	暗赤褐	SK2	№.37 瀬戸美濃系 柿釉 重ね焼痕 底部軸ふきとり	90-6
115	陶器	油受皿	9.8	2.2	4.5	K	100	良好	灰黄褐	SK2	№.36 瀬戸美濃系 柿釉 重ね焼痕 底部軸ふきとり	90-7
116	陶器	搦鉢	32.0	[10.4]	—	I	5	良好	黒褐	SK2	蓑子系 鉄釉 内面灰付着 搦目16条1単位	
117	陶器	有耳壺	—	[13.3]	13.0	GHIK	70	良好	にぶい黄灰	SK2	№.80 瀬戸美濃系 外面鉄釉 底部糸切り後ヘラケズリ SK1 №.322 と接合	90-8
118	陶器	甕	22.0	18.7	13.5	EGHIK	45	良好	灰黄	SK2	№.81 瀬戸美濃系 柿釉・灰軸流し掛け 底部黒書 内面重ね焼痕4	90-9
119	瓦質土器	焙烙	(36.2)	[5.4]	(32.8)	CIK	75	普通	灰	SK2	№.2・3・8・9・11・12 内耳は2個一対 煤付着	91-1
120	土師質土器	焙烙	(32.8)	[5.0]	—	CHIK	30	普通	にぶい橙	SK2	丸底 砂目底 被熱 煤付着	91-2
121	瓦質土器	焙烙	37.7	5.3	34.7	IK	55	良好	灰白	SK2	平底 砂目底 体部下位ケズリ 煤付着	91-3
122	瓦質土器	焙烙	(39.1)	4.8	(36.2)	HIK	5	普通	にぶい橙	SK2	№.42 平底 砂目底 体部下位ケズリ	
123	瓦質土器	焙烙	(44.8)	5.5	(41.2)	CEIK	40	普通	灰	SK2	№.6・10 平底 砂目底 被熱 煤付着 指頭痕 体部下位ケズリ	91-4
124	瓦質土器	火鉢	—	[7.3]	(18.4)	CDIK	50	普通	黒	SK2	№.31 御付火鉢 波状文 焼す	
125	瓦質土器	火鉢	(15.6)	9.1	(14.6)	ACDI	40	普通	褐灰	SK2	№.27 砂目底 煤付着 体部下位ケズリ	
126	瓦質土器	火鉢	(26.2)	12.7	—	IK	50	不良	黒	SK2	№.32・34・35・89 御付火鉢 口縁・体部中位ケズリ 被熱 煤付着	91-5
127	瓦質土器	火鉢	(18.0)	[5.4]	—	EI	5	普通	黒	SK2	№.59 口縁・体部中位ミガキ 煤付着	
128	瓦質土器	火鉢	16.7	8.9	11.3	ACIK	100	良好	にぶい橙	SK2	№.33 砂目底 煤付着 やや酸化変成さびみ	91-6
129	磁器	燗德利	3.4	[4.5]	—	IK	80	良好	灰白	SK3	瀬戸美濃系 施釉 外面染付 焼継	
130	磁器	燗德利	—	[12.0]	5.4	IK	75	良好	明青灰	SK3	瀬戸美濃系 施釉 外面染付 焼継印	
131	磁器	蓮華	5.8	長さ10.3	幅5.2	K	100	良好	白	SK3	瀬戸美濃系 施釉 内面染付・彫刻	91-7
132	陶器	灯明皿	8.8	1.9	3.6	I	60	普通	浅黄橙	SK3	京都信楽系 灰釉 煤付着	
133	陶器	油受皿	7.8	4.7	5.4	IK	95	良好	にぶい黄橙	SK3	京都信楽系 灰釉 被熱	91-8
134	陶器	片口鉢	(19.0)	[8.3]	—	IK	45	良好	灰白	SK3	瀬戸美濃系 灰釉	
135	陶器	土瓶	8.1	9.6	7.2	AIK	65	良好	灰黄	SK3	蛟肌釉 墨書 煤付着	
136	磁器	碗	(8.9)	5.0	3.7	K	55	良好	灰白	SK4	瀬戸美濃系 施釉 染付 被熱	91-9
137	磁器	碗	10.6	6.0	4.5	K	100	良好	灰白	SK4	肥前系 施釉 染付	92-1
138	磁器	坏	7.4	4.3	3.5	K	65	良好	灰白	SK4	瀬戸美濃系 施釉 口縁鉄釉 蛇ノ目高台	92-2
139	磁器	坏	(6.6)	4.8	(3.1)	K	45	良好	灰白	SK4	瀬戸美濃系 施釉 外面染付	92-3
140	磁器	坏	(7.1)	4.8	(3.4)	K	45	良好	明緑灰	SK4	瀬戸美濃系 施釉 染付	92-4
141	磁器	皿	13.4	3.7	8.8	K	80	良好	灰白	SK4	肥前系 施釉 染付 内面付着物	92-5
142	磁器	皿	(9.6)	2.1	4.0	K	75	良好	白	SK4	肥前系 変形皿 施釉 染付 型紙摺絵	92-6
143	磁器	大皿	(29.0)	[3.5]	—	K	10	良好	灰白	SK4	肥前系 施釉 外面染付 鉄絵	
144	陶器	蓋	—	[1.9]	(4.8)	I	45	良好	赤褐	SK4	急須の蓋 朱泥 珐瑯貫	
145	陶器	皿	12.4	2.9	7.6	IK	95	普通	灰黄	SK4	瀬戸美濃系 灰釉 内面摺絵	92-7
146	陶器	灯明皿	10.6	2.4	4.0	AIR	100	良好	黄灰	SK4	京都信楽系 灰釉 見込みビン痕3	92-8
147	陶器	油受皿	9.3	2.0	4.4	K	100	良好	にぶい赤褐	SK4	瀬戸美濃系 柿釉 重ね焼痕 底部軸ふきとり	93-1
148	磁器	燗德利	2.6	[9.8]	—	K	80	普通	灰白	SK4	瀬戸美濃系 片口 施釉 外面染付	
149	陶器	燗德利	(3.1)	18.9	(6.5)	K	80	良好	灰白	SK4	京都信楽系 灰釉 貫入多 外面鉄絵	93-2
150	陶器	両手鍋	15.6	[6.4]	—	IK	60	良好	にぶい黄橙	SK4	柿釉 下半煤付着	93-3
151	陶器	蓋 つまみ	(1.6)	1.7	(5.8)	IK	40	普通	灰白	SK4	急須の蓋か 錆化腔 透明釉	
152	陶器	餌入れ	5.6	[2.3]	—	IK	10	良好	灰オリーブ	SK4	瀬戸美濃系 灰釉	
153	瓦質土器	植木鉢	(12.4)	[7.1]	(8.0)	ACHIK	35	普通	褐灰	SK4	瀬戸美濃系 灰釉	
154	磁器	碗	(9.8)	5.2	(3.9)	IK	45	良好	灰白	SK5	瀬戸美濃系 染付 施釉 草花文	
155	磁器	坏	(5.1)	2.0	2.0	K	30	良好	灰白	SK5	瀬戸美濃系 染付 施釉 草花文か	
156	磁器	鉢	(16.8)	[3.7]	—	K	5	良好	灰白	SK5	肥前系 施釉 染付 植木鉢か	
157	陶器	灯明皿	(10.6)	[2.3]	(4.2)	IK	25	良好	灰白	SK5	京都信楽系 灰釉 見込みビン痕1 残存	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
158	磁器	水注	(5.6)	[3.4]	—	IK	20	良好	明緑灰	SK5	肥前系 施軸 外面染付 受口砂付着	
159	瓦質土器	火鉢	17.6	7.9	13.7	ACIK	95	普通	にぶい赤褐	SK7	No.12 被熱 煤付着 ほば酸化炭成 体部 下位ケズリ	93-4
160	磁器	坏	5.6	6.1	4.0	K	100	良好	灰白	SK9	瀬戸美濃系 施軸 酸化コバルト染付	93-5
161	磁器	坏	8.4	4.3	3.9	K	99	良好	白	SK10	瀬戸美濃系 施軸 外面銅版転写染付	
162	磁器	仏飯器	6.6	6.3	3.8	K	100	良好	灰白	SK10	肥前系 施軸 外面染付 数分沈着	93-6
163	陶器	坏	5.5	3.7	2.6	I	95	良好	黒褐	SK10	京都信楽系 灰軸 煤付着	93-7
164	陶器	灯明皿	10.7	2.4	3.4	IK	100	良好	にぶい黄	SK10	地方民窯系か 灰軸 煤付着	93-8
165	陶器	油受皿	7.5	4.6	5.4	A	100	良好	にぶい黄橙	SK10	地方民窯系か 灰軸 回転糸切り	94-1
166	陶器	油受皿	7.6	5.2	5.2	K	95	良好	にぶい黄橙	SK10	京都信楽系 灰軸 煤付着	94-2
167	陶器	油受皿	10.2	2.5	3.6	K	100	普通	白	SK10	京都信楽系 灰軸 付着物	94-3
168	陶器	花生	2.9	14.9	6.0	IK	100	良好	褐	SK10	鉄軸・灰軸流し掛け 回転糸切り	94-4
169	土師質土器	敷き輪	(24.8)	6.6	21.8	IK	30	普通	にぶい橙	SK10	被熱 煤付着	
170	陶器	德利	—	[10.4]	10.4	K	20	良好	灰白	SK15	瀬戸美濃系 一升 外面灰軸	94-5
171	磁器	碗	(10.1)	[5.7]	—	IK	25	良好	白	SK16	肥前系 施軸 染付 SK17と接合	
172	陶器	蓋	—	2.4	12.8	AIK	20	良好	にぶい橙	SK16	行平鍋 鉄軸	
173	陶器	蓋	—	1.9	15.8	IK	20	不良	灰白	SK16	行平鍋 鉄軸 トビガンナ 被熱か	
174	磁器	碗	(10.8)	4.5	(4.0)	K	15	良好	白	SK17	瀬戸美濃系 施軸 染付	
175	磁器	蓋物	(12.2)	6.0	—	K	35	良好	灰白	SK17	肥前系 施軸 外面染付	
176	瓦質土器	堀鉢	(24.4)	[7.1]	—	ACMIK	10	良好	褐灰	SK17	波状文 口縁ミガキ	
177	磁器	皿	9.8	1.7	4.7	K	85	良好	灰白	SK18	瀬戸美濃系 施軸 型押寿文	94-6
178	瓦質土器	火鉢	(20.4)	10.5	7.3	AIK	50	普通	にぶい黄橙	SK18	煤付着 口縁・体部中位ミガキ	
179	磁器	碗	(10.4)	5.3	(4.4)	K	30	普通	灰白	SK21	瀬戸美濃系 施軸 染付 焼印 被熱	
180	磁器	碗	(10.3)	5.2	(3.8)	K	25	良好	灰白	SK21	肥前系 施軸 染付 焼印 煤付着	
181	磁器	碗	6.6	6.3	3.2	K	100	良好	灰白	SK21	肥前系 施軸 染付	94-7
182	磁器	皿	(13.8)	4.0	(7.0)	K	50	良好	白	SK21	肥前系 染付 扇文様 五弁花	
183	陶器	皿	8.7	1.8	3.2	K	90	良好	灰白	SK21	京都信楽系 灰軸 見込みビン痕 3	94-8
184	陶器	油受皿	9.5	2.0	4.6	I	100	良好	灰黄	SK21	瀬戸美濃系 柿軸 輪状重ね焼痕 底部軸ふきとり	94-9
185	陶器	油受皿	9.6	2.3	4.2	IK	95	良好	褐灰	SK21	瀬戸美濃系 柿軸 輪状重ね焼痕	95-1
186	瓦質土器	火鉢	—	26.8	9.8	CI	40	良好	にぶい黄橙	SK21	底部・体部下位砂目 口縁ミガキ 煤付着	
187	土師質土器	焙烙	(34.0)	[5.5]	—	ACI	20	普通	にぶい橙	SK21	丸底 砂目底 煤付着	
188	陶器	花生	—	[5.3]	—	IK	5	良好	灰白	SK21	漆黒軸	

第16号土壌の断面は第17号土壌に壊されているが、逆台形と考えられる。底面は東側が0.10 mほど深くなっている。

覆土は、砂主体のシルトブロックを多量に含む暗灰色土、褐灰色土と砂粒を多量に含む暗灰色土で、埋め戻しの可能性がある。

第17号土壌の断面は第18号土壌に壊されており、不明である。

覆土は、木片を大量に含む灰褐色土、シルトブロックを多量に含む黄灰色土、暗褐色土で、大型のブロックを含むため、埋め戻しの可能性がある。

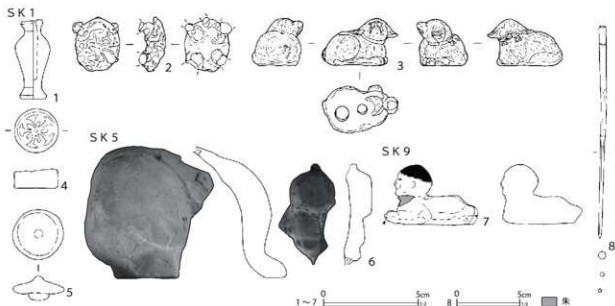
第18号土壌の断面は東側が調査区域外にかか

るが、皿形と筒形を合わせた形になると思われる。底面は、ほぼ平坦と思われる。覆土は、砂主体の明灰褐色土、シルトブロック主体の灰褐色土、砂主体の黒灰色土、シルト主体の暗灰色土、シルトと砂の混合層の灰褐色土で、大型のブロックを含むため、埋め戻しの可能性がある。

第19・20号土壌 (第155図)

第4地点南側北西のH8-G5グリッドに位置する。第19号土壌と第20号土壌は重複し、第19号土壌が新しく、第20号土壌が古い。

第19号土壌は、長軸が3.80m、短軸0.60m、深さ0.55mの不整形である。長軸の方位はN-



第171図 土壌出土遺物 (13)

第58表 土壌出土遺物観察表 (2) (第171図)

番号	種別	器種	口径 幅	器高 長さ	底径 厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	国版
1	土製品	ミニチュア	1.1	4.2	1.2	8.7	—	良好	浅黄橙	SK1	京都信楽系 御神酒徳利 二枚型 中空	
2	陶器	亀	[2.5]	2.9	1.4	6.5	K	良好	黒楊	SK1	土瓶蓋か 絞肌軸	101-2
3	磁器	人形	4.0	2.5	2.7	14.8	K	良好	灰白	SK1	No.298 瀬戸美濃系 大 中空	101-3
4	土製品	泥面子	2.3	1.0	—	6.4	K	良好	明楊	SK1	江戸在地系 保付着 一枚型 中 実 雲母付着	101-4
5	土製品	ミニチュア	2.7	1.3	—	4.4	HK	良好	浅黄橙	SK1	江戸在地系 蓋 白土掛け 施軸 保付着	101-5
6	土製品	恵比寿	—	[7.0]	1.5	95.8	HK	普通	にぶい橙	SK5	土師質 二枚型 中空	
7	磁器	人形	2.5	4.9	3.2	29.7	IK	良好	灰白	SK9	瀬戸美濃系 施軸 色絵 二枚型 中実 這子	101-6
8	骨	歯ブラシ	0.6	16.9	0.6	3.9	—	—	—	SK9		102-4

71° - Eである。断面形は鍋底形である。

第20号土壌は、確認できた長軸1.75m、短軸0.90m、深さ0.50mで、西側は調査区域外であるが、平面形は隅丸長方形と考えられる。長軸の方位はN-68° - Eである。断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。

両土壌の覆土は、第19号土壌が灰黄色砂、第20号土壌が砂質の青灰色土、炭化物和焼土ブロック主体の青黒色土で、単層の砂や大型のブロックを含み、埋め戻しの可能性がある。

第21号土壌 (第158図)

第4地点北側北西端のH8-B3グリッドに位置する。確認できた長軸は2.20m、短軸は1.26m、

深さは0.40mである。西側は調査区域外のため、平面形は不明である。長軸の方位はN-72° - Eである。断面形は皿形で、覆土はシルトブロックやブロック状の砂が混じるなど埋め戻しの可能性がある。

以上の土壌の築造時期は、陶磁器、土器の様相から19世紀第1四半期を中心と考えられる。

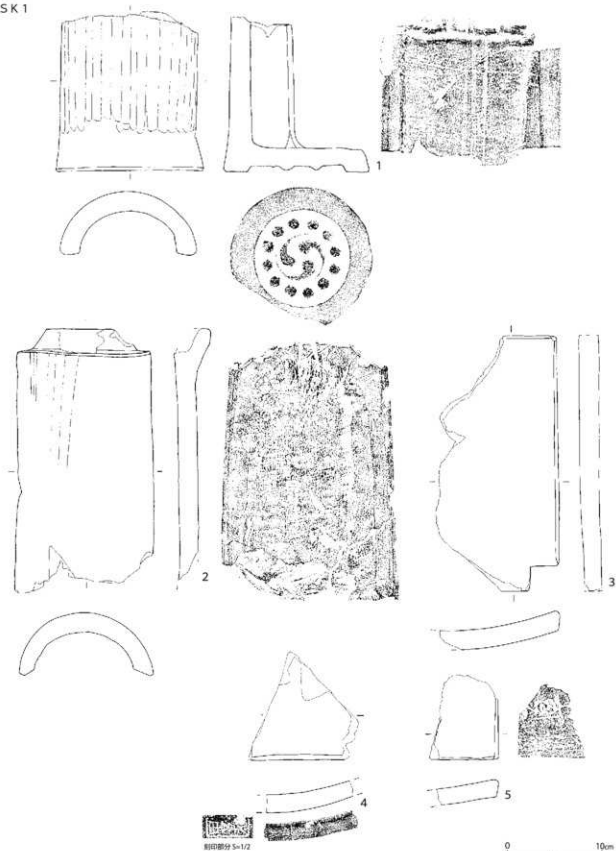
土壌出土遺物 (第159～189図)

土壌からは、陶磁器、土器、瓦、木製品、鉄製品といった多様な遺物が出土した。

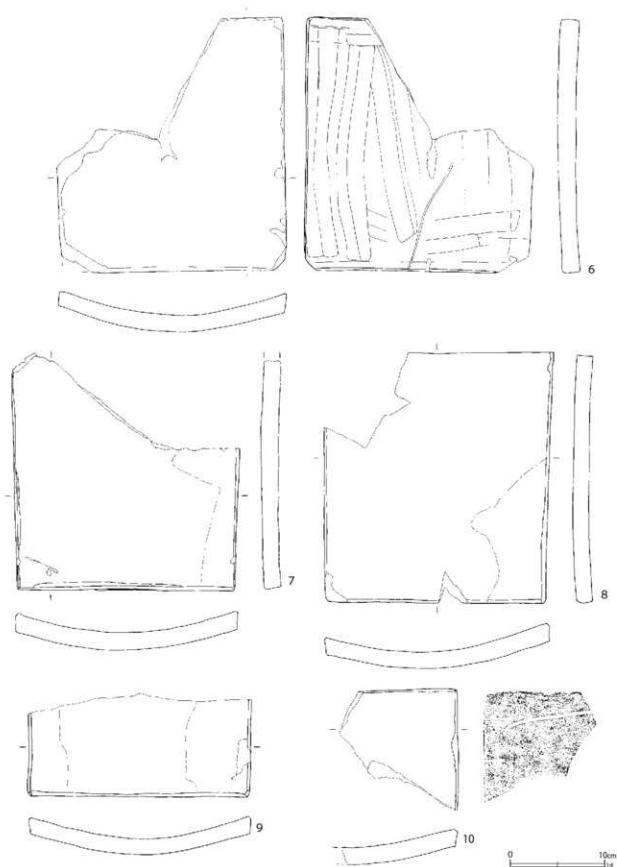
第159～170図は陶磁器、土器である。

第1号土壌出土遺物は、被熱し、煤が付着して

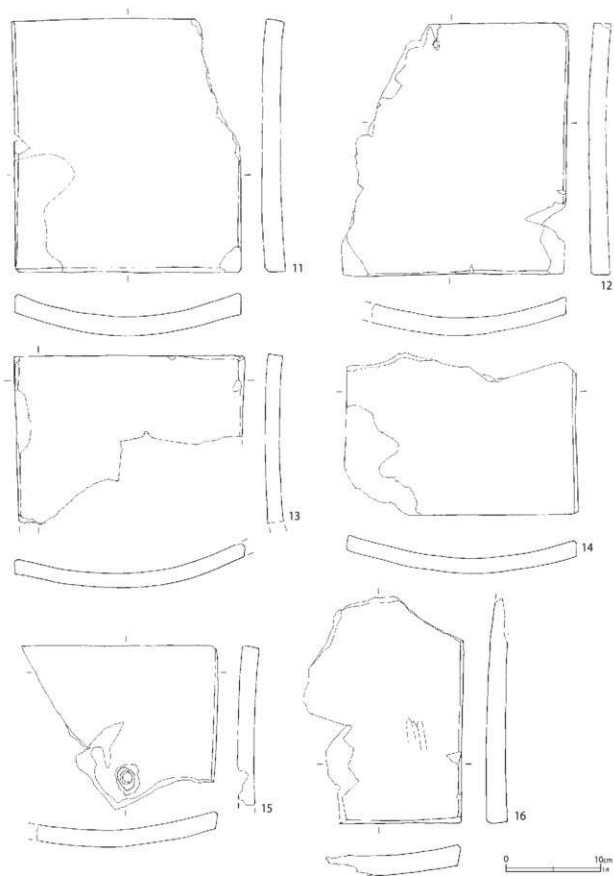
SK1



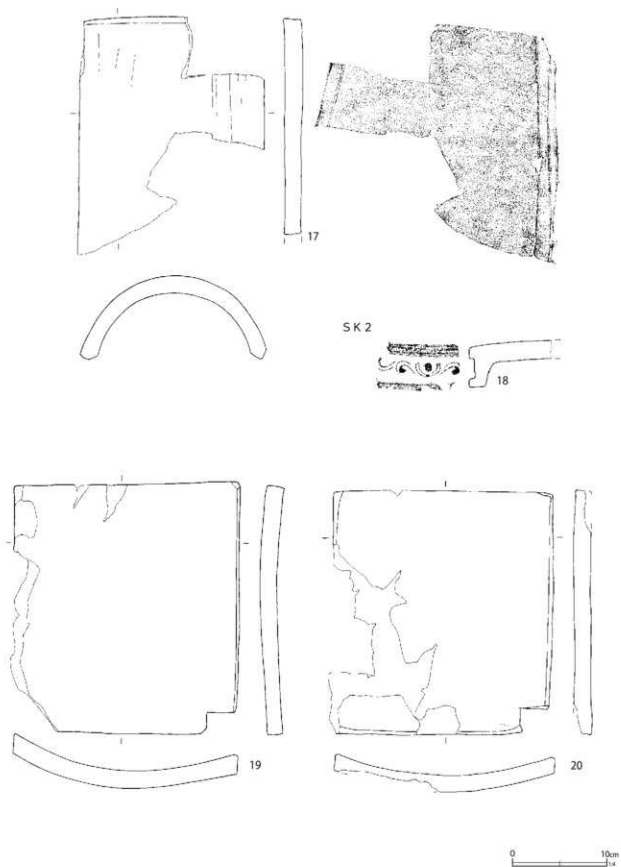
第172図 土城出土遺物 (14)



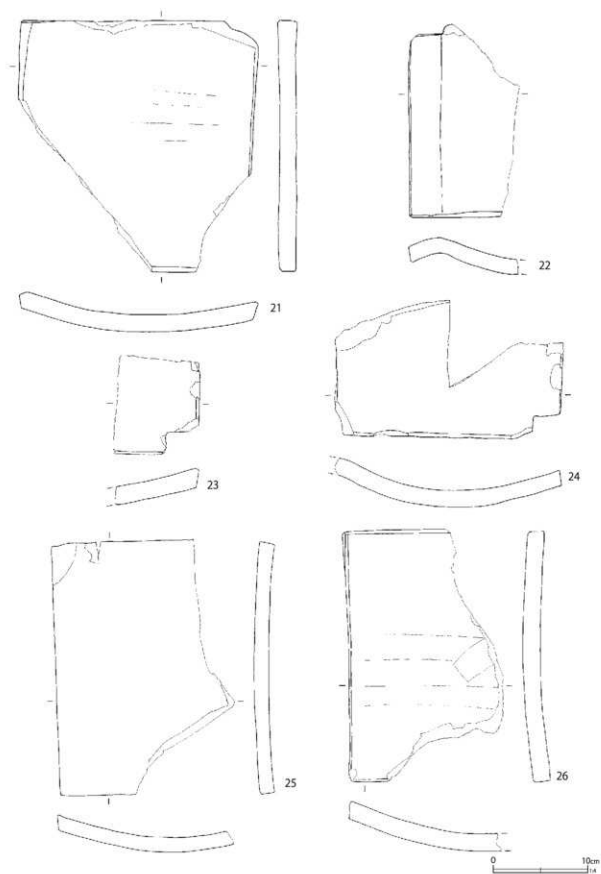
第173図 土壙出土遺物 (15)



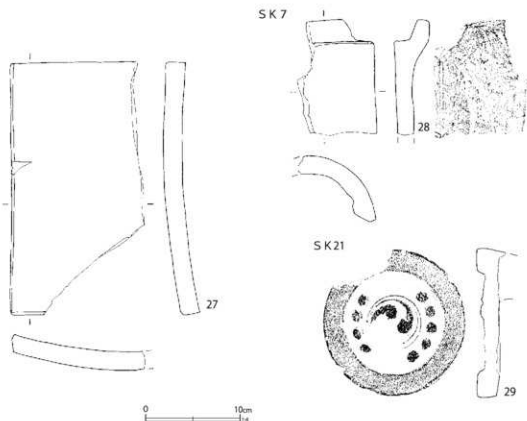
第174図 土城出土遺物 (16)



第175図 土壇出土遺物 (17)



第176図 土城出土遺物 (18)



第177図 土壙出土遺物 (19)

いるものや発泡しているものが多い。火災後の片付けによると考えられる。

出土磁器は、肥前系、瀬戸美濃系が半ばしている。肥前系磁器は、筒形碗、広東碗、丸碗、皿、鉢、燗徳利、蓋、段重、水滴、蓋物がある。組成には典型的な端反碗が含まれず、初期の広東碗を含む。瀬戸美濃系磁器には筒形碗、広東碗、丸碗、端反碗、坏、瓶、蓋がある。特に坏が多い。

陶器は瀬戸美濃系、京都信楽系によって占められる。瀬戸美濃系の皿、灯明皿、油受皿、甕、蓋、乗燗、餌入れが見られる。灯明皿、油受皿は灰釉と柿釉である。

70・72・73の甕は柿釉、漆黒釉流し掛け、73は底面に墨書されている。なお、73は地方民窯系である。71は灰釉に波状文が施されている。いずれの内面にも、トチン等と考えられる窯道具の剥離痕が見られる。

京都信楽系には、香炉、坏、燗徳利、灯明皿、油受皿、水注が見られる。いずれも鉄釉や灰釉が施されている。52の燗徳利は鉄絵が施され、底面に墨書「橋本氏」が見られる。

68と69の櫛鉢はいずれも堺明石系である。

産地不明の所謂民窯産と考えられるのは、土瓶、水注の蓋、急須の蓋、豆甕である。74の土瓶は灰釉が施され、イッチンにより菊が描かれている。85の豆甕は鉄釉が施され、内面にはらせん状のナデ痕が見られる。

土器には、火鉢、焙烙、埴塙、五徳、目皿がある。いずれも産地不明である。88の火鉢には、トビガンナが施されている。91の焙烙は、口縁の上部に耳が貼付されている。92は内面に指頭痕が多く残る。火鉢、焙烙には角閃石を含むものも見られ、利根川流域の粘土を用いた地元における生産も考えられる。

第59表 土壇出土遺物観察表(3)(第172～177図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒丸瓦	[16.7]	—	2.1	—	15.5	AC	普通	暗灰	SK1	連珠三ッ巴左巻き12珠 巴頭大・巴尾太く長い 巴はやや離れ 表面布目 中央に横骨痕 側縁はヘラ切り 光沢あり	102-7
2	瓦	丸瓦	[26.7]	[14.3]	2.0	—	—	AK	普通	暗灰	SK1	内面罫目	103-1
3	瓦	棧瓦	26.9	[12.9]	2.0	—	—	J	普通	暗灰	SK1	Na324 裏面荒れている 欠き込みあり 光沢あり	
4	瓦	棧瓦	[11.4]	[10.5]	1.9	—	—	AIK	普通	灰	SK1	刻印 光沢あり ヘラ沈線あり 裏面荒れている	103-2
5	瓦	平瓦	[8.8]	[7.2]	1.8	—	—	IK	普通	暗灰	SK1	Na306 裏面荒れている 記号か	103-3
6	瓦	平瓦	26.7	24.0	1.8	—	—	AI	普通	灰	SK1	表面 被熱 煤付着 裏面荒れている	103-4
7	瓦	平瓦	[24.9]	23.6	1.9	—	—	ACJ	普通	オリーブ黒	SK1	Na87 被熱 裏面荒れている砂目 煤付着	103-5
8	瓦	平瓦	26.4	23.5	1.7	—	—	AIJK	普通	灰	SK1	Na129 被熱 裏面荒れている砂目	104-1
9	瓦	平瓦	[10.9]	23.6	1.6	—	—	AJK	普通	灰	SK1	被熱 裏面津映残る	
10	瓦	平瓦	[12.7]	[12.4]	1.8	—	—	AIK	普通	灰	SK1	裏面ヘラ描き 荒れている	104-2
11	瓦	平瓦	26.6	23.8	2.0	—	—	AIK	普通	灰	SK1	Na326・328・332 被熱 荒れている	104-3
12	瓦	平瓦	26.4	[23.4]	1.8	—	—	AIK	普通	黄灰	SK1	Na274 表面ナゲ 裏面荒れている	104-4
13	瓦	平瓦	[17.7]	24.3	1.5	—	—	AIK	普通	灰	SK1	Na82 裏面荒れている 裏面沈線あり 被熱	
14	瓦	平瓦	[17.3]	24.5	1.5	—	—	AC1	普通	灰	SK1	Na115 砂質 裏面荒れている	
15	瓦	平瓦	[17.2]	[20.3]	1.8	—	—	AIK	普通	灰	SK1	裏面荒れている 煤付着 補修孔貫通していない 外径2.5cm内径1.3～3.1cm	
16	瓦	平瓦	[23.8]	[16.8]	2.1	—	—	A	普通	暗灰	SK1	やや光沢あり 裏面荒れている	
17	瓦	蒲貝瓦	25.1	19.6	1.6	—	19.5	AIK	普通	にぶい褐	SK1	冠瓦 赤変箇所あり 2次加熱か 裏面砂目荒れている	104-5
18	瓦	軒棧瓦	—	—	1.9	[4.2]	—	ACJK	普通	灰	SK2	江戸式A類中心飾りIV2類 裏面荒れている	104-6
19	瓦	棧瓦	26.7	23.9	1.9	—	—	AIK	普通	灰	SK2	Na17・18・20 裏面荒れている 煤付着 切り込み	104-7
20	瓦	棧瓦	25.8	23.2	1.8	—	—	AIK	普通	灰	SK2	Na22 光沢あり	105-1
21	瓦	棧瓦	26.6	25.1	1.8	—	—	AIK	普通	灰	SK2	裏面砂目荒れている	105-2
22	瓦	棧瓦	[20.2]	[11.6]	1.7	—	—	AIK	普通	暗灰	SK2	Na51 光沢あり 裏面荒れている	
23	瓦	棧瓦	[10.3]	[8.8]	1.9	—	—	AIK	普通	暗灰	SK2	煤付着 表面光沢あり 裏面炭化物厚く付着	
24	瓦	棧瓦	[14.5]	[24.0]	1.7	—	—	AIK	普通	灰	SK2	Na38・55 裏面荒れている 光沢あり	
25	瓦	平瓦	26.8	[18.8]	1.5	—	—	AIK	普通	暗灰	SK2	Na83・84 裏面荒れている 表面と側縁のみ煤付着	
26	瓦	平瓦	26.5	[16.3]	1.8	—	—	A	普通	灰	SK2	裏面荒れている	
27	瓦	平瓦	26.6	[13.9]	1.8	—	—	AIK	普通	灰	SK2	火ぶくれあり 裏面荒れている	
28	瓦	丸瓦	[11.9]	[8.3]	1.8	—	—	IK	普通	灰	SK7	表面やや風化 裏面布目	
29	瓦	軒棧瓦	—	—	2.1	—	15.3	AIK	普通	灰	SK21	連珠三ッ巴文左巻き14珠 巴頭部大きめ 尾長い 圈線あり 明瞭 副縁広目	105-3

93・94の埴塼は、性格不明遺構出土の羽口に
対応するものと考えられる。強く被熱し、器面が
溶融し、発泡している。95の五徳は破片のため、
腕の数は不明である。96は内垂部に1周6箇の
径1cmの穴が施された埴炉である。97、99は埴

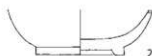
炉であり、被熱している。98は目皿である。

瀬戸美濃系磁器を含むが、その量比は小さい。
肥前系、瀬戸美濃系磁器とも端反碗、広東碗も少
量である。陶器にも民窯製品が少なく、土器には
植木鉢が含まれない。これらの点から、第1号土

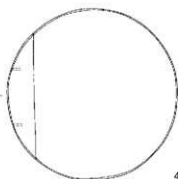
SK 1



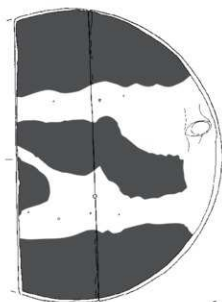
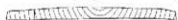
1



2



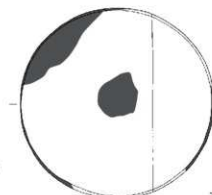
4



6



5



7



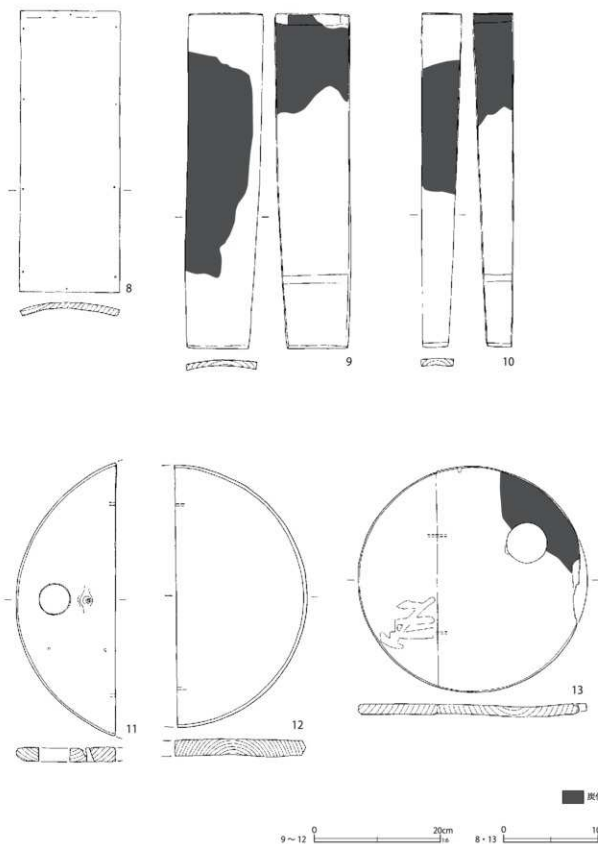
■ 炭化

3 ~ 5 : 7 0 10cm 1/16

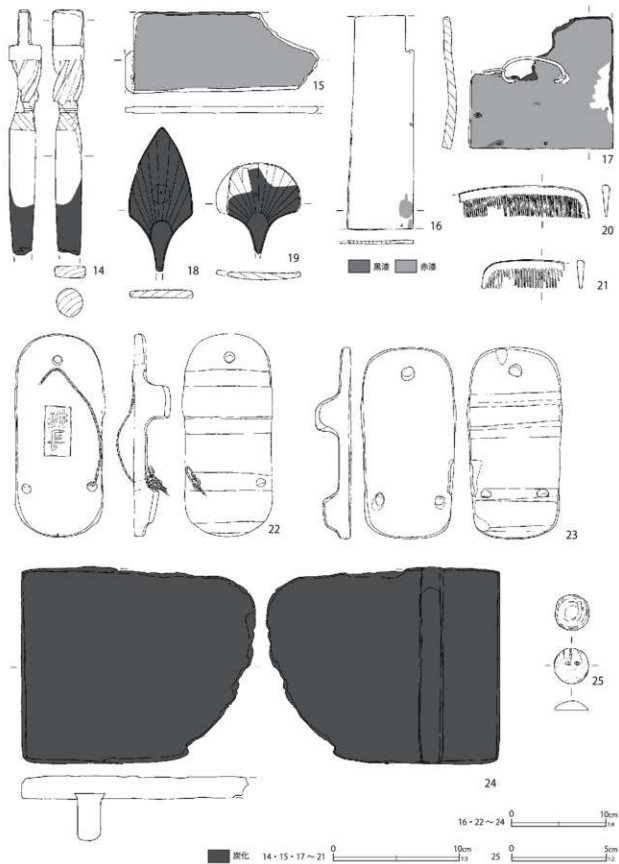
6 0 20cm 1/16

1 : 2 0 10cm 1/16

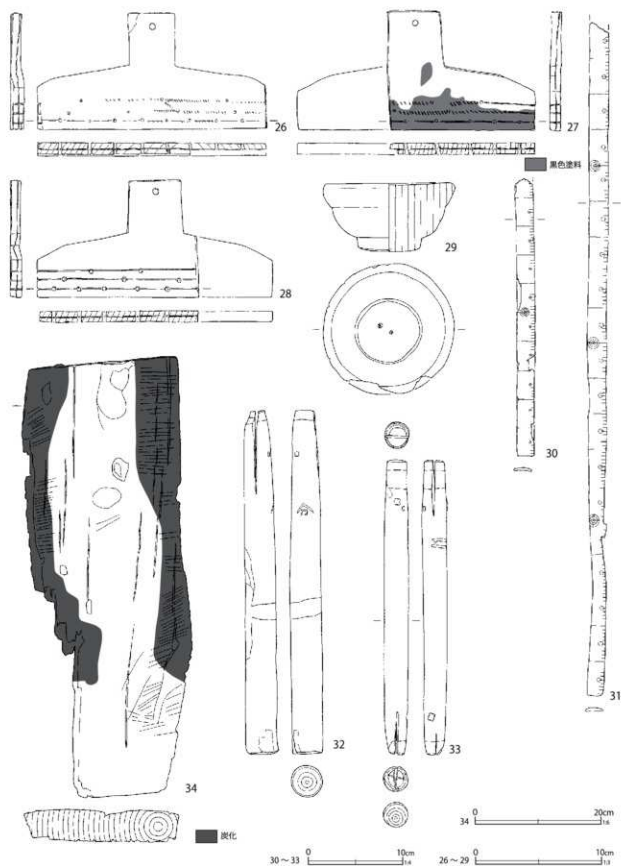
第178図 土坑出土遺物 (20)



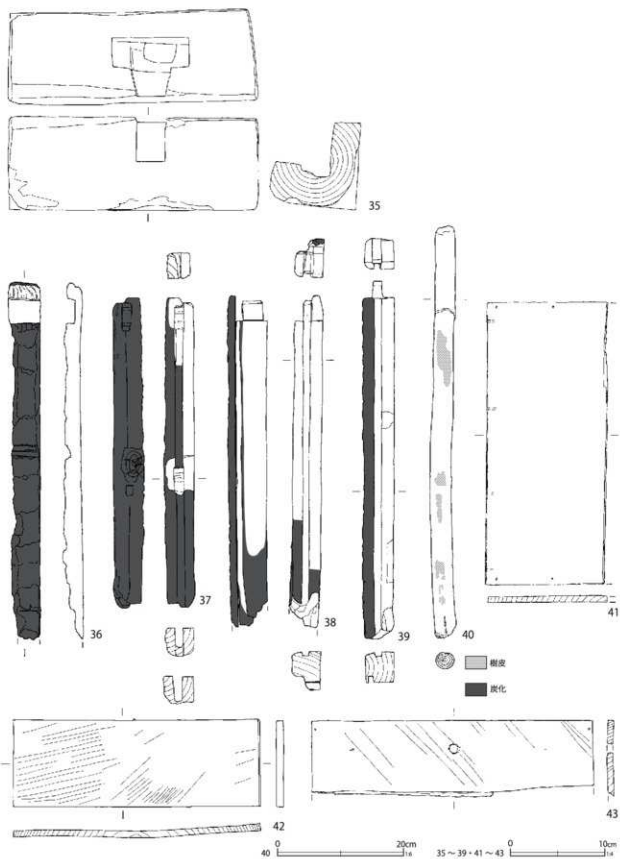
第179図 土坑出土遺物 (21)



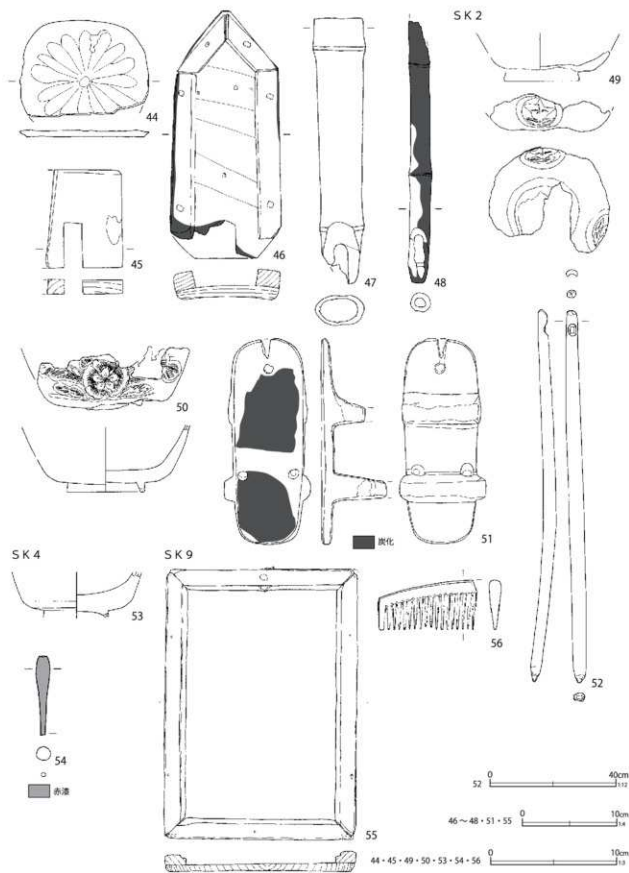
第180図 土坑出土遺物 (22)



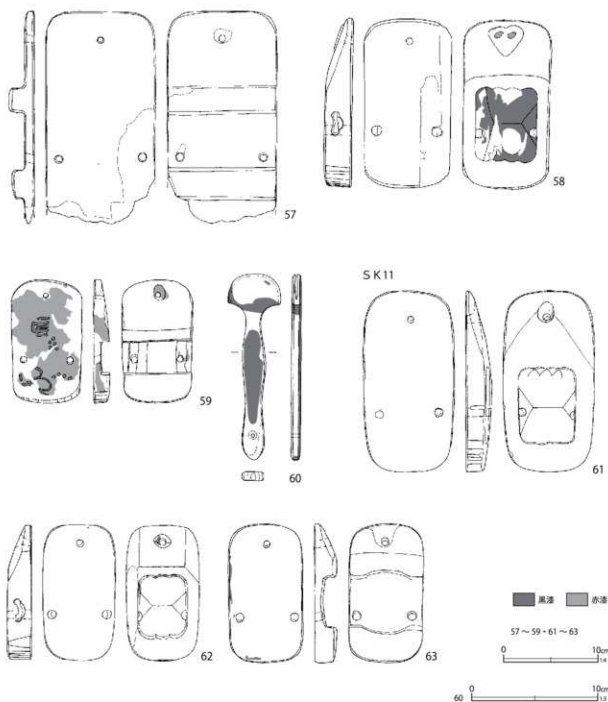
第181図 土坑出土遺物 (23)



第182図 土坑出土遺物 (24)



第183図 土城出土遺物 (25)



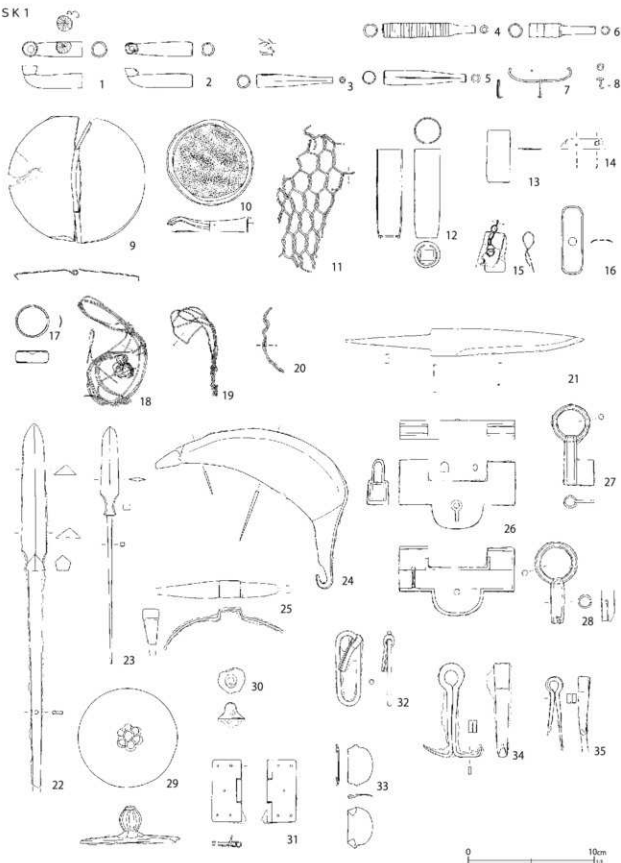
第184図 土壇出土遺物 (26)

第60表 土壇出土遺物観察表 (4) (第178～184図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径 / 径	高さ	底径	遺構	備考	図版
1	木製品	漆碗	—	—	—	(12.0)	5.3	6.8	SK1	内面赤漆 外面黒漆	106-3
2	木製品	漆碗	—	—	—	—	[3.6]	6.9	SK1	内面赤漆 外面黒漆	
3	木製品	曲物	35.1	(22.8)	—	—	—	7.4	SK1	Na289・217	
4	木製品	桶	—	—	1.2	18.0	—	—	SK1	Na356 蓋ないし底板 裏面炭化	
5	木製品	桶か	—	—	2.9	26.8	—	—	SK1	Na268 蓋ないし底板 上面有段 一部炭化	
6	木製品	桶	—	—	2.5	47.2	—	—	SK1	Na255 蓋ないし底板 炭化	
7	木製品	桶	—	—	1.1	20.5	—	—	SK1	Na286 蓋ないし底板 炭化	
8	木製品	不明	29.7	10.6	0.7	—	—	—	SK1	Na57 裏面炭化	

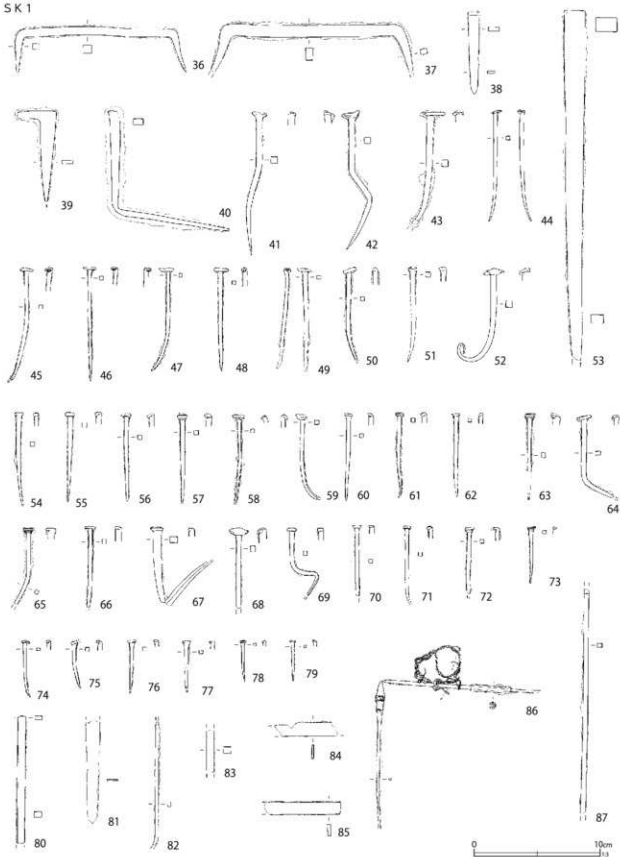
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	遺構	備考	図版
9	木製品	桶	52.8	11.8	1.1	—	—	—	SK1	No123 側板 炭化 10と同一個体	
10	木製品	桶	52.6	6.2	1.1	—	—	—	SK1	No124 側板 炭化 11と同一個体	
11	木製品	樽	[44.6]	[15.8]	2.3	—	—	—	SK1	No43 鉄釘残 裏面炭化	
12	木製品	桶	—	—	2.7	(42.0)	—	—	SK1	No58 蓋ないし底板	
13	木製品	樽	—	—	1.1	23.8	—	—	SK1	No134 蓋 孔径4.3cm 墨書 炭化	
14	木製品	不明品	[19.3]	2.5	2.2	—	—	—	SK1	No46 一部炭化	106-4
15	木製品	箱	[6.4]	[15.1]	0.5	—	—	—	SK1	側板上面赤漆 裏面・側面黒漆	
16	木製品	箱	22.7	[7.0]	0.3	—	—	—	SK1	No91 側板 表面赤漆	
17	木製品	引出し	[10.4]	11.4	0.7	—	—	—	SK1	赤漆 銅製金具 黒漆 表裏面炭化	106-5
18	木製品	神酒口	[11.3]	5.0	0.6	—	—	—	SK1	放射状に段 全面炭化	106-6
19	木製品	神酒口	[7.1]	(6.7)	0.5	—	—	—	SK1	放射状に段 炭化	106-7
20	木製品	櫛	[10.2]	2.6	0.5	—	—	—	SK1	—	
21	木製品	櫛	[6.4]	2.3	0.5	—	—	—	SK1	—	
22	木製品	下駄	21.4	9.6	—	—	3.9	—	SK1	No56 連歯下駄 焼印紺長 表面面に鉄釘	106-8
23	木製品	下駄	20.2	10.1	—	—	3.8	—	SK1	連歯下駄	
24	木製品	まな板	20.9	[24.9]	—	—	6.8	—	SK1	No204 全面炭化	
25	木製品	鉋	1.9	1.8	0.5	—	—	—	SK1	黒色塗料	
26	木製品	刷毛	9.2	18.2	1.0	—	—	—	SK1	紐留めの木釘残存	
27	木製品	刷毛	9.4	[11.7]	0.9	—	—	—	SK1	表裏面黒色塗料	107-1
28	木製品	刷毛	9.2	[12.8]	0.8	—	—	—	SK1	—	
29	木製品	木地か	—	—	—	10.2	5.5	4.8	SK1	No68 底面釘残存	107-2
30	木製品	ものさし	[29.3]	1.9	0.3	—	—	—	SK1	No74 目盛間隔3mm	107-3
31	木製品	ものさし	[71.7]	2.1	0.4	—	—	—	SK1	No391 竹製	
32	木製品	鎌	36.3	3.4	3.4	—	—	—	SK1	No376 柄 中央圧痕 鉄釘残存 刻印	107-4
33	木製品	柄	31.2	2.6	2.6	—	—	—	SK1	No386 上下切り込み 固定釘残存	107-5
34	木製品	板材	69.6	25.1	5.7	—	—	—	SK1	No371 炭化	
35	木製品	桁材	26.5	9.8	4.1	—	9.9	—	SK1	No195	
36	木製品	枠材	[37.7]	3.4	1.9	—	—	—	SK1	No347 炭化	
37	木製品	枠材	[32.6]	3.2	2.9	—	—	—	SK1	No266 炭化	
38	木製品	枠材	[35.1]	3.0	4.0	—	—	—	SK1	No275 炭化	
39	木製品	枠材	[37.7]	3.1	3.2	—	—	—	SK1	No266 炭化	
40	木製品	棒	65.7	—	—	3.2	—	—	SK1	No235	
41	木製品	板材	29.8	[12.7]	0.6	—	—	—	SK1	No62	
42	木製品	板材	9.1	26.0	0.7	—	—	—	SK1	No70	
43	木製品	板材	[8.0]	29.7	0.6	—	—	—	SK1	No71 孔径0.9cm	
44	木製品	不明品	[7.6]	10.2	0.5	—	—	—	SK1	No177 花文様の削り込み	107-6
45	木製品	不明品	7.7	[6.2]	1.2	—	—	—	SK1	—	
46	木製品	不明品	(26.2)	11.7	—	—	3.0	—	SK1	No384 鉄釘で枠木を固定 裏面全体炭化	107-7
47	木製品	不明品	[28.2]	5.6	3.2	—	—	—	SK1	No375 竹製	
48	木製品	不明品	[27.7]	2.5	2.0	—	—	—	SK1	No382 竹製 炭化 側面に丸い孔	
49	木製品	漆桶	—	—	—	—	[1.5]	—	SK2	No67 内面赤漆 外面黒に赤漆で家紋	
50	木製品	漆桶	—	—	—	—	[5.0]	—	SK2	内外面黒漆 文様朱色	
51	木製品	下駄	21.6	9.1	—	—	[7.0]	—	SK2	No73 連歯下駄 炭化	
52	木製品	天秤棒	119.2	4.8	—	—	—	—	SK2	No25	
53	木製品	漆桶	—	—	—	—	[3.6]	—	SK4	内外面黒漆	
54	木製品	浮子	6.3	—	—	1.2	—	—	SK4	赤漆	
55	木製品	額縁	28.8	20.3	—	—	2.1	—	SK9	鉄釘残存	107-8
56	木製品	櫛	[7.8]	3.9	1.0	—	—	—	SK9	—	107-9
57	木製品	下駄	[22.3]	11.6	—	—	2.7	—	SK9	連歯下駄 一部赤漆残存	
58	木製品	下駄	17.8	9.2	—	—	2.9	—	SK9	削り下駄 朱漆 黒漆 裏面前蓋内赤漆の上に金属	108-1
59	木製品	下駄	13.1	7.6	—	—	1.8	—	SK9	削り下駄 表裏側面赤漆 表裏で文様	108-2
60	木製品	団扇	14.7	4.2	0.7	—	—	—	SK9	黒漆 全体炭化	108-3
61	木製品	下駄	19.1	9.6	—	—	2.7	—	SK11	削り下駄 裏面一部赤漆	
62	木製品	下駄	14.3	7.7	—	—	2.6	—	SK11	削り下駄 黒漆の上に朱漆 両側側面透彫	
63	木製品	下駄	14.7	7.9	—	—	2.4	—	SK11	削り下駄 表面一部赤漆	

SK1

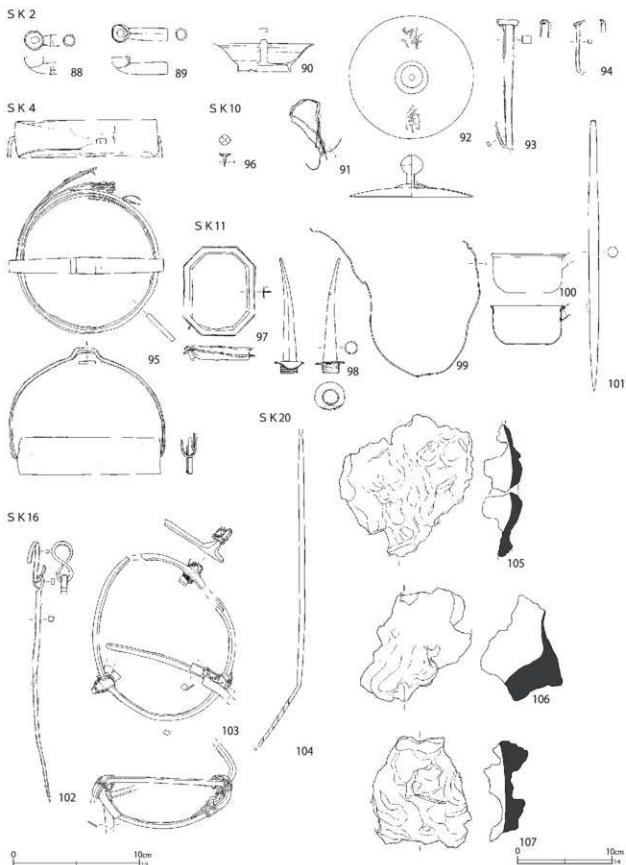


第185図 土坑出土遺物 (27)

SK 1



第186図 土墳出土遺物 (28)



第187図 土坑出土遺物 (29)

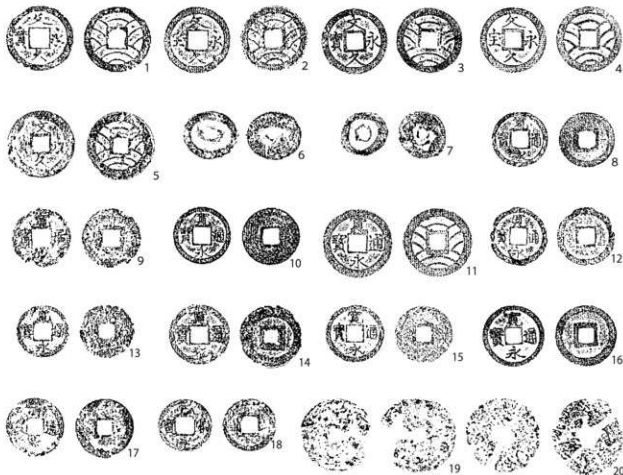
第61表 土壇出土遺物観察表(5)(第185～187図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	煙管	長さ4.7 火皿縦1.1 火皿横1.2 小口径1.2 重さ10.5	SK1	Na9 雁首 菊印	
2	銅製品	煙管	長さ5.3 火皿縦0.9 火皿横1.1 小口径1.0 重さ10.9	SK1	Na5 雁首	
3	銅製品	煙管	長さ6.0 口付縦0.5 口付横0.4 小口径1.0 重さ9.3	SK1	Na2 吸口 鳥に草	
4	銅製品	煙管	長さ7.2 口付縦0.6 小口径1.1 重さ14.8	SK1	吸口	
5	銅製品	煙管	長さ5.2 口付縦0.6 小口径1.1 重さ6.7	SK1	Na296 吸口	
6	銅製品	煙管	長さ6.5 口付縦0.7 小口径1.0 重さ12.8	SK1	Na16 吸口	
7	銅製品	把手	縦2.4 横5.0 厚さ0.1 重さ1.2	SK1		
8	銅製品	紙	長さ0.9 幅0.1 厚さ0.1 重さ0.2	SK1	Na96	
9	銅製品	蓋	縦10.1 横10.8 厚さ0.025 重さ44.9	SK1		109-1
10	銅製品	携引手	径6.8 厚さ1.2 重さ18.5	SK1	花蝶文陰刻	109-2
11	銅製品	金網	縦11.6 横6.1 厚さ0.1 重さ8.1	SK1	Na393	
12	銅製品	不明	長さ7.1 幅2.0 厚さ0.03 重さ17.6	SK1	Na291	
13	銅製品	不明	長さ4.1 幅1.8 厚さ0.03 重さ2.1	SK1		
14	銅製品	飾金具	縦0.8 横[3.3] 厚さ0.03 重さ0.4	SK1		
15	銅製品	不明	縦4.2 横2.3 厚さ0.025 重さ4.0	SK1		
16	銅製品	不明	縦5.4 横1.7 厚さ0.025 重さ4.5	SK1		
17	銅製品	不明	径2.6 幅0.9 厚さ0.05 重さ2.8	SK1		
18	銅製品	針金	縦8.9 横5.5 厚さ0.1 重さ4.5	SK1		
19	銅製品	針金	縦7.1 横3.7 厚さ0.1 重さ2.1	SK1		
20	銅製品	針金	縦5.1 横1.7 厚さ0.1 重さ1.0	SK1	Na412	
21	鉄製品	刀子	長さ[18.0] 刃長9.7 刃幅1.8 背幅0.2 重さ31.1	SK1	Na173	110-2
22	鉄製品	槍先	全長[28.9] 刃長10.2 刃幅2.0 厚さ0.8 頸部長1.5 茎長17.2 重さ107.5	SK1	Na35	109-3
23	鉄製品	鐔	全長18.8 鍔身長5.3 幅1.4 厚さ0.4 頸部長1.7 茎長11.8 重さ17.3	SK1		109-4
24	鉄製品	鐔	長さ15.2 刀幅4.1 背幅0.2 重さ55.9	SK1	Na120	110-2
25	鉄製品	提灯金具	縦[1.5] 横[0.1] 高さ2.9 厚さ0.2 重さ10.7	SK1		
26	鉄製品	錠前	長さ5.5 幅0.2 厚さ1.7 重さ97.3	SK1	Na299	109-6
27	鉄製品	錠	長さ6.4 重さ10.9	SK1	Na156	109-6
28	鉄製品	錠	長さ6.5 重さ10.7	SK1	Na172	109-6
29	鉄製品	蓋	径7.8 高さ3.0 厚さ0.2 重さ137.7	SK1		109-5
30	鉄製品	つまみ	縦2.1 横2.2 厚さ2.0 重さ8.0	SK1	Na422	
31	鉄製品	螺番	長さ4.9 幅2.3 厚さ0.05 重さ13.8	SK1		
32	鉄製品	吊金具	縦6.0 横2.1 厚さ0.3 重さ11.7	SK1		
33	鉄製品	幣金具	縦3.3 横2.0 厚さ0.1 重さ1.9	SK1		
34	鉄製品	環釘	長さ7.4 幅0.6 厚さ1.0 重さ38.7	SK1	Na224	
35	鉄製品	環釘	長さ[5.7] 幅0.9 厚さ0.3 重さ10.4	SK1	Na15	
36	鉄製品	錠	長さ13.4 幅0.7 厚さ0.7 重さ47.2	SK1		
37	鉄製品	錠	長さ[16.0] 幅0.6 厚さ1.0 重さ63.2	SK1	Na23	
38	鉄製品	楔	長さ[6.6] 幅0.9 厚さ0.3 重さ5.2	SK1		
39	鉄製品	釘	長さ[7.2] 幅0.9 厚さ0.3 重さ17.1	SK1		
40	鉄製品	釘	長さ9.7 幅0.8 厚さ0.5 重さ47.4	SK1		
41	鉄製品	釘	長さ[11.1] 幅0.5 厚さ0.5 重さ11.6	SK1		
42	鉄製品	釘	長さ[10.7] 幅0.5 厚さ0.5 重さ13.5	SK1		
43	鉄製品	釘	長さ[8.9] 幅0.5 厚さ0.5 重さ16.1	SK1		
44	鉄製品	釘	長さ8.8 幅0.3 厚さ0.3 重さ4.1	SK1		
45	鉄製品	釘	長さ[8.9] 幅0.3 厚さ0.3 重さ4.4	SK1		
46	鉄製品	釘	長さ9.1 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.8	SK1		
47	鉄製品	釘	長さ[8.1] 幅0.25 厚さ0.3 重さ4.6	SK1		
48	鉄製品	釘	長さ[8.0] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.7	SK1		
49	鉄製品	釘	長さ[8.0] 幅0.35 厚さ0.3 重さ4.0	SK1		
50	鉄製品	釘	長さ[7.3] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.9	SK1		

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
51	鉄製品	釘	長さ7.5 幅0.4 厚さ0.4 重さ3.2	SK1		
52	鉄製品	釘	長さ[7.4] 幅0.5 厚さ0.5 重さ12.9	SK1		
53	鉄製品	楔	長さ[27.7] 幅1.7 厚さ1.1 重さ197.0	SK1		
54	鉄製品	釘	長さ[7.2] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.8	SK1		
55	鉄製品	釘	長さ7.1 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.2	SK1		
56	鉄製品	釘	長さ7.0 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.1	SK1		
57	鉄製品	釘	長さ7.1 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.0	SK1		
58	鉄製品	釘	長さ[6.9] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.4	SK1		
59	鉄製品	釘	長さ[6.7] 幅0.4 厚さ0.3 重さ2.2	SK1		
60	鉄製品	釘	長さ7.0 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.0	SK1		
61	鉄製品	釘	長さ[6.6] 幅0.3 厚さ0.4 重さ3.3	SK1		
62	鉄製品	釘	長さ[6.7] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.8	SK1		
63	鉄製品	釘	長さ[6.3] 幅0.3 厚さ0.4 重さ4.5	SK1		
64	鉄製品	釘	長さ[6.6] 幅0.4 厚さ0.3 重さ4.1	SK1		
65	鉄製品	釘	長さ[6.0] 幅0.3 厚さ0.3 重さ4.6	SK1		
66	鉄製品	釘	長さ[6.4] 幅0.3 厚さ0.4 重さ3.5	SK1		
67	鉄製品	釘	長さ[6.2] 幅0.6 厚さ0.5 重さ11.7	SK1		
68	鉄製品	釘	長さ[6.4] 幅0.4 厚さ0.5 重さ7.6	SK1		
69	鉄製品	釘	長さ[5.4] 幅0.3 厚さ0.4 重さ4.2	SK1		
70	鉄製品	釘	長さ[5.6] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.2	SK1		
71	鉄製品	釘	長さ[5.9] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.0	SK1		
72	鉄製品	釘	長さ[5.3] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.9	SK1		
73	鉄製品	釘	長さ[4.5] 幅0.3 厚さ0.3 重さ1.2	SK1		
74	鉄製品	釘	長さ[4.4] 幅0.3 厚さ0.2 重さ1.4	SK1		
75	鉄製品	釘	長さ[3.6] 幅0.3 厚さ0.3 重さ1.1	SK1		
76	鉄製品	釘	長さ[4.0] 幅0.3 厚さ0.3 重さ1.1	SK1		
77	鉄製品	釘	長さ[3.8] 幅0.3 厚さ0.3 重さ1.1	SK1		
78	鉄製品	釘	長さ[3.1] 幅0.2 厚さ0.2 重さ0.5	SK1		
79	鉄製品	釘	長さ3.2 幅0.2 厚さ0.2 重さ0.6	SK1		
80	鉄製品	不明	長さ[10.1] 幅0.6 厚さ0.4 重さ15.4	SK1		
81	鉄製品	不明	長さ[8.1] 幅0.9 厚さ0.1 重さ4.1	SK1		
82	鉄製品	不明	長さ[9.9] 幅0.3 厚さ0.4 重さ6.3	SK1		
83	鉄製品	不明	長さ[3.3] 幅0.6 厚さ0.5 重さ1.8	SK1		
84	鉄製品	不明	縦5.1 横1.1 厚さ0.15 重さ2.5	SK1		
85	鉄製品	小柄	長さ[6.0] 幅1.0 厚さ0.3 重さ10.9	SK1	柄	
86	銅製品	不明	縦14.1 横12.4 厚さ0.2 重さ13.2	SK1	No.290	
87	鉄製品	不明	長さ[17.7] 幅0.4 厚さ0.3 重さ11.4	SK1	No.226	
88	銅製品	煙管	長さ[2.4] 火皿径1.5 小口径0.9 重さ3.6	SK2	煙首	
89	銅製品	煙管	長さ4.9 火皿径1.6 火皿横1.5 小口縦1.0 小口横1.1 重さ9.8	SK2	煙首	
90	銅製品	燭台	口径8.0 器高2.6 底径4.1 重さ68.7	SK2		109-7
91	銅製品	針金	縦5.6 横4.1 厚さ0.05 重さ0.7	SK2		
92	銅製品	蓋	高さ3.4 径9.8 厚さ0.05 重さ57.3	SK2	「松」「角」	109-8
93	鉄製品	釘	長さ10.3 幅0.6 厚さ0.6 重さ19.6	SK2		
94	鉄製品	釘	長さ[4.2] 幅0.25 厚さ0.25 重さ2.0	SK2		
95	鉄製品	提灯	本体 縦10.0 横12.3 重さ31.8 金具部分 縦8.8 横12.3 幅1.3 厚さ0.2 木質部分 径11.4 幅2.9 厚さ0.4	SK4		
96	銅製品	飾新	長さ1.0 幅0.1 厚さ0.1 重さ0.3	SK10		
97	銅製品	換引手	縦7.1 横5.7 厚さ1.0 重さ12.0	SK11		
98	銅製品	不明	長さ9.1 幅1.0 厚さ0.05 重さ6.4	SK11		
99	銅製品	針金	縦11.8 横13.4 厚さ0.8 重さ1.3	SK11		
100	鉄製品	柄杓	口径5.8 高さ3.1 厚さ0.025 重さ16.6	SK11		

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
101	鉄製品	不明	長さ [21.2] 厚さ0.8 重さ48.4	SK11		
102	鉄製品	火箸	長さ [20.3] 幅0.3 厚さ0.3 重さ12.0	SK16		110-2
103	鉄製品	五徳	高さ6.7 幅11.4 厚さ0.4 重さ66.8	SK16		
104	鉄製品	火箸	長さ [24.7] 厚さ0.5 重さ15.0	SK20		
105	炉壁	炉壁	長さ [15.1] 幅 [14.1] 厚さ4.0 重さ556.1	SK20		110-3
106	炉壁	炉壁	長さ [12.0] 幅11.7 厚さ8.2 重さ407.4	SK20		
107	炉壁	炉壁	長さ11.9 幅10.5 厚さ2.5 重さ233.0	SK20		110-3

SK 1



SK 2



SK 16



第62表 土壌出土遺物観察表(6)(第188図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径26.54 厚さ1.35 重さ4.1	SK1	文久永寶	111-2
2	銅製品	銭貨	径27.16 厚さ1.17 重さ3.2	SK1	文久永寶	111-2
3	銅製品	銭貨	径26.41 厚さ1.18 重さ3.0	SK1	文久永寶	111-2
4	銅製品	銭貨	径26.24 厚さ1.03 重さ3.1	SK1	文久永寶	111-2
5	銅製品	銭貨	径27.31 厚さ1.06 重さ3.8	SK1	文久永寶	111-2
6	銅製品	銭貨	径(20.37) 厚さ2.02 重さ2.8	SK1	應首銭(近世)	
7	銅製品	銭貨	径18.73 厚さ2.12 重さ3.0	SK1	應首銭(近世)	
8	銅製品	銭貨	径22.41 厚さ1.05 重さ2.3	SK1	寛永通寶	111-2
9	銅製品	銭貨	径(24.06) 厚さ1.74 重さ2.0	SK1	寛永通寶	
10	銅製品	銭貨	径23.42 厚さ1.30 重さ2.7	SK1	寛永通寶(新)	111-2
11	銅製品	銭貨	径(28.08) 厚さ1.21 重さ4.9	SK1	寛永通寶(四文銭)	111-2
12	銅製品	銭貨	径(23.61) 厚さ0.80 重さ1.1	SK1	寛永通寶(新)	111-2
13	銅製品	銭貨	径21.56 厚さ1.71 重さ2.1	SK1	寛永通寶 鉄一文銭	111-2
14	銅製品	銭貨	径24.54 厚さ1.77 重さ2.8	SK1	寛永通寶(古)	111-2
15	銅製品	銭貨	径23.70 厚さ1.28 重さ2.3	SK1	寛永通寶(新)	111-2
16	銅製品	銭貨	径24.74 厚さ1.14 重さ2.6	SK1	寛永通寶(新)	111-2
17	銅製品	銭貨	径(23.91) 厚さ1.16 重さ1.6	SK1	□口通口	111-2
18	銅製品	銭貨	径21.46 厚さ1.13 重さ1.5	SK1	□永通寶	111-2
19	銅製品	銭貨	径(30.00) 厚さ(1.10) 重さ4.5	SK1	不明	
20	銅製品	銭貨	径(30.00) 厚さ(1.10) 重さ2.3	SK1	不明	
21	銅製品	銭貨	径(23.00) 厚さ(1.10) 重さ2.3	SK1	不明	
22	銅製品	銭貨	径22.19 厚さ1.10 重さ1.6	SK2	寛永通寶(新)	111-2
23	銅製品	銭貨	径24.59 厚さ1.22 重さ2.9	SK2	寛永通寶(新)	111-2
24	銅製品	銭貨	径(23.00) 厚さ1.64 重さ1.7	SK2	□永口□	
25	銅製品	銭貨	径23.75 厚さ1.33 重さ3.0	SK16	寛永通寶(新)	111-2

墳の時期は19世紀第1四半期と考えておきたい。

第2号土壌出土遺物は、陶磁器が少なく、土器が多い。

磁器は、105を除き肥前系である。100は筒形碗、101は丸碗である。103・104は揃いである。105は瀬戸美濃系の丸碗の蓋である。酸化コバルト染付が施されている。105を除きやや古い印象を受ける。

106～110・112～118は陶器である。106～109は絵付けが施された丸碗である。109・110は京都信楽系の碗である。111は肥前系の坏である。106～108・112～115・117・118は瀬戸美濃系である。106～108・112は灰釉、113～115は柿釉、116・117は鉄釉が施され、118は柿釉・灰釉流し掛けの甕である。118の底面には「一七〇〇」と墨書が見られる。

116は益子系の挿鉢である。

土器には、火鉢、焙烙がある。いずれも産地不明である。119～123は焙烙である。120を除き、平底で内耳が付く。119は変則的な位置に3箇所の内耳が取り付けられている。124は脚付火鉢の脚部で、穿孔、波状文が施されている。125～128は丸火鉢である。126・127は口縁・体部中にそれぞれケズリ、ミガキが施されている。

火鉢、焙烙には角閃石を含むものも見られ、利根川流域の粘土を用いた地元における生産も考えられる。

第2号土壌の時期は、磁器がほぼ肥前系によって占められ、端反碗、広東碗を含まず、陶器に民窯製品が少ないことなどから、18世紀に遡る可能性もある。

第171図は土製品である。1は京都信楽系の御

神酒徳利のミニチュアである。2は亀形で土瓶の蓋と思われる。鮫肌軸が施されている。5は蓋のミニチュアである。江戸在地系で白土掛けである。8は骨製の歯ブラシである。

第172～177図は瓦である。被熱し、煤が付着しているものや発泡しているものが多い。火災後の片付けによると考えられる。1・29は、左巻きの連珠三つ巴文が施された軒丸瓦である。尾が極端に長いのが特徴的である。29には園線が見られる。4は「田宮瓦」の刻印が施されている。5は裏面が荒れている。6はナデ痕が明瞭である。10はヘラ描きが施されている。15は貫通していないが、中央に穿孔されている。17は冠瓦である。18は中心飾りが単一で、円形である。

第178～184図は木製品である。桶や廃棄された建築部材等も多く見られたが用途不明の破片が多い。桶はほとんどが取り外すと分解してしまい、上げることができなかった。

製品には漆碗、下駄、箸、桶・樽の底板が多い。第2地点と第4地点の他の遺構で多く見られた小型の曲げ物は見られない。ほぼ炭化しているものや部分的に炭化しているものが多く、陶磁器同様に、火災を受けて廃棄されたと考えられる。

1・2は漆碗である。口径に比して器高が低く、高台は断面四角形である。外面黒漆、内面黒漆が施されている。図示不能なものには、内外面黒漆のものも見られる。

3はほぼ完形の曲げ物である。平面形は楕円形で、やや上げ底気味である。

4～13は桶・樽の部材である。部分的に炭化しているものが多い。5は非常に厚みがあり、樽の底板と考えられる。11・13は樽の天板、所謂鏡である。13には墨書されている。

15～17は漆塗りの板で、箱材と考えられる。

22・23は連歯下駄で、22には「紺長」の焼印が残っている。

25はボタンである。黒色に塗られている。

26～28は大型の刷毛で、黒色の塗料が付着している。

29は碗形の木製品で、漆碗を整える型のような用途が考えられる。

44は不明木製品で、菊の模様が彫られている。

50は内外面黒漆で、文様が朱書きされている。

57～59・61～63は、漆塗りの下駄である。

57は連歯下駄、58・61・62が割り下駄、59・63が所謂のめりと呼ばれるものである。58・62は透かしが入れられ、前金が付けられており、特異である。59・62・63は小型で、子供用と考えられる。

第185～188図は金属製品である。用途不明の製品が多い。

第1号土壇1～6は煙管である。10は襖の引手で花蝶文が陰刻されている。21は刀子で、両凹形である。22・23は槍先である。22には目釘穴が見られ、口金が残る。25は提灯の枠の金具である。26は円形の錠前、27・28は錠である。33は蛇尾の金具、34・35は頭が環状の環釘である。36・37は錠、38・53は楔である。

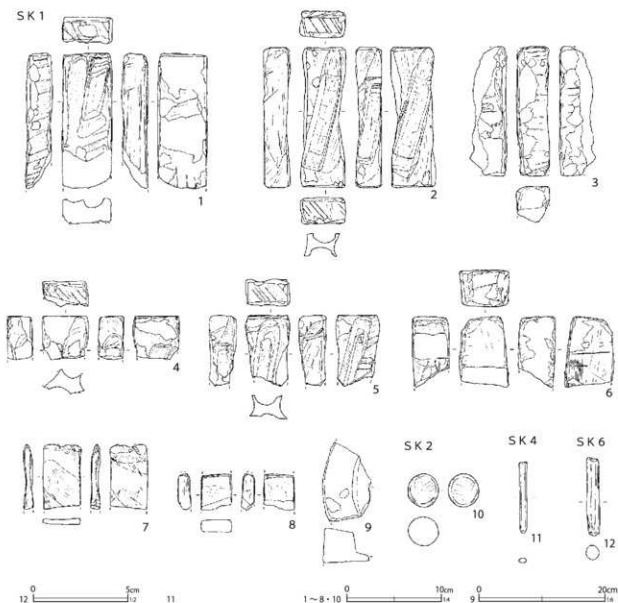
第2号土壇90は銅製の燭台である。92は銅製の蓋である。「松」「角」の銘が入れている。95は提灯金具である。木質の枠が残る。97は襖の引手で、六角形を呈する。103は五徳である。

105～107は、溶解炉の炉壁である。

第188図は銭貨である。1～5は文久永宝でまとまって出土した。6・7は雁首銭、19～21は鉄銭で、その他は新寛永が大部分である。

第189図は石製品である。1～8は流紋岩製の砥石である。陶磁器、木製品同様に被熱したものが多い。工具痕、ノコギリ痕が残るものもある。中でも1～5は溝状研磨痕が見られ、特殊な工具を研いだと考えられる。

10は砂岩製の石球で、全体に使用痕が見られる。11は鼈甲製の簪である。



第189図 土壇出土遺物 (31)

第63表 土壇出土遺物観察表 (7) (第189図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砥石	14.4	5.3	2.8	357.0	流紋岩	SK1	裏・側面幅広工具痕 溝状研磨痕	111-1
2	石製品	砥石	14.9	4.8	2.8	255.4	流紋岩	SK1	側面幅広工具痕 被熱黒色化 溝状研磨痕	111-1
3	石製品	砥石	13.8	[3.5]	[3.9]	259.4	流紋岩	SK1	側面・正面幅広工具痕 被熱黒色化	
4	石製品	砥石	[4.6]	4.9	[2.7]	89.5	流紋岩	SK1	側面幅広工具痕 溝状研磨痕	111-1
5	石製品	砥石	[7.5]	4.6	2.9	114.2	流紋岩	SK1	側面幅広工具痕 溝状研磨痕	111-1
6	石製品	砥石	[7.5]	[5.2]	3.9	235.9	流紋岩	SK1	裏ノコギリ痕 側面幅広工具痕	
7	石製品	砥石	[6.9]	4.0	1.0	33.3	流紋岩	SK1	一部黒色化	
8	石製品	砥石	[3.9]	3.3	1.4	27.3	流紋岩	SK1	4面使用	
9	石製品	石臼	[12.6]	[7.8]	—	708.0	安山岩	SK1	№346 上臼 推定径28cm	
10	石製品	石球	3.5	—	—	47.1	砂岩	SK2		111-1
11	石製品	簪	5.6	0.6	—	3.1	龜甲	SK4		
12	石製品	石筆	4.2	—	0.8	3.7	滑石	SK6		

(5) 性格不明遺構

第1号性格不明遺構 欠番

当初、第1号性格不明遺構として調査したが、出土遺物が新しく、擾乱と考えられるため、欠番とした。

第2号性格不明遺構 (第190・191図)

第4地点北側のH8-D5・E5グリッドに位置する。東側は調査区域外へ延びている。南側は排水溝があるため、全体の規模は不明である。検出した範囲では長軸方向の長さ7.00m、短軸方向の長さ5.90m、深さ0.80mである。平面形は不明であるが、長方形と思われる。

覆土は第1～7層が、砂と植物繊維の互層の暗褐色土に炭を含む黒色土・暗灰色土を間に挟む。第8～16層は、主に暗灰色土と黒褐色土で、ブロックを多量に含むことから、埋め戻しの可能性がある。第17～27層は、レンズ状に薄く堆積していることから、自然堆積と考えられる。第28～32層、第33層～38層、第39層～41層は、炭化物や木片、シルトブロックを含むため埋め戻しの可能性がある。

第2号性格不明遺構の遺物の出土層位については、陶磁器・土器が主に第14・15層の下層から出土しており、一括して廃棄されたと考えられる。木製品は、主に第14・15・38層の下層から出土した。金属製品は、主に第15・38層の下層から出土した。

第3号性格不明遺構 (第192図)

H8-J7に位置し、第1～6号ピットの6つのピットからなる。ピットの配置は、第2号ピットの東側に第1号ピット、西側に第3号ピット、北側に第4～6号ピットが位置する。第1～3号ピットと第4・5・6号ピットの間隔はそれぞれ18～24cmほどであり、全体の範囲は長軸2.50m、短軸2.20mである。

第1号ピットは、平面形が楕円形で、長軸0.80m、短軸0.55m、深さ0.22mである。覆土は、

鉄滓を多く含む層であり、埋め戻しと考えられる。

第2号ピットは、平面形が隅丸長方形で、長軸0.95m、短軸0.48m、深さ0.25mである。覆土は、赤褐色土の鉄滓が詰まった単層であり、埋め戻しと考えられる。

第3号ピットは、平面形が不整形で、長軸0.75m、短軸0.70m、深さ0.30mである。覆土は、鉄滓主体であり、埋め戻しと考えられる。

第4号ピットは、北側と東側に中端としてのピットが取り付けられている形態である。それぞれ第5号ピットと第6号ピットであり、平面形は不整形である。確認できた長軸がおよそ1.00m、短軸0.80m、深さ0.23mである。

覆土は、赤褐色土の鉄滓主体の単層で、羽口・鉄片を多量に含む。埋め戻しと考えられる。

第3号性格不明遺構の第1～4号ピットは覆土に鉄滓を多く含んでいる。各ピットの遺物分布図を第192図に示した。第1～4号ピットから刀子や鋏などの鉄製品が出土している。また、第2～6号ピットからは鉄滓とフィゴ羽口が見つかった。特に第4号ピットからは全9つ中7つのフィゴ羽口が見つかった。

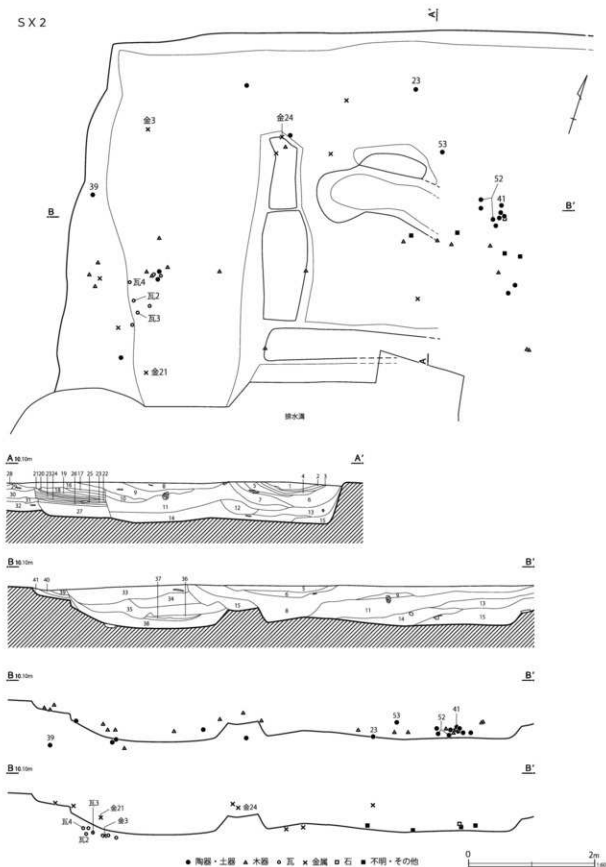
第3号性格不明遺構の遺物の出土層位は、単層のピット2とピット4で、羽口が上層から下層まで出土している。一方、ピット3では羽口は第1層から出土している。いずれも一括して廃棄されたと考えられる。

第3号性格不明遺構は、各ピットの覆土から鉄滓やフィゴ羽口など鍛冶作業に関連した遺物が出土しているため、付近に鍛冶場があり、鍛冶関連の道具を廃棄した場所であったと推定することができる。

性格不明遺構出土遺物 (第193～206図)

第2号性格不明遺構と第3号性格不明遺構の出土遺物には陶磁器、土器、土製品、瓦、木製品、銅・鉄製品、鉄滓、銭貨、石製品、珊瑚製品があり、大量に出土した。

SX2



第190図 性格不明遺構（1）

S X 2

1 暗褐色土	しまりなし やわらかく粘性あり	21 褐色土	しまりなし
2 暗褐色土	細かい植物の繊維状のものや砂が互層になっており、水成の堆積物	22 暗褐色土	しまりあり
3 暗褐色土	炭屑 非常に細かい炭の粒子が堆積	23 褐色土	しまりなし
4 褐色土	しまりなし やわらかく粘性あり	24 明灰色土	しまりあり
5 暗褐色土	細かい植物の繊維状のものや砂が互層になっており、水成の堆積物	25 褐色土	しまりなし
6 暗褐色土	炭屑 非常に細かい炭の粒子が堆積	26 明灰色土	しまりあり
7 暗褐色土	炭・灰多量 シジミ等の貝殻多量 木くず多量 しまりなし	27 褐色土	しまりなし
8 暗褐色土	砂(粗)含む 粘性あり やわらかい	28 暗褐色土	明灰色シルトブロック含む
9 暗褐色土	暗灰色の粘土ブロック多量 しまりなし	29 暗褐色土	砂含む しまりあり 粘性ややあり
10 暗褐色土	8層に似るが、炭化物を多く含まない しまりややあり	30 暗褐色土	明灰色シルトブロック・炭化物多量 しまりあり
11 明灰色土	シルト質 炭化物を含む 粘性あり		粘性ややあり
12 暗褐色土	灰色砂が互層となる 細かい植物の繊維状のもの多量	31 暗褐色土	明灰色シルトブロック微量 しまりあり
13 暗褐色土	やわらかく粘性あり	32 暗褐色土	明灰色シルトブロック・木片含む 粘性ややあり
14 暗褐色土	シルトブロック 炭化物含む しまりあり	33 暗褐色土	白っぽい砂(粗)・暗褐色土が互層となる
15 暗褐色土	11層に似るが色調が明るい	34 明灰色土	暗褐色土中に炭化物含む
16 暗褐色土	炭化物・シルトブロック多量 木片含む しまりややあり	35 明灰色土	シルト やや砂質 木片含む 粘性・しまりややあり
17 暗褐色土	粘性あり	36 褐色土	11層に似る 炭化物多量
18 暗褐色土	炭化物多量 しまり・粘性あり	37 暗褐色土	炭多量 しまりややあり
19 暗褐色土	炭・炭化物多量 しまりなし 粘性ややあり 灰はブロック状	38 暗褐色土	11層に似る 砂層が黒色味強い 炭化物含む
20 明灰色土	しまりあり	39 褐色土	38層に似るが、炭化物少ない
		40 褐色土	炭の層 しまりなし
		41 褐色土	11層に似るが炭化物多量

第191図 性格不明遺構(2)

第193～197図1～57は、第2号性格不明遺構出土の陶磁器、土器である。

1～25・27～36・45・49は肥前系、瀬戸美濃系の磁器である。肥前系よりも瀬戸美濃系の割合が高い。

1～10・12は碗である。丸碗、端反碗が相半ばし、それに湯呑碗が少数認められる。1・2は揃いで、この他にも破片で揃いと考えられるものがある。4は焼継が施されている。5・11・14・20～22・24・25は、瀬戸美濃系の酸化コバルト染付が施されている。8は色絵による絵付けが施されている。10～12は湯呑碗である。大小が認められる。

11・14～16は瀬戸美濃系の坏である。17は瀬戸美濃系の型押しした寿文皿である。

18は肥前系の一枚絵の八角皿である。焼継が施されている。20・21は蛇の目凹形高台で、一枚絵である。

22は瀬戸美濃系染付の爛徳利である。24は瀬戸美濃系の急須である。25・26は土瓶である。27～31は蓋である。27は急須、29は丸碗、30は端反碗、31は蓋物である。32は肥前系の蓮華である。35は肥前系の輪高台型皿である。三方に注連縄の一枚絵である。36は変形皿で、内面に型紙書絵染付が施されている。

45は肥前系の段重の蓋物である。

37～44・46～48・50・51は陶器である。瀬戸美濃系や京都信楽系はごく少ない。民窯系の産地不明の製品である急須が多い。

37は京都信楽系の油受皿、38は瀬戸美濃系の片口鉢である。灰釉が施されている。

39は瀬戸美濃系の甕である。鉄釉が施されている。

40～43・46・47は産地不明の所謂民窯産である。行平鍋、急須、土瓶の蓋、急須の蓋がある。40はトビガナ、41は全体に沈線が入れられている。42・43は白土染付で、色絵が施されている。

44は松岡系の土瓶の蓋である。うのふ釉が施されている。45は肥前系の段重の蓋物である。外面に染付が施されている。

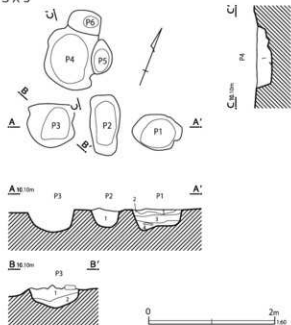
47は地方民窯系の急須の蓋である。全体に布目が認められる。

48は白土染付に鉄絵が施されている。縁辺が欠かれており、円板として再加工されている可能性がある。

50は瓶類と思われる。51は土瓶である。双方とも外面に灰釉が施され、底面に墨書されている。

52～57は土器である。52は常滑系の大甕である。胴部が直立する。他は産地が不明である。角閃石を含むものが見られ、利根川流域の粘土を用

S X 3



S X 3

A-A'

P 1

1

2

3

4

P 2

1

B-B'

P 3

1

2

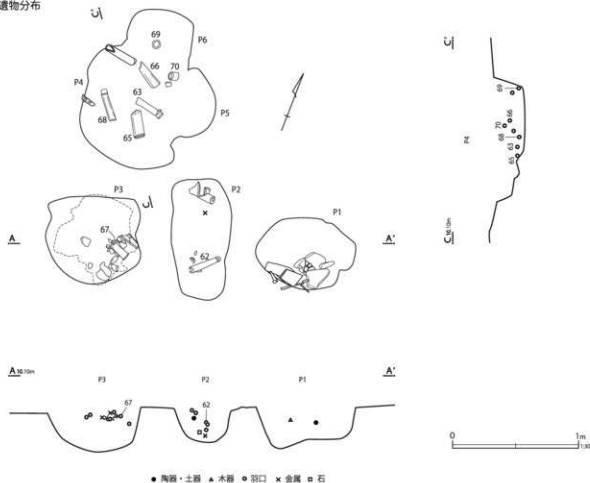
C-C'

P 4

1

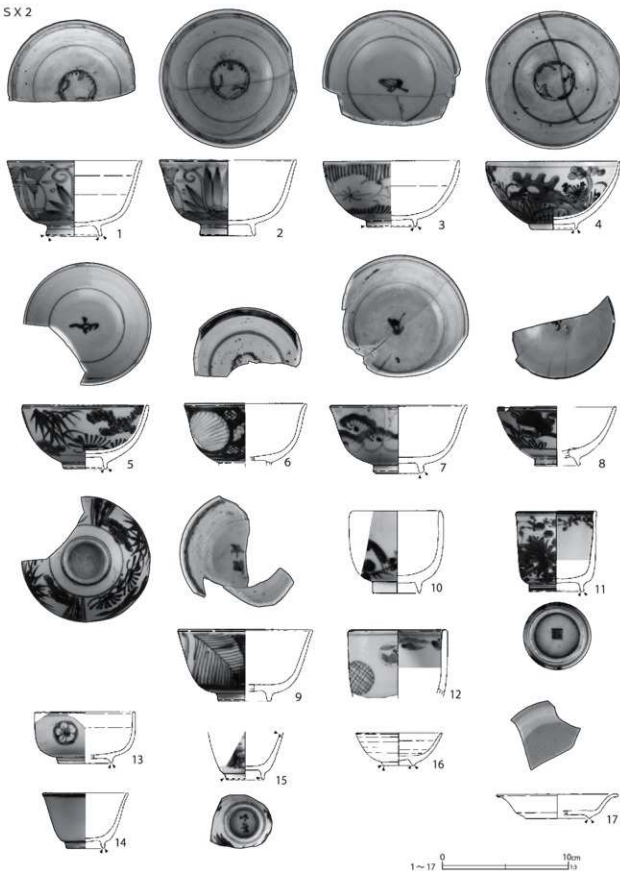
- 鉄滓を多く含む層 しまり・粘性なし
シルト質で附っぽい土 炭化物粒少量 しまり・粘性あり
細長い板状の木片・陶磁器・瓦・下駄等廃棄物主体 しまり弱
粘性あり
炭化物粒含む しまり弱 粘性やや強
- 鉄滓の詰まった層 少量の磁器片（近代）含む しまり・粘性なし
- 鉄滓主体 しまりあり 粘性なし 腐びで凝結し硬くしめる
炭化物と灰主体 鉄滓多量 しまりあり 粘性なし
- 鉄滓主体 羽口・鉄片多量 しまりあり 粘性なし

遺物分布

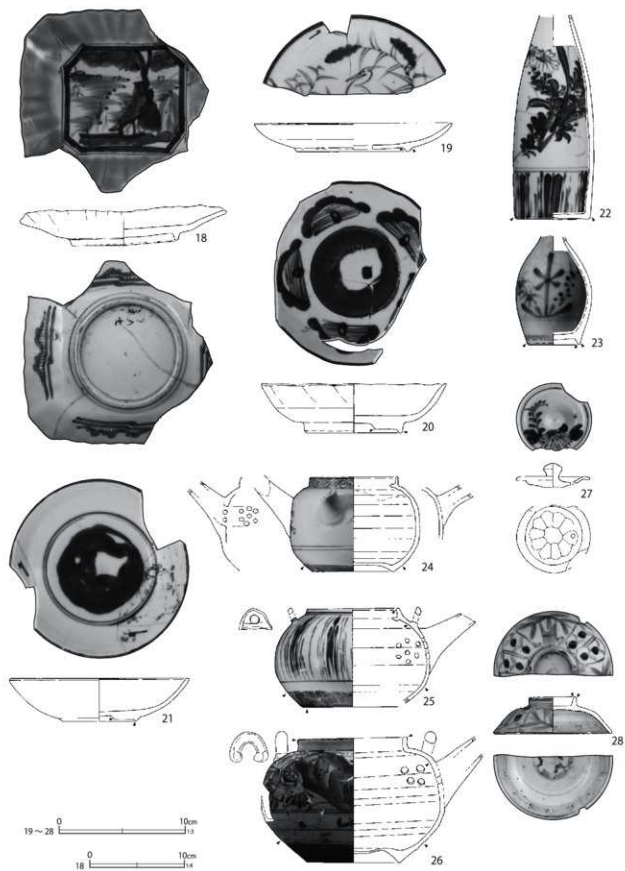


第192図 性格不明遺構（3）

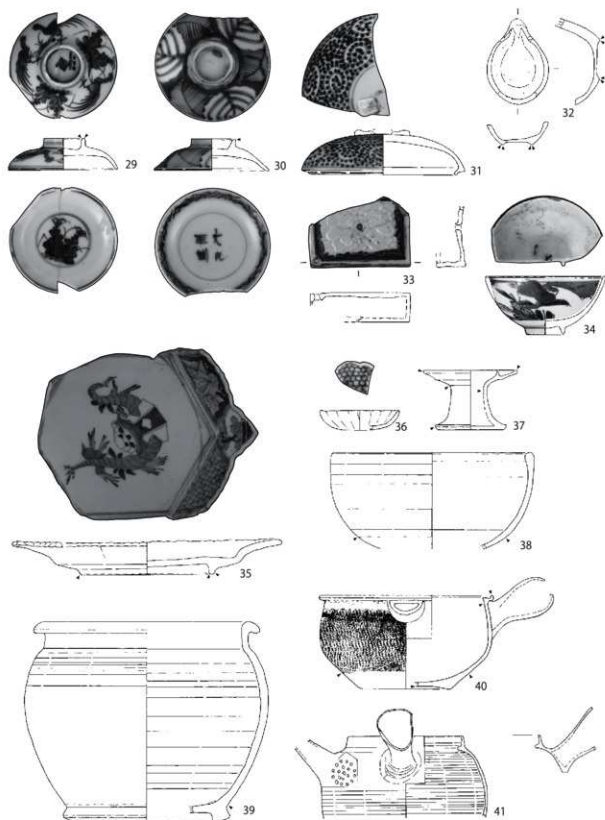
SX 2



第193图 性格不明遺構出土遺物 (1)



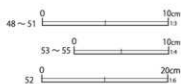
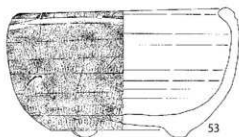
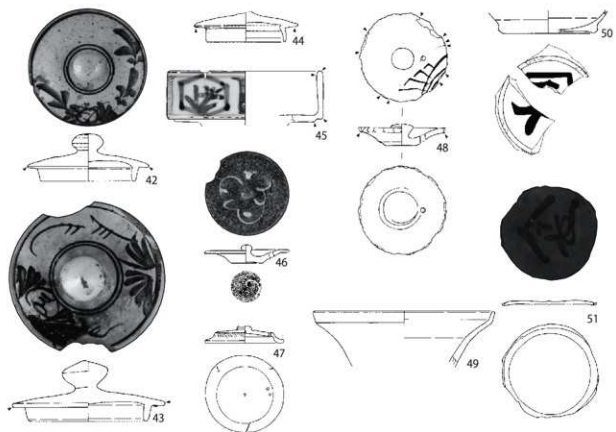
第194図 性格不明遺構出土遺物（2）



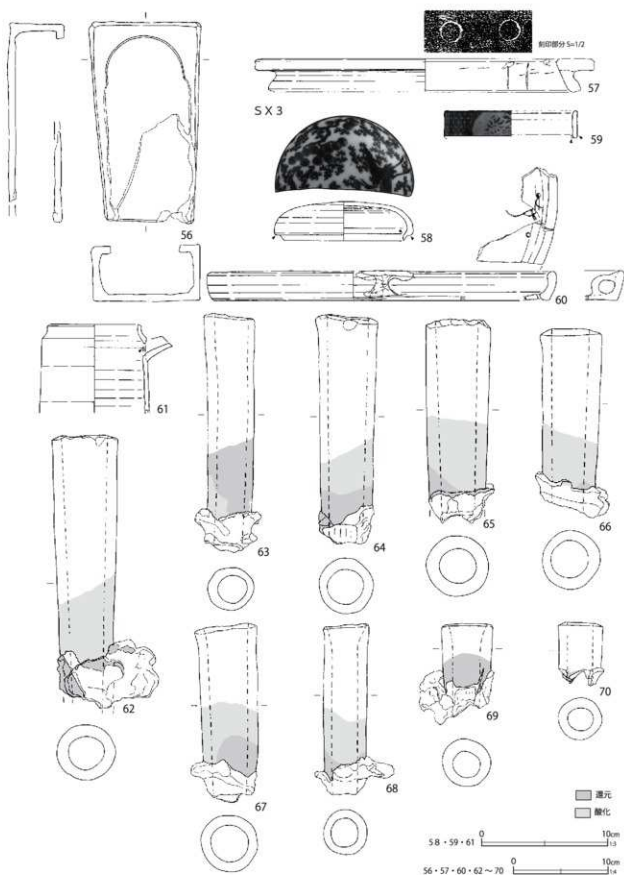
29 ~ 34 · 36 ~ 38 · 40 · 41

35 · 39

第195図 性格不明遺構出土遺物 (3)



第196图 性格不明遺構出土遺物(4)



第197図 性格不明遺構出土遺物（5）

第64表 性格不明遺構出土遺物観察表(1) (第193～197図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	10.6	6.0	4.2	IK	55	良好	灰白	SX2	肥前系 施軸 染付 唐花 2と揃い	95-2
2	磁器	碗	10.6	6.0	4.2	IK	95	良好	灰白	SX2	肥前系 施軸 染付 唐花 1と揃い	95-3
3	磁器	碗	10.6	5.2	3.8	IK	55	良好	灰白	SX2	瀬戸美濃系 施軸 染付 梅花	95-4
4	磁器	碗	10.6	5.4	3.6	K	100	良好	灰白	SX2	瀬戸美濃系 施軸 染付 草花文 雷文 焼継印	95-5
5	磁器	碗	9.8	5.1	3.2	K	80	良好	明青灰	SX2	瀬戸美濃系 施軸 酸化コバルト染付 竹 よろけ編文	95-6
6	磁器	碗	(9.6)	[4.9]	—	IK	40	良好	灰白	SX2	肥前系 染付 团扇 南天	95-7
7	磁器	碗	(10.6)	5.4	(3.5)	K	65	普通	灰白	SX2	瀬戸美濃系 施軸 染付 松	
8	磁器	碗	(9.1)	4.6	(3.3)	—	45	良好	灰白	SX2	瀬戸美濃系 施軸 色絵 見込みに銘あり	
9	磁器	碗	(10.4)	5.7	(4.0)	K	35	良好	明青灰	SX2	瀬戸美濃系 施軸 染付 矢羽 見込み 大明年製	95-8
10	磁器	碗	(6.9)	5.5	3.7	K	30	良好	灰白	SX2	瀬戸美濃系 施軸 染付 草花文	
11	磁器	碗	6.1	6.4	4.2	IK	70	良好	灰白	SX2	瀬戸美濃系 施軸 酸化コバルト染付 底面草花文	
12	磁器	碗	7.4	[5.3]	—	IK	30	良好	明青灰	SX2	瀬戸美濃系 施軸 染付	95-9
13	磁器	蓋物	(7.8)	4.1	(4.2)	K	30	良好	灰白	SX2	肥前系 施軸 外面染付 丸に桜	
14	磁器	杯	(6.6)	4.4	(3.0)	K	50	良好	灰白	SX2	瀬戸美濃系 施軸 外面酸化コバルト染付	
15	磁器	杯	—	[3.8]	2.8	K	50	普通	灰白	SX2	瀬戸美濃系 施軸 外面染付 面取り	95-9
16	磁器	皿	6.8	2.6	2.4	K	100	良好	灰白	SX2	肥前系 施軸 外面染付	
17	磁器	皿	(9.0)	1.9	(2.5)	K	50	良好	灰白	SX2	瀬戸美濃系 型押寿文 施軸	
18	磁器	皿	(21.8)	[3.8]	11.0	G	65	良好	灰白	SX2	肥前系 施軸 内面青磁軸 染付 焼継 印 釘書「森」	96-1
19	磁器	皿	(20.6)	3.0	(11.8)	IK	40	良好	明緑灰	SX2	肥前系 施軸 内面染付 焼継 口縁鉄 軸 繁に芦原	
20	磁器	皿	14.4	3.9	7.4	K	70	良好	灰白	SX2	瀬戸美濃系 施軸 酸化コバルト染付 蛇の目回形高台 口紅 城址 除刻	
21	磁器	皿	14.0	3.4	5.8	K	90	良好	灰白	SX2	瀬戸美濃系 施軸 内面酸化コバルト染付 蛇の目回形高台 見込み 城址 除刻	96-1
22	磁器	燗德利	—	[16.2]	5.6	IK	85	良好	灰白	SX2	瀬戸美濃系 施軸 酸化コバルト染付 菊	96-2
23	磁器	德利	—	[8.5]	4.0	K	70	良好	白	SX2	No.4 瀬戸美濃系 御神酒德利 施軸 外面染付	96-3
24	磁器	急須	6.8	7.5	6.4	K	60	良好	白	SX2	瀬戸美濃系 施軸 外面酸化コバルト染付 草花文	96-4
25	磁器	土瓶	7.2	[7.8]	(8.0)	K	80	良好	灰白	SX2	瀬戸美濃系 施軸 外面酸化コバルト染付	96-5
26	陶器	土瓶	11.4	13.9	9.8	IK	85	不良	灰白	SX2	白土染付 内面施軸 SK2-51と同一個体	96-6
27	磁器	蓋	—	1.9	1.5	K	90	良好	灰白	SX2	瀬戸美濃系 急須の蓋 外面施軸 染付 菊 内面鎮	96-7
28	磁器	蓋	(3.5)	2.9	(9.2)	K	50	良好	灰白	SX2	肥前系 施軸 染付 竹 ムクロジ	97-1
29	磁器	蓋	3.0	2.5	8.6	K	98	良好	灰白	SX2	瀬戸美濃系 丸碗 施軸 染付 潮頭草	
30	磁器	蓋	3.5	2.5	8.8	I	95	良好	灰白	SX2	瀬戸美濃系 端反 施軸 染付 大明年 製	
31	磁器	蓋	—	[3.5]	(11.6)	IK	20	良好	灰白	SX2	肥前系 蓋物 施軸 染付 満巻に紋り 目	97-2
32	磁器	蓮華	長さ [6.8]	[3.5]	幅 4.8	IK	70	良好	灰白	SX2	肥前系 施軸 内面染付 煤付着	
33	磁器	水滴	縦 [5.5]	高さ 2.3	横 7.9	IK	60	良好	白	SX2	瀬戸美濃系 外面施軸 染付 牡丹 布 目	
34	磁器	碗	(9.3)	4.6	(3.0)	K	45	良好	灰白	SX2	瀬戸美濃系 施軸 色絵	97-3
35	磁器	皿	(28.0)	3.8	13.6	HK	70	良好	白	SX2	肥前系 輪高台型皿 施軸 染付 焼継	
36	磁器	皿	(6.2)	[1.5]	—	K	5	良好	灰白	SX2	肥前系 変形皿 施軸 内面型紙模染付	
37	陶器	油受皿	(7.2)	4.7	5.2	K	75	普通	淡黄	SX2	京都信楽系 灰軸 脚付	97-4
38	陶器	片口鉢	15.4	[7.6]	—	K	20	普通	淡黄	SX2	瀬戸美濃系 灰軸 口縁鉄軸 煤付着	
39	陶器	甕	(21.5)	21.1	(15.0)	AGK	30	良好	灰黄	SX2	No.36 瀬戸美濃系 鉄軸 被熱	
40	陶器	行平鍋	(13.4)	7.4	(6.8)	AIK	45	良好	にぶい黄	SX2	鉄軸 外面トビガンナ 底部黒斑	97-5

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
41	陶器	急須	5.0	[6.4]	—	K	30	普通	灰黄	SX2	No.1 無軸 煤付着	
42	陶器	蓋	9.5	3.7	7.3	I	100	良好	灰オリーブ	SX2	土瓶の蓋 施軸 白土染付 團縁 草花文	97-6
43	陶器	蓋	9.3	4.8	—	K	95	普通	灰黄	SX2	土瓶の蓋 施軸 白土染付 團縁 草花文 被熱	98-1
44	陶器	蓋	—	[2.3]	5.2	K	99	良好	浅黄橙	SX2	松岡系 土瓶の蓋 うのふ軸	
45	磁器	蓋物	(12.0)	[4.0]	—	IK	15	良好	灰白	SX2	肥前系 段重 施軸 外面染付 色絵	
46	陶器	蓋	6.4	1.4	2.5	IK	95	良好	灰白	SX2	急須の蓋 外面灰軸 鉄分斑状 イッチン 底部回転糸切り	98-2
47	陶器	蓋	—	1.3	6.2	A	100	普通	灰白	SX2	地方民窯系 急須の蓋 型成形 内面布目 磁質	
48	陶器	蓋	—	1.7	2.2	K	95	良好	浅黄	SX2	急須の蓋 灰軸 白土染付 円板状土製品転用 底部回転糸切り(右)	98-3
49	磁器	鉢	(14.0)	[4.4]	—	I	25	普通	灰白	SX2	肥前系 施軸 染付	
50	陶器	瓶類小	—	[1.8]	(3.6)	IK	35	良好	灰白	SX2	外面灰軸 内面施軸 底部墨書	
51	陶器	土瓶	—	[0.4]	[7.5]	HI	90	普通	灰黄	SX2	外面灰軸 内面施軸 底部墨書「会」か	
52	土器	大甕	(67.9)	[19.0]	—	EHK	30	普通	明赤褐	SX2	No.2・15 常滑系 煤付着	
53	瓦質土器	火鉢	16.4	10.2	11.2	I	90	普通	黄灰	SX2	No.3 煤付着 トビガンナ ロ線ミガキ	98-4
54	瓦質土器	火鉢	16.9	8.2	11.7	AIK	90	普通	灰黄	SX2	煤付着 トビガンナ ロ線ミガキ	98-5
55	土師質土器	焙烙	(31.8)	[3.4]	—	EI	10	普通	灰白	SX2	丸底 底部シワ状痕 外周ケズリ	
56	土師質土器	風口	縦 高さ 21.3 横 6.0	横 11.8	AIK	100	普通	にぶい橙	SX2	No.9 煤付着 外面朱書	98-6	
57	瓦質土器	籠蹄	(38.5)	3.5	(28.2)	AI	80	普通	褐灰	SX2	煤付着 やや酸化炭成きみ 刻印「○」2つ	
58	磁器	蓋	—	3.1	9.4	K	55	良好	白	SX3	P3 瀬戸美濃系 蓋物の蓋 施軸 外面銅版転写染付 松竹鶴	
59	磁器	蓋物	(10.2)	[2.2]	—	K	50	良好	白	SX3	P2 瀬戸美濃系 段重 施軸 型紙摺転染付	
60	土師質土器	焙烙	(36.1)	[3.1]	(35.5)	K	15	普通	明黄褐	SX3	P2 No.5 平底 針金付 補修痕 内耳	102-5
61	陶器	水注	(6.8)	[7.1]	—	I	25	良好	にぶい黄橙	SX3	P2 京都信楽系 灰軸 貫入多 被熱	102-5
62	土製品	フイゴ羽口	長さ [28.9]	径 6.2	ACIK	—	普通	灰黄	SX3	P2 No.1 重さ 993.1 g	102-5	
63	土製品	フイゴ羽口	長さ [25.4]	径 5.0	ACIK	—	普通	灰黄	SX3	P4 No.6 重さ 441.5 g 磁着あり	102-5	
64	土製品	フイゴ羽口	長さ [24.3]	径 5.7	ACIK	—	普通	灰黄	SX3	P4 重さ 587.4 g	102-5	
65	土製品	フイゴ羽口	長さ [21.7]	径 6.6	ACIK	—	普通	灰黄	SX3	P4 No.7 重さ 691.3 g	102-5	
66	土製品	フイゴ羽口	長さ [20.0]	径 6.2	ACIK	—	普通	灰黄	SX3	P4 No.1 重さ 529.7 g	102-6	
67	土製品	フイゴ羽口	長さ [19.0]	径 6.0	ACIK	—	普通	灰黄	SX3	P3 No.13 重さ 441.7 g 磁着あり	102-6	
68	土製品	フイゴ羽口	長さ [18.1]	径 4.7	ACIK	—	普通	灰黄	SX3	P4 No.9 重さ 318.5 g 磁着あり	102-6	
69	土製品	フイゴ羽口	長さ [10.8]	径 5.2	ACIK	—	普通	灰黄	SX3	P4 No.3 重さ 208.6 g 磁着あり	102-6	
70	土製品	フイゴ羽口	長さ [6.7]	径 4.6	ACIK	—	普通	灰黄	SX3	P4 No.4 重さ 90.3 g	102-6	

いた地元における生産も考えられる。いずれも現状では黄灰色が多く、被熱による変色の可能性もある。

53・54は瓦質の火鉢である。双方ともトビガンナが施されている。55は丸底の焙烙である。円



第198図 性格不明遺構出土遺物 (6)

形の刻印が施されている。56は七輪の風口である。第4地点では唯一のものである。57はカマドの掛口の蹄である。煤が全体に付着し、一部赤変している。刻印「○」が2つ施されている。

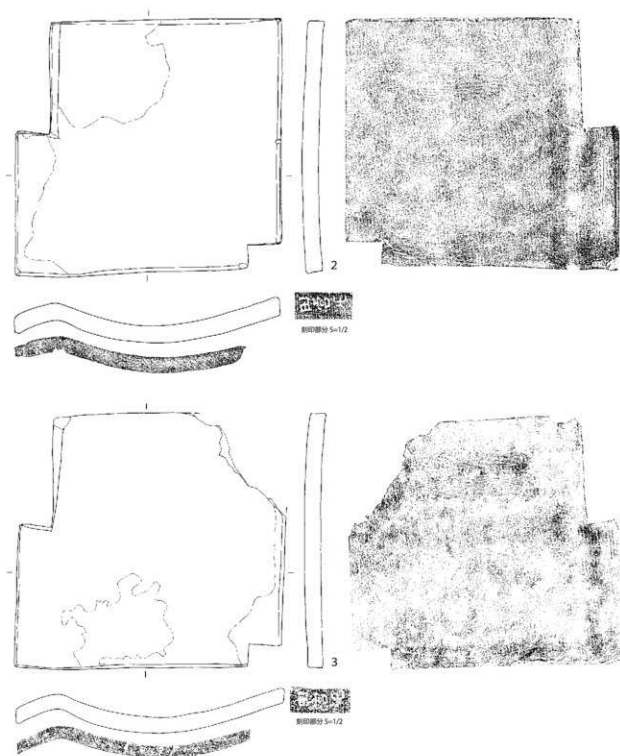
第2号性格不明遺構の出土遺物は、磁器に瀬戸美濃系が多く、寿文皿、爛徳利、急須、蓮華がある点、陶器に民窯の製品がある点から19世紀前半～中葉と考えられる。

第197図58～61は、第3号性格不明遺構出土

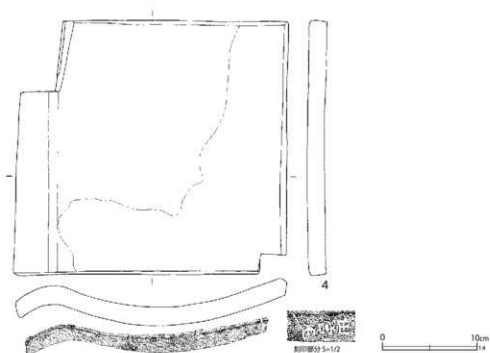
第65表 性格不明遺構出土遺物観察表 (2) (第198図)

番号	種別	器種	口径幅	器高長さ	底径厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	ミニチュア	—	[2.3]	—	6.4	IK	良好	橙	SX2	土瓶 外面透明軸 二枚型 中空 江戸在地系	

SX2



第199図 性格不明遺構出土遺物（7）



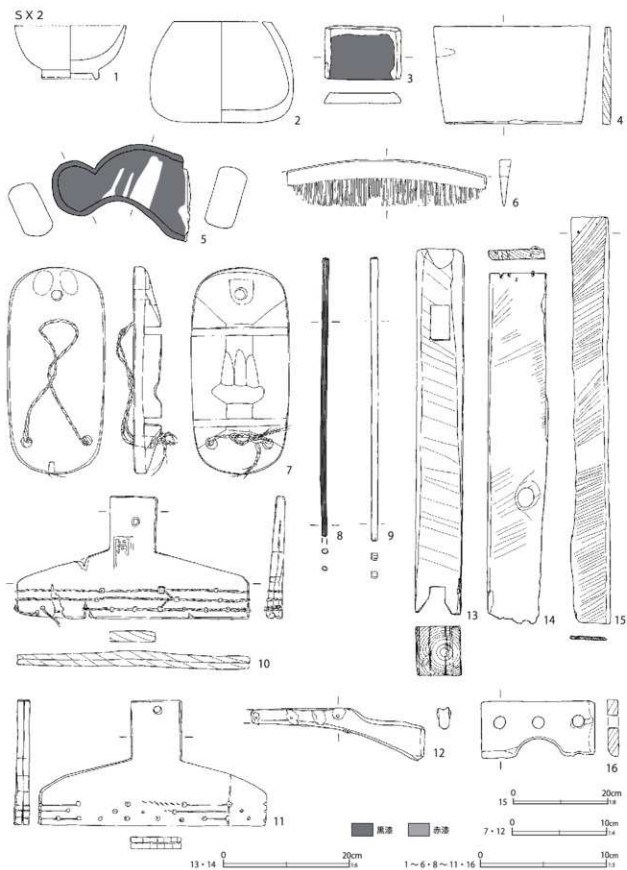
第200図 性格不明遺構出土遺物（8）

第66表 性格不明遺構出土遺物観察表（3）（第199・200図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒椀瓦	—	—	1.6	4.6	—	AIK	普通	灰	SX2	B種江戸式中心飾り大文様深い、色調真っ黒、周縁広く下側は中心に線	105-4
2	瓦	椀瓦	26.7	28.1	1.8	—	—	AIK	普通	暗灰	SX2	No.50 刻印 被熱によるゆがみ 光沢あり 表面筋状の付着物あり 裏面滑り止めあり	105-5
3	瓦	椀瓦	26.9	28.3	1.7	—	—	AIK	普通	灰	SX2	No.51 刻印 被熱の炭化物混んでいる 裏面クラックあり 表面油状の付着物あり 全体に焼け 裏面滑り止め	105-6
4	瓦	椀瓦	26.6	28.8	1.9	—	—	ACI	普通	暗灰	SX2	No.49 刻印 被熱 光沢あり 表面面状の付着物あり 裏面砂目傷んでいる	106-1

第67表 性格不明遺構出土遺物観察表（4）（第201図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	遺構	備考	図版
1	木製品	漆碗	—	—	—	8.7	4.2	4.4	SX2	内面赤漆 外面黒漆	108-4
2	木製品	鉢	—	—	—	(7.8)	8.0	(6.0)	SX2	内面赤漆 外面下地	
3	木製品	箱	4.2	6.0	0.9	—	—	—	SX2	側面・裏黒漆	
4	木製品	箱	7.7	12.3	0.6	—	—	—	SX2	全面漆	
5	木製品	脚	10.6	2.4	—	—	6.7	—	SX2	全面漆	108-5
6	木製品	櫛	[15.7]	3.7	0.9	—	—	—	SX2	陰卵下駄	
7	木製品	下駄	21.9	10.4	—	—	[3.0]	—	SX2	陰卵下駄	
8	木製品	箸	[22.6]	0.4	0.4	—	—	—	SX2	上半赤漆 下半黒漆	
9	木製品	箸	22.3	0.6	0.6	—	—	—	SX2	焼印	108-6
10	木製品	刷毛	9.6	18.5	0.9	—	—	—	SX2	焼印	
11	木製品	刷毛	9.9	18.0	1.0	—	—	—	SX2	焼印	
12	木製品	不明品	18.2	1.1	—	—	2.3	—	SX2	焼印	
13	木製品	柱	58.4	7.4	7.8	—	—	—	SX2	—	108-7
14	木製品	板材	56.1	9.0	1.5	—	—	—	SX2	—	
15	木製品	板材	85.9	7.7	0.6	—	—	—	SX2	—	
16	木製品	不明品	4.5	8.9	0.8	—	—	—	SX2	—	



第201図 性格不明遺構出土遺物（9）

の陶磁器、土器である。

58・59は瀬戸美濃系の蓋物の蓋と段重の蓋である。61は京都信楽系陶器の水注である。灰釉が施され、貫入が多く入る。60は土師質の焙烙で針金により補修されている。

62～70は、第3号性格不明遺構から出土した羽口である。同じ口径の羽口は62と66で、径6.2cmである。67は、径6.0cmでほぼ同口径である。68・70は径4.6～4.7cm、63・69は径5.0～5.2cmでほぼ同口径である。長さは、62が28.9cmで最も長い。69・70は、長さ6.7～10.8cmで短い。その他の羽口は、長さ18.1～25.4cmである。

第198図1は、第2号性格不明遺構から出土したミニチュア陶器である。産地不明の土瓶のミニチュアである。矢羽状の刷毛目が施され、鉄釉が施されている。

第199～200図は、第2号性格不明遺構から出土した瓦である。1は軒棧瓦である。中心飾りの部分のみが遺存している。文様は大振りで深い。2は平瓦である。3・4は棧瓦である。2～4は裏面ヘラケズリが施されている。四角に「田宮瓦」という刻印が見られる。いずれも被熱し、煤やタール状の付着物が認められる。2・3は被熱により歪んでいる。

第201図は木製品である。2～5は漆器である。2は特異な器形の鉢である。剥離しており、外面は下地のみが残る。内面には赤漆が施されている。3・4は漆塗りの箱の部品である。5は黒漆塗りの製品の部品である。衣文かけのように柱状のものに取りつくものと考えたが、脚部などの可能性もある。

6は横櫛である。両端を欠く。かなり大型の製品である。7は陰卵下駄で、棕櫚縄の鼻緒が残る。表の上端には凹みが見られる。8は漆塗りの箸である。赤と黒に塗り分けられている。

10・11は刷毛である。板を途中まで割り、毛

を挟み込んで糸でまとめている。12は鋸などの小型の製品の持ち手と考えられる。

13～15は建築部材である。この他に多量の部材が出土しており、建物の解体などに伴うものと考えられる。13～15のいずれにも、鋸痕が明瞭に認められる。13は欄間などの部材と考えられる。14・15は壁材で、端部に釘が残る。

第202～204図は鉄製品と鉄滓である。様々な製品が見られ、用途不明品も多い。

1～60は第2号性格不明遺構、61～77は第3号性格不明遺構から出土した鉄製品である。

4は鈴で、上下が潰れている。6は和鉄の部品である。9・10は扉の蝶番である。11は、部品は不明だが先端に取りつく装飾品と考えられる。中位で折れている。12は五徳、13は火箸で折れ曲がっている。

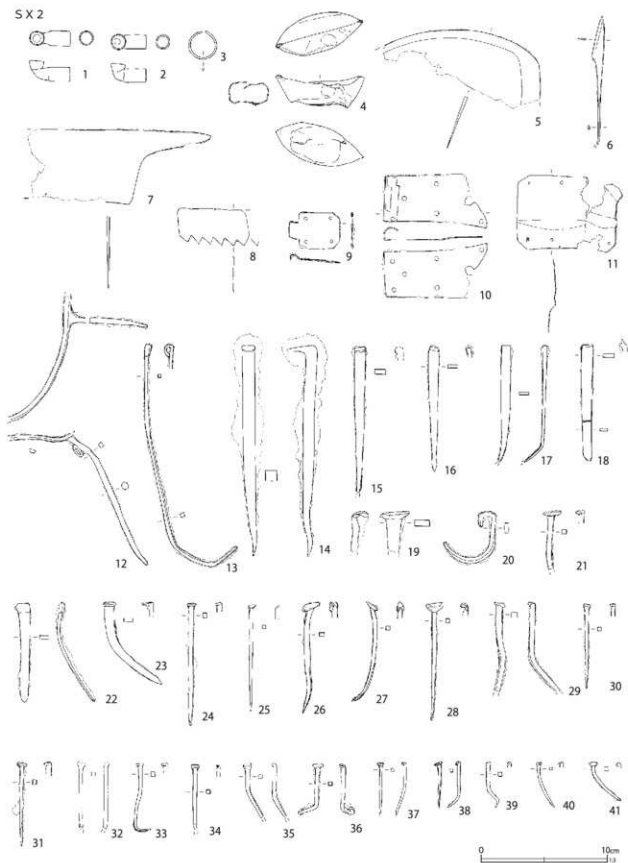
14～41は釘である。全形の分かるものを図示した。この他に欠損している釘が多くあり、建物の解体等に伴い、廃棄されたものと考えられる。

61～77は第3号性格不明遺構出土のものである。針金、鎌、刀子、楔、鉄等が出土しているが、いずれも部分的で、完形と考えられるものはない。

78～104は、第3号性格不明遺構から出土した鍛冶関連遺物である。すべて碗形滓である。92は、炉壁の一部が付着している。また、滓の上部に製品の一部と思われるものが付着している。97～99、102は、フィゴ羽口の一部が付着している。

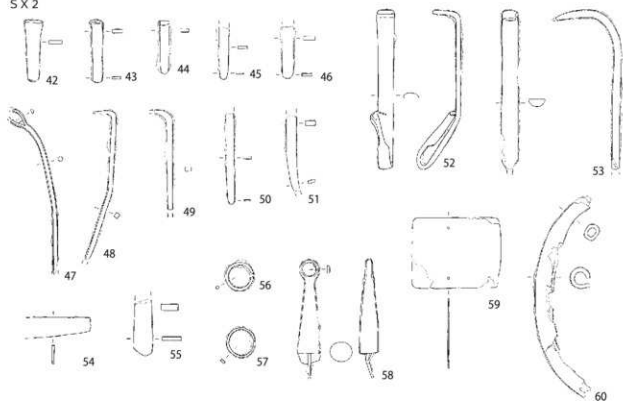
第205図は、第2号性格不明遺構から出土した銭貨である。1～3・6は寛永通寶、4は文久永寶である。

第206図は、第2号性格不明遺構から出土した石製品と珊瑚製品である。3は珊瑚の簪で、栗橋宿の他の地点では見つからない。全体的によく磨かれており、先端の部分は、自然の付け根が巧みに加工されている。珊瑚の中でも宝飾品に使われている宝石珊瑚と考えられる。

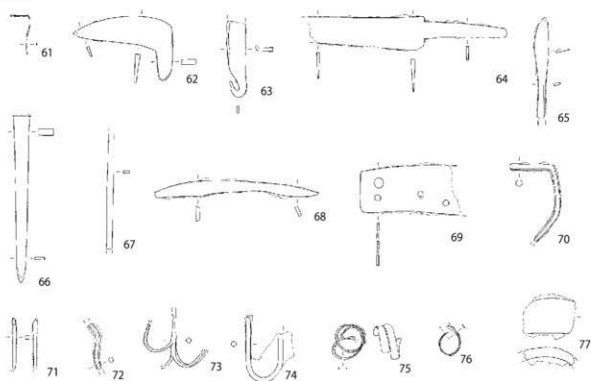


第202図 性格不明遺構出土遺物 (10)

SX 2

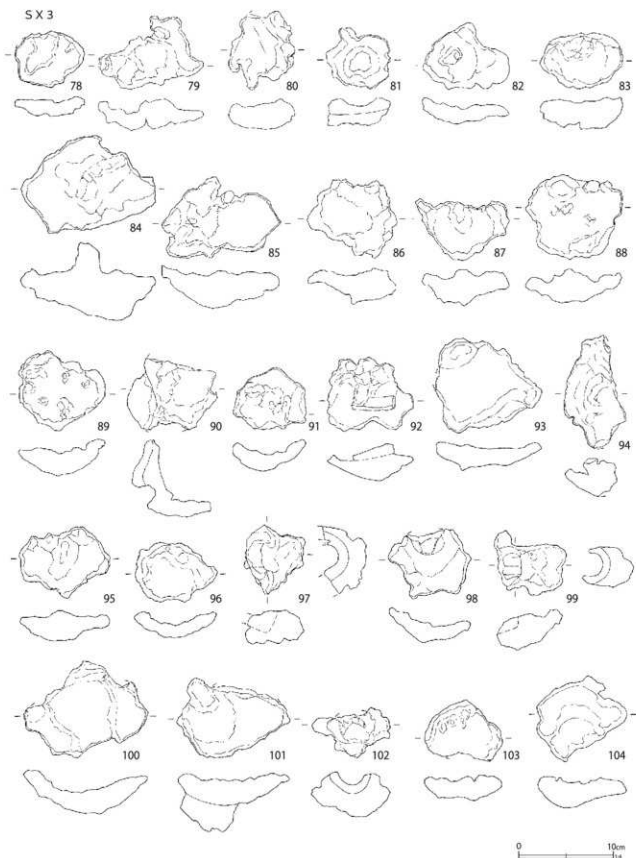


SX 3



0 10cm 1:3

第203図 性格不明遺構出土遺物 (11)



第204図 性格不明遺構出土遺物 (12)

第68表 性格不明遺構出土遺物観察表(5)(第202～204図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	煙管	長さ3.2 火皿径1.1 小口径1.1 重さ7.1	SX2	雁首	
2	銅製品	煙管	長さ2.8 火皿径1.2 火皿横1.1 小口径1.1 重さ6.5	SX2	雁首	
3	銅製品	輪金具	径2.2 厚さ0.2 重さ1.0	SX2	No.35	
4	銅製品	鈴	縦2.6 横6.9 厚さ0.025 重さ12.9	SX2		
5	鉄製品	鎌	全長[12.3] 刃幅4.4 背幅0.2 重さ41.3	SX2		
6	鉄製品	鍬	長さ[10.0] 刃幅0.7 背幅0.1 重さ4.0	SX2		
7	鉄製品	包丁	全長[14.5] 刃幅5.7 背幅0.2 重さ40.1	SX2		
8	鉄製品	鋸	長さ[5.7] 背幅0.05 刃幅2.9 重さ6.0	SX2		
9	鉄製品	螺番	長さ2.9 幅4.0 厚さ0.05 重さ5.5	SX2		
10	鉄製品	螺番	長さ[8.2] 幅[4.2] 厚さ0.05 重さ20.6	SX2		
11	鉄製品	不明	縦6.2 横8.4 厚さ0.025 重さ9.3	SX2		
12	鉄製品	五徳	幅9.9 厚さ0.5 高さ10.4 重さ23.3	SX2		
13	鉄製品	火箸	長さ[17.6] 幅0.3 厚さ0.3 重さ15.3	SX2		
14	鉄製品	釘	長さ[16.4] 幅0.9 厚さ0.8 重さ98.5	SX2		
15	鉄製品	釘	長さ[11.6] 幅0.9 厚さ0.4 重さ19.7	SX2		
16	鉄製品	釘	長さ10.0 幅0.8 厚さ0.3 重さ11.2	SX2		
17	鉄製品	釘	長さ[9.3] 幅0.75 厚さ0.2 重さ12.0	SX2		
18	鉄製品	釘	長さ[9.7] 幅0.9 厚さ0.3 重さ15.0	SX2		
19	鉄製品	釘	長さ[3.3] 幅1.2 厚さ0.5 重さ9.1	SX2		
20	鉄製品	釘	長さ[4.1] 幅0.3 厚さ0.8 重さ13.4	SX2		
21	鉄製品	釘	長さ[4.7] 幅0.4 厚さ0.4 重さ5.6	SX2	No.56	
22	鉄製品	釘	長さ8.0 幅0.75 厚さ0.25 重さ8.8	SX2		
23	鉄製品	釘	長さ[6.4] 幅0.7 厚さ0.3 重さ7.8	SX2		
24	鉄製品	釘	長さ[9.5] 幅0.3 厚さ0.4 重さ7.1	SX2	No.7	
25	鉄製品	釘	長さ[8.2] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.5	SX2		
26	鉄製品	釘	長さ8.8 幅0.4 厚さ0.3 重さ7.3	SX2		
27	鉄製品	釘	長さ[7.9] 幅0.3 厚さ0.3 重さ4.2	SX2		
28	鉄製品	釘	長さ9.3 幅0.3 厚さ0.35 重さ5.1	SX2		
29	鉄製品	釘	長さ[7.1] 幅0.5 厚さ0.4 重さ8.5	SX2		
30	鉄製品	釘	長さ6.7 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.0	SX2		
31	鉄製品	釘	長さ[6.5] 幅0.3 厚さ0.4 重さ3.6	SX2		
32	鉄製品	釘	長さ[5.4] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.3	SX2		
33	鉄製品	釘	長さ5.5 幅0.3 厚さ0.4 重さ3.0	SX2		
34	鉄製品	釘	長さ[5.1] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.0	SX2		
35	鉄製品	釘	長さ[4.4] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.2	SX2		
36	鉄製品	釘	長さ[4.0] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.1	SX2		
37	鉄製品	釘	長さ[4.1] 幅0.2 厚さ0.3 重さ0.9	SX2		
38	鉄製品	釘	長さ[3.6] 幅0.2 厚さ0.3 重さ1.0	SX2		
39	鉄製品	釘	長さ[3.4] 幅0.3 厚さ0.3 重さ1.0	SX2		
40	鉄製品	釘	長さ[3.5] 幅0.2 厚さ0.2 重さ0.9	SX2		
41	鉄製品	釘	長さ3.1 幅0.3 厚さ0.3 重さ1.1	SX2		
42	鉄製品	楔	長さ[4.9] 幅1.1 厚さ0.3 重さ8.9	SX2		
43	鉄製品	楔	長さ5.0 幅0.8 厚さ0.3 重さ9.7	SX2		
44	鉄製品	楔	長さ[4.2] 幅0.7 厚さ0.3 重さ7.6	SX2		
45	鉄製品	楔	長さ[4.2] 幅0.8 厚さ0.2 重さ4.8	SX2		
46	鉄製品	楔	長さ[4.1] 幅0.9 厚さ0.3 重さ7.1	SX2		
47	鉄製品	不明	長さ[13.2] 厚さ0.4 重さ10.8	SX2		
48	鉄製品	不明	長さ[11.7] 幅0.3 厚さ0.4 重さ13.2	SX2		
49	鉄製品	不明	長さ[7.9] 幅0.5 厚さ0.3 重さ7.6	SX2		
50	鉄製品	不明	長さ[7.2] 幅0.7 厚さ0.2 重さ6.7	SX2		
51	鉄製品	不明	長さ[6.0] 幅0.8 厚さ0.4 重さ10.9	SX2		

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
52	鉄製品	不明	長さ[12.7] 幅1.2 厚さ0.4 重さ43.4	SX2		
53	鉄製品	不明	長さ[12.6] 幅1.3 厚さ0.6 重さ64.0	SX2		
54	鉄製品	不明	長さ1.6 幅[4.5] 厚さ0.2 重さ14.3	SX2		
55	鉄製品	不明	長さ[4.4] 幅1.5 厚さ0.5 重さ17.3	SX2		
56	鉄製品	輪金具	径2.25 厚さ0.2 重さ2.3	SX2		
57	鉄製品	輪金具	径2.4 幅0.35 厚さ0.2 重さ2.9	SX2		
58	鉄製品	不明	長さ[9.2] 幅1.7 厚さ1.5 重さ61.3	SX2		
59	鉄製品	不明	縦5.6 横7.0 厚さ0.05 重さ15.4	SX2		
60	鉄製品	不明	長さ[16.0] 幅[1.5] 厚さ0.4 重さ46.3	SX2		
61	銅製品	針金	長さ[2.9] 厚さ0.075 重さ0.1	SX3		
62	鉄製品	鎌	長さ[7.6] 刃幅2.3 背幅0.4 重さ39.6	SX3	P4	110-2
63	鉄製品	鎌	長さ[6.1] 幅1.4 厚さ0.35 重さ11.5	SX3	P4 基部	
64	鉄製品	刀子	長さ[15.7] 刃長[9.2] 刃幅2.6 背幅0.3 重さ44.4	SX3	P2	
65	鉄製品	鉄	長さ[7.8] 刃幅1.1 背幅0.3 重さ7.0	SX3	P1	
66	鉄製品	楔	長さ[13.0] 幅1.2 厚さ0.5 重さ33.9	SX3	P4	
67	鉄製品	不明	長さ[9.2] 幅0.5 厚さ0.2 重さ2.8	SX3	P1	
68	鉄製品	不明	長さ13.0 幅1.2 厚さ0.3 重さ16.3	SX3	P3	
69	鉄製品	不明	長さ[7.9] 幅3.5 厚さ0.15 重さ34.2	SX3	P1	
70	鉄製品	不明	長さ[6.2] 厚さ0.5 重さ10.6	SX3	P2	
71	鉄製品	不明	長さ[4.0] 幅0.3 厚さ0.3 重さ1.4	SX3		
72	鉄製品	不明	長さ[3.7] 厚さ0.4 重さ5.0	SX3	P2	
73	鉄製品	不明	縦[4.2] 横[4.8] 厚さ0.4 重さ3.5	SX3	P1	
74	鉄製品	不明	長さ[5.2] 幅0.4 厚さ0.4 重さ14.9	SX3	P1	
75	鉄製品	不明	縦2.7 横2.7 幅0.7 厚さ0.1 重さ5.2	SX3	P1	
76	鉄製品	不明	径1.7 長さ2.4 厚さ0.05 幅0.35 重さ0.4	SX3	P4	
77	鉄製品	不明	縦3.6 幅[4.2] 厚さ1.1 重さ37.4	SX3	P3	
78	鉄滓	椀形滓	長さ5.9 幅7.3 厚さ1.7 重さ79.1	SX3	P2 磁着あり	
79	鉄滓	椀形滓	長さ7.8 幅11.1 厚さ3.0 重さ215.9	SX3	P2 磁着あり	110-5
80	鉄滓	椀形滓	長さ8.3 幅7.1 厚さ2.7 重さ153.1	SX3	P2 磁着あり	110-5
81	鉄滓	椀形滓	長さ6.4 幅6.8 厚さ1.9 重さ173.9	SX3	P2 磁着あり	
82	鉄滓	椀形滓	長さ7.0 幅9.2 厚さ1.9 重さ164.8	SX3	P3 磁着あり	
83	鉄滓	椀形滓	長さ[6.0] 幅8.9 厚さ2.8 重さ229.2	SX3	P2 磁着あり	
84	鉄滓	椀形滓	長さ10.3 幅14.2 厚さ5.4 重さ758.3	SX3	P2 磁着あり	110-5
85	鉄滓	椀形滓	長さ8.6 幅12.5 厚さ4.0 重さ346.0	SX3	P3 磁着あり	110-5
86	鉄滓	椀形滓	長さ8.4 幅9.5 厚さ3.1 重さ243.2	SX3	P3 磁着あり	
87	鉄滓	椀形滓	長さ6.6 幅10.0 厚さ3.8 重さ169.2	SX3	P3 磁着あり	
88	鉄滓	椀形滓	長さ9.0 幅10.3 厚さ3.5 重さ324.4	SX3	P3 磁着あり	110-5
89	鉄滓	椀形滓	長さ8.5 幅9.2 厚さ2.4 重さ279.2	SX3	P4 磁着あり	
90	鉄滓	椀形滓	長さ7.6 幅9.6 厚さ1.7 重さ253.2	SX3	P4 炉壁 磁着あり	110-5
91	鉄滓	椀形滓	長さ6.6 幅7.8 厚さ1.8 重さ165.5	SX3	P4 磁着あり	
92	鉄滓	椀形滓	長さ7.8 幅9.2 厚さ3.5 重さ217.9	SX3	P4 磁着あり	110-5
93	鉄滓	椀形滓	長さ10.0 幅11.3 厚さ1.8 重さ407.3	SX3	P4 磁着あり	
94	鉄滓	椀形滓	長さ11.9 幅6.6 厚さ3.9 重さ211.0	SX3	P4 羽口 磁着あり	110-4
95	鉄滓	椀形滓	長さ7.6 幅9.5 厚さ3.1 重さ274.6	SX3	P4 磁着あり	
96	鉄滓	椀形滓	長さ6.4 幅8.8 厚さ1.3 重さ150.9	SX3	P5 磁着あり	
97	鉄滓	椀形滓	長さ7.3 幅6.6 厚さ3.0 重さ177.4	SX3	P5 羽口 磁着あり	110-4
98	鉄滓	椀形滓	長さ7.4 幅8.8 厚さ2.1 重さ188.3	SX3	P5 磁着あり	
99	鉄滓	椀形滓	長さ6.8 幅7.7 厚さ3.2 重さ176.3	SX3	P5 磁着あり	110-4
100	鉄滓	椀形滓	長さ10.2 幅13.2 厚さ2.3 重さ386.3	SX3	P5 磁着あり	110-5
101	鉄滓	椀形滓	長さ8.5 幅12.0 厚さ5.5 重さ480.0	SX3	P6 磁着あり	110-5
102	鉄滓	椀形滓	長さ5.3 幅8.3 厚さ3.3 重さ131.1	SX3	P6 羽口 磁着あり	
103	鉄滓	椀形滓	長さ6.5 幅8.3 厚さ2.5 重さ140.9	SX3	P6 磁着あり	

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
104	鉄滓	桶形滓	長さ9.1 幅9.5 厚さ2.4 重さ243.2	SX3	P5 磁着あり	

SX2



SX3



第205図 性格不明遺構出土遺物 (13)

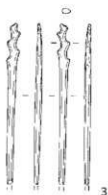
第69表 性格不明遺構出土遺物観察表 (6) (第205図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径22.97 厚さ0.99 重さ2.7	SX2	寛永通寶(新)	111-3
2	銅製品	銭貨	径28.39 厚さ1.24 重さ4.2	SX2	寛永通寶(四文銭)	111-3
3	銅製品	銭貨	径23.41 厚さ1.35 重さ3.0	SX2	寛永通寶(新)	111-3
4	銅製品	銭貨	径26.60 厚さ1.14 重さ3.1	SX2	文久永寶	111-3
5	銅製品	銭貨	径(24.66) 厚さ(1.49) 重さ3.3	SX2	不明 上下表裏不明の為拓本を見て計測	111-3
6	銅製品	銭貨	径21.41 厚さ0.84 重さ1.5	SX3	寛永通寶(新)	

SX2



2



3



第206図 性格不明遺構出土遺物 (14)

第70表 性格不明遺構出土遺物観察表 (7) (第206図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	砥石	[14.0]	6.8	1.2	151.9	粘板岩	SX2		
2	石製品	砥	[5.1]	[5.1]	0.8	34.7	粘板岩	SX2		110-6
3	珊瑚製品	簪	[12.7]	1.0	0.5	4.8	サンゴ	SX2	アカサンゴ	110-7

(6) グリッド出土遺物 (第207～216図)

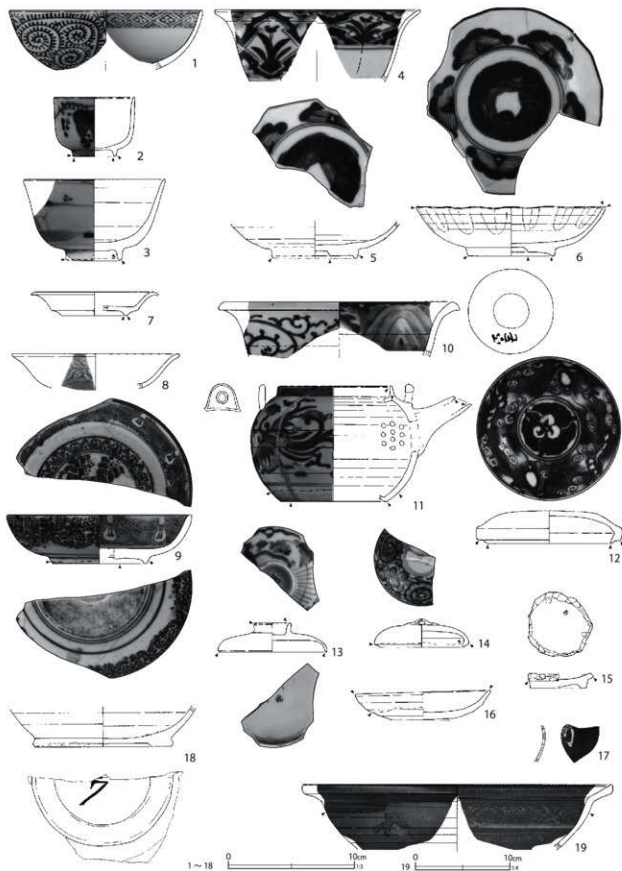
いずれの遺構にも帰属させることのできない遺物には、陶磁器、土器、瓦、木製品、鉄製品、銭貨がある。

第207～210図は、陶磁器、土器である。湯呑碗、酸化コバルトの染付、陶器には民窯製品、土器に

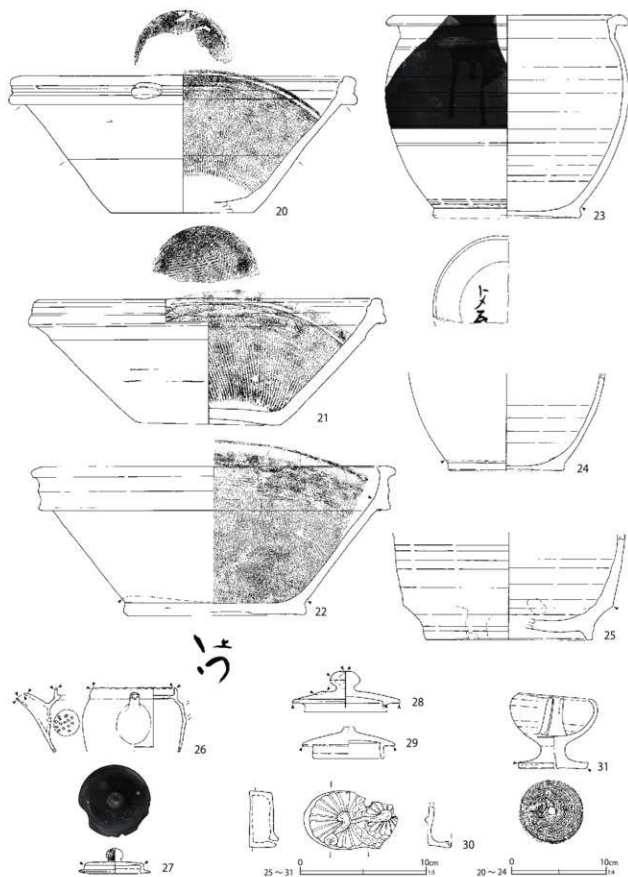
は植木鉢などを含み、19世紀前半から中葉を中心とすると考えられる。

1～7・9～14は肥前系、瀬戸美濃系の磁器である。図示できたものは、瀬戸美濃系磁器の割合が高い。

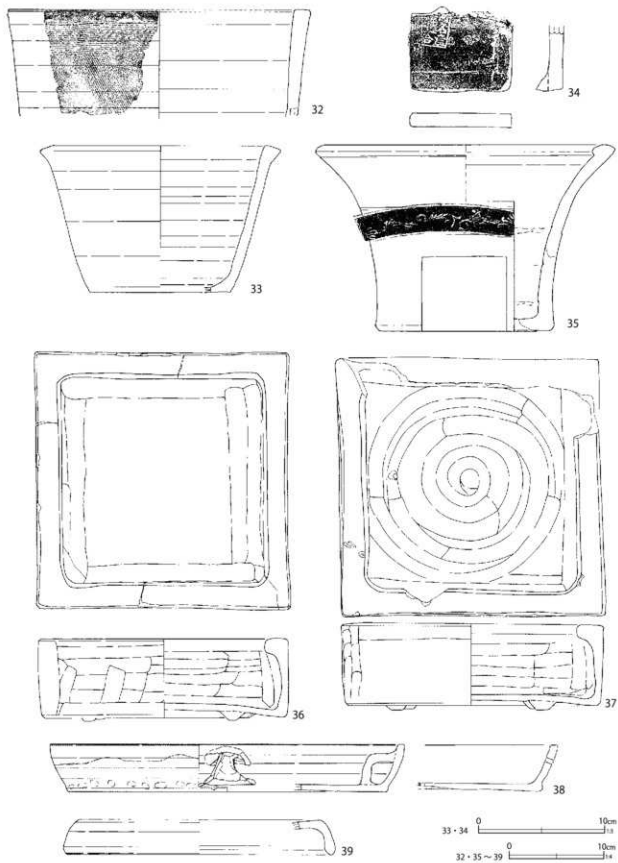
1～3は碗類で、染付が施されている。1は肥



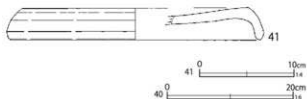
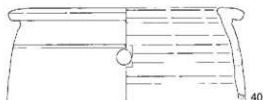
第207図 グリッド出土遺物（1）



第208図 グリッド出土遺物 (2)



第209図 グリッド出土遺物（3）

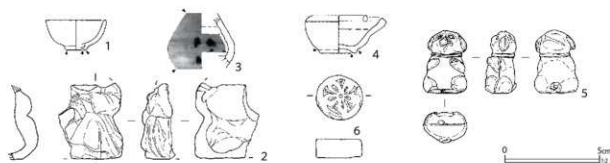


第210図 グリッド出土遺物（4）

第71表 グリッド出土遺物観察表（1）（第207～210図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	(15.0)	[4.7]	—	K	5	良好	灰白	B8-B4 肥前系 大碗 施軸 染付	98-7
2	磁器	碗	6.3	4.7	3.2	IK	40	良好	白	B8-E5 瀬戸美濃系 施軸 外面染付	
3	磁器	碗	11.0	6.5	4.0	K	60	良好	白	B8-J7 表採 瀬戸美濃系 施軸 染付	
4	磁器	鉢	(16.0)	[5.7]	—	K	5	普通	白	SK1 肥前系 施軸 染付	
5	磁器	皿	—	3.0	(6.6)	K	40	良好	白	SK1 瀬戸美濃系 施軸 内面酸化コバルト染付・陰刻	
6	磁器	皿	14.8	3.9	6.6	IK	65	良好	灰白	SK1 瀬戸美濃系 施軸 内面染付・陰刻 焼継印「六二七」	98-8
7	磁器	皿	(9.2)	[1.9]	(5.1)	IK	50	良好	白	SK1 瀬戸美濃系 型押考文 施軸	
8	磁器	皿	(13.0)	[2.7]	—	K	5	良好	白	B8-D5 青磁軸 内面陽刻	99-1
9	磁器	皿	(14.3)	3.9	(7.2)	IK	30	良好	白	SK1 瀬戸美濃系 施軸 型紙摺輪染付	
10	磁器	鉢	(18.0)	[4.4]	—	IK	20	良好	白	SK1 肥前系 施軸 染付	
11	磁器	土瓶	8.8	9.2	8.3	K	90	良好	灰白	肥前系 施軸 外面染付 焼継	99-2
12	磁器	蓋	—	2.6	9.6	K	95	良好	白	SK1 瀬戸美濃系 蓋物の蓋 施軸 外面酸化コバルト染付	99-3
13	磁器	蓋	つまみ (2.7)	2.3	(8.4)	K	30	普通	白	B8-E5 瀬戸美濃系 施軸 染付「大化」	99-4
14	磁器	蓋	(6.6)	2.3	—	IK	40	良好	白	B8-J5 表採 肥前系 蓋物の蓋 施軸 外面染付	
15	陶器	天目碗	(5.1)	[1.2]	4.3	IK	5	普通	灰白	B8-D4 瀬戸美濃系 鉄軸 円盤状土製品 転用 見込みビン底2残存	
16	陶器	皿	10.6	2.3	4.8	IK	85	普通	浅黄	B8-J7 表採 瀬戸美濃系 灰軸か 全体被熱	
17	陶器	急須	—	[2.4]	—	I	5	良好	褐灰	SK1 萬古系 外面上絵付(白)	
18	陶器	鉢	—	[3.2]	(10.6)	HIK	40	良好	にぶい黄	SK1 灰軸 底部墨書 蛇ノ目高台	99-5
19	陶器	鉢	(32.4)	[6.9]	—	HIK	10	良好	にぶい赤褐	SK1 肥前系 施軸 三島手	
20	陶器	摺鉢	(34.2)	14.7	(15.0)	EHKL	50	良好	暗赤褐	B8-J7 表採 堺明石系 片口 摺目12条1単位	
21	陶器	摺鉢	35.4	13.5	15.3	EIKL	50	良好	赤	B8-J7 表採 堺明石系 摺目11条1単位	99-6
22	陶器	摺鉢	(36.0)	15.7	18.5	IK	70	良好	にぶい橙	SK1 笠間系 鉄軸 摺目18条1単位 高台内墨書 錆化粧	99-7
23	陶器	壺	(23.5)	21.5	(15.0)	IK	25	良好	灰白	B8-D5 柿軸 灰軸流し掛け 底面墨書「トメ〇」 内面重ね焼痕3残存	99-8
24	陶器	壺	—	10.4	11.9	K	45	普通	灰黄	SK1 蛇ノ目高台 柿軸 灰軸流し掛け 内面重ね焼痕3残存	100-1
25	陶器	壺	—	[8.4]	(12.8)	EIK	45	良好	橙	瀬戸美濃系 柿軸 重ね焼痕3残存	100-2
26	陶器	急須	(6.4)	—	[5.1]	A	30	良好	灰	SK1 萬古系 把手剥離 布目 口縁・注口鉄軸	
27	陶器	つまみ	1.4	2.0	4.2	I	95	良好	灰褐	SK1 萬古系 急須の蓋 金影 被熱	100-3
28	陶器	蓋	つまみ 2.3	[2.9]	—	K	85	良好	にぶい黄橙	B8-B4 鉄軸 白土	100-4
29	陶器	蓋	つまみ (0.8)	[2.6]	(5.6)	IK	50	普通	灰	松岡系 土瓶の蓋 外面うのふ軸	100-5
30	陶器	水筒	幅 7.5 長さ 4.7 高さ 2.3	—	—	HIK	100	良好	灰白	SK1 京都信楽系 灰軸 型成形	
31	陶器	乗燭	5.6	6.0	5.1	IK	95	良好	灰黄褐	瀬戸美濃系 鉄軸 回転系切り(右)	100-6
32	瓦質土器	燈が	(31.8)	[11.4]	—	GHK	5	普通	にぶい黄橙	B8-B6 煤付着 被熱 櫛歯17条1単位	
33	瓦質土器	榎木鉢	(16.6)	11.6	(11.0)	ABC1	25	普通	橙	B8-D5 煤付着	
34	土師質土器	燈が	縦 5.2 横 1.1 高さ 1.1	—	—	AD	5	良好	にぶい黄橙	SK1 三河産 箱形 刻印「〇〇座〇合」	
35	瓦質土器	燈が	29.3	[19.7]	18.0	IK	80	普通	黒	B8-J7 Na.2 口縁・体部中位ミガキ 塗す	100-7
36	瓦質土器	火鉢	縦 27.4 横 8.6 高さ 26.7	—	—	HIK	95	普通	にぶい橙	B8-J7 砂目底 口縁ミガキ 被熱 煤付着	100-8
37	瓦質土器	火鉢	縦 27.3 横 9.2 高さ 28.9	—	—	ACG1	85	普通	にぶい橙	B8-J7 砂目底 口縁ミガキ 穿孔4 被熱 煤付着	101-1

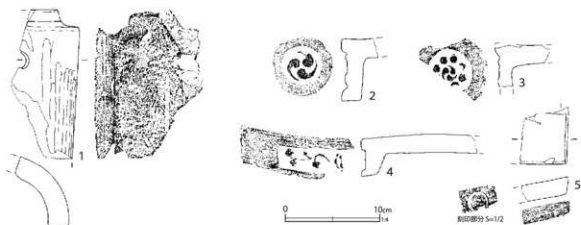
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
38	瓦質土器	焙烙	(37.4)	5.1	(33.6)	CEIK	40	普通	灰白	Na.1 平底 砂目底 体部ナデ 煤付着 指頭痕 補修痕	
39	瓦質土器	蓋	(28.0)	3.7	(25.3)	ACDHK	20	普通	黒	火消垂の蓋 砂目底 外面上位ケズリ 煤付着	
40	瓦質土器	甕罎	(30.0)	[15.5]	—	HIK	5	普通	浅黄橙	全体に煤付着	
41	瓦質土器	蓋	23.8	3.4	26.1	AHIK	70	普通	にぶい靑	火消垂の蓋 砂目底 体部上位ケズリ 内面煤付着	



第211図 グリッド出土遺物 (5)

第72表 グリッド出土遺物観察表 (2) (第211図)

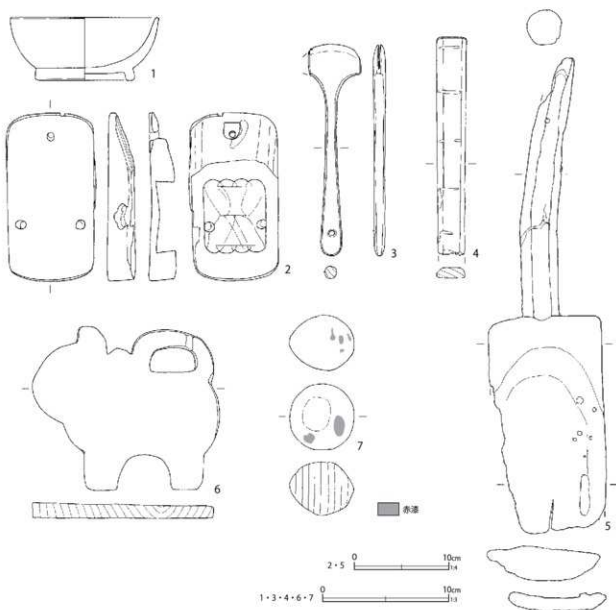
番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	ミニチュア	(3.2)	1.6	(1.0)	3.7	K	良好	白	B8-D5 瀬戸美濃系 施釉 碗	101-7
2	磁器	水筒	[3.4]	[4.0]	[1.8]	16.8	K	良好	三彩	SV1 瀬戸美濃系 色絵 型成形	101-8
3	磁器	徳利	—	[2.9]	—	5.3	K	普通	白	瀬戸美濃系 外面施釉 染付 御神酒徳利	
4	磁器	ミニチュア	2.7	2.0	1.9	14.3	K	良好	白	瀬戸美濃系 埋珠釉 口縁鉄釉	102-1
5	土製品	人形	2.3	3.3	1.6	9.4	A	良好	靑	B8-17 土師質 大 二枚型 中空 雲母付着 江戸在地系	102-2
6	土製品	泥面子	2.4	1.0	2.4	6.4	AHIK	普通	橙	一枚型 中空 雲母付着 江戸在地系 透明釉か	



第212図 グリッド出土遺物 (6)

第73表 グリッド出土遺物観察表 (3) (第212図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	備考	図版
1	瓦	丸瓦	[15.7]	[7.0]	2.2	—	—	AIJK	普通	暗灰	B8-D5 裏面刷目 補修孔径 1.5cm	
2	瓦	軒棧瓦	—	—	2.0	—	6.4	AIK	普通	暗灰	B8-J7 連珠三ツ巴右巻き 巴頭部大尾長い 巴若干離れる 光沢あり	
3	瓦	軒棧瓦	—	—	1.9	[4.3]	—	IK	普通	灰	B8-B4 連珠三ツ巴右巻き 12珠 巴小凹凸なし尾短い 周縁幅広 光沢あり	
4	瓦	軒棧瓦	—	—	1.8	4.0	—	A	普通	灰	南北トレンチ南側V型 A種江戸式II類か 唐草K類 上面焼け 下面砂目	
5	瓦	平瓦	[5.9]	[4.9]	1.7	—	—	AIK	普通	灰	B8-D5 刻印 光沢あり	106-2



第213図 グリッド出土遺物（7）

第74表 グリッド出土遺物観察表（4）（第213図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	備考	図版
1	木製品	漆碗	—	—	—	11.5	4.9	7.5	SX1 内外面黒漆	108-8
2	木製品	下駄	17.8	9.4	—	—	2.8	—	H8-17 割り下駄	
3	木製品	団扇	16.6	[4.2]	0.9	—	—	—	SX1 孔を金属で覆う	
4	木製品	ものさし	[17.1]	2.3	0.8	—	—	—	SX1 墨書で目盛を記す	108-9 108-10
5	木製品	駒	[60.0]	12.0	3.6	—	—	—	H8-J7	
6	木製品	看板	14.9	12.7	1.2	—	—	—	H8-H6	
7	木製品	球状製品	—	4.3	4.2	5.1	—	—	H8-17 赤漆	

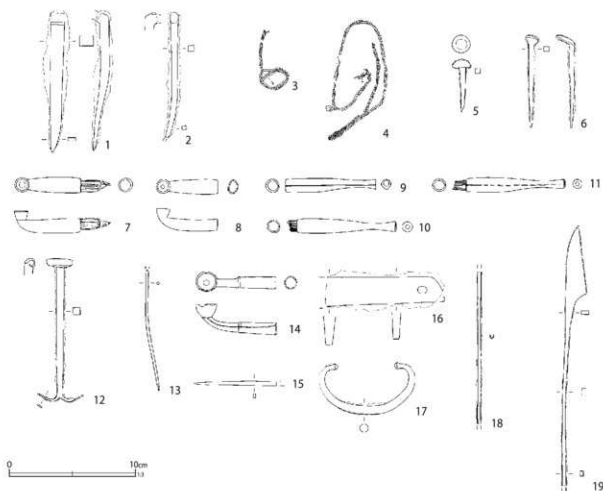
前系の大振りの碗で、古相である。2は瀬戸美濃系の湯呑碗である。

4は肥前系の鉢で、大きく草花文が施されている。

5は内面に酸化コバルトの染付が施されている。

6は輪花皿で焼継が施されている。7は、瀬戸美濃系の型押しの寿文皿である。

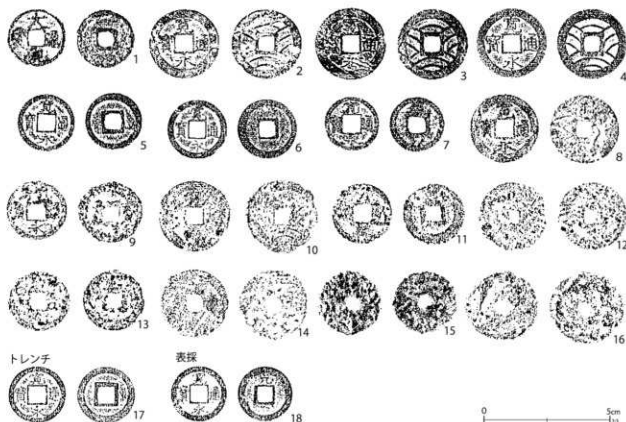
13は瀬戸美濃系の蓋、14は肥前系の蓋物の蓋



第214図 グリッド出土遺物（8）

第75表 グリッド出土遺物観察表（5）（第214図）

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	鉄製品	釘	長さ [11.0] 幅 1.1 厚さ 0.8 重さ 36.4	B8-B3		
2	鉄製品	釘	長さ [9.8] 幅 0.5 厚さ 0.5 重さ 12.2	B8-B3		
3	銅製品	針金	縦 4.8 横 2.4 厚さ 0.1 重さ 1.6	B8-B4		
4	銅製品	針金	縦 9.5 横 4.8 厚さ 0.75 重さ 5.0	B8-B4		
5	鉄製品	鉋	長さ [4.0] 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 5.9	B8-B4		
6	鉄製品	釘	長さ 7.4 幅 0.4 厚さ 0.4 重さ 6.2	B8-B4		
7	銅製品	煙管	長さ 5.2 火皿径 1.1 小口径 1.1 重さ 14.9	B8-C4	雁首 羅字残存	
8	銅製品	煙管	長さ 4.8 火皿径 1.1 小口径 0.9 小口横 1.1 重さ 8.1	B8-C4	雁首	
9	銅製品	煙管	長さ 7.1 口付縦 0.8 口付横 0.7 小口径 1.0 重さ 14.9	B8-C4	吸口	
10	銅製品	煙管	長さ 7.9 口付縦 1.0 小口径 0.8 重さ 16.5	B8-C4	吸口 羅字残存	
11	銅製品	煙管	長さ 7.8 口付縦 1.0 口付横 1.1 小口径 0.7 重さ 16.6	B8-C4	吸口 羅字残存	
12	鉄製品	釘	長さ 11.3 幅 0.6 厚さ 0.6 重さ 27.7	B8-B3		
13	銅製品	管	長さ [9.4] 幅 0.2 厚さ 0.2 重さ 1.7	B8-D5		
14	銅製品	煙管	長さ 6.3 火皿縦 1.6 火皿横 1.7 小口径 1.0 重さ 7.9	B8-D5	雁首	
15	鉄製品	鉋	長さ [6.5] 幅 0.3 厚さ 0.2 重さ 2.9	B8-D5		
16	鉄製品	刃物	長さ [9.3] 背幅 1.0 茎幅 2.3 重さ 80.3	B8-D5	茎部	
17	鉄製品	把手	縦 4.0 横 7.6 厚さ 0.7 重さ 19.8	B8-D5	引出しの把手	110-2
18	鉄製品	不明	長さ [12.1] 幅 0.3 厚さ 0.05 重さ 2.3	B8-D5		
19	鉄製品	鉄	長さ [20.5] 刃幅 1.6 背幅 0.3 重さ 24.3	B8-E5		



第215図 グリッド出土遺物（9）

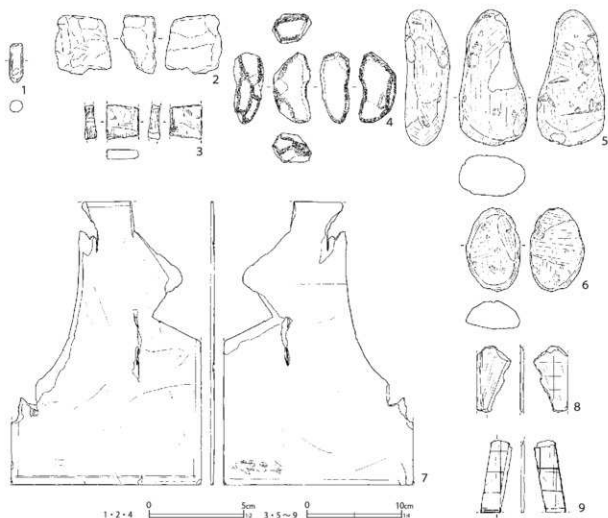
第76表 グリッド出土遺物観察表（6）（第215図）

番号	種別	器種	法量	造構	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径(23.40) 厚さ1.11 重さ2.6	H8-D4	寛永通寶	111-3
2	銅製品	銭貨	径28.22 厚さ1.32 重さ4.8	H8-B4	寛永通寶(四文銭)	111-3
3	銅製品	銭貨	径28.46 厚さ1.68 重さ5.1	H8-B4	寛永通寶(四文銭)	111-3
4	銅製品	銭貨	径28.13 厚さ1.11 重さ4.2	H8-B3	寛永通寶(四文銭)	111-3
5	銅製品	銭貨	径22.88 厚さ1.02 重さ2.2	H8-D5	寛永通寶(新)	111-3
6	銅製品	銭貨	径24.00 厚さ0.99 重さ2.2	H8-D4	寛永通寶(新)	111-3
7	銅製品	銭貨	径21.89 厚さ0.93 重さ2.1	H8-B4	寛永通寶(新)	111-3
8	銅製品	銭貨	径27.82 厚さ1.79 重さ4.7	H8-B4	寛永通寶	111-3
9	銅製品	銭貨	径(24.59) 厚さ1.55 重さ3.2	H8-D5	寛永通寶	111-3
10	銅製品	銭貨	径28.74 厚さ1.77 重さ4.5	H8-D5	寛口□□(四文銭)	
11	銅製品	銭貨	径(24.89) 厚さ1.31 重さ2.7	H8-D5	不明 上下不明の為拓本を見て計測	
12	銅製品	銭貨	径(28.14) 厚さ(1.84) 重さ4.8	H8-D5	不明 上下表裏不明の為拓本を見て計測	
13	銅製品	銭貨	径(24.70) 厚さ(1.45) 重さ2.6	H8-D5	不明 □□通口か 上下不明の為拓本を見て計測	
14	銅製品	銭貨	径(27.46) 厚さ1.52 重さ4.7	H8-D5	□□通口	
15	銅製品	銭貨	径(26.23) 厚さ(2.28) 重さ3.9	H8-D5	不明 上下表裏不明の為拓本を見て計測	
16	銅製品	銭貨	径(28.51) 厚さ(1.92) 重さ5.4	H8-D5	不明 上下表裏不明の為拓本を見て計測	
17	銅製品	銭貨	径22.81 厚さ1.00 重さ2.3	リソフ	寛永通寶(新)	111-3
18	銅製品	銭貨	径22.44 厚さ1.16 重さ2.3	表採	寛永通寶(新)	111-3

である。

陶器には瀬戸美濃系、京都信楽系、堺明石系の他に民窯の萬古系、笠間系、松岡系等が混在する。15は瀬戸美濃系陶器の天目碗である。周辺を打ち

欠いており、転用の陶製円板と考えられる。17・26・27は萬古系、22は笠間系、29は松岡系である。27の急須の蓋のつまみは、縦方向に細かな回線が入る。



第216図 グリッド出土遺物 (10)

第77表 グリッド出土遺物観察表 (7) (第216図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	備考	図版
1	石製品	石筆	2.1	0.7	0.7	1.7	玉髄		
2	石製品	火打石	3.1	3.0	1.9	16.7	玉髄	H8-D5 全面トロトロ	
3	石製品	砥石	[13.7]	13.4	[1.3]	23.9	流紋岩	H8-E5 表裏・両側使用	
4	石製品	火打石	3.7	2.0	1.6	14.0	玉髄	H8-D5 褐色 被熱か	
5	石製品	磨石	14.4	7.2	4.7	186.1	軽石	SX1 全面スリ 断面楕円形	110-8
6	石製品	磨石	8.9	5.7	3.2	64.5	軽石	SX1 全面スリ 断面半月形	110-8
7	石製品	石板	29.8	20.1	0.4	284.0	粘板岩	SX1 側面工具痕	
8	石製品	石板	[7.0]	[3.6]	0.4	12.9	粘板岩	SX1 側面工具痕 裏面磨線	
9	石製品	石板	[7.6]	[3.3]	0.4	12.1	粘板岩	H8-J7 両面磨線 擦痕多 側面工具痕	

第209・210図32～41は土器である。いずれも産地は不明である。32は全体に煤が付着する焔炉で、17条1単位の櫛歯が施されている。34の焔炉の底面は、部分的だが、「○○産○合」の焼印が施されている。

第212図は瓦である。1は丸瓦、2～4は軒棧

瓦である。他に平瓦、棧瓦の破片が多く出土した。4は唐草の先端が三つ葉状になっている。5には「〇」の刻印が施されている。

第213図は木製品である。多様な器種が出土している。5は鋤、6は看板である。第2・4地点では他に例がない。

4. 文字資料

第2地点と第4地点から出土した木製品には、文字が書かれた資料が確認された。第2地点では89点、第4地点では31点、合計120点である。

器種は荷札が中心である。文字の記述方法は墨書が主体で、一部に焼印が使われている。

記載内容については、荷札が主体であることから、人物、屋号、地名、日付が多くみられる。

人物では、「高橋由助」「橋本又左衛門」「多兵衛」「直兵衛」「源右衛門」「善左衛門」「清水又兵衛門」「万右衛門」「十兵衛」「清水茂兵衛」「弥兵衛」「まつや弥兵衛」「野村弥兵衛」「野辺清次」「高龍右衛門」「平兵衛」「酒井岩四郎」「伊勢屋直兵衛」などがある。特に、「橋本又左衛門」は第2地点で45点と群を抜いて多い。

地名では、「武州栗橋宿」「武州栗はし」「くり

はし」「栗はし」「栗橋」「栗橋町」「栗橋中町」「大山村」「柏市」「武荳栗橋」「栗ハシ村」「栗橋村」「武州くりはし」「武荳栗はし」「くり橋」「愛知縣中嶋郡赤池村」「岩手縣」などがある。

容器の蓋には、「梅干」「極上梅」などの内容物が書かれているものがある。

屋号ではカネに柚、ヤネに又、ヤネにみ、ヤネにキ、カネに杓、カネに吉、ヤネに万、ヤネにス、丸に一、□に紺長、丸に久、丸に上、□にトなどがある。

第2地点の積文を第78表、第4地点の積文を第79表に掲載した。第2地点の遺物写真を図版43～53、第4地点の遺物写真を図版48～53、112～114に掲載した。

第78表 第2地点文字資料積文

※文字が確認できなかったものは欠番とした

番号	遺構	器種	長さ	幅	厚さ	積文	図版
1	SK3	荷札	13.7	3.0	0.20	【表】 子七月十四日 二十三文 楊沼清吉 百五十二 【裏】 武州栗橋町 武十銭 高橋由助 戻し	48-1
2	SK3	荷札	12.7	4.5	0.20	子七月十二日 □□□ 六升□□文	48-2
3	SK3	木札	12.5	2.5	0.20	卯七月 橋本又左衛門	48-3
4	SK3	荷札	12.0	3.5	0.20	卯十月十八日 五本 橋本 □□	48-4
5	SK3	荷札	11.4	2.3	0.20	【表】 □□□ 寺 江上助七 □□□ 【裏】 十五両 二番	48-5
6	SK5	荷札	11.0	2.5	0.05	五月十九日おいて 一老貫文 丑	48-6
7	SK8	荷札	17.0	5.4	0.50	□□さわ 長嶋や 橋本又左衛門 神田引 [] 加し []	48-7
9	SK8	木札	12.0	2.8	0.50	大惣代又八	48-8
10	SK10	荷札	16.5	6.4	0.80	【表】 銭差三十文 三寸五十文 合文 壹寸五 百文 【裏】 栗橋 柏市 橋本又左衛門殿行	48-9
11	SK10	荷札	20.4	4.3	0.40	武州栗はし 橋本又左衛門殿行	48-10
12	SK6	荷札	19.2	5.0	0.30	栗橋 橋本又左衛門殿 栗橋角	48-11
13	SK12	木札	10.5	2.5	0.60	橋 九七	48-12

番号	遺構	器種	長さ	幅	厚さ	釈文	図版	
14	SK12	荷札	18.0	4.3	0.90	 紙屋多兵衛殿 栗はし 柏	48-13	
15	SK12	荷札	18.3	3.4	0.40	【表】  又左衛門殿 □□	48-14	
16	SK12	荷札	19.3	4.2	0.80	くりはし 橋本又左衛門殿行 	48-15	
17	SK12	荷札	14.9	4.6	1.00	【表】 □□廿老日 関東筋定右衛門荷物	【裏】  大宮定夫 橋本亦右衛門様	49-1
19	SK12	荷札	10.5	4.3	0.04	【表】 二月八日 式百五十式文□□ 二月八日	【裏】 大山村 文蔵	49-2
20	SK12	荷札	27.0	4.0	0.30	【表】 武州栗橋 橋本又左衛門殿行 長田家	【裏】 道具小茶わん 三百廿文也	49-4
21	SK12	荷札	18.5	5.2	0.50	【表】 栗はし 橋本又左衛門殿行 柏市	【裏】 上ヨリさし 三十三里	49-5
23	SK12	荷札	5.2	3.4	0.04	 □天都 □□天王山	小まろや	49-3
24	SK12	荷札	10.4	2.6	0.70	橋杭そ三		49-6
25	SK13	荷札	9.2	8.3	0.80	□□ 三百本 本六分板 巾三尺 外八寸老枚		49-7
26	SK13	木札	19.2	5.3	0.80	【表】  秋	【裏】  秋	49-8
27	SK13	荷札	19.1	4.2	0.70	【表】 秋 □□□ 栗橋宿 橋本又左衛門殿	【裏】 戸崎村 □□木屋□□□	49-9
28	SK13	荷札	11.5	3.2	0.60	【表】	【裏】 拾三〇八百□□	49-10
30	SK16	蓋	19.0	内形	0.70	□□ 十六□□□梅千 □ト		49-11
31	SK17	荷札	17.6	7.1	0.50	文政十一年 なりたや 茂木氏		49-12
32	SK17	荷札	19.4	6.3	0.70	栗橋 橋本又左衛門殿 □□		50-1
33	SK18	荷札	20.5	2.5	0.50	□□栗はし 大坂屋		50-2
34	SK18	荷札	18.8	4.8	1.20	栗橋 木材商 橋本又左衛門殿 万長		50-3
35	SK18	荷札	19.1	5.3	0.70	粕壁 油屋直兵衛殿 大藤		50-4
36	SK18	荷札	11.6	3.4	0.50	□□橋本		50-5
38	SK20	荷札	19.5	5.4	0.90	栗橋 橋本又左衛門 万長		50-6
39	SK19	荷札	20.1	4.0	0.50	栗橋 橋本又左衛門殿 万長		50-7

番号	遺構	器種	長さ	幅	厚さ	釈文		図版
40	SK19	荷札	20.0	5.2	0.70	栗はし 橋本又左衛門殿行		50-8
41	SK19	荷札	19.2	4.2	0.40	栗はし はし本亦左衛門殿行 荷物 伊七		50-9
42	SK19	蓋	10.5	円形	0.50	㊦		50-10
43-1	SK19	荷札	19.4	5.5	1.20	栗橋 橋本又左衛門殿 万長		50-11
43-2	SK19	荷札	20.0	5.7	0.70	【表】  □□表 □□右衛門 □□ 栗橋 源右衛門	【裏】 □□改 大坂立売嶋佐内	50-12
43-3	SK19	荷札	19.1	4.2	0.50	【表】 栗橋 高田や□八 橋本又左衛門殿行	【裏】 執□	50-13
43-4	SK19	荷札	19.9	3.4	1.10	栗橋 万長 橋本又左衛門殿		50-14
44	SK23	荷札	22.5	6.2	1.40	栗橋中町 喜□方 荷物  橋本又左衛門殿		50-15
45	SK24	荷札	21.0	4.2	0.90	栗橋宿 △□ 橋本又左衛門殿行 上物廿四入 □六組		50-16
46	SK24	荷札	18.4	7.0	0.60	文政四年辛巳四月六日 武州栗橋宿中町 橋本又左衛門殿行		51-1
47	SK24	木札	10.0	円形	0.90	め		50-17
49	SK24	荷札	18.0	5.3	0.70	【表】 栗橋 □□出  橋本又左衛門殿 □□	【裏】 栗橋町□ 橋本又左衛門 □□□	51-2
50	SK24	荷札	18.4	5.0	0.60	梗		51-3
51	SK24	荷札	17.5	5.1	0.60	【表】 栗橋 番類拾参貫目入	【裏】 武品栗橋 橋本又左衛門様 いせや 善左衛門	51-4
53	SK24	荷札	22.1	7.2	0.60	【表】 □□□	【裏】 武州栗橋 橋本又左衛門殿 本屋□□□	51-5
54	SK24	荷札	18.9	6.9	0.80	 武州栗橋 □□ 橋本又左衛門殿行 □□		51-6
55	SK24	木札	6.1	3.7	0.60	【表】 源八	【裏】 源八	51-7
56	SK31	荷札	19.5	5.0	0.90	武品栗橋 ほりどめ 清水又兵衛 はし本又左衛門殿行		51-8
57	SK31	荷札	20.2	5.9	0.70	武州栗橋宿 阿波や 嘉兵衛 橋本又左衛門殿行 		51-9
58	SK31	荷札	15.6	1.7	0.05	万右衛門		51-10
59	SK39	荷札	15.9	4.5	0.20	武州栗橋 橋本又左衛門 又左衛門殿		51-11
60	SK1	荷札	25.8	4.5	0.30	武州栗はし		51-12
62	SK1	荷札	12.5	2.0	0.50	十兵衛 □□□		51-13
63	SK1	荷札	25.5	4.4	0.20	栗橋 □ 橋本又左衛門		52-1

番号	遺構	器種	長さ	幅	厚さ	釈文	図版
64	SD4	荷札	18.9	4.5	0.60	【表】 式拾式為器式棒之内 上框横入 □五頁七百五 【裏】 栗橋中町 大坂や□右衛門 	51-14
65	SD4	荷札	19.5	5.0	0.90	栗橋 橋本又左衛門殿行 	52-2
66	G8-H3	荷札	20.0	4.7	0.70	武島栗橋 橋本又左衛門殿 柳弥	52-3
67	G8-H3Gr	荷札	18.5	5.2	0.50	武島栗橋 いづみや 佐兵衛 	52-4
68	G8-H3Gr	荷札	14.0	4.2	0.60	橋本又左衛門 清水茂兵衛殿行	52-5
69	H8-B3Gr	荷札	12.5	3.1	0.20	【表】 □□□□ 【裏】 栗橋 橋本又左衛門	52-6
70	G8-13Gr	荷札	19.6	4.9	1.10	栗ハし村 橋本又左衛門殿行	52-7
71	G8-13Gr	荷札	20.2	4.7	1.10	栗橋村 橋本又左衛門殿 万長	52-8
72	G8-J4Gr	木札	18.0	3.5	0.40	文政□□ 舟嘉路 巳九月吉日	52-9
73	G8-G3Gr	荷札	19.2	4.2	0.70	栗橋町迄 橋本又左衛門殿 万	52-10
74	G8-G3Gr	荷札	18.2	3.0	0.50	□□ 橋本又左衛門殿分 □□	52-11
75	G8-H3Gr	荷札	9.0	7.5	0.70	五寸 廿本 五寸十本	52-12
76	G8-H3Gr	荷札	19.8	5.5	0.90	武州くりはし 清水茂兵衛 橋本又左衛門殿行	52-13
77	G8-H3Gr	荷札	19.1	5.0	0.60	武島栗はし まつや 弥兵衛 橋本又左衛門殿	52-14
78	G8-H3Gr	荷札	18.4	5.0	1.00	くり橋 橋本又左衛門殿 万	52-15
79	G8-H3Gr	荷札	19.5	5.4	0.80	くりはし 橋本又左衛門殿行 万長	52-16
80	G8-H3Gr	荷札	18.9	5.9	0.90	栗橋 橋本又左衛門殿 万長	52-17
81	G8-H3Gr	荷札	14.0	3.0	0.40	大上木 品川 高橋	53-1
82	G8-H3Gr	荷札	14.1	3.0	0.30	①【表】 大上木 品川 高橋 ①【裏】	53-2
	G8-H3Gr	荷札	14.1	3.0	0.30	②【表】 ②【裏】 栗橋二面□□	
83	G8-H3Gr	荷札	14.2	3.0	0.20	大上木 品川 高橋	53-3
84	G8-H3Gr	荷札	14.3	3.0	0.30	大上木 高橋	53-4
85	G8-H3Gr	木札	12.4	2.4	0.20		53-5
86	SK24	荷札	18.0	4.9	0.70	いくわ 一すん 十七枚入	53-6
87	SD4	荷札	18.2	5.8	0.70	武島栗橋 まつや弥兵衛 はし本又左衛門	53-7
88	SK30	荷札	14.8	4.4	0.60	【表】  四拾二 成歳 【裏】 栗橋 清水十兵衛 橋本又左衛門殿行	53-8
89	G8-H3Gr	荷札	6.4	3.5	1.10	□橋 □又□	53-9

番号	遺構	器種	長さ	幅	厚さ	釈文	図版
91	SK15	荷札	12.5	5.5	1.20	三百文 二十四文	53-10
92	SK12	荷札	8.1	3.0	0.15	□め	53-11
93	SK19	蓋	48.5	13.8	2.60	小納	53-12
94	SK19	蓋	18.9	9.6	0.70	極上梅 十人	53-13
95	SK24	荷札	33.3	5.0	0.15	老本 三拾貳文	53-14

第79表 第4地点文字資料釈文

※文字が確認できなかったものは欠番とした

番号	出土 遺構	器種	長さ	幅	厚さ	釈文	図版
1	SK4	木札	11.5	5.7	0.05	皆済 四百四拾五文 □□村□□□ 新左衛門	112-1
2	SK4	木札	11.3	5.5	0.05	忠實三百八拾貳拾文皆済 百貳拾文 反加役 野村 弥兵衛	112-2
3	SK16	木札	12.5	3.8	0.30	【表】 亥七月廿四日 四十歩 渡邊寛吉 六百六十貳	112-3
4	SK1	荷札	15.0	3.0	2.50	【表】 萬染物所	112-4
5	SX2	荷札	10.5	6.2	1.10	【表】 ② 鳴門上 旭龍 高龍右衛門	112-5
6	SX2	荷札	7.6	5.5	2.30	【表】 紺長	112-6
7	SX2	荷札	11.3	5.5	0.05	[] 六ばん [] されてたまへ よろい八ばん 竹本	112-7
8	SX2	荷札	11.1	7.3	0.90	【表】 ② 布袋 旭龍 □拾□□□	112-8
9	SX2	荷札	15.3	2.8	0.60	【表】 九月廿六日	112-8
10	SX2	荷札	4.8	13.2	0.40	【表】 明治廿一歳子拾月二 营造人 二本口 酒井岩四郎	112-9
11	SX2	荷札	10.7	6.0	0.90	【表】 ② 竹龍 十一	113-1
12	SX2	荷札	14.8	5.2	0.70	愛知縣中嶋郡赤池村□□□ 名古屋大和町時□屋善七殿 伊勢四百番三ツ井物産會社 崎玉縣北崎玉郡西八幡驛□□	113-2
13	SX2	荷札	15.8	5.7	0.60	岩手縣□□ □□□ 山久 三[] 殿行	113-3
14	SX2	木札	16.7	4.6	0.60	明治八年 子八月吉日	113-4

番号	出土 遺構	器種	長さ	幅	厚さ	釈 文	図版
15	SX2	荷札	18.2	2.9	0.60	駿河 武州幸手  ① 伊勢屋直兵衛殿	113-5
16	SX2	荷札	19.5	5.5	0.60	【表】 紺長	113-6
17	SX2	木札	19.5	3.5	0.60	明治武拾貳年	113-8
18	SX2	荷札	10.4	6.1	0.90	【表】  布袋 旭龍 高田屋口んた	113-9
20	SX2	荷札	14.1	5.5	0.50	【表】 白河停車場前ニテ 旅宿業ニテ 山田屋殿行 大至急ニ御送候  利根 武州 紺長	113-10
21	SX2	木札	6.0	12.5	0.50	(店の絵)	113-7
22	H8-J7Gr	荷札	19.0	5.0	0.60	【表】 栗橋  や 極上  □ 樹屋儀兵衛殿行 □玉 □百文十六貫目	113-11
23	H8-J7Gr	荷札	19.1	5.4	0.60	【表】 栗橋  や 極上  □ 樹屋儀兵衛殿行 □玉 □百文ニヤ 十六貫式百目	113-12
24	H8-J7Gr	荷札	19.1	4.7	0.60	【表】 栗橋  や 極上  □ 樹屋儀兵衛殿行 □玉 □百文ノ 十六貫式百目	114-1
25	H8-J7Gr	木札	19.2	5.2	0.60	新泰 	114-2
26	H8-J7Gr	木札	18.3	5.9	0.60	中 [] 小武山 □□□	114-3
27	H8-J7Gr	木札	17.5	4.2	0.60	文字不明	114-4
28	グリッド	木札	12.7	5.0	0.05	【表】 式百五拾四文皆済 百五拾四文午皆済 □式拾五文 反加役 []	114-5
30	SX2	木札	4.5	3.8	0.40	三本線	114-6
31	グリッド	木札	10.5	3.1	0.70	【表】 大輪八 川寄 上 □ 島	114-7
32	SX3	木札	6.6	1.7	0.40	【表】 文字不明	114-8
33	H8-H6Gr	下駄	16.4	8.2	2.00	七□	114-9

5. 出土遺物一覧

第2地点と第4地点で出土した瓦と貝類について一覧表として掲載した。また、主要遺構の陶磁器出土状況を第83・84表に示した。

出土した瓦については、遺構ごとに点数と重量を記録した（第80・81表）。表中の瓦の分類は以下の通りである。

平…棧瓦・平瓦、軒瓦…軒丸瓦・軒棧瓦・軒平瓦、道具瓦…冠瓦・伏間瓦・熨斗瓦

出土した貝類については、種類と個体数を第82表に掲載した。

第83・84表に主要遺構の陶磁器出土状況を示した。分類にあたっては東京大学構内遺跡群の分類（東京大学埋蔵文化財調査室1999・2011）を参照し、器種の判別が可能な破片数と底部破片数をカウントした。表に示したのは、破片数が多かった10遺構の出土状況である。第2地点では、第2号溝跡、第12・14・19号土壇、第1号性格不明遺構である。第4地点では、第1号溝跡、第1・2・4・16号土壇である。

第80表 瓦計測表（第2地点）

重量（g） 破片数（個）

遺構	平		丸		軒		道具瓦		鬼瓦		刻印瓦		津喰		総重量	総破片数
	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数		
S11	-	-	-	-	170	3	-	-	-	-	-	-	-	-	170	3
1号杭列	10036	121	30	1	443	4	342	2	-	-	-	-	-	-	10851	128
SG1	1114	11	-	-	20	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1134	12
SD2	87151	1726	4689	68	2114	20	3548	28	560	10	481	5	-	-	98543	1857
SD3	50	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50	1
SD4	720	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	720	3
SD5	220	4	120	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	340	6
SK3	230	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	230	3
SK4	850	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	850	12
SK5	940	15	-	-	50	1	-	-	-	-	-	-	-	-	990	16
SK6	430	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	430	9
SK8	2765	27	-	-	-	-	110	2	-	-	-	-	-	-	2875	29
SK9	400	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	400	10
SK10	3268	29	330	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3598	30
SK11	719	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	719	4
SK12	3566	36	200	2	209	2	-	-	-	-	-	-	-	-	3975	40
SK13	1380	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1380	18
SK14	7344	80	6131	26	210	1	-	-	-	-	-	-	-	-	13685	107
SK15	150	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	150	3
SK16	3248	16	-	-	-	-	1004	4	-	-	-	-	-	-	4252	20
SK18	780	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60	4	840	20
SK19	689	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	689	5
SK20	1831	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1831	8
SK23	669	10	120	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	789	11
SK24	6783	60	50	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6833	61
SK25	290	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	290	4
SK27	2276	21	50	1	84	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2410	23
SK28	620	10	-	-	65	1	-	-	-	-	-	-	-	-	685	11
SK29	12081	121	1386	12	50	1	-	-	-	-	849	3	-	-	14366	137
SK30	1170	9	-	-	221	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1391	11
SK31	400	5	576	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	976	7
SK32	490	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	490	8

遺構	平		丸		軒		道具瓦		鬼瓦		刻印瓦		漆喰		総重量	総破片数
	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数		
SK33	540	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	540	4
SK36	70	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	70	1
SK37	1660	22	80	2	-	-	80	1	-	-	127	1	-	-	1947	26
SK38	2134	17	270	1	-	-	71	1	-	-	-	-	-	-	2475	19
SK40	30	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30	1
SK1	2525	28	570	4	133	1	417	1	-	-	-	-	-	-	3645	34
合計	159619	2478	14602	124	3769	38	5572	39	560	10	1457	9	60	4	185639	2702

第81表 瓦計測表（第4地点）

重量（g） 破片数（個）

遺構	平		丸		軒		道具瓦		鬼瓦		刻印瓦		漆喰		総重量	総破片数
	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数	重量	破片数		
SD1	270	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	270	2
SK1	33282	217	2794	9	1519	4	1069	5	-	-	212	1	-	-	38876	236
SK2	25689	136	1330	8	795	2	-	-	-	-	-	-	-	-	27814	146
SK3	310	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	310	7
SK5	1280	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1280	21
SK6	10	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	1
SK7	730	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	730	8
SK15	210	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	210	2
SK18	440	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	440	3
SK19	1600	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1600	10
SK2	3500	58	3120	24	91	1	-	-	-	-	5445	5	-	-	12156	88
グリッド	3640	57	-	-	-	-	450	7	100	1	-	-	-	-	4190	65
南北トレンチ	-	-	-	-	422	1	-	-	-	-	-	-	-	-	422	1
合計	70961	522	7244	41	2827	8	1519	12	100	1	5657	6	0	0	88308	590

第82表 出土品類一覧（第2・4地点）

※数字は破片を含む総数を表す

	第2地点									第4地点	
	SK 6	SK 8	SK10	SK12	SK13	SK19	SK23	SK24	SK31	SK1	SK2
ホタテ	1				2	2	3	1	2		
シジミ		536	903	4	32		2			4	2
アカニシ							1				
タイラギ							2				
カキ				1						1	
ホッキ	1										

ID	TC9			TC10			TC15			TC23			TC27			TC30			TC34			TC40			TC44			TC50		
	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c
S02	1	1	1	2	1	2	1	4	28	3	1	1	1	2	16	1	1	3	6	2	1	3	6	2	1	1	4	1	2	
S03	1	1	1	2	1	3	1	1	1	6	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S04	1	1	1	1	1	3	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S05	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S06	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S07	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S08	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S09	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S10	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S11	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S12	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S13	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S14	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S15	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S16	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S17	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S18	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S19	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S20	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S21	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S22	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S23	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S24	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S25	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S26	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S27	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S28	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S29	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S30	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S31	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S32	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S33	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S34	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S35	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S36	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S37	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S38	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S39	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S40	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S41	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S42	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S43	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S44	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S45	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S46	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S47	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S48	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S49	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S50	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S51	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S52	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S53	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S54	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S55	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S56	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S57	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S58	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S59	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S60	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S61	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S62	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S63	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S64	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S65	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S66	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	
S67	1	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1	1</																		

ID1	区	环	九龍	不明	ID2	ID4	ID6	ID8	ID18	ID19	ID27	ID36	ID40	ID46	ID50	ID55	ID56	ID57	ID58	ID59	ID61	ID62	ID63	ID64	ID65	ID66	ID67	ID68	ID69	ID70	ID71	ID72	ID73	ID74	ID75	ID76	ID77	ID78	ID79	ID80	ID81	ID82	ID83	ID84	ID85	ID86	ID87	ID88	ID89	ID90	ID91	ID92	ID93	ID94	ID95	ID96	ID97	ID98	ID99	ID100	ID101	ID102	ID103	ID104	ID105	ID106	ID107	ID108	ID109	ID110	ID111	ID112	ID113	ID114	ID115	ID116	ID117	ID118	ID119	ID120	ID121	ID122	ID123	ID124	ID125	ID126	ID127	ID128	ID129	ID130	ID131	ID132	ID133	ID134	ID135	ID136	ID137	ID138	ID139	ID140	ID141	ID142	ID143	ID144	ID145	ID146	ID147	ID148	ID149	ID150	ID151	ID152	ID153	ID154	ID155	ID156	ID157	ID158	ID159	ID160	ID161	ID162	ID163	ID164	ID165	ID166	ID167	ID168	ID169	ID170	ID171	ID172	ID173	ID174	ID175	ID176	ID177	ID178	ID179	ID180	ID181	ID182	ID183	ID184	ID185	ID186	ID187	ID188	ID189	ID190	ID191	ID192	ID193	ID194	ID195	ID196	ID197	ID198	ID199	ID200	ID201	ID202	ID203	ID204	ID205	ID206	ID207	ID208	ID209	ID210	ID211	ID212	ID213	ID214	ID215	ID216	ID217	ID218	ID219	ID220	ID221	ID222	ID223	ID224	ID225	ID226	ID227	ID228	ID229	ID230	ID231	ID232	ID233	ID234	ID235	ID236	ID237	ID238	ID239	ID240	ID241	ID242	ID243	ID244	ID245	ID246	ID247	ID248	ID249	ID250	ID251	ID252	ID253	ID254	ID255	ID256	ID257	ID258	ID259	ID260	ID261	ID262	ID263	ID264	ID265	ID266	ID267	ID268	ID269	ID270	ID271	ID272	ID273	ID274	ID275	ID276	ID277	ID278	ID279	ID280	ID281	ID282	ID283	ID284	ID285	ID286	ID287	ID288	ID289	ID290	ID291	ID292	ID293	ID294	ID295	ID296	ID297	ID298	ID299	ID300	ID301	ID302	ID303	ID304	ID305	ID306	ID307	ID308	ID309	ID310	ID311	ID312	ID313	ID314	ID315	ID316	ID317	ID318	ID319	ID320	ID321	ID322	ID323	ID324	ID325	ID326	ID327	ID328	ID329	ID330	ID331	ID332	ID333	ID334	ID335	ID336	ID337	ID338	ID339	ID340	ID341	ID342	ID343	ID344	ID345	ID346	ID347	ID348	ID349	ID350	ID351	ID352	ID353	ID354	ID355	ID356	ID357	ID358	ID359	ID360	ID361	ID362	ID363	ID364	ID365	ID366	ID367	ID368	ID369	ID370	ID371	ID372	ID373	ID374	ID375	ID376	ID377	ID378	ID379	ID380	ID381	ID382	ID383	ID384	ID385	ID386	ID387	ID388	ID389	ID390	ID391	ID392	ID393	ID394	ID395	ID396	ID397	ID398	ID399	ID400	ID401	ID402	ID403	ID404	ID405	ID406	ID407	ID408	ID409	ID410	ID411	ID412	ID413	ID414	ID415	ID416	ID417	ID418	ID419	ID420	ID421	ID422	ID423	ID424	ID425	ID426	ID427	ID428	ID429	ID430	ID431	ID432	ID433	ID434	ID435	ID436	ID437	ID438	ID439	ID440	ID441	ID442	ID443	ID444	ID445	ID446	ID447	ID448	ID449	ID450	ID451	ID452	ID453	ID454	ID455	ID456	ID457	ID458	ID459	ID460	ID461	ID462	ID463	ID464	ID465	ID466	ID467	ID468	ID469	ID470	ID471	ID472	ID473	ID474	ID475	ID476	ID477	ID478	ID479	ID480	ID481	ID482	ID483	ID484	ID485	ID486	ID487	ID488	ID489	ID490	ID491	ID492	ID493	ID494	ID495	ID496	ID497	ID498	ID499	ID500	ID501	ID502	ID503	ID504	ID505	ID506	ID507	ID508	ID509	ID510	ID511	ID512	ID513	ID514	ID515	ID516	ID517	ID518	ID519	ID520	ID521	ID522	ID523	ID524	ID525	ID526	ID527	ID528	ID529	ID530	ID531	ID532	ID533	ID534	ID535	ID536	ID537	ID538	ID539	ID540	ID541	ID542	ID543	ID544	ID545	ID546	ID547	ID548	ID549	ID550	ID551	ID552	ID553	ID554	ID555	ID556	ID557	ID558	ID559	ID560	ID561	ID562	ID563	ID564	ID565	ID566	ID567	ID568	ID569	ID570	ID571	ID572	ID573	ID574	ID575	ID576	ID577	ID578	ID579	ID580	ID581	ID582	ID583	ID584	ID585	ID586	ID587	ID588	ID589	ID590	ID591	ID592	ID593	ID594	ID595	ID596	ID597	ID598	ID599	ID600	ID601	ID602	ID603	ID604	ID605	ID606	ID607	ID608	ID609	ID610	ID611	ID612	ID613	ID614	ID615	ID616	ID617	ID618	ID619	ID620	ID621	ID622	ID623	ID624	ID625	ID626	ID627	ID628	ID629	ID630	ID631	ID632	ID633	ID634	ID635	ID636	ID637	ID638	ID639	ID640	ID641	ID642	ID643	ID644	ID645	ID646	ID647	ID648	ID649	ID650	ID651	ID652	ID653	ID654	ID655	ID656	ID657	ID658	ID659	ID660	ID661	ID662	ID663	ID664	ID665	ID666	ID667	ID668	ID669	ID670	ID671	ID672	ID673	ID674	ID675	ID676	ID677	ID678	ID679	ID680	ID681	ID682	ID683	ID684	ID685	ID686	ID687	ID688	ID689	ID690	ID691	ID692	ID693	ID694	ID695	ID696	ID697	ID698	ID699	ID700	ID701	ID702	ID703	ID704	ID705	ID706	ID707	ID708	ID709	ID710	ID711	ID712	ID713	ID714	ID715	ID716	ID717	ID718	ID719	ID720	ID721	ID722	ID723	ID724	ID725	ID726	ID727	ID728	ID729	ID730	ID731	ID732	ID733	ID734	ID735	ID736	ID737	ID738	ID739	ID740	ID741	ID742	ID743	ID744	ID745	ID746	ID747	ID748	ID749	ID750	ID751	ID752	ID753	ID754	ID755	ID756	ID757	ID758	ID759	ID760	ID761	ID762	ID763	ID764	ID765	ID766	ID767	ID768	ID769	ID770	ID771	ID772	ID773	ID774	ID775	ID776	ID777	ID778	ID779	ID780	ID781	ID782	ID783	ID784	ID785	ID786	ID787	ID788	ID789	ID790	ID791	ID792	ID793	ID794	ID795	ID796	ID797	ID798	ID799	ID800	ID801	ID802	ID803	ID804	ID805	ID806	ID807	ID808	ID809	ID810	ID811	ID812	ID813	ID814	ID815	ID816	ID817	ID818	ID819	ID820	ID821	ID822	ID823	ID824	ID825	ID826	ID827	ID828	ID829	ID830	ID831	ID832	ID833	ID834	ID835	ID836	ID837	ID838	ID839	ID840	ID841	ID842	ID843	ID844	ID845	ID846	ID847	ID848	ID849	ID850	ID851	ID852	ID853	ID854	ID855	ID856	ID857	ID858	ID859	ID860	ID861	ID862	ID863	ID864	ID865	ID866	ID867	ID868	ID869	ID870	ID871	ID872	ID873	ID874	ID875	ID876	ID877	ID878	ID879	ID880	ID881	ID882	ID883	ID884	ID885	ID886	ID887	ID888	ID889	ID890	ID891	ID892	ID893	ID894	ID895	ID896	ID897	ID898	ID899	ID900	ID901	ID902	ID903	ID904	ID905	ID906	ID907	ID908	ID909	ID910	ID911	ID912	ID913	ID914	ID915	ID916	ID917	ID918	ID919	ID920	ID921	ID922	ID923	ID924	ID925	ID926	ID927	ID928	ID929	ID930	ID931	ID932	ID933	ID934	ID935	ID936	ID937	ID938	ID939	ID940	ID941	ID942	ID943	ID944	ID945	ID946	ID947	ID948	ID949	ID950	ID951	ID952	ID953	ID954	ID955	ID956	ID957	ID958	ID959	ID960	ID961	ID962	ID963	ID964	ID965	ID966	ID967	ID968	ID969	ID970	ID971	ID972	ID973	ID974	ID975	ID976	ID977	ID978	ID979	ID980	ID981	ID982	ID983	ID984	ID985	ID986	ID987	ID988	ID989	ID990	ID991	ID992	ID993	ID994	ID995	ID996	ID997	ID998	ID999	ID1000	ID1001	ID1002	ID1003	ID1004	ID1005	ID1006	ID1007	ID1008	ID1009	ID1010	ID1011	ID1012	ID1013	ID1014	ID1015	ID1016	ID1017	ID1018	ID1019	ID1020	ID1021	ID1022	ID1023	ID1024	ID1025	ID1026	ID1027	ID1028	ID1029	ID1030	ID1031	ID1032	ID1033	ID1034	ID1035	ID1036	ID1037	ID1038	ID1039	ID1040	ID1041	ID1042	ID1043	ID1044	ID1045	ID1046	ID1047	ID1048	ID1049	ID1050	ID1051	ID1052	ID1053	ID1054	ID1055	ID1056	ID1057	ID1058	ID1059	ID1060	ID1061	ID1062	ID1063	ID1064	ID1065	ID1066	ID1067	ID1068	ID1069	ID1070	ID107
-----	---	---	----	----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------

[illegible][illegible]

	電碼		DZ59	DZ60	分類 數計
	幅広	不明	管	c	
S02	61	37	37		314
S03	2	2			364
SK12			1	1	133
SK14				1	68
SK19					76
SK19					128
SK1					106
計	63	37	37	1	2
					697
					1996

備考（その地の土器陶器等）
S92 地に土師質灰鉢、埴師品皿、肥前系紅土
SX12 地に土師質一雙鉢、松原系陶器土皿、在館不明植物陶器、埴師目皿
SX14 地に京都信楽赤ニミチユエ産
SX19 地に唐津陶器鉢、土師質土器、御付鉢、蓋
SX1 地に土師質土器御付鉢、土師質土鉢、土師質土器御付鉢

第84表 第4地点主要土壙出土遺物組成表

	J01										J02										J03										J04										J05										J06										J07										J08										J09										J10										J11										J12										J13										J14										J15										J16										J17										J18										J19										J20										J21										J22										J23										J24										J25										J26										J27										J28										J29										J30										J31										J32										J33										J34										J35										J36										J37										J38										J39										J40										J41										J42										J43										J44										J45										J46										J47										J48										J49										J50										J51										J52										J53										J54										J55										J56										J57										J58										J59										J60										J61										J62										J63										J64										J65										J66										J67										J68										J69										J70										J71										J72										J73										J74										J75										J76										J77										J78										J79										J80										J81										J82										J83										J84										J85										J86										J87										J88										J89										J90										J91										J92										J93										J94										J95										J96										J97										J98										J99										J100									
	e	g	i	j	l	m	n	o	不明	e	f	g	i	j	k	不明	総勝利	d	a	不明	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a																									

[illegible]

種族	性別	年齢	種別	不明	不明	不明	種別										不明	不明	不明	不明
							種別	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明				
FK29	HL15	HL27	FK29	FK27	FK29	FK21	FK22	FK24	FK29	FK20	FK16	FK24	FK26	FK28	FK33	不明	不明	不明	不明	
				1																
SD1				1																
SD1				1	16		1	2	8											
SD2																				
SD2				4																
SD3																				
SD4				1																
SD4																				
SD5																				
SD5																				
SD6																				
SD6																				
SD7																				
SD7																				
SD8																				
SD8																				
SD9																				
SD9																				
SD10																				
SD10																				
SD11																				
SD11																				
SD12																				
SD12																				
SD13																				
SD13																				
SD14																				
SD14																				
SD15																				
SD15																				
SD16																				
SD16																				
SD17																				
SD17																				
SD18																				
SD18																				
SD19																				
SD19																				
SD20																				
SD20																				
SD21																				
SD21																				
SD22																				
SD22																				
SD23																				
SD23																				
SD24																				
SD24																				
SD25																				
SD25																				
SD26																				
SD26																				
SD27																				
SD27																				
SD28																				
SD28																				
SD29																				
SD29																				
SD30																				
SD30																				
SD31																				
SD31																				
SD32																				
SD32																				
SD33																				
SD33																				
SD34																				
SD34																				
SD35																				
SD35																				
SD36																				
SD36																				
SD37																				
SD37																				
SD38																				
SD38																				
SD39																				
SD39																				
SD40																				
SD40																				
SD41																				
SD41																				
SD42																				
SD42																				
SD43																				
SD43																				
SD44																				
SD44																				
SD45																				
SD45																				
SD46																				
SD46																				
SD47																				
SD47																				
SD48																				
SD48																				
SD49																				
SD49																				
SD50																				
SD50																				
SD51																				
SD51																				
SD52																				
SD52																				
SD53																				
SD53																				
SD54																				
SD54																				
SD55																				
SD55																				
SD56																				
SD56																				
SD57																				
SD57																				
SD58																				
SD58																				
SD59																				
SD59																				
SD60																				
SD60																				
SD61																				
SD61																				
SD62																				
SD62																				
SD63																				
SD63																				
SD64																				
SD64																				
SD65																				
SD65																				
SD66																				
SD66																				
SD67																				
SD67																				
SD68																				
SD68																				
SD69																				

[illegible]

	12/60	D/51	分類 数計
魚・犬		2・2・7	
SD1			19
SK1	2	2	179
SK2			377
SK3			97
SK4			157
SK5			28
SK6			71
計	2	2	18
	2	2	33
			655

備考（その他の土器陶磁器）	
SD1	
SK1	他に産地不明陶器急須蓋、土
SK2	他に土器御付火鉢、陶器土瓶
SK4	他に産地不明陶器急須蓋
SK16	

例：主要遺構から出土した陶器類について、図録的明記可能物についてカウメントした。各県・市に図録・説明を記す。細砂左衛門に底部残片著・細砂右衛門に破片を記す。

V 自然科学分析

栗橋宿跡第2・4地点では、大量に出土した木製品や植物などについて、以下の自然科学分析を行った。

花粉分析とプラント・オパール分析

遺跡周辺の古植生から植物利用を明らかにするために花粉分析とプラント・オパール分析を行った。分析試料は、第2地点ではG8-I3・4グリッドと第20号土壌、第4地点ではH8-D4・5グリッドから採取した。分析の結果、花粉分析においてコナラ属やクリ属を伴うマツ属が多く抽出し、遺跡周辺では、ニヨウマツ類やコナラ、クリなどからなる二次林が広がっていたと思われる。また、湿地林要素の花粉の産出やプラント・オパール分析で産出しているウシクサ属という分類階級から遺跡周辺の一部に湿地的環境も存在していたと考えられる。

さらに、プラント・オパール分析からはササ類やキビ、アワ、ヒエなどのキビ属の生育が考えられる。スギ属花粉の抽出も多く、スギ林も存在していたと考えられる。イネ機動細胞珪酸体の産出、草本花粉でもイネ科が産出している点も考慮すると、遺跡周辺の湿地の一部には水田が存在していたかもしれない。ソバ属花粉も抽出しており、ソバ栽培が行われていたと考えられる。

大型植物遺体の同定

植物の栽培状況から当時の食生活を明らかにすることを目的として、大型植物遺体の同定を実施した。分析試料は、第2地点では第2号溝跡、第3・5・10・12~14・20・24号土壌、第4地点では第1号土壌とH8-H5グリッドから採取した。

分析の結果、栽培植物ではモモとウメ、スモモ、ソバとスイカ、メロン仲間、エゴマ、イネといった栽培植物、野生植物だが食用可能なオニグルミとクリなど多種類の植物を利用していたことが分

かった。

珪藻化石群集の解析

堆積物からその場所の環境を明らかにするために堆積物中の珪藻化石群集の解析を行った。分析試料は、第4地点のH8-D4・5グリッドから採取した。分析の結果、第4地点のH8-D4・5グリッドは、河川の影響を受けるジメジメとした陸域を伴う沼沢地だったと推定される。

木製品の樹種同定

木製品の樹種選定の状況から流通を明らかにすることを目的として、木製品の樹種同定を実施した。分析試料は、第2地点では第6号土壌と木樋、第4地点では第1・2・4号土壌、第2号性格不明遺構、木樋、H8-I7グリッドから出土した木製品32点である。

樹種同定の結果、鋤はケヤキ、漆塗りの浮きはヒノキ、差歯下駄の台はキリ、漆塗りの下駄はスギ、容器類の蓋はトチノキ、漆碗と椀・漆皿はブナ属、漆塗箸はタケ亜科であった。これらの分析結果は、古代~中世の全国的な傾向と一致することが分かった。また、建築部材については、全体的にヒノキやスギなどの針葉樹が多いが、クリなどの広葉樹も見られる。用途や部位によって軽軟な針葉樹と、重硬な広葉樹を使い分けていたと考えられる。

漆器の科学分析

出土した漆器について、使用時期の特定に迫ることを目的として、漆器の器形・表面観察、塗膜分析、赤外分光分析、蛍光X線分析を行った。第4地点の第2・4・6号土壌から出土した漆器を試料とした。分析の結果、第2号土壌から出土した漆器は典型的な吉野碗であることが分かった。時期的には福井城跡北三の丸門外側や金沢市本町一丁目遺跡出土の吉野碗と同じ19世紀第3四半期と考えられる。

1. 栗橋宿跡第2地点の花粉分析とプラント・オパール分析

(1) はじめに

埼玉県久喜市に所在する栗橋宿跡第2地点において、近世から近代の古植生を検討するために花粉分析用とプラント・オパール分析用の試料を採取した。以下では、花粉分析とプラント・オパール分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。なお、一部の試料については大型植物遺体分析も行われている（大型植物遺体分析の項参照）。

(2) 試料と分析方法

分析試料は、G8-I3・4グリットから採取した自然堆積層の3点と、廃棄土壌と考えられている第20号土壌の第1トレンチ断面から採取した2点の、計5点である。G8-I3・4グリットの土層は上位から、客土、黄褐色砂質土、灰黄褐色砂質土、黄褐色砂質土、灰色粗粒砂、炭化材含む灰色シルト（第一面）、暗茶褐色シルト、暗褐色シルト、根痕や酸化鉄を多く含む黄褐色シルトと灰色シルトの混合土（第二面）、上部に根痕や酸化鉄を含む暗灰色シルトである。このうち試料採取した層準は、炭化材含む灰色シルト（第一面）と黄褐色シルト灰色シルトの混合土（第二面）、暗灰色シルトの3層準で、各層準の時期は、出土遺物から第一面が19世紀～明治時代、第二面が19世紀と考えられている。第20号土壌第1トレンチ断面の土層は、上位から黒褐色シルト（第7層）、黒褐色砂（第13層）、黒褐色植物遺体密集層（第17層）である。このうち、試料を採取した層準は第13層と第17層で、出土遺物からいずれも19世紀中頃と考えられている。

2-1. 花粉分析

花粉分析に用いた試料は、G8-I3・4グリットの第一面と第二面、暗灰色シルト、第20号土壌第1トレンチ断面の第13層と第17層から採取した計5点である。これらの試料を用い、以下

の手順にしたがって花粉分析を行った。

試料（湿重量約3～4g）を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。各プレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良い花粉化石を選んで単体標本（PLC.943～949）を作製し、写真を第219図に載せた。

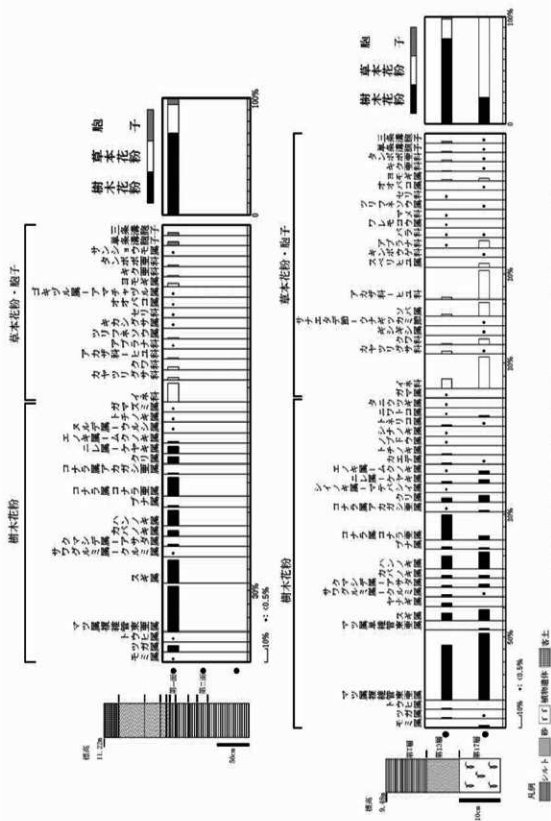
2-2. プラント・オパール分析

プラント・オパール分析に用いた試料は、G8-I3・4グリットの第一面と、第20号土壌第1トレンチ断面の第13層、第17層から採取した計3点である。これらの試料を用い、以下の手順にしたがってプラント・オパール分析を行った。

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約1g（秤量）をトールピーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ（直径約0.04mm）を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体由来するプラント・オパールについてガラスビーズが300個に達するまで行った。また、保存状態の良い植物珪酸体を選んで、写真を第220図に載せた。

第85表 産出花粉化石一覧表

学名	和名	G 8 - 1 3・4 第20号土層		
		第一面	第13層	第17層
樹木				
<i>Abies</i>	モミ属	1	-	4
<i>Tsuga</i>	ツガ属	10	2	1
<i>Picea</i>	トウヒ属	1	2	-
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属柞紋線管束亜属	69	103	107
<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxyton</i>	マツ属単線管束亜属	-	-	2
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	35	14	18
<i>Salix</i>	ヤナギ属	-	6	-
<i>Pterocarya-Juglans</i>	サワグルミ属-クルミ属	1	4	1
<i>Carpinus-Ostrya</i>	クマシダ属-アサダ属	3	3	5
<i>Betula</i>	カバノキ属	8	5	4
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	24	23	26
<i>Fagus</i>	ブナ属	2	4	2
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	29	47	6
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	2	1	2
<i>Castanea</i>	クリ属	10	8	10
<i>Castanopsis-Pasania</i>	シノキ属-マテバシ属	-	1	-
<i>Ulmus-Zelkova</i>	ニレ属-ケヤキ属	11	3	6
<i>Celtis-Aphananthe</i>	エノキ属-ムクノキ属	2	1	5
<i>Rhus-Toxicodendron</i>	ヌルデ属-ウルシ属	1	-	-
<i>Acer</i>	カエデ属	-	2	1
<i>Aesculus</i>	トチノキ属	1	2	-
<i>Ampelopsis</i>	ノブドウ属	-	1	-
<i>Tilia</i>	シナノキ属	-	1	-
<i>Fraxinus</i>	トネリコ属	-	3	1
<i>Samburnum</i>	ニワトコ属	-	1	2
<i>Viburnum</i>	ガマズミ属	1	-	-
<i>Belgela</i>	タニウツギ属	-	1	-
草本				
<i>Typha</i>	ガマ属	-	1	-
Gramineae	イネ科	40	23	207
Cyperaceae	カヤツリグサ科	5	7	3
Moraceae	クワ科	6	2	37
<i>Rumex</i>	ギシギシ属	-	-	1
<i>Polygonum</i> sect. <i>Porsicaria-Echinocaulon</i>	サナエタデ節-ウナギツカミ節	-	-	1
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属	-	4	91
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	3	4	191
<i>Portulaca</i>	スベリヒユ属	-	-	22
Ranunculaceae	キンポウゲ科	-	-	1
Brassicaceae	アブラナ科	1	1	49
Rosaceae	バラ科	-	1	1
<i>Sanguisorba</i>	ワレモコウ属	-	1	-
Leguminosae	マメ科	-	1	-
<i>Impatiens</i>	ツリフネソウ属	2	-	1
<i>Rotala</i>	キカシグサ属	1	-	-
Apiaceae	セリ科	1	1	-
<i>Plantago</i>	オオバコ属	1	-	2
<i>Actinostemma-Gynostemma</i>	ゴキツル属-アマチャヅル属	1	-	-
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	8	3	16
Tubuliflorae	キク亜科	2	2	1
Liguliflorae	タンポポコ亜科	2	3	1
シダ植物				
<i>Salvinia</i>	サンショウモ属	1	-	-
monolate type spore	単条溝胞子	9	2	1
trilate type spore	三条溝胞子	7	4	1
Arboreal pollen	樹木花粉	211	238	203
Nonarboreal pollen	草本花粉	73	54	625
Spores	シダ植物胞子	17	6	2
Total Pollen&Spores	花粉・胞子総数	301	298	830
Unknown pollen	不明花粉	-	2	6



第217図 東横泊跡第2地点における花粉分布図 (上: G8-13・14グリッド 下: 第20号土層)

(3) 結果

3-1. 花粉分析

検鏡の結果、G8-13・4グリッドの第二面と暗灰色シルトには、十分な量の花粉化石が含まれていなかった。G8-13・4グリッドの第一面と第20号土壌第1トレンチ断面の第13層、第17層から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉27、草本花粉22、形態分類を含むシダ植物胞子3の総計52である。これらの花粉・胞子の一覽表を第85表に、分布図を第217図に示した。図表においてハイフン（-）で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。また、クワ科とバラ科、マメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

G8-13・4グリッドの第一面では、樹木花粉の産出割合が高く、マツ属複維管束亜属やスギ属、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属などの分類群の産出が目立つ。各分類群の産出率はマツ属複維管束亜属が33%、スギ属が17%、ハンノキ属が11%、コナラ属コナラ亜属が14%である。草本花粉ではイネ科が最も多く産出しており、13%の産出率である。その他では、好湿性のツリフネソウ属やキカシグサ属、ゴキツル属-アマチャヅル属、サンショウモ属などがわずかに産出している。

第20号土壌の第13層においても樹木花粉の産出割合が高く、マツ属複維管束亜属やスギ属、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属の産出が目立つ。各分類群の産出率はマツ属複維管束亜属が43%、スギ属が6%、ハンノキ属が10%、コナラ属コナラ亜属が20%である。草本花粉ではイネ科が

最も多く産出しており、8%である。また、栽培植物のソバ属がわずかに産出している。第17層では草本花粉の産出割合が高い。産出が目立つ草本花粉には、イネ科やソバ属、アカザ科-ヒユ科、アブラナ科などがあり、それぞれの産出率は25%と11%、23%、6%である。樹木花粉ではマツ属複維管束亜属とスギ属、ハンノキ属の産出が目立ち、それぞれ53%と9%、13%の産出率である。

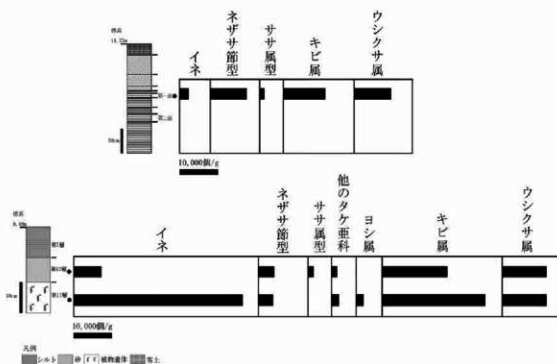
3-2. プラント・オパール分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から求めた試料1g当りの各プラント・オパール個数を第86表に、それらの分布を第218図に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は、試料1g当りの検出個数である。

G8-13・4の第一面では、イネとネザサ節型、ササ属型、キビ属、ウシクサ属の5種類の機動細胞珪酸体を確認できた。イネ機動細胞珪酸体は2,400個、ネザサ節型機動細胞珪酸体は9,600個、ササ属型機動細胞珪酸体は1,200個、キビ属機動細胞珪酸体は10,800個、ウシクサ属機動細胞珪酸体は9,600個である。第20号土壌ではイネとネザサ節型、ササ属型、他のタケ亜科、ヨシ属、キビ属、ウシクサ属の7種類の機動細胞珪酸体を確認できた。イネ機動細胞珪酸体は第13層と第17層から産出しており、それぞれ7,200個と44,500個である。ネザサ節型機動細胞珪酸体も第13層と第17層から産出しており、それぞれ4,300個と3,900個である。ササ属型機動細胞珪酸体は第13層から産出しており、1,400個である。他のタケ亜科も第13層と第17層から産出しており、それ

第86表 試料1g当たりのプラント・オパール個数

	イネ (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	ササ属型 (個/g)	他のタケ亜科 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	キビ属 (個/g)	ウシクサ属 (個/g)
G8-13・4グリッド 第一面	2,400	9,600	1,200	0	0	10,800	9,600
第20号土壌 第13層	7,200	4,300	1,400	1,400	0	17,200	11,500
第20号土壌 第17層	44,500	3,900	0	1,900	1,900	27,100	11,600



第218図 栗橋宿跡第2地点における植物珪酸体分布図 (上: G8-I3-4グリッド 下: 第20号土壌)

ぞれ1,400個と1,900個である。ヨシ属機動細胞珪酸体は第17層から産出しており、1,900個である。キビ属機動細胞珪酸体は第13層と第17層から産出しており、それぞれ17,200個と27,100個である。ウシクサ属機動細胞珪酸体も第13層と第17層から産出しており、それぞれ11,500個と11,600個である。

(4) まとめ

まず、19世紀～明治時代の堆積物と考えられているG8-I3-4グリッドの第一面における花粉分析結果を見ると、マツ属複雑管束亜属が多く産出しており、コナラ属コナラ亜属やクリ属を伴っている。これらの分類群は里山の二次林を構成する要素として知られているため、遺跡周辺には明るく開けた場所があり、そこにニヨウマツ類やコナラ、クリなどからなる二次林が広がっていたと思われる。スギ属の産出もある程度見られ、遺跡周辺の低地から丘陵地にかけてスギが生育していたであろう。また、湿地林要素のハンノキ属や、好湿性のツリフネソウ属、キカシグサ属、ゴキツ

ル属アマチャヅル属、サンショウモ属などの産出から、遺跡周辺の一部に湿地的環境も存在していたと考えられる。さらに、プラント・オパール分析ではイネ機動細胞珪酸体の産出も見られ、好湿性のキカシグサ属は水田雑草を含む分類群である点や、草本花粉の中で最も多く産出しているのがイネ科である点を考慮すると、遺跡周辺の湿地の一部には水田が存在していたかもしれない。

プラント・オパール分析では、ネザサ節型とキビ属、ウシクサ属の機動細胞珪酸体の産出が目立つ。ネザサ節型の産出から、遺跡周辺の開けた場所や二次林の林縁部などにアズマネザサのようなネザサ節型のササ類の存在が推測できる。ウシクサ属には、ススキやチガヤなど乾燥的環境に生育する種や、オギなど湿地的環境に生育する種が含まれている。花粉分析結果からは、遺跡周辺に二次林が分布するような明るい場所や、ハンノキ属などが生育するような湿地的環境の双方の存在が推測されるため、それぞれの環境に適したウシクサ属が生育していたと考えられる。キビ属にはキ

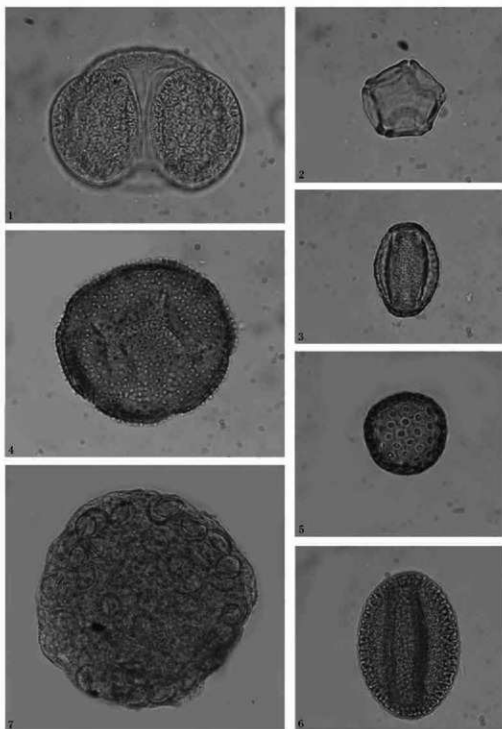
ビ、アワ、ヒエなどの栽培種や、エノコログサ、イヌビエなどの野生種が含まれるが、機動細胞珪酸体の形態でこれらを区別するのは難しい。よって、栽培種か野生種かは不明であるが、遺跡周辺にはキビ族も生育していたと思われる。

なお、G8-I3・4グリッドの第二面と暗灰色シルトには十分な量の花粉化石が含まれていなかった。一般的に花粉は乾燥に弱く、酸化的環境に堆積すると紫外線や土壌バクテリアなどによって分解され消失してしまうため、堆積物が酸素と接触する機会の多い堆積環境や保存環境では花粉化石が残りにくい。第二面や暗灰色シルトの上位には根痕や酸化鉄が多く観察された。根痕の存在は、堆積物の上面における植物の繁茂を示唆しており、第二面や暗灰色シルトがある時期に表土に近い場所になった可能性が考えられる。また、酸化鉄の存在から、堆積物が酸素に晒されていた環境が想像される。よって、第二面や暗灰色シルトは花粉化石が残りにくい環境であったと思われる。

次に、19世紀中頃と考えられている第20号土壌であるが、第17層の樹木花粉では、マツ属複維管束亜属やスギ属、ハンノキ属の産出が目立っている。よって、遺跡周辺にはニヨウマツ類を主体とした二次林やスギ林が分布しており、ハンノキ属を主体とした湿地林も一部に存在していたと考えられる。プラント・オパール分析においても湿地要素のヨシ属が産出している。また、第17層では大型植物遺体分析も行われており、スギとクロマツが検出されている（大型植物遺体分析の項参照）。さらに、第17層では草本花粉の産出割合が高く、花粉分析結果で産出率の高い草本花粉は大型植物遺体でも検出されている（例えば、イネ科やソバ属、アカザ科・ヒユ科、スベリヒユ属など）。花粉と大型植物遺体の双方が産出している植物については、土壌のすぐ傍に生育していたと考えられるが、第20号土壌は廃棄土壌であるため、植物

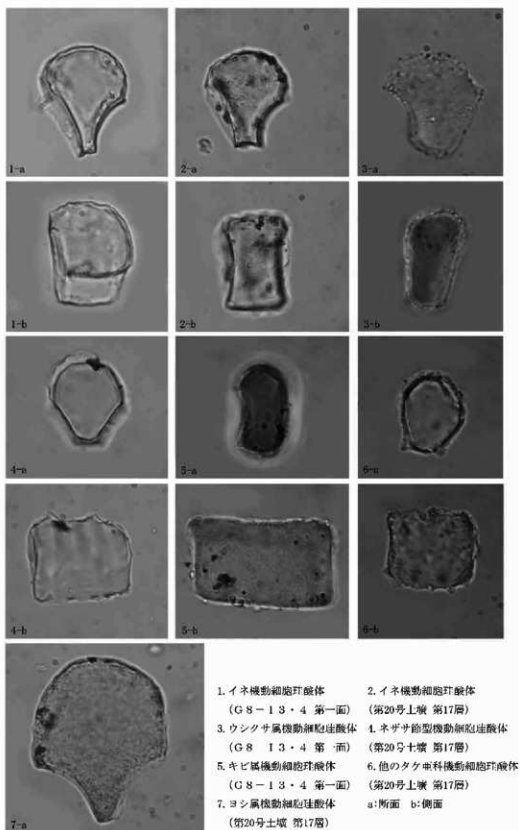
化石の堆積には人為的作用が働いている可能性がある点に注意が必要である。特にソバ属などの栽培植物は、人によって捨てられた可能性が高いのではなかろうか。プラント・オパール分析においては葉に形成されるイネ機動細胞珪酸体が圧倒的に多く産出しており、大型植物遺体分析において検出されたイネ籾殻とともに、土壌内に稲藁などが破棄された可能性などが考えられる。イネ機動細胞珪酸体に次いで産出量が多いキビ属には、大型植物遺体分析で検出されたイヌビエ属由来の機動細胞珪酸体が多く含まれていたと考えられる。ウシクサ属については大型植物遺体分析で検出された分類群に該当する種類が見当たらないが、第20号土壌周辺に生育していたか、ウシクサ属の藁などが土壌内に廃棄された可能性などが考えられる。

最後に第20号土壌の第13層であるが、花粉分析結果を見ると、二次林要素のマツ属複維管束亜属やコナラ属コナラ亜属、クリ属、湿地林要素のハンノキ属、スギ属などが産出しており、G8-I3・4グリッドの第一面や第20号土壌の第50層と似たような樹木植生が推測される。また、プラント・オパール分析ではキビ属が最も多く産出しており、栽培種か野生種かは不明であるが、第13層堆積当時の遺跡周辺にはキビ属が生育していたと思われる。その他、ウシクサ属やネザサ節型の産出も見られ、遺跡周辺の開けた場所や二次林の林縁部などにネザサ節型のササ類が、遺跡周辺の乾燥の環境や湿地的環境にはウシクサ属が生育していたであろう。また、イネ機動細胞珪酸体の産出も見られ、一部で稲作が行われていた可能性や、稲藁が運び込まれた可能性が考えられる。さらに、ソバ属花粉が産出しており、遺跡周辺ではソバ栽培も行われていたと考えられる。



1. マツ属複維管束型属 (G 8-13-4 グリッド 第一面 PLC. 943)
 2. ハンノキ属 (G 8-13-4 グリッド 第一面 PLC. 944)
 3. コナラ属コナラ亜属 (G 8-13-4 グリッド 第一面 PLC. 945)
 4. スベリヒユ属 (第20号十横 第17層 PLC. 946) 5. アカザ科 ヒユ科 (第20号十横 第17層 PLC. 947)
 6. ソバ属 (第20号十横 第17層 PLC. 948) 7. サンショウモ属 (G 8-13-4 グリッド 第一面 PLC. 949)

第219図 栗橋宿跡第2地点から産出した花粉化石



第220図 栗橋宿跡第2地点から産出した植物珪酸体

2. 栗橋宿跡第2地点の土壌から出土した大型植物遺体

(1) はじめに

江戸時代から明治時代を中心とした埼玉県久喜市の栗橋宿跡の第2地点では、大量の木製品や加工木、樹皮などが廃棄された土壌が多く検出された。ここでは、19世紀中頃の土壌から出土した大型植物遺体を同定し、食用などとして利用された植物あるいは遺跡周辺における栽培状況や植生について検討する。なお、第20号土壌については同じ堆積物を用いて花粉分析とプラント・オパール分析も行われている（各分析の項参照）。

(2) 試料と方法

試料は、埼玉県埋蔵文化財調査事業団により採取された現地取り上げ試料が数試料と、堆積物の水洗試料が1試料である。現地取り上げ試料は、第3・5・10・12・13・24号土壌から採取された。水洗試料は、第20号土壌の覆土である第1トレンチ断面の第17層から採取した。採取位置および層相については花粉ならびにプラント・オパール分析の項を参照されたい。考古学的な所見による試料の時期は、19世紀中頃である。

水洗試料は、300ccを最小0.5mm目の篩を用いて水洗した。計数が困難な分類群や多数含まれている分類群については、記号(+)で示した。試料は、埼玉県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。

(3) 結果

同定した結果、木本植物では針葉樹のスギ葉・種子とクロマツ葉の2分類群、広葉樹のオニグルミ核・炭化核と、クリ果実、ケヤキ果実、ツバキ属果実、モモ核、スモモ核、タラノキ核、ニワトコ核の8分類群があった。

草本植物では、ソバ果実と、ヤナギタデ果実、サナエタデ・オオイヌタデ果実、ギシギシ属果実、スベリヒユ属種子、ノミノフスマ種子、ウシハコベ種子、アカザ属種子、キケマン種子、スイカ種子、メロン仲間種子、タカサブロウ果実、エゴマ果実、トリゲモ・オトリゲモ種子、イボクサ種子、メヒシバ属果実、オヒシバ属種子、イヌビエ属有ふ果、イネ稃殻、カヤツリグサ属果実の20分類群、シダ植物のワラビ裂片1分類群の、計31分類群が見いだされた。不明の芽は一括した。種実以外には子囊菌、焼骨片、昆虫遺体がみられた。現地取り上げ試料の同定結果を第87表、水洗試料の同定結果を第88表に示す。

以下に、産出した主な大型植物遺体について遺構別に記載する（不明芽と種実以外の分類群は除く）。

第3号土壌：オニグルミとモモがわずかに得られた。

第5号土壌：モモとスモモ、メロン仲間がわずかに得られた。

第10号土壌：オニグルミとツバキ属、モモが

第87表 栗橋宿跡第2地点現地取り上げ試料の大型植物遺体

分類群	遺構 時期	第3号土壌	第5号土壌	第10号土壌	第12号土壌	第13号土壌	第24号土壌
19世紀中頃							
オニグルミ	核	1					
	炭化核			1			
ツバキ属	果実			1			
モモ	核	1	1	2	2		
スモモ	核		1				
メロン仲間	種子		3		23	7	5

第88表 栗橋宿跡第2地点水洗試料の大型植物遺体
(括弧内は破片数)

		遺構	第20号土壌
		採取位置	1トレンチ
		層	第17層
		時期	19世紀中頃
		水洗量 (cc)	300
分類群			
スギ	葉	49	
	種子	1	
クロマツ	葉	7 (7)	
クリ	果実	(1)	
ケヤキ	果実	(3)	
タラノキ	核	1	
ニワトコ	核	1	
ソバ	果実	21 (112)	
ヤナギタデ	果実	1	
サナエタデ-オオイヌタデ	果実	3	
ギンギン属	果実	1	
スベリヒユ属	種子	9 (1)	
ノミノフスマ	種子	3	
ウシハコベ	種子	1	
アカザ属	種子	3	
キケマン属	種子	7 (3)	
スイカ	種子	1	
メロン仲間	種子	1	
タカサブロウ	果実	1	
エゴマ	果実	2	
トリゲモ-オオトリゲモ	種子	1	
イボクサ	種子	1	
メヒシバ属	果実	38	
オヒシバ属	種子	1	
イヌビエ属	有ふ果	5	
イネ	穀殻	3 (32)	
カヤツリグサ属	果実	9	
不明	芽	6	
ワラビ	裂片	(3)	
子囊菌	子囊	1	
焼骨		(+)	
昆虫		(+++)	

+ : 1-9, +++: 50-99

わずかに得られた。

第12号土壌：メロン仲間が少量、モモがわずかに得られた。

第13号土壌：メロン仲間がわずかに得られた。

第20号土壌：ソバが非常に多く、スギ（葉）とメヒシバ属、イネが少量、クロマツとスベリヒユ属、キケマン属、イヌビエ属、カヤツリグサ属が

わずかに得られた。その他の分類群は、産出数3点未満であった。3点未満の分類群のうち、栽培植物としてはメロン仲間とエゴマがわずかに得られた。

第24号土壌：メロン仲間がわずかに得られた。

次に、主要な大型植物遺体の記載を行い、第221図に写真を示して同定の根拠とする。

①スギ *Cryptomeria japonica* (L. fil.)

D. Don 葉・種子 スギ科

葉は黒褐色で、針葉は鎌状の針形。断面は三角形に近い。強い光沢がある。基部は細くなる。長さ8.3mm、幅1.4mm。種子は、紫褐色で、種子の先端と下端が尖る角張った倒卵形ないし菱形。縁に狭翼がある。表面は平滑。長さ4.5mm、残存幅1.8mm。

②クロマツ *Pinus thunbergii* Parl. 葉 マツ科

暗褐色で、側面観は針形、断面は半円形。先端および基部は残存していない。残存長11.5mm、幅2.2mm。完形ならば長さ7～12cmになる。横断面(第221図-3b)の観察では、葉の中央に維管束があり、表皮に接しない樹脂道がみられる。アカマツは樹脂道が表皮に接するが、クロマツは樹脂道が表皮に接しないため、クロマツの葉と同定した。

③オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino 核・炭化核 クルミ科

側面観は卵形～広卵形。木質で、壁は厚くて硬く、ときどき空隙がある。表面に縦方向の浅い縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。断面は角が尖るものが多い。第3号土壌出土の核は長さ37.0mm、幅26.2mm、厚さ24.6mm、第10号土壌出土の炭化核は長さ27.3mm、幅22.5mm、厚さ21.3mm。

④クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 果実 ブナ科

完形ならば側面は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。底面にある殻斗着痕はざらつく。果皮内面にはいわゆる渋皮が厚く付着する。残存長14.8mm、残存幅20.7mm。

⑤ツバキ属 *Camellia* sp. 果実 ツバキ科

球形。表面は平滑で光沢がある。果肉は厚い。3裂する内部の種子は、球形か角のあるいびつ

な球形で、表面は平滑。長さ30.5mm、幅27.6mm、厚さ20.9mm。

⑥モモ *Amygdalus persica* L. 核 バラ科

黄褐色～茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形～紡錘形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面には不規則な深い皺があり、片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。計測可能な6点の大きさは、長さ24.6～35.3mm(平均30.4±4.0mm)、幅19.8～27.4mm(平均23.3±2.7mm)、厚さ15.2～21.6mm(平均17.0±2.4mm)。

⑦スモモ *Prunus salicina* Lindl. 核 バラ科

淡褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観はいびつな楕円形。縫合線に沿ってやや深い溝が入る。表面は平滑だが、臍付近に縦方向の不規則な皺がある。長さ14.7mm、幅12.3mm、厚さ9.0mm。

⑧ソバ *Fagopyrum sagittatum* Gilib. 果実 タデ科

黒褐色で、上面観は三角形、側面観は先端がやや尖る紡錘形。稜の端部は翼状に突き出る。長さ6.7mm、幅4.2mm。

⑨スイカ *Citrullus lanatus* (Thunb.)

Matsum. et Nakai 種子 ウリ科

黄褐色で、倒卵形。表面は平滑。基部両側に薄い突出部がある。周囲を縁取る肥厚がわずかに見られる。長さ12.0mm、幅7.5mm。

⑩メロン仲間 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

黄白色～褐色で、上面観は扁平、側面観は倒卵形。表面は平滑で、基部は突出せず直線状の隆線となる。藤下(1984)は、種子の大きさからおおむね次の3群に分けられるとしている。長さ6.0mm以下の雑草メロン型、長さ6.1～8.0mmのマクワウリ・シロウリ型、長さ8.1mm以上のモモルディカメロン型である。任意に抽出した10点の大きさは、長さ5.0～8.1mm(平均6.5±0.8)mm、幅2.6mm～3.6mm(平均3.1±0.2)mmで、ほとんどがマクワウリ・シロウリ型に相当するが、雑草メロン型とモモルディカメロン型も1点ずつ

混じる。

⑪ エゴマ *erilla frutescens* (L.) Britton
var. *frutescens* 果実 シソ科

暗褐色で、いびつな球形。端部にやや突出する着点がある。表面には不規則で多角形の低い網目状隆線がある。網目部分の周囲はわずかに凹む。長さ2.6mm、幅2.2mm。

⑫ イヌビエ属 *Echinochloa* spp. 有ふ果 イネ科

茶褐色で、紡錘形。縦方向に細かい筋がある。壁は薄く、弾力がある。長さ2.2mm、幅1.3mm。

⑬ イネ *Oryza sativa* L. 穀穀 イネ科

黄褐色で、側面観は長楕円形。縦方向に明瞭な稜線があり、基部は突出する。表面には縦方向に規則的に並ぶ顆粒状突起がある。長さ6.7mm、幅3.0mm。

⑭ ワラビ *Pteridium aquilinum* (L.) Kuhn
subsp. *japonicum* (Nakai) A. et S. Löve 裂片 ワラビ科

暗褐色で、長楕円形。鈍頭で全縁。縁が内側に巻く。葉脈は2〜3叉状に分岐し、平行に並ぶ。残存長6.0mm、幅4.6mm。

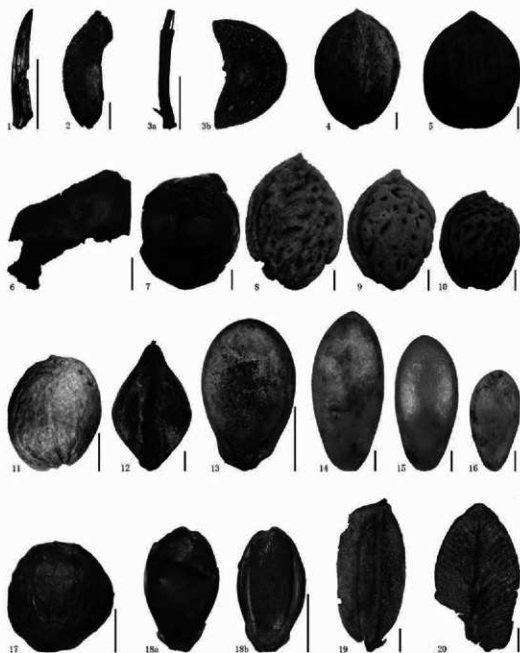
(4) まとめ

19世紀中頃の7基の土壌から産出した大型植物遺体を同定した結果、栽培植物が多種類得られた。産出した栽培植物は、木本植物ではモモとスモモの2種類、草本植物ではソバとスイカ、メロン仲間、エゴマ、イネの5種類の計7種類である。メロン仲間は種子の大きさからほとんどがマクワウリ・シロウリ型に分類され、一部雑草メロン型やモモルディカメロン型があった可能性がある。また、野生植物ではあるが食用可能な種実として、オニグルミとクリが見いだされた。ツバキ属は植栽された可能性もある。これらの分類群のうち、ソバ属とイネは微化石でも確認されており、周囲で栽培されていた可能性がある。

第20号土壌内に自然に堆積したと考えられる種実から周囲の植生を検討すると、周囲には針葉樹のスギとクロマツ、広葉樹のケヤキやタラノキ、ニワトコが生育していた可能性がある。ただし、スベリヒユ属やキケマン属などの道端や荒地などに生育する草本植物が主体であるため、森林要素は量的には少なかったと推定される。ワラビがみられる点からも、明るい草地や畑などがあつたと考えられる。このうち、ヤナギタデやタカサブロウ、イボクサなどは水田や湿地、トリゲモ・オオトリゲモはため池に生育する植物であり、土壌内もしくは周辺に水が溜まる環境があつたと考えられる。

引用・参考文献

藤下典之 1984『出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法』古文化財に関する保存科学と人文・自然科学-総括報告書 渡辺直経編 638-654 同朋舎出版



1. スギ実 (第20号上墳第17層) 2. スギ種子 (第20号上墳第17層) 3. クロマツ実 (第20号上墳第17層)
 4. オニグルミ核 (第3号上墳) 5. オニグルミ炭化核 (第10号上墳) 6. クリ実実 (第20号上墳第17層)
 7. ツバキ果実 (第10号土坑) 8. モモ核 (第5号土坑) 9. モモ核 (第10号土坑) 10. モモ核 (第10号土坑)
 11. スモモ核 (第5号土坑) 12. ソバ果実 (第20号上墳第17層) 13. スイカ種子 (第20号上墳第17層)
 14. メロン仲間種子 (第12号土坑) 15. メロン仲間種子 (第12号土坑) 16. メロン仲間種子 (第12号土坑)
 17. エゴマ果実 (第20号土坑第17層) 18. イスビナ属有ふ果 (第20号土坑第17層) 19. イネ初殻 (第20号上墳第17層) 20. ワラビ裂片 (第20号上墳第17層)

第221図 栗橋宿跡第2地点から出土した大型植物遺体

3. 栗橋宿跡第4地点の花粉分析とプラント・オパール分析

(1) はじめに

埼玉県久喜市栗橋に所在する栗橋宿跡第4地点のH8-D4・5グリッドから採取した試料について行った花粉分析とプラント・オパール分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。

(2) 試料と分析方法

分析試料は、栗橋宿跡第4地点のH8-D4・5グリッドから採取した計4点である。試料一覧表を第89表に、試料採取位置を第222図に示す。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

2-1. 花粉分析

試料(湿重量約3~4g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。

また、保存状態の良い花粉を選んで単体標本(PLC. 1154~1161)を作製し、写真を第225図に載せた。単体標本はパレオ・ラボに保管されている。

2-2. プラント・オパール分析

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する(絶対乾燥重量測定)。別に試料約1g(秤量)をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ(直径約0.04mm)を加える。これに30%の過酸化水素水を約20~30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体由来するプラント・オパールについて、ガラスビーズが300個に達するまで行った。また、保存状態の良い植物珪酸体を選んで写真を撮り、第226図に載せた。

(3) 結果

3-1. 花粉分析

4試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉30、草本花粉22、形態分類を含むシダ植物胞子4の総計56である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を第90表に、分布図を第223

第89表 分析試料一覧(1)

試料No.	調査区	グリッド	層位	時期	土層	備考
1	第4地点	H8-D4・5	2	江戸時代後半	暗灰色(N3/)粘土質シルト	植物遺体がラミナ状に挟まる
2			7		暗青灰色(10B64/1)シルト	同心円状の褐鉄鉱含む
3			I		青灰色(10B66/1)砂質シルト	
4			III		青灰色(SB65/1)粘土質シルト	褐鉄鉱多く含む



第222図 栗橋宿跡第4地点における試料採取位置

図に示した。分布図の樹木花粉は樹木花粉総数を、草本花粉・シダ植物胞子は全花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン（—）で結んだ分類群はそれら分類群間

の区別が困難なものを示す。さらに、クワ科やマメ科、バラ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

第90表 産出花粉胞子一覧表

学名	和名	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4
樹木					
<i>Podocarpus</i>	マキ属	1	—	—	—
<i>Abies</i>	モミ属	1	1	—	—
<i>Tsuga</i>	ツガ属	1	1	1	2
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属南雄東亜属	106	76	62	95
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	36	59	54	53
<i>Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae</i>	イチイ科—イスガヤ科—ヒノキ科	2	1	—	—
<i>Salix</i>	ヤナギ属	1	—	—	2
<i>Platanus-Fagulus</i>	サウダルミ属—ラルミ属	1	3	2	—
<i>Carpinus-Quercus</i>	クマシラ属—アザラシ属	3	4	1	3
<i>Betula</i>	カバノキ属	1	4	—	3
<i>Alnus</i>	ハシノキ属	11	26	26	31
<i>Fagus</i>	ブナ属	1	1	1	—
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	12	14	19	7
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	10	5	—	1
<i>Castanea</i>	クリ属	6	2	12	13
<i>Ulmus-Zelkova</i>	ニレ属—ケヤキ属	9	5	8	3
<i>Celtis-Aphananthe</i>	エノキ属—ムクノギ属	10	18	18	1
<i>Euptelea</i>	フサギタラ属	1	—	1	—
<i>Acer</i>	カエデ属	—	—	1	—
<i>Aesculus</i>	トチノキ属	—	—	1	1
<i>Vitis</i>	ブドウ属	—	—	1	—
<i>Parthenocissus</i>	ツタ属	—	—	1	—
<i>Tilia</i>	シナノキ属	—	—	—	1
<i>Elaeagnus</i>	ダミ属	1	—	—	—
<i>Lagotisrostrata</i>	サルズベリ属	1	—	—	—
<i>Acacia</i>	アオキ属	—	—	1	—
<i>Cornus</i>	ミズキ属	—	—	1	—
<i>Ericaceae</i>	ツツジ科	1	—	—	1
<i>Diospyros</i>	カキノキ属	1	—	1	—
<i>Ligustrum</i>	イボタノキ属	1	—	—	—
草本					
<i>Typha</i>	ガマ属	—	—	1	—
<i>Gramineae</i>	イネ科	155	188	106	80
<i>Cyperaceae</i>	カヤツリグサ科	2	1	1	2
<i>Monochoria</i>	ミズアオイ属	1	1	1	—
<i>Iris</i>	アヤメ属	1	1	—	—
<i>Maraceae</i>	クワ科	—	—	2	—
<i>Polypogon</i> sect. <i>Pennisetum-Echinochloa</i>	ササエタダ属—ウナギツカミ属	1	—	—	2
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属	1	—	4	—
<i>Chenopodiaceae-Amaranthaceae</i>	アカザ科—セウ科	9	12	15	9
<i>Portulaca</i>	スベリヒユ属	2	—	—	—
<i>Caryophyllaceae</i>	ナゲシコ科	1	1	—	9
<i>Ranunculaceae</i>	キンボウゲ科	1	5	—	—
<i>Brassicaceae</i>	アブラナ科	2	15	43	121
<i>Rutaceae</i>	バウ科	2	2	—	—
<i>Leguminosae</i>	マメ科	—	1	—	—
<i>Lythrum</i>	ミソハビ属	1	—	—	—
<i>Apocynae</i>	セリ科	1	—	—	1
<i>Solanum</i>	ナス属	1	—	—	—
<i>Plantago</i>	オオバコ属	—	—	1	—
<i>Asteraceae</i>	ヨモギ属	2	3	2	3
<i>Tubelliflorae</i>	キク亜科	4	1	3	2
<i>Liguliflorae</i>	タンポポ科	—	—	2	1
シダ植物					
<i>Ceratopteris</i>	ミズウラボシ属	—	—	—	1
<i>Salvinia</i>	サンショウキ属	—	—	1	—
monolete type spore	単条溝胞子	1	6	—	2
trilete type spore	三条溝胞子	—	—	2	12
Arboreal pollen	樹木花粉	218	222	212	217
Nonarboreal pollen	草本花粉	188	231	181	230
Spores	シダ植物胞子	1	6	3	15
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	407	459	396	462
Unknown pollen	不明花粉	2	1	3	5

第91表 試料1g当たりのプラント・オパール個数(2)

試料No.	イネ (個/g)	イネ属植物 (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	ネザサ型 (個/g)	他のタケ亜科 (個/g)	コナラ属 (個/g)	シバ属 (個/g)	キビ属 (個/g)	ウシクサ属 (個/g)	イネ型短細胞珪酸体 (個/g)	棒状珪酸体 (個/g)	ポイント型珪酸体 (個/g)
1	15,100	5,600	26,200	1,900	1,900	3,700	0	48,600	18,700	7,500	28,000	0
2	14,800	0	16,100	5,400	2,700	2,700	1,300	22,900	2,700	0	8,100	0
3	4,000	1,300	10,600	4,000	0	5,300	1,300	26,600	8,000	0	12,000	2,700
4	12,900	0	22,900	7,200	2,900	0	4,300	61,600	15,700	0	22,900	1,400

4 試料ともに樹木花粉ではマツ属複雑管束亜属とスギ属の産出が目立ち、それぞれ29～49%、17～27%の産出率を示す。その他ではハンノキ属やコナラ属コナラ亜属、クリ属、ニレ属、ケヤキ属、エノキ属、ムクノキ属などが産出しており、それぞれ数%～十数%の産出率である。草本花粉ではイネ科とアブラナ科の産出が目立つが、イネ科は上位層において多く産出する傾向があり、アブラナ科は上位層において減少する傾向がある。また、好湿性の分類群の産出が見られ、ガマ属(Na3)やミズアオイ属(Na1～3)、アヤメ属(Na1, 2)、ミソハギ属(Na1)、ミズワラビ属(Na4)、サンショウモ属(Na3)などが挙げられる。さらに、栽培植物のソバ属(Na1, 3)もわずかに産出している。

3-2. プラント・オパール分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料1g当りの各プラント・オパール個数を求めた。一覧表を第91表に、分布図を第224図に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は、試料

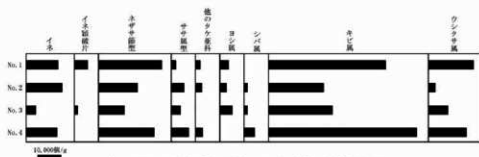
1g当りの検出個数である。

検鏡の結果、イネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、ササ属型機動細胞珪酸体、他のタケ亜科機動細胞珪酸体、ヨシ属機動細胞珪酸体、シバ属機動細胞珪酸体、キビ属機動細胞珪酸体、ウシクサ属機動細胞珪酸体の8種類の機動細胞珪酸体が確認できた。イネとネザサ節型、ササ属型、キビ属、ウシクサ属の機動細胞珪酸体は全ての試料から産出しており、それぞれ4,000～14,800個、10,600～26,200個、1,900～7,200個、22,900～61,600個、2,700～18,700個である。他のタケ亜科機動細胞珪酸体はNa3以外の試料から産出しており、1,900～2,900個である。ヨシ属機動細胞珪酸体はNa4以外の試料から産出しており、2,700～5,300個である。シバ属機動細胞珪酸体はNa1以外の試料から産出しており、1,300～4,300個である。それ以外では、イネの初段に形成される植物珪酸体(イネ類破片)やイネ型短細胞珪酸体列片、棒状珪酸体、ポイント型珪酸体などの産出が見られた。

(4) まとめ

分析試料は栗橋宿跡第4地点のH8-D4・5グリッドから採取したが、花粉分析とプラント・オパール分析の結果において、両者に顕著な相違は見られなかった。まず、樹木花粉について見ると、マツ属複雑管束亜属が多く産出しており、コナラ属コナラ亜属やクリ属を伴っている。これらは陽樹を含む分類群であるため、遺跡周辺にはニヨウマツ類やコナラ、クリなどからなる二次林が広がっていたと思われる。プラント・オパール分

析では、ネザサ節型機動細胞珪酸体の産出が多く見られ、二次林が発達するような陽のあたる明るい場所にはネザサ節型のササ類も生育していたであろう。また、スギ属花粉の産出も多く、遺跡周辺にはスギ林も存在していたと思われる。さらに、遺跡は利根川沿いに立地しているが、エノキ属、ムクノキ属は利根川周辺に河畔林を形成していたと思われる。ただし、Na4ではほとんど産出が見られないため、Na3の時期から河川周辺に分布を広げていた可能性がある。好湿性の分類群の産出



第224図 栗橋宿跡第4地点における植物珪酸体分布図

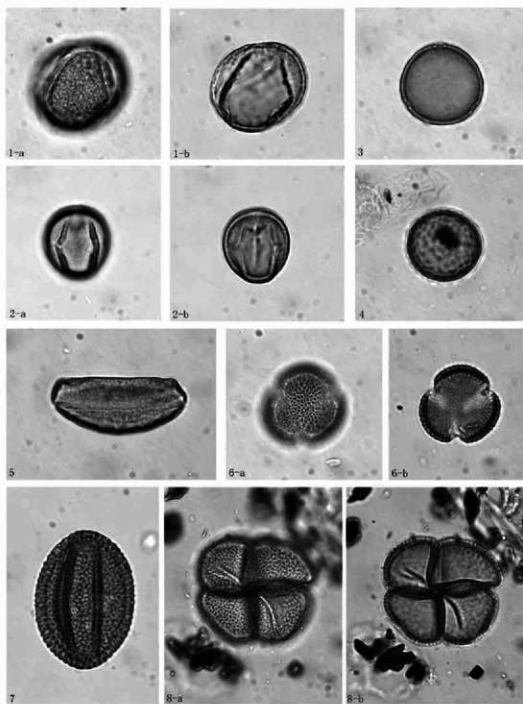
も多く、花粉分析ではハンノキ属やガマ属、ミズアオイ属、アヤメ属、ミソハギ属、ミズワラビ属、サンショウモ属が、プラント・オパール分析ではヨシ属が産出している。こうした植物が第4地点の湿潤な場所に生育していたと考えられる。プラント・オパール分析で産出しているウシクサ属という分類階級には、湿地的環境に生育する種や乾燥的環境に生育する種が含まれるが、遺跡周辺には二次林が分布するような比較的明るい場所や、湿潤な環境の存在が推測されるため、両方の環境に生育するウシクサ属由来の機動細胞珪酸体が含まれている可能性がある。

次に栽培植物について検討する。プラント・オパール分析では、全ての試料からイネ機動細胞珪酸体が産出した。さらに、No.1とNo.3ではイネ穎破片の産出も見られ、第4地点はイネの葉身や籾殻が集積する場所であったと思われる。一方で、イネ機動細胞珪酸体については、試料1g当たり5,000個以上検出された地点の分布範囲と、実際の発掘調査で検出された水田址の分布がよく対応する結果が得られており（藤原1984）、試料1g当たり5,000個が水田土壌か否かを判断する目安とされている。No.3はやや産出量が少ないものの、他の試料はこの目安と比べても十分多い。水田雑草を含む分類群として知られるミズアオイ属がNo.

1～3で産出している点も加味すると、第4地点では一部で水田稲作を行っていた可能性も考えられる。また、No.1とNo.3ではソバ属花粉が産出しており、イネと同様に第4地点周辺でソバ栽培を行っていた可能性が考えられる。その他で栽培植物の可能性のある植物としては、花粉分析で産出したアブラナ科がある。アブラナ科は大根や蕪などが含まれる分類群であるが、特にNo.4では産出率が突出しており、No.4の時期にアブラナ科の栽培が集約的に行われていた可能性を示唆している。アブラナ科は上位層において減少傾向にあり、次第に栽培が行われなくなったと思われる。ただし、アブラナ科という分類階級には野生種も含まれており、花粉の形態で栽培種か野生種かを区別するのは難しい。野生種のアブラナ科が分布を狭めていった可能性も考えられる。また、プラント・オパール分析ではいずれの試料においてもキビ属が多く産出している。キビ属にはアワやキビ、ヒエなどが含まれるため、これらの作物が第4地点周辺で栽培されていた可能性が考えられる。しかし、キビ属という分類階級には野生種も含まれており、機動細胞珪酸体の形態で栽培種か野生種かを区分するのが難しい。よって、ここでは第4地点周辺にキビ属も生育していたと指摘するに留める。

引用・参考文献

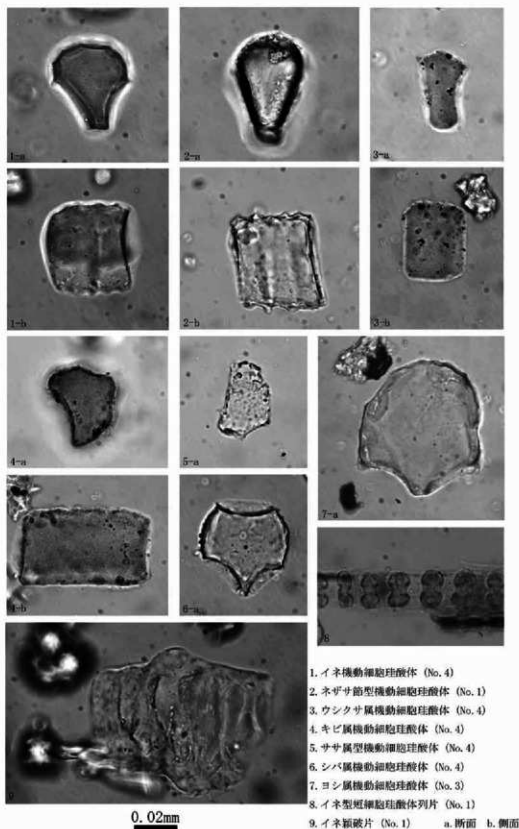
藤原宏志 1984「プラント・オパール分析法とその応用—先史時代の水田址探査—」考古学ジャーナル 227 2-7



0.02mm

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1. コナラ属コナラ亜属 (No. 2 PLC. 1154) | 2. コナラ属アカガシ亜属 (No. 2 PLC. 1155) |
| 3. エノキ属-ムクノキ属 (No. 2 PLC. 1156) | 4. オオバコ属 (No. 3 PLC. 1157) |
| 5. ミズアオイ属 (No. 2 PLC. 1158) | 6. アブラナ科 (No. 2 PLC. 1159) |
| 7. ソバ属 (No. 3 PLC. 1160) | 8. ガマ属 (No. 3 PLC. 1161) |

第225図 栗橋宿跡第4地点から産出した花粉化石



第226図 栗橋宿跡第4地点から産出した植物珪酸体

4. 堆積物中の珪藻化石群集

(1) はじめに

珪藻は、10～500 μ m ほどの珪酸質殻を持つ単細胞藻類で、殻の形や刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群が設定されている（小杉1988、安藤1990）。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においても、わずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境（例えばコケの表面や湿った岩石の表面など）に生育する珪藻種が知られている。こうした珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

ここでは、第4地点のH8-D4・5グリッド堆積物中の珪藻化石群集を調べた。なお、同一試料について花粉分析とプラント・オパール分析を行っている（花粉分析、プラント・オパール分析を参照）。

(2) 試料と方法

試料は、栗橋宿跡第4地点のH8-D4・5グリッド堆積物4点である（第92表）。いずれも江戸時代後半の堆積物である。

各試料について以下の処理を行い、珪藻分析用プレパラートを作製した。

①分析試料は、1g程度を採取し、30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。②反応終了後、水を加え1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を5回ほど繰り返した。③

懸濁残渣を遠心管に回収し、マイクロベットで適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥させた。乾燥後は、マウントメディアで封入しプレパラートを作製した。

作製したプレパラートは顕微鏡下600倍および1500倍で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数した。珪藻殻は、完形と非完形（原則として半分程度残っている殻）に分けて計数し、完形殻の出現率として示した。

(3) 珪藻化石の環境指標群

珪藻化石の環境指標群は、主に安藤（1990）が設定した環境指標群に基づいた。なお、環境指標群以外の珪藻種については、淡水種は広布種（W）として、海水～汽水種は不明種（?）としてそれぞれ扱った。また、破片のため属レベルの同定にとどめた分類群は、その種群を不明（?）として扱った。以下に、小杉（1988）が設定した海水～汽水域における環境指標群と安藤（1990）が設定した淡水域における環境指標群の概要を示す。

[外洋指標群（A）]: 塩分濃度が35パーミル以上の外洋水中を浮遊生活する種群である。

[内湾指標群（B）]: 塩分濃度が26～35パーミルの内湾水中を浮遊生活する種群である。

[海水藻場指標群（C1）]: 塩分濃度が12～35パーミルの水域の海藻や海草（アマモなど）に付着生活する種群である。

[海水砂質干潟指標群（D1）]: 塩分濃度が26～35パーミルの水域の砂底（砂の表面や砂粒間）に付着生活する種群である。この生育場所には、

第92表 分析試料一覧（2）

試料No.	調査区	グリッド	層位	時期	土層	備考
1	第4地点	H8-D4・5	2	江戸時代後半	暗灰色（N3/）粘土質シルト	植物遺体がラミナ状に挟まる
2			7		暗青灰色（10BG4/1）シルト	バイズ状褐鉄鉱を含む
3			I		青灰色（10BG6/1）砂質シルト	
4			III		青灰色（5BG5/1）粘土質シルト	褐鉄鉱多く含む

ウミナナ類、キサゴ類、アサリ、ハマグリ類などの貝類が生活する。

〔海水泥質干潟指標種群 (E1)〕: 塩分濃度が12～30パーミルの水域の泥底に付着生活する種群である。この生育場所には、イボウミナナ主体の貝類相やカニなどの甲殻類相が見られる。

〔汽水藻場指標種群 (C2)〕: 塩分濃度が4～12パーミルの水域の海藻や海草に付着生活する種群である。

〔汽水砂質干潟指標種群 (D2)〕: 塩分濃度が5～26パーミルの水域の砂底(砂の表面や砂粒間)に付着生活する種群である。

〔汽水泥質干潟指標種群 (E2)〕: 塩分濃度が2～12パーミルの水域の泥底に付着生活する種群である。淡水の影響により、汽水化した塩性湿地に生活するものである。

〔上流性河川指標種群 (J)〕: 河川上流部の溪谷部に集中して出現する種群である。これらは、殻面全体で岩にびったりと貼り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。

〔中～下流性河川指標種群 (K)〕: 河川の中～下流部、すなわち河川沿いで河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種には、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。

〔最下流性河川指標種群 (L)〕: 最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種には、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになるためである。

〔湖沼浮遊生指標種群 (M)〕: 水深が約1.5m以上で、岸では水生植物が見られるが、水底には植物が生育していない湖沼に出現する種群である。

〔湖沼沼沢湿地指標種群 (N)〕: 湖沼における浮

遊生種としても、沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい種群である。

〔沼沢湿地付着生指標種群 (O)〕: 水深1m内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地において、付着の状態では優勢な出現が見られる種群である。

〔高層湿原指標種群 (P)〕: 尾瀬ヶ原湿原や霧ヶ峰湿原などのように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

〔陸域指標種群 (Q)〕: 上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である(陸生珪藻と呼ばれている)。

(4) 結果およびまとめ

堆積物から検出された珪藻化石は、海水種が1分類群1属1種、海～汽水種が3分類群1属3種、汽水種が4分類群3属4種、淡水種が89分類群26属75種2変種であった。これらの珪藻化石は、海水域における1環境指標種群 (E1)、淡水域における5環境指標種群 (K、L、N、O、Q) に分類された(第92表)。以下では、各地点の珪藻化石の特徴と堆積環境について述べる。

〔H8-D4・5グリッド (Na1、Na2)〕

堆積物1g中の珪藻殻数は、 3.8×10^6 および 1.7×10^6 個、完形殻の出現率は72.2および48.9%である。全体的に淡水種の占める割合が高い。

環境指標種群では、陸域指標種群 (Q) がやや多く、中～下流性河川指標種群 (K)、最下流性河川指標種群 (L)、沼沢湿地付着生指標種群 (O) が出現した。

指標種群が少ないが、いずれの堆積物も、河川の影響を受けるジメジメとした陸域を伴う沼沢地が推定される。

〔H8-D4・5グリッド (Na3、Na4)〕

堆積物1g中の珪藻殻数は、 4.5×10^5 および 7.5×10^5 個、完形殻の出現率は45.5および55.0

第93表 堆積物中の珪藻化石産出表 (種群は、小杉 (1988) および安藤(1990)による)

No.	分類群	種群	1	2	3	4	No.	分類群	種群	1	2	3	4
1	<i>Nitzschia</i>	<i>salinarum</i>	?				51	<i>K.</i>	<i>protracta</i>	?	1	1	
2	<i>Nitzschia</i>	<i>hungarica</i>	?	3	1		52	<i>K.</i>	<i>papula</i>	?	3	13	2
3	<i>N.</i>	<i>littoralis</i>	?	1	8		53	<i>K.</i>	<i>rudiosa</i>	?		2	2
4	<i>N.</i>	<i>signa</i>	?				54	<i>K.</i>	<i>trivialis</i>	?	13	6	
1	<i>Diploneis</i>	<i>interrupta</i>	?			2	55	<i>K.</i>	<i>veneta</i>	?	3	19	3
2	<i>Nitzschia</i>	<i>prasinata</i>	?	1			56	<i>K.</i>	<i>viridula</i>	?		1	14
3	<i>Nitzschia</i>	<i>levandensis</i>	?		3	1	57	<i>K.</i>	<i>app.</i>	?	3	12	3
4	<i>N.</i>	<i>lorenziana</i>	?				58	<i>Nitzschia</i>	<i>affinis</i>	?		1	1
1	<i>Achnanthes</i>	<i>crumena</i>	?		2	1	59	<i>K.</i>	<i>ampliatum</i>	?	2	2	
2	<i>A.</i>	<i>hungarica</i>	?		4		60	<i>K.</i>	<i>iridis</i>	?		1	1
3	<i>A.</i>	<i>lanceolata</i>	?	2			61	<i>K.</i>	<i>app.</i>	?	2	1	3
4	<i>Achnanthes</i>	<i>montana</i>	?	1	4	1	62	<i>Nitzschia</i>	<i>ambigua</i>	?		6	2
5	<i>A.</i>	<i>ovalis</i>	?	14	17	34	63	<i>K.</i>	<i>ovalis</i>	?			
6	<i>Achnanthes</i>	<i>sphaerophora</i>	?	2	10	16	64	<i>K.</i>	<i>dohillyi</i>	?			1
7	<i>Achnanthes</i>	<i>ambigua</i>	?				65	<i>K.</i>	<i>pulva</i>	?	5	1	1
8	<i>A.</i>	<i>italica</i>	?			1	66	<i>K.</i>	<i>parvula</i>	?	1	1	1
9	<i>A.</i>	<i>app.</i>	?		1		67	<i>K.</i>	<i>vernicularis</i>	?	6	1	1
10	<i>Bacillaria</i>	<i>paradoxa</i>	?				68	<i>K.</i>	<i>app.</i>	?	12	11	1
11	<i>Gomphonema</i>	<i>bacillum</i>	?	2		9	69	<i>Pinnularia</i>	<i>acrophysaria</i>	?			1
12	<i>G.</i>	<i>lauri</i>	?				70	<i>P.</i>	<i>borealis</i>	?	1	1	2
13	<i>G.</i>	<i>silicula</i>	?		3	6	71	<i>P.</i>	<i>gibba</i>	?	1	1	5
14	<i>Gomphonema</i>	<i>placenticula</i>	?		1	2	72	<i>P.</i>	<i>microstaurum</i>	?		6	4
15	<i>Gomphonema</i>	<i>zelenae</i>	?	1	1		73	<i>P.</i>	<i>subcapitata</i>	?	9	5	2
16	<i>Cyclotella</i>	<i>menziesiana</i>	?				74	<i>P.</i>	<i>viridula</i>	?	1	14	3
17	<i>Cymbella</i>	<i>silicula</i>	?		1	1	75	<i>P.</i>	<i>app.</i>	?	5	6	14
18	<i>C.</i>	<i>sinuata</i>	?	1		1	76	<i>Rhopalodia</i>	<i>gibba</i>	?		1	
19	<i>C.</i>	<i>tumida</i>	?				77	<i>R.</i>	<i>gibberula</i>	?	1	1	10
20	<i>C.</i>	<i>turgidula</i>	?	1	2	1	78	<i>R.</i>	<i>quindargiana</i>	?			
21	<i>C.</i>	<i>app.</i>	?		1	1	79	<i>Stauroneis</i>	<i>arctica</i>	?			2
22	<i>Diploneis</i>	<i>ovalis</i>	?				80	<i>S.</i>	<i>dohillyi</i>	?	1	1	
23	<i>D.</i>	<i>puma</i>	?		2	1	81	<i>S.</i>	<i>phoenicenteron</i>	?	1	2	6
24	<i>Epithemia</i>	<i>adusta</i>	?	1			82	<i>S.</i>	<i>amabilis</i>	?	1	1	1
25	<i>Eumotis</i>	<i>bilunensis</i>	?	23			83	<i>S.</i>	<i>app.</i>	?		1	
26	<i>E.</i>	<i>novodon</i>	?				84	<i>Sirivella</i>	<i>angusta</i>	?	2	1	1
27	<i>E.</i>	<i>maricola</i>	?				85	<i>S.</i>	<i>arctica</i>	?		1	1
28	<i>E.</i>	<i>poecilanthus</i> var. <i>minor</i>	?				86	<i>S.</i>	<i>app.</i>	?		3	1
29	<i>E.</i>	<i>poecilanthus</i> var. <i>undulatus</i>	?				87	<i>Strodozia</i>	<i>rumens</i>	?			1
30	<i>E.</i>	<i>violii</i>	?				88	<i>S.</i>	<i>ulna</i>	?	12	4	2
31	<i>E.</i>	<i>app.</i>	?		2	3	89	<i>S.</i>	<i>app.</i>	?	3	1	5
32	<i>Frustulia</i>	<i>vulgaris</i>	?	4	2	8	90	<i>Unkenia</i>	<i>app.</i>	?	10	1	5
33	<i>Gomphonema</i>	<i>acutum</i>	?				1			?	1		
34	<i>G.</i>	<i>constrictum</i>	?		2	1	2	淡水～汽水不定・不明種	?	4	8	1	1
35	<i>G.</i>	<i>gracile</i>	?	1		3	3	汽水不定・不明種	?		1	1	1
36	<i>G.</i>	<i>parvulum</i>	?	10	3	2	4	中～下流河川	?	4	2	2	4
37	<i>G.</i>	<i>psudosugor</i>	?				5	地下酸性河川	?	2			
38	<i>G.</i>	<i>sp.</i>	?	6	5	2	6	湖沼沿岸環境	?			1	1
39	<i>Gomphonema</i>	<i>app.</i>	?	3	4	19	7	沼沢地・水田・水田	?	7	9	20	14
40	<i>Phytocolla</i>	<i>ambigua</i>	?	5	1	6	8	陸域	?	19	17	11	35
41	<i>Phytocolla</i>	<i>varians</i>	?				9	汽水不定・不明種	?	140	144	108	105
42	<i>Nitzschia</i>	<i>bacillum</i>	?	2	4	1	10	淡水不定・不明種	?	37	41	44	28
43	<i>N.</i>	<i>confervacea</i>	?	1	1		11	その他不明種	?	10	1	5	10
44	<i>N.</i>	<i>costata</i>	?		1	2							
45	<i>N.</i>	<i>cryptocapula</i>	?	11	11	1		汽水種	?	4	8	1	1
46	<i>N.</i>	<i>cuspidata</i>	?	8	8	8		汽水種	?		4	1	4
47	<i>N.</i>	<i>eligmata</i>	?	3	5	4		汽水種	?	209	213	196	187
48	<i>N.</i>	<i>meniculus</i>	?		2			合計	?	223	227	202	202
49	<i>N.</i>	<i>motica</i>	?		6	1		見形数の出現率(%)	?	72.2	48.9	45.5	55.0
50	<i>N.</i>	<i>phyllipia</i>	?	10				堆積物1g当たり数値(個)	?	3.66~66.1	7.7~66.4	5.2~65.5	5.2~65.5

%である。全体的に淡水種の占める割合が高い。

環境指標種群では、陸域指標種群 (Q) と沼沢湿地付着生指標種群 (O) がやや多く、中～下流性河川指標種群 (K)、湖沼沼沢湿地指標種群 (N) が出現した。

指標種群が少ないが、いずれの堆積物も、河川の影響を受けるジメジメとした陸域を伴う沼沢地

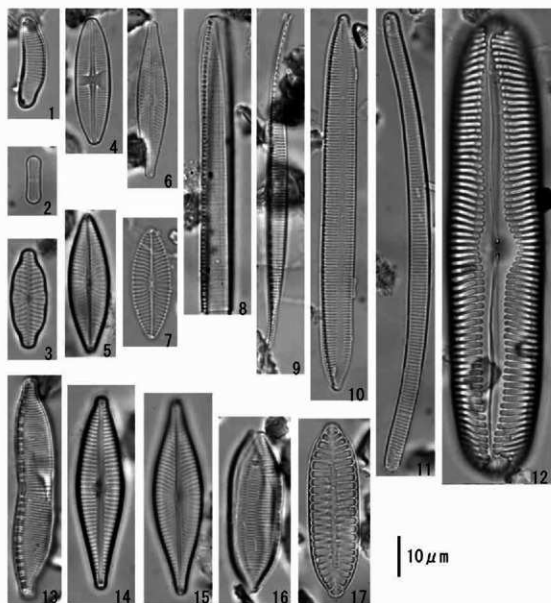
が推定される。

(5) おわりに

栗橋跡第4地点のH8-D4・5グリッド堆積物4点について珪藻分析を行った。その結果、いずれの堆積物も河川の影響を受けるジメジメとした陸域を伴う沼沢地が推定された。

引用・参考文献

- 安藤一男 1990『淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用』東北地理 42 73-88
小杉正人 1988『珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用』第四紀研究 27 1-20



1. *Eunotia pectinalis* var. *minor* (No. 4) 2. *Navicula contenta* (No. 4)
 3. *Navicula elginensis* (No. 1) 4. *Achnanthes hungarica* (No. 2) 5. *Navicula phyllepta* (No. 1)
 6. *Navicula veneta* (No. 1) 7. *Navicula monisculus* (No. 2) 8. *Nitzschia vernicularis* (No. 1)
 9. *Nitzschia lorenziana* (No. 4) 10. *Nitzschia hungarica* (No. 1) 11. *Eunotia bilunaris* (No. 1)
 12. *Pinnularia viridis* (No. 1) 13. *Hantzschia amphioxys* (No. 1) 14. *Gomphonema pseudonagur* (No. 1)
 15. *Navicula trivialis* (No. 2) 16. *Nitzschia calida* (No. 1) 17. *Surirella angusta* (No. 4)

第228図 堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真

5. 栗橋宿跡第2・4地点出土木製品の樹種同定

(1) はじめに

久喜市に所在する栗橋宿跡第2・4地点から出土した木製品30点について樹種同定を行った。

(2) 試料と方法

試料は、土壌や性格不明遺構、木樋などから出土した木製品30点である。なお、№22の漆塗枕は複数部品あり、3点を同定したため、同定した点数は総計32点になった。遺構の時期は、いずれも江戸時代の幕末～明治期と推測されている。

これらの試料から、剃刀を用いて3断面（横断面・接線断面・放射断面）の切片を採取し、ガムクロラルで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察および同定、写真撮影を行った。一部の試料は炭化していて切片の採取が困難であったため、少量の破片を採取した。これらの炭化材試料は、乾燥させた後、カミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、直径1cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定した。その後、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製 VE-9800）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

(3) 結果

樹種同定の結果、針葉樹はモミ属とヒノキ、スギの3分類群、広葉樹はケヤキとムクノキ、クリ、ブナ属、クマシデ属イヌシデ節（以下、イヌシデ節）、トチノキ、キリの7分類群、その他に単子葉類のタケ亜科があり、合計11分類群が確認された。結果の一覧を第95・96表に示す。

①モミ属 *Abies* マツ科 第229図1a-1c(№9)

仮道管および放射組織からなる針葉樹である。放射組織でじゅず状末端壁がみられる。分野壁孔はスギ型で、1分野に1～4個存在する。

モミ属は暖帯から温帯の山地に生育する常緑高木で、ウラジロモミやシラベ、トドマツなど約5

種がある。材は軽軟で加工容易であるが、割れや狂いが出やすく、保存性が低い。

②ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 第229図2a-2c(№16)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に2個存在する。

ヒノキは福島県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で割裂性は大きく、耐朽性および耐湿性は著しく高く、狂いが少ない。

③スギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don ヒノキ科 第229図3a-3c(№2)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行はやや急である。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔は大型のスギ型で、1分野に通常2個並ぶ。

スギは暖帯から温帯下部に生育する常緑高木である。材は比較的軽軟で、切削加工は容易であり、割裂性は大きい。

④ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Maki No.ニレ科 第229図4a-4c(№1)

大型の道管が年輪のはじめに1列に並び、晩材部では小道管が集団をなして接線状から斜線状に配列する環孔材である。道管の穿孔は単一で、小道管にはらせん肥厚がみられる。放射組織は3～5列幅程度の異性で、上下端の細胞に大きな結晶をもつ。

ケヤキは暖帯下部に分布する落葉高木で、肥沃地や溪畔によく生育する。材は重硬だが、加工はそれほど困難ではなく、保存性が高い。

⑤ムクノキ *Aphananthe aspera* (Thunb.)

Planch. アサ科 第229図5a-5c(№17)

径が中型で厚壁の道管が、単独ないし2～3個複合して均等に分布する散孔材である。軸方向柔

第94表 樹種同定結果一覧

No.	地点	遺構、グリッド	台帳番号	器種	樹種	木取り	備考
1	4	IB8-17	14-1	鋤	ケヤキ	根目	-
2	2	木樋1	3	木樋	スギ	板目	-
3	2	SK6	4	漆器蓋	トチノキ	横木	-
4	4	SK1	22	板材	スギ	根目	-
5	4	SK1	23	板材	スギ	追根目	-
6	4	SK1	60	床板	スギ	根目	一部炭化
7	4	SK1	109	梁材	クマシダ属イヌシダ節	半割	-
8	4	SK1	114	柱材	スギ	芯持丸木	-
9	4	SK1	144	柱材	モミ属	角材	-
10	4	SK1	158	ダボ	クリ	角材	一部炭化
11	4	SK1	159	柱材	スギ	角材	-
12	4	SK1	160	戸の枠	スギ	角材	-
13	4	SK1	172	差歯下駄(台)	キリ	板目	-
14	4	SK1	174	柱材	スギ	角材	-
15	4	SK1	222	貫材	スギ	角材(芯持)	一部炭化
16	4	SK1	225	障子枠	ヒノキ	角材	-
17	4	SK1	242	床板	ムクノキ	根目	-
18	4	SK2	2	漆桶	ブナ属	横木	-
19	4	SK2	3	桶	ブナ属	横木	-
20	4	SK2	4	漆皿	ブナ属	横木	-
21	4	SK4	1	漆製浮き	ヒノキ	削出?	-
22-1	4	SX2	2	漆塗枕(板:大)	スギ	板目	-
22-2	4	SX2	2	漆塗枕(板:小)	モミ属	根目?	-
22-3	4	SX2	2	漆塗枕(脚)	ヒノキ	根目?	-
23	4	SX2	3	漆箸	タケ亜科	削出	-
24	4	SX2	31	柱材	スギ	角材(芯持)	-
25	4	SX2	32	板材	スギ	追根目	-
26	4	SX2	33	板材	スギ	追根目	-
27	4	木樋	1-1上	木樋	ヒノキ	角材(芯持)	-
28	4	木樋	1-1下	木樋	ヒノキ	角材(芯持)	-
29	4	木樋	2	木樋	ヒノキ	芯持丸木	-
30	4	IB8-17	3	漆下駄	スギ	板目	-

組織は周囲状～5列幅程度の帯状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は1～6列幅で、方形細胞もしくは直立細胞が上下端に細胞程度連なる異性である。

ムクノキは関東以西の亜熱帯から暖帯に生育する落葉高木である。材は堅く、密で強靱である。

⑥クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc.

ブナ科 第229・230図 6a-6c (No.10)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木で

ある。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

⑦ブナ属 *Fagus* ブナ科 第230図 7a-7c (Na19)

小型で単独の道管が密に分布し、晩材部ではやや径を減ずる散孔材である。道管の穿孔は単一のものと同様の2種類がある。放射組織はほぼ同様に、単列のもの、2～数列のもの、広放射組織の3種類がある。

ブナ属は温帯に分布する落葉高木で、ブナとイヌブナがある。材は堅硬および緻密で、韌性があるが保存性は低い。

⑧クマシデ属 *イヌシデ* 節 *Carpinus* sect. *Eucarpinus* カバノキ科 第230図 8a-8c (Na7)

やや小型から中型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して分布する散孔材である。道管の穿孔は単一である。軸方向柔組織は晩材部で1列幅の接線状となる。放射組織は同様に1～3列幅、集合放射組織がみられる。

イヌシデ節は暖帯から温帯の低山地に分布する落葉中高木で、イヌシデとイワシデ、アカシデがある。材は重硬で韌性が大きく、割裂しにくい。

⑨トチノキ *Aesculus turbinata* Blume ムクロジ科 第230図 9a-9c (Na3)

やや小型の道管が、単独もしくは放射方向に数個複合して均等に分布する散孔材である。道管の穿孔は単一である。放射組織は単列で、すべて平伏細胞で構成される同性である。接線断面において放射組織は層状に配列する。

トチノキは暖帯から温帯に分布する落葉高木で、やや湿り気のある肥沃な土地の深い谷間や中腹の緩傾斜地によく生育する。材は柔らかく緻密であるが、保存性は低い。

⑩キリ *Paulownia tomentosa* (Thunb.) Steud. キリ科 第230図 10a-10c (Na13)

早材部は確認できなかったが、大型の道管が配列する。軸方向柔組織は翼状となる。木部繊維の壁厚は極めて薄い。道管の穿孔は単一である。放

射組織は同様に、4～6列幅程度である。

キリは、温帯に分布する落葉高木である。材は軽軟で加工容易であるが、耐湿性や耐久性に富む。

⑪タケ亜科 *Subfam. Bambusoideae* イネ科 第230図 11a (Na23)

柔細胞と維管束で構成される単子葉類で、維管束は柔細胞中に散在する。維管束は1対の道管とそれと直行する原生木部間隙と師部で形成され、その周囲を厚膜組織からなる維管束鞘が取り囲む。

タケ・ササの仲間では日本では12属が含まれるが、稈の組織のみから属や種を識別するのは難しい。割裂性が非常に大きい。

(4) まとめ

木製品の器種別の樹種同定結果を第94表に示す。

鋤はケヤキであった。近世以降の農具はあまり分析例がないが、アカガシ亜属やコナラ節などの重厚な材が使用されている(伊東・山田編2012)。ケヤキは重硬および強靱だが、加工はそれほど困難ではなく、非常に優れた材である。

漆塗の浮きはヒノキであった。近世の浮きは分析例がないが、古代～中世では全国的にスギやヒノキ、アスナロなどの針葉樹が利用されている(伊東・山田編2012)。軽量で加工も容易な材が選択利用されていると思われる。

下駄は、差歯下駄の台がキリ、漆塗り下駄がスギであった。近世の下駄にはケヤキやクリ、ヒノキ、スギなど多様な樹種が利用されており、キリも比較的多く確認されている(伊東・山田編2012)。

容器類は、蓋がトチノキ、漆塗椀と椀、漆皿がブナ属であった。漆塗箸はタケ亜科であった。漆器の木地などの挽物容器は、全国的にブナ属やトチノキ、ケヤキが多用される傾向があり(伊東・山田編2012)、今回の分析結果もこの傾向と一致する。

建築部材や土木材、その他板材などの樹種同

定結果を第95表に示す。全体的に針葉樹が多く、障子枠がヒノキ、貫材と戸の枠、板材がスギ、柱材がモミ属とスギ、床板がスギ、木樋がヒノキとスギであった。針葉樹は割裂性が大きく、加工が容易なため、製材しやすい。広葉樹はダボがクリ、

梁材がイヌシデ節、床板でムクノキが確認された。クリとイヌシデ節、ムクノキはいずれも重硬な材である。建築部材は、用途や部位によって軽軟な針葉樹と、重硬な広葉樹を使い分けていたと考えられる。

引用・参考文献

平井信二 1996 『木の大百科』394 朝倉書店

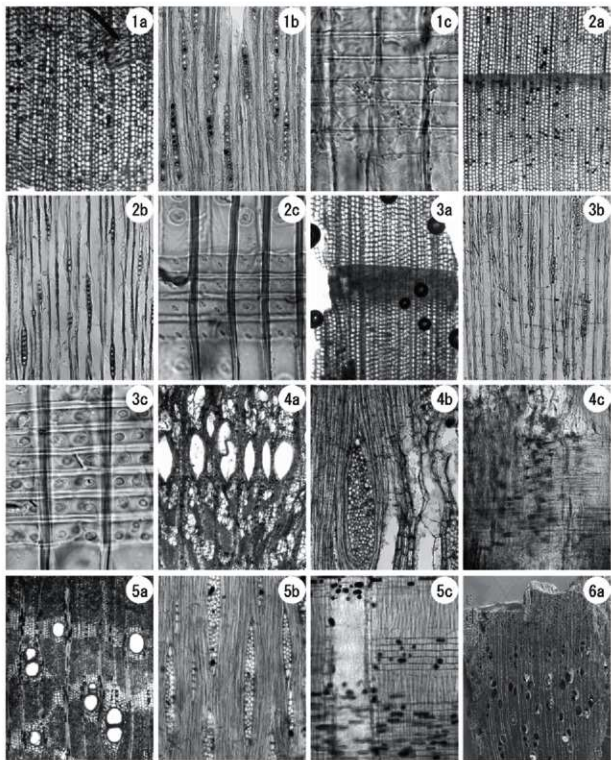
伊東隆夫・山田昌久編 2012 『木の考古学—出土木製品用材データベース—』449 海青社

第95表 器種別の樹種同定結果（1）

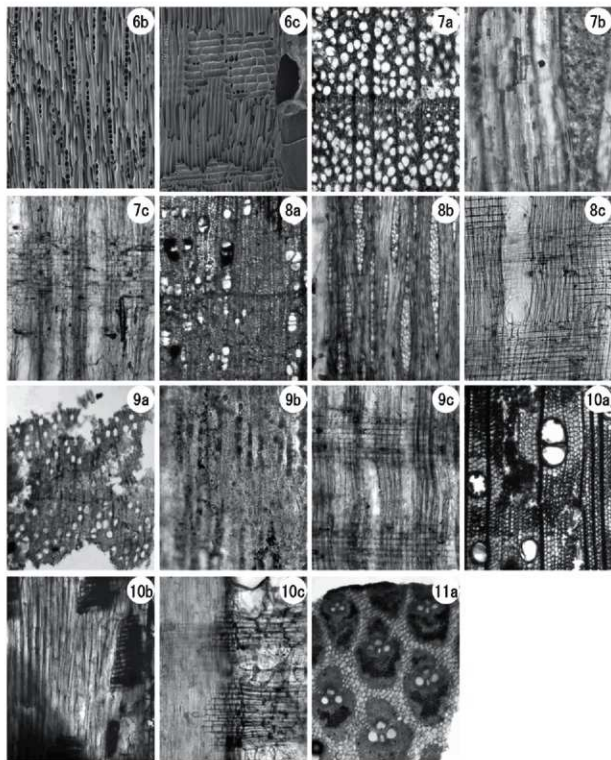
樹種／器種	鋤	漆製浮き	差歯下駄	漆下駄	漆器蓋	漆椀	椀	漆皿	漆箸	漆塗枕		計
										脚	板	
モミ属										1		1
ヒノキ		1								1		2
スギ				1							1	2
ケヤキ	1											1
ブナ属							1	1	1			3
トチノキ					1							1
キリ			1									1
タケ亜科									1			1
総計	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	12

第96表 器種別の樹種同定結果（2）

樹種／器種	ダボ	障子枠	貫材	戸の枠	梁材	柱材	床板	板材	木樋	計
モミ属						1				1
ヒノキ		1							3	4
スギ			1	1		4	1	4	1	12
ムクノキ							1			1
クリ	1									1
クマシデ属イヌシデ節					1					1
総計	1	1	1	1	1	5	2	4	4	20



1a-1c. モミ属(No.9) 2a-2c. ヒノキ(No.16) 3a-3c. スギ(No.2) 4a-4c. ケヤキ(No.1) 5a-5c. ムクノキ(No.17) 6a. クリ(No.10)
a: 横断面 (スケール=250 μ m) b: 接線断面 (スケール=100 μ m) c: 放射断面 (スケール=1-3: 25 μ m, 4-5: 100 μ m)



6b-6c. クリ (No.10) 7a-7c. ブナ属 (No.19) 8a-8c. クマシデ属イヌシデ節 (No.7) 9a-9c. トチノキ (No.3) 10a-10c. キリ (No.13) 11a. タケ亜科 (No.23)

a: 横断面 (スケール=250 μ m) b: 接線断面 (スケール=7-10:100 μ m) c: 放射断面 (スケール=7-10:100 μ m)

6. 栗橋宿跡第2・4地点の遺構から出土した大型植物遺体

(1) はじめに

利根川の右岸に立地する、江戸時代から明治時代を中心とした埼玉県久喜市の栗橋宿跡では、大量の木製品や加工木、樹皮などが廃棄された遺構が検出された。ここでは、栗橋宿跡第2・4地点の江戸時代後期の遺構から出土した大型植物遺体を同定し、食用などに利用された植物あるいは遺跡周辺における栽培状況や植生について検討する。

(2) 試料と方法

試料は、埼玉県埋蔵文化財調査事業団により採取された現地取り上げ試料4試料である。試料は、第2地点の第14号土壌(SK14)と第2号溝跡(SD2)、第4地点の第1号土壌(SK1)とH8-H5グリッドから採取された。考古学的な所見による試料の時期は、幕末から明治時代にかけてと推定されている。

同定は肉眼および実体顕微鏡で行った。堅果類の大きさについては、デジタルノギスを用いて小数点第2位まで計測した。試料は、埼玉県埋蔵文化財調査事業団に保管されている。

(3) 結果

同定した結果、木本植物の針葉樹ではアカマツ球果の1分類群、広葉樹ではモモ核とウメ核、ス

モモ核、オニグルミ核・炭化核、ハンノキ属ヤシヤブシ亜属(以下ヤシヤブシ亜属)果穂の5分類群の、計6分類群が得られた(第97表)。種実以外に、不明の卵殻が得られた。

以下に、産出した主な大型植物遺体について遺構別に記載する。なお、分類群の学名は米倉・梶田(2003-)に準拠し、APG IIIリストの順とした。

第2地点第14号土壌: アカマツとモモ、ウメ、スモモ、オニグルミがわずかに得られた。

第2地点第2号溝跡: モモとウメ、オニグルミがわずかに得られた。

第4地点第1号土壌: モモとウメ、オニグルミ、ヤシヤブシ亜属がわずかに得られた。

第4地点H8-H5グリッド: モモとオニグルミ、ヤシヤブシ亜属がわずかに得られた。

次に、大型植物遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

①アカマツ *Pinus densiflora* Siebold et Zucc.

球果 マツ科

茶褐色で、狭卵形。種鱗はくさび形で、木質化しており、硬い。露出部は菱形状。高さ33.6mm、幅19.1mm。

②モモ *Amygdalus persica* L. 核 バラ科

第97表 栗橋宿跡第2・4地点から出土した大型植物遺体 (括弧内は破片数)

	No. 地点	1	2	3	4
		2	4	4	4
遺構・グリッド		SK14	SD2	SK1	H8-H5 (池跡)
層位		-	-	上層	下層
台帳番号		7・8	1・2	233	236
時期		幕末～明治時代			
分類群	採取方法	現地採取			
アカマツ	球果	2			
モモ	核	5 (1)	4 (2)	2	3
ウメ	核	3	1		1
スモモ	核	1			
オニグルミ	核	(1)	1	(1)	1
	炭化核		(1)		1
ハンノキ属ヤシヤブシ亜属	果穂			7	1
不明	卵殻		1		

第98表 モモ核の大きさ (単位 mm)

形状	高さ	長さ	幅	遺構・グリッド
完形	26.7	19.7	14.3	SK14
完形	24.4	16.0	13.0	
完形	28.3	20.0	14.6	
完形	30.3	23.0	14.3	
完形	29.3	22.9	15.0	
半割	32.8	19.0	(7.8)	SD2
完形	27.3	22.3	14.6	
完形	28.7	18.6	14.5	
完形	28.9	18.2	14.4	
完形	28.7	18.3	13.7	
完形	29.0	19.5	13.7	SK1
完形	29.8	20.8	13.4	
完形	31.3	19.4	12.8	HS-d5 (池跡)
完形	25.7	20.0	14.2	
完形	27.0	17.3	12.5	
最小	24.4	16.0	12.5	
最大	32.8	23.0	14.6	
平均	28.5	19.4	13.8	
標準偏差	2.2	1.8	0.7	

第99表 ウメ核の大きさ (単位 mm)

形状	高さ	長さ	幅	遺構
完形	22.1	18.0	12.5	SK14
完形	19.3	15.2	11.7	
完形	20.6	16.5	12.7	
完形	18.6	11.4	8.0	SD2
完形	21.0	14.0	11.3	SK1
最小	18.6	11.4	8.0	
最大	22.1	18.0	12.7	
平均	20.3	15.0	11.2	
標準偏差	1.4	2.5	1.9	

第100表 オニグルミ核の大きさ (単位 mm)

形状	高さ	長さ	幅	遺構・グリッド
半割	28.6	14.1	(10.5)	SK14
半割 (炭化)	28.7	24.3	(10.9)	SD2
完形	27.2	23.9	20.2	
半割	32.1	27.2	(13.4)	SK1
完形	31.6	28.0	27.2	
完形 (炭化)	28.4	29.2	24.9	HS-d5 (池跡)
最小	27.2	14.1	20.2	
最大	32.1	29.2	27.2	
平均	29.4	24.5	24.1	
標準偏差	2.0	5.5	3.6	

平均値は完形個体のみ

黄褐色～茶褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形～紡錘形で先が尖る。下端に大きな着点がある。表面には不規則な深い皺があり、片側側面には縫合線に沿って深い溝が入る。計測可

能な14点の大きさは、高さ24.4～32.8mm (平均28.5±2.2mm)、幅16.0～23.0mm (平均19.4±1.8mm)、厚さ12.5～14.6mm (平均13.8±0.7mm) (第98表)。

③ウメ *Armeniaca mume* (Siebold et Zucc.) de Vriese 核 バラ科

褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は卵形。表面には全体的に不規則で深く小さな孔がある。着点は凹む。縫合線に沿って深い溝が入る。計測可能な5点の大きさは、高さ18.6～22.1mm(平均20.3±1.4mm)、幅11.4～18.0mm(平均15.0±2.5mm)、厚さ8.0～12.7mm(平均11.2±1.9mm)(第99表)。

④スモモ *Prunus salicina* Lindl. 核 バラ科
赤褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観はいびつな楕円形。縫合線に沿ってやや深い溝が入る。表面は平滑だが、臍付近に縦方向の不規則な皺がある。高さ15.7mm、幅14.0mm、厚さ10.1mm。

⑤オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim.
var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino 核・炭化核 クルミ科

茶褐色で、側面観は卵形～広卵形。木質で、壁は厚くて硬く、ときどき空隙がある。表面に縦方向の浅い縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。断面は角が尖るものが多い。計測可能な6点の大きさは、高さ27.2～32.1mm(平均29.4±2.0mm)、幅14.1～29.2mm(平均24.5±5.5mm)、厚さ20.2～27.2mm(平均24.1±3.6mm)(第100表)。

⑥ハンノキ属ヤシャブシ亜属 *Alnus* subgen. *Alnaster* 果穂 カバノキ科

暗褐色で、上面観は円形、側面観は卵形。果鱗は扇形で黒褐色。高さ26.8mm、幅19.7mm。

(4) まとめ

第2・4地点の幕末の遺構やグリッドから産出した大型植物遺体を同定した結果、栽培植物ではモモとウメ、スモモが得られた。ウメは、栗橋宿跡ではじめて見出された。また、野生植物で食用可能な種実として、オニグルミが見出された。オニグルミの核には明瞭な打撃痕はみられなかったが、6点中3点が半割であり、核を燻して口を開かせ、中身の子葉を取り出した可能性がある。

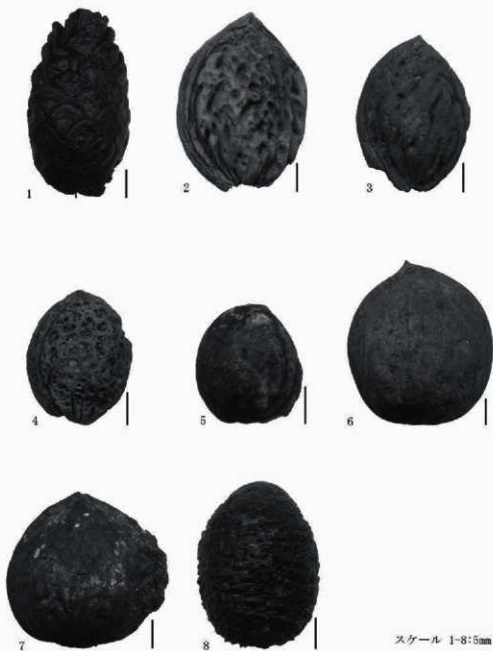
また、他の遺物と同様に炭化した個体も含まれており、保管されていたものが炭化した可能性などが考えられる。

針葉樹のアカマツとハンノキ属ヤシャブシ亜属は、遺構周辺に生育していて、球果や果穂が遺構内に堆積したと考えられる。

今回得られたのは全て木本植物であった。しかし、栗橋宿跡第2地点のこれまでの分析では、針葉樹のスギとクロマツ、広葉樹のケヤキやタラノキ、ニワトコなどの木本植物が産出しているものの、スベリヒユ属やキクマン属など道端や荒地などに生育する草本植物が主体であるため、森林要素は量的に少なかったと推定されている(大型植物遺体分析の項参照)。

モモ核については、山梨県内の遺跡から出土した事例を集成した新津(1999)によると、モモの核は時代ごとに大きさや形状が変化しており、弥生時代では比較的大きくかつ丸味が強い核が多いのに対し、平安時代から近世には縦長になる傾向があるという。また、鎌倉期では大きさの変異幅が大きく、江戸時代後期になると大型になり、平均核長2.69cm、最大で3.8cm程度の核がみられるという。今回の栗橋宿跡第2地点出土のモモ核は、長さ平均2.85±0.22cm、幅平均1.94±0.18cmで、江戸時代後期の平均値よりもやや大きめであった。ウメも、長さ平均2.03±0.14cm、幅平均1.50±0.25cmで、比較的大きな個体が多かった。

今回、同定された種実ほとんどが食用可能な種実であり、遺構周辺は食料の栽培や利用のためにかなり人の手が加わった環境であったと推定される。今回は目視で確認、同定された種実を中心に検討したが、今後、井戸跡などの堆積物中の微細な種実をあわせて検討すれば、利用植物や周辺植生に関して、より詳しい情報が得られると考えられる。



1. アカマツ球果 (第2地点, SK14, No.1) 2・3. モモ核 (第2地点, SK14, No.1) 4. ウメ核 (第2地点, SK14, No.1)
 5. スモモ核 (第2地点, SK14, No.1) 6. オニグルミ核 (第2地点, SD2, No.2)
 7. オニグルミ炭化核 (第4地点, グリッド H8-D5 (池跡), No.4) 8. ハンノキ属ヤシャブシ亜属果穂 (第4地点, SK1, 下層, No.3)

第231図 栗橋宿跡第2・4地点から出土した大型植物遺体

引用・参考文献

- 新津 健 1999 「遺跡から出土するモモ核についてー山梨県内の事例からー」 山梨考古学論集 IV 361-374 山梨県考古学協会
 米倉浩司・梶田 忠 2003 「BG Plants 和名ー学名インデックス (YList)」 <http://ylist.info>

7. 漆器の科学分析

(1) はじめに

江戸時代日光街道7番目の宿場町として栄えた栗橋宿跡(埼玉県久喜市栗橋東3丁目所在)第4地点出土漆器について、科学分析を行った。漆器考古学的には栗橋宿跡の時期の一定点を抑えることができる。以下、分析方法と結果を報告する。

(2) 分析の方法

漆器は階層や価格に応じた各種の製品が生産され、その品質が考古学的には所有階層復元の手がかりとなる。この品質差を材料や技術的側面から評価する場合、肉眼による表面観察では使用や廃棄後の劣化を含めた表面の塗りや加飾部分でしか判断できず、塗膜下の情報は塗膜分析によって解明される。

塗膜分析は漆器の内外面数箇所から数mmの塗膜片を採取し実体顕微鏡で観察した後、ポリエステル樹脂に包埋し、その断面を研磨のうえプレパレートに接着。さらに研磨を加えて(#100~3000)金属・偏光顕微鏡で観察する方法である。サンプルで、ある手板試料と比較検討しながら塗装工程や下地材料の同定を行うが、これによって表面観察ではわからない時代的地域的な塗装工程の特色、製品の品質が把握できるので、遺跡における所有階層の推定やデータが集積されれば製品の流通問題にも迫ることができる。塗料・下地の直接的な分析は、赤外線固有の振動をしている分子に波長を連続的に変化させて照射し、分子構造を解析するフーリエ変換赤外分光法(FT-IR)、上塗り赤色漆や彩(色)漆の顔料、下地の同定には蛍光X線分析を用いた(後述)。

本稿で用いる用語のうち、意味が曖昧で誤解をまねくものについては、以下のように規定して使用する。

① 赤色漆

赤色の主な顔料である朱(HgS)やベンガラ

(Fe₂O₃)が未同定の場合には「赤色漆(未同定)」と最初に断って使用し、同定済みは「赤色(朱)漆」「朱漆」「ベンガラ漆」などと表記する。よく使われる「赤漆(あかうるし)」は古くから使用されている「赤漆(せきしつ)」(木地を蘇芳で染め透漆を施したもの)との混同をさけるために用いない。内外面とも赤色漆の場合は、未同定は「総赤色(未同定)漆」、同定済みの場合は「総赤色(朱)漆」、あるいは慣例による「総(惣)朱」「皆朱」「朱漆器」などを用いる。

② 黒色漆と黒色系漆

上塗漆が黒色の場合、黒色顔料の有無によって2種類に分けられる。炭素粒子(油煙・松煙)や鉄系化合物粒子などの黒色顔料を含むものを「黒色漆」、黒色顔料を含まないものを「黒色系漆」として区別する。黒色系漆においては、黒色顔料を含まずとも漆自体の表層が茶黒色に変質し、さらに下地色を反射して肉眼では黒色に見える。品質の判別や、材料科学の上からも両者の識別が必要である。

内外面とも黒色漆の場合は「総黒色漆」、同じく黒色系は「総黒色系漆」とする。いわゆる「総黒」は肉眼での観察で、科学分析をへたものではない。

内面赤色外面黒色は「内赤(朱)外黒色漆」、同じく「内赤(ベンガラ)外黒色系漆」「内面赤色(ベンガラ)漆」(外面すべて黒色系漆)などとする。

未同定の場合は、はじめに「黒色漆(未分析)」、「赤色漆(未分析)」とことわる。

③ 下地の分類

粗い鉱物粒子を用いたものは「地の粉漆下地」、珪藻土使用は「珪藻土漆下地」、より細かい砥の粉(原則近世以降)は「サビ(錆)漆下地」、膠使用は「地の粉またはサビ(錆)膝下地」、炭粉は漆を用いたものは「炭粉漆下地」、柿渋を用い

たものは「炭粉渋下地」とする。

(3) 分析結果

塗膜分析を行った漆器は1資料につき、内外面複数の試料を作成し平均値を算出した。したがって必ずしも図版のスケールとは一致しない。「表層変質」とあるものは、酸化劣化防止層の形成を意味する。赤色漆の色調表現はマンセル値で、「4 R 4/11」とあれば、4Rは色相、4/11は明度/彩度を意味する。顔料の識別はエネルギー分散型蛍光X線分析と光学顕微鏡（偏光、金属）観察による。

下地の炭粉粒子は下記のように3分類する。

細粒 破碎工程が中粒炭粉より細かく炭粉粒子は均一で、針葉樹などの組織形状を全くとどめないもの。

中粒 炭粉粒子は $1\sim 2\mu\text{m}\times 5\sim 10\mu\text{m}$ 程度の針状粒子と長径 $5\mu\text{m}$ 前後の多角形粒子などからなり、針葉樹などの組織形状はごく一部にしか認められないもの。

粗粒 破碎工程が粗く針葉樹などの組織形状をよく遺存しているもの。長径 $30\mu\text{m}$ 前後の針状ないし棒状粒子を含むことが多い。

以下、木胎（木地）から順に番号（①～）を付して塗装工程を説明する。

塗膜分析

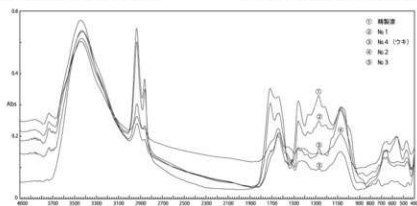
◇Na.1（第4地点第2号土壌、第183図50、第238図）吉野椀（総黒色系）

器形・表面観察

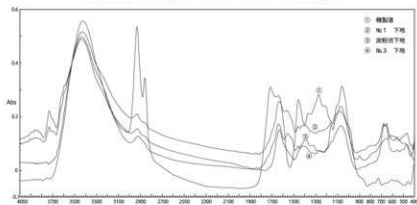
やや短めの高台から腰が水平に伸び（一文字）、屈曲して斜上方に立ち上がる総黒色椀。歪み著しいが口径は12cm前後。外面下部に界線が水平に引かれ、三箇所にいわゆる吉野絵（朱）が配されている。中心文様が木芙蓉とよばれるものだが、その由来については諸説がある（後述）。赤色（朱）のマンセル値は9R 5/12（赤丹）。ヨコ木（柾目）取り。

塗膜分析

内外面①炭粉渋下地層。厚層 $23\sim 70\mu\text{m}$ 、表



第232図 赤外線スペクトル (Na.1 ~ 4上塗漆)



第233図 赤外線スペクトル (Na.1・Na.3下地)

層5 μm 前後が分離。炭粉粒子は細粒。②漆層。層厚19～32 μm 。外面の漆絵の層厚は50 μm 前後。
◇No.2 (第4地点第2号土壌、第183図49、第238図) 梔 (内面赤色)

器形・表面観察

高台を欠くが、斜上方に開く内面赤色外面黒色系小碗。外面三箇所やや略されているが「丸に橘」文(細部引っ掻き)の赤色漆絵(ベンガラ)加飾。外面は黒色が濃いが、内面の赤色(ベンガラ)のマンセル値は8R 4.5/4.5(小豆色)。ヨコ木(板目)取り。

塗膜分析

内面①炭粉渋下地層。層厚35 μm 前後、表層3 μm 前後が分離。炭粉粒子は中粒。②赤色(ベンガラ)漆層。層厚は29～74 μm 。1～8 μm の粒子が分散。

外面①炭粉渋下地層。層厚不明で、表層7 μm 前後が分離。炭粉粒子は中粒。②漆層。層厚は29 μm 前後、表層の変質は12 μm 前後で、クラックがみられる。

◇No.3 (第4地点第6号土壌、第59図8、第238図) 蓋 (総赤色)

器形・表面観察

総赤色のやや薄手の蓋。紐内面には「ヤマに加」(黒色系漆)の銘がある。赤色(ベンガラ)のマンセル値は3.5R/6 (印度赤)。

塗膜分析

内外面①炭粉渋下地層。層厚50 μm 前後、表層5 μm 前後が分離。炭粉粒子は中粒。②赤色(ベンガラ)漆層。層厚は50～100 μm 。1～8 μm の粒子が分散。

◇No.4 (第4地点第4号土壌、第183図53、第238図) 浮 (総赤色)

器形・表面観察

全長6.2cm、最大幅1cmの総赤色(朱)浮(木胎)。赤色(朱)のマンセル値は8R 4.5/4.5 (小豆色)。

塗膜分析

外面①木地固めとして層厚75 μm 前後の深さに生漆が浸透している。②赤色(朱)漆層。層厚12～20 μm 。朱は長径2～5 μm ほどの粒子が分散している。

赤外分光分析 (第232・233図)

固有の振動をしている分子に波長を連続的に変化させて普通赤外線(波数4000～400 cm^{-1} 、波長2.5～25 μm)を照射すると、分子の固有振動と同じ周波数の赤外線が吸収されて、分子構造に応じたスペクトルが得られる。この解析方法が赤外分光分析(赤外線吸収スペクトル法)で、フーリエ変換赤外分光法(FT-IR)を用いた。波数は1cm当たりの波の数で、振動数を光速で割ったものであり波長の逆数である。

分析用試料は1～2mgを採取しKBr(臭化カリウム)100mgとともにメノウ鉢で磨り潰して、これを錠剤成形器で加圧成形したものを用いた(錠剤法)。条件は分解能4 cm^{-1} 、積算回数16、アボダイゼーション関数Cosine。縦軸は吸光度(Abs)、横軸は波数(cm^{-1})、測定機器は日本分光製FT-IR4600。

第232図はNo.1 (②)、No.2 (④)、No.3 (⑤)、No.4 (③)の上塗漆塗膜の赤外線吸収スペクトル。漆の基準データは岩手県浄法寺産精製漆塗膜(①)。No.1 (②、吉野梔)は漆塗膜の同定要素である①の吸収、すなわち2925 cm^{-1} (炭化水素の非対称伸縮振動)、2850 cm^{-1} (炭化水素の対称伸縮振動)、720～1710 cm^{-1} (カルボニル基)、1630～1620 cm^{-1} (糖タンパク)、1465 cm^{-1} (活性メチレン基)、280 cm^{-1} (フェノール)、1070～1030 cm^{-1} (ゴム質)の吸収がシャープに確認できる。④⑤は1460 cm^{-1} ～1364 cm^{-1} がブロードとなり、1280 cm^{-1} (フェノール)の吸収が減少し、劣化による1070～1030 cm^{-1} (ゴム質)の増大がややある。③(浮)は2925 cm^{-1} 、2850 cm^{-1} 、1720～1710 cm^{-1} 吸収が弱く、かつ1460 cm^{-1} ～1364 cm^{-1} がブロードであるが、1280 cm^{-1} の吸収はやや強い。しかし1070～1030

cm⁻¹のI吸収はより強く劣化が進行している。しかしサンプル全体として漆塗膜の同定要素を満たしている。

第233図(ノーマライズ)はNa.1(②)、Na.3(④)の渋下地赤外線吸収スペクトル。①は漆の標準データである岩手県浄法寺産精製漆塗膜、③は炭粉渋下地である。炭粉渋下地は指紋領域(1500～650 cm⁻¹)においては柿渋単体時のようなシャープな吸収(1600cm⁻¹付近芳香環のC=C伸縮振動、1400～1000cm⁻¹の数本の吸収はC=O伸縮振動、1446～1440cm⁻¹、1360～1343cm⁻¹は-COOCH₃)の吸収が明確ではなく、炭粉に由来するセルロース、ヘミセルロースの多糖類(キシランが主体)とタンパク質の吸収がみられる。漆や膠などの他の勝着液の吸収がみられないこと、茶色を呈する顕微鏡観察から炭粉渋下地と同定した。

蛍光X線分析(第234～236図)

蛍光X線分析は試料にX線を当てると、元素特有のX線(特性X線でない固有X線)が発生(放出)する。この波長と強度を測定することによって元素の定性や定量分析を行う。

分析対象：赤色上塗漆の顔料

使用機器：PANalytical/PW4025、エネルギー分散型蛍光X線分析装置

使用管球：Rh ターゲット9W

検出器：高分解能電子冷却Si半導体検出器

測定条件：30kV、20mA、フィノレーターkapton、100sec

測定室雰囲気：大気。試料のサイズは径1mm。サンプルカップに入れて測定。

分析結果：Na.1・4の漆絵は朱(硫化水銀、HgS)。

ただしNa.4(浮)は朱にベンガラを含んでいる(下地からの吸収も含む)。

Na.2・3はベンガラ(酸化第二鉄、Fe₂O₃、Na.2の図は略)。

(4) まとめ

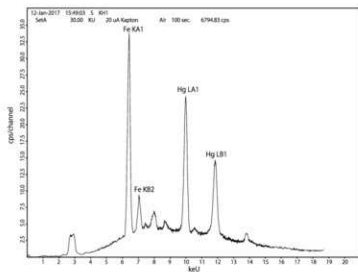
栗橋宿跡は日光街道の宿場町として知られた存

在であるが、幕府は利根川東遷事業により旧の元栗橋から現在地に渡河点を移して、寛永元年(1624)に日光街道の関所を設けている。関所は明治2年(1869)まで機能していた。栗橋宿は日光街道の両側に町屋が連なり、全長は900mといわれている。分析対象の漆器は第4地点出土で、共存遺物から江戸時代末期から明治時代に比定されている。

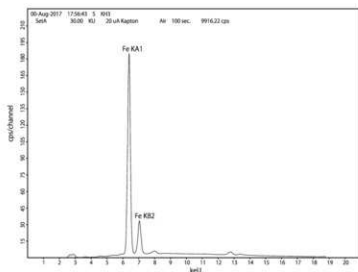
漆器から使用時期の一定点に迫ることができるのは、外面下部に界線が水平に引かれ、三箇所にいっゆる木芙蓉の朱漆絵が配された典型的な吉野椀(Na.1)であることから、これについて取り上げておくことにしたい。

近世吉野塗(奈良県吉野郡吉野町・下市町)を代表する文様は吉野絵とよばれる「栄美華」の漆絵である。芙蓉は中国では蓮のことで、これと区別して木芙蓉(アオイ科)とよばれている。だが吉野絵の文様が本来の木芙蓉とは断定はできず、その由来については「吉野桜」、「桜の花と葉」(豊臣秀吉が吉野花見のおり、同行の茶人が考案した)、「葛の花」などの諸説がある。いつごろこうした文様(漆絵)が生じたのかは不明だが、天正16年(1588)の『松屋会記』(奈良の塗師屋・松屋の茶会記、天文二年からはじまる)の「中坊源五郎殿茶会」に「吉野折敷絵あり」とあることから、このころには漆絵の加飾があったと考えられる。

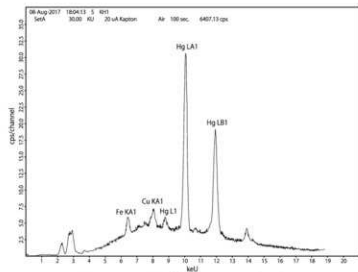
近世の漆器産地は寛永15年(1638)の『毛吹草』(松永重頼)によると、山城(塗師細工、乗塗師、浅黄椀・盆・折敷など)、大和(塗桶、塗鉢、山折敷)、和泉(中浜塗木履、常器椀)、近江(朽木塗物鉢・五器等、五器)、陸奥(薄椀・同盆)、石見(浜田折敷)、播磨(清水折敷)、紀伊(黒江波地椀、根来椀、折敷)、筑前(折敷)、肥前(唐時絵)、日向(五器)があげられている。大和の産地名は記されていないが、正徳2年(1712)の『和漢三才図会』では、陸奥(椀会津)、下野(椀折敷日光同盆・木鉢)、近江(椀日野、塗盆椀



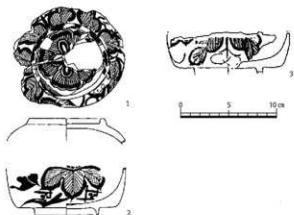
第234図 蛍光X線スペクトル (No.1)



第235図 蛍光X線スペクトル (No.3)



第236図 蛍光X線スペクトル (No.4)



第237図 江戸末期の吉野碗

木)、山城(塗物)、大和(塗桶奈良、塗挽はち吉野食次)、紀伊(碗名草黒江)とあり、吉野が登場している。このころには碗として広く知られていたようで、『寛保四年宇都宮蔵旦帖』とよばれる与謝蕨村二九歳の春、宇都宮での編纂帖の解説に次の句がある。

「華經とても雑煮は吉野碗(富長)」「歯かためや匂い床しき吉野碗(雨石)」

また、文化文政ごろに流行した俳諧摺(俳句に多色摺りの絵をそえたもの)にも吉野碗がとりあげられている。

吉野絵漆器の製作技法は、筆者がこれまで調査した新潟県新発田城出土の皿(19世紀第3四半期)では、炭粉渋下地層+黒色漆層(鉄粉や水酸化鉄を入れて漆と反応させた黒色漆層)+漆絵の朱漆層であった。日本海側で同じ19世紀第3四

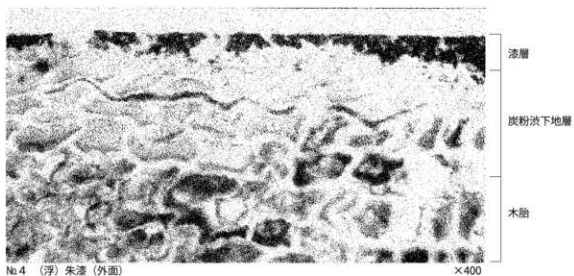
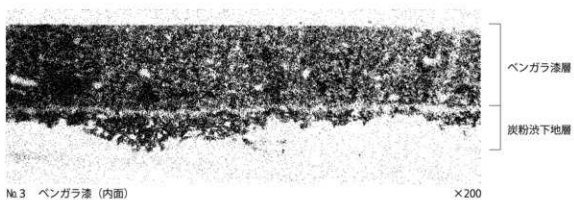
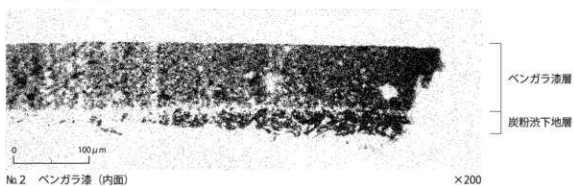
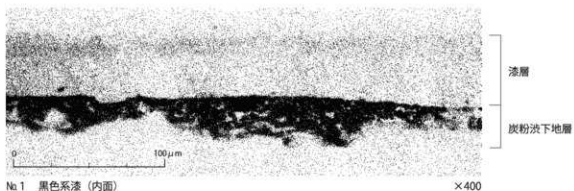
半期のものとしては、福井県福井城跡北三の丸門外側出土の吉野碗(第237図3)がある。石川県金沢市本町一丁目遺跡(19世紀前~中葉、第237図1・2)からも、福井城とよく似た吉野絵の総黒色碗(ブナ)と蓋(ブナ)が出土しており、ここでの塗装工程は炭粉下地に上塗漆1層で、外面の赤色漆絵顔料は朱と報告されている(下地別不明)。

江戸では北野信彦・高山優によって、伝世漆器と東京都港区芝離宮庭園跡出土の吉野絵皿の調査を行っており、伝世品では木地の樹種はサクラ亜属、木取りはヨコ木板目取り、塗装工程は江戸前~中期では炭粉下地+淡赤褐色漆+淡赤褐色漆(上塗漆)+赤色(ベンガラ)漆絵の順、江戸後期では炭粉下地+暗紫色系漆(上塗漆)+赤色(朱)漆絵の順で、意匠も簡略化されている。芝離宮庭園跡出土皿では、ほぼ伝世品と同じ結果がえられたと報告されている(漆下地、渋下地、膝下地等の別は不明)。

今回の分析でも下地は赤外分光分析と顕微鏡観察から渋下地であること、塗装工程も炭粉渋下地層+漆層の簡素なものであることが確認できた。しかしながら漆絵は朱漆を用いた重厚な表現であり、ハレの場においても遜色のない品格を備えている。时期的には福井県福井城跡北三の丸門外側出土例や金沢市本町一丁目遺跡出土例が参考となろう。

引用・参考文献

- 稲垣休慶 1816(文化13)『茶道筆跡』
 大阪府埋蔵文化財センター 1994『大坂城の発掘調査4』
 北野信彦・高山優 1990「旧芝離宮庭園出土の草花文様漆絵皿」『研究紀要』第1号 東京都港区郷土資料館
 北野信彦 1995「本町一丁目遺跡出土漆器資料の製作技法」『本町一丁目遺跡』石川県金沢市・金沢市教育委員会
 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2014『さいたま埋文リポート』埼玉県埋蔵文化財調査事業団年報34
 奈良県吉野郡役所 1919『奈良縣吉野郡史料』
 福島県須賀川市立博物館 1999『俳諧摺下』
 蕨村研究会・蕨村顕彰会 1999『寛保四年宇都宮蔵旦帖』
 福井県教育庁埋蔵文化財センター 1996「一九九四 第9回北陸中世土器研究会資料集一飾る・遊ぶ・折るの木製用具追加資料」『年報10』
 四柳嘉章 1997「新発田城跡出土漆器の塗膜分析」『新発田城跡発掘調査報告書Ⅱ』新潟県新発田市教育委員会
 四柳嘉章 2006『漆Ⅱ』法政大学出版局



第238図 漆器塗膜層断面顕微鏡写真

VI 調査のまとめ

1. 調査の成果

栗橋宿跡第2・4地点は、日光街道の東側に並んだ町屋の裏手にあたる場所を調査し、江戸時代後半から明治時代の遺構・遺物が検出された。宿の歴史全体の中ではその後半にあたる。

池田鴨之助、並木五郎平によって始められた栗橋宿の形成は、関所渡しのあった北方から始められた。関所の形成された寛永元年(1624)から実に150年近く経て、町屋の形成が第2・4地点まで及んだのである。

ところで、第2・4地点には、後述するように荒物屋や鍛冶屋、附木屋などを営んだ町屋の人々の痕跡を確認することができた。手工業者や商人が、宿場の発展とともに居住活動空間を南に延伸させ、ついに第2・4地点に及んだと考えられる。

栗橋宿跡第2地点では、第一面で杭列4条、木樋1条、池跡1基、溝跡1条、土壌15基が検出された。第二面では堅穴状遺構2基、溝跡3条、土壌22基、性格不明遺構1基、ピット2基が検出された。

栗橋宿跡第4地点では、杭列9条、木樋1条、溝跡1条、土壌21基、性格不明遺構2基が検出された。

第2地点の溝跡は、敷地を画する地割と考えられる。一方、第4地点では、9条の杭列が調査区を囲むように配置されている。区画された敷地からは土壌が多数検出され、陶磁器片とともに木製品や木材が多量に出土した。他にも樹皮や木片などの木材を加工した際に廃出された木屑が多く見られる。これらの特徴から、その大半は不用品が一括廃棄された跡と考えられる。また、鉄鉋や鉋などの鉄製品が見つかった大型土壌や、鉄滓や羽口など鍛冶作業に関わる遺物が出土した土壌もあり、付近に鍛冶場があったことが想定できる。

第2地点と第4地点の土壌や性格不明遺構、溝

跡といった遺構の中からは、墨書された木札が多く出土した。栗橋の地名や人名、屋号が記されており、久喜市教育委員会・久喜市立郷土資料館から提供された絵図「江戸期町並絵図」と照らし合わせることで、当時の町並みを知る重要な手掛かりとなる。

第2地点と第4地点の木樋は、第2地点の調査区南西に位置する板囲いの第1号池跡につながっていたと思われる。木樋は、何度か造り替えられており、やがて廃絶される。しかし、その後も直上に土管が、さらにその上部には塩ビ管が置かれ、水路としての機能は現代まで受け継がれ継続していた。

2. 出土遺物の変遷

第2・4地点からは、大量の陶磁器が出土した。これらの陶磁器について、東京大学構内遺構群の分類(東京大学埋蔵文化財調査室1999・2011)に基づきすべての遺構で分類を行った。掲載したのは、各分類間の量比を示すと考えられる100点を超える遺物を出土した遺構である(第83・84表)。その結果、確実に18世紀に遡る遺構はなく、全て19世紀代の遺構であることが明らかになった。また全体を通して、瀬戸美濃系、京都信楽系の所謂灯明皿、油受皿が多いのが特徴である。

遺物は、①19世紀初頭から第1四半期、②19世紀前半、③19世紀中葉、④19世紀後半の大きく4つの段階に分けられる。「栗橋本陣跡I」における編年の栗橋5期、6期、7～8期、9期に対応する。栗橋宿跡第2地点第一面は、およそ第3段階(栗橋7～8期)～第4段階(栗橋9期)、第2地点第二面は、およそ第1段階(栗橋5期)～第2段階(栗橋6期)に相当し、第4地点はおよそ第3段階(栗橋7～8期)～第4段階(栗橋9期)に対応する。

第1段階（栗橋5期）

第2地点第5号溝跡・第10・19・25・27号土壌、第4地点第2号土壌の遺物が該当する。磁器では、肥前系磁器が主体である。第2段階以降に比して、端反碗、広東碗は少ない。陶器は、瀬戸美濃系、京都信楽系が大部分で、所謂民窯製品がほとんど見られない。特に第4地点第2号土壌は瀬戸美濃系磁器をほとんど含まず、より古い様相と考えられるが、笠間焼や土瓶等も含み、最終的な廃絶時期は第2段階に下る可能性もある。火災の後片づけと考えられるため一括性が高いと考えられるが、遺物の様相は一様でない。

第2段階（栗橋6期）

大部分の遺構が該当する。磁器は肥前系、瀬戸美濃系が半ばする。碗の中心は端反碗で、高台の高い広東碗が伴う。筒形碗、小丸碗はごく少なく、湯呑碗は伴わない。蛇の目高台の皿、輪花の一枚絵の大皿が見られる。爛徳利は含まない。陶器では瀬戸美濃系、京都信楽系に加え、所謂民窯製品の土瓶、鍋が多くを占めるようになる。萩焼、九州地方窯の製品もこの段階と考えられる。土器では、火鉢に丸底や脚付があり、七輪などの竈鈹のほかには植木鉢、土甕が見られる。

なお、第2地点第14号土壌・第2号性格不明遺構、第4地点第4号土壌は第2段階と3段階の両方の遺物を含む。廃絶時期としては第3段階とすべきなのかもしれない。

第3段階（栗橋7～8期）

第2地点第5号溝跡・第12・26・34号土壌、第4地点木樋・溝跡・第1・3・18号土壌の遺物が該当する。磁器では瀬戸美濃系の比率が高くなり、型押しの寿文杯、皿、湯呑碗や爛徳利、水滴が組成に加わる。陶器では民窯の土瓶、鍋が多く、淡路焼なども見られる。

第4段階（栗橋9期）

第2地点第1号杭列・第2号溝跡・第11・26・34号土壌、第4地点第9・3・18号土壌の

遺物が該当する。磁器に酸化コバルトによる染付、型紙刷りの製品を含む段階である。第2地点第2号溝跡は、こうした磁器に加え、京都信楽系の茶壺などを含む。

第2・4地点全体を通して、杭列、溝跡、木樋は第3段階、19世紀中葉以降と考えられる。それに接続する池跡は時期の判断に関わる遺物が少なく、特定が困難だが、第2地点の池跡は第2段階と考えられる遺物を含んでおり、その時期から池跡として使われていた可能性も考えられる。

土壌、性格不明遺構出土遺物には、第1・2段階と考えられる古い段階の遺物が多い。

3. 木製品について

木製品は、服飾、食、住、生産、遊戯にかかわる製品など、多様であった。栗橋宿跡の第2・4地点以外の地点と比較して、それほど種類の偏りは見られなかった。

第2・4地点では、地点、時期で器種の差が見られる。第2地点の遺構、第4地点の杭列、木樋などから多く出土する小型の曲げ物、無眼下駄が第4地点の土壌、性格不明遺構出土遺物には含まれず、下駄は連歯下駄のみである。地点による差であれば、そこに存在した町屋の性格を示すものとも考えられる。第2地点第13号土壌からは刷毛がまとまって出土しており、職能を示す可能性がある。

特異な製品を挙げると、第4地点では第9号土壌の削り下駄がある。下駄の両側面に透かしがあり、裏面に赤色の漆が施され、前緒を隠す前金が付けられている（第184図58・62）。

栗橋宿跡では、陰卯下駄と無眼下駄が下駄の主体を占め、露卯下駄の出土は少ない。透かし、裏面の赤漆、前金という装飾性の強い下駄はさらに希である。

第4地点の第1号土壌には、椀の未成品と考えられる遺物がある（第181図29）。木地椀を挽いていた可能性も考えられる。

文字資料では、「又左衛門」の文字が48点見られた。絵図「江戸期町並絵図」には、「荒物屋又左衛門」という名がある。「又左衛門」と書かれた資料は第2地点のH・Iグリッドの土壌に集中した。多くは荷れで、「道具小茶わん」「上蛸燭」などの品名が書かれたものもある。荒物屋としての取引を示していると考えられる。

4. 鍛冶関連遺構と遺物

栗橋宿跡第4地点からは鉄製品の他に、鉄滓・羽口が第3号性格不明遺構から、炉壁が第20号土壌からそれぞれ出土した。また、掲載したもの以外にも第2号性格不明遺構から少量の鉄滓が、第2地点第一面の第8・10号土壌から羽口片が少数出土した。その総量は、非掲載としたものを加えれば、鉄滓は、椀形滓を中心として、鍛造薄片、炉外滓等合わせて68.83kgに及ぶ。これ以外にも、羽口が5.74kg（22点）、炉壁が1.92kg（5点）を計る。

中でも、第20号土壌の第187図107は炉壁内面に鉄釘が付着しており、第3号性格不明遺構の第204図92の椀形滓の上面には何らかの鉄製品の付着が見られるのは注目される。炉内にこうした鉄製品が付着することから、操業されていた鍛冶炉では、原材料として釘などの鉄クズを再利用していたと想定される。

また、椀形滓の量が多いことから、第4地点周辺の鍛冶炉の操業は一定期間継続したものと考えられる。絵図「江戸期町並絵図」を見ると、現代でも同定可能な「日光御廻り道筋」付近から「一向宗顕正寺」までの間には、一軒のみ「鍛冶職人百姓 寅松」とある。この鍛冶職人の敷地が現代の栗橋のどこに当たるか断定することは難しいが、先述の範囲に相当する第2・4地点の調査区内で考えれば、椀形滓が多数出土した第3号性格不明遺構と炉壁が出土した第20号土壌付近はその候補として挙げられるだろう。

椀形滓・羽口等の鍛冶関連遺物は、鍛冶作業の

際、その都度取り除く必要のある廃棄物であるのに対して、炉壁は遺構の一部である。また、再び「江戸期町並絵図」を見ると、鍛冶職人宅から間をおいて南方には「明地」（空き地）があったことが見て取れる。現代がそうであるように、空き地は投棄の場となりやすいため、鉄滓等の廃棄物を処分するには適していたと思われる。

以上を考えれば、「江戸期町並絵図」のいう鍛冶職人の敷地は、相対的には第20号土壌の帰属する敷地に当たる可能性が高いと思われる。また、第3号性格不明遺構自体もそうした廃棄に伴う遺構であったと考えられる。

しかし、炉壁も破片の状態での出土であり、また敷地についても「江戸期町並絵図」では「鍛冶職人」との記述であって「鍛冶屋」とは記載されていない。同絵図によれば、栗橋宿全体で見ても「鍛冶屋」と記載されるのは第9地点付近に比定される「鍛冶屋 百姓 幸次郎」の一軒のみであり、第4地点付近の「鍛冶」は単に職人の居宅に過ぎない可能性も残されている。

5. 火打石について

栗橋宿跡第2・4地点から出土した石製品では、火打石が多く出土している。特に注目されるのは、未使用の火打ち石が多い点である。非掲載分を含めて、231.72gに上る。栗橋宿の他の地点では、使い捨てられた状態で出土することが多く、未使用のものはほとんど出土しない。また、剥片が多いというのも特徴である。素材の石核にも剥片の剥離した跡が複数見られる。更に、細片も多い。

絵図「江戸期町並絵図」によると、第2地点の中央付近に「附木屋 その他 三右衛門店 彦二郎」とあり、附木屋があったことが分かる。附木屋で、附木と火打石をセットにして売っていたために、使用前の火打石が遺物として出土した可能性がある。また、第2地点では、灯明皿が多く出土しているのも特徴的である。灯を付ける道具として、灯明皿も附木屋で扱っていたとも考えられ

る。附木屋は、附木と火打石のセットや灯明皿などの灯火具を扱う店だった可能性がある。

6. 珊瑚製品について

第4地点の第2号性格不明遺構から珊瑚製の簪（第206図3）が1本出土した。玉簪ではなく、簪そのものが珊瑚で加工されたものは珍しい。他の栗橋宿跡でも今までのところ出土例はない。

作りも非常に丁寧である。まず、表面はよく磨かれている。先端の部分は、自然の付け根を利用して巧みに加工されている。先端が黒いが、マンガンの沈着によるものである。

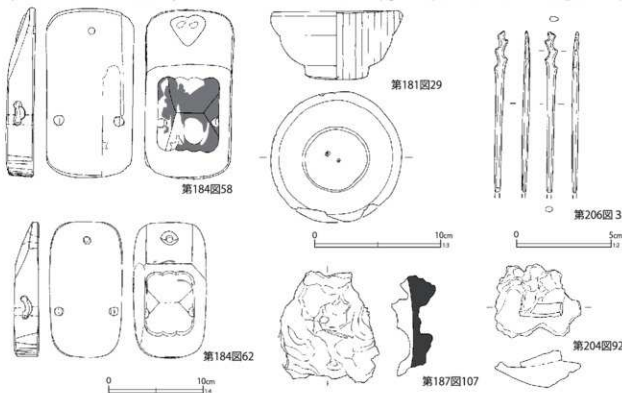
「さんご」と聞くと、地球温暖化のニュースでよく取り上げられる沖縄などの海に広がる珊瑚礁、所謂造礁珊瑚を思い浮かべるかもしれない。しかし、簪や留帯などの宝飾品に用いられる珊瑚は、宝石珊瑚である。造礁珊瑚と宝石珊瑚は別物であり、生態も異なる。例えば、造礁珊瑚は光合成をするので、太陽光が届く数十mの浅い水深に分布する。一方、宝石珊瑚は光合成をせず、100～1,500mの深い海に生息する。

宝石珊瑚は、地中海で古代から船による採取が行われ、地中海産の出土品は世界各地で見られる。日本では、正倉院に納められている冠の飾りに珊瑚が使われている。聖武天皇、光明皇后らが大仏開眼会（752年）に被ったとされ、シルクロードを通して地中海産の珊瑚がもたらされたと考えられる。

ただ、遺物としての珊瑚製品は、古代の遺構から見つけることはほとんどない。日本近海の宝石珊瑚は、水深80～300mの海底に生息しており、古代の人々がその深さを海に潜って珊瑚を採取するのは困難だったと思われる。たまたま打ち上げられた珊瑚を装飾品などに使ったことはあったかもしれない。

正倉院の珊瑚の後には、珊瑚製品を確認できるのは江戸時代であり、大分空白がある。

18世紀に簪の流行が始まり、1770年代頃には珊瑚の玉簪が相当普及していた。これらの珊瑚は、やはり輸入品の珊瑚であった。珊瑚は西域を意味する「胡」から渡ってきたものという意味で「胡



第239図 特徴的な遺物

渡り」と呼ばれ、珍重されていたのである。日本の宝玉石珊瑚は、明治5（1872）年前後に高知県で始まった。それ以前の珊瑚はすべて輸入品であった。

今回出土した珊瑚の簪はどうだろうか。立正大学の岩崎望氏の御教示によると、出土した珊瑚の簪は、軸に白い部分が見られるので日本産のアカ

サンゴの可能性があるとのことである。ただし、栗橋宿跡第4地点の第2号性格不明遺構の時期は、19世紀中葉頃であり、年代的には合わないことになる。年代を考慮すると、輸入品の可能性がある。もっとも、江戸時代でも沖合の岩礁などに潜る魚の釣り漁で宝玉石珊瑚が偶然に掛かることがあったようである。

引用・参考文献

- 蘆田伊人編 1963『新編武蔵風土記稿』第式巻 大日本地誌大系（二）
- 茨城県教育財団 1986『一般国道4号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書1（総和地区） 南坪A・B・C遺跡 向坪A・B遺跡 高野遺跡 北新田A・B・C遺跡 西坪A・B遺跡 溜原B遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第38集
- 茨城県教育財団 1986『一般国道4号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書1（総和地区） 南坪A・B・C遺跡 向坪A・B遺跡 高野遺跡 北新田A・B・C遺跡 西坪A・B遺跡 溜原B遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第38集
- 茨城県教育財団 1998『大橋B遺跡・釈迦才仏遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第131集
- 茨城県教育財団 2003『羽黒遺跡——級河川女沼川河川改修工事事業地内埋蔵文化財調査報告書1』茨城県教育財団文化財調査報告第202集
- 茨城県教育財団 2008『桜井前遺跡——般道路468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第228集
- 茨城県教育財団 2009『同所新田遺跡2 瀬沼遺跡2』茨城県教育財団文化財調査報告第312集
- 茨城県教育財団 2012『釈迦新田遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第352集
- 茨城県教育財団 2014『宿北遺跡・宿東遺跡・寺山遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第383集
- 茨城県教育財団 2017『釈迦新田遺跡2』茨城県教育財団文化財調査報告第418集
- 岩崎美朱・岩崎望 2011『珊瑚 宝玉石珊瑚をめぐる文化と歴史』東海大学出版会
- 岩崎望 2012『珊瑚：深海の生物がつくる宝石』『環境と健康 Vol.25 No.4 WINTER2012』公益財団法人 体質研究会
- 大成可乃 2011「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（2）」東京大学構内遺跡調査研究年報7
- 大利根町教育委員会 2000『大利根町史』資料編（上巻）大利根町
- 大利根町教育委員会 2003『大利根町史』資料編（下巻）大利根町
- 大利根町教育委員会 2004『大利根町史』通史編 大利根町
- 瓦吹堅 1977『石畑遺跡』狼島郡五霞村教育委員会
- 技研測量設計株式会社 2010『本田遺跡——幸江崎地区経営体育育成基金整備事業の伴う埋蔵文化財調査報告書』古河市埋蔵文化財調査報告書第3集 古河市教育委員会
- 久喜市教育委員会 2015『久喜市栗橋町史』第一巻 通史編上
- 栗橋町教育委員会 2008『栗橋町史』第三巻 資料編—原始・古代・中世
- 栗橋町教育委員会 2008『栗橋町史 民俗Ⅰ身のまわりの生活史と人の一生』
- 栗橋町教育委員会 2010『栗橋町史 民俗Ⅱ水と暮らし、年中行事』
- 古河市教育委員会 2004『古河城跡分布調査報告書1』
- 古河市史編さん委員会 1985『古河城・鴻巣館 県指定史跡 古河公方館跡—遺構調査・発掘調査報告書—』古河市史資料第10集 古河市
- 児玉幸多・有元修一 1987『日光道中文問延絵図第2巻』東京美術（原典1808）
- 五霞町教育委員会・山武考古学研究所 2003『山王浦B遺跡—町道55号線改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—』五霞町教育委員会
- 五霞町史編さん委員会 2010『町史 五霞の生活史』水と五霞 五霞町

- 五霞町史編さん委員会 2011『町史 五霞の生活史』資料Ⅰ 五霞町
- 埼玉県 1979『新編埼玉県史』資料編10 近世1・地誌
- 埼玉県 1984『新編埼玉県史』資料編15 近世6・交通
- 埼玉県立さきたま資料館 1990『利根川の水運』歴史の道調査報告書 第十集 埼玉県教育委員会
- 埼玉県立博物館 1985『日光道中』歴史の道調査報告書 第三集 埼玉県教育委員会
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2007『飯積遺跡Ⅰ 大高島地区河川防災ステーション整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書ⅠーⅠ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第333集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2016『植野地原遺跡—首都圏氾濫区域域防強化対策（幸手市外）事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第419集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2018『栗橋関所番土屋敷跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第436集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2018『栗橋宿Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第448集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2018『栗橋本陣跡Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第451集
- 埼玉県立歴史資料館 1982『県内鎌倉街道伝承地所在確認調査報告書』埼玉県歴史の道調査報告書 埼玉県教育委員会
- 幸手市史編さん室 2000『幸手一色氏一系図から伝承まで』幸手市史調査報告書第9集 幸手市教育委員会
- 関城町教育委員会 1991『井上城跡発掘調査報告書—霞ヶ浦用水送水管理設工事地内—関城地区埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書第2集 関城地区埋蔵文化財包蔵地発掘調査会
- 玉川文化財研究所 2002『本田山遺跡—県営担い手育成畑地帯総合整備事業（上大野地区）埋蔵文化財発掘調査（第1号）報告書』総和町教育委員会
- 玉川文化財研究所 2002『本田山遺跡—県営担い手育成畑地帯総合整備事業（大野地区）埋蔵文化財発掘調査（2級町道町道部分）報告書』総和町教育委員会
- テイケイトレード株式会社 2004『新田遺跡—古河・総和接点土地区画整理事業に係る新田遺跡発掘調査報告書』総和町
- 東京航業研究所 2011『往還西遺跡—一宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』古河市埋蔵文化財調査報告書第6集 古河市教育委員会
- 東京航業研究所 2012『谷貝金くそ遺跡—道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』古河市埋蔵文化財調査報告書第8集 古河市教育委員会
- 東京航業研究所 2012『シベ台遺跡—農集排水路施設、道路整備合併工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』古河市埋蔵文化財調査報告書第7集 古河市教育委員会
- 東京大学埋蔵文化財調査室 1999『東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（1）』東京大学構内遺跡調査研究年報別冊2
- 東京大学埋蔵文化財調査室 1999『東京大学校内遺跡調査研究年報2』東京大学埋蔵文化財調査室
- 東京大学埋蔵文化財調査室 2011『東京大学校内遺跡調査研究年報7』東京大学埋蔵文化財調査室
- 羽黒・日下部遺跡発掘調査団 1999『羽黒・日下部発掘調査報告書』総和町教育委員会
- 土生朗治 1989『城山遺跡（栗橋城跡）』五霞村教育委員会
- 堀内秀樹 1996『東京大学本郷校内の遺跡出土同時期の編年の考察』『シンポジウム江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅱ』江戸陶磁土器研究グループ
- 堀内秀樹 1997『東京大学本郷校内の遺跡における年代的考察』『東京大学校内遺跡調査研究年報1』
- 武蔵文化財研究所 2001『香取東遺跡・釈迦ふた遺跡—都市計画道路東牛谷・釈迦線道路（町道9号線）改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』総和町
- 武蔵文化財研究所 2002『本田山遺跡—県営担い手育成畑地帯総合整備事業（上大野地区）埋蔵文化財発掘調査（第2号）報告書』総和町教育委員会
- 武蔵文化財研究所 2010『北山田北久保遺跡—筑西幹線道路整備に伴う埋蔵文化財調査報告書—』古河市埋蔵文化財調査報告書第4集 古河市教育委員会
- 山武考古学研究所 1994『久能西原遺跡発掘調査報告書』総和町教育委員会
- リメックス株式会社 2002『蔵王遺跡・行屋西遺跡—都市計画道路西牛谷・大和田線（町道6号線）改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』総和町